この印刷物は300部作成し、印刷経費は１部当たり6,242円（うち県負担1,873円）です。

第556集

下石川平野遺跡

二〇一五・三

青森県教育委員会

青森県埋蔵文化財調査報告書　第556集

下石川平野遺跡

－ 県営野沢２期地区畑地帯総合整備事業に伴う遺跡発掘調査報告 －

２０１５年３月

青森県教育委員会

青森県埋蔵文化財調査報告書　第556集

しもいしかわひらのいせき

下石川平野遺跡

－ 県営野沢２期地区畑地帯総合整備事業に伴う遺跡発掘調査報告 －

２０１５年３月

青森県教育委員会

下石川平野遺跡　平成 25 年度調査区全景　ＳＷ→

農道 24 号W区 WSI06･07･09　ＳＥ→

口絵１　調査区全景・調査状況

農道 23 号　SI03 出土遺物

農道 24 号W区　WSK45 出土　壺に収められたアズキ

口絵２　出土遺物

序

青森県埋蔵文化財調査センターでは、平成25年度から県営野沢２期地区畑地帯総合整備事業予定地内に所在する下石川平野遺跡の発掘調査を実施しました。

調査の結果、縄文時代、平安時代の竪穴住居跡や土坑などの遺構・遺物が多数発見され、本遺跡が縄文時代、平安時代の大きな集落跡であることが分かりました。

出土遺物の中でも特に、平安時代の竪穴住居跡から出土した土器類や完形の土製鈴などはきわめて希少な出土例として大変学術的価値の高い資料です。

下石川平野遺跡は、津軽平野の北東部梵珠山麓に広がる丘陵に所在しています。周辺には数多くの埋蔵文化財包蔵地が遺されていますが、その中には史跡五所川原須恵器窯跡をはじめ、中平遺跡や寺屋敷平遺跡など平安時代の重要な遺跡が少なからず含まれています。

本報告書は、平成25年度の発掘調査事業の調査結果についてまとめたものです。この成果が今後、埋蔵文化財の保護と研究等に広く活用され、また、地域の歴史を理解する一助となることを期待します。

最後に、日頃から埋蔵文化財の保護と活用に対してご理解をいただいている青森県農林水産部農村整備課に厚くお礼申し上げるとともに、発掘調査の実施と報告書の作成にあたりご指導、ご協力いただきました関係各位に対し、心より感謝いたします。

平成２７年３月

青森県埋蔵文化財調査センター

所　長　　三　上　盛　一

例　言

1　本書は、青森県農林水産部農村整備課による県営野沢２期地区畑地帯総合整備事業に伴い、青森県埋蔵文化財調査センターが平成25年度に発掘調査を実施した青森市下石川平野遺跡の発掘調査報告書である。発掘調査面積は、配水管12号140㎡、配水管13号240㎡、 配水管14号170㎡、農道23号1,000㎡、農道24号Ｅ区（配水管15号含む）1,000㎡、農道24号Ｗ区（配水管15号・給水栓10号含む）920㎡で、合計3,470㎡である。

2　下石川平野遺跡の所在地は、青森県青森市浪岡大字下石川字平野地内外、青森県遺跡番号は201399である。

3　下石川平野遺跡における県営野沢２期地区畑地帯総合整備事業に伴う発掘調査報告書は、本書が第１冊目となる。

4　発掘調査及び整理・報告書作成の経費は、発掘調査を委託した青森県農林水産部農村整備課が負担した。

5　発掘調査から整理・報告書作成までの期間は、以下のとおりである。

発掘調査期間	平成25年７月４日～同年10月22日
	平成25年11月18日
整理・報告書作成期間	平成26年４月１日～平成27年３月31日

6　本書は、青森県埋蔵文化財調査センターが編集し、青森県教育委員会が作成した。執筆と編集は、青森県埋蔵文化財調査センター神康夫文化財保護主幹･平山文化財保護主査が担当した。農道23号･農道24号（配水管15号・給水栓10号）Ｗ区の遺構と遺物は神が、配水管12～14号・農道24号（配水管15号）Ｅ区の遺構と遺物は平山が主として担当した。その他の執筆と全体の編集作業は神と平山が主として行った。なお依頼原稿については、文頭に執筆者名を記した。

7　発掘調査から整理・報告書作成にあたり、以下の業務については委託もしくは原稿依頼により実施した。

ラジコンヘリ空中写真撮影	株式会社シン技術コンサル
地形および地質について	島口　天（青森県立郷土館主任学芸員）
遺物出土状況図図化業務委託	株式会社CUBIC
火山灰分析	柴　正敏（弘前大学大学院理工学研究科教授）
壺から出土した炭化種実の同定と放射性炭素年代測定	株式会社パレオ・ラボ
炭化種実同定	株式会社パレオ・ラボ
炭化材樹種同定	株式会社パレオ・ラボ
放射性炭素年代測定	株式会社パレオ・ラボ
土器の実測業務委託	株式会社ラング
石器の実測業務委託	株式会社ラング
土器類の写真撮影委託	有限会社無限
石器類の写真撮影委託	フォトショップいなみ

8　発掘調査成果の一部は、発掘調査報告会等において公表しているが、これらと本書の内容が異なる場合は、正式報告として刊行する本書がこれらに優先する。

9　本書に掲載した地形図（遺跡位置図等）は、国土地理院発行の25,000分の１地形図「浪岡」を複写して使用した。

10　測量原点の座標値は、世界測地系に基づく平面直角座標第X系による。

11　挿図中の方位は、すべて座標北を示している。

12　地形図、調査区域図、遺構配置図等の縮尺は適宜縮尺を変更し、各挿図にスケール等を示した。

13　遺構には、その種類を示す略号と、路線ごと、検出順に通し番号を付した。遺構に使用した略号は以下のとおりで、整理作業に伴って遺構名等を変更したものについては各節冒頭あるいは各遺構の事実記載文に記している。

ＳＩ－竪穴住居跡　ＳＫ－土坑　ＳＲ－埋設土器遺構　ＳＢ－掘立柱建物跡　ＳＰ－ピット
ＳＮ－焼土遺構　ＳＤ－溝跡　ＳＦ－道路状遺構　ＳＶ－溝状土坑

また火山灰に関して、B-Tm は白頭山苫小牧火山灰、To-a は十和田ａ火山灰の略称として使用している。

14　遺跡の基本土層にはローマ数字、遺構内堆積土層には算用数字を使用した。各土層の色調表記等には、『新版標準土色帖2005年版』（小山正忠・竹原秀雄）を基に記録した。

15　遺構実測図の縮尺は、原則として竪穴住居跡のカマド・炉等は1/30、竪穴住居跡・土坑・溝跡・掘立柱建物跡・溝状土坑・柱穴状ピット群等は1/60とし、各挿図にスケール等を示した。

16　遺構実測図の平面図のうち、ピット（住居内・建物内・単独とも）等には（　）内にその深さをcm単位で示している。土層断面図等には、水準点を基にした海抜標高を付している。各図で使用した網掛けは、各挿図中に示した。

17　遺構内から出土した遺物等には、取り上げ順にその種類を示す略号と通し番号を必要に応じて付した。遺物に使用した略号は、土器－Ｐ、石器－Ｓ、炭化材－Ｃで、その他の記号を用いた場合は各図に示した。

18　各遺構の規模に関する計測値は、原則として現存値を記載している。調査区域外に延びていたり他遺構・撹乱によって壊されているものは（　）を付して本文やピット計測表に記載している。

19　遺物実測図の個別番号は、路線ごとに１から遺物番号を付した。

20　遺物実測図の縮尺は、土器類1/3、剥片石器類1/2、礫石器類1/3、土石製品類・玉類1/2を原則とし、各挿図にスケール等を示した。また遺物実測図に使用した網掛けは、各挿図中に示した。

21　遺物観察表の計測値は､原則として現存値を記している。土器類計測値における（　）内の数値は、口径・底径は推定値、器高は現存値である。土器類の調整技法（文様）は、原則として土器上部（口縁）から順に記載している。

22　遺物写真には遺物実測図と共通の図番号を付しており、縮尺は不同である。

23　発掘調査及び整理・報告書作成における出土品、実測図、写真等は、現在、青森県埋蔵文化財調査センターが保管している。

目　　次

口　絵
　序
例　言
目　次
図版目次
表目次
写真目次

第１章　調査の概要
　第１節　調査に至る経緯…… 1
　第２節　調査方法等
　　１　発掘作業の方法…… 3
　　２　整理・報告書作成作業の方法…… 7
　第３節　調査の経過等
　　１　発掘作業の経過…… 9
　　２　整理・報告書作成作業の経過…… 11
　第４節　下石川平野遺跡及び周辺地域の地形と地質
　　１　遺跡周辺地域の地形と地質…… 13
　　２　遺跡内における地形と地質…… 13

第２章　検出遺構と出土遺物
　第１節　配水管12号の検出遺構と出土遺物
　　１　検出遺構
　　（１）ピット …… 17
　　（２）溝跡 …… 17
　　２　遺構外の出土遺物
　　（１）縄文時代の出土遺物 …… 17
　　（２）平安時代の出土遺物 …… 17
　　３　遺物観察表…… 20
　第２節　配水管13号の検出遺構と出土遺物
　　１　検出遺構
　　（１）竪穴住居跡 …… 21
　　（２）土坑 …… 21
　　（３）ピット …… 24
　　（４）溝跡 …… 24
　　２　遺構外の出土遺物
　　（１）縄文時代の出土遺物 …… 26
　　（２）平安時代の出土遺物 …… 26
　　３　遺物観察表…… 28
　第３節　配水管14号の検出遺構と出土遺物
　　１　検出遺構
　　（１）竪穴住居跡 …… 29
　　（２）土坑 …… 32
　　（３）ピット …… 36
　　（４）溝跡 …… 36
　　２　遺構外の出土遺物
　　（１）縄文時代の出土遺物 …… 50
　　（２）平安時代の出土遺物 …… 50
　　３　遺物観察表…… 52

第４節　農道23号の検出遺構と出土遺物
1　検出遺構
（1）竪穴住居跡 …… 54
（2）土坑 …… 59
（3）掘立柱建物跡・ピット …… 63
（4）溝跡 …… 64
（5）道路状遺構 …… 76
2　遺構外の出土遺物
（1）縄文時代の出土遺物 …… 87
（2）平安時代の出土遺物 …… 87
3　遺物観察表 …… 89
第５節　農道24号E区の検出遺構と出土遺物
1　検出遺構
（1）竪穴住居跡 …… 92
（2）土坑 …… 98
（3）掘立柱建物跡・ピット …… 109
（4）溝跡 …… 111
（5）焼土遺構 …… 132
（6）埋設土器遺構 …… 145
（7）遺物包含層 …… 159
2　遺構外の出土遺物
（1）縄文時代の出土遺物 …… 159
（2）平安時代の出土遺物 …… 159
3　遺物観察表 …… 164
第６節　農道24号W区の検出遺構と出土遺物
1　検出遺構 …… 172
（1）竪穴住居跡 …… 173
（2）土坑 …… 183
（3）掘立柱建物跡・ピット …… 201
（4）溝跡 …… 202
（5）溝状土坑 …… 254
（6）捨て場 …… 254
2　遺構外の出土遺物
（1）縄文時代の出土遺物 …… 261
（2）平安時代の出土遺物 …… 261
3　遺物観察表 …… 265

第３章　理化学的分析結果
第１節　青森市下石川平野遺跡出土の火山灰について …… 275
第２節１　下石川平野遺跡出土の須恵器壺から出土した炭化種実について …… 278
第２節２　下石川平野遺跡出土の須恵器壺から出土した炭化種実の放射性炭素年代測定 …… 281
第３節　下石川平野遺跡から出土した炭化種実 …… 283
第４節　下石川平野遺跡出土炭化材の樹種同定 …… 285
第５節　放射性炭素年代測定 …… 290

第４章　総括 …… 295
第１節　縄文時代の様相 …… 296
第２節　平安時代の様相 …… 297

引用・参考文献
写真図版
報告書抄録

図　版　目　次

第１章

図１　下石川平野遺跡　位置図 …… 2
図２　下石川平野遺跡周辺　調査路線図 …… 4
図３　平成25年度調査路線図 …… 5
図４　段丘分布図 …… 15

第２章

配水管12号

図５　配水管12号　遺構配置図 …… 18
図６　第１号溝跡・ピット …… 19
図７　遺構外出土遺物 …… 19

配水管13号

図８　配水管13号　遺構配置図 …… 22
図９　第１号竪穴住居跡 …… 23
図10　第１号土坑・第１・２・３号溝跡・ピット …… 24
図11　遺構内出土遺物 …… 25
図12　遺構外出土遺物 …… 27

配水管14号

図13　配水管14号　遺構配置図 …… 38
図14　14-1～3グリッド周辺遺構 …… 39
図15　14-3･4グリッド周辺遺構 …… 40
図16　14-5･6グリッド周辺遺構 …… 41
図17　14-7･8グリッド周辺遺構 …… 41
図18　14-9･10グリッド周辺遺構 …… 42
図19　14-11グリッド周辺遺構 …… 43
図20　14-21～26グリッド周辺遺構 …… 43
図21　14-27～32グリッド周辺遺構 …… 44
図22　14-34～40グリッド周辺遺構 …… 45
図23　14-41～45グリッド周辺遺構 …… 46
図24　第１・２・４・７号竪穴住居跡出土遺物 …… 47
図25　第８号竪穴住居跡出土遺物（１） …… 48
図26　第８号竪穴住居跡出土遺物（２）・土坑・溝跡出土遺物 …… 49
図27　遺構外出土遺物（１） …… 51
図28　遺構外出土遺物（２） …… 52

農道23号

図29　農道23号　遺構配置図 …… 65
図30　基本層序 …… 67
図31　第１・２号竪穴住居跡（１）・第２号土坑 …… 67
図32　第１・２号竪穴住居跡（２） …… 68
図33　第３号竪穴住居跡（１）・第９～11号土坑 …… 69
図34　第３号竪穴住居跡（２）カマド …… 70
図35　第３号竪穴住居跡（３）遺物出土状況 …… 71
図36　第３号竪穴住居跡（４）・第４号掘立柱建物跡 …… 72
図37　第３号竪穴住居跡（５） …… 73
図38　第４号竪穴住居跡（１）・第３号掘立柱建物跡 …… 74
図39　第４号竪穴住居跡（２） …… 75
図40　第５号竪穴住居跡・第４・12号土坑 …… 76
図41　土抗（１） …… 77
図42　土抗（２） …… 78
図43　第１・２号掘立柱建物跡・ピット …… 79
図44　溝跡・道路状遺構 …… 80
図45　第１号竪穴住居跡　出土遺物 …… 81
図46　第３号竪穴住居跡　出土遺物（１） …… 82
図47　第３号竪穴住居跡　出土遺物（２） …… 83
図48　第３号竪穴住居跡　出土遺物（３） …… 84

図49　第４号竪穴住居跡　出土遺物（１）…… 85
図50　第４号竪穴住居跡　出土遺物（２）…… 86
図51　第５号竪穴住居跡　出土遺物 …… 86
図52　土坑・溝跡　出土遺構 …… 87
図53　遺構外　出土遺物 …… 88

農道24号Ｅ区

図54　農道24号Ｅ区　遺構配置図 …… 113
図55　24-0グリッド周辺遺構 …… 115
図56　24-1グリッド周辺遺構 …… 116
図57　24-2･3グリッド周辺遺構 …… 117
図58　24-3～5グリッド周辺遺構（１）…… 118
図59　24-3～5グリッド周辺遺構（２）…… 119
図60　24-3～5グリッド周辺遺構（３）…… 120
図61　24-5～7グリッド周辺遺構（１）…… 121
図62　24-5～7グリッド周辺遺構（２）…… 122
図63　24-5～7グリッド周辺遺構（３）…… 123
図64　24-5～7グリッド周辺遺構（４）…… 124
図65　24-8～10グリッド周辺遺構（１） …… 125
図66　24-8～10グリッド周辺遺構（２） …… 127
図67　24-11･12グリッド周辺遺構 …… 128
図68　24-13･14グリッド周辺遺構 …… 129
図69　24-14･15グリッド周辺遺構 …… 130
図70　24-16～18グリッド周辺遺構…… 131
図71　24-19～23グリッド周辺遺構（１）…… 133
図72　24-19～23グリッド周辺遺構（２）…… 135
図73　24-23･24グリッド周辺遺構 …… 136
図74　24-24～28グリッド周辺遺構…… 137
図75　24-28～32グリッド周辺遺構（１）…… 139
図76　24-28～32グリッド周辺遺構（２）…… 141
図77　第１号竪穴住居跡　出土遺物 …… 142
図78　第２号竪穴住居跡　出土遺物 …… 143
図79　第３・５号竪穴住居跡　出土遺物 …… 144
図80　第６号竪穴住居跡　出土遺物 …… 145
図81　第７号竪穴住居跡　出土遺物 …… 146
図82　第８号竪穴住居跡　出土遺物 …… 147
図83　第９号竪穴住居跡　出土遺物（１）…… 148
図84　第９号竪穴住居跡　出土遺物（２）…… 149
図85　第10号竪穴住居跡　出土遺物（１）…… 150
図86　第10号竪穴住居跡（２）・第11号竪穴住居跡　出土遺物 …… 151
図87　第12･13号竪穴住居跡　出土遺物・土坑　出土遺物（１）…… 152
図88　土坑　出土遺物（２）…… 153
図89　土坑　出土遺物（３）…… 154
図90　土坑　出土遺物（４）…… 155
図91　土坑　出土遺物（５）…… 156
図92　土坑　出土遺物（６）…… 157
図93　土坑　出土遺物（７）・溝跡　出土遺物 …… 158
図94　土器埋設遺構　出土遺物・包含層　出土遺物（１） …… 160
図95　包含層　出土遺物（２）…… 161
図96　包含層　出土遺物（３）・遺構外　出土遺物（１） …… 162
図97　遺構外　出土遺物（２）…… 163

農道24号Ｗ区

図98　農道24号Ｗ区　遺構配置図 …… 207
図99　24-52～56グリッド周辺遺構…… 209
図100　24-57～59グリッド（捨て場）周辺遺構…… 211
図101　24-58･59グリッド周辺遺構 …… 213
図102　24-59～62グリッド周辺遺構（１）…… 215

図103　24-59～62グリッド周辺遺構（２）…… 217
図104　24-59～62グリッド周辺遺構（３）…… 218
図105　24-59～62グリッド周辺遺構（４）…… 219
図106　24-63･64グリッド周辺遺構（１）…… 220
図107　24-63･64グリッド周辺遺構（２）…… 221
図108　24-63･64グリッド周辺遺構（３）…… 222
図109　24-64～66グリッド周辺遺構（１）…… 224
図110　24-64～66グリッド周辺遺構（２）…… 225
図111　24-67グリッド周辺遺構…… 226
図112　24-68･69グリッド周辺遺構（１）…… 227
図113　24-68･69グリッド周辺遺構（２）…… 228
図114　24-68･69グリッド周辺遺構（３）…… 229
図115　24-70～72グリッド周辺遺構…… 230
図116　24-72～74グリッド周辺遺構…… 231
図117　24-76～77グリッド周辺遺構…… 232
図118　24-78～81グリッド周辺…… 233
図119　第１・２・３号竪穴住居跡　出土遺物…… 234
図120　第４号竪穴住居跡　出土遺物…… 235
図121　第５号竪穴住居跡　出土遺物…… 236
図122　第６・７号竪穴住居跡　出土遺物…… 237
図123　第８号竪穴住居跡　出土遺物…… 238
図124　第９･10･12～14号竪穴住居跡　出土遺物…… 239
図125　土坑　出土遺物（１）…… 240
図126　土坑　出土遺物（２）…… 241
図127　土坑　出土遺物（３）…… 242
図128　土坑　出土遺物（４）…… 243
図129　土坑　出土遺物（５）…… 244
図130　土坑　出土遺物（６）…… 245
図131　土坑　出土遺物（７）…… 246
図132　土坑（８）・ピット　出土遺物…… 247
図133　溝跡　出土遺物（１）…… 248
図134　溝跡　出土遺物（２）…… 249
図135　溝跡　出土遺物（３）…… 250
図136　溝跡　出土遺物（４）…… 251
図137　溝跡　出土遺物（５）…… 252
図138　溝跡　出土遺物（６）…… 253
図139　捨て場　第Ⅲａ層　出土遺物（１）…… 257
図140　捨て場　第Ⅲａ層　出土遺物（２）…… 258
図141　捨て場　第Ⅲｂ層　出土遺物（１）…… 259
図142　捨て場　第Ⅲｂ層（２）・第Ⅲｄ層　出土遺物…… 260
図143　遺構外　出土遺物（１）…… 262
図144　遺構外　出土遺物（２）…… 263
図145　遺構外　出土遺物（３）…… 264

第３章

図146　下石川平野遺跡の須恵器壺から出土した炭化種実…… 280
図147　暦年較正結果…… 282
図148　下石川平野遺跡から出土した炭化種実…… 284
図149　下石川平野遺跡出土炭化材の走査型電子顕微鏡写真（１）…… 288
図150　下石川平野遺跡出土炭化材の走査型電子顕微鏡写真（２）…… 289
図151　下石川平野遺跡　年代測定資料…… 293
図152　暦年較正結果…… 294

表　目　次

第１章
表１　下石川平野遺跡と周辺の遺跡一覧 …… 1
表２　主要点の国土座標及び標高値一覧 …… 3
第２章
配水管12号
表３　配水管12号　ピット計測表 …… 17
表４　配水管12号　土器観察表 …… 20
表５　配水管12号　石器観察表 …… 20
配水管13号
表６　配水管13号　ピット計測表 …… 24
表７　配水管13号　土器観察表 …… 28
表８　配水管13号　石器観察表 …… 28
配水管14号
表９　配水管14号　ピット計測表 …… 36
表10　配水管14号　土器観察表 …… 52
表11　配水管14号　石器観察表 …… 53
表12　配水管14号　土製品観察表 …… 53
農道23号
表13　農道23号　ピット計測表 …… 63
表14　農道23号　土器観察表 …… 89
表15　農道23号　石器観察表 …… 91
表16　農道23号　土製品観察表 …… 91
表17　農道23号　石製品観察表 …… 91
表18　農道23号　鉄製品観察表 …… 91
農道24号Ｅ区
表19　農道24号Ｅ区　ピット計測表 …… 110
表20　農道24号Ｅ区　土器観察表 …… 164
表21　農道24号Ｅ区　石器観察表 …… 170
表22　農道24号Ｅ区　土製品観察表 …… 171
表23　農道24号Ｅ区　石製品観察表 …… 171
農道24号W区
表24　農道24号W区　ピット計測表 …… 201
表25　農道24号W区　土器観察表 …… 265
表26　農道24号W区　石器観察表 …… 274
表27　農道24号W区　土製品観察表 …… 274
第３章
表28　下石川平野遺跡、火山灰の火山ガラス及び構成鉱物 …… 276
表29-1　青森市下石川平野遺跡の白頭山苫小牧テフラの火山ガラスのＥＰＭＡ分析値（Ｂ-Ｔｍ（１）） …… 277
表29-2　青森市下石川平野遺跡の白頭山苫小牧テフラの火山ガラスのＥＰＭＡ分析値（Ｂ-Ｔｍ（２）） …… 277
表30　須恵器壺から出土した炭化種実 …… 278
表31　測定試料および処理 …… 281
表32　放射性炭素年代測定および暦年較正の結果 …… 282
表33　下石川平野遺跡から出土した炭化種実 …… 283
表34　遺構別の樹種同定結果 …… 285
表35　下石川平野遺跡出土炭化材の樹種同定結果 …… 289
表36　測定試料および処理 …… 290
表37　放射性炭素年代測定および暦年較正の結果 …… 291

写真図版目次

口絵１　調査区全景・調査状況
口絵２　出土遺物
写真１　配水管12～14号　調査風景等 …… 301
写真２　配水管12号と出土遺物 …… 302
写真３　配水管13号 …… 303
写真４　配水管13号　出土遺物 …… 304
写真５　配水管14号（１）　SI01･02 …… 305
写真６　配水管14号（２）　SI03･04 …… 306
写真７　配水管14号（３）　SI05･06･07 …… 307
写真８　配水管14号（４）　SI08 …… 308
写真９　配水管14号（５）　SI09･10、SK01～04･12･13 …… 309
写真10　配水管14号（６）　SK05～11、SD01･04 …… 310
写真11　配水管14号（７）　SD02･03･05･06、調査風景 …… 311
写真12　配水管14号　出土遺物（１） …… 312
写真13　配水管14号　出土遺物（２） …… 313
写真14　農道23号　調査風景 …… 314
写真15　農道23号（１）　空中写真・遠景・基本層序 …… 315
写真16　農道23号（２）　SI01 …… 316
写真17　農道23号（３）　SI02･SK02、SI03（１）･SK10･11 …… 317
写真18　農道23号（４）　SI03（２） …… 318
写真19　農道23号（５）　SI03（３）、遺物集中地点・SK09 …… 319
写真20　農道23号（６）　SI04 …… 320
写真21　農道23号（７）　SI04（２）･SI05 …… 321
写真22　農道23号（８）　土坑（１） …… 322
写真23　農道23号（９）　土坑（２） …… 323
写真24　農道23号(10)　土坑（３）・掘立柱建物跡 …… 324
写真25　農道23号(11)　遺跡・道路状遺構 …… 325
写真26　農道23号(12)　調査区完掘等 …… 326
写真27　農道23号　出土遺物（１） …… 327
写真28　農道23号　出土遺物（２） …… 328
写真29　農道23号　出土遺物（３） …… 329
写真30　農道23号　出土遺物（４） …… 330
写真31　農道24号　全景 …… 331
写真32　農道24号Ｅ区　調査風景等 …… 332
写真33　農道24号Ｅ区（１）　ESI01･ESI01付属施設 …… 333
写真34　農道24号Ｅ区（２）　ESI02 …… 334
写真35　農道24号Ｅ区（３）　ESI03･05･07･08 …… 335
写真36　農道24号Ｅ区（４）　ESI06･09 …… 336
写真37　農道24号Ｅ区（５）　ESI10～13 …… 337
写真38　農道24号Ｅ区（６）　ESK01～03･05･06･09 …… 338
写真39　農道24号Ｅ区（７）　ESK08･10～14･19 …… 339
写真40　農道24号Ｅ区（８）　ESK15･18･20･21･31 …… 340
写真41　農道24号Ｅ区（９）　ESK22～25 …… 341
写真42　農道24号Ｅ区(10)　ESK26～30･32･33 …… 342
写真43　農道24号Ｅ区(11)　ESK34～37･39 …… 343
写真44　農道24号Ｅ区(12)　ESK38･40～43･46 …… 344
写真45　農道24号Ｅ区(13)　ESK44･45･47･48･50･51 …… 345
写真46　農道24号Ｅ区(14)　ESR01～03、ESN01･ESD01･04･07 …… 346
写真47　農道24号Ｅ区　出土遺物（１） …… 347
写真48　農道24号Ｅ区　出土遺物（２） …… 348
写真49　農道24号Ｅ区　出土遺物（３） …… 349
写真50　農道24号Ｅ区　出土遺物（４） …… 350
写真51　農道24号Ｅ区　出土遺物（５） …… 351
写真52　農道24号Ｅ区　出土遺物（６） …… 352

写真53　農道24号Ｅ区　出土遺物（７）…… 353
写真54　農道24号Ｅ区　出土遺物（８）…… 354
写真55　農道24号Ｅ区　出土遺物（９）…… 355
写真56　農道24号Ｅ区　出土遺物(10)…… 356
写真57　農道24号Ｅ区　出土遺物(11)…… 357
写真58　農道24号Ｗ区　調査風景等 …… 358
写真59　農道24号Ｗ区（１）　調査区全景 …… 359
写真60　農道24号Ｗ区（２）　調査区近景 …… 360
写真61　農道24号Ｗ区（３）　52～56グリッド …… 361
写真62　農道24号Ｗ区（４）　57～59グリッド（１）…… 362
写真63　農道24号Ｗ区（５）　57～59グリッド（２）…… 363
写真64　農道24号Ｗ区（６）　59～62グリッド（１）…… 364
写真65　農道24号Ｗ区（７）　59～62グリッド（２）…… 365
写真66　農道24号Ｗ区（８）　59～62グリッド（３）…… 366
写真67　農道24号Ｗ区（９）　59～62グリッド（４）…… 367
写真68　農道24号Ｗ区(10)　59～62グリッド（５）…… 368
写真69　農道24号Ｗ区(11)　59～62グリッド（６）…… 369
写真70　農道24号Ｗ区(12)　63･64グリッド（１）…… 370
写真71　農道24号Ｗ区(13)　63･64グリッド（２）…… 371
写真72　農道24号Ｗ区(14)　64～66グリッド（１）…… 372
写真73　農道24号Ｗ区(15)　64～66グリッド（２）…… 373
写真74　農道24号Ｗ区(16)　67～69グリッド（１）…… 374
写真75　農道24号Ｗ区(17)　67～69グリッド（２）…… 375
写真76　農道24号Ｗ区(18)　70～76グリッド（１）…… 376
写真77　農道24号Ｗ区(19)　70～76グリッド（２）…… 377
写真78　農道24号Ｗ区(20)　70～76グリッド（３）…… 378
写真79　農道24号Ｗ区　出土遺物（１）…… 379
写真80　農道24号Ｗ区　出土遺物（２）…… 380
写真81　農道24号Ｗ区　出土遺物（３）…… 381
写真82　農道24号Ｗ区　出土遺物（４）…… 382
写真83　農道24号Ｗ区　出土遺物（５）…… 383
写真84　農道24号Ｗ区　出土遺物（６）…… 384
写真85　農道24号Ｗ区　出土遺物（７）…… 385
写真86　農道24号Ｗ区　出土遺物（８）…… 386
写真87　農道24号Ｗ区　出土遺物（９）…… 387
写真88　農道24号Ｗ区　出土遺物(10)…… 388
写真89　農道24号Ｗ区　出土遺物(11)…… 389
写真90　農道24号Ｗ区　出土遺物(12)…… 390

第１章　調査の概要

第１節　調査に至る経緯

平成19年から４年間にわたり浪岡野沢地区県営畑地帯総合整備に伴う発掘調査が行われる中、平成21年７月から同事業の野沢２期地区の埋蔵文化財包蔵地の取扱いについて青森県教育庁文化財保護課（以下「文化財保護課」）と県農林水産部農村整備課及び東青地域県民局地域農林水産部水利防災課（以下「水利防災課」）による継続的な協議と踏査が行われた。

平成23年10月から文化財保護課により当該地区に計画されている農道・配水管等計画地の試掘調査に着手し、順次調査範囲が確定されていくこととなった。

平成24年９月、試掘調査の結果を基に水利防災課、文化財保護課、青森県埋蔵文化財調査センター（以下「埋蔵文化財調査センター」）による現地協議が行われ、農道23号、農道24号、農道35号、農道37号等の発掘調査の範囲を確認した。

平成25年４月には水利防災課と文化財保護課及び埋蔵文化財調査センターによる発掘調査前の事前協議が行われ、同年７月から農道23・24号、配水管12～15号、給水栓10号の発掘調査を実施した。なお、事業者からの土木工事等のための発掘に関する通知は、平成25年５月に提出されている。

（中嶋）

表１　下石川平野遺跡と周辺の遺跡一覧

市	遺跡番号	遺跡名	時代	種別
青森市	201331	下下平遺跡	縄文(後)、平安	散布地
	201332	旭(1)遺跡	平安	散布地
	201333	旭(2)遺跡	平安	散布地、集落跡
	201334	中平遺跡	縄文(後)、平安	散布地、集落跡
	201335	浪岡蛍沢遺跡	縄文(前)	散布地
	201336	熊沢溜池遺跡	平安	散布地、集落跡
	201337	永原遺跡	縄文(前・後)	散布地
	201338	上野遺跡	縄文(前・後)、平安、中世、近世	散布地、集落跡
	201339	神明宮遺跡	縄文(前・晩)、平安、	散布地、集落跡
	201340	山神宮遺跡	縄文(晩)	散布地
	201341	長溜池遺跡	縄文(中・後・晩)、弥生、平安、中世	散布地、墳墓
	201342	大林遺跡	縄文、平安	散布地
	201378	銀館遺跡	中世	城館跡
	201385	杉田遺跡	平安	散布地
	201386	寺屋敷平遺跡	平安	散布地
	201397	樽沢上野遺跡	縄文、平安	散布地
	201398	郷山前村元遺跡	平安	散布地
	201399	**下石川平野遺跡**	**縄文(前・中)、平安**	**集落跡**
	201411	銀前田遺跡	平安	散布地
	201412	樽沢村元遺跡	縄文、平安	散布地
	201414	岡田遺跡	平安	散布地
	201423	吉野田平野遺跡	平安	散布地
五所川原市	205008	川崎遺跡	縄文(晩)、平安、近世	散布地
	205009	桜ヶ峰(1)遺跡	縄文(草・前・中・後・晩)、弥生、平安、近世	散布地、須恵器窯跡
	205018	持子沢館	縄文(後)、平安、近世	散布地、城館跡
	205043	真言館遺跡	平安、中世	城館跡
	205059	桜ヶ峰(2)遺跡	縄文(前・中・後・晩)、弥生、続縄文、平安	散布地
	205060	桜ヶ峰(3)遺跡	縄文、平安	散布地
	205062	隠川(2)遺跡	旧石器、縄文(早・前・中・後・晩)、平安、近世	集落跡
	205063	隠川(3)遺跡	縄文(前・中・後・晩)、弥生、平安、近世	集落跡
	205064	隠川(4)遺跡	縄文(早・前・中・後・晩)、弥生、平安、近世、近代	散布地
	205065	隠川(5)遺跡	平安	散布地
	205066	隠川(6)遺跡	縄文、平安	散布地
	205067	隠川(7)遺跡	平安、近世	散布地
	205072	隠川(12)遺跡	縄文(前・中・後・晩)、弥生、平安、近世	集落跡
	205101	広野遺跡	縄文、平安	散布地、須恵器窯跡

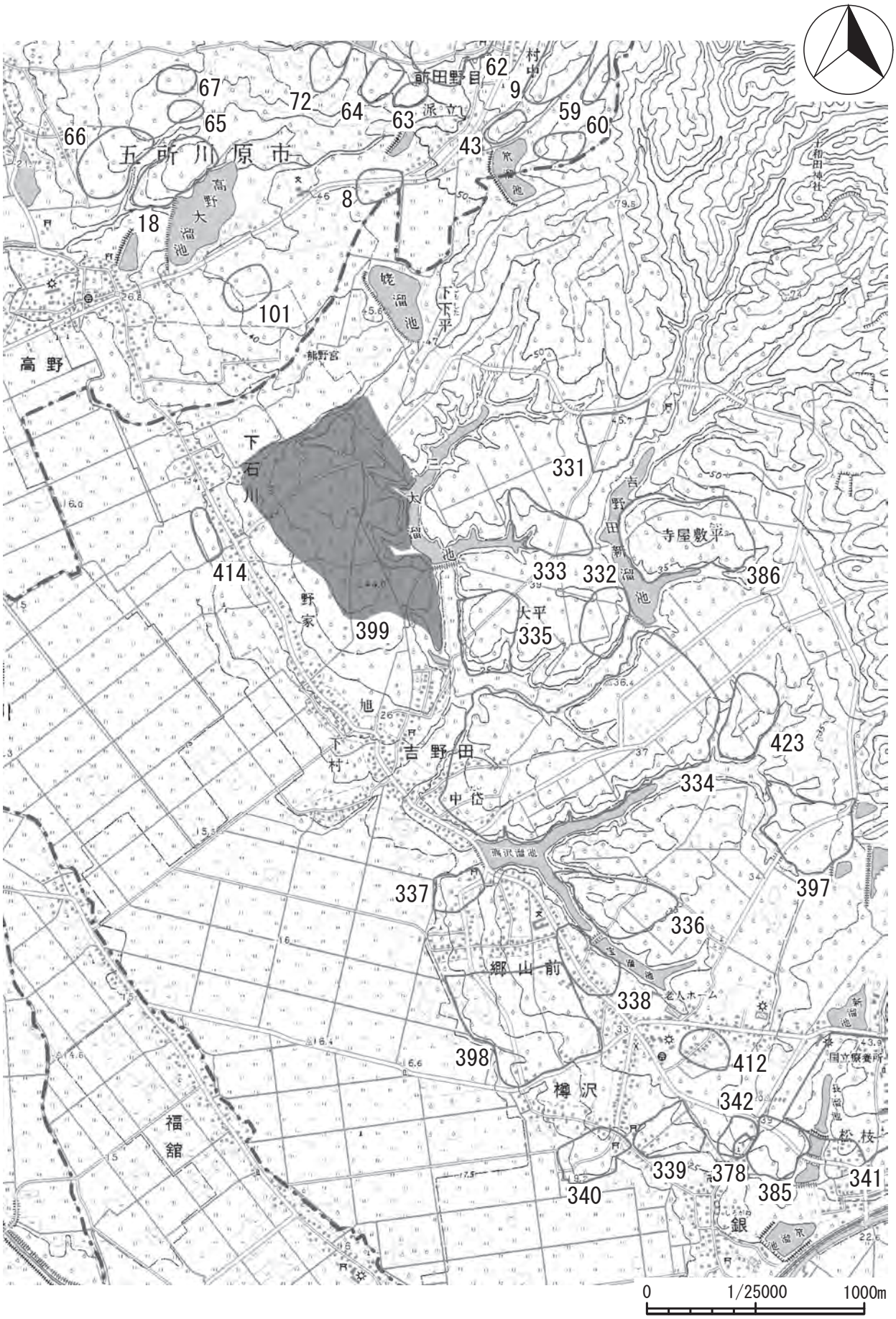


図１　下石川平野遺跡 位置図

第２節　調査方法等

１　発掘作業の方法

農道23号は平成23年度、農道24号・配水管12～15号は平成24年度にそれぞれ文化財保護課によって確認調査が行われている。これらによって縄文時代 ・古代の遺物と遺構（竪穴住居跡等）が確認されたため、縄文時代・古代の遺構調査に重点をおいて、各集落の時期・構造等を把握できるような調査方法を採用した。

〔地区の名称と略称〕調査地区の名称は畑地帯総合整備事業で用いている工事区域名（農道23・24号、配水管12～15号、給水栓10号）を原則としてそのまま使用した。なお農道24号に、配水管15号は並行し、給水栓10号は隣接しているため、「農道24号」地区には配水管15号及び給水栓10号の工事予定地を含んでいる。農道23号には流末水路が、農道24号は東側の「Ｅ区」と西側の「W区」とがある。これらの略称として農道は「N」、配水管は「H」、流末水路は「R」を使用した。「農道23号」は「N23」、「農道24号Ｅ区」は「N24E」、「配水管12号」は「H12」などである。

〔測量基準点・水準点の設置・グリッド設定〕各路線の測量原点及びレベル原点には工事用の既存成果を利用し、各調査対象区域内に標準の国土座標値と標高値を備えた工事用幅杭や任意の基準杭を設置し、これらを実測基準点として使用した。主な基準点の国土座標値（世界測地系）及び標高値は表２に、各農道と公共座標軸の位置関係、各調査路線の基準主要点については各遺構配置図にそれぞれ示してある。また、必要に応じこれら実測基準点を与点として調査路線周辺に基準杭 ・ベンチマークを増設して使用した。

遺構 ・基本土層の精査や遺構外出土遺物の取り上げにあたっては、各農道の中心線を基準に起点から５メートルごとで区切ってグリッドとし、平面的出土位置を記録して取り上げた。グリッドの名称は、農道24号 ・配水管14号の場合、起点（№０）から５ｍまでを「（路線番号）－０グリッド」、「（路線番号）－１グリッド」…、と呼称した。例えば農道24号の場合、起点（№０）から５ｍまでは「N24－０グリッド」、５～10ｍまでは「N24－１グリッド」…で、配水管14号の場合、起点（№０）から５ｍまでは「H14－０グリッド」、５～10ｍまでは「H14－１グリッド」…、となる。

一方、農道23号・配水管12･13号の場合、起点（№０）から５ｍまでを「（路線番号）－１グリッド」、「（路線番号）－２グリッド」…、と呼称した。例えば農道23号の場合、「N23－１グリッド」、５～10ｍまでは「N23－２グリッド」…となる。また農道23号南東部は流末水路のみの調査で、この部分も５メートルごとの

表２　主要点の国土座標及び標高値一覧

地区名	点　名	国土座標値（世界測地系・JGD2000）		標高値（m）
		X	Y	
配水管12号	T42-13	81718.872	-24503.941	45.834
	3NO.17	81668.831	-24556.401	47.528
配水管13号	T43-1	81646.726	-24605.765	48.070
	T43-2	81636.285	-24657.913	48.076
	T43-4	81596.580	-24755.781	46.793
配水管14号	3 - 1	81564.610	-24790.613	45.635
	KBM30-1	81455.064	-24938.226	38.992
農道23号	NO.0	81714.896	-24506.150	-
	NO.4	81659.037	-24448.883	-
	LNO.2	81688.936	-24475.602	45.882
	LNO.3	81674.855	-24461.371	45.315
	CNO.0	81601.668	-24396.001	-
	EP	81603.210	-24394.410	-
	CEP	81524.101	-24348.980	-
	KBM15-2	81596.554	-24401.356	40.840
農道24号Ｅ区	NO.0	81570.667	-24797.095	-
	NO.4	81632.382	-24846.935	-
	NO.8	81639.966	-24923.297	-
	15L4	81585.416	-24811.100	45.811
	15L7	81614.023	-24830.914	44.699
	15L12	81639.781	-24864.750	43.088
	15L15	81640.961	-24875.438	42.705
	15L16	81638.295	-24903.089	42.085
農道24号W区	NO.13	81609.902	-25018.110	-
	NO.16	81588.964	-25074.011	-
	NO.20	81642.832	-25113.079	-
	L40	81588.001	-25091.406	33.249
	L41	81596.421	-25096.847	31.972
	L42	81605.274	-25101.499	31.373
	L43	81611.278	-25104.809	30.776
	L45	81619.175	-25107.909	29.976
	K-1	81602.677	-25052.598	34.600
	K-2	81596.627	-25065.479	34.200

※各点の位置は、各遺構配置図に示している。

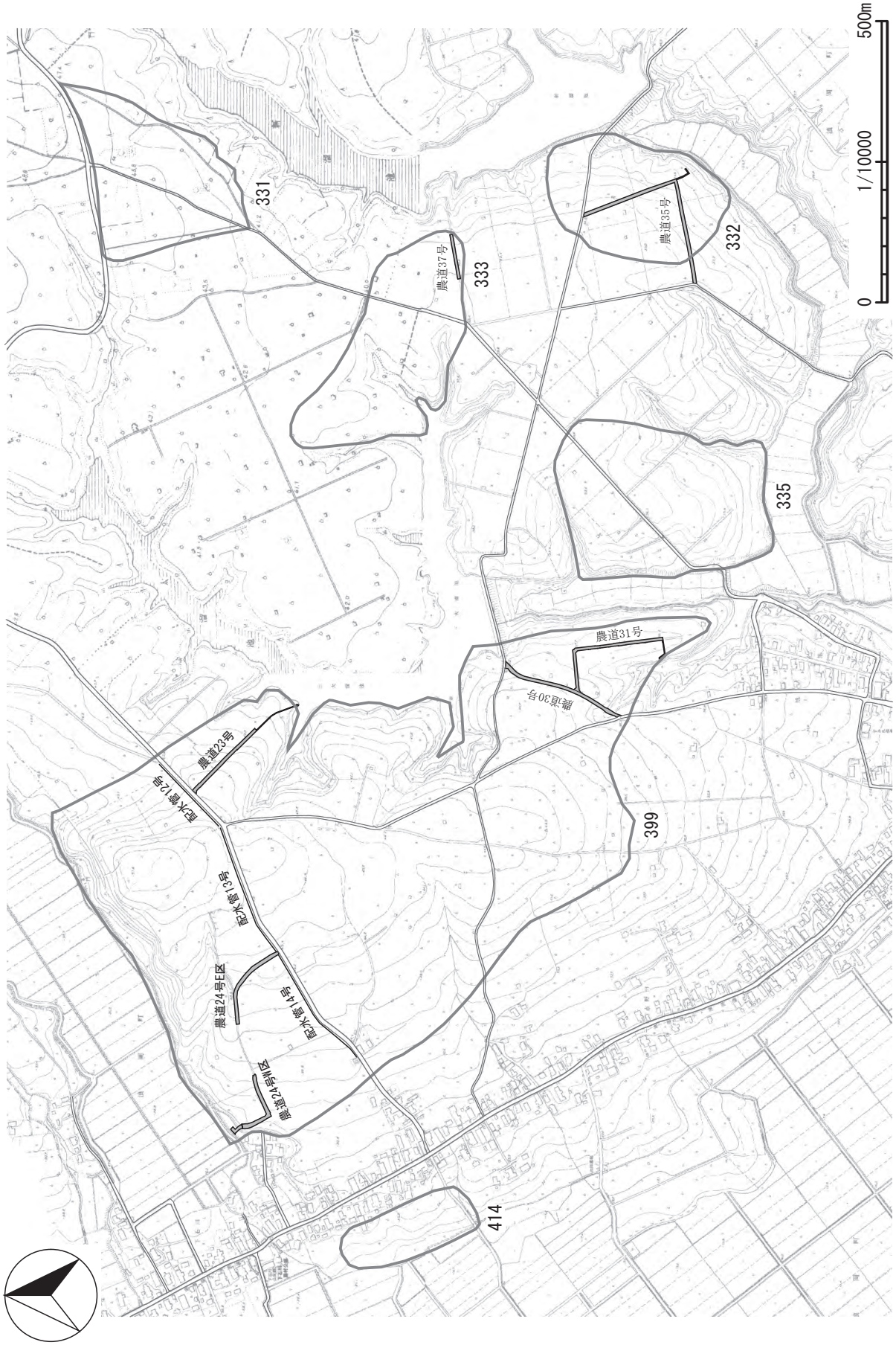


図2　下石川平野遺跡周辺　調査路線図

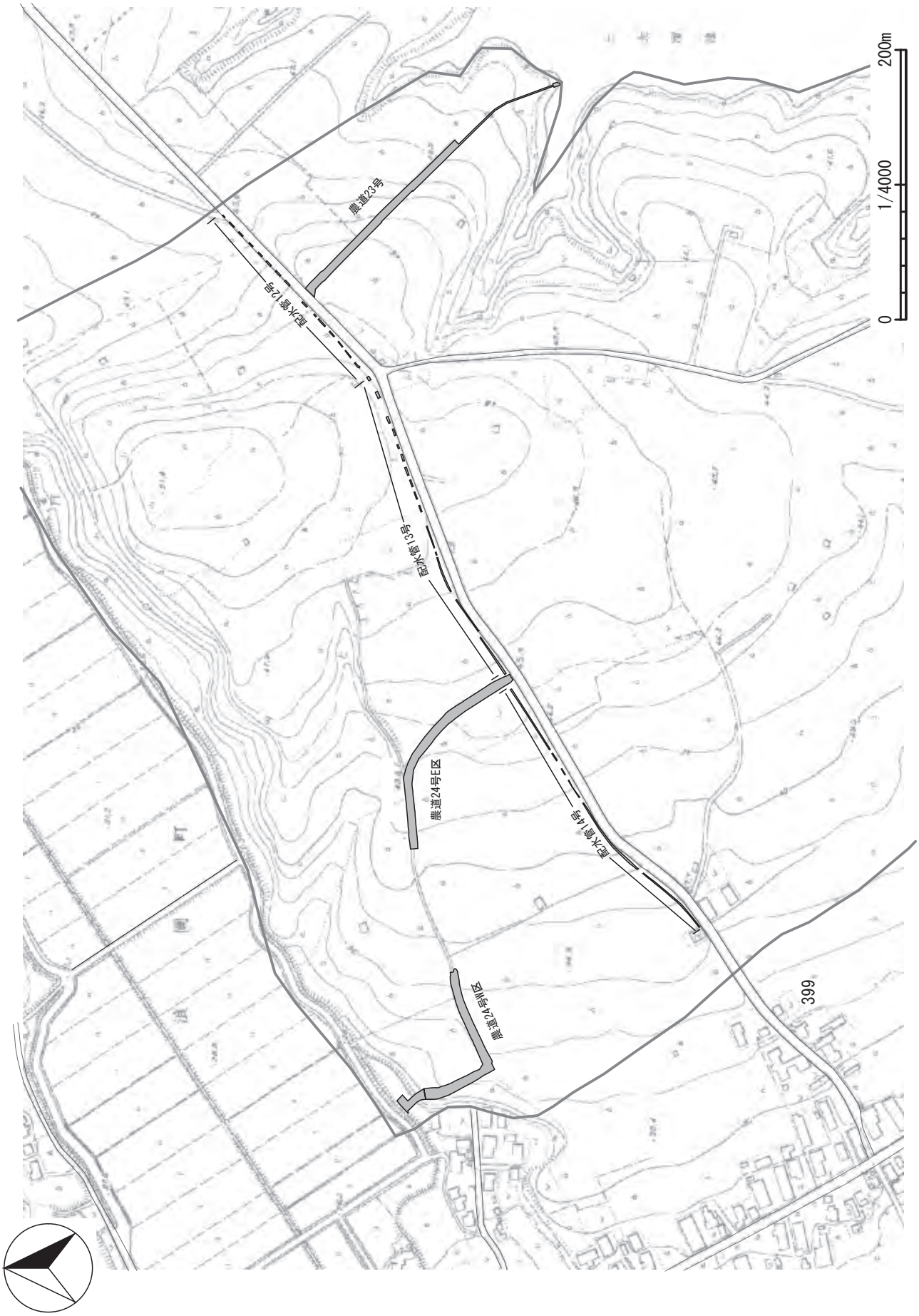


図３　平成25年度調査路線図

グリッド名に「R」を付し、「N23－R1グリッド」、「N23－R2グリッド」…、と呼称している。

各グリッドの設置状況・名称については、各路線の遺構配置図に赤字で示している。

〔基本土層〕遺跡の基本土層については表土から順にローマ数字を付けて呼称し、細分が必要な場合は小文字のアルファベットを付した。

〔表土等の調査〕農道23号は平成23年度、農道24号・配水管12～14号は平成24年度にそれぞれ確認調査が行われている。そのことによって古代及び縄文時代の遺構 ・遺物が存在することは把握していた。しかし表土から古代の遺構確認面までは畑地造成や砂利道として撹乱されていることも分かっていたので、その部分は重機を使用して掘削の省力化を図り、古代の遺構検出・調査、縄文時代の遺物包含層・遺構検出・調査の順に発掘作業を進めることとした。表土から遺構確認面までの土層から出土した遺物は、適宜地区単位で層位毎に取り上げた。

〔遺構の調査〕検出遺構には、原則として確認順に種類別の番号を付けて精査した。堆積土層観察用のセクションベルトは、遺構の形態、大きさ等に応じて、基本的には４分割又は２分割で設定したが、遺構の重複や付属施設の有無等により必要に応じて追加した。遺構内の堆積土層には、算用数字を付けて、ローマ数字を付けた基本土層と区別した。遺構の平面図は、主に（株）CUBIC製「遺構実測支援システム」を用いてトータルステーションによる測量で作成した。遺構の堆積土層断面図や竪穴住居跡に伴う炉 ・カマド等の平面図、出土遺物の形状実測図等は、簡易遣り方測量等で縮尺1/20・1/10の実測図を作成した。遺構内の出土遺物は遺構単位・遺構内地区単位で層位毎に又は堆積土一括で取り上げたが、床面（底面）や炉 ・カマドの出土遺物については、トータルステーションや簡易遣り方測量により、必要に応じて縮尺1/20・1/10のドットマップ図・形状実測図等を作成した。

〔遺物包含層の調査〕上層から層位毎に人力で掘削した。遺物が密集して出土した区域では、トータルステーションや簡易遣り方測量により、縮尺1/20･1/10のドットマップ図や形状実測図を作成したが、遺物が散発的に出土した区域では、原則としてグリッド単位で層位毎に取り上げた。一部の遺物出土状況図作成にあたっては、写真を元に図化したものもある。

〔写真撮影〕原則として35㎜モノクローム、35㎜カラーリバーサルの各フィルム及びデジタルカメラを併用し、発掘作業状況、土層の堆積状態、遺物の出土状態、遺構の検出状況・精査状況・完掘後の全景等について記録した。デジタルカメラは1,800万画素のものを使用し、一部の写真撮影は（株）CUBIC製「俯瞰写真撮影システム」を用いて数m上空からの俯瞰写真撮影を行った。また、業者に委託してラジコンヘリによる遺跡及び調査区域全体の空中写真撮影を行った。

２　整理・報告書作成作業の方法

平成25年度調査の結果、縄文時代及び古代の竪穴住居跡41棟、土坑128基、溝跡40条、掘立柱建物跡５棟、ピット98基、ピット列１条、焼土遺構１基、溝状土坑１基、埋設土器遺構３基、遺物包含層１箇所・捨て場１箇所、道路状遺構２条が検出され、縄文時代・古代の土器類79箱、石器類12箱、合計段ボール箱91箱分が出土した。

これらの遺構・遺物をもとに、主に古代の集落の時期・構造等を解明するため、竪穴住居跡をはじめとする各遺構の構築時期と集落の変遷等の検討に重点をおいて整理・報告書作成作業を進めた。

〔図面類の整理〕遺構の平面図は主にトータルステーションによる測量で作成したので、整理作業ではこれを原則として縮尺20分の１で図化し、簡易遣り方測量で作成した堆積土層断面図や炉・カマド等の付属施設の実測図等との図面調整を行った。また、遺構台帳・遺構一覧表等を作成して、発掘作業時の所見等を整理した。

〔写真類の整理〕35㎜モノクロームフィルムは撮影順に整理してネガアルバムに収納し、35㎜カラーリバーサルフィルムは発掘作業状況、包含層遺物の出土状態、遺構毎の検出・精査状況等に整理して農道ごとにスライドファイルに収納した。また、デジタルカメラのデータは35㎜カラーリバーサルフィルムと同様に整理してタイトルを付けた。

〔遺物の洗浄・注記と接合・復元〕遺構出土遺物及び包含層出土遺物を優先的に接合し、復元作業を早期に進めるようにした。遺物の注記は、調査年度、遺跡名、出土区・遺構名、層位、取り上げ番号等を略記したが、剥片石器・金属器等、直接注記できないものは、収納したポリ袋に注記した。接合・復元にあたっては、同一個体の出土地点・出土層等も留意しながら行った。

〔報告書掲載遺物の選別〕遺物全体の分類を適切に行った上で、遺構に伴って使用 ・廃棄（放置）された資料、遺構の構築・廃絶時期等を示す資料、遺存状態が良く同類の中で代表的な資料、所属時代（時期）・型式・器種等の分かる資料等を主として選別した。

〔遺物の観察・図化〕充分観察した上で、遺物の特徴を適切に分かり易く表現するように図化した。特に、縄文土器の復元個体や拓本では表現しきれない隆帯・突起等の凹凸のある遺物については、実測図を作成するように心掛けた。なお、一部の縄文土器の実測には三次元計測による正射投影画像を用いたものもある。また、種類ごとに遺物台帳・観察表・計測表等を作成した。

〔遺物の写真撮影〕業者に委託して行ったが、実測図等では表現しがたい質感・雰囲気・製作技法・文様表現等を伝えられるように留意した。

〔理化学的分析〕出土火山灰の噴出源を特定するための火山灰分析、当時の利用植物を明らかにする炭化種実の同定、炭化種実や炭化材の年代を特定するための放射性年代測定、竪穴住居跡の建築材等を特定するための炭化材の樹種同定については、研究機関・業者等に委託して行った。

〔遺構・遺物のトレース・版下作成〕遺構・遺物の実測図やその他の挿図のトレースは、ロットリングペンによる手作業と（株）CUBIC製「トレースくん」（遺物実測支援システム）、Adobe社製「Illustrator」を用いたデジタルトレースを併用した。実測図版・写真図版等の版下作成についても、紙図版による手作業とパソコンによるデジタルデータ加工作業（Adobe社製「PhotoShop」・「Indesign」）を併用した。遺構内出土遺物のうち、床面（底面）出土遺物や竪穴住居跡の炉・カマド出土遺物等については、原則として遺構の平面図にそのドットマップ図・形状実測図等を掲載した。

〔遺構の検討・分類・整理〕遺構毎に種類・構造的特徴・出土遺物・他の遺構との新旧関係等に関するデータを整理し、構築時期や同時性・性格等について検討を加えた。
〔遺物の検討・分類・整理〕遺物を時代・時期・種類毎に整理し、出土遺物全体の分類・器種構成・個体数等について検討した。
〔調査成果の検討〕遺構・遺物の検討結果を踏まえて、縄文時代と古代の集落の時期・構造・変遷等について検討・整理した。

第３節　調査の経過等

１　発掘作業の経過

平成25年度の下石川平野遺跡発掘調査は、調査委託者の要望により農道23号と配水管14号をまずは調査対象とし、職員２名がそれぞれ１路線を担当することとした。農道23号は神が、配水管14号は平山が担当し、各地区の調査が終了次第、神は農道24号Ｗ区へ、平山は配水管13号・配水管12号・農道24号Ｅ区へと、順次調査地点を移していった。発掘調査体制は以下のとおりである。

調査主体　　青森県埋蔵文化財調査センター

所　　長　　柿崎　隆司（現、青森県立郷土館館長）
次長（総務ＧＭ兼務）　高橋　雅人
調査第一ＧＭ　　中嶋　友文
文化財保護主幹　　神　　康夫（発掘調査担当者）
文化財保護主査　　平山　明寿（発掘調査担当者）

専門的事項に関する指導・助言

調　査　員　葛西　　勵　前青森短期大学教授（考古学）
〃　　福田　友之　青森県考古学会会長（考古学）
〃　　島口　　天　青森県立郷土館主任学芸主査（地質学）

発掘作業の経過、業務委託状況等は、以下のとおりである。

〔平成25年度〕

５月上旬　青森県東青地域県民局地域農林水産部（調査委託者）、青森県教育庁文化財保護課と調査前の打合せを行い、今年度調査対象とする路線や発掘作業の進め方等について確認した。

６月下旬　青森県東青地域県民局地域農林水産部（調査委託者）と調査直前の打合せを行い、調査対象路線の状況や障害物の有無等について再度確認した。

７月上旬　調査事務所、器材庫、発掘作業員休憩所や仮設トイレの設置、駐車場の整備等、事前の準備作業を行った。

７月４日　発掘器材等を調査事務所、器材庫に搬入し、職員２名、補助員３名、発掘作業員40名の規模で発掘調査を開始した。環境整備後、調査区を確認し、農道23号流末水路部分から発掘作業員による粗掘り作業に着手した。測量基準点・水準点は工事用のものを使用し、必要に応じて調査区周辺に増設した。

７月上旬　配水管14号の粗掘り作業にも着手し、遺物が出土する。農道23号では流末水路の調査と並行して、農作業用車両が通行できるような幅員・高低差等を確保した迂回路を敷鉄板で設置し、農道部分の砕石除去及び表土掘削を重機で進める。農道23号は調査事務所本部から離れているため、調査器材を収納するプレハブを設置する。

７月中～下旬　農道23号・配水管14号とも縄文時代と古代の遺構が検出され、精査をすすめる。配水管地区では排土置き場がないため、遺構精査の終了した地区は写真撮影・測量を行って、順次排土で埋め戻していく手法を採用した。農道部分ではこれ以後、調査が終了し次第埋め戻す、通路確保のために敷鉄板を移設、重機で砕石等の表土除去作業、人力による遺構

の確認・精査、という手順を繰り返すこととなる。

８月上旬　８月は職員２名・補助員３名が合流することとなり、遺構精査とともに農道24号北西部の農道終点部分の調査を行う。トレンチを２本設定し調査したところ、古代以前の遺構が確認されなかったため、全面調査が不要と判断された。配水管14号は粗掘りが終了し、配水管13号の粗掘り・遺構確認作業へ移行する。農道23号では焼失家屋である第３号竪穴住居跡をはじめ、古代の遺構が多く検出される。

８月下旬　配水管13号では遺構・遺物とも散発的であることが判明したためトレンチ設定の間隔を広げ、調査の効率化を図り、配水管12号の粗掘り・遺構確認作業を行う。８月22日には空中写真撮影を株式会社シン技術コンサルに委託し、農道23号及び配水管地区の全景及び遺構群等の空中写真を撮影する。農道23号の調査に目処が立ったことから、農道24号東西両地区の必要箇所に迂回路となる鉄板を移設し、表土を重機で除去するなど調査に入るための準備を進める。

９月上～中旬　平山チームは、配水管地区から農道24号Ｅ区の調査へ移り、神チームは農道23号から農道24号W区へ移り、それぞれ遺構確認作業や遺構精査に着手する。農道24号Ｅ区の西半では平安時代の竪穴住居跡や溝跡等が検出され、車両迂回路を確保するため調査区を振り替えながら調査を進める。農道23号ではプレハブ等を撤去し、調査区では重機による埋め戻しや砕石敷き均し作業等、農道の復旧作業を行う。

９月下旬　農道24号Ｅ区で平安時代の遺構に加えて縄文時代の遺物包含層や遺構も検出され始めたことから、調査の主力をここに注ぐこととした。農道24号W区では一部の作業員で遺構確認作業を中心に行い、こちらでも遺構が密に存在することが判明したことから、調査期間を延長することとした。

10月上旬　職員１名が調査を約１週間離れ、その代替要員として職員１名が加わって農道24号Ｅ区で多数検出された土坑群の精査を進める。農道24号W区では、縄文時代前期の捨て場を包含する埋没沢が検出されるとともに、平安時代の竪穴住居跡が数軒重複していることが判明し、こちらも遺構精査を進める。10月４日には空中写真撮影を株式会社シン技術コンサルに委託し、農道24号東西両地区の全景及び遺構群等の空中写真を撮影する。

10月中旬　連日の豪雨によって調査区が幾度も水没するが、水汲みと遺構精査を繰り返し進める。

10月下旬　洗浄した器材等の搬出作業、調査区の埋め戻し作業、砕石を敷き均す農道の復旧作業、プレハブ・鉄板の撤収作業等を行い、予定していた調査を終えた。なお農道の一部では復旧した農道がぬかるんでいたことから、路盤が安定するであろう11月下旬まで鉄板を延長して敷設して車両の通行に支障がないよう配慮した。

11月18日　配水管14号において、発掘調査期間中に調査できなかった農地への進入道路部分が調査できる状態になったとの連絡を受け、発掘調査を行った。すでに検出していた竪穴住居跡の続き部分の精査を行った。

12月　農道24号W区の遺物出土状況図図化業務について、株式会社CUBICへ委託した。同区の土坑から出土した種実について、株式会社パレオ・ラボへ同定と放射性炭素年代測定を委託した。

２　整理・報告書作成作業の経過

平成25年度調査の報告書作成事業は平成26年度に実施することとなり、平成26年４月１日から平成27年３月31日までの期間で行った。下石川平野遺跡は縄文時代と古代の複合遺跡であり、検出遺構の中では古代の竪穴住居跡が多く、出土遺物も古代の土器が多い点等を考慮して、これに応じた整理作業の工程を計画した。報告書の総頁数は､456頁相当を予定とし、この約2/3を古代の遺構 ・遺物の記載にあてることにした。

平成26年度の整理・報告書作成体制は、以下のとおりである。

調査主体　　青森県埋蔵文化財調査センター

所　　長	三上　盛一
次長(総務GM兼務)	高橋　雅人
調査第一ＧＭ	中嶋　友文
文化財保護主幹	神　　康夫(報告書作成担当者)
文化財保護主査	平山　明寿(報告書作成担当者)

平成25年度調査に関する整理・報告書作成作業の経過、業務委託状況等は、以下のとおりである。

〔平成26年度〕

４月上旬　写真類と発掘作業で作成した図面類の整理作業、遺物の洗浄・注記作業を行った。図面類は、必要に応じて図面修正を行い、それをもとに個別遺構図や遺構配置図の作成を開始した。出土遺物は、農道ごと、遺構ごと、グリッドごと、層位ごとに出土遺物の点数と重量の計測を行い、遺物台帳等を作成した。

４月下旬　計測作業の終了後、遺構・グリッド・調査路線ごとに土器類の接合作業を開始した。

６月上旬　島口天主任学芸主査(青森県立郷土館)に地形及び地質について原稿執筆を依頼した。

７月上旬　接合された土器にボンド・石膏を入れて復元し、実測作業等に耐えられるよう補強した。

７月中旬　(株)パレオ・ラボに炭化種実及び炭化材の同定について業務委託した。

８月上旬　柴正敏教授(弘前大学大学院理工学研究科)に火山灰分析について原稿執筆を依頼した。

８月中旬　(株)パレオ・ラボに炭化材等の放射性炭素年代測定について業務委託した。

８月下旬　遺物の検討・分類・整理作業を経て、土器類・石器類とも報告書掲載予定遺物を選定した。選定された遺物には路線ごとの整理番号をナンバリングし、遺物整理一覧表を作成した。遺物整理一覧表に接合状況や図化手順も記載し、整理作業のスムーズ化を図った。

10月上旬　土器類に石膏を入れる復元作業が終了したことから、遺物整理一覧表を基に土器類の実測図作成、断面図作成、拓本取りなど本格的な整理作業に入っていった。

11月中旬　図面修正を終えた遺構図は、報告書の体裁に合わせた図版組み作業に着手した。報告書掲載遺物の写真撮影を始め、土器類は(有)無限に、石器類はフォトショップいなみにそれぞれ業務委託した。

12月中旬　調査成果を総合的に検討して、報告書の原稿作成を開始した。遺物の実測作業を本格化させ、一部の縄文土器と石器の実測図作成業務を(株)ラングに委託した。石器類の石質鑑定は、柴正敏教授(弘前大学大学院理工学研究科)に依頼した。

12月下旬　粗原稿や仮図版、仮写真図版等を作成し、報告書の内容・ページ数を確認し、印刷業者を選定した。

１～２月　実測が終わった遺物は順次トレース作業を行い、印刷用版下を作成していった。原稿、遺構図版、遺物観察表、遺構及び遺物写真図版などの精査を繰り返して、原稿・版下等を完成させ、印刷業者へ入稿し、打合せと校正を進めた。併せて出土遺物や記録類の整理作業にも着手する。

３月26日　平成25年度調査分下石川平野遺跡の発掘調査報告書を刊行した。

３月31日　最後に記録類・出土品の収納と確認を行い、報告書刊行事業をすべて完了した。　（神）

第４節　下石川平野遺跡及び周辺地域の地形と地質

青森県立郷土館　　島口　天　主任学芸主査

１　遺跡周辺地域の地形と地質

下石川平野遺跡は青森市浪岡大字下石川に位置し、津軽山地の南西端部に発達する海成段丘面上に立地する。図４に本地域における段丘の分布を示し、本遺跡の位置を示す。長森ほか（2013）を引用して本地域の地形・地質について述べる。

津軽山地は南北に連なる山地であり、地質構造にみられる四ツ滝ドーム、袴腰岳ドームや馬ノ神山背斜に対応した高度分布をなす。本地域は、中新統から構成される馬ノ神山背斜の南側に当たり、馬ノ神山（549.2m）から山地高度は徐々に低下し、大釈迦付近で標高100 - 200mの丘陵へと連なる。津軽山地を取り囲む丘陵は定高性がある。山地・丘陵と低地との境界には、数段の段丘地形が発達する。低地は岩木川を中心とする津軽平野で、本地域には岩木川の支流である浪岡川や十川が分布する。前田野目川の上流域や大釈迦川は、地質構造と平行して流れる水系である。浪岡周辺は扇状地性の地形面である。

本地域には鮮新統 - 完新統が分布し、鮮新統 - 更新統は下位より磯田山層、八甲田第1期火砕流堆積物、前田野目層、高位段丘堆積物、低位段丘堆積物に区分される。磯田山層は、主に凝灰質砂岩から構成される海成層で、上部では軽石質凝灰角礫岩層をよく挟む上部鮮新統から下部更新統である。八甲田第1期火砕流堆積物は、約76万年前に八甲田カルデラで噴出した火砕流堆積物である。本火砕流堆積物は主に陸上で堆積したが、鶴ヶ坂付近において海域で堆積した相が認められる。前田野目層は砂、粘土、礫からなる、中部及び上部更新統である。本層の大半は陸水成層であるが、最下部において海成層が挟まれる。高位段丘堆積物は最終間氷期最盛期以前に、低位段丘堆積物は最終間氷期に堆積し、段丘面を形成した。活構造としては、大平断層及び浪岡撓曲が認められる。

２　遺跡内における地形と地質

下石川平野遺跡は高位段丘面上に立地し、農道23号の基本層序を記録した地表面の標高は約43m、農道24号で同様の標高は約34mである。この段丘面は、吾妻（1995）のＩｍ面にあたる（吾妻ほか、2013）ことから、島口（2010）で報告した上野遺跡が立地する段丘面と同じ面である。

高位段丘面は、五所川原市野里付近から青森市浪岡付近にかけて津軽平野の東縁に沿って分布する。大平断層は、浪岡付近に分布する高位段丘に西側隆起の低断層崖を形成しており、走向は北北西 - 南南東である。本断層による高位段丘の上下変位量は2 - 10mである。大平断層の西側には、地形面が西へ傾き下がる異常傾斜がみられ、高位段丘面は西に下がり津軽平野下に没している（長森ほか、2013）。

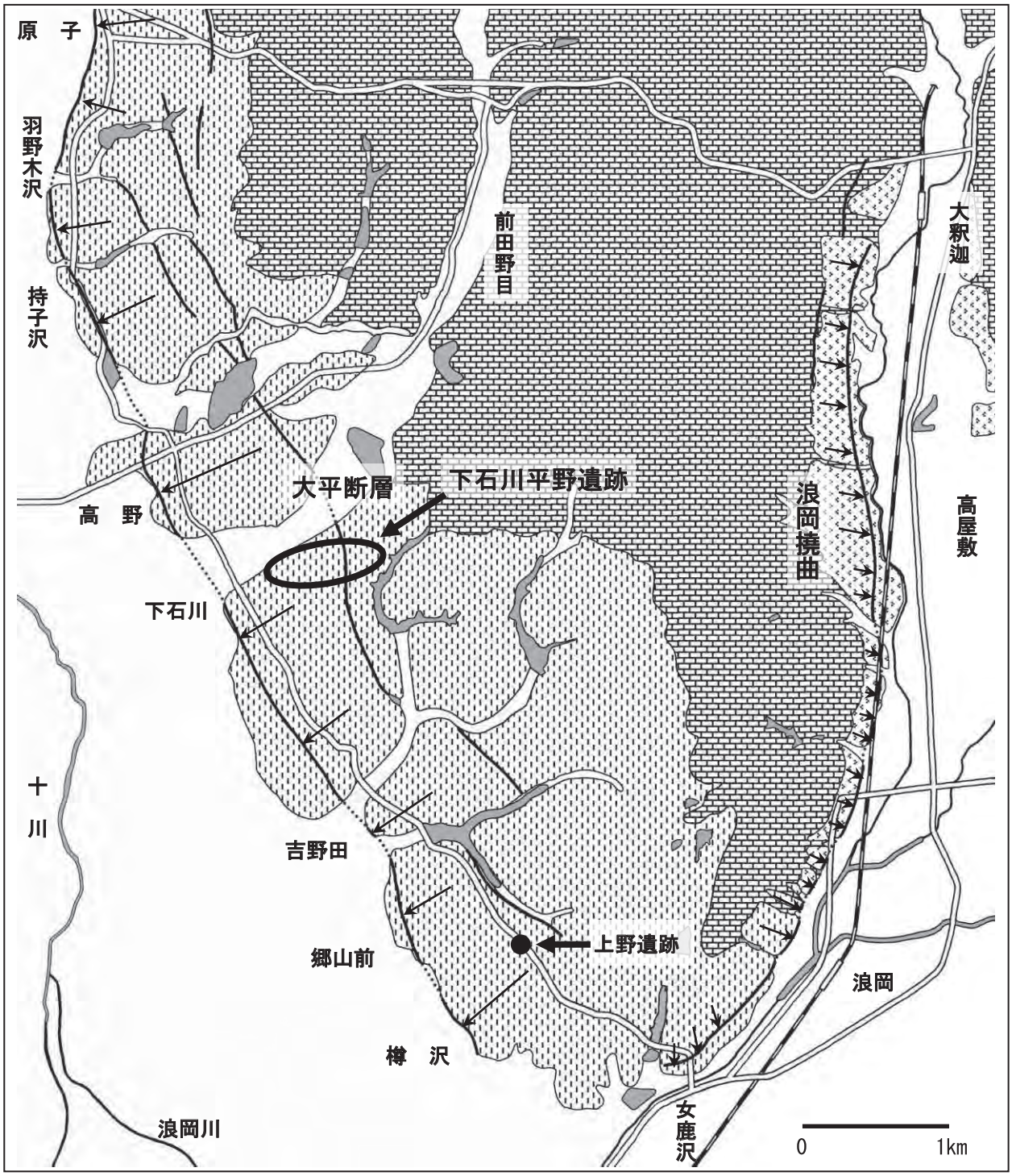
本遺跡内における基本層序の調査では、黒～黒褐色土の下位に黄褐色砂質火山灰や黄橙色砂質ロームが見られ、上野遺跡でこれらに相当する層は十和田八戸テフラの再堆積層と考えられた。よって、この高位段丘の最上部では、堆積場の地形や環境によって岩相や色調に若干の違いがあるものの、黒～黒褐色土の下位に十和田八戸テフラの再堆積層が発達する。

【引用文献】

吾妻　崇(1995)変動地形からみた津軽半島の地形発達史．第四紀研究，34，p.75 - 89.

長森英明 ・宝田晋治 ・吾妻 崇(2013)青森西部地域の地質．地域地質研究報告(5万分の1地質図幅)．産総研地質調査総合センター，67p.

島口 天(2010)上野遺跡の地形と地質．青森県埋蔵文化財調査報告書 第486集 上野遺跡Ⅱ，青森県埋蔵文化財調査センター編，青森県教育委員会，p.8 - 10.



【 凡 例 】

磯田山層・八甲田第１期火砕流堆積物・前田野目層　　高位段丘堆積物

低位段丘堆積物　　断層（点線は伏在部分）　　活撓曲（矢印の長さは変形の範囲）

図４　段丘分布図［長森ほか（2013）を元に作成］

第２章　検出遺構と出土遺物

第１節　配水管12号の検出遺構と出土遺物

配水管12号は長さ約150m、幅約１m、合計140㎡を調査し、ピット（SP）２基と溝跡（SD）１条が検出され、全体に遺構密度が希薄で散発的であった。これらの遺構からは遺物は出土しなかったため、詳細な時期は不明である。出土した遺物は、土器類・石器類各段ボール箱１箱であった。

１　検出遺構

（１）　ピット

表３　配水管12号　ピット計測表

SP番号	図版番号	グリッド	標高（m）	規模（cm）			備考
				長軸	短軸	深さ	
1	6	H12-54	46.2	43	33	84	
2	6	H12-36	43.1	29	25	59	

ピットは２基が検出された。位置等は遺構配置図等に示し、計測値等は表に示した。

（２）　溝跡

第１号溝跡（SD01、図６）

［位置・確認］12－56～57グリッドに位置する。第Ⅴ層で確認したが、調査区壁面での土層観察からは、第Ⅳ層を掘り込んで構築されている。

［平面形・規模・底面］両端とも調査区域外に延びている。調査区内で確認できた長さは1.1mで、直線的な溝である。確認面での幅は概ね0.9m前後、深さは17～21㎝である。断面形は上部が開く皿形をなす。底面の標高は北東端が南西端より３～６㎝標高が低く、南西に向かって傾斜している。

［堆積土］堆積土は黒褐～暗褐色土主体の４層に分層された。明黄褐色土がブロック状に混入することから、人為的に埋め戻されたものとみられる。

［出土遺物・遺構の時期等］遺物は出土しなかったため、詳細な時期は不明である。

２　遺構外の出土遺物

（１）　縄文時代の出土遺物（図７）

縄文土器３点・石器１点を図示した。図７－１～３は縄文土器で、前期中葉～後葉と考えられる。10は有茎平基の石鏃である。

（２）　平安時代の出土遺物（図７）

土師器・須恵器各３点を図示した。４～６は土師器の甕で、４は口縁部、５・６は底部である。６は底部の一部が剥落し、木葉痕の上に粘土を重ねて底部を整形した痕跡が確認される。７～９は須恵器で、７・８は坏の口縁部、９は長頸壺の頸部である。

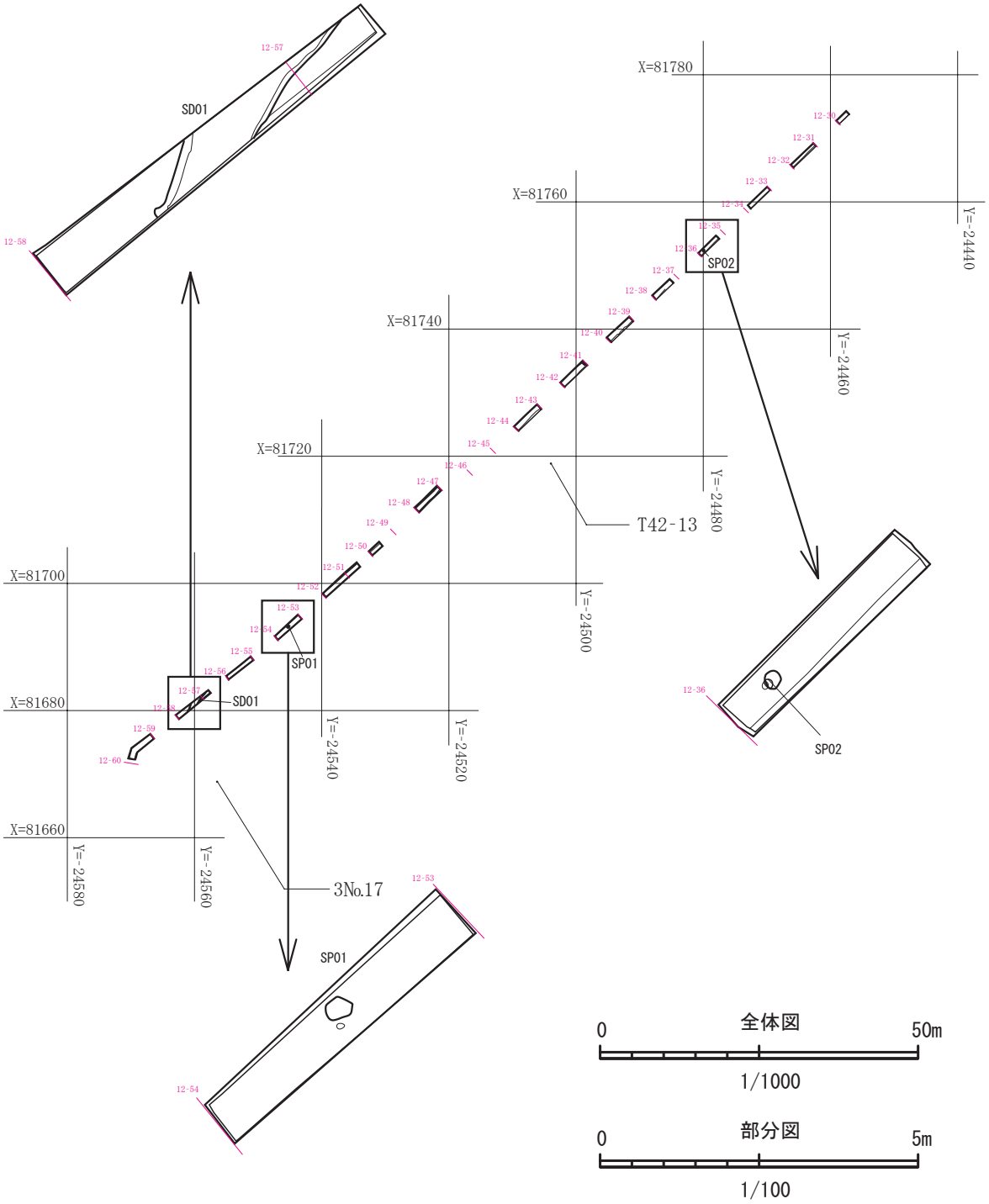
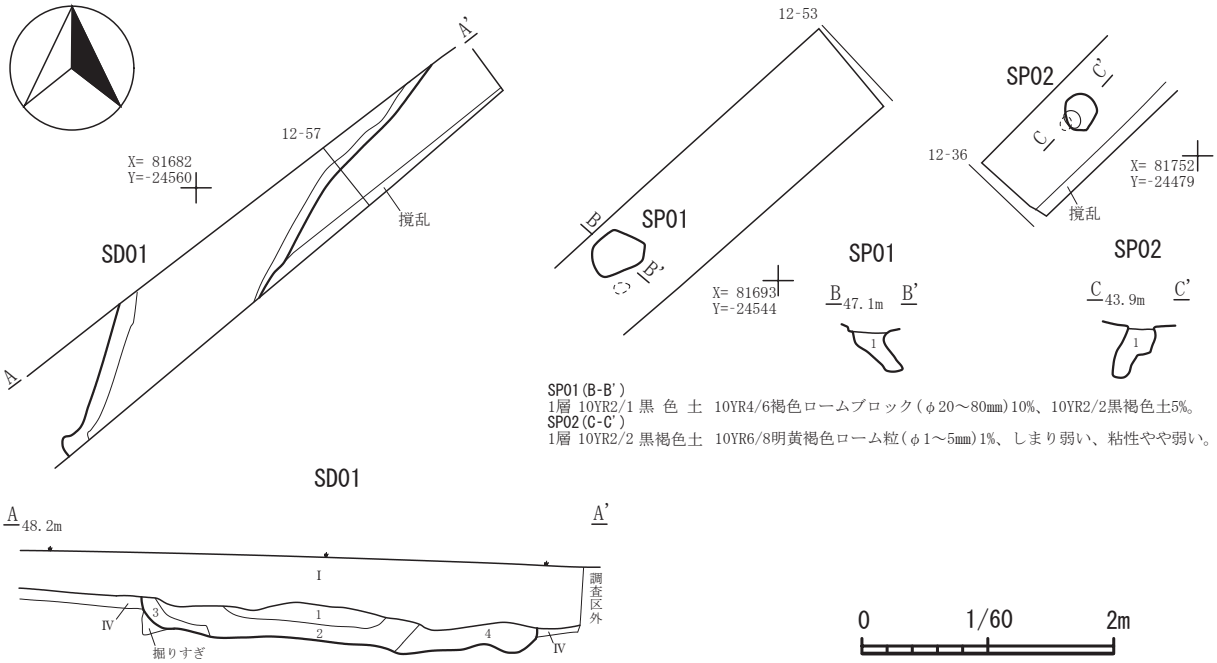


図５　配水管12号　遺構配置図



SP01(B-B')
1層 10YR2/1 黒 色 土 10YR4/6褐色ロームブロック(φ20～80mm)10%、10YR2/2黒褐色土5%。
SP02(C-C')
1層 10YR2/2 黒褐色土 10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1～5mm)1%、しまり弱い、粘性やや弱い。

SD01(A-A')
1層 10YR3/2 黒褐色土 10YR6/8明黄褐色土(φ5～80mm)5%、しまり弱い、粘性やや弱い。
2層 10YR2/3 黒褐色土 10YR6/8明黄褐色土ブロック(φ20～100mm)20%、しまりやや弱い、粘性やや強い。
3層 10YR3/3 暗褐色土 10YR2/3黒褐色土5%、10YR6/8明黄褐色土(φ30～60mm)15%、しまりやや弱い、粘性やや弱い。
4層 10YR3/3 暗褐色土 10YR4/3にぶい黄褐色土5%、10YR2/3黒褐色土3%、10YR6/8明黄褐色土ブロック(φ20～100mm)30%、しまり、粘性やや弱い。

図６　第１号溝跡・ピット

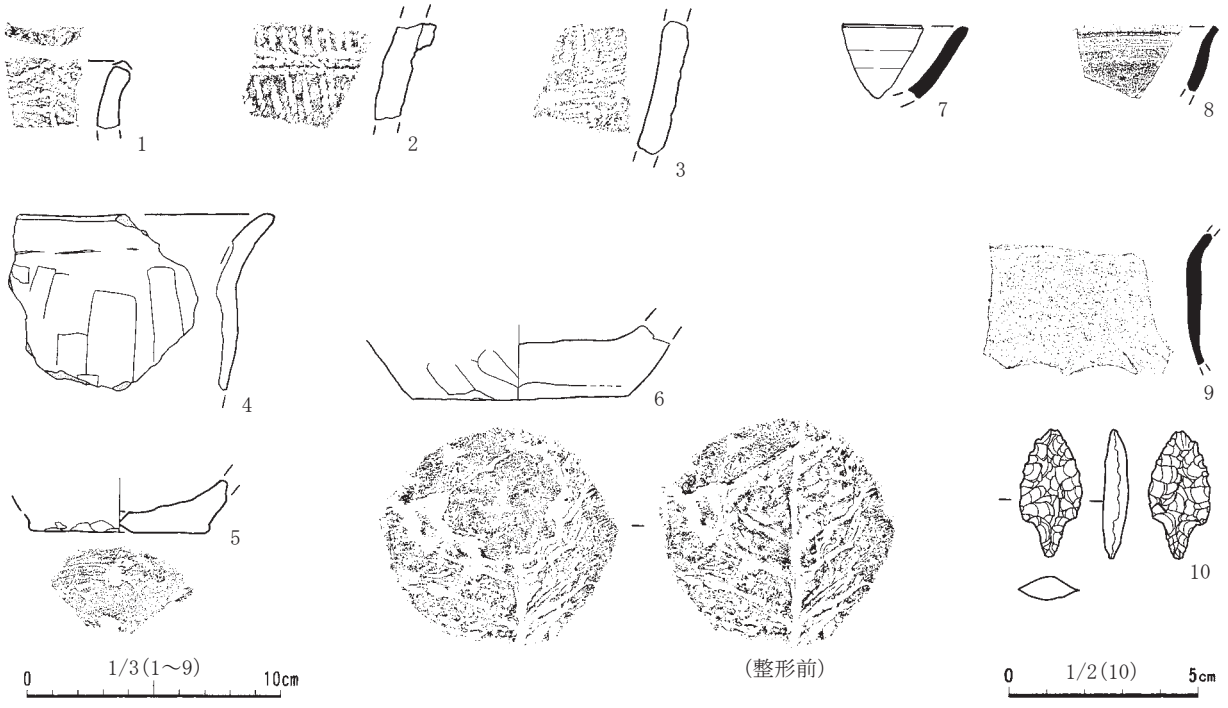


図７　遺構外出土遺物

3　遺物観察表

表４　配水管12号　土器観察表

図番号	遺物番号	遺構名	出土位置・層位等	種類	器種	部位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	外面調整(文様)	内面調整(文様)	備考(底面調整)	時期
7	1	遺構外	H12-60 Ⅰ層	縄文土器	深鉢	口縁部	-	-	-	LR側面圧痕(横位・縦位)、口唇LR刺突		繊維混入。	縄文時代前期後葉?(円筒下層d式?)
7	2	遺構外	H12-52 Ⅰ層	縄文土器	深鉢	胴部	-	-	-	隆帯(横位)、LR側面圧痕(横位)、単軸絡条体1類(LR)縦位		繊維混入。	縄文時代前期中葉(円筒下層b式?)
7	3	遺構外	H12-48 Ⅰ層	縄文土器	深鉢	胴部	-	-	-	結束第1種(RR･LR)		繊維混入。	縄文時代前期中葉～後葉(円筒下層ｂ～ｄ式?)
7	4	遺構外	H12-58 Ⅰ層	土師器	甕	口縁部	-	-	-	ケズリ、横ナデ	横ナデ、黒色物質付着、剥落		平安時代
7	5	遺構外	H12-48 Ⅰ層	土師器	小甕	底部	-	(7.0)	(2.1)	ナデ	ナデ	底外面ヘラ?	平安時代
7	6	遺構外	H12-60 Ⅰ層	土師器	甕	底部	-	8.6	(3.0)	ケズリ	ナデ	底外面木葉痕。	平安時代
7	7	遺構外	H12-51 Ⅰ層	須恵器	坏	口縁部	-	-	-	横ナデ、火だすき	横ナデ	酸化炎焼成。	平安時代
7	8	遺構外	H12-60 Ⅰ層	須恵器	坏	口縁部	-	-	-	横ナデ	横ナデ、火だすき		平安時代
7	9	遺構外	H12-52 Ⅰ層	須恵器	長頸壺	頸部	-	-	-	ロクロ	ロクロ		平安時代

表５　配水管12号　石器観察表

図番号	遺物番号	遺構名	出土位置・層位	器種	分類	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石材	備考
7	10	遺構外	H12-60　Ⅰ層	石鏃	有茎平基	3.4	1.7	0.7	3.0	珪質頁岩	

第２節　配水管13号の検出遺構と出土遺物

配水管13号は長さ約240m、幅約１m、合計240㎡を調査した。検出された遺構とその略称は、下記のとおりである。

竪穴住居跡(SI)	１棟(平安時代)
土坑(SK)	１基(平安時代)
ピット(SP)	１基
溝跡(SD)	３条

溝跡は13－26～29グリッドから検出されたが、その他の遺構の分布は散発的である。配水管13号から出土した遺物は、土器類・石器類各段ボール箱１箱であった。

１　検出遺構

（１）　竪穴住居跡

第１号竪穴住居跡(SI01、図９・11)

［位置・確認］調査区西側、13－48・49グリッドに位置する。確認面の標高は44.3～45.1mである。第Ⅴ層で確認したが、調査区壁面での土層観察では第Ⅳ層を掘り込んで構築されている。

［平面形・規模］住居北西半と南西隅が調査区域外にあるが、平面形は方形と推定される。壁長及び確認面から床面までの深さは、南西壁(1.61)m・深さ38～57㎝、南東壁(1.39)m・深さ34～42㎝を測る。いずれの壁も垂直に近い立ち上がりをみせている。住居の軸方向はN－38°－Wである。

［床面・壁溝］床面は貼り床によって平坦に整えられているが、地山をそのまま床面としている部分もある。壁溝は幅16～34㎝、深さ34～57㎝で、周溝内からピットが３基検出された。

［カマド］調査区内から検出されなかったものの、カマドの廃棄粘土と思われる粘土の散布状況から、東壁の調査区外南東側に存在が推定される。

［その他の施設］調査区内から検出されなかった。

［堆積土］黒色土主体で６層に分層された。６層は貼り床埋土である。黄褐色土が混入することから人為的に埋め戻されたと考えられる。３層には焼土粒が混入する。

［出土遺物］土師器甕(図11－１)、須恵器坏(２)・甕(３・４)、凹石(５)を図示した。

［小結］出土遺物等から、９世紀後半～10世紀初頭頃に廃絶されたものと思われる。

（２）　土坑

第１号土坑(SK01、図10・11)

［位置・確認］13－14グリッドに位置し、北半が調査区外に存在する。第Ⅴ層で確認したが、調査区壁面での土層観察では第Ⅳ層を掘り込んで構築されている。

［平面形・規模］確認できる規模は長軸141cm、短軸83cmのほぼ円形を呈し、確認面からの深さは48㎝である。断面形はコ字状をなしている。

［堆積土］黒色土～黒褐色土主体で、明黄褐色土が混入することから人為的に埋め戻されている。

［出土遺物・遺構の時期等］土師器坏(図11－６)・甕(７・８)、縄文前期の深鉢(９)を図示した。堆

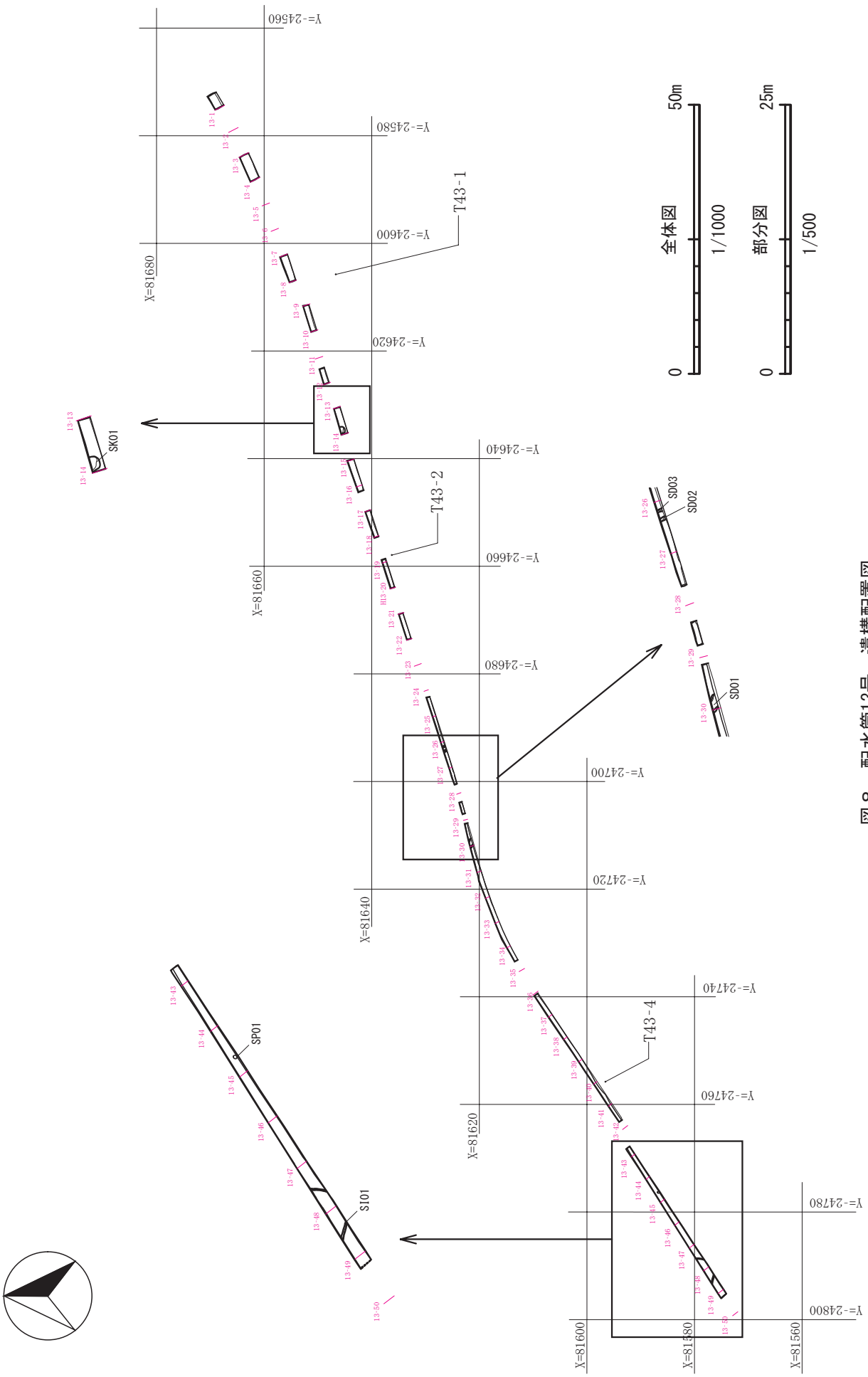
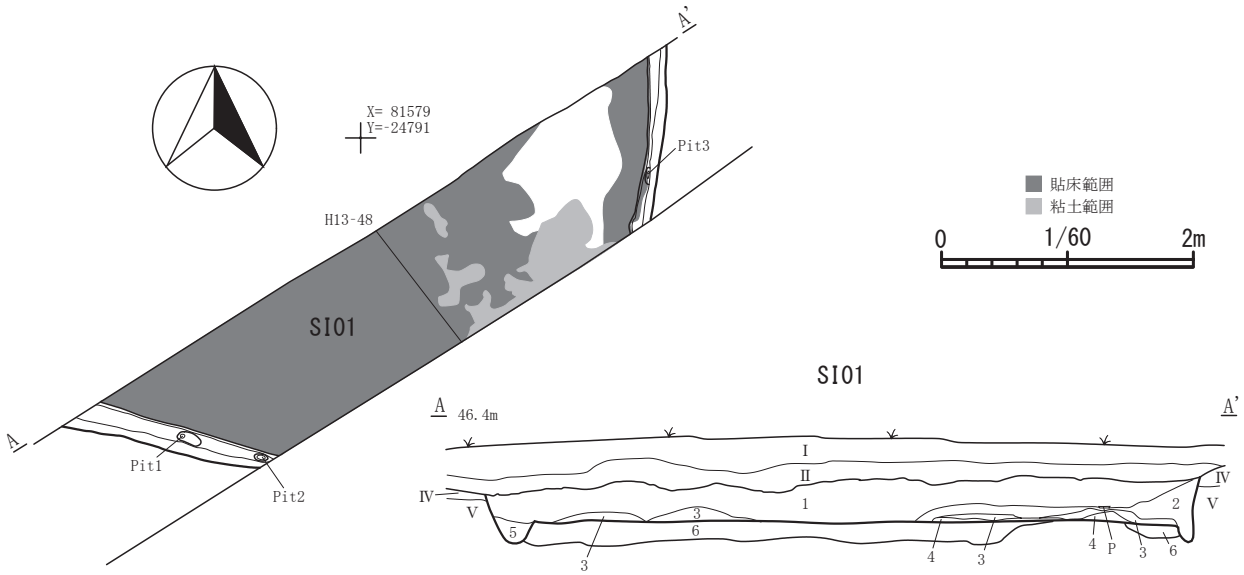


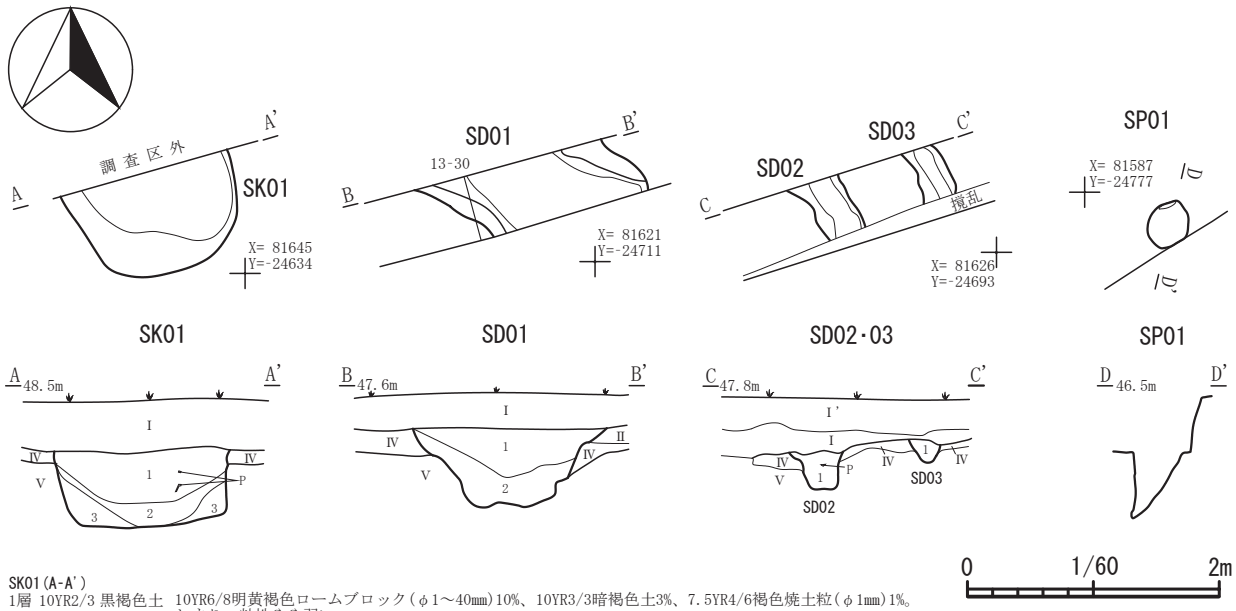
図８　配水管13号　遺構配置図



SI01(A-A')
1層 10YR2/1 黒 色 土　10YR3/3暗褐色土10%、10YR5/8黄褐色ローム粒(φ1～70mm)10%が点在し、10YR5/6黄褐色土(φ1～200mm)2%が下部に帯状に堆積している。
2層 10YR2/1 黒 色 土　10YR5/8黄褐色ローム粒(φ1～20mm)2%。
3層 10YR5/6 黄褐色土　10YR4/4褐色土10%、10YR2/1黒色土2%、5YR4/8赤褐色焼土粒(φ10mm)2%。
4層 10YR2/1 黒 色 土　10YR5/8黄褐色土(φ1～30mm)2%。
5層 10YR2/1 黒 色 土　10YR5/6黄褐色土10%、10YR5/8黄褐色ローム粒(φ1～20mm)2%。
6層 10YR2/1 黒 色 土　貼り床。10YR5/8黄褐色ロームブロック(φ10～200mm)40%、10YR3/3暗褐色土2%。

SI01遺物出土状況

図９　第１号竪穴住居跡



SK01(A-A')
1層 10YR2/3 黒褐色土　10YR6/8明黄褐色ロームブロック(φ1～40mm)10%、10YR3/3暗褐色土3%、7.5YR4/6褐色焼土粒(φ1mm)1%。
しまり、粘性やや弱い。
2層 10YR2/2 黒褐色土　10YR8/6明黄褐色ローム粒(φ1～5mm)3%。
しまりやや弱い、粘性やや強い。
3層 10YR2/1 黒 色 土　10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1～50mm)7%、7.5YR4/6褐色焼土粒(φ1mm)1%。
しまりやや弱い、粘性やや強い。
SD01(B-B')
1層 10YR2/1 黒 色 土　10YR7/8黄橙色ロームブロック(φ10～20mm)3%、7.5YR5/8明褐色焼土粒(φ1mm)1%。
しまり強い、粘性やや弱い。
2層 10YR2/2 黒褐色土　10YR7/8黄橙色ロームブロック(φ20～50mm)20%、10YR8/6黄橙色粘土5%。
SD02(C-C')
1層 10YR2/2 黒褐色土　10YR8/6黄橙色ローム粒(φ3～7mm)3%、7.5YR3/4暗褐色焼土粒(φ1mm)1%。
しまり弱い、粘性やや弱い。
SD03(C-C')
1層 10YR2/1 黒 色 土　10YR3/3暗褐色土3%、10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1～5mm)1%。
しまり弱い、粘性やや弱い。
SP01(D-D')
1層 10YR2/1 黒 色 土　10YR4/6褐色土3%、10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1～20mm)2%。

図10　第１号土坑・第１・２・３号溝跡・ピット

積土の様相や出土遺物から平安期の遺構と考えられるが、その用途は不明である。

（３）　ピット

ピットは１基検出された。位置等は遺構配置図等に示し、計測値等は表に示した。

表６　配水管13号　ピット計測表

SP番号	図版番号	グリッド	標高(m)	規模(cm)			備考
				長軸	短軸	深さ	
1	10	H13-44	45.4	40	31	53	

（４）　溝跡

３条の溝跡が検出された。13－27～31グリッドにまとまっており、かつ、北西～南東方向に延びる。

第１号溝跡(SD01、図10・11)

［位置 ・確認］13－30・31グリッドに位置する。第Ⅴ層で確認したが、調査区壁面での土層観察では第Ⅱ層を掘り込んで構築されている。

［平面形・規模・底面］両端とも調査区域外に延びている。調査区内で確認できた長さは0.5mで、直線的な溝である。確認面での幅は1.4m前後、深さは38～41cmである。壁は底面から外反して立ち上がり、断面形は上部が開く逆台形状に近い。南東側に向かって傾斜している。

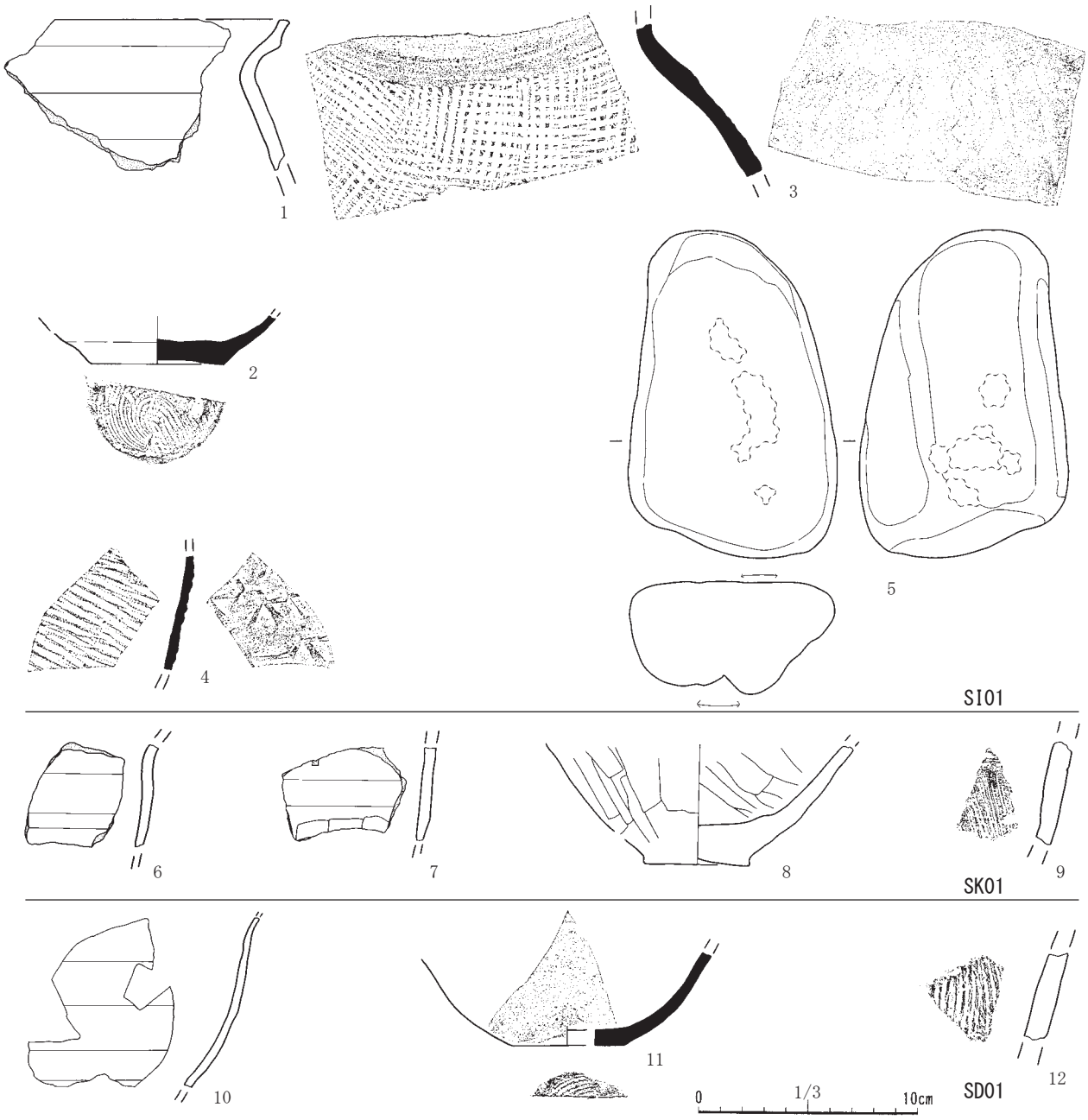


図11　遺構内出土遺物

［堆積土］堆積土は黒色土～黒褐色土主主体の２層に分層された。全体に黄褐色土が混入するが、特に２層中に多く混入しており、人為的に埋め戻されたものとみられる。
［出土遺物 ・遺構の時期等］土師器坏（図11－10）・須恵器坏（11）および縄文時代前期の深鉢（12）を図示した。堆積土の様相や出土遺物から平安時代もしくはそれ以降の遺構と考えられる。

第２号溝跡（SD02、図10）
［位置 ・確認］13－27グリッドに位置する。第Ⅴ層で確認したが、調査区壁面での土層観察では第Ⅳ層を掘り込んで構築されている。
［平面形・規模・底面］両端とも調査区域外に延びている。調査区内で確認できた長さは0.5ｍで、直線的な溝である。確認面での幅は約0.4ｍで、深さは18～23㎝である。壁は底面から垂直気味に立ち上がり、断面形はＵ字状である。底面は北西端と南東端で比高差がほとんどなく水平である。
［堆積土］黒褐色土主体の単層で、しまりは弱い。黄褐色土が混入することから人為堆積とみられる。
［出土遺物 ・遺構の時期等］遺物は出土しなかった。堆積土の様相から平安時代もしくはそれ以降の遺構と考えられる。

第３号溝跡（SD03、図10）
［位置 ・確認］13－27グリッドに位置する。第Ⅴ層で確認したが、調査区壁面での土層観察では第Ⅳ層を掘り込んで構築されている。
［平面形・規模・底面］両端とも調査区域外に延びている。調査区内で確認できた長さは0.4ｍで、直線的な溝である。確認面での幅は0.3ｍ前後で、深さは12㎝である。壁は底面から直線的に外反して立ち上がり、Ｖ字状の断面形状をなす。底面は北西端が南東端より5㎝標高が低く、北西端へ傾斜して構築されている。
［堆積土］黒褐色土主体の単層で、しまりは弱い。黄褐色土が混入することから人為堆積とみられる。
［出土遺物 ・遺構の時期等］小片のため遺物は図示しなかった。堆積土の様相や出土遺物から平安時代もしくはそれ以降の遺構と考えられる。

２　遺構外の出土遺物

（１）　縄文時代の出土遺物（図12）

縄文土器12点・石器３点を図示した。図12－13～24は縄文土器で、13は縄文時代前期前葉、14～22は縄文時代前期中葉～後葉、23は縄文時代中期前葉、24は縄文時代後期前葉の土器と考えられる。38～40は石器で、38は石篦、39・40は削掻器である。

（２）　平安時代の出土遺物（図12）

土師器・須恵器計13点を図示した。25～29は土師器で、25・26は坏、27～29は甕である。30～37は須恵器で、30～32は坏、33・34は長頸壺、35～37は甕である。

13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
焼土付着
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
0 1/2(38～40) 5cm
0 1/3(13～37) 10cm

図12　遺構外出土遺物

3　遺物観察表

表７　配水管13号　土器観察表

図番号	遺物番号	遺構名	出土位置・層位等	種類	器種	部位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	外面調整(文様)	内面調整(文様)	備考(底面調整)	時期
11	1	SI01	H13-48 床面 P1	土師器	甕	口縁部	-	-	-	ロクロ、横ナデ	ロクロ、横ナデ		平安時代
11	2	SI01	H13-48 1層 P9	須恵器	坏	底部	-	6.0	(2.2)	ロクロ	ロクロ、火だすき	底外面回転糸切。	平安時代
11	3	SI01	H13-48 床面 P19	須恵器	甕	肩部	-	-	-	タタキ	あて具痕		平安時代
11	4	SI01	H13-49 1層	須恵器	甕	胴部	-	-	-	タタキ	あて具痕(千鳥足状)		平安時代
11	6	SK01	H13-14 1層	土師器	坏	胴部	-	-	-	ロクロ	ロクロ		平安時代
11	7	SK01	H13-14 1層	土師器	小甕	胴部	-	-	-	ロクロ、ケズリ	ロクロ		平安時代
11	8	SK01	H13-14 1層	土師器	甕	底部	-	(4.8)	(5.5)	ケズリ	ナデ	底外面ケズリ。	平安時代
11	9	SK01	H13-14 2層	縄文土器	深鉢	胴部	-	-	-	沈線(縦位)?、刺突(篦状工具)		繊維混入。	縄文時代前期後葉?(円筒下層d式?)
11	10	SD01	H13-31 1層、H13-30 1層	土師器	坏	胴部	-	-	-	ロクロ	ロクロ		平安時代
11	11	SD01	H13-30 覆土	須恵器	坏	胴部～底部	-	(5.0)	(4.2)	ロクロ、火だすき	ロクロ	底外面回転糸切。	平安時代
11	12	SD01	H13-30 覆土	縄文土器	深鉢	胴部	-	-	-	単軸絡条体1類(R)縦走		繊維混入。	縄文時代前期後葉?(円筒下層d式?)
12	13	遺構外	H13-14 撹乱	縄文土器	深鉢	頸部	-	-	-	刺突(竹管)、単軸絡条体1類(LR)縦位?		繊維混入。	縄文時代前期前葉
12	14	遺構外	H13-48 Ⅰ層	縄文土器	深鉢	口縁部	-	-	-	LRL側面圧痕(横位)、LR(横位・縦位)、単軸絡条体第1類(R)縦走		繊維混入。	縄文時代前期後葉(円筒下層d式)
12	15	遺構外	H13-28 Ⅰ層	縄文土器	深鉢	胴部	-	-	-	側面圧痕(横位)、結束 第1種(LR･R?)、RL(縦走)		繊維混入。	縄文時代前期後葉(円筒下層d式)
12	16	遺構外	H13-27 Ⅰ層	縄文土器	深鉢	口縁部	-	-	-	口唇刺突(篦状工具)、単軸絡条体第1類側面圧痕(斜位)			縄文時代前期後葉
12	17	遺構外	H13-49 Ⅰ層	縄文土器	深鉢	口縁部	-	-	-	L側面圧痕(横位)、L縦位?			縄文時代前期中葉～後葉
12	18	遺構外	H13-14 撹乱	縄文土器	深鉢	胴部	-	-	-	RL(縦走)		繊維混入。	縄文時代前期
12	19	遺構外	表採	縄文土器	深鉢	胴部	-	-	-	LR(縦走)		繊維混入。	縄文時代前期
12	20	遺構外	H13-18 Ⅰ層	縄文土器	深鉢	胴部	-	-	-	多軸絡条体(L)縦位		繊維混入。	縄文時代前期後半(円筒下層c～d式)
12	21	遺構外	H13-42 Ⅰ層	縄文土器	深鉢	胴部	-	-	-	多軸絡条体(L)縦位			縄文時代前期後葉(円筒下層c～d式)
12	22	遺構外	H13-24 Ⅰ層	縄文土器	深鉢	胴部	-	-	-	単軸絡条体第1A類(R･L)縦位		繊維混入。	縄文時代前期後葉(円筒下層d式)
12	23	遺構外	H13-13 Ⅰ層	縄文土器	深鉢	口縁部	-	-	-	単軸絡条体第1類(R)縦位、LR			縄文時代中期前葉(円筒上層式?)
12	24	遺構外	H13-14 Ⅰ層	縄文土器	壺	胴部	-	-	-	沈線、RL、磨消			縄文時代後期前葉
12	25	遺構外	H13-08 Ⅰ層	須恵器	坏	口縁部	(13.8)	-	(5.5)	ロクロ	ロクロ		平安時代
12	26	遺構外	H13-25 Ⅰ層	土師器	坏	口縁部～胴部	-	-	-	ロクロ	ロクロ		平安時代
12	27	遺構外	H13-22 Ⅰ層	土師器	甕	口縁部	-	-	-	ケズリ、横ナデ、焼土付着	ハケメ、横ナデ		平安時代
12	28	遺構外	H13-33 Ⅰ層	土師器	甕	口縁部～胴部	(20.0)	-	(11.2)	ケズリ、横ナデ	ハケメ、横ナデ		平安時代
12	29	遺構外	H13-49 Ⅰ層	土師器	小甕	底部	-	5.0	(1.6)	ロクロ	ロクロ	底外面回転糸切。	平安時代
12	30	遺構外	H13-10 Ⅰ層	須恵器	坏	口縁部	-	-	-	ロクロ、火だすき	ロクロ、火だすき		平安時代
12	31	遺構外	H13-48 Ⅰ層	須恵器	坏	口縁部	-	-	-	ロクロ	ロクロ		平安時代
12	32	遺構外	H13-14 撹乱	須恵器	坏	底部	-	(5.0)	(1.7)	ロクロ、火だすき	ロクロ	底外面回転糸切。	平安時代
12	33	遺構外	H13-42 Ⅰ層	須恵器	長頸壺	口縁部	-	-	-	ロクロ	ロクロ		平安時代
12	34	遺構外	H13-08 Ⅰ層	須恵器	長頸壺	頸部	-	-	-	ロクロ	ロクロ		平安時代
12	35	遺構外	H13-23 Ⅰ層	須恵器	甕	胴部	-	-	-	タタキ	あて具痕		平安時代
12	36	遺構外	H13-22 Ⅰ層	須恵器	甕	胴部	-	-	-	タタキ	あて具痕、ナデ		平安時代
12	37	遺構外	H13-49 Ⅰ層	須恵器	甕	胴部	-	-	-	タタキ	あて具痕(千鳥足状)		平安時代

表８　配水管13号　石器観察表

図番号	遺物番号	遺構名	出土位置・層位	器種	分類	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石材	備考
11	5	H13SI-01	H13-48　覆土	凹石		15.1	9.6	5.2	938.6	凝灰岩	
12	38	遺構外	H13-47　Ⅰ層	石篦		4.3	2.8	1.4	16.5	珪質頁岩	
12	39	遺構外	最終部トレンチ　Ⅰ層	削掻器	4側縁	6.3	2.8	1.2	17.2	珪質頁岩	
12	40	遺構外	H13-43　カクラン	削掻器	3側縁	5.2	4.7	1.2	29.0	珪質頁岩	

第３節　配水管14号の検出遺構と出土遺物

配水管14号は長さ約230m、幅約0.5m、合計170㎡を調査した。検出された遺構とその略称は、下記のとおりである。

竪穴住居跡(SI)　９棟(縄文時代：SI８、平安時代：SI１～７・９)※SI10はESI07と同一
土坑(SK)　13基(平安時代)
ピット(SP)　２基
溝跡(SD)　５条　※SD６はESD10と同一

遺構の多くは調査区南西側と北東側周辺から検出された。遺物は、段ボール箱で土器類５箱、石器類１箱出土した。

１　検出遺構

（１）　竪穴住居跡

第１号竪穴住居跡(SI01、図23・24)

[位置・確認] 14－42・43グリッドに位置し、第Ⅴ層で確認した。

[平面形・規模] 最大長で3.8m程が検出された。平面形は方形～長方形と推定される。半分以上は調査区域外にある。確認面から床面の深さは22～33cmを測り、壁はほぼ直立気味に立ち上がる。住居の長軸方向はＮ－50°－Ｅと推定される。

[床面・壁溝] 床面の一部は貼り床が施されている。壁溝は確認されなかった。

[柱穴・カマド] 調査範囲内では検出されなかった。

[堆積土] ２層に分層された。２層は掘り方埋土である。住居堆積土は暗色土主体で、黄褐色土が混入することから人為堆積と考えられる。床面付近から火山灰が検出されており、理化学的分析の結果、白頭山苫小牧テフラガラスと十和田ａテフラのガラスが混合していると推定された(第３章第１節参照)。

[出土遺物] 土師器甕(図24－１)、須恵器坏(２)・甕(３)を図示した。

[遺構の時期等] 平安時代の十和田ａテフラ降下(10世紀初頭)以前に廃絶されたものと思われる。

第２号竪穴住居跡(SI02、図23・24)

[位置・確認] 14－41～42グリッドに位置する。第Ⅴ層で確認したが、調査区壁面での土層観察では第Ⅳ層を掘り込んで構築されている。

[平面形・規模] 最大長で5.6m程が検出された。確認面から床面の深さは10～48cmを測り、壁はやや開きながら立ち上がる。南西壁の長軸方向はＮ－45°－Ｅと推定される。

[床面・壁溝] 床面は貼り床が施され、南西方向に傾斜がみられる。壁溝は検出されなかった。

[柱穴・カマド] 調査範囲内では検出されなかった。

[土坑] 貼り床下から土坑が1基検出された。長軸94cm、短軸(60)cmの歪な円形を呈すると思われ、深さは27cmである。

[堆積土] 黒色土～黒褐色土主体で11層に分層された。９～10は貼り床で、11層は掘り方埋土である。

黄褐色土～明黄褐色土が混入することから、人為堆積と考えられる。
［出土遺物］土師器甕（図24－４）１点を図示した。
［遺構の時期等］出土遺物や堆積土の様相等から、平安時代と推定されるが、詳細な時期は不明である。

第３号竪穴住居跡（SI03、図19）
［位置・確認］14－11グリッドに位置する。第Ⅴ層で確認したが、調査区壁面での土層観察では第Ⅳ層を掘り込んで構築されている。
［平面形・規模］そのほとんどが調査区域外にあるため詳細は不明であるが、検出された範囲では約2.6ｍを測る。確認面から床面の深さは23～32cmで、壁はほぼ直立に立ち上がる。住居の長軸方向は、南西壁でＮ－55°－Ｅと推定される。
［床面・壁溝］床面はほぼ平坦である。壁溝は検出されなかった。
［柱穴］柱穴は南西壁際から径約30cm・深さ58cmのものが１基検出された。
［カマド］調査範囲内では検出されなかった。
［堆積土］黒褐色土の単層である。黄褐色土粒が混入することから、人為堆積と考えられる。
［出土遺物］細片のため遺物は図示しなかった。
［遺構の時期等］堆積土の様相から、平安時代と推定されるが、詳細な時期は不明である。

第４号竪穴住居跡（SI04、図18・24）
［位置・確認］14－9～10グリッドに位置する。第Ⅳ層で確認した。第Ⅱ層を掘り込み壁面としているため、堆積土と壁面の判別ができず、遺物やカマドの検出等により床面で住居跡と確認した。
［平面形・規模］住居南東隅の一部のみが検出されただけであるが、平面形は方形～長方形と推定される。土層断面では、残存高は約30cmを測る。壁は床面から直線的に外反する逆台形状の断面形状をなすものと推測される。
［床面・壁溝］確認された範囲のほぼ全面において貼り床が施されている。壁溝は検出されなかった。
［柱穴］柱穴は貼り床下から１基検出された（Pit１）。
［カマド］１基検出された。燃焼部は粘土で構築される。煙出し部や煙道部は確認できなかったため、煙道の形状は不明である。火床面は14×３cm・深さ５cmの範囲で確認された。土師器坏（図24－５）が火床面直上から倒立状態で出土しており、支脚に転用されていたものと推定される。
［その他の施設］カマド脇から径約20cmの灰白色粘土塊が出土した。土器材料の可能性がある。
［堆積土］黒色土～黒褐色土主体で13層に分層された。５・６層はカマド袖、８～13層は掘り方埋土で、８～10層は火床面である。黄褐色土～にぶい黄褐色土・焼土粒が混入し、人為堆積と考えられる。
［出土遺物］土師器坏（５・６）・甕（７～９）・小坏（12）、須恵器長頸壺（10）・甕（11）、縄文土器（13）を図示した。
［遺構の時期等］出土遺物、堆積土の様相などから、９世紀後半代～10世紀初頭の時期が想定される。

第５号竪穴住居跡(SI05、図17)

[位置・確認] 14－７～８グリッドに位置する。SK09と重複しており、本住居跡が古い。

[平面形 ・規模] そのほとんどが調査区域外にあるため詳細は不明である。壁長及び確認面から床面までの深さは、北東壁で(0.8)ｍ ・深さ13cmを測る。壁はやや開きながら立ち上がる皿状の断面形状をなす。

[床面・壁溝] 貼り床は一部で､ほとんどが地山をそのまま床面としている。壁溝は検出されなかった。

[柱穴・カマド] 調査範囲内では検出されなかった。

[堆積土] ３層に分層された。３層は掘り方埋土である。にぶい黄褐色土や焼土粒が混入することから人為的に埋め戻されたものと考えられる。

[出土遺物] 細片のため遺物は図示しなかった。

[遺構の時期等] 堆積土の様相から、平安時代と推定されるが、詳細な時期は不明である。

第６号竪穴住居跡(SI06、図16)

[位置・確認] 14－5～7グリッドに位置し、SI07と重複すると推定されるが、新旧関係は不明である。

[平面形 ・規模] 住居のほとんどが調査区域外にあり、詳細は不明である。壁長及び確認面から床面までの深さは、南西壁で(0.7)ｍ・深さ(８)cmを測る。壁は垂直に近い立ち上がりをみせている。

[床面・壁溝] 床面は地山をそのまま床面とし、ほぼ平坦である。壁溝は検出されなかった。

[柱穴・カマド] 調査範囲内では検出されなかった。

[堆積土] 暗褐色土主体の単層である。明黄褐色土が混入することから人為的に埋め戻されたと考えられる。なお、第７号竪穴住居跡とは混入物の粒径と混入率が若干異なる。

[出土遺物]細片のため遺物は図示しなかった。

[遺構の時期等] 堆積土の様相から平安時代と推定されるが、詳細な時期は不明である。

第７号竪穴住居跡(SI07、図16・24)

[位置・確認] 14－４～５グリッドに位置し、SI06と重複しているが新旧関係は不明である。

[平面形 ・規模] 住居のほとんどが調査区域外にあり、詳細は不明である。壁長及び確認面から床面までの深さは、北東壁(1.2)ｍ・深さ29cmを測る。壁も垂直に近い立ち上がりをみせている。

[床面・壁溝] 床面は地山をそのまま床面とし、ほぼ平坦である。壁溝は検出されなかった。

[柱穴・カマド] 調査範囲内では検出されなかった。

[堆積土] 暗褐色土主体の単層である。明黄褐色土が混入することから人為的に埋め戻されたと考えられる。なお、前述のように第６号竪穴住居跡とは混入物の粒径と混入率が若干異なる。

[出土遺物] 縄文土器１点(図24－14)を図示した。

[遺構の時期等] 堆積土の様相から、平安時代と推定されるが、詳細な時期は不明である。

第８号竪穴住居跡(SI08、図15・25・26)

[位置 ・確認] 14－3～4グリッドに位置する。第Ⅴ層で確認したが、調査区壁面での土層観察では第Ⅳ層を掘り込んで構築されている。

［平面形 ・規模］平面形は直径約7.2mのほぼ円形をなすものと推定されるが、ほとんどは調査区域外にある。確認面から床面の深さは22～35cmを測り、ほぼ垂直に立ち上がる。
［床面・壁溝］床面は地山を床面としており、若干北東側に傾斜している。壁溝は検出されなかった。
［柱穴］本住居跡に帰属すると思われる柱穴は２基（Pit１ ・２）で、Pit１周辺には粘土が貼り付けられていた。
［炉］調査範囲内では検出されなかったが、前述のPit１が、火床面が形成されなかった地床炉か、炉体を抜き取った後の埋甕炉とも考えられる。
［その他の施設］調査範囲内では検出されなかった。
［堆積土］暗褐色土～褐色土主体で３層に分層された。明黄褐色土が混入することから人為的に埋め戻されたものと考えられる。
［出土遺物］縄文土器は深鉢（図25－15～18・図26－19～21）を図示した。
［遺構の時期等］出土遺物から縄文時代前期中葉～後葉の竪穴住居跡と思われる。

第９号竪穴住居跡（SI09、図14）
［位置・確認］14－１～２グリッドに位置する。SK12・SD 06と重複し，それらより古い。
［平面形 ・規模］住居のほとんどが調査区域外にあり、詳細は不明である。確認面から床面の深さは10～14cmを測り、壁はほぼ垂直に立ち上がる。
［床面・壁溝］床面は地山をそのまま床面としている。壁溝は検出されなかった。
［柱穴］本住居跡に帰属すると思われる柱穴は１基検出された（Pit１）。
［堆積土］褐色土主体の単層である。明黄褐色土が混入することから、人為堆積と考えられる。
［出土遺物］細片のため遺物は図示しなかった。
［遺構の時期等］ 堆積土の様相から、平安時代と推定されるが、詳細な時期は不明である。

第10号竪穴住居跡（SI10、SK13・14、ESI07、図55・81）
［位置 ・確認］調査区北東端の14－０グリッドに位置する。農道24号調査区南東端のESI07と同一の遺構であるため、第５節で報告する。

（２） 土坑
第１号土坑（SK01、図22・26）
［位置 ・確認］14－39～40グリッドに位置する。第Ⅴ層で確認したが、調査区壁面での土層観察では第Ⅳ層を掘り込んで構築されている。
［平面形 ・規模］確認できる規模は長軸143cm・短軸（50）cm、確認面からの深さは32cmである。平面形は楕円形を呈していたと思わる。断面形は皿状をなしている。
［堆積土］暗褐色土主体で２層に分層された。ローム粒を混入することから人為堆積と推定される。
［出土遺物 ・遺構の時期等］土師器甕１点（図26－22）を図示した。堆積土の様相や出土遺物から、平安時代と推定されるが、詳細な時期は不明である。

第２号土坑（SK02、図22・26）

［位置 ・確認］14－38グリッドに位置する。第Ⅴ層で確認したが、調査区壁面での土層観察では第Ⅳ層を掘り込んで構築されている。

［平面形 ・規模］確認できる規模は長軸168cm、短軸72cm、確認面からの深さは26cmで、平面形は楕円形と推測される。底面は掘り方に土層を充填し平坦に仕上げている。断面形は箱状をなしている。底面の北東側からは土坑状の凹み（SK02内土坑）が確認された。

［堆積土］黒褐色土主体で４層に分層された。４層は掘り方埋土である。堆積土中にローム粒を混入することから人為堆積と推定される。確認面で火山灰が検出されており、理化学的分析の結果、十和田ａテフラガラスと十和田八戸テフラガラスが混合していると推定された（第３章第１節参照）。

［出土遺物 ・遺構の時期等］土師器坏（図26－23）・甕（24）、須恵器甕（25・26）を図示した。火山灰の堆積や出土遺物から、９世紀後半代～10世紀初頭の時期が想定されるが、その用途は不明である。

第３号土坑（SK03、図22・26）

［位置 ・確認］14－38グリッドに位置する。第Ⅴ層で確認したが、調査区壁面での土層観察では第Ⅳ層を掘り込んで構築されている。

［平面形 ・規模］確認できる規模は長軸115cm、短軸71cm、確認面からの深さは58cmで、平面形は円形と推測される。底面中央が凹む鍋底状の断面形をなす。

［堆積土］黒褐色土主体で、ローム粒や焼土粒が混入することから人為堆積と考えられる。

［出土遺物 ・遺構の時期等］土師器坏（図26－27）を図示した。また、堆積土中位から炭化物が出土している。堆積土の様相や出土遺物から、平安時代と推定されるが、詳細な時期は不明である。

第４号土坑（SK04、図22・26）

［位置 ・確認］14－37～38グリッドに位置する。第Ⅴ層で確認したが、調査区壁面での土層観察では第Ⅳ層を掘り込んで構築されている。

［平面形 ・規模］確認できる規模は長軸109cm、短軸42cm、確認面からの深さは40cmで、平面形は楕円形と推定される。底面は掘り方に土層を充填し平坦に仕上げている。断面形は逆台形状である。

［堆積土］黒褐色土主体で２層に分層された。２層は掘り方埋土である。堆積土中にローム粒を混入することから人為堆積と推定される。

［出土遺物 ・遺構の時期等］須恵器坏（図26－28）・鞴羽口（図28－71）を図示した。堆積土の様相や出土遺物から、平安時代と推定されるが、詳細な時期は不明である。また、その用途も不明である。

第５号土坑（SK05、図21・26）

［位置 ・確認］14－28グリッドに位置する。第Ⅴ層で確認したが、調査区壁面での土層観察では第Ⅳ層を掘り込んで構築されている。

［平面形 ・規模］確認できる規模は長軸130cm、短軸51cm、確認面からの深さは31cmである。平面形は楕円形と推測される。底面はほぼ平坦である。断面形は逆台形状をなしている。

［堆積土］暗褐色土主体で４層に分層された。黄褐色土～明黄褐色土 ・焼土粒等が混入することから

人為堆積とみられる。また、堆積土下位から火山灰が検出されており、理化学的分析の結果、十和田ａテフラガラスと推定された（第３章第１節参照）。
［出土遺物 ・遺構の時期等］須恵器甕（図26－29）を図示した。火山灰の堆積や出土遺物から、９世紀後半代～10世紀初頭の時期が想定される。

第６号土坑（SK06、図21）
［位置・確認］14－32グリッドに位置する。第Ⅴ層で確認した。他遺構との重複は認められなかった。
［平面形・規模］平面形は長軸71cm、短軸60cmの隅丸方形を呈し、確認面からの深さは27cmである。底面はほぼ平坦で、断面形は皿状をなしている。
［堆積土］２層に分層された。堆積土中位以上の１層は黒褐色土、底面付近の２層はにぶい黄褐色土主体で、ともに明黄褐色土や黄褐色土が混入することから人為堆積とみられる。締まりなく軟らかい
［出土遺物 ・遺構の時期等］遺物は出土しなかった。堆積土の様相から、平安時代もしくはそれ以降の時期が推定されるが、詳細は不明である。

第７号土坑（SK07、図20・26）
［位置 ・確認］14－26グリッドに位置する。第Ⅴ層で確認したが、調査区壁面での土層観察では第Ⅱ層を掘り込んで構築されている。SD04と重複し、本遺構が古い。
［平面形 ・規模］重複等により詳細は不明であるが、確認できる規模は長軸122cm、短軸39cm、確認面からの深さは22cmである。底面は平坦で、壁は底面から外湾気味に立ち上がる。
［堆積土］黒色土～黒褐色土主体で、焼土粒やローム粒が混入することから人為堆積とみられる。
［出土遺物 ・遺構の時期等］須恵器甕（図26－30）を図示した。堆積土の様相や出土遺物から、平安時代と推定されるが、詳細な時期は不明である。

第８号土坑（SK08、図20・26）
［位置・確認］14－23グリッドに位置する。調査区壁面での土層観察では第Ⅳ層を掘り込んでいる。
［平面形 ・規模］確認できる規模は長軸128cm、短軸50cm、確認面からの深さは51cmである。平面形はほぼ円形と推測される。底面は中央が深く凹み、Ｖ字状の断面形をなしている。
［堆積土］３層に分層された。１層は廃棄焼土である。２層中にも焼土粒が混入する。３層は明黄褐色土のブロックを主体とする。人為的に埋め戻されている。
［出土遺物 ・遺構の時期等］土師器甕（図26－31・32）を図示した。堆積土の様相や出土遺物から、平安時代と推定されるが、詳細な時期は不明である。

第９号土坑（SK09、図17・26）
［位置・確認］14－７グリッドに位置する。SI05と重複し、本遺構が新しい。
［平面形 ・規模］確認できる規模は長軸85cm、短軸30cm、確認面からの深さは28cmである。平面形は不整円形と推測される。底面はほぼ平坦で、箱状の断面形をなしている。
［堆積土］黒褐色土主体で４層に分層された。焼土粒が混入することから、人為堆積とみられる。

［出土遺物 ・遺構の時期等］土師器甕（図26－36・37）、縄文土器（38）を図示した。遺構の重複関係や堆積土の様相・出土遺物等から平安時代と推定される。

第10号土坑（SK10、図18・26）

［位置 ・確認］14－９グリッドに位置する。第Ⅴ層で確認したが、調査区壁面での土層観察では第Ⅱ層を掘り込んで構築されている。

［平面形 ・規模］確認できる規模は長軸133cm、短軸21cm、確認面からの深さは29cmである。平面形はほぼ円形と推定される。底面は中央がやや凹み、断面形状は鍋底状である。

［堆積土］黒褐色土主体で４層に分層された。ローム粒が混入することから人為堆積とみられる。

［出土遺物 ・遺構の時期等］縄文土器（図26－33）が出土したものの、堆積土の様相から平安時代と推定されるが、詳細な時期は不明である。

第11号土坑（SK11、図18）

［位置 ・確認］14－９グリッドに位置する。第Ⅴ層で確認したが、調査区壁面での土層観察では第Ⅱ層を掘り込んで構築されている。

［平面形 ・規模］確認できる規模は長軸89cm、短軸51cm、確認面からの深さは29cmである。平面形は円形と推測される。底面には凹凸があり、断面形は鍋底状に近い。

［堆積土］３層に分層された。１層は黒褐色土、２層は暗褐色土、３層は黄褐色土主体である。黄褐色土やにぶい黄褐色がブロック状に混入することから人為堆積と考えられる。

［出土遺物 ・遺構の時期等］遺物は出土しなかった。堆積土の様相から、平安時代と推定されるが、詳細な時期は不明である。

第12号土坑（SK12、図14・26）

［位置・確認］14－２グリッドに位置する。SI09と重複し、本遺構が新しい。

［平面形 ・規模］確認できる規模は長軸58cm、短軸23cm、確認面からの深さは25cmである。平面形は不整円形と推測される。底面には凹凸があり、鍋底状の断面形をなしている。南西壁際から柱穴が１基検出された（Pit１）。

［堆積土］暗褐色土主体の単層である。黄橙色土や黄褐色土が混入し、人為堆積とみられる。

［出土遺物 ・遺構の時期等］須恵器坏（図26－34）と縄文土器（35）を図示した。遺構との重複関係や堆積土の様相・出土遺物等から平安時代と推定されるが、詳細な時期は不明である。

第13号土坑（SK13、図55）

［位置・確認］調査区北東端の14－０グリッドに位置する。SI10と重複し、本遺構が新しい。

［平面形・規模］確認できる規模は径80cm程の不整円形と推測され、確認面からの深さは約45cmである。底面には凹凸があり、逆台形状の断面形をなしている。

［堆積土］黒褐色土～褐色土などからなる。ローム粒を混入することから人為堆積と推定される。

［出土遺物 ・遺構の時期等］遺物は出土しなかった。遺構との重複関係や堆積土の様相 ・出土遺物等

から平安時代と推定されるが、詳細な時期は不明である。

第14号土坑(SK14、SI10、ESI07、図55)
[位置 ・確認] 調査区北東端の14－０グリッドに位置する。農道24号調査区南東端のESI07の住居内土坑と考えられるため、第５節で報告する。

（３） ピット
配水管14号からは合計２基のピットが検出された。ピットの位置は図21の遺構配置図等に、計測値等は表に示した。

表９ 配水管14号 ピット計測表

SP番号	図版番号	グリッド	標高(m)	規模(cm)			備考
				長軸	短軸	深さ	
1	21	H14-27	39.0	36	23	45	
2	21	H14-27	39.1	30	21	39	

（４） 溝跡
第１号溝跡(SD01、図23)
[位置・確認] H14－44･45グリッドに位置する。第Ⅴ層で確認したが、調査区壁面での土層観察では第Ⅳ層を掘り込んで構築されている。
[平面形・規模・底面] 両端とも調査区域外に延びている。調査区内で確認できた長さは0.6ｍで、直線的な溝である。確認面での幅は概ね0.6ｍ前後、深さは35～37㎝である。断面形は上部が開く逆台形状なす。底面は南東端が北西端より４㎝標高が低く、南東端へ傾斜して構築されている。
[堆積土] 暗褐色土～黄褐色土主体で４層に分層された。２～３層は壁の崩落土とみられる。
[出土遺物 ・遺構の時期等] 遺物は出土しなかった。堆積土の様相から平安期時代もしくはそれ以降と推定されるが、詳細な時期は不明である。

第２号溝跡(SD02、図22・26)
[位置・確認] H14－34･35グリッドに位置する。第Ⅴ層で確認したが、調査区壁面での土層観察では第Ⅳ層を掘り込んで構築されている。
[平面形 ・規模 ・底面] 両端とも調査区域外に延びている。調査区内で確認できた長さは0.35ｍで、直線的な溝である。確認面での幅は2.4～2.9ｍ、深さ39～42㎝である。断面形は上部が開く逆台形状である。底面は南西端が北東端より６㎝標高が低く、南西端へ傾斜して構築されている。
[堆積土] 堆積土は黒褐色土を主体とし５層に分層された。褐色～明黄褐色土のブロックが混入することから人為的に埋め戻されたものとみられる。
[出土遺物・遺構の時期等] 須恵器坏(図26－39)・壺(40)・甕(41)を図示した。堆積土の様相・出土遺物等から平安時代と推定されるが、詳細な時期は不明である。

第３号溝跡（SD03、図20・26）

［位置 ・確認］H14－21グリッドに位置する。第Ⅴ層で確認したが、調査区壁面での土層観察では第Ⅱ層を掘り込んで構築されている。

［平面形・規模・底面］両端とも調査区域外に延びている。調査区内で確認できた長さは0.6ｍで、直線的な溝である。確認面での幅は1.5～1.7m、深さは36～38㎝である。断面形は上部が開く逆台形状に近い。底面は北東端と南西端で比高差がほとんどなく水平である。

［堆積土］堆積土は黒褐色土を主体とし５層に分層された。１・２層は焼土粒が混入する。３層中から火山灰が検出されており、理化学的分析の結果、十和田ａテフラガラスと十和田八戸テフラガラスが混合していると推定された（第３章第１節参照）。人為的に埋め戻されたものとみられる。

［出土遺物 ・遺構の時期等］土師器甕（図26－42）を図示した。火山灰の堆積状況や出土遺物から、10世紀初頭以降の平安時代と推定される。

第４号溝跡（SD04、図20）

［位置・確認］14－27グリッドに位置する。第Ⅴ層で確認した。SK07と重複し、本遺構が新しい。

［平面形・規模・底面］両端とも調査区域外に延びている。調査区内で確認できた長さは0.4ｍで、直線的な溝である。確認面での幅は概ね0.6ｍである。深さは14～38㎝である。断面形は上部が開く逆台形状をなす。底面は北西端が南東端より４㎝標高が低く、北西端へ傾斜して構築されている。

［堆積土］黒色土～黒褐色土主体で、ローム粒が混入しているものの、自然堆積とみられる。

［出土遺物 ・遺構の時期等］遺物は出土しなかった。堆積土の様相から、平安時代若しくはそれ以降と推定されるが、詳細な時期は不明である。

第５号溝跡（SD05、図21）

［位置 ・確認］14－28グリッドに位置する。第Ⅴ層で確認したが、調査区壁面での土層観察では第Ⅳ層を掘り込んで構築されている。

［平面形・規模・底面］両端とも調査区域外に延びている。調査区内で確認できた長さは0.5ｍで、直線的な溝である。確認面での幅は1.3～1.45ｍを測るが、概ね1.4ｍ前後といえる。深さは17～31㎝である。断面形は上部が開く逆台形状に近い。底面は北東端が南西端より11㎝標高が低く、北東端へ傾斜して構築されている。

［堆積土］４層に分層された。４層は黄褐色土のロームブロック主体層である。１・２層中には焼土粒が混入しており人為的に埋め戻されたものとみられる。

［出土遺物 ・遺構の時期等］遺物は出土しなかった。堆積土の様相から、平安時代もしくはそれ以降と推定されるが、詳細な時期は不明である。

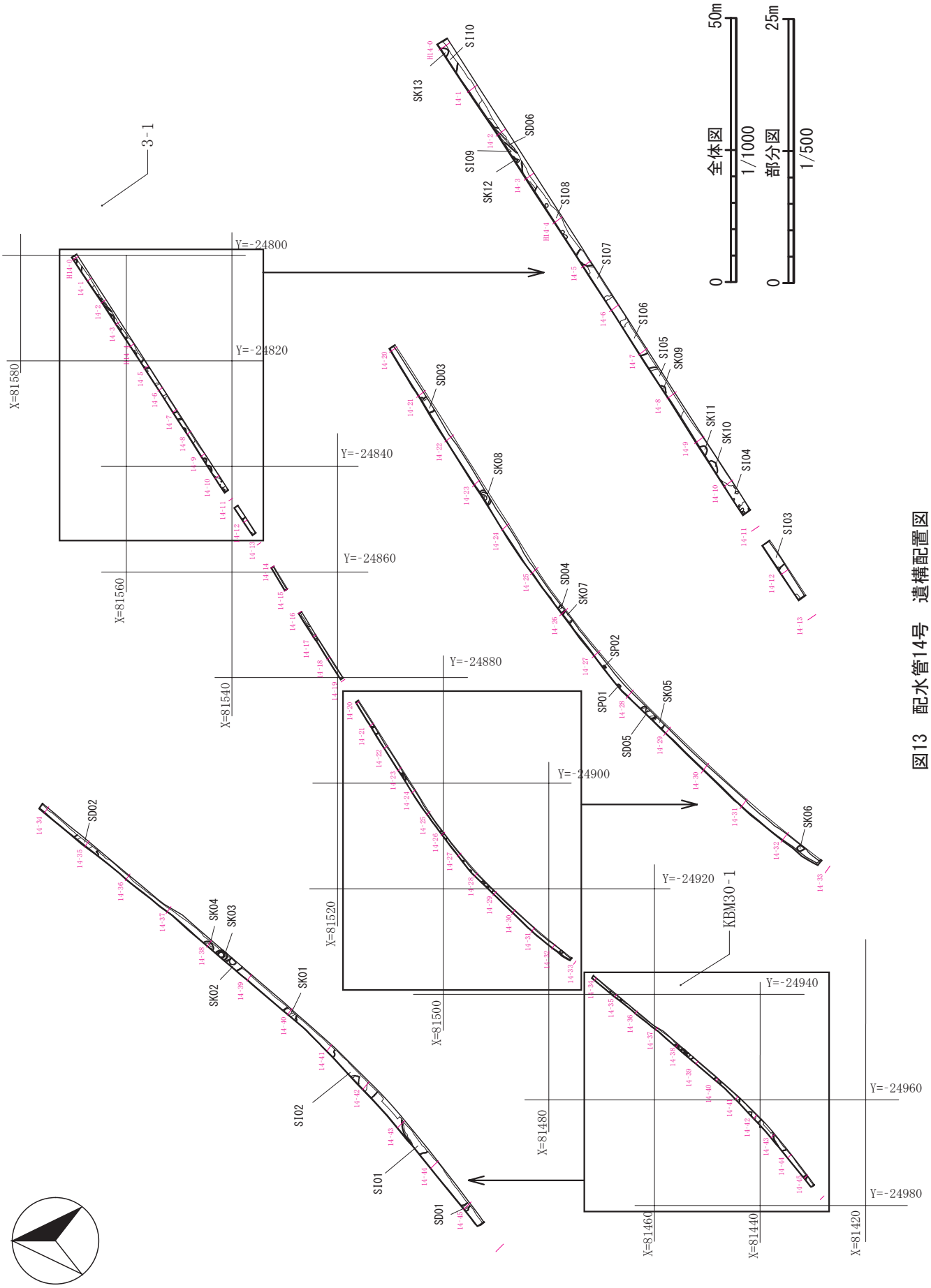
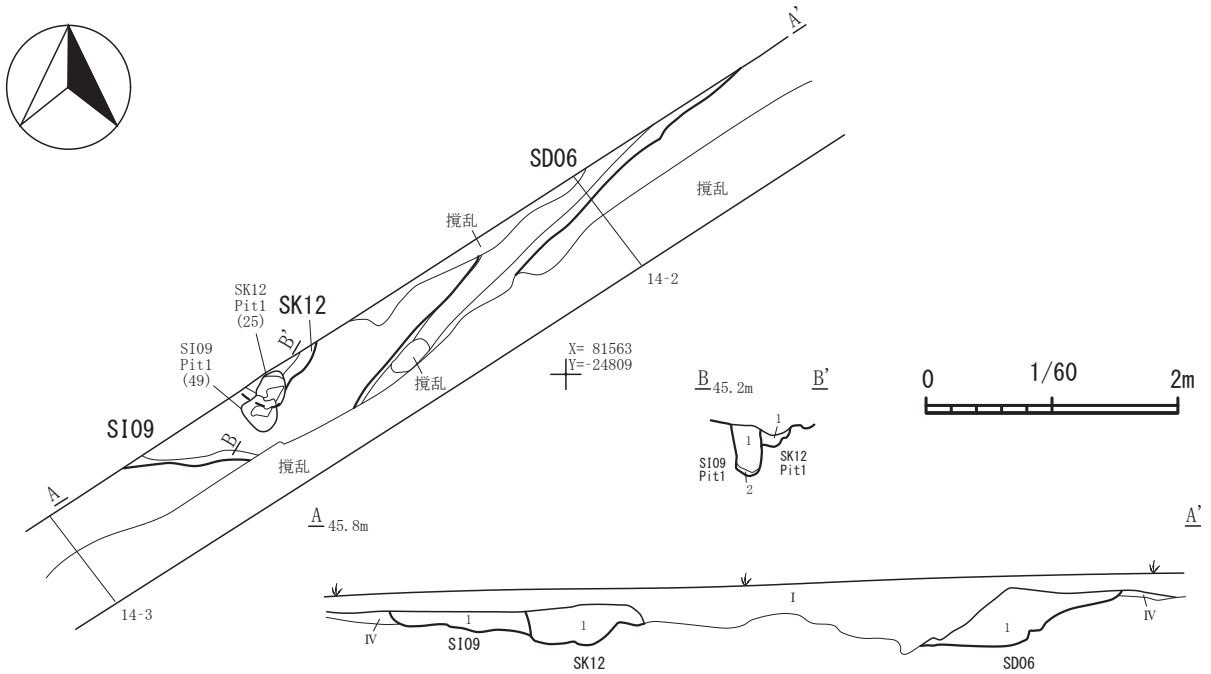


図13　配水管14号　遺構配置図

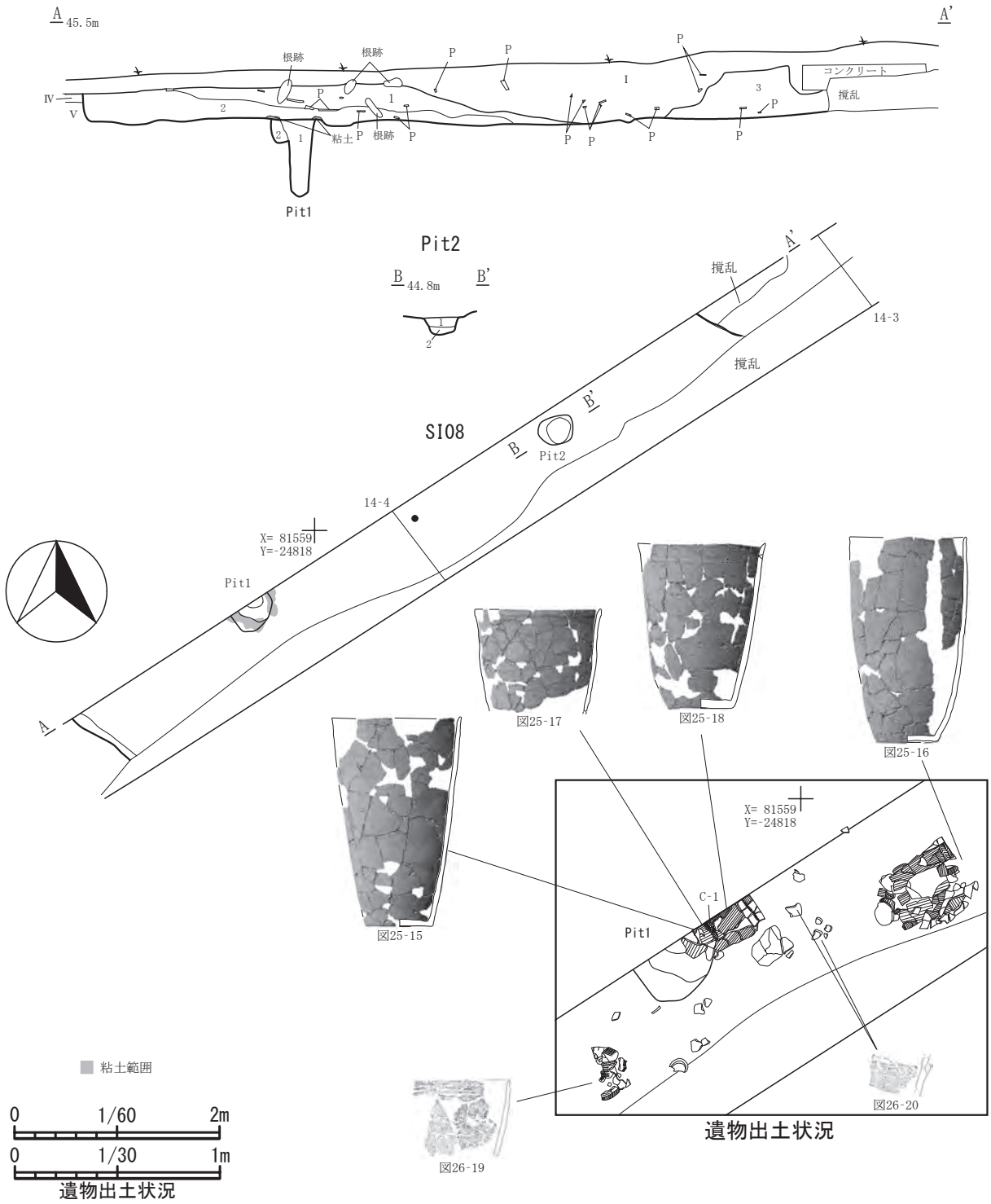


SI09(A-A')
1層 10YR4/6 褐 色 土　10YR6/8明黄褐色ロームブロック(φ10～30㎜)5%、10YR7/1灰白色浮石(φ1㎜)2%、炭化物(φ1～2㎜)1%、しまり、粘性やや強い。
SI09 Pit1(B-B')
1層 10YR4/6 褐 色 土　10YR5/8黄褐色土(φ30～80㎜)2%ブロック状、10YR3/3暗褐色土1%、しまり、粘性弱い、炭化物(φ1～3㎜)1%。
2層 10YR5/6 黄褐色土　しまりやや弱い、粘性やや強い。
SK12(A-A')
1層 10YR3/4 暗褐色土　10YR7/8黄橙色土7%下部に堆積、10YR5/6黄褐色土3%帯状に堆積、10YR2/1黒色土2%、しまりやや強い、粘性弱い。
SK12 Pit1(B-B')
1層 10YR3/3 暗褐色土　10YR6/8明黄褐色土(φ5～10㎜)2%ブロック状、しまり、粘性弱い。
SD06(A-A')
1層 10YR2/3 黒褐色土　10YR7/8黄橙色土2%、10YR7/8黄橙色ローム粒(φ1㎜)1%、しまりやや弱い、粘性弱い。

図14　14-１～３グリッド周辺遺構

第６号溝跡(SD06、ESD－10、図14・55)

［位置・確認］H14－１･２グリッドに位置する。農道24号Ｅ区調査区南東端のESD10と同一の遺構であるため、そちらで報告する。



SI08(A-A')
1層 10YR3/3 暗褐色土 10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1～10mm)5%、炭化物(φ1～10mm)5%。
2層 10YR3/3 暗褐色土 10YR4/6褐色土10%、10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1～20mm)5%、10YR5/8黄褐色粘土5%、炭化物(φ1～10mm)3%。
3層 10YR4/4 褐 色 土 10YR3/3暗褐色土10%が上層に斑状に混入。10YR2/2黒褐色土5%、10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1～20mm)5%、炭化物(φ1～5mm)3%。
SI08 Pit1(A-A')
1層 10YR4/6 褐 色 土 10YR5/8黄褐色ローム粒(φ10～20mm)3%、炭化物(φ1mm)1%。しまり弱い、粘性強い。
2層 10YR5/8 黄褐色土 しまりやや強い、粘性強い。
SI08 Pit2(B-B')
1層 10YR3/4 暗褐色土 10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ15～50mm)7%が層下部に多い。10YR5/8黄褐色粘土5%、しまりあり堅い。
2層 10YR5/6 黄褐色土 10YR3/2黒褐色土が帯状に2%混入。

図15 14-3・4グリッド周辺遺構

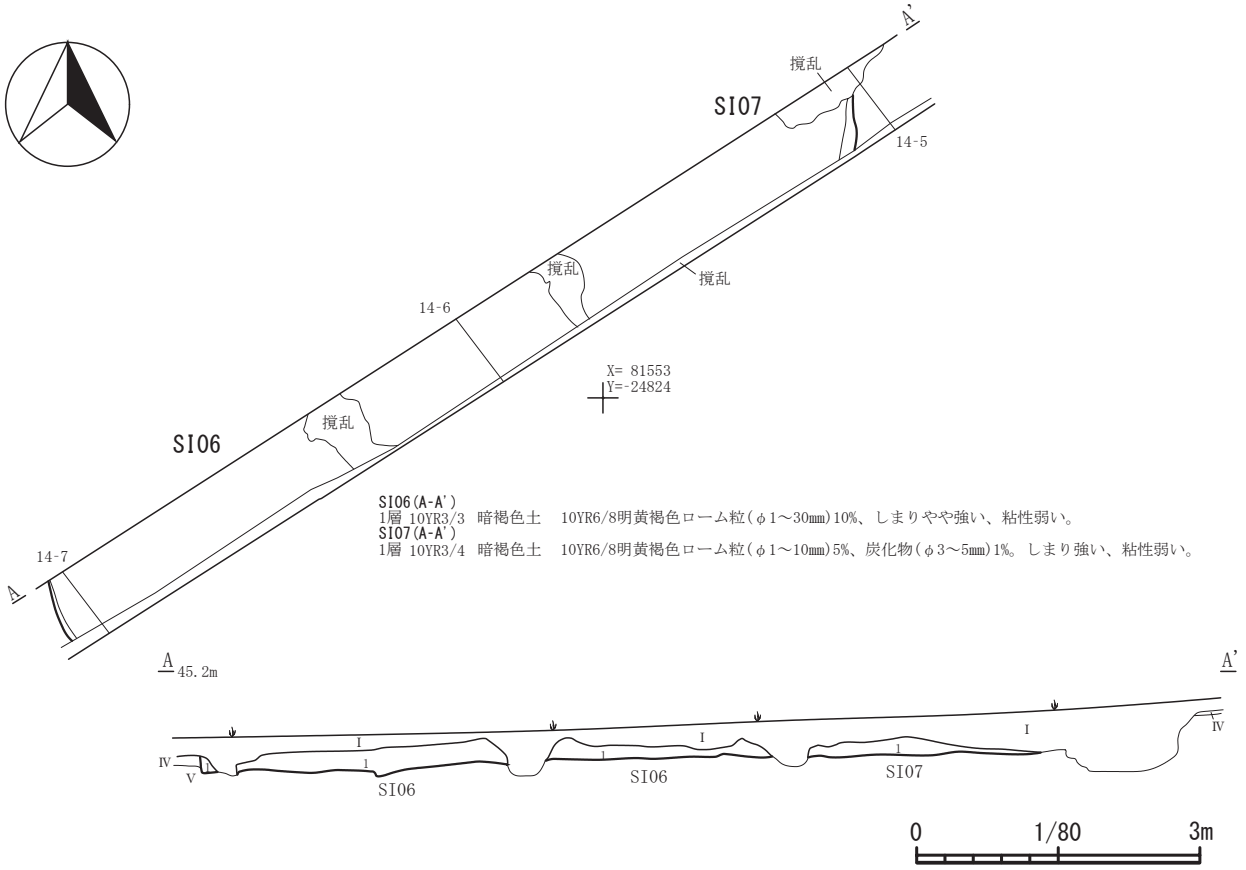


図16　14-５・６グリッド周辺遺構

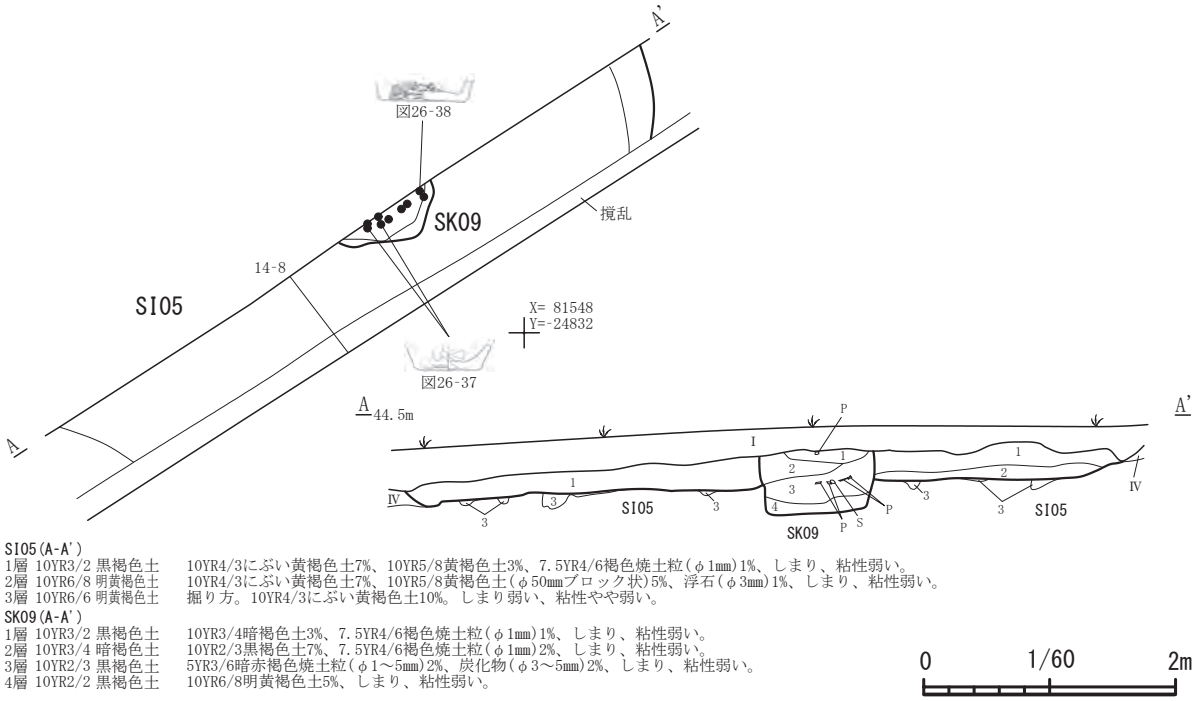
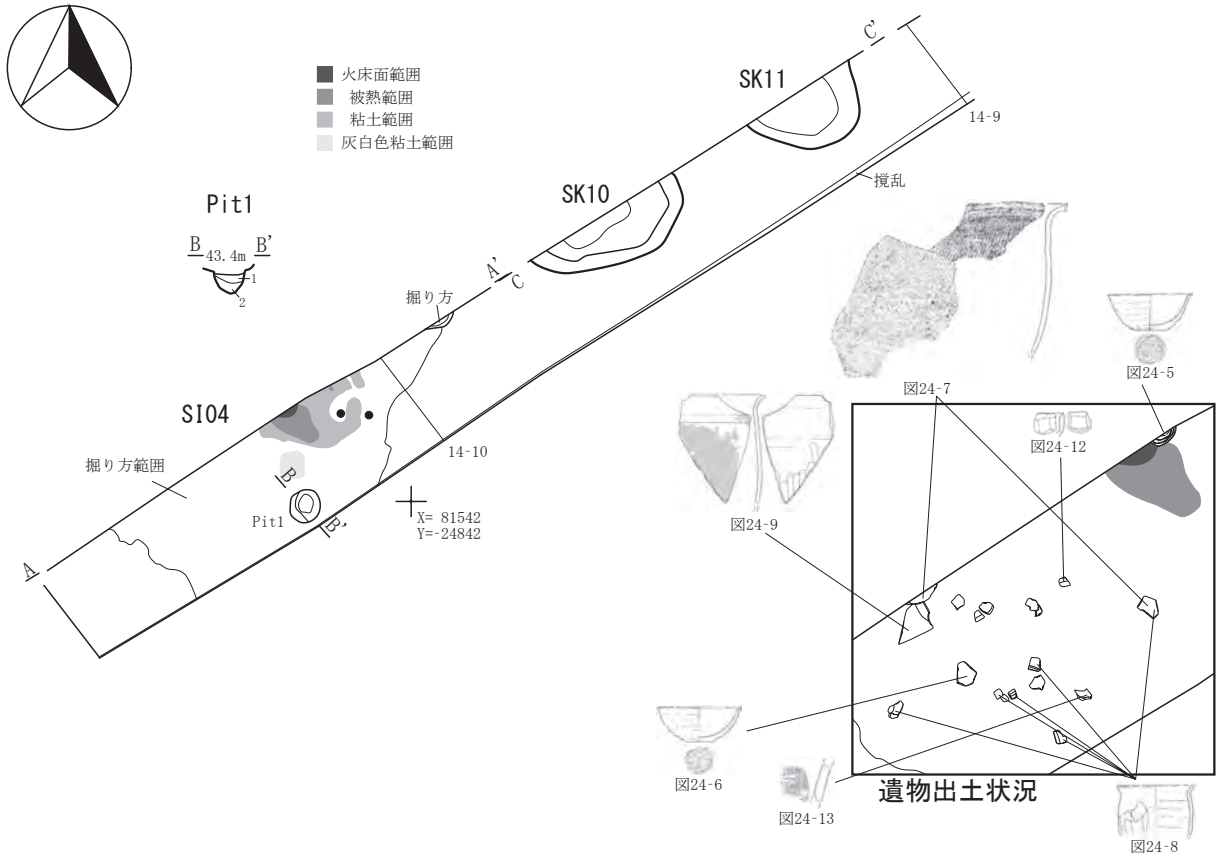
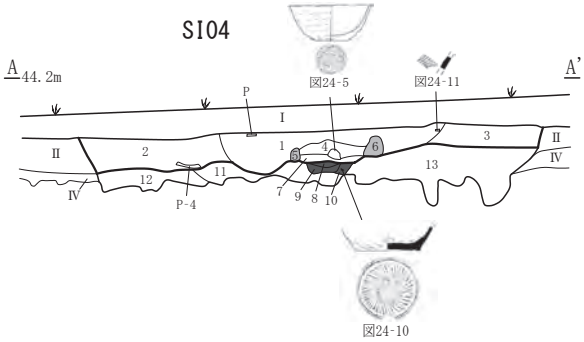
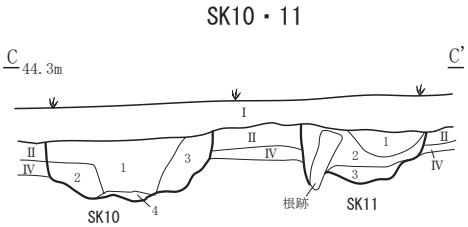


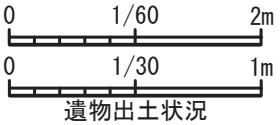
図17　14-７・８グリッド周辺遺構

配水管14号









SI04(A-A')

1層	10YR2/2 黒褐色土	10YR5/8黄褐色ロームブロック(φ30～70mm)5%、10YR3/3暗褐色土3%、5YR4/8赤褐色焼土粒(φ1～5mm)2%、しまり、粘性やや弱い。
2層	10YR2/1 黒 色 土	10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1～5mm)3%、5YR4/8赤褐色焼土粒(φ1mm)1%、しまり、粘性やや弱い。
3層	10YR2/1 黒 色 土	10YR4/3にぶい黄褐色ブロック(φ40mm)2%、しまり、粘性やや弱い。
4層	10YR5/6 黄褐色粘土	10YR2/2黒褐色土5%、5YR5/8明赤褐色焼土粒2%、左袖側に堆積、しまり弱い、粘性強い。
5層	10YR2/3 黒褐色土	ｶﾏﾄﾞ袖。10YR3/3暗褐色土1%、しまり弱い、粘性やや強い。
6層	10YR7/8 黄橙色粘土	ｶﾏﾄﾞ袖。10YR4/3にぶい黄褐色土30%、5YR4/8赤褐色焼土3%、しまりやや強い、粘性強い。
7層	7.5YR3/4 暗褐色焼土	5YR5/8明赤褐色焼土粒(φ5～15mm)7%、しまり弱い、粘性やや強い。
8層	5YR5/8 明赤褐色焼土	火床面。7.5YR3/4暗褐色焼土1%、しまり非常に強い。
9層	5YR4/8 赤褐色焼土	火床面。5YR5/8明赤褐色焼土粒(φ1～3mm)3%、しまり、粘性やや強い。
10層	7.5YR2/3 極暗褐色焼土	火床面。5YR4/8赤褐色焼土粒(φ3mm)1%、しまりやや弱い、粘性やや強い。
11層	10YR3/4 暗褐色土	掘り方。5YR5/8明赤褐色焼土粒(φ1～7mm)10%、10YR2/2黒褐色土5%、10YR7/8黄橙色ロームブロック(φ100mm)2%、しまり弱い、粘性やや強い。
12層	10YR2/1 黒 色 土	掘り方。10YR7/8黄橙色ローム粒(φ5～15mm)5%、しまりやや弱い、粘性やや強い。
13層	10YR2/3 黒褐色土	掘り方。10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ5～20mm)3%、5YR5/8明赤褐色焼土粒(φ1～3mm)5%、しまり弱い、粘性やや強い。

SI04 Pit1(B-B')

1層	10YR5/6 黄褐色土	10YR3/3暗褐色土3%。
2層	10YR3/2 黒褐色土	10YR5/6黄褐色土5%。

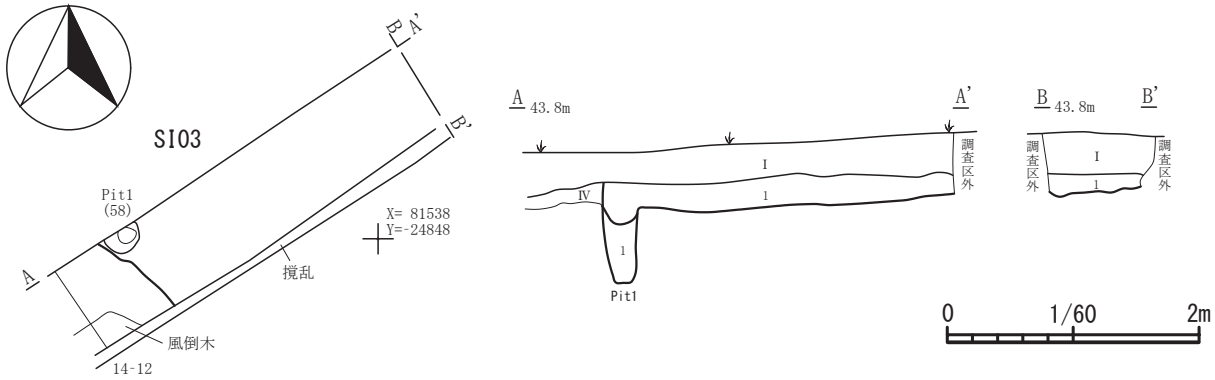
SK10(C-C')

1層	10YR2/1 黒 色 土	10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1mm)5%、しまりやや強い、粘性やや弱い。
2層	10YR2/2 黒褐色土	10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1mm)7%、しまり弱い、粘性やや弱い。
3層	10YR2/3 黒褐色土	10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1～3mm)5%、しまり、粘性ともにやや弱い。
4層	10YR3/3 暗褐色土	10YR6/8明黄褐色土5%、しまり弱い、粘性やや弱い。

SK11(C-C')

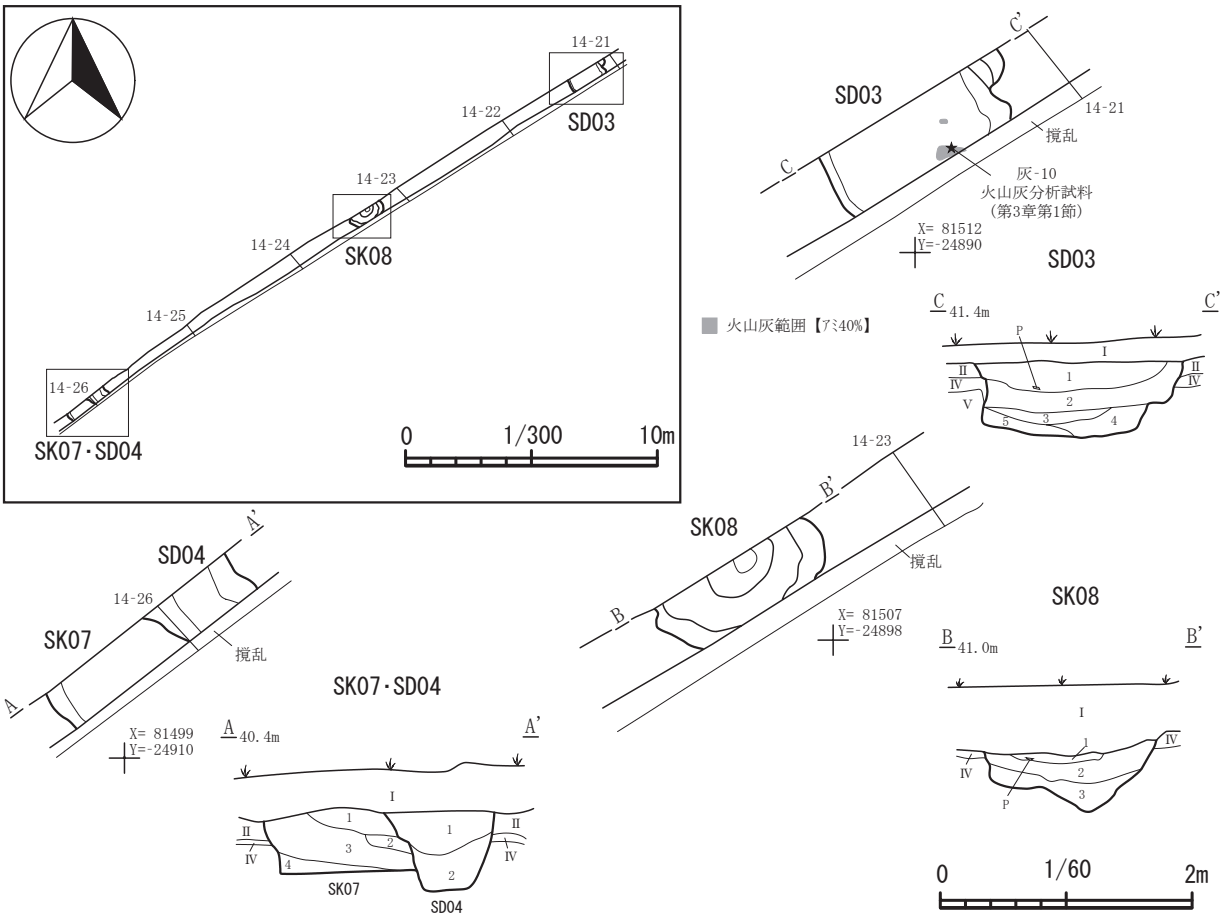
1層	10YR2/3 黒褐色土	10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1～3mm)3%、しまり、粘性ともにやや弱い、自然堆積か。
2層	10YR3/3 暗褐色土	10YR5/8黄褐色土(φ10～30mm)5%、10YR4/3にぶい黄褐色土3%、しまり、粘性ともにやや弱い。
3層	10YR5/8 黄褐色土	10YR4/3にぶい黄褐色土(φ10～30mm)10%ブロック状、しまり弱い、粘性やや弱い。

図18　14-９・10グリッド周辺遺構



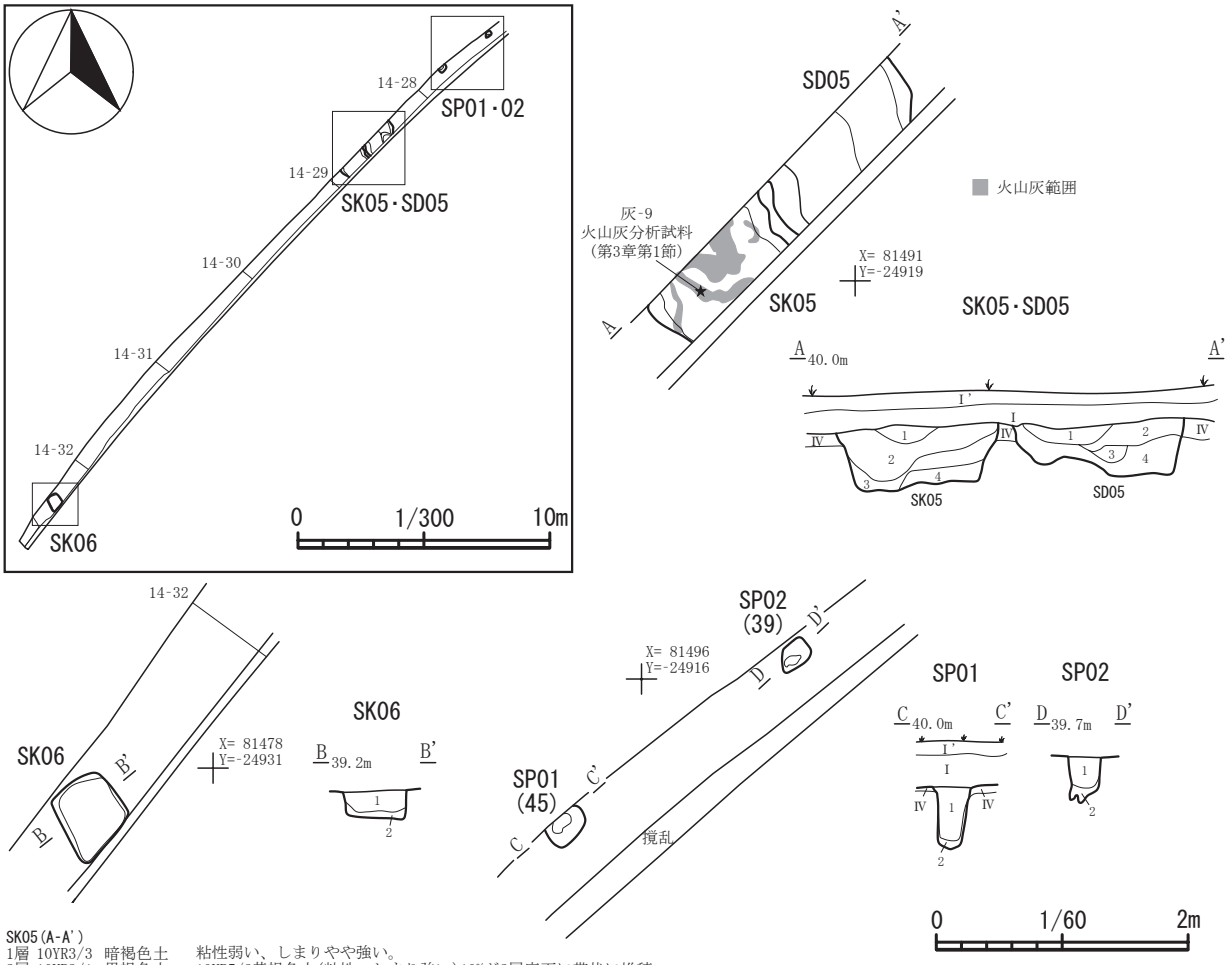
SI03(A-A'・B-B')
1層 10YR2/3 黒褐色土　10YR4/3にぶい黄褐色土7%、10YR7/8黄橙色土3%、10YR3/3暗褐色土2%、しまり弱い、粘性やや弱い。
SI03 Pit1(A-A')
1層 10YR4/3 にぶい黄褐色土　10YR5/8黄褐色土10%、しまりやや弱い、粘性やや強い。

図19　14-11グリッド周辺遺構



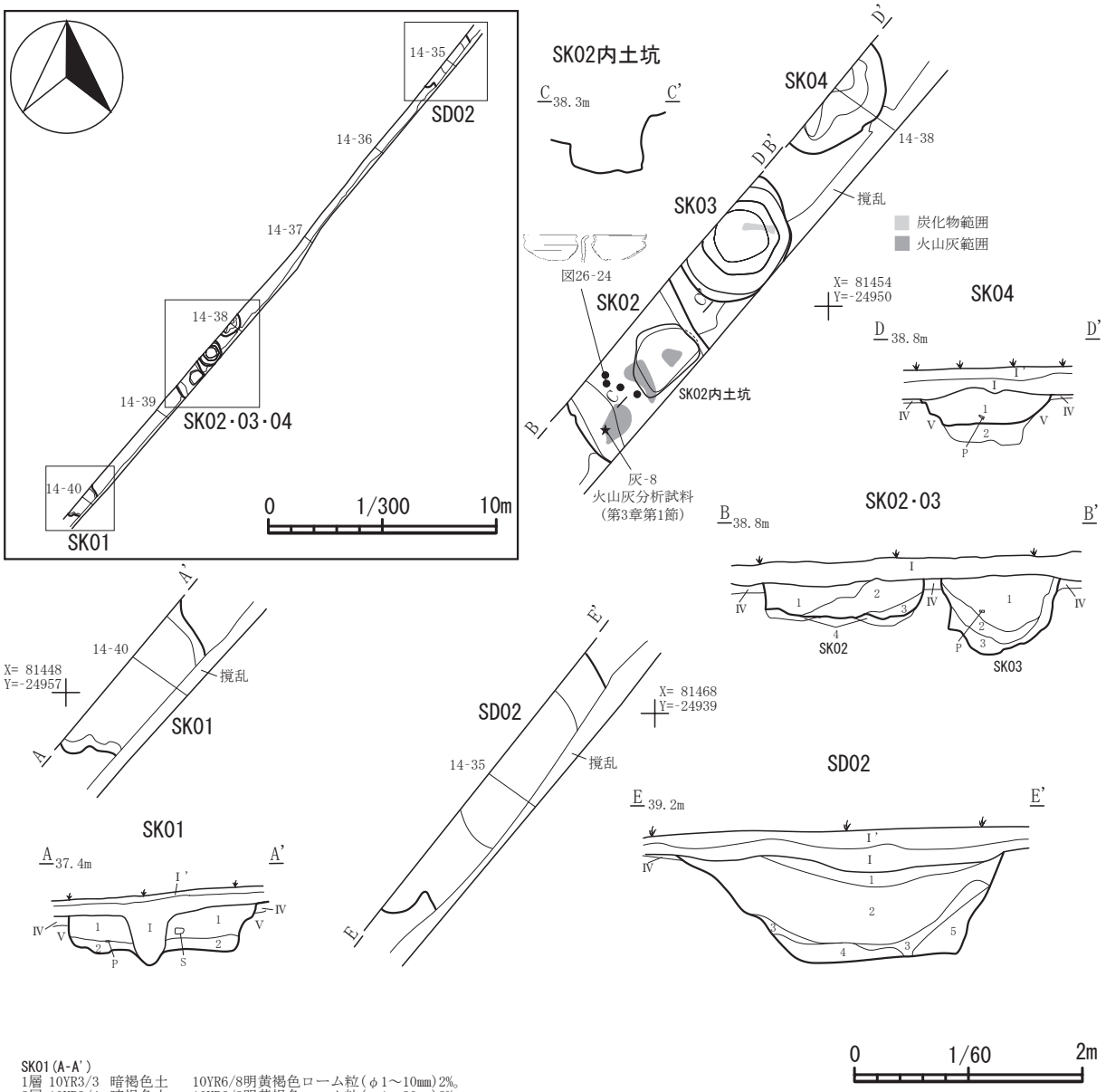
SK07(A-A')
1層 10YR2/2 黒褐色土　10YR5/8黄褐色ローム粒(φ1mm)1%、しまり、粘性ともに弱い。
2層 10YR2/3 黒褐色土　10YR5/8黄褐色ローム粒(φ3～7mm)7%。
3層 10YR2/1 黒 色 土　10YR5/8黄褐色ローム粒(φ3～7mm)3%、7.5YR4/6褐色焼土粒(φ1mm)1%、しまり弱い、粘性やや強い。
4層 10YR2/1 黒 色 土　10TR7/8黄橙色粘土(φ10～30mm)30%。
SK08(B-B')
1層 7.5YR3/4 暗褐色焼土　10YR2/3黒褐色土5%、7.5YR5/8明赤褐色焼土粒(φ1mm)3%。
2層 10YR2/2 黒褐色土　10YR8/8黄橙色ロームブロック(φ10～20mm)7%、5YR4/8赤褐色焼土粒(φ1mm)1%、しまり強い、粘性弱い。
3層 10YR6/8 明黄褐色土　10YR2/2黒褐色土10%、しまり強い、粘性やや強い。
SD03(C-C')
1層 10YR3/2 黒褐色土　5YR5/8明赤褐色焼土粒(φ1～5mm)3%、10YR7/8黄橙色ローム粒(φ1～3mm)2%、しまりやや強い、粘性弱い。
2層 10YR2/2 黒褐色土　10YR5/8黄褐色土3%、10YR7/8黄橙色ローム粒(φ1mm)2%、5YR5/8明赤褐色焼土粒(φ1mm)1%、しまりやや強い、粘性やや弱い。
3層 10YR4/3 にぶい黄褐色土　To-a+To-H10%、10YR5/8黄褐色土5%、しまり、粘性強い。
4層 10YR2/1 黒 色 土　10YR7/8黄橙色土3%、しまり、粘性弱い。
5層 10YR6/6 明黄褐色土　10YR4/3にぶい黄褐色土10%、しまりやや弱い、粘性強い。
SD04(A-A')
1層 10YR2/2 黒褐色土　10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1mm)1%、しまり、粘性ともにやや弱い。
2層 10YR2/1 黒 色 土　10YR7/8黄橙色粘土(10mm)7%、しまりやや弱い、粘性強い。

図20　14-21～26グリッド周辺遺構



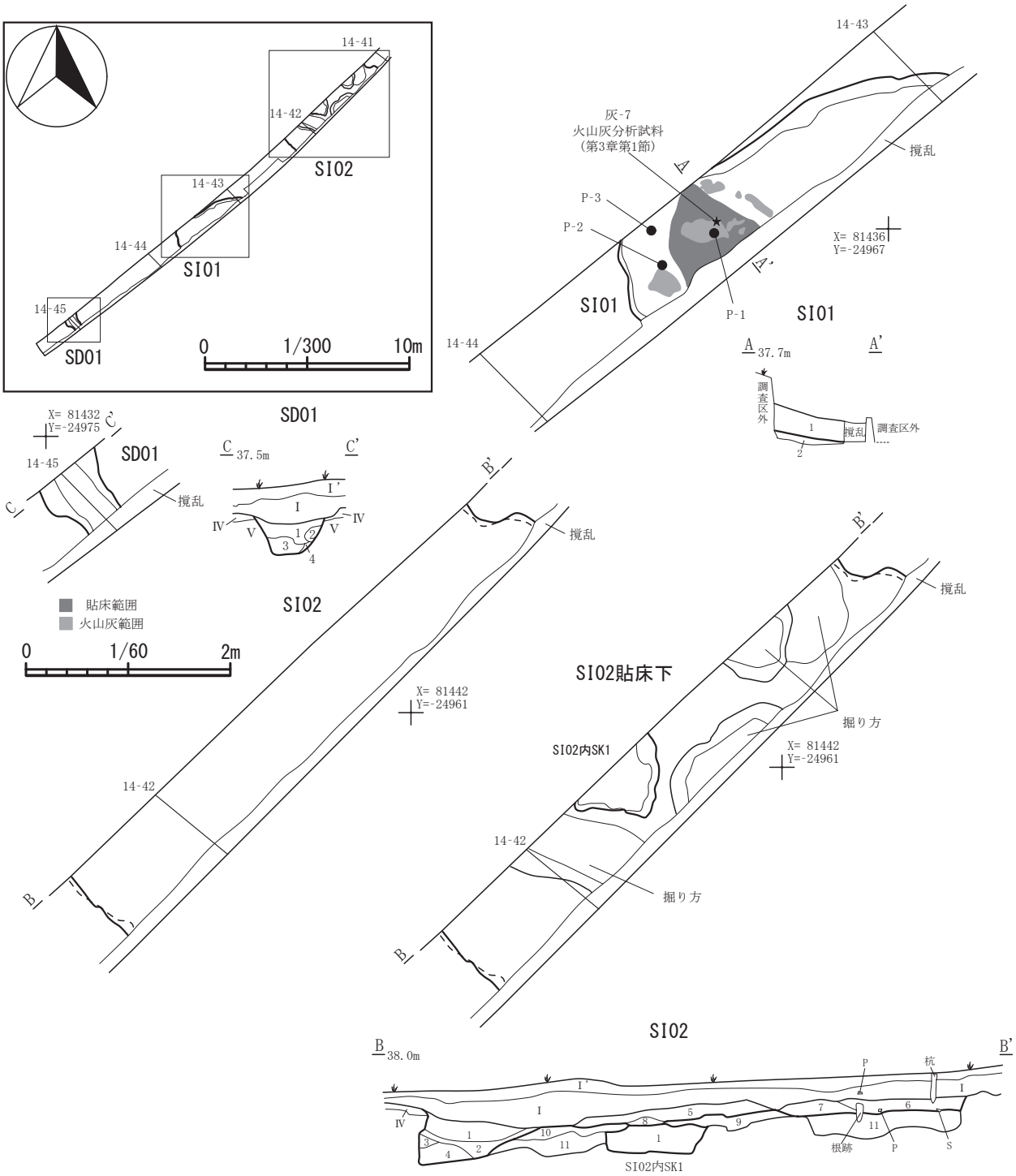
SK05(A-A')
1層 10YR3/3 暗褐色土 粘性弱い、しまりやや強い。
2層 10YR3/1 黒褐色土 10YR5/6黄褐色土(粘性、しまり強い)10%が2層底面に帯状に堆積。
3層 10YR2/2 黒褐色土 10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1mm)3%、7.5YR4/6褐色焼土粒(φ1mm)1%。
4層 10YR6/8 明黄褐色土 10YR2/2黒褐色土(粘性、しまりやや弱い)20%、粘性やや強い、しまりやや弱い。
SK06(B-B')
1層 10YR2/2 黒褐色土 10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1mm)1%、しまりなく柔らかい。
2層 10YR4/3 にぶい黄褐色土 10YR5/8黄褐色土30%が底面に堆積、崩落土か。
SD05(A-A')
1層 10YR3/1 黒褐色土 7.5YR4/6褐色焼土粒(φ1mm)1%。
2層 10YR3/3 暗褐色土 10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ3～5mm)3%、7.5YR4/6褐色焼土粒(φ1mm)1%。
3層 10YR2/2 黒褐色土 10YR5/8黄褐色土(粘性やや強い)5%。
4層 10YR5/8 黄褐色土 10YR2/2黒褐色土(粘性やや強い、しまりやや弱い)20%、粘性、しまりともにやや強い。
SP01(C-C')
1層 10YR3/1 黒褐色土 10YR5/8黄褐色土(ブロック状、しまり弱い、粘性弱い)10%。
2層 10YR4/1 褐灰色土 10YR5/8黄褐色土(しまりやや弱い、粘性やや弱い)10%。
SP02(D-D')
1層 10YR2/1 黒 色 土 10YR5/8黄褐色土5%、しまり、粘性弱い。
2層 10YR5/4 にぶい黄褐色土 10YR5/8黄褐色土5%、しまり弱い、粘性やや強い。

図21　14-27～32グリッド周辺遺構



SK01(A-A')
1層 10YR3/3 暗褐色土　10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1～10mm)2%。
2層 10YR3/4 暗褐色土　10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1～30mm)3%。
SK02(B-B')
1層 10YR2/2 黒褐色土　10YR6/8明黄褐色ロームブロック(φ10～50mm)3%が層下部に多い。10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1～5mm)1%。
2層 10YR3/3 暗褐色土　10YR4/3にぶい黄褐色土10%、10YR6/8明黄褐色ロームブロック(φ10～40mm)5%。
3層 10YR2/1 黒褐色土　10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1～5mm)1%、粘性やや強い、しまり弱い。
4層 10YR6/8 明黄褐色土　掘り方。10YR3/4暗褐色ロームブロック(φ30～50mm)からなる層。
SK03(B-B')
1層 10YR2/3 黒褐色土　10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1～3mm)1%、5YR3/6暗赤褐色焼土粒(φ1mm)1%、炭化物(φ1～3mm)1%。
2層 10YR2/2 黒褐色土　10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ3～7mm)2%、5YR3/6暗赤褐色焼土粒(φ1mm)1%。
3層 10YR4/3 にぶい黄褐色土　10YR2/2黒褐色土10%。
SK04(D-D')
1層 10YR2/1 黒褐色土　10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1～5mm)3%。
2層 10YR3/4 褐 色 土　掘り方。10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1～10mm)2%。
SD02(E-E')
1層 10YR2/2 黒褐色土　炭化物(φ1mm)1%、しまりなくやわらかい。
2層 10YR4/3 にぶい黄褐色土　10UR2/2黒褐色土(φ10～20mm)5%、10YR6/6明黄褐色粘土ブロック(φ20～30mm)5%。
3層 10YR2/2 黒褐色土　10YR4/6褐色土1%、炭化物(φ1mm)1%、粘性強い。
4層 10YR6/6 明黄褐色粘土　10YR5/6黄褐色ローム粒(φ1～5mm)1%、粘土層、粘性、しまりともに強い。
5層 10YR2/3 黒褐色土　10YR2/1黒色土10%が帯状に堆積。10YR4/6褐色粘土3%、10YR4/6褐色土1%。

図22　14-34～40グリッド周辺遺構



SI01(A-A')
1層 10YR3/4 暗褐色土 10YR5/8黄褐色ローム粒(φ1～20mm)2%、10YR7/1灰白色浮石(φ1～3mm)1%。
2層 10YR5/8 黄褐色土 貼り床。しまり非常に強い。
SI02(B-B')
1層 10YR2/2 黒褐色土 10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ3～5mm)1%、しまりなく柔らかい。
2層 10YR2/3 黒褐色土 10YR3/4暗褐色土5%、10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ5～10mm)3%。
3層 10YR5/6 黄褐色土 10YR2/3黒褐色土10%。
4層 10YR5/8 黄褐色土 10YR2/3黒褐色土5%、粘性やや強い。
5層 10YR3/3 暗褐色土 10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1～10mm)3%、10YR6/8明黄褐色土5%が帯状に堆積。
6層 10YR2/3 黒褐色土 10YR5/8黄褐色ロームブロック(φ10～30mm)5%。
7層 10YR2/2 黒褐色土 10YR6/8明黄褐色土3%、7.5YR4/6褐色焼土粒(φ1mm)1%。
8層 10YR2/1 黒 色 土 粘性やや強い、しまり弱い。
9層 10YR2/3 黒褐色土 貼り床。10YR6/8明黄褐色土20%。
10層 10YR5/8 黄褐色土 貼り床。10YR2/3黒褐色土10%。
11層 10YR2/1 黒 色 土 掘り方。10YR6/8明黄褐色土20%(粘性強い、しまりやや弱い)非常に大きいブロック状に堆積。
SI02内SK01(B-B')
1層 10YR2/2 黒褐色土 10YR6/8明黄褐色土3%。
SD01(C-C')
1層 10YR3/3 暗褐色土 10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1～3mm)1%、10YR8/1灰白色浮石(φ1mm)1%。
2層 10YR5/8 黄褐色土 10YR3/3暗褐色土20%。
3層 10YR3/4 暗褐色土 10YR5/8黄褐色ローム粒(φ1mm)1%。
4層 10YR5/8 黄褐色土 10YR3/4暗褐色土20%。

図23 14-41～45グリッド周辺遺構

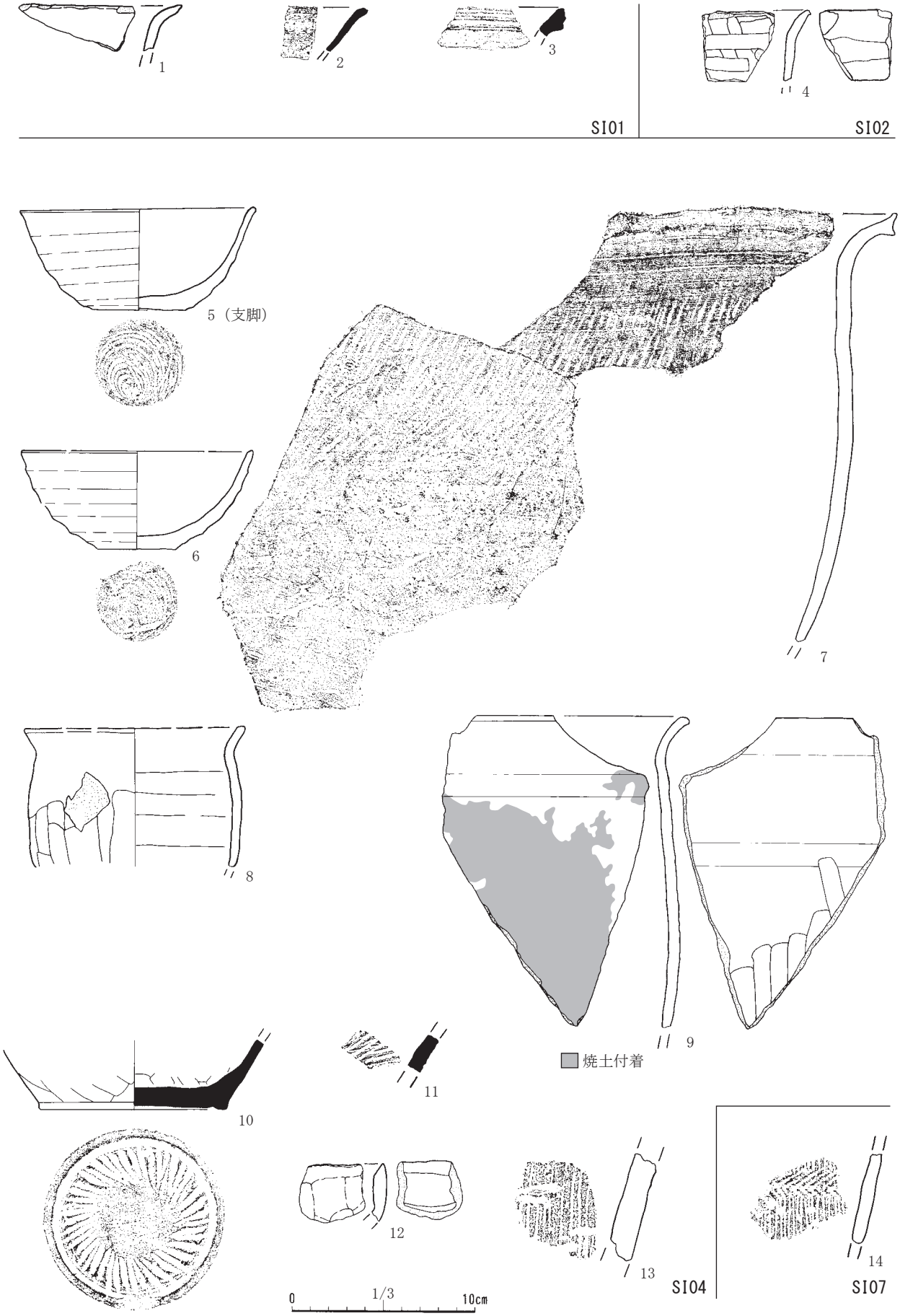


図24　第１・２・４・７号竪穴住居跡出土遺物

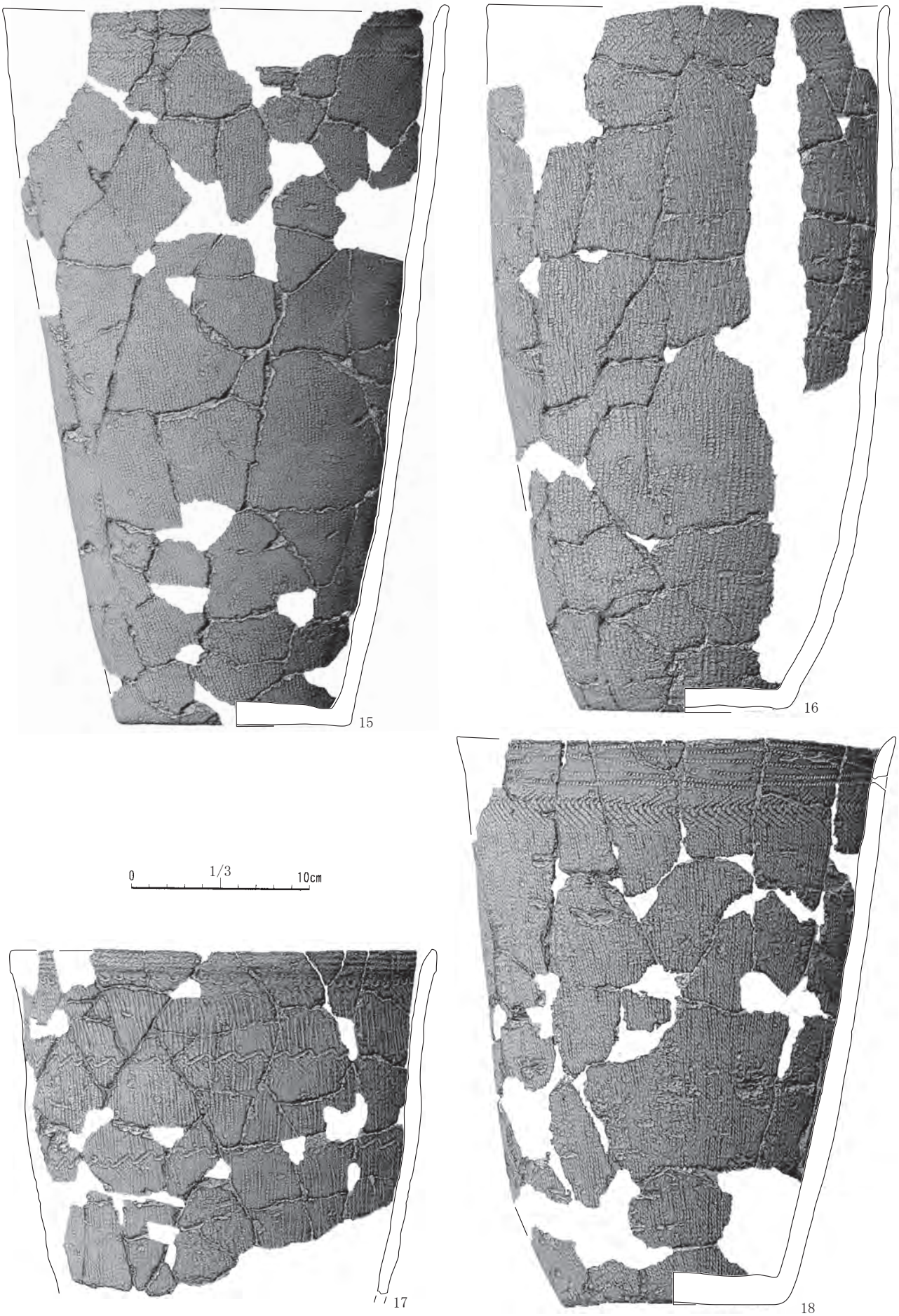


図25　第８号竪穴住居跡出土遺物(1)

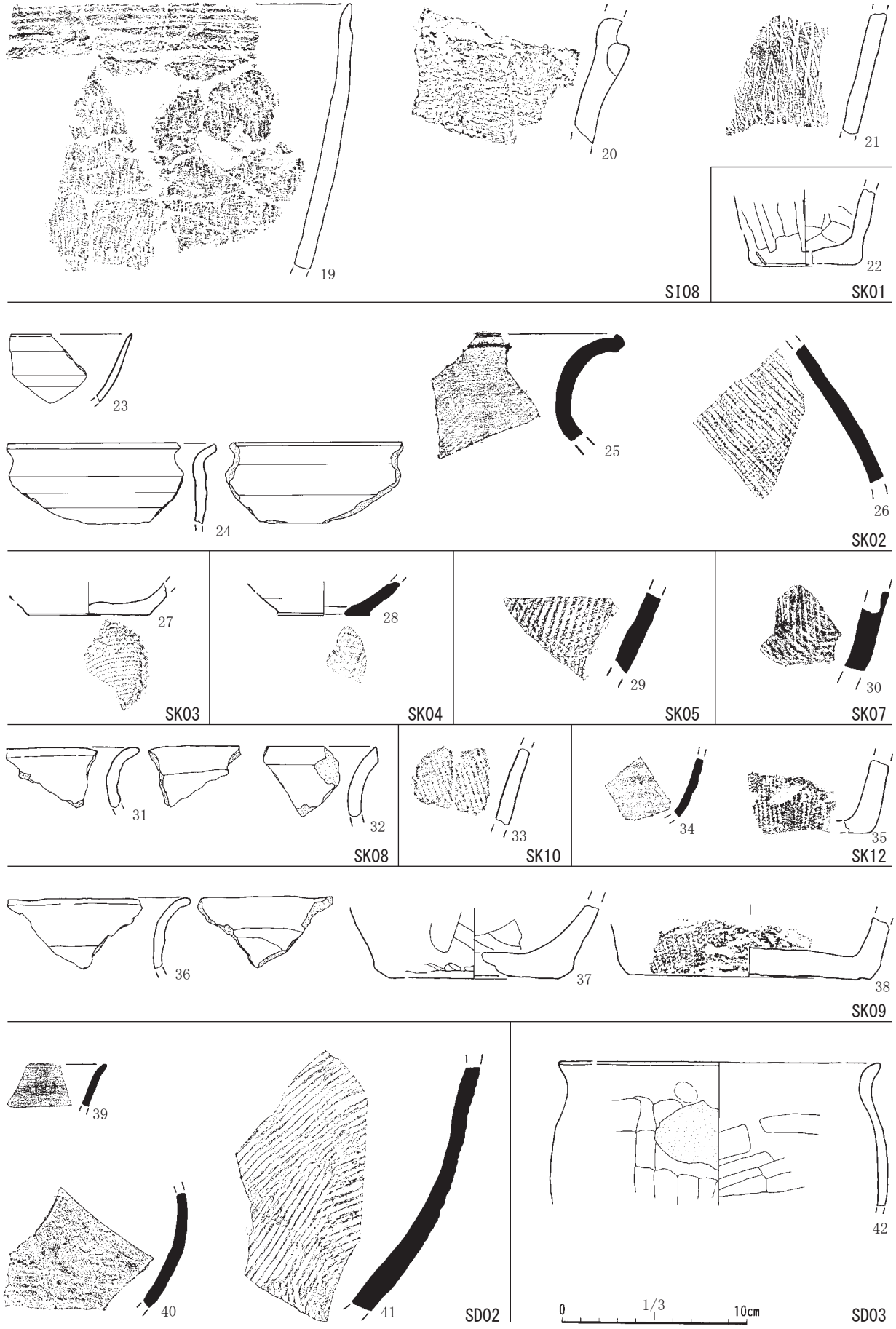


図26　第８号竪穴住居跡出土遺物(2)・土坑・溝跡出土遺物

２　遺構外の出土遺物

（１）　縄文時代の出土遺物（図27・28）

縄文土器10点・石器２点を図示した。図27－43～52は縄文土器で、43～51は縄文時代前期中葉～後葉、52は縄文時代後期前葉の土器と考えられる。図28－69・70は石器で、69は石匙、70は削掻器である。

（２）　平安時代の出土遺物（図27・28）

土師器・須恵器計16点を図示した。図27－53～57は土師器で、53・54は坏、55～57は甕である。58～68は須恵器で、58～61は坏、62は長頸壺、63～66は壺、67・68は甕である。

図27　遺構外出土遺物(1)

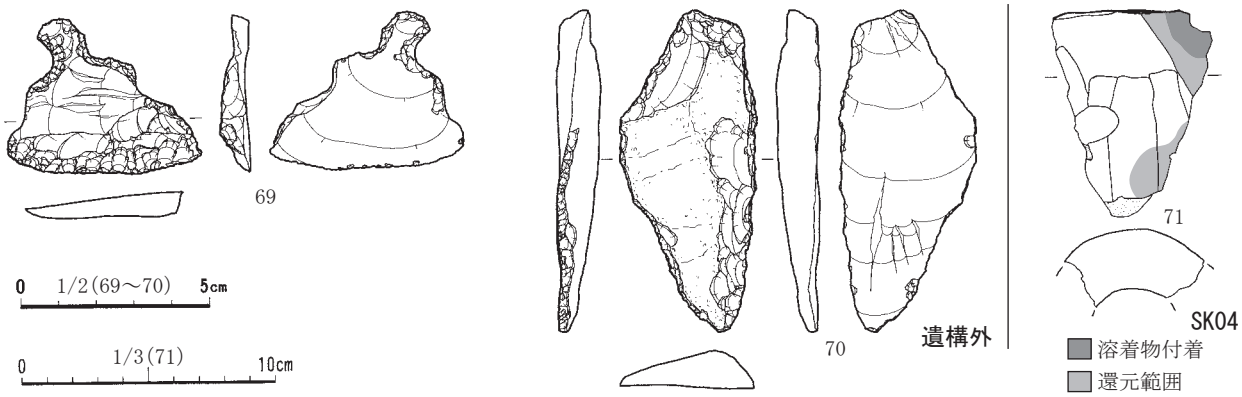


図28　遺構外出土遺物(2)

3　遺物観察表

表10　配水管14号　土器観察表

図番号	遺物番号	遺構名	出土位置・層位等	種類	器種	部位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	外面調整(文様)	内面調整(文様)	備考(底面調整)	時期
24	1	SI01	H14-43 1層	土師器	甕	口縁部	-	-	-	横ナデ	横ナデ		平安時代
24	2	SI01	H14-43 1層	須恵器	坏	口縁部	-	-	-	ロクロ	ロクロ		平安時代
24	3	SI01	H14-43 1層	須恵器	長頸壺	口縁部	-	-	-	ロクロ	ロクロ		平安時代
24	4	SI02	H14-41 1層	土師器	甕	口縁部	-	-	-	ナデ、横ナデ	ナデ、横ナデ		平安時代
24	5	SI04	4層P22	土師器	坏	略完形	12.8	5.0	5.7	ロクロ	ロクロ	底外面回転糸切。カマド支脚。	平安時代
24	6	SI04	H14-10 床直P3	土師器	坏	口縁部～底部	(12.6)	4.2	5.5	ロクロ	ロクロ	底外面回転糸切。	平安時代
24	7	SI04	H14-10 床直P18、2層P4	土師器	甕	胴部	-	-	-	胴下半ケズリ、輪積痕、胴上半タタキ、ロクロ	ナデ		平安時代
24	8	SI04	H14-10 床直P1・2・6・8・9・11・18、H14-10 Ⅰ層	土師器	甕	口縁～胴部	12.0	-	(7.9)	ケズリ、横ナデ	ヘラナデ、横ナデ	被熱で脆い。	平安時代
24	9	SI04	H14-10 床直P5	土師器	甕	口縁部～胴部	-	-	-	ロクロ、焼土付着	ロクロ、指ナデ		平安時代
24	10	SI04	H14 掘方2層P23	須恵器	長頸壺	底部	-	10.0	(3.8)	ケズリ	刷毛目?	底外面菊花状。	平安時代
24	11	SI04	1層P24	須恵器	甕	胴部	-	-	-	タタキ	あて具痕		平安時代
24	12	SI04	H14-10 床直P17	土師器	小坏	口縁部～胴部	-	-	-	指アト、横ナデ	指アト、横ナデ		平安時代
24	13	SI04	H14-10 床直P12	縄文土器	深鉢	胴部	-	-	-	単軸絡条体1類(L)縦走		繊維混入。	縄文時代前期中葉～後葉(円筒下層ｂ～ｄ式)
24	14	SI07	H14-5 1層	縄文土器	深鉢	胴部	-	-	-	単軸絡条体1類(L)縦走、結束第1種(LR･RL)		繊維混入。	縄文時代前期中葉～後葉(円筒下層ｂ～ｄ式)
25	15	SI08	2層P5	縄文土器	深鉢	略完形	(24.4)	12.6	40.6	結束第1種(L･R)横位、RL縦走		繊維混入。	縄文時代前期後葉?
25	16	SI08	2層P9	縄文土器	深鉢	略完形	-	11.6	39.8	結束第1種(RL･LR)横位、RRL縦走		繊維混入。	縄文時代前期後葉
25	17	SI08	2層P5	縄文土器	深鉢	口縁～胴部	(24.0)	-	19.5	RL側面圧痕(横位)、単軸絡条体第1類(R)縦位?、RL結節回転文、横位		繊維混入。	縄文時代前期後葉
25	18	SI08	2層P5	縄文土器	深鉢	略完形	(24.0)	12.0	32.0	単軸絡条体第1類側面圧痕、結束第1種(LR･RL)横位、単軸絡条体第1類(R)縦走	補修孔	繊維混入。	縄文時代前期後葉
26	19	SI08	H14-4 1層、2層P1	縄文土器	深鉢	口縁部～胴部	-	-	-	側面圧痕(RL)、結束第1種(LR･RL)?		繊維混入。	縄文時代前期後葉
26	20	SI08	H14-4 2層P7・8	縄文土器	深鉢	口縁部	-	-	-	隆帯、RL側面圧痕(横位)、単軸絡条体第1類(L)横位?		繊維混入。	縄文時代前期中葉?
26	21	SI08	H14-4 1層	縄文土器	深鉢	胴部	-	-	-	単軸絡条体5類(L)		繊維混入。	縄文時代前期中葉～後葉
26	22	SK01	H14-39・40 1層	土師器	小甕	底部	-	6.0	4.1	ナデ	ナデ	孔(未貫通)2個。	平安時代
26	23	SK02	H14-38 1層	土師器	坏	口縁部	-	-	-	ロクロ	ロクロ		平安時代
26	24	SK02	H14-38 底面P3	土師器	小甕	口縁部	-	-	-	ロクロ	ロクロ		平安時代
26	25	SK02	H14-38 1層	須恵器	甕	口頸部	-	-	-	タタキ→ロクロ	ロクロ、自然軸		平安時代
26	26	SK02	H14-38 3層	須恵器	甕	胴部	-	-	-	タタキ	あて具痕		平安時代
26	27	SK03	H14-38 1層	土師器	小甕	底部	-	(6.6)	(1.8)	ロクロ	ロクロ	底外面回転糸切。	平安時代
26	28	SK04	H14-38 1層	須恵器	坏	底部	-	(5.0)	(1.8)	ロクロ	ロクロ	底外面回転糸切。	平安時代

図番号	遺物番号	遺構名	出土位置・層位等	種類	器種	部位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	外面調整(文様)	内面調整(文様)	備考(底面調整)	時期
26	29	SK05	4層(底面)	須恵器	甕	胴部	-	-	-	タタキ	あて具痕		平安時代
26	30	SK07	4層	須恵器	甕	胴部	-	-	-	タタキ	あて具痕		平安時代
26	31	SK08	H14-23 2層	土師器	甕	口縁部	-	-	-	横ナデ	ナデ、横ナデ		平安時代
26	32	SK08	1層	土師器	甕	口縁部	-	-	-	横ナデ	横ナデ		平安時代
26	33	SK10	H14-9 1層	縄文土器	深鉢	胴部	-	-	-	RL			縄文時代
26	34	SK12	H14-2 1層	須恵器	坏	胴部	-	-	-	ロクロ	ロクロ		平安時代
26	35	SK12	H14-2 1層	縄文土器	深鉢	底部	-	-	-	RL(縦走)		繊維混入。	縄文時代前期中葉～後葉?(円筒下層b～d式?)
26	36	SK09	H14-7 3層	土師器	甕	口縁部	-	-	-	指ナデ、横ナデ	指ナデ、横ナデ		平安時代
26	37	SK09	H14-7 1層 P1・2	土師器	甕	底部	-	(9.2)	(4.0)	ナデ	ナデ	底外面ナデ	平安時代
26	38	SK09	H14-7 3層 P8、H14-7 1層	縄文土器	深鉢	底部	-	13.0	(3.4)	RL(縦走)		繊維混入。	縄文時代前期中葉～後葉?(円筒下層b～d式?)
26	39	SD02	H14-34 4層	須恵器	坏	口縁部	-	-	-	ロクロ、火だすき	ロクロ		平安時代
26	40	SD02	H14-34 2層	須恵器	壺	胴部	-	-	-	ロクロ、ケズリ	ロクロ		平安時代
26	41	SD02	H14-34 2層	須恵器	甕	胴部	-	-	-	タタキ	あて具痕		平安時代
26	42	SD03	H14-21 1層	土師器	甕	口縁部	(17.6)	-	(7.9)	ケズリ、横ナデ	ナデ、横ナデ	被熱痕。	平安時代
27	43	遺構外	H14-7 Ⅰ層	縄文土器	深鉢	口縁部	-	-	-	L側面圧痕(横位)、結束第1種(LR・RL)、単軸絡条体第1種(R)縦走		繊維混入。	縄文時代前期後葉(円筒下層c～d式)
27	44	遺構外	H14-5 Ⅰ層	縄文土器	深鉢	口縁部	-	-	-	R側面圧痕(斜位)、結束第1種(LR・RL)、単軸絡条体1類(R)縦走		繊維混入。	縄文時代前期後葉(円筒下層c～d式)
27	45	遺構外	H14-5 撹乱、H14-5 Ⅰ層	縄文土器	深鉢	口縁部～胴部	-	-	-	結束第1種(LR・RL)、RL(縦走)		繊維混入。	縄文時代前期中葉～後葉(円筒下層b～d式)
27	46	遺構外	H14-41 Ⅰ層	縄文土器	深鉢	口縁部	-	-	-	低い隆帯、刺突(棒状工具)、LR側面圧痕(横位)、単軸絡条体第5類(R)側面圧痕(横位)、結節回転文		繊維混入。	縄文時代前期後葉(円筒下層d式)
27	47	遺構外	H14-3 Ⅰ層	縄文土器	深鉢	口縁部	-	-	-	刺突(篦状工具)		繊維混入。	縄文時代前期後葉(円筒下層d式)
27	48	遺構外	H14-4 Ⅰ層	縄文土器	深鉢	口縁部	-	-	-	刺突(棒状工具)		繊維混入。	縄文時代前期後葉(円筒下層d式)
27	49	遺構外	H14-4 Ⅰ層	縄文土器	深鉢	胴部	-	-	-	隆帯、刺突(篦状工具)、R側面圧痕(斜位)、結束第1種(LR・RL)		繊維混入。	縄文時代前期後葉(円筒下層d式)
27	50	遺構外	H14-5 撹乱、H14-5 Ⅰ層	縄文土器	深鉢	底部	-	(9.2)	(9.0)	RL(縦走)		繊維混入。	縄文時代前期中葉～後葉(円筒下層b～d式)
27	51	遺構外	H14-8 Ⅰ層	縄文土器	深鉢	底部	-	10.0	(5.5)	R側面圧痕(縦位)		繊維混入。	縄文時代前期後葉(円筒下層d式)
27	52	遺構外	H14-21 Ⅰ層	縄文土器	壺	胴部	-	-	-	沈線			縄文時代後期前葉
27	53	遺構外	H14-2 Ⅰ層	土師器	坏	口縁～底部	14.0	6.8	5.4	ロクロ	ロクロ	底外面回転糸切。	平安時代
27	54	遺構外	H14-23 Ⅰ層	土師器	坏	胴部～底部	-	(5.6)	(2.8)	ロクロ	ロクロ	底外面回転糸切。	平安時代
27	55	遺構外	H14-2 Ⅰ層	土師器	小甕	胴部～底部	-	6.8	(4.5)	ロクロ	ロクロ	底外面回転糸切。	平安時代
27	56	遺構外	H14-7 Ⅰ層	土師器	甕	口縁部	-	-	-	ケズリ、横ナデ	ヘラナデ、横ナデ		平安時代
27	57	遺構外	H14-21 Ⅰ層	土師器	甕	胴部～底部	-	-	-	ケズリ	ナデ	底外面ナデ。	平安時代
27	58	遺構外	H14-40 Ⅰ層	須恵器	坏	口縁部	-	-	-	ロクロ、火だすき	ロクロ、火だすき		平安時代
27	59	遺構外	H14-21 Ⅰ層	須恵器	坏	胴部	-	-	-	ロクロ、刻書(+)	ロクロ		平安時代
27	60	遺構外	H14-43 Ⅰ層	須恵器	坏	胴部～底部	-	5.0	(4.0)	ロクロ、火だすき、刻書(父)	ロクロ、火だすき	底外面回転糸切。	平安時代
27	61	遺構外	H14-38 Ⅰ層	須恵器	坏	胴部～底部	-	4.8	(4.0)	ロクロ、火だすき、刻書(|)	ロクロ、火だすき	底外面回転糸切。	平安時代
27	62	遺構外	H14-37 Ⅰ層	須恵器	長頸壺	頸部	-	-	-	ロクロ	ロクロ		平安時代
27	63	遺構外	H14-27 Ⅰ層	須恵器	壺	胴部	-	-	-	ロクロ、刻書(/)	ロクロ		平安時代
27	64	遺構外	H14-21 Ⅰ層	須恵器	壺	肩部	-	-	-	ロクロ	ロクロ		平安時代
27	65	遺構外	H14-16 Ⅰ層	須恵器	壺	肩部	-	-	-	ロクロ	ロクロ		平安時代
27	66	遺構外	H14-37 Ⅰ層	須恵器	小型壺?	底部	-	4.6	(1.9)	ロクロ	ロクロ	底外面回転糸切。	平安時代
27	67	遺構外	H14-38 Ⅰ層	須恵器	甕	肩部	-	-	-	タタキ	あて具痕、ナデ		平安時代
27	68	遺構外	H14-38 Ⅰ層	須恵器	甕	胴部	-	-	-	タタキ	あて具痕、ナデ		平安時代

表11　配水管14号　石器観察表

図番号	遺物番号	遺構名	出土位置・層位	器種	分類	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石材	備考
28	69	遺構外	H14-3　Ⅰ層	石匙	横型	4.1	5.1	0.8	10.5	珪質頁岩	
28	70	遺構外	Ⅰ層(表面採取)	削掻器	4側縁	8.3	3.6	1.2	28.9	珪質頁岩	

表12　配水管14号　土製品観察表

図番号	遺物番号	遺構名	出土位置・層位	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	外面調整(文様)	備考
28	71	H14SK-04	H14-38　底面	羽口	(6.2)	(8.1)	2.4	98.8		

第４節　農道23号の検出遺構と出土遺物

農道23号調査区は、農道部分と流末水路部分からなる。農道部分は長さ約160m、幅約５m、流末水路部分は長さ約90m、幅約0.5mで、合計1,000㎡の調査を行った。

農道23号で検出された遺構とその略称は、下記のとおりである。

竪穴住居跡(SI)	５軒(すべて平安時代。内２軒で建て替えあり、１軒は掘立柱建物跡付属)
土坑(SK)	12基(縄文時代３基(01・03・07)、平安時代９基)
掘立柱建物跡(SB)	３棟
ピット(SP)	６基
溝跡(SD)	２条
道路状遺構(SF)	２基

検出された遺構は時代によって立地が異なる。縄文時代の遺構は、調査区南東にある現在三太溜池となっている谷に面する標高34～37mの区域にまとまる一方、平安時代の遺構は標高44～46mの区域と標高36～39mの区域の２ヶ所にみられる。標高約40～41mの区域にある掘立柱建物跡は、時期不明である。出土遺物は土器類８箱、石器類２箱の合計10箱で、平安時代のものが主体となっている。

以下、各遺構の詳細を記していく。

１　検出遺構

（１）　竪穴住居跡

平安時代の竪穴住居跡５軒が検出され、建て替えが認められたものは内２軒であった。

第１号竪穴住居跡(SI01、図31・32・45)

[位置・確認]流末水路調査区南東側、23－R13～R14グリッドに位置し、遺構確認面の標高は36.3m、第Ⅳ層で確認した。SI02と重複し、本遺構が新しい。

[平面形・規模]調査区の幅が狭く、北西壁の一部と南東壁にあるカマドのみの精査であったことから、遺構の全容は不明である。検出された壁長及び確認面から床面までの深さは、北西壁(0.7)m・深さ77㎝、南東壁(0.7)m・深さ60㎝を測る。北西壁は垂直に近い立ち上がりをみせている。住居の軸方向はN－151°－Eと思われる。

[床面・壁溝]基本的に地山をそのまま床面としているが、カマド周辺部では貼り床を施して平坦に整えている。壁溝は幅11～20㎝、深さ10～17㎝で、壁際を全周するようである。カマド部分でも壁溝が確認できたことから、一旦壁溝を掘削した後、埋め戻してカマドを構築したものと考えられる。

[柱穴]柱穴は検出されなかった。

[カマド]南東壁において、燃焼部や煙道部は粘土で構築される半地下式カマドが検出された。煙出し部及び煙道部は、天井部分が土圧によって崩落した状態で検出され、天井下面と煙道底面が密着して堆積土がほとんどない状態であった。確認できた火床面は26×(16)㎝の規模で、深さ２㎝まで被熱していた。煙道は住居外に約1.1m 延び、煙出し部へ緩やかに立ち上がっていく。煙道の軸方向はN－151°－Eである。

[その他の施設]その他の施設は検出されなかった。

[堆積土]確認面では黒色土、覆土中位では暗褐色土が自然堆積しており、上位の第１・４層には火山灰が検出され、第４層はTo-aであることが確認された（第３章第１節）。壁際にはロームブロック主体の褐色土もしくは明黄褐色土が堆積している。
[出土遺物]遺物はカマド付近の床面直上及び覆土から土師器片が出土し、縄文土器片もごく少量ある。そのうち土師器甕３点を図示した。１が東袖、３が西袖の端部に倒立で設置されていたもので、２はカマド周辺に散在した状態で出土した。
[小結] 覆土上位でTo-aが検出されたことからTo-a降下時には埋没が進んでいたもので、出土遺物、遺構の重複関係、堆積土の様相などからも９世紀後半頃には廃絶されたものと考えられる。

第２号竪穴住居跡（SI02、図31）
[位置 ・確認]流末水路調査区南東側、23－R14グリッドに位置し、遺構確認面の標高は36.3 m、第Ⅳ層で確認した。当初は土坑と思われたが、壁溝が検出されたことから竪穴住居跡の一部であるものと判断した。SI01、SK02と重複し、本遺構が古い。
[平面形・規模]大半が調査区域外にあるため平面形は不明であるが、隅丸方形をなすものと推測される。壁長及び確認面から床面までの深さは、北西壁（0.9）m・深さ73cm、南西壁（0.6）m・深さ70cmを測る。壁は垂直に近い立ち上がりで、住居の軸方向はN－ 117°－Eと思われる。
[床面・壁溝]地山をそのまま床面とし、壁溝は幅10～16cm、深さ５～７cmで全周するようである。
[柱穴・カマド]調査区域内では検出されなかった。
[その他の施設]北西壁際、壁溝で直径16cmの円形で深さ15cmのPit１が検出された。
[堆積土]覆土はロームを混入する暗褐色土が堆積し、底面付近では黒褐色土が堆積していた。人為的に埋め戻されたものと思われる。
[出土遺物]遺物は出土しなかった。
[小結] 遺構の重複関係、堆積土の様相などから、平安時代に廃絶された可能性がある。

第３号ａ竪穴住居跡（SI03a、図33～36・46～48・51）
[位置 ・確認]農道調査区北西側、23－８～９グリッドに位置し、遺構確認面の標高は45.6～45.8 m、第Ⅳ層で確認した。調査の結果、第３号竪穴住居跡は建て替えられていることが判明し、新期をSI03a、貼り床下層から検出された古期の住居跡をSI03bとした。またSK10・11と重複し、SK10より本遺構が古く、SK11より本遺構が新しい。SP04・08は掘立柱建物跡（SB04）を構成し、本竪穴住居跡に付属する。
[平面形 ・規模]北東部約４分の１程度が調査区域外にあるが、平面形は一辺が約5.5mの方形をなすものと推定される。壁長及び確認面から床面までの深さは、北西壁（3.7）m・深さ40～59cm、南西壁5.5 m・深さ48～51cm、南東壁（4.3）m・深さ24～47cmを測る。いずれの壁も垂直に近い立ち上がりをみせ、住居の軸方向はN－ 140°－Eである。
[床面・壁溝]本住居跡はSI03bを埋めて貼り床を施して平坦に整えており、壁溝は幅24～35cm、深さ13～31cmで、壁際を全周するように巡らされている。カマド部分でも掘り方が確認できたことから、一旦壁溝を掘削した後、埋め戻してカマドを構築したものである。また北西壁際の床面は、長さ2.5m、

幅30～70cmの範囲で被熱していた。
[柱穴]SI03内ではPit１～９の９基が検出された。そのうちSI03aではPit１・４・５・６が主柱穴と考えられ、Pit２・９も新しい住居(SI03a)に伴うものと考えられる。
[カマド]南東壁の西寄りに検出され、天井部は遺存していないものの粘土で構築された袖部の遺存状況は良好であった。半地下式カマドで、煙道底面に掘り方を有し側面には粘土が貼り付けられている。火床面は46×38cmで、深さ５～10cmまで被熱していた。火床面奥には支脚２基として小甕が倒立で設置され、東側の支脚１には13･14が、西側の支脚２には15が用いられていた。煙道は住居外に約1.2m延び、煙出し部へ緩やかに立ち上がっていく。煙道の軸方向はＮ－145°－Ｅである。また、カマド煙出しの両外側でピット３基が検出され、雨水等の流入を防ぐ上屋施設等があった可能性がある。
[その他の施設]住居内からは土坑１基(内SK1)が検出された。内SK1は116×96cmの楕円形、深さ29cmで、人為的に埋め戻されている。SI03bからSI03aに改築する際、住居内土坑も作られるが、まもなく埋め戻されて本土坑上面をSI03a床面として使用したものと考えられる。

住居外の付属施設として、南東側から掘立柱建物跡(SB04)、遺物集中地点１カ所、炭化物集中地点２カ所がある。SB04については後述するが、遺物・炭化物集中地点は竪穴住居に付属するSB04と重複する位置関係にあり、本竪穴住居跡と同時期に機能していた可能性が高い。遺物集中地点では、土師器甕(21・22)が出土し、炭化物集中地点の炭化材について樹種同定及び年代測定を行った(第３章第４・５節参照)。
[堆積土]全体的に暗褐色土が堆積し、第４・５・６層には焼土及び炭化物を多量に含んだ黒褐色土が堆積している。
[出土遺物]土器破片等の遺物は住居全体から散在して出土し、南東部４分の３には炭化物・焼土が密に出土している。カマド西側の壁際からは腰板と思われる炭化材(炭-23)が直立した状態で出土し、これを含めて本住居跡から出土した炭化材20点、N23-9炭化物集中地点２点、N23-10炭化物集中地点の３点について、樹種同定を行っている(第３章第４節参照)。カマド周辺からは、住居の壁材と思われるスサを含む焼成粘土の破片も出土した。

床面及び床面直上から遺物が多数出土しており、本調査区では最も多く出土した住居跡である。土師器鉢(４・５)・坏(６～12)・小甕(13～17)・羽釜(18)・甕(19～25)・堝(26・27)、須恵器皿(28)・坏(29～31)・壺(32～35)、土鈴(36～39)、土玉(40～42)、礫石器(43・44)、石製品(45)、鉄製刀子(46・47)を図示した。土師器鉢(４)と須恵器皿(28)はカマド西側から出土した。６・７は内面黒色処理を施す坏で、９・10は焼成・色調・胎土等から土師器と思われたが、刻書がみられることから焼成不良の須恵器である可能性がある。土師器甕の21・22は遺物集中地点から出土したもので、21はカマド出土遺物とも接合した。図51－76はSI05出土土器と接合した土師器甕である。

土鈴が４点出土した。完形のもの２点(36・37)、柄部のみ１点(38)、土鈴の内部に閉じ込められていたと思われる貫通孔を有さない玉(39)である。貫通孔を有する土玉(40～42)、Pit４から出土した磨石(43)、床面から出土した凹石(44)、碁石状石製品(45)、刀子も２点(46・47)図示した。
【掘立柱建物跡－ SB04】
[平面形・規模]SI03南東部でSP04(深さ28cm)、SP08(同28cm)のピット２基が検出された。現状では桁行、梁行とも１間で、北東側調査区域外にこれらに対応するピット列があって掘立柱建物を構成す

るものと思われる。軸方向はＮ －142°　－Ｅで、竪穴住居跡のカマド軸方向とほぼ一致する。
[堆積土]SP04・08とも黒褐色土が堆積し、いずれにも柱痕が検出された。
[出土遺物]SP04覆土からは土師器甕の小破片が１点出土したが、図示し得なかった。
【小結】SI03の炭－23、N23-9炭化物集中地点の炭－５、N23-10炭化物集中地点の炭－11の３点についてAMS法による年代測定を行った（第３章第５節参照）。SI03の炭－23、N23-10炭化物集中地点の炭－11 は８世紀後半～９世紀後半で古木効果の可能性があり、N23-9炭化物集中地点の炭－５は９世紀末～11世紀前半の年代が示された。出土遺物、遺構の重複関係、堆積土の様相などから、９世紀後半～10世紀初頭頃に廃絶されたものと思われる。

第３号ｂ竪穴住居跡（SI03b、図37）
[位置・確認]農道調査区北西側、23－８～９グリッドに位置する。当初１軒の竪穴住居跡とみていた第３号竪穴住居跡は、掘り方を調査した結果、古い時期の壁溝跡が検出されたことから、新期をSI03a、貼り床下層から検出された古期の住居跡をSI03bとした。
[平面形・規模]北東部約４分の１が調査区域外にあるが、平面形は方形と推定される。壁長及び確認面から壁溝底面までの深さは、北西壁(3.2)ｍ・深さ50㎝、南西壁4.0m・深さ64㎝、南東壁(3.4)ｍ・深さ50㎝を測る。いずれの壁も遺存していない。住居の軸方向はＮ－ 138°　－Ｅである。
[床面・壁溝]床面はSI03a構築時に壊されているため遺存していない。壁溝は幅(13～26)㎝、深さ(22～28)㎝で、壁際を全周するように巡らされていると思われる。
[柱穴]SI03内ではPit１～９の９基が検出され、そのうち古い住居であるSI03bでは、Pit３・７・８が主柱穴と考えられ、Pit１が古いSI03bでも使用されていた可能性がある。
[カマド・その他の施設]調査区域内では検出されなかった。
[堆積土]上位はSI03aの貼り床（掘り方）となっており、壁溝堆積土のみが検出された。
[出土遺物]遺物は出土しなかった。
[小結] 遺構の重複関係などから、９世紀後半頃にSI03aへ建て替えられたものと思われる。

第４号竪穴住居跡（SI04、図38・39・49・50）
[位置 ・確認] 農道調査区北西側、23－13～15グリッドに位置し、遺構確認面の標高は44.6～44.8 ｍ、第Ⅳ層で確認した。他遺構との重複は認められなかった。
[平面形・規模]北東半が調査区域外にあるが、平面形は一辺が約４ｍのほどの方形と推定される。壁長及び確認面から床面までの深さは、北西壁(2.4)ｍ・深さ59～76㎝、南東壁(2.0)ｍ・深さ35～68㎝、南西壁3.9m ・深さ61～80㎝を測る。いずれの壁も垂直に近い立ち上がりをみせ、住居の軸方向はＮ－ 130°　－Ｅである。
[床面・壁溝]床面は、壁際の一部は貼り床を施すようであるが、大半は地山をそのまま床面としている。壁溝は幅23～31㎝、深さ11～23㎝で、壁際を全周するように巡らされている。カマド部分でも壁溝が確認できたことから、一旦壁溝を掘削した後、埋め戻してカマドを構築した可能性が高い。
[柱穴]柱穴と思われるピットは８基検出され、そのうちPit２・７とPit４・８がそれぞれセットとなる主柱穴の可能性があり、これら２セットの柱穴配置が存在するものと思われる。Pit２は34×33㎝

の歪な円形で深さ46cm、Pit3は30×27cmの円形で深さ25cm、Pit4は36×(13)cmの歪な楕円形で深さ43cm、Pit5は50×38cmの半円形で深さ34cm、Pit6は33×28cmの楕円形で深さ35cm、Pit7は32×31cmの楕円形で深さ39cm、Pit8は29×18cmの半円形で深さ28cmの規模である。Pit2覆土からは小甕口縁(50)が出土している。

[カマド]南東壁の南寄りに検出されたが、北側の調査区際に溝状の落ち込みがもう1基検出されたことから、古い時期のカマド煙道掘り方と考えられる。いずれも半地下式で、燃焼部や煙道部の広い範囲に粘土が散在した状態で検出された。新カマドでは39×28cmの火床面が検出され、深さ4～9cmまで被熱していた。煙道は住居外に約1.5m 延び、煙出し部へ緩やかに立ち上がっていく。煙道の軸方向はN－127°－Eである。火床面奥のやや北寄りの地点には土師器小甕底部(51)が倒立状態で出土しており、支脚として使用されていたものと思われる。旧カマドは袖や火床面は検出されず、住居外約1m延びる煙道のみが検出されただけであり、詳細は不明である。

[その他の施設]Pit1、張出部1カ所、間仕切り溝2条が検出された。Pit1は住居中央部で検出された住居内土坑で、長軸113cm、確認できた短軸は(45)cmで不整な楕円形もしくは円形をなすものと思われる。床面からの深さは32cmで、底面は平坦で丸みを帯びながら壁が緩やかに立ち上がっている。張出部は南西壁の北西寄りに検出され、長さ94cm、幅74cm、遺構確認面からの深さ26cmである。張出部の壁際には幅10～14cmで深さ5～10cmの壁溝が巡っている。住居本体堆積土と同質の土壌が堆積・流入していることから、竪穴住居跡と同時に廃棄・埋没した付属施設であるものと判断した。間仕切り溝1は長さ78cm、幅17cmの溝状で深さ14cm、間仕切り溝2は長さ56cm、幅12cmの溝状で深さ5cm、南東端には深さ47cmのピット状落ち込みがある。

[堆積土]上位には黒色土もしくは黒褐色土が、下位にはローム粒を少量含む暗褐色土が堆積している。中位第3層には、白頭山苫小牧火山灰と思われる火山灰が検出され、自然堆積の可能性がある。

[出土遺物]カマド周辺から遺物が散在して出土した。そのうち、土師器坏(48)・小甕(49～58)・甕(59～61)・堝(62)、須恵器坏(63～66)・壺(67)・甕(68・69)を図示した。70は砥石、71は軽石製品でともに床面直上出土で、他に張出部覆土から敲石が1点出土したが図示していない。

[小結] 出土遺物、遺構の重複関係、火山灰及び堆積土の様相などから、9世紀後半～10世紀初頭頃に廃絶されたものと思われる。また床面で検出した溝跡は、調査時は間仕切り溝と考えていたが、カマド煙道が2基検出され、主柱穴が2セット想定できることを考慮すると、床面で検出された溝跡は間仕切り溝ではなく、古い住居の壁溝であった可能性もある。

第5号竪穴住居跡(SI05、図40・51)

[位置・確認]農道調査区北西側、23－12～13グリッドに位置し、遺構確認面の標高は45.4 m、第Ⅳ層で確認した。他遺構との重複は認められなかった。

[平面形・規模]住居北東部のみ確認され、遺構の大半は調査区域外にある。平面形は方形と推定される。壁長及び確認面から床面までの深さは、北壁(2.7)m・深さ10～22cm、東壁(2.2)m・深さ9～15cmを測る。住居の軸方向はN－98°－Eと思われる。

[床面・壁溝]貼り床で平坦に整え、深さ10～20cmの掘り方を有する。壁溝は検出されなかった。

[柱穴・カマド・その他の施設]調査区内では検出されなかった。ただし南東部、床面直上で焼土粒や

暗褐色土が堆積しており、南東壁にカマドが作られていることを示唆している。また、掘り方に焼土を多く含んでおり、改築された可能性も考えられる。
［堆積土］ローム粒を含む黒褐色土が主として堆積し、人為堆積と思われる。
［出土遺物］住居南東部の焼土付近の床面や床面直上から若干の遺物が出土した。そのうち土師器坏(72・73)・小甕(74・75)・甕(76・77)、須恵器坏(78)、貫通孔を有する土玉(79)を図示した。
［小結］出土遺物、遺構の重複関係、堆積土の様相などから、９世紀後半～10世紀前半頃に廃絶されたものと思われる。

（２）　土坑

第１号土坑(SK01、図41・52)
［位置・確認］流末水路調査区南東端、23-R18グリッドに位置する。標高34.0m、第Ⅴ層で確認した。
［平面形・規模］南西部が調査区域外にあって、かつ南側が風倒木によって壊されていることから、遺構の全容は不明である。確認できる遺構の規模は、長軸約140cm、短軸150cmで、平面形は楕円形を呈するものと思われる。確認面からの深さは0.4cmで、第Ⅵ層まで掘り込んで地山をそのまま底面としている。やや丸底状をなすが、壁はしっかりと立ち上がっている。
［堆積土］遺物や焼土を含む黄褐色土が主で、下位は褐灰色粘土ブロックが混入する人為堆積である。
［出土遺物・遺構の時期等］底面からほぼ完形の縄文土器が２個体(80・81)出土した。これらの土器から、縄文時代中期前葉の円筒上層ｂ式期の遺構と考えられるが、その用途は不明である。

第２号土坑(SK02、図31)
［位置・確認］流末水路調査区南東側、23-R14～15グリッドに位置する。標高は36.3m、第Ⅳ層で確認した。SI02と重複し、本遺構が新しい。
［平面形・規模］平面形は長軸130cm、短軸(31)cmの楕円形を呈するものと思われ、確認面からの深さは38～48cmである。地山を起伏のある丸底状底面とし、北西側にはテラス状となる部分がある。
［堆積土］確認面では黒褐色土が、覆土にはローム粒を含む黄褐色土が堆積し、人為的に埋め戻されたものと思われる。
［出土遺物・遺構の時期等］図示していないが、縄文土器小片と使用痕のある剥片１点が出土した。平安時代遺物が出土していないが、堆積土の様相、遺構形状や重複関係等から平安時代の可能性があるものの、その用途は不明である。

第３号土坑(SK03、図41)
［位置・確認］流末水路調査区南東側、23-R15～16グリッドに位置する。標高35.9m、第Ⅴａ層で確認した。調査区内では他遺構との重複は認められなかった。
［平面形・規模］大半は調査区域外にあって、確認できた規模は長軸218cmで短軸不明だが、おそらく平面形は直径200～220cm程度の円形をなすものと思われる。確認面からの深さは66～71cmで、第Ⅴｂ層と第Ⅵ層の層理面付近で平坦な底面としている。また底面の中央部付近と思われる位置から、直径24cm、深さ８cmの円形をなすと思われるPit１が検出された。

［堆積土］覆土上部では暗褐色土がみられるが、全体的にロームや粘土を含む褐色土が堆積している。もともとフラスコ状土坑で、壁上部が崩落したものである可能性がある。
［出土遺物 ・遺構の時期等］遺物は出土しなかったが、堆積土の様相や遺構の形態等から縄文時代の遺構と考えられ、その用途は貯蔵の可能性が高い。SK07と遺構の規模 ・形状 ・堆積土の様相等類似する点が多いことから、時期的・機能的に関連性があるものと思われる。

第４号土坑（SK04、図40）
［位置 ・確認］農道調査区北西側、23-12グリッドに位置する。標高45.4m、第Ⅳ層で確認した。他遺構との重複は認められなかった。
［平面形 ・規模］平面形は長軸146cm、短軸98cmの歪な楕円形を呈し、確認面からの深さは18～26cmである。地山をそのままやや起伏がある底面とし、断面形は漏斗状をなす。
［堆積土］ロームを含んだ暗褐色土が堆積し、人為堆積と思われる。中央部で少量の焼土が検出された。
［出土遺物 ・遺構の時期等］図示していないが覆土から土師器甕の小片２点が出土した。堆積土の様相と出土遺物等から平安時代の遺構と考えられるが、その用途は不明である。

第５号土坑（SK05、図42・52）
［位置 ・確認］農道調査区北西側、23-6グリッドに位置する。標高45.9m、第Ⅳ層で確認し、他遺構との重複は認められなかった。
［平面形 ・規模］平面形は長軸146cm、短軸128cmの不整な楕円形を呈し、確認面からの深さは28cmである。底面は第Ⅴ層まで掘り込んだ掘り方に土層を充填して平坦に仕上げ、断面形は皿状をなす。
［堆積土］堆積土の大半は黒褐色土で、ローム粒を少量含む。人為堆積の可能性がある。
［出土遺物 ・遺構の時期等］土師器 ・須恵器の破片が底面及び覆土から少量出土した。そのうち、底面から出土した土師器甕（82）、覆土から出土した須恵器壺口縁（83）を図示した。堆積土の様相や出土遺物等から平安時代の遺構と考えられるが、その用途は不明である。

第６号土坑（SK06、図41）
［位置 ・確認］流末水路調査区北西側、23-R4グリッドに位置する。標高39.5m、第Ⅳ層で確認した。他遺構との重複は認められなかった。
［平面形 ・規模］確認できた規模は164cmであるが、遺構の両端が調査区域外にあることから長軸か短軸であるか判然としない。遺構の平面形も楕円形あるいは溝状をなす可能性があるが、南東部でテラス状になる部分もあって、全体の形状は不明な点が多い。確認面からの深さは55～58cmで、テラス部分は土坑底面から約40cm高い。第Ⅴ層地山をそのまま平坦な底面としており、壁はしっかりと立ち上がって断面形はコ字状をなす。
［堆積土］堆積土の大半はロームや焼土を含む暗褐色土もしくは黒褐色土で、上位には焼土を多く含む第２層がレンズ状に堆積している。人為的に埋め戻された可能性が高い。
［出土遺物 ・遺構の時期等］土師器甕の破片が少量出土したが、図示し得る遺物はなかった。堆積土の様相や出土遺物等から、平安時代の遺構と考えられるが、その用途は不明である。

第７号土坑（SK07、図41）

［位置 ・確認］流末水路調査区南東側、23-R16～17グリッドに位置する。標高35.5m、第Ⅴa層で確認した。他遺構との重複は認められなかった。

［平面形 ・規模］大半は調査区域外にあって、確認できた規模は長軸222cmで短軸不明だが、おそらく平面形は直径210～230cm程度の円形をなすものと思われる。確認面からの深さは56～88cmで、第Ⅵ層で平坦な底面としている。また底面の中央部付近と思われる位置から、直径21cm、深さ11cmの円形をなすと思われるPit１が検出された。

［堆積土］覆土上部では暗褐色土がみられるが、全体的に灰黄褐色～明黄褐色ロームが主として堆積している。もともとフラスコ状土坑で、壁上部が崩落したものである可能性がある。

［出土遺物 ・遺構の時期等］遺物は出土しなかった。堆積土の様相と遺構の形態等から、縄文時代の遺構と考えられ、その用途は貯蔵の可能性が高い。SK03と遺構の規模 ・形状 ・堆積土の様相等類似する点が多いことから、時期的・機能的に関連性があるものと思われる。

第８号土坑（SK08、図42）

［位置 ・確認］農道調査区北西側、23-11グリッドに位置する。標高45.4m、第Ⅳ層で確認した。他遺構との重複は認められなかった。

［平面形 ・規模］平面形は長軸93cm、短軸81cmの歪な方形もしくは円形を呈し、確認面からの深さは43cmである。底面は第Ⅴ層まで掘り込んで地山をそのまま底面としており、滑らかな丸底状に仕上げている。土坑底面の西側壁際に、33×30cmの楕円形のピットが検出された。土坑底面からの深さは約４cmで、その中から15×7cm程度の粘土塊が１点出土した。

［堆積土］全体的にローム粒や粘土粒を含み、暗褐色土もしくは黒褐色土が主体となっている。底面付近は黒色土が堆積しており、人為的に埋め戻されたものと思われる。

［出土遺物 ・遺構の時期等］覆土から土師器坏の破片が出土したのみで図示し得る遺物はなかった。堆積土の様相、出土遺物等から平安時代の遺構と考えられ、その用途は可能性の一つとして粘土貯蔵が挙げられる。

第９号土坑（SK09、図33・36・52）

［位置 ・確認］農道調査区北西側、23-9グリッドに位置する。標高45.6m、第Ⅳ層で確認した。他遺構との重複は認められなかった。

［平面形 ・規模］平面形は長軸128cm、短軸115cmの不整な円形を呈し、確認面からの深さは61～73cmである。底面は地山を底面とし、断面形はコ字状、全体の形状は円筒状をなしている。

［堆積土］上位はローム粒 ・焼土粒 ・炭化物 ・粘土等を含む暗褐色土及び明黄褐色土の互層をなしており、下位は黒褐色土が主体となっている。人為的に埋め戻されたものである。

［出土遺物 ・遺構の時期等］覆土から土師器甕口縁部片（84）が出土した。堆積土の様相、出土遺物等から、平安時代の遺構と考えられる。その用途は不明であるが、SI03と関連する可能性がある遺物集中地点や掘立柱建物（SB04）と位置的に近いことから、これらとの関連も想定できる。

第10号土坑（SK10、図33）

［位置 ・確認］農道調査区北西側、23-8グリッドに位置する。標高45.8m、第Ⅳ層でSI03aの精査中に確認した。東側の一部はSI03aの精査によって掘り上げてしまい、記録することができなかった。SI03aと重複し、本遺構が新しい。

［平面形・規模］平面形は長軸128cm、短軸（73）cmの楕円形を呈し、確認面からの深さは25cmである。地山を平坦な底面としており、丸みを帯びながら壁が立ち上がる。断面形は皿状をなしている。

［堆積土］ロームや炭化物を含んだ暗褐色土が堆積しており、人為堆積とみられる。

［出土遺物・遺構の時期等］覆土から土師器甕の小片が出土したが、図示し得なかった。堆積土の様相、出土遺物、遺構の重複関係等から平安時代の遺構と考えられるが、その用途は不明である。

第11号土坑（SK11、図33）

［位置・確認］農道調査区北西側、23-8グリッドに位置する。標高45.8m、第Ⅳ層で確認した。SI03aと重複し、本遺構が古い。

［平面形 ・規模］平面形は東側がSI03aによって壊されており、長軸97cm、短軸（38）cmを確認した。円形もしくは楕円形をなすものと思われる。確認面からの深さは44cmで、地山をそのまま丸底状の底面としている。断面形は丸底状をなす可能性がある。

［堆積土］堆積土はロームを少量含む黒褐色土と暗褐色土で、自然堆積の可能性がある。

［出土遺物 ・遺構の時期等］遺物は出土しなかった。堆積土の様相、遺構の重複関係等から平安時代の遺構と考えられるが、その用途は不明である。

第12号土坑（SK12、図40・51）

［位置・確認］農道調査区北西側、23-12グリッドに位置する。標高45.4m、第Ⅳ層で確認した。SP05と重複し、本遺構が新しい。

［平面形 ・規模］平面形は長軸128cm、短軸79cmの楕円形を呈し、確認面からの深さは24cmである。底面は地山をそのまま底面としており、やや凹凸がある。断面形は皿状をなしている。

［堆積土］堆積土はロームを含む黒褐色土が主として堆積し。自然堆積と思われる。

［出土遺物 ・遺構の時期等］土師器坏（図51－73）が出土し、SI05出土土器と接合した。他に覆土から土師器甕の小片が出土したが、図示し得なかった。堆積土の様相、遺構の重複関係等から平安時代の遺構と考えられるが、その用途は不明である。

（３）　掘立柱建物跡・ピット

農道23号では掘立柱建物跡とみられる遺構を４棟検出した。調査時に「SP」を付していたピットは８基検出したが、精査の結果、２基が掘立柱建物跡を構成することがわかったため、掘立柱建物跡や竪穴住居跡と関連性のない単独のピットは６基である。各SPの位置は図29の遺構配置図等に、計測値等は表13に示した。

ここでは単独の掘立柱建物跡と思われる３棟について記載し、SP04・08で構成する第４号掘立柱建物跡は、第３号竪穴住居跡に付属することから、そちらに記載している。

表13　農道23号　ピット計測表

SP番号	図版番号	グリッド	標高(m)	規模(cm)			備考
				長軸	短軸	深さ	
1	44	N23-22	41.4	40	26	87	
2	38	N23-14	44.6	25	24	22	
3	42	N23-10・11	45.3	50	36	34	SP03→SP07。土師器甕小片１点出土。
4	33・36	N23-9・10	45.2	37	34	28	SI03付属SB04のピットで、柱痕あり。土師器甕小片１点出土。
5	40	N23-12	44.5	56	47	85	土師器甕小片１点出土。
6	42	N23-10	45.3	43	34	31	土師器甕小片１点出土。
7	42	N23-10	45.2	38	30	38	SP03→SP07。
8	33・34・36	N23-9	45.3	46	23	28	SI03付属SB04のピットで、柱痕あり。

第１号掘立柱建物跡（SB01、図43）

［位置・確認］農道調査区南東側、23－28・29グリッドに位置し、標高40.7～40.9m、第Ⅳ層で検出された。SB02と重複し、本遺構が新しい。

［平面形・規模］Pit１～４の４基のピットで構成され、現状では梁行１間×桁行１間であるが、北東側は調査区域外にさらに延びる可能性があり、北西から南東方向に主軸を有する亀甲形の掘立柱建物跡となる可能性が高い。南北方向を主軸方向とするとN－40°－Wである。柱痕はPit１・３・４の３基から検出された。

［出土遺物・遺構の時期等］遺物は出土せず、遺構の時期は不明である。

第２号掘立柱建物跡（SB02、図43）

［位置・確認］農道調査区南東側、23－28・29グリッドに位置し、標高40.6～40.8m、第Ⅳ層で検出された。SB01と重複し、本遺構が古い。

［平面形・規模］Pit１～７の７基のピットで構成され、現状では梁行１間×桁行３間の長方形の掘立柱建物跡と推定されるが、北側もしくは南側は調査区域外にさらに延びる可能性がある。南北方向を主軸方向とすると、N－14°－Eである。柱痕はPit１・３の２基から検出された。

［出土遺物・遺構の時期等］遺物は出土せず、遺構の時期は不明である。

第３号掘立柱建物跡（SB03、図38）

［位置・確認］農道調査区北西側、23－14グリッドに位置し、標高44.9～45.0m、第Ⅴ層で検出された。他遺構との直接的な重複は認められなかった。

［平面形・規模］Pit１・２の２基が確認されただけで現状では桁行１間のみであるが、北西方向に桁行きが延び、南西方向に梁行きが延びるものと思われる。南北方向を主軸とするとN－49°－Wで

ある。

［出土遺物 ・遺構の時期等］遺物は出土せず、遺構の時期は不明であるが、北西調査区域外に竪穴住居跡が存在している可能性がありそれに付属するものであれば平安時代のものと考えられる。

（４） 溝跡

農道23号からは合計2条の溝跡が検出された。調査区北側に２条まとまってあり、いずれも北東－南西方向へ流れるものと思われる。

第１号溝跡（SD01、図44）

［位置 ・確認］農道調査区北西端、23－4グリッドに位置し、遺構確認面の標高は46.0m、第Ⅳ層で確認した。

［平面形 ・規模 ・底面］南西側は調査区外に延びており、調査区内で確認できた長さは(3.3)mの直線的な溝である。確認面での幅は0.7～0.8mを測り、確認面から底面までの深さは15～20cmである。底面は掘り方を有し、確認面から掘り方底面までの深さは28～44cmである。底面は概ね平坦に整えられ、断面形はコ字状を呈している。底面は北東端より南西端が約10cm低くなっており、底面は南西端へ傾斜して構築されている。

［堆積土］堆積土は黒褐色土及び暗褐色土が堆積している。自然堆積の可能性が高い。

［出土遺物 ・遺構の時期等］覆土から土師器坏 ・甕の破片が少量出土したが、図示し得なかった。堆積土に白頭山苫小牧火山灰が検出されていないことから、降下時期には埋没しきっていた可能性が考えられる。本遺構の機能はその形状や走行方向から排水、区画などの可能性が考えられるが特定できない。

第２号溝跡（SD02（旧SF03）、図44・52）

［位置 ・確認］農道調査区北西端、23－4グリッドに位置し、遺構確認面の標高は46.0m、第Ⅳ層で確認した。調査時は「SF03」と呼称していた。

［平面形 ・規模 ・底面］調査区を北東－南西方向に横切る直線状の遺構で、両端とも調査区域外に延びており、遺構の全容は不明である。調査区内で確認できた長さは(5.6)mで、確認面での幅は0.9～1.1mを測る。底面までの深さは約10cmであるが、断面観察によると本来約20cmの深さを有していたものと思われる。底面は第Ⅳ層下部まで掘り込み、掘り方を有して概ね平坦に整えられ、断面形はコ字状をなす。底面は北東端より南西端が約５cm標高が低く、南西端へ傾斜して構築されている。

［堆積土］堆積土はローム粒 ・炭化物を含む黒褐色土で、自然堆積とみられる。第１層で検出された火山灰は、分析の結果白頭山苫小牧火山灰であることが確認された（第３章第１節）。

［出土遺物 ・遺構の時期等］覆土及び底面から土師器甕及び須恵器壺の破片が少量出土した。そのうち土師器甕(85)・小甕(86)を図示した。遺構確認面付近で白頭山苫小牧火山灰が検出されたことから、埋没過程中に火山灰が降下したものと考えられる。本遺構の機能はその形状や走行方向から排水、区画などの可能性が考えられるが断定できない。

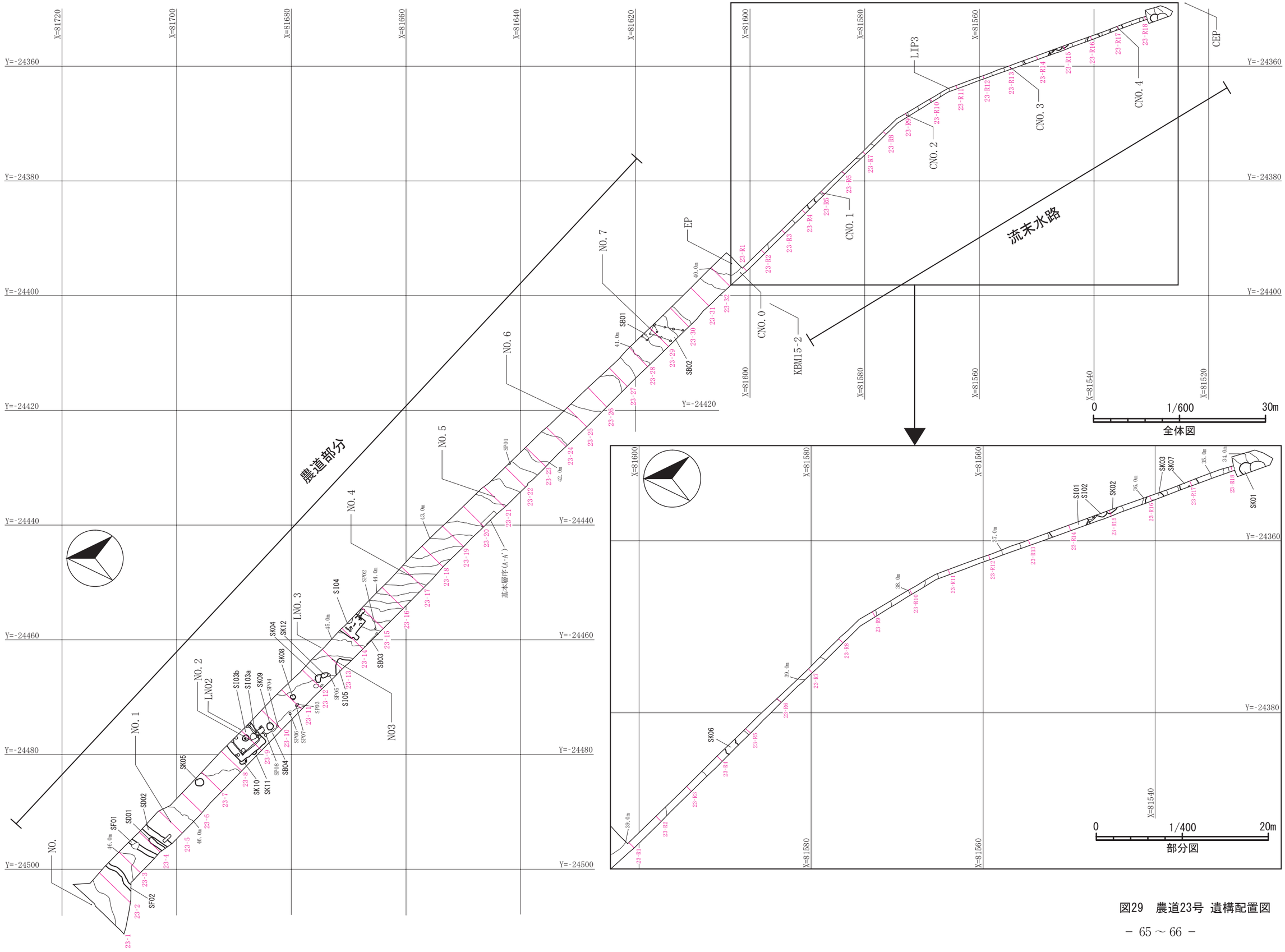


図29　農道23号 遺構配置図

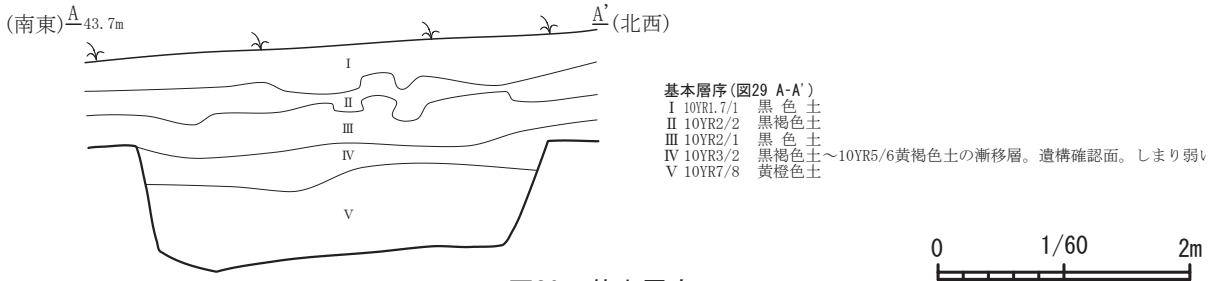


図30　基本層序

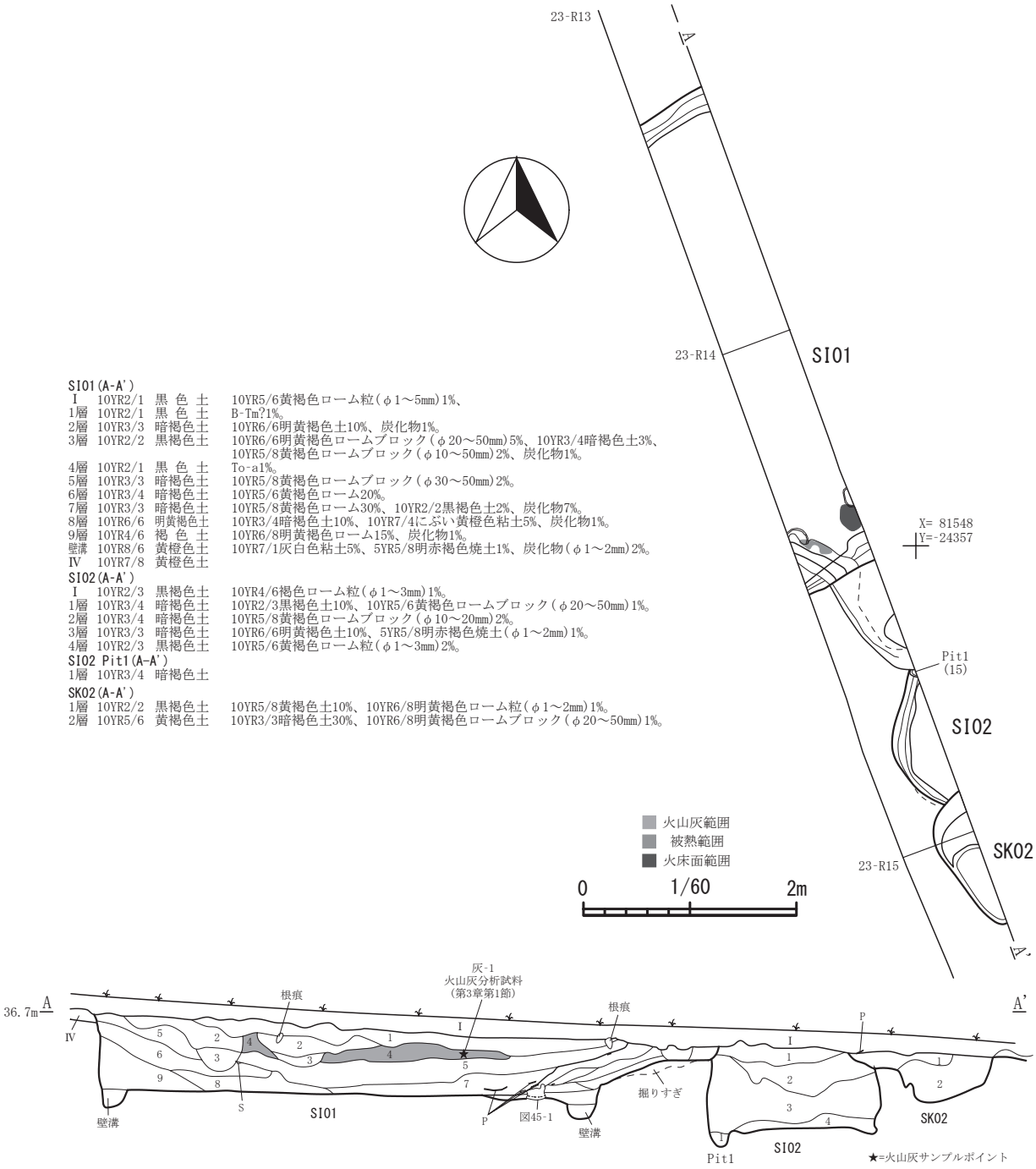
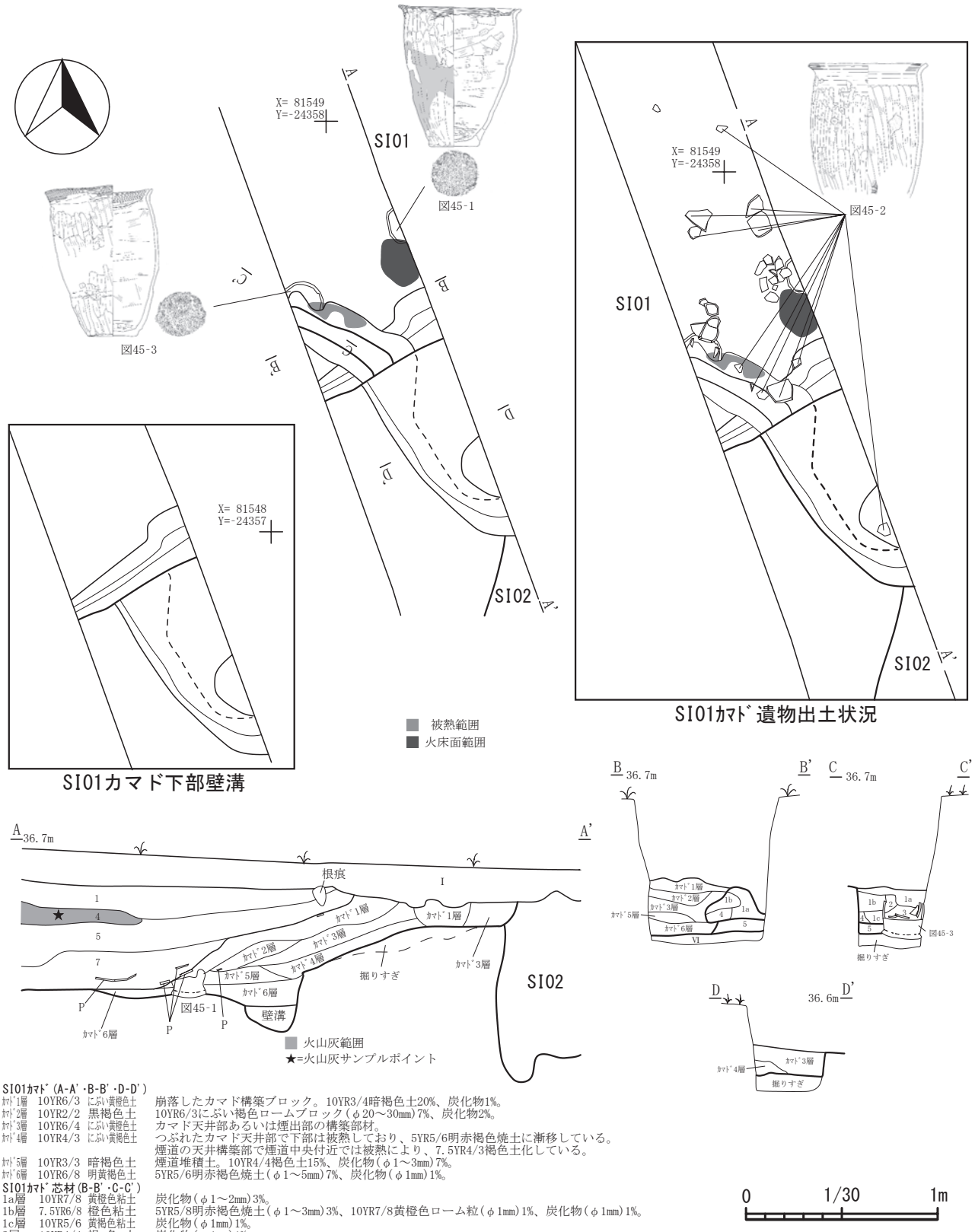


図31　第１・２号竪穴住居跡(１)・第２号土坑



SI01カマド(A-A'・B-B'・D-D')

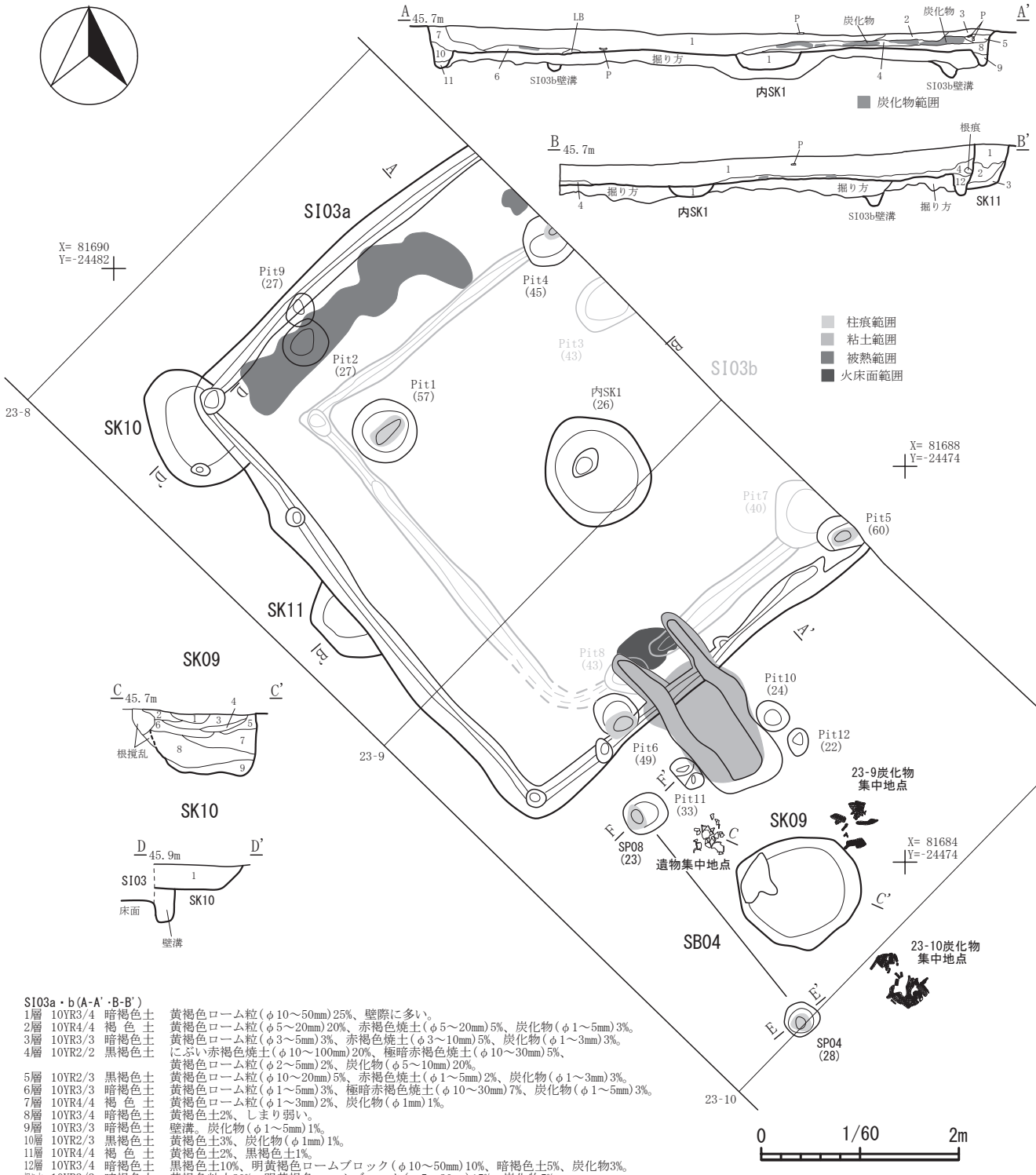
カマド1層	10YR6/3	にぶい黄橙色土	崩落したカマド構築ブロック。10YR3/4暗褐色土20%、炭化物1%。
カマド2層	10YR2/2	黒褐色土	10YR6/3にぶい褐色ロームブロック(φ20～30mm)7%、炭化物2%。
カマド3層	10YR6/4	にぶい黄橙色土	カマド天井部あるいは煙出部の構築部材。
カマド4層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	つぶれたカマド天井部で下部は被熱しており、5YR5/6明赤褐色焼土に漸移している。
			煙道の天井構築部で煙道中央付近では被熱により、7.5YR4/3褐色土化している。
カマド5層	10YR3/3	暗褐色土	煙道堆積土。10YR4/4褐色土15%、炭化物(φ1～3mm)7%。
カマド6層	10YR6/8	明黄褐色土	5YR5/6明赤褐色焼土(φ1～5mm)7%、炭化物(φ1mm)1%。

SI01カマド芯材(B-B'・C-C')

1a層	10YR7/8	黄橙色粘土	炭化物(φ1～2mm)3%。
1b層	7.5YR6/8	橙色粘土	5YR5/8明赤褐色焼土(φ1～3mm)3%、10YR7/8黄橙色ローム粒(φ1mm)1%、炭化物(φ1mm)1%。
1c層	10YR5/6	黄褐色粘土	炭化物(φ1mm)1%。
2層	10YR4/4	褐 色 土	炭化物(φ1mm)1%。
3層	10YR2/3	黒褐色土	10YR5/8黄褐色土20%、土器あり。
4層	10YR4/6	褐 色 土	5YR5/8明赤褐色焼土2%、炭化物1%。
5層	10YR6/8	明黄褐色土	SI01の貼り床層。5YR5/8明赤褐色焼土(φ1mm)2%、炭化物(φ1mm)1%。

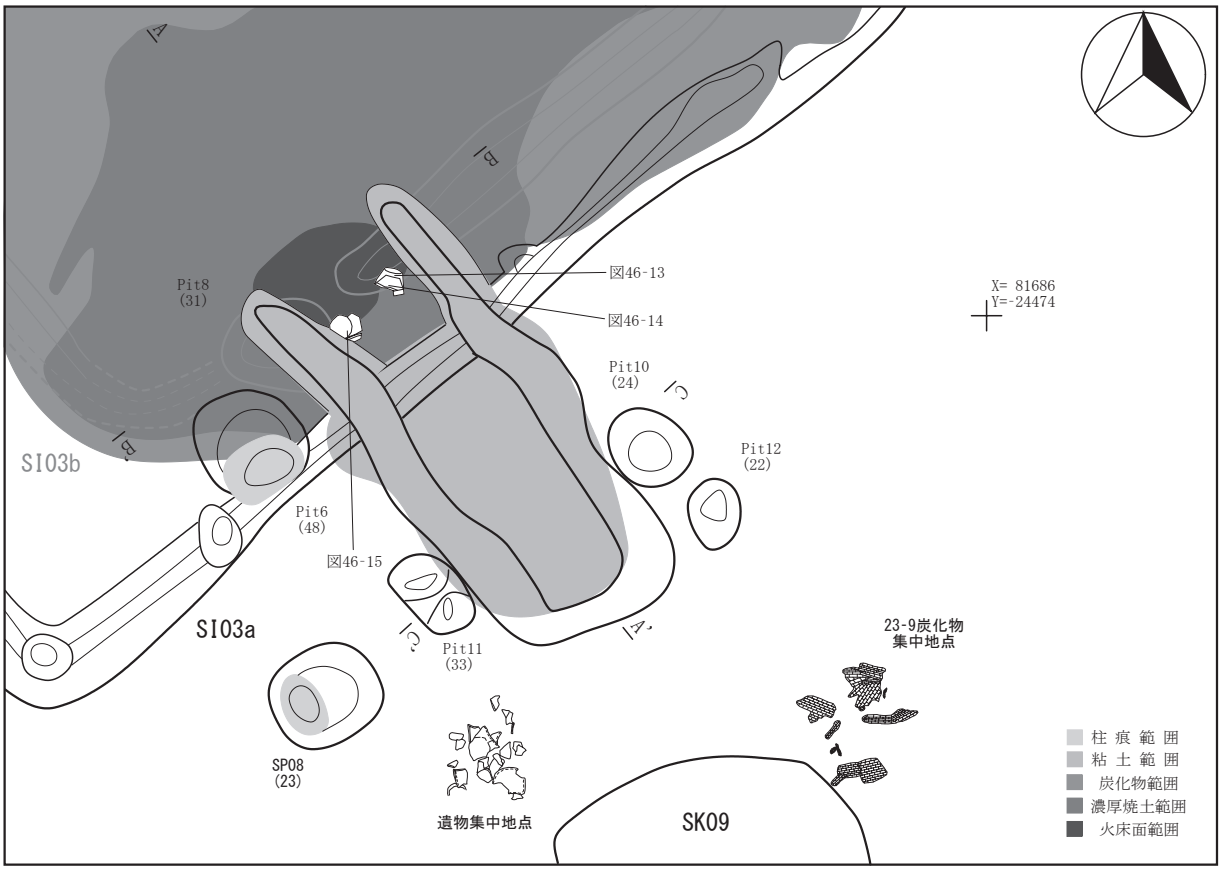
※カマド袖の同一粘土部材を1層とし、そのうち被熱している部分を1b層とした。

図32　第１・２号竪穴住居跡(２)

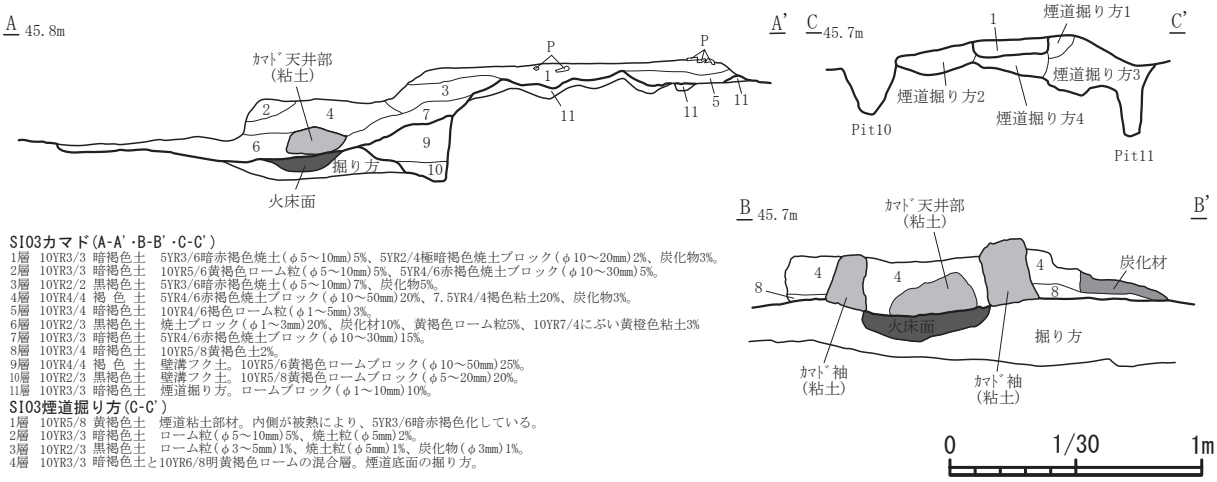


SI03a・b(A-A'・B-B')
1層　10YR3/4　暗褐色土　黄褐色ローム粒(φ10～50mm)25%、壁際に多い。
2層　10YR4/4　褐　色　土　黄褐色ローム粒(φ5～20mm)20%、赤褐色焼土(φ5～20mm)5%、炭化物(φ1～5mm)3%。
3層　10YR3/3　暗褐色土　黄褐色ローム粒(φ3～5mm)3%、赤褐色焼土(φ3～10mm)5%、炭化物(φ1～3mm)3%。
4層　10YR2/2　黒褐色土　にぶい赤褐色焼土(φ10～100mm)20%、極暗赤褐色焼土(φ10～30mm)5%、
黄褐色ローム粒(φ2～5mm)2%、炭化物(φ5～10mm)20%。
5層　10YR2/3　黒褐色土　黄褐色ローム粒(φ10～20mm)5%、赤褐色焼土(φ1～5mm)2%、炭化物(φ1～3mm)3%。
6層　10YR3/3　暗褐色土　黄褐色ローム粒(φ1～5mm)3%、極暗赤褐色焼土(φ10～30mm)7%、炭化物(φ1～5mm)3%。
7層　10YR4/4　褐　色　土　黄褐色ローム粒(φ1～3mm)2%、炭化物(φ1mm)1%。
8層　10YR3/4　暗褐色土　黄褐色土2%、しまり弱い。
9層　10YR3/3　暗褐色土　壁溝。炭化物(φ1～5mm)1%。
10層　10YR2/3　黒褐色土　黄褐色土3%、炭化物(φ1mm)1%。
11層　10YR4/4　褐　色　土　黄褐色土2%、黒褐色土1%。
12層　10YR3/4　暗褐色土　黒褐色土10%、明黄褐色ロームブロック(φ10～50mm)10%、暗褐色土5%、炭化物3%。
掘り方　10YR3/3　暗褐色土　黄褐色粘土20%、明黄褐色ロームブロック(φ5～30mm)15%、炭化物5%。
壁溝　10YR4/4　褐　色　土　明黄褐色ロームブロック(φ10～50mm)15%、炭化物(φ1mm)2%。
SI03内SK1(A-A'・B-B'・K-K')
1層　10YR4/4　褐　色　土　黄褐色ローム(φ5～10mm)7%、黒褐色土5%、しまり弱い。
SK09(C-C')
1層　10YR2/3　黒褐色土　黄褐色ローム粒(φ5～10mm)5%、炭化物3%。
2層　10YR3/3　暗褐色土　根撹乱?黄褐色ローム粒(φ1～5mm)10%、明黄褐色ローム粒(φ5～10mm)3%、炭化物3%。
3層　10YR3/4　暗褐色土　明黄褐色ローム粒(φ1～5mm)15%、焼土粒5%、炭化物5%。
4層　10YR6/8　明黄褐色土　焼けた粘土？焼土粒40%、炭化物3%。
5層　10YR3/3　暗褐色土　黄褐色ローム粒(φ1～5mm)7%。
6層　10YR4/6　褐　色　土　焼土塊が部分的に混入。黄褐色ローム粒(φ1～10mm)10%、黒褐色土5%、炭化物2%。
7層　10YR4/4　褐　色　土　下位に明黄褐色ロームブロック(φ10～30mm)10%、上位にローム粒(φ3～10mm)10%が堆積。炭化物3%。
8層　10YR2/2　黒褐色土　黄褐色ローム粒(φ1～15mm)10%。
9層　10YR2/3　黒褐色土　黄褐色ロームブロック(φ5～20mm)30%。
SK10(D-D')
1層　10YR3/4　暗褐色土　明黄褐色ロームブロック(φ5～30mm)7%、炭化物(φ1～2mm)2%。
SK11(B-B')
1層　10YR2/3　黒褐色土　10YR5/8黄褐色ローム粒(φ1～10mm)5%。
2層　10YR3/3　暗褐色土　10YR5/8黄褐色ローム粒(φ1～5mm)3%。
3層　10YR3/4　暗褐色土　10YR6/6明黄褐色ロームブロック(φ5～20mm)3%、炭化物2%。

図33　第３号竪穴住居跡（１）・第９～11号土坑



SI03aカマド周辺遺構



SI03カマド(A-A'・B-B'・C-C')

1層　10YR3/3 暗褐色土　5YR3/6暗赤褐色焼土(φ5～10mm)5%、5YR2/4極暗褐色焼土ブロック(φ10～20mm)2%、炭化物3%。
2層　10YR3/3 暗褐色土　10YR5/6黄褐色ローム粒(φ5～10mm)5%、5YR4/6赤褐色焼土ブロック(φ10～30mm)5%。
3層　10YR2/2 黒褐色土　5YR3/6暗赤褐色焼土(φ5～10mm)7%、炭化物5%。
4層　10YR4/4 褐 色 土　5YR4/6赤褐色焼土ブロック(φ10～50mm)20%、7.5YR4/4褐色粘土20%、炭化物3%。
5層　10YR3/4 暗褐色土　10YR4/6褐色ローム粒(φ1～5mm)3%。
6層　10YR2/3 黒褐色土　焼土ブロック(φ1～3mm)20%、炭化材10%、黄褐色ローム粒5%、10YR7/4にぶい黄橙色粘土3%
7層　10YR3/3 暗褐色土　5YR4/6赤褐色焼土ブロック(φ10～30mm)15%。
8層　10YR3/4 暗褐色土　10YR5/8黄褐色土2%。
9層　10YR4/4 褐 色 土　壁溝フク土。10YR5/6黄褐色ロームブロック(φ10～50mm)25%。
10層　10YR2/3 黒褐色土　壁溝フク土。10YR5/8黄褐色ロームブロック(φ5～20mm)20%。
11層　10YR3/3 暗褐色土　煙道掘り方。ロームブロック(φ1～10mm)10%。

SI03煙道掘り方(C-C')

1層　10YR5/8 黄褐色土　煙道粘土部材。内側が被熱により、5YR3/6暗赤褐色化している。
2層　10YR3/3 暗褐色土　ローム粒(φ5～10mm)5%、焼土粒(φ5mm)2%。
3層　10YR2/3 黒褐色土　ローム粒(φ3～5mm)1%、焼土粒(φ5mm)1%、炭化物(φ3mm)1%。
4層　10YR3/3 暗褐色土と10YR6/8明黄褐色ロームの混合層。煙道底面の掘り方。

図34　第３号竪穴住居跡（２）カマド

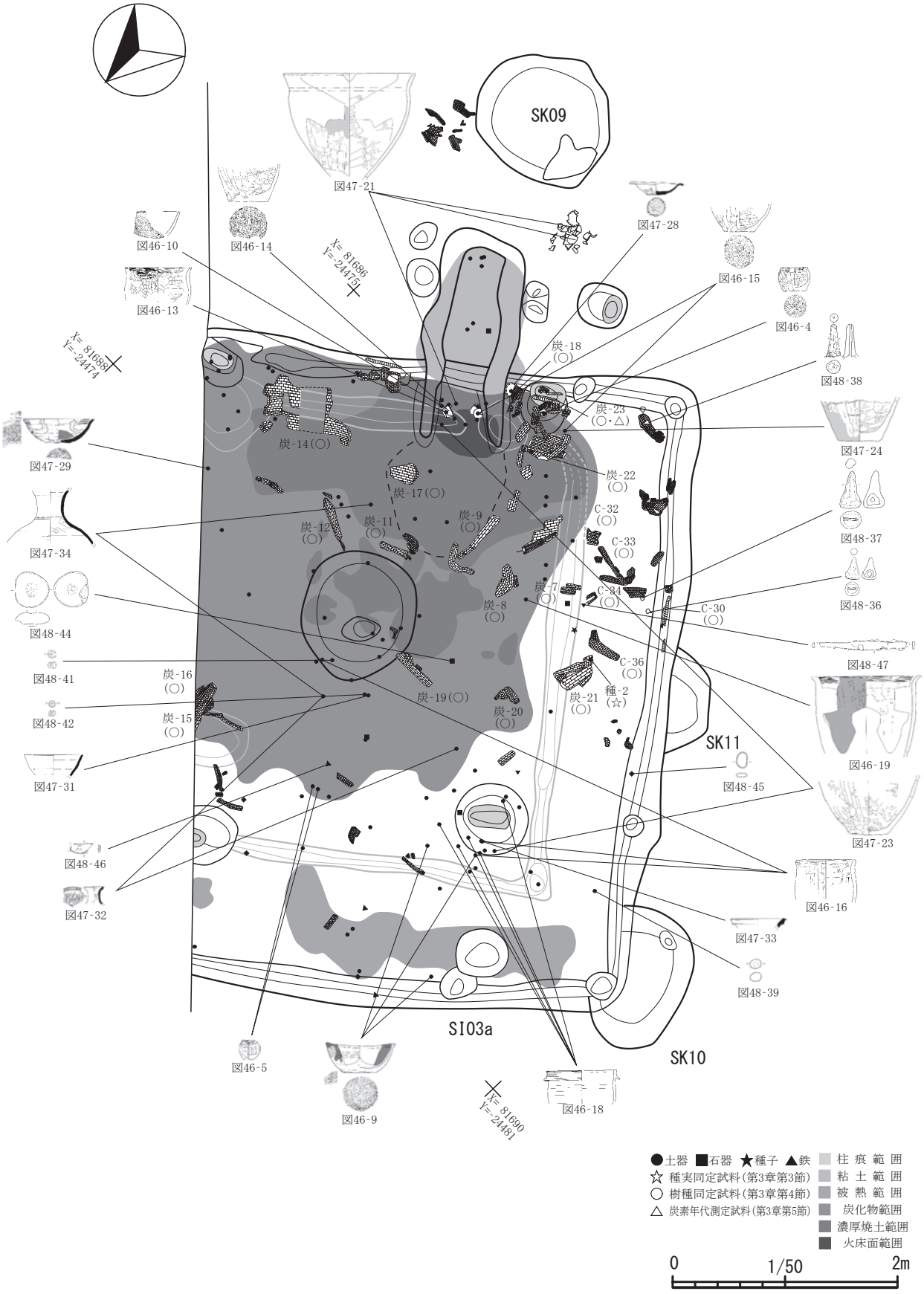
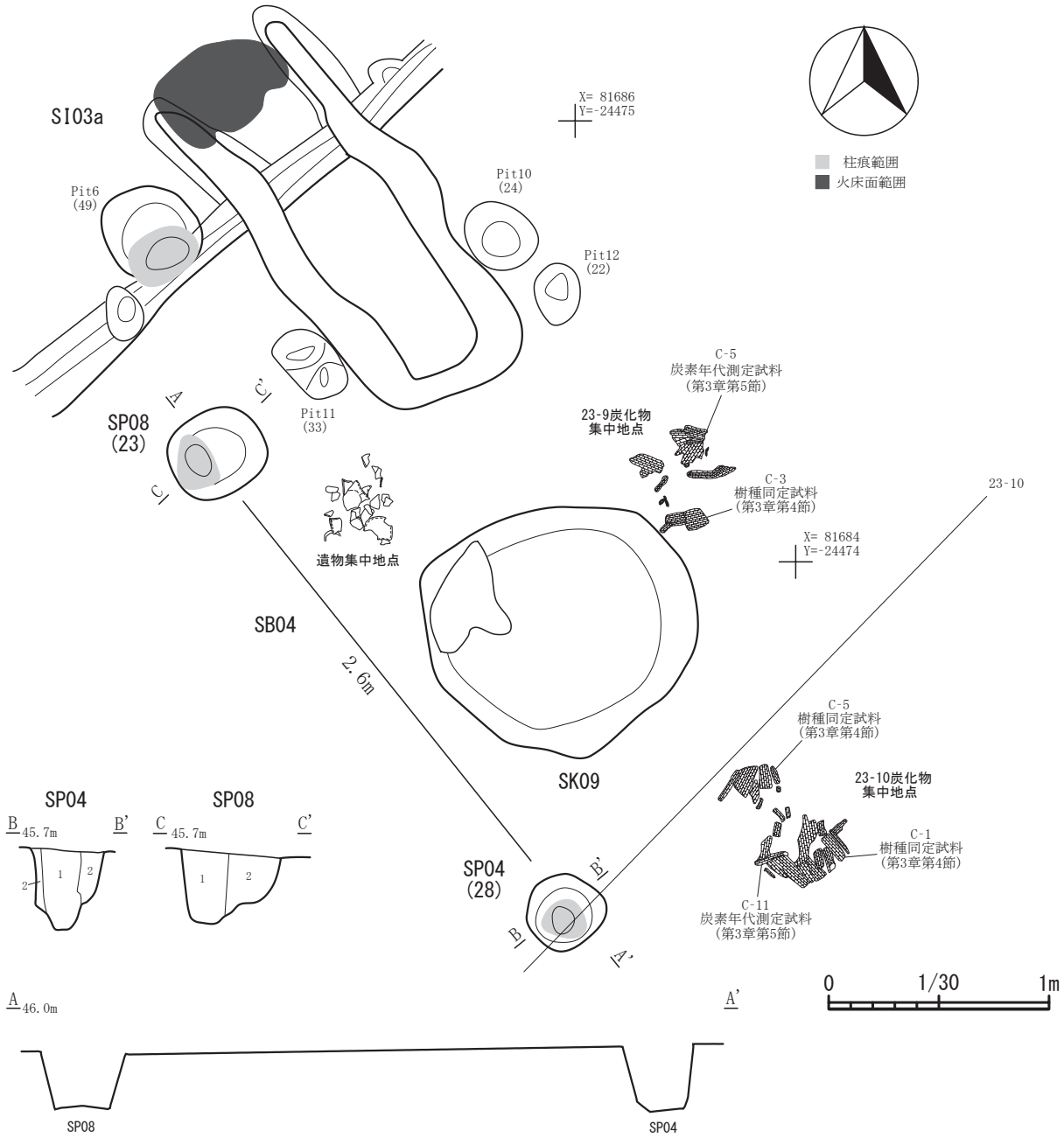
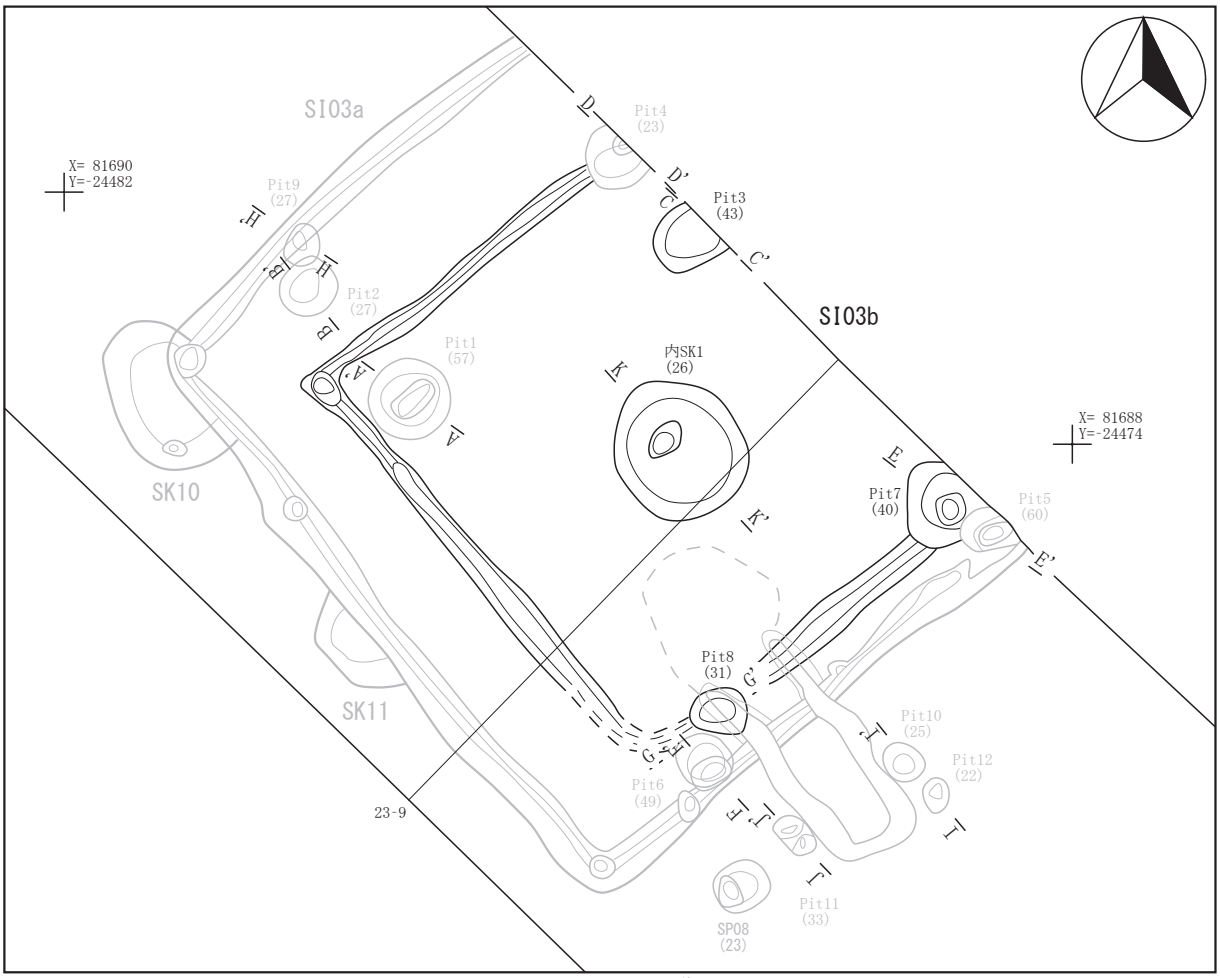


図35　第３号竪穴住居跡（３）遺物出土状況

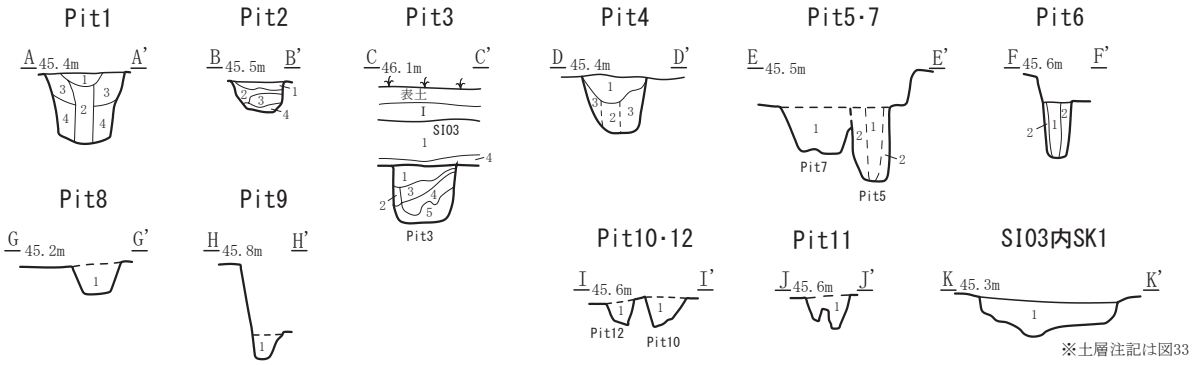


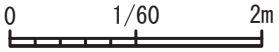
SP04(B-B')
1層 10YR2/2 黒褐色土　柱痕。黄褐色ローム粒(φ1～5mm)10%、炭化物1(φ1mm)1%。
2層 10YR2/1 黒 色 土　掘り方。黄褐色ローム粒(φ1～5mm)10%、炭化物(φ10mm)2%。
SP08(C-C')
1層 10YR2/2 黒褐色土　柱痕。黄褐色ロームブロック(φ5～20mm)3%、炭化物2%。
2層 10YR2/3 黒褐色土　黄褐色ロームブロック(φ5～50mm)10%、黒色土3%、炭化物2%。

図36　第３号竪穴住居跡（４）・第４号掘立柱建物跡



SI03b・Pit群





SI03a Pit1(A-A')
1層 10YR2/3 黒褐色土　炭化材上位にあり。ロームブロック(φ5～10mm)10%、炭化物(φ5～10mm)10%。
2層 10YR3/2 黒褐色土　柱痕。ローム粒(φ1～5mm)5%、しまり弱い。
3層 10YR7/2 にぶい黄色粘土　掘り方。10YR5/8黄褐色ロームブロック(φ5～20mm)20%。
4層 10YR6/3 にぶい黄色粘土　掘り方。黒褐色土3%、黄褐色ローム3%。

SI03a Pit2(B-B')
1層 10YR2/3 黒褐色土　黄褐色ロームブロック(φ1～5mm)10%。
2層 10YR4/4 褐色ローム　黒褐色土2%、黄褐色ローム粒(φ1～3mm)5%。
3層 10YR2/3 黒褐色土　黄褐色ロームブロック(φ1～5mm)10%。
4層 10YR4/6 褐色ローム　黄褐色ローム粒(φ1～3mm)2%。

SI03b Pit3(C-C')
1層 10YR3/3 暗褐色土　黄褐色ローム粒10%、白色ローム5%、黒褐色土5%、炭化物1%。
2層 10YR3/4 暗褐色土　黒褐色土10%、黄褐色ローム粒3%、1層より黒味あり。
3層 10YR2/3 黒褐色土　黄褐色ローム粒1%。
4層 10YR4/4 褐 色 土　黄褐色ローム粒5%、黒褐色土3%、しまり弱い。
5層 10YR4/6 褐 色 土　黄褐色ローム粒3%、しまりあり、粘土質。

SI03a Pit4(D-D')
1層 10YR3/3 暗褐色土　黄褐色ローム粒(φ1～5mm)10%、黒褐色土3%、炭化物2%。
2層 10YR3/4 暗褐色土　柱痕。しまり弱い。
3層 10YR4/6 褐色ローム　黄褐色ローム粒2%。

SI03a Pit5(E-E')
1層 10YR2/3 黒褐色土　柱痕。
2層 10YR7/1 灰白色粘土　掘り方。

SI03a Pit6(F-F')
1層 10YR2/3 黒褐色土　柱痕
2層 10YR4/6 褐 色 土　掘り方。黒褐色土2%、黄褐色ローム2%。

SI03b Pit7(E-E')
1層 10YR3/3 暗褐色土　黄褐色ローム10%。

SI03b Pit8(G-G')
1層 10YR3/3 暗褐色土　黄褐色ローム2%。

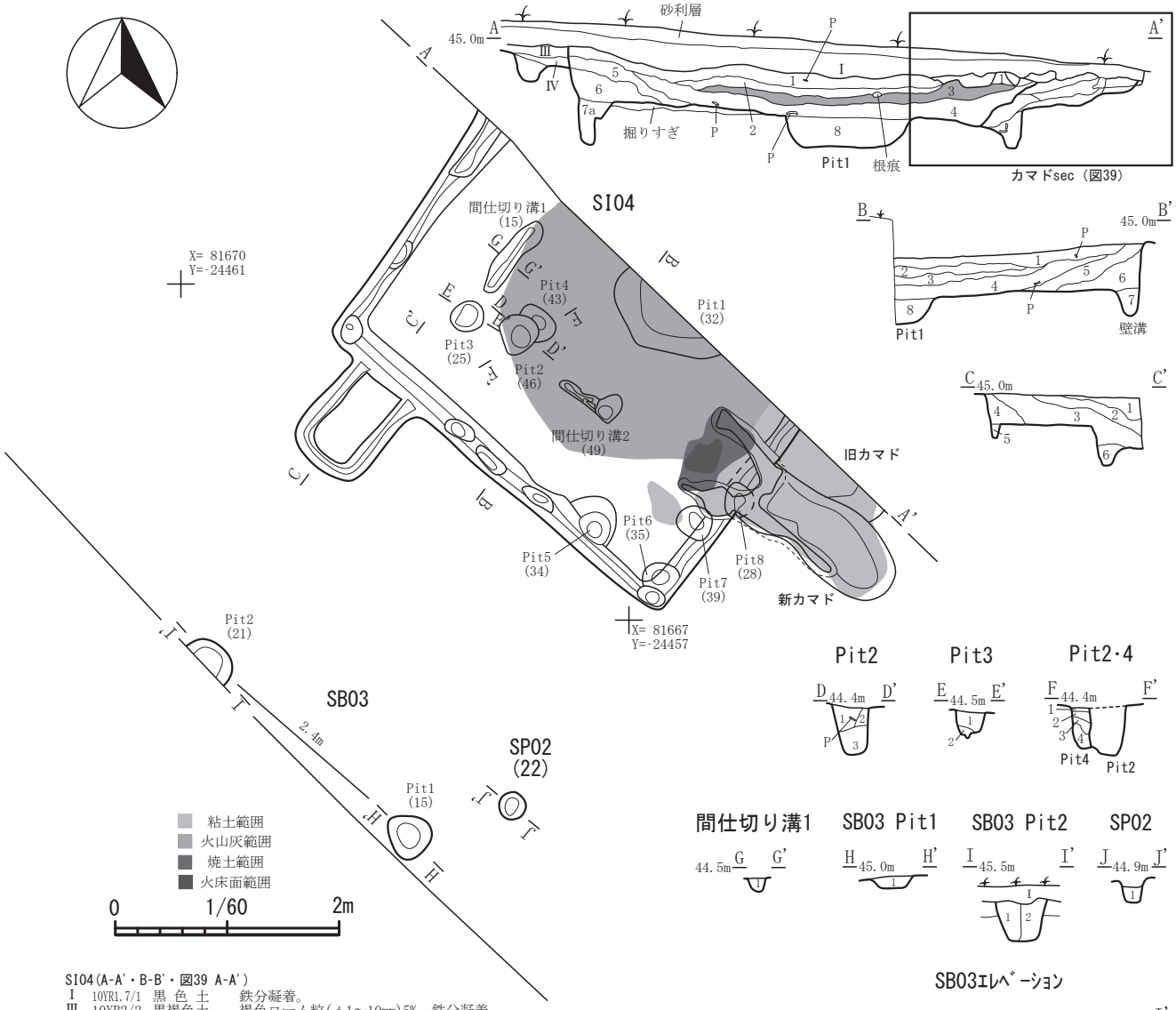
SI03a Pit9(H-H')
1層 10YR3/4 暗褐色土　黄褐色ローム2%。

SI03a Pit10(I-I')
1層 10YR2/3 黒褐色土　ローム粒(φ1～5mm)3%、上位に炭化物2%。

SI03a Pit11(J-J'･N-N')
1層 10YR2/3 黒褐色土　ローム粒(φ3～5mm)3%、上位に炭化物1%。

SI03a Pit12(I-I')
1層 10YR2/3 黒褐色土　ローム粒(φ1～5mm)3%。

図37　第３号竪穴住居跡（５）



SI04(A-A'・B-B'・図39 A-A')
Ⅰ 10YR1.7/1 黒 色 土　鉄分凝着。
Ⅲ 10YR2/2 黒褐色土　褐色ローム粒(φ1～10mm)5%、鉄分凝着。
Ⅳ 10YR3/4 暗褐色土
1層 10YR1.7/1 黒 色 土　黒褐色土7%、暗褐色土5%、黄褐色ローム粒(φ1～10mm)3%。
2層 10YR2/1 黒 色 土　黒褐色土5%、黄褐色ローム粒(φ1～2mm)2%、暗赤褐色焼土(φ1mm)1%。
3層 10YR2/2 黒褐色土　B-Tm?5%、黄褐色ローム粒(φ1～10mm)10%、炭化物(φ1mm)1%。
4層 10YR3/4 暗褐色土　黒褐色土20%、黄褐色ローム粒(φ1～2mm)7%。
5層 10YR3/3 暗褐色土　黄褐色ローム粒(φ1～10mm)2%。
6層 10YR3/4 暗褐色土　黄褐色ローム粒(φ10～50mm)20%、炭化物(φ1mm)1%。
7a層 10YR3/2 黒褐色土と褐色土の混合層。壁溝。
7b層 10YR4/4 褐 色 土　壁溝。黄褐色粘土15%、炭化物7%。
8層 10YR4/6 褐色粘土　Pit1。炭化物(φ1～3mm)2%。

SI04(C-C')
1層 10YR3/2 黒褐色土　10YR3/3暗褐色土5%、10YR5/8黄褐色ローム粒(φ1～5mm)2%。
2層 10YR3/3 暗褐色土　10YR3/4暗褐色土7%、10YR4/6褐色ローム粒(φ1～10mm)5%、5YR3/6暗赤褐色焼土1%。
3層 10YR3/4 暗褐色土　10YR5/8黄褐色ローム粒(φ1～10mm)15%、炭化物1%。
4層 10YR3/3 暗褐色土　10YR2/3黒褐色土20%、10YR5/8黄褐色ローム粒(φ1～10mm)15%。
5層 10YR4/6 褐 色 土
6層 10YR5/6 黄褐色土　10YR5/6黄褐色粘土7%。

SI04 Pit2(D-D')
1層 10YR3/3 暗褐色土　明黄褐色ロームブロック(φ1～10mm)5%、炭化物(φ1～2mm)2%、土器あり。
2層 10YR4/6 褐 色 土　暗褐色土10%、明黄褐色ロームブロック(φ1～5mm)2%、炭化物(φ1～10mm)2%。
3層 10YR4/3 にぶい黄褐色土　明黄褐色ロームブロック(φ10～60mm)20%、炭化物(φ1～2mm)2%。

SI04 Pit3(E-E')
1層 10YR4/6 褐 色 土　明黄褐色ロームブロック(φ30～50mm)10%、暗褐色土5%、炭化物(φ1～2mm)2%。
2層 10YR4/6 褐 色 土と暗褐色土の混合層。明黄褐色ロームブロック(φ10～20mm)10%、炭化物(φ1～5mm)2%。

SI04 Pit4(F-F')
1層 10YR4/4 褐 色 土　明黄褐色ローム粒(φ3～10mm)2%、しまりやや弱い、粘性弱い。
2層 10YR6/8 明黄褐色土　暗褐色土1%、しまりやや弱い、粘性やや弱い。
3層 10YR6/8 明黄褐色土　暗褐色土20%、しまり弱い、粘性やや弱い。
4層 10YR5/8 黄褐色土　しまり弱い、粘性やや強い。

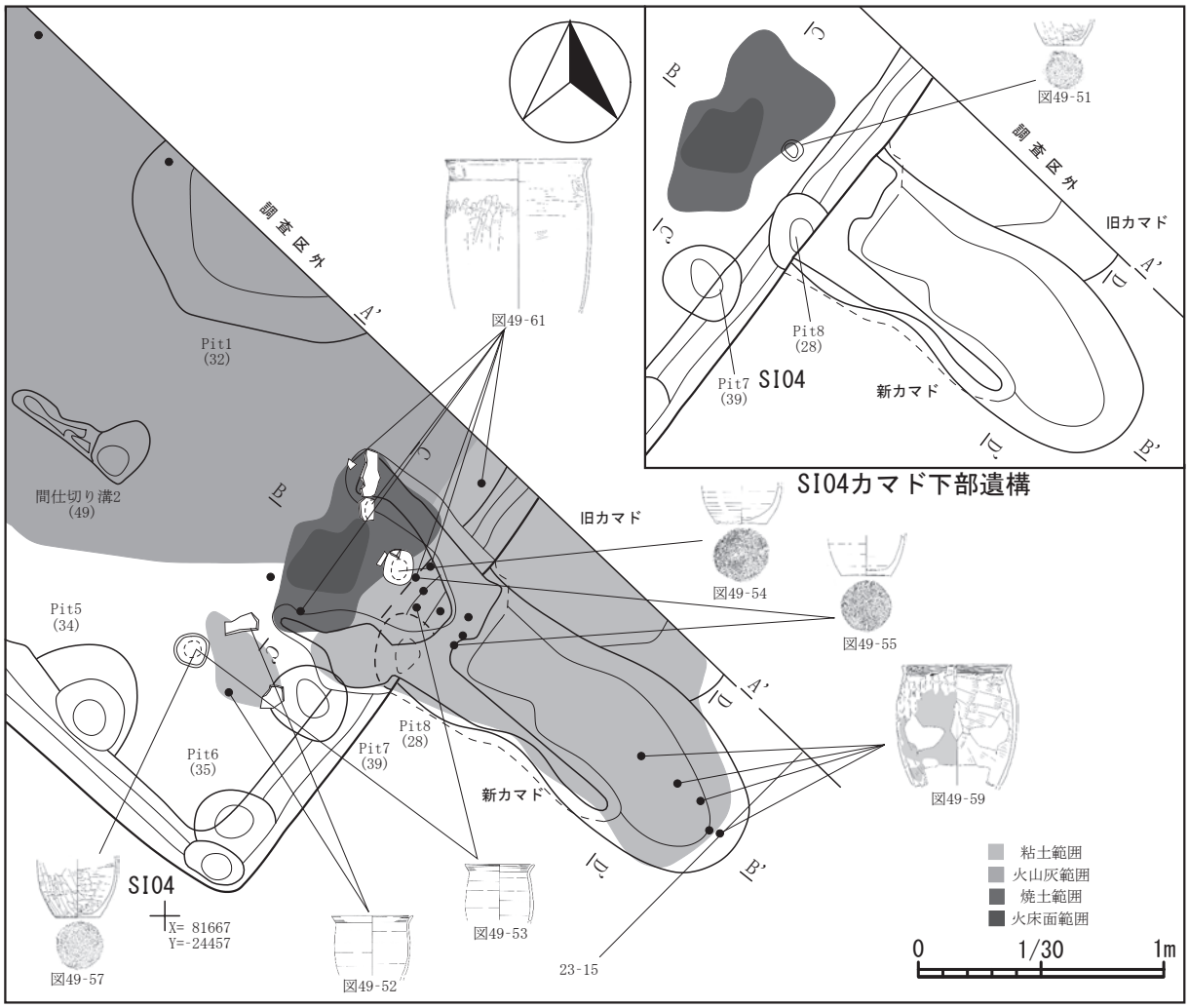
SI04 間仕切り溝(G-G')
1層 10YR3/3 暗褐色土と明黄褐色ロームの混合層。炭化物(φ1～5mm)5%。

SB03 Pit1(H-H')
1層 10YR2/2 黒褐色土　明黄褐色ロームブロック(φ10～40mm)10%、層下部に多い。炭化物粒(φ1～5mm)2%、層下部にあり。

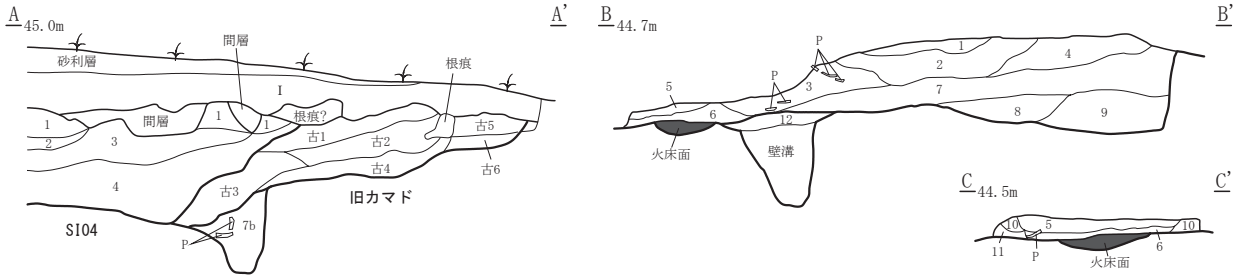
SB03 Pit2(I-I')
1層 10YR2/2 黒褐色土　明黄褐色ロームブロック(φ1～50mm)5%、層左側及び下部に多い。炭化物粒(φ1～2mm)1%。
2層 10YR3/3 暗褐色土　黒褐色土10%含む。明黄褐色ロームブロック(φ1～50mm)20%、全体に多い。炭化物粒(φ1～5mm)2%、層下部にあり。

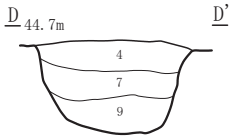
SP02(J-J')
1層 10YR2/3 黒褐色土　明黄褐色ローム粒(φ3～8mm)7%。

図38　第４号竪穴住居跡（１）・第３号掘立柱建物跡



SI04カマド平面図・遺物出土状況





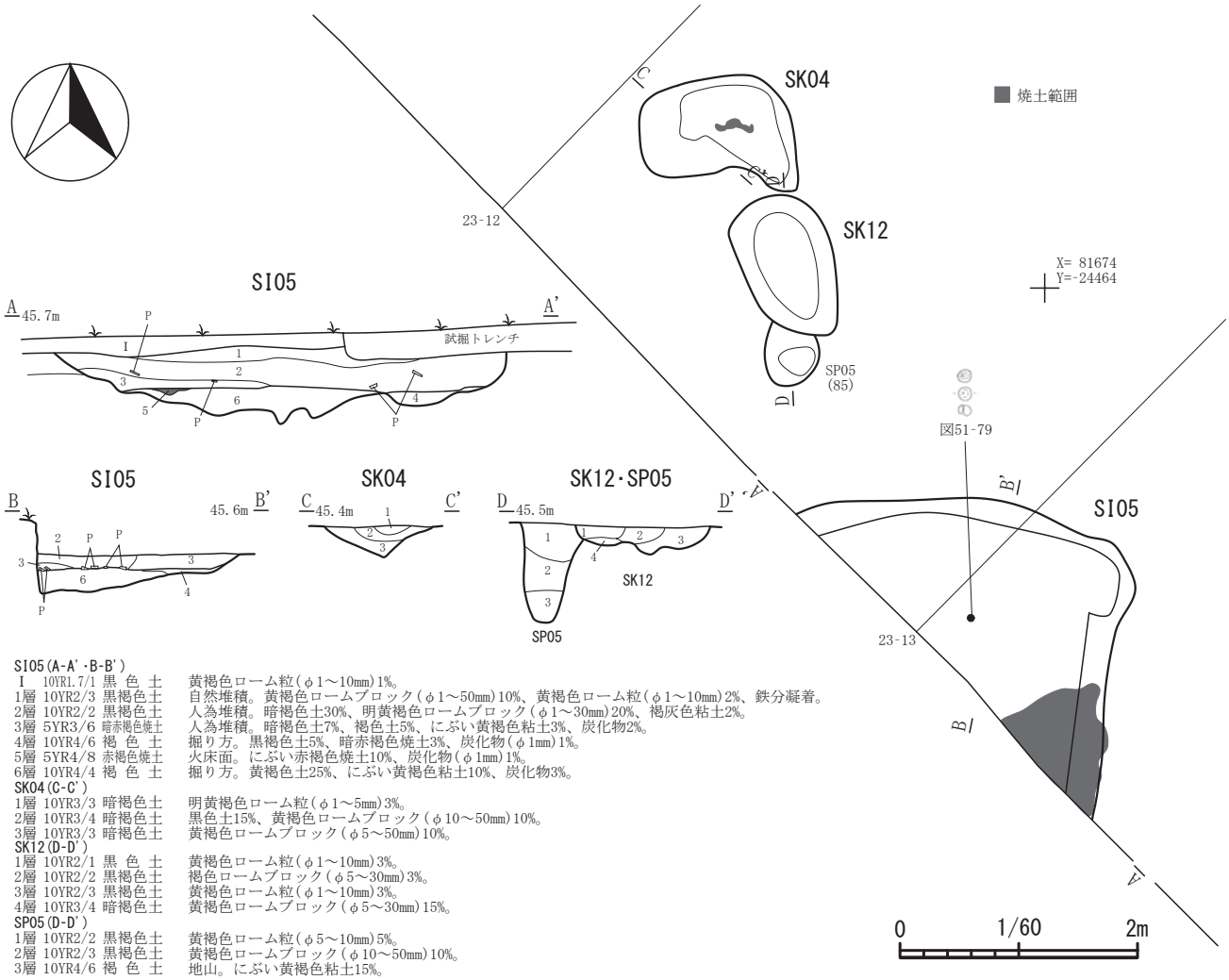
SI04 旧カマド(A-A')　※図38 A-A'セクションの拡大図

古1層 10YR5/6 黄褐色土　10YR4/3にぶい黄褐色粘土20%、10YR8/3浅黄橙色粘土20%、5YR4/6赤褐色焼土5%、炭化物5%。
古2層 10YR5/4 にぶい黄褐色土　10YR4/3にぶい黄褐色粘土25%、5YR3/4暗赤褐色焼土15%、炭化物1%。
古3層 10YR5/4 にぶい黄褐色土　10YR4/4褐色粘土10%、10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ5～10mm)7%、炭化物7%。
古4層 10YR4/4 褐 色 土　10YR6/6明黄褐色ロームブロック(φ5～20mm)5%、炭化物3%。
古5層 10YR2/3 黒褐色土　10YR5/6黄褐色ローム粒(φ5～10mm)2%、炭化物2%。
古6層 10YR3/4 暗褐色土　10YR5/8黄褐色ロームブロック(φ20～50mm)3%。

SI04 新カマド(B-B'・C-C'・D-D')

1層 10YR4/6 褐 色 土　煙道天井の崩落粘土。下部は5YR3/3暗赤褐色焼土を呈する。
2層 10YR3/4 暗褐色土　煙道天井の崩落粘土。炭化物(φ3～5mm)1%。
3層 10YR5/6 黄褐色土　煙道天井の崩落粘土。煙道天井部と思われ、下部は極暗赤褐色焼土を呈する。
4層 10YR4/6 暗褐色土　煙出し部の崩落土。黒褐色焼土(φ1～50mm)5%、赤褐色焼土(φ5～30mm)3%、炭化物(φ5～30mm)5%。
5層 2.5YR4/8 赤褐色焼土　褐色土の混合層。燃焼部天井の崩落土。炭化物(φ1～3mm)3%。
6層 5YR3/2 暗赤褐色焼土　煙道堆積土。焼土粒(φ1～3mm)5%、炭化物(φ1～5mm)3%。
7層 10YR2/2 黒褐色土　煙道堆積土。にぶい黄褐色土7%、焼土粒(φ1～8mm)2%。
8層 10YR3/3 暗褐色土　煙道掘り方。にぶい黄褐色土3%。
9層 10YR5/6 黄褐色土　煙道掘り方。ローム主体、暗褐色土7%、焼土粒(φ1～5mm)2%、にぶい黄橙色粘土2%。
10層 10YR5/6 黄褐色土　カマド袖の粘土。にぶい橙色粘土7%。
11層 10YR3/2 黒褐色土　カマド袖の下部。黄褐色ローム3%。
12層 10YR3/1 黒褐色土　住居の掘り方。黄褐色ローム10%。
火床面 5YR4/6 赤褐色焼土　暗赤褐色焼土30%、明赤褐色焼土15%、炭化物10%。
壁溝 10YR5/6 黄褐色土　明黄褐色土30%、にぶい黄褐色粘土15%、炭化物10%。

図39　第４号竪穴住居跡（２）



SI05(A-A'・B-B')
Ⅰ 10YR1.7/1 黒 色 土　黄褐色ローム粒(φ1～10mm)1%。
1層 10YR2/3 黒褐色土　自然堆積。黄褐色ローム粒(φ1～50mm)10%、黄褐色ローム粒(φ1～10mm)2%、鉄分凝着。
2層 10YR2/2 黒褐色土　人為堆積。暗褐色土30%、明黄褐色ロームブロック(φ1～30mm)20%、褐灰色粘土2%。
3層 5YR3/6 暗赤褐色焼土　人為堆積。暗褐色土7%、褐色土5%、にぶい黄褐色粘土3%、炭化物2%。
4層 10YR4/6 褐 色 土　掘り方。黒褐色土5%、暗赤褐色焼土3%、炭化物(φ1mm)1%。
5層 5YR4/8 赤褐色焼土　火床面。にぶい赤褐色焼土10%、炭化物(φ1mm)1%。
6層 10YR4/4 褐 色 土　掘り方。黄褐色土25%、にぶい黄褐色粘土10%、炭化物3%。
SK04(C-C')
1層 10YR3/3 暗褐色土　明黄褐色ローム粒(φ1～5mm)3%。
2層 10YR3/4 暗褐色土　黒色土15%、黄褐色ロームブロック(φ10～50mm)10%。
3層 10YR3/3 暗褐色土　黄褐色ロームブロック(φ5～50mm)10%。
SK12(D-D')
1層 10YR2/1 黒 色 土　黄褐色ローム粒(φ1～10mm)3%。
2層 10YR2/2 黒褐色土　褐色ロームブロック(φ5～30mm)3%。
3層 10YR2/3 黒褐色土　黄褐色ローム粒(φ1～10mm)3%。
4層 10YR3/4 暗褐色土　黄褐色ロームブロック(φ5～30mm)15%。
SP05(D-D')
1層 10YR2/2 黒褐色土　黄褐色ローム粒(φ5～10mm)5%。
2層 10YR2/3 黒褐色土　黄褐色ロームブロック(φ10～50mm)10%。
3層 10YR4/6 褐 色 土　地山。にぶい黄褐色粘土15%。

図40　第５号竪穴住居跡・第４・12号土坑

（５）　道路状遺構

農道23号からは合計２条の道路状遺構が検出された。調査区北側に２条のまとまりがある。なお、調査時「SF03」としていた遺構は、溝跡であることが判明したことから「SD02」に改称し、前項の溝跡において報告している。

第１号道路状遺構（SF01、図44）

[位置・確認]農道調査区北西端、23－３グリッドに位置し、遺構確認面の標高は46.0m、第Ⅳ層で硬化面を確認した。

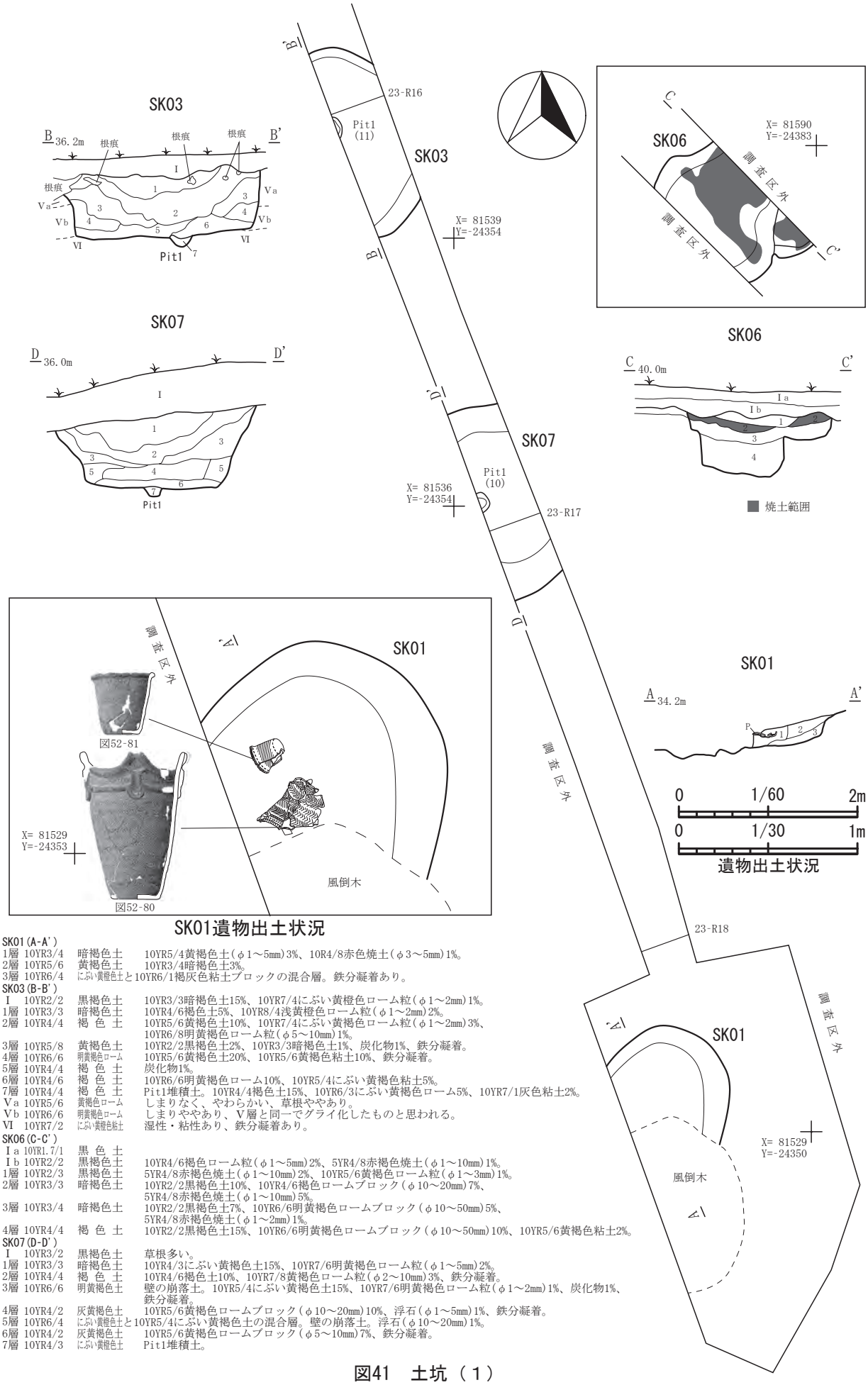
[平面形・規模・底面]両端とも調査区域外に延び遺構の全容は不明だが、確認できた規模は長さ5.4m、幅80～90cmで直線的である。確認面からの深さ4～7cmである。

[堆積土]堆積土は２層に分層され、上位は暗褐色土が、下位は黒褐色土が自然堆積している。

[出土遺物・遺構の時期等]遺物は出土しなかった。詳細な帰属時期は不明だが、堆積土の様相と遺構形状等から平安時代以降の道跡と考えられる。

第２号道路状遺構（SF02、図44）

[位置・確認]農道調査区北西端、23－２グリッドに位置し、遺構確認面の標高は46.0m、第Ⅳ層で硬



SK01(A-A')

1層	10YR3/4	暗褐色土	10YR5/4黄褐色土(φ1～5mm)3%、10R4/8赤色焼土(φ3～5mm)1%。
2層	10YR5/6	黄褐色土	10YR3/4暗褐色土3%。
3層	10YR6/4	にぶい黄橙色土	と10YR6/1褐灰色粘土ブロックの混合層。鉄分凝着あり。

SK03(B-B')

Ⅰ	10YR2/2	黒褐色土	10YR3/3暗褐色土15%、10YR7/4にぶい黄橙色ローム粒(φ1～2mm)1%。
1層	10YR3/3	暗褐色土	10YR4/6褐色土5%、10YR8/4浅黄橙色ローム粒(φ1～2mm)2%。
2層	10YR4/4	褐色土	10YR5/6黄褐色土10%、10YR7/4にぶい黄褐色ローム粒(φ1～2mm)3%、 10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ5～10mm)1%。
3層	10YR5/8	黄褐色土	10YR2/2黒褐色土2%、10YR3/3暗褐色土1%、炭化物1%、鉄分凝着。
4層	10YR6/6	明黄褐色ローム	10YR5/6黄褐色土20%、10YR5/6黄褐色粘土10%、鉄分凝着。
5層	10YR4/4	褐色土	炭化物1%。
6層	10YR4/6	褐色土	10YR6/6明黄褐色ローム10%、10YR5/4にぶい黄褐色粘土5%。
7層	10YR4/4	褐色土	Pit1堆積土。10YR4/4褐色土15%、10YR6/3にぶい黄褐色ローム5%、10YR7/1灰色粘土2%。
Ⅴa	10YR5/6	黄褐色ローム	しまりなく、やわらかい、草根ややあり。
Ⅴb	10YR6/6	明黄褐色ローム	しまりややあり、Ⅴ層と同一でグライ化したものと思われる。
Ⅵ	10YR7/2	にぶい黄橙色粘土	湿性・粘性あり、鉄分凝着あり。

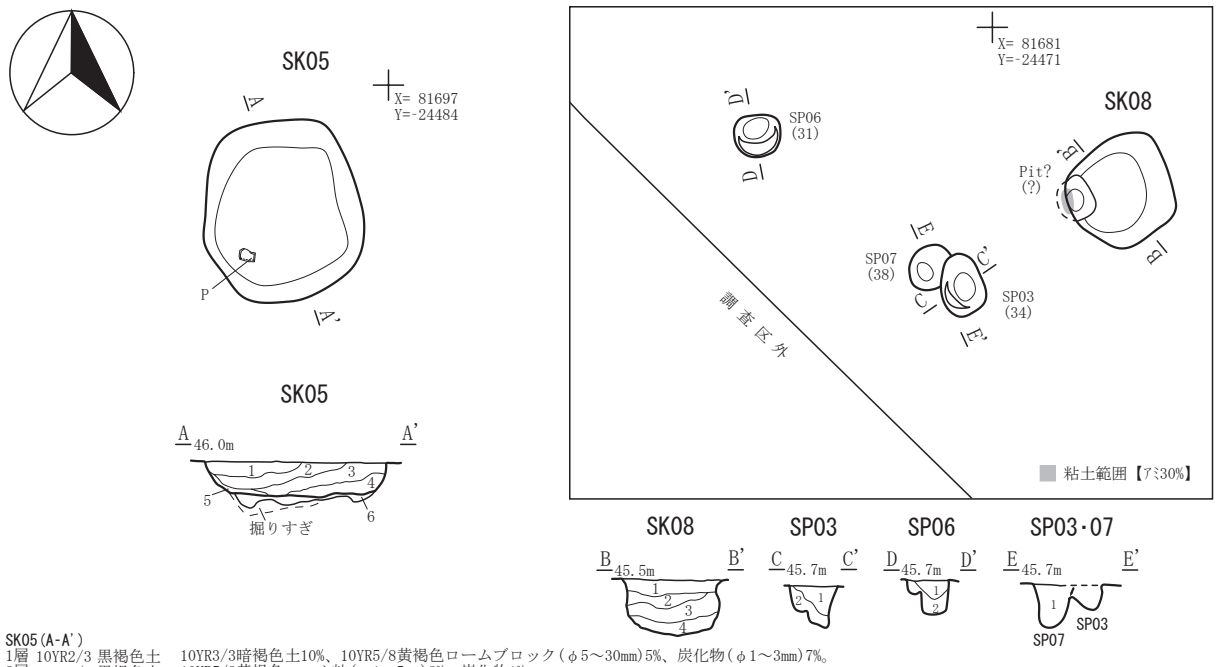
SK06(C-C')

Ⅰa	10YR1.7/1	黒色土	
Ⅰb	10YR2/2	黒褐色土	10YR4/6褐色ローム粒(φ1～5mm)2%、5YR4/8赤褐色焼土(φ1～10mm)1%。
1層	10YR2/3	黒褐色土	5YR4/8赤褐色焼土(φ1～10mm)2%、10YR5/6黄褐色ローム粒(φ1～3mm)1%。
2層	10YR3/3	暗褐色土	10YR2/2黒褐色土10%、10YR4/6褐色ロームブロック(φ10～20mm)7%、 5YR4/8赤褐色焼土(φ1～10mm)5%。
3層	10YR3/4	暗褐色土	10YR2/2黒褐色土7%、10YR6/6明黄褐色ロームブロック(φ10～50mm)5%、 5YR4/8赤褐色焼土(φ1～2mm)1%。
4層	10YR4/4	褐色土	10YR2/2黒褐色土15%、10YR6/6明黄褐色ロームブロック(φ10～50mm)10%、10YR5/6黄褐色粘土2%。

SK07(D-D')

Ⅰ	10YR3/2	黒褐色土	草根多い。
1層	10YR3/3	暗褐色土	10YR4/3にぶい黄褐色土15%、10YR7/6明黄褐色ローム粒(φ1～5mm)2%。
2層	10YR4/4	褐色土	10YR4/6褐色土10%、10YR7/8黄褐色ローム粒(φ2～10mm)3%、鉄分凝着。
3層	10YR6/6	明黄褐色土	壁の崩落土。10YR5/4にぶい黄褐色土15%、10YR7/6明黄褐色ローム粒(φ1～2mm)1%、炭化物1%、 鉄分凝着。
4層	10YR4/2	灰黄褐色土	10YR5/6黄褐色ロームブロック(φ10～20mm)10%、浮石(φ1～5mm)1%、鉄分凝着。
5層	10YR6/4	にぶい黄橙色土	と10YR5/4にぶい黄褐色土の混合層。壁の崩落土。浮石(φ10～20mm)1%。
6層	10YR4/2	灰黄褐色土	10YR5/6黄褐色ロームブロック(φ5～10mm)7%、鉄分凝着。
7層	10YR4/3	にぶい黄橙色土	Pit1堆積土。

図41　土坑（１）



SK05(A-A')
1層 10YR2/3 黒褐色土　10YR3/3暗褐色土10%、10YR5/8黄褐色ロームブロック(φ5～30mm)5%、炭化物(φ1～3mm)7%。
2層 10YR2/2 黒褐色土　10YR5/8黄褐色ローム粒(φ1～5mm)2%、炭化物1%。
3層 10YR2/3 黒褐色土　10YR3/4暗褐色土10%、10YR5/8黄褐色ローム粒(φ5～10mm)2%、炭化物2%。
4層 10YR2/2 黒褐色土　10YR3/4暗褐色土2%、10YR5/8黄褐色ローム粒(φ2～5mm)2%。
5層 10YR3/3 暗褐色土　10YR5/8黄褐色ローム粒(φ5～10mm)5%。
6層 10YR5/6 黄褐色土　掘り方。10YR3/4暗褐色土15%、10YR7/8黄橙色ローム粒(φ10～20mm)10%、炭化物(φ1mm)3%。
SK08(B-B')
1層 10YR3/3 暗褐色土　10YR4/6褐色ローム粒(φ5～10mm)10%。
2層 10YR2/2 黒褐色土　10YR2/2黒褐色土10%、10YR4/6褐色ローム粒(φ5～10mm)5%。
3層 10YR2/3 黒褐色土　10YR2/3黒褐色土15%、10YR5/6黄褐色ロームブロック(φ10～50mm)7%、10YR7/2にぶい黄橙色粘土2%。
4層 10YR2/1 黒 色 土　10YR5/8黄褐色ローム粒(φ1～5mm)5%。
SP03(C-C')
1層 10YR3/3 暗褐色土　10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1～5mm)5%、炭化物(φ1mm)1%。
2層 10YR2/3 黒褐色土　10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1～3mm)1%。
SP06(D-D')
1層 10YR3/3 暗褐色土　10YR5/8黄褐色ロームブロック(φ5～20mm)5%。
2層 10YR3/4 暗褐色土　10YR5/8黄褐色ロームブロック(φ5～20mm)7%。
SP07(E-E')
1層 10YR3/4 暗褐色土　10YR5/6黄褐色ロームブロック(φ5～30mm)10%。

0　1/60　2m

図42　土坑（２）

化面を確認した。

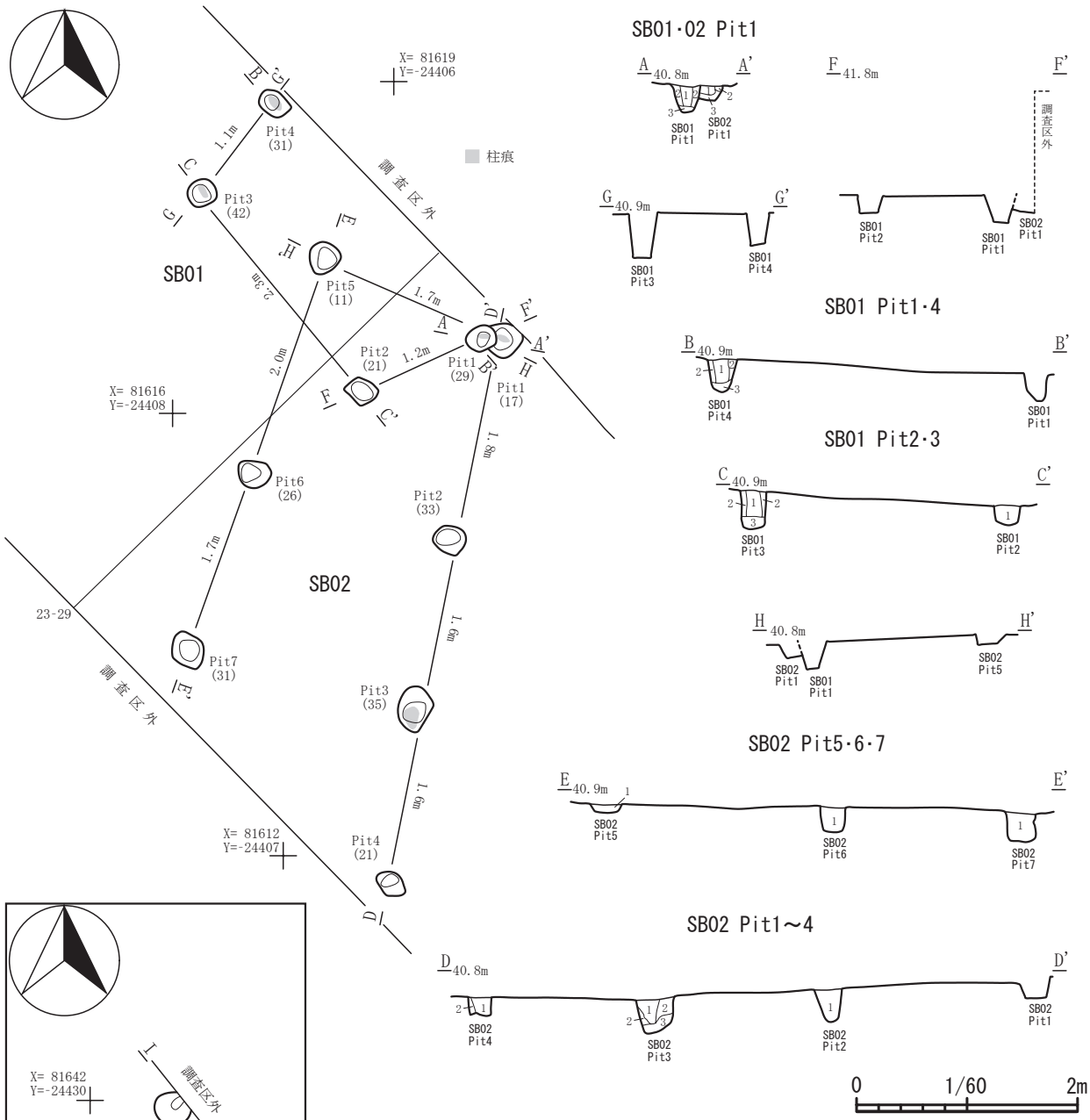
[平面形・規模・底面]両端とも調査区域外に延び遺構の全容は不明だが、確認できた規模は長さ6.4m、幅70～80cmで、蛇行している。確認面からの深さ6～17cmである。

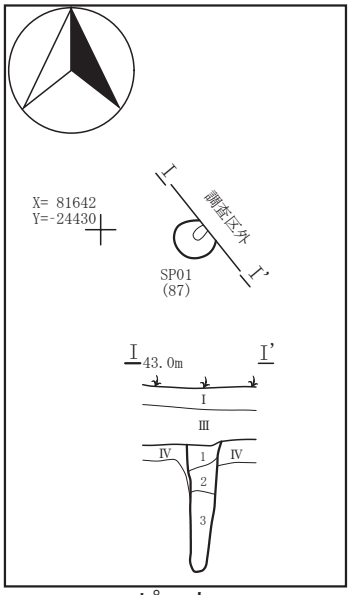
[堆積土]堆積土は２層に分層されいずれも黒褐色土が堆積し、下位はロームブロックが混入している。自然堆積と思われる。

[出土遺物・遺構の時期等]遺物は出土しなかった。詳細な帰属時期は不明だが、堆積土の様相と遺構形状等から平安時代以降の道跡と考えられる。

第３号道路状遺構(旧「SF03」→「SD02」)

[位置 ・確認] 調査時は道路状遺構と想定していたが、調査の結果溝跡と考えられたことから「SD02」に名称を変更してそちらで報告している。





ピット

SB01 Pit1(A-A'·B-B'·F-F'·H-H')
1層 10YR2/1　黒 色 土　柱痕。
2層 10YR2/2　黒褐色土　10YR6/8明黄褐色ローム3%。
3層 10YR2/2　黒褐色土と10YR5/8黄褐色土の混合層。

SB02 Pit1(A-A'·D-D'·F-F'·H-H')
1層 10YR2/2　黒褐色土　柱痕。
2層 10YR2/2　黒褐色土　10YR5/8黄褐色ローム3%。
3層 10YR1.7/1　黒 色 土

SB01 Pit4(B-B'·G-G')
1層 10YR2/1　黒 色 土　柱痕。
2層 10YR2/1　黒 色 土　10YR6/6明黄褐色ローム20%。
3層 10YR2/1　黒 色 土　10YR6/6明黄褐色ローム15%。

SB01 Pit2(C-C'·F-F')
1層 10YR2/1　黒 色 土

SB01 Pit3(C-C'·G-G')
1層 10YR2/1　黒 色 土　柱痕。
2層 10YR2/1　黒 色 土　10YR6/6明黄褐色ローム15%。
3層 10YR2/1　黒 色 土　10YR6/6明黄褐色ローム25%。

SB02 Pit2(D-D')
1層 10YR2/2　黒褐色土　10YR5/8黄褐色ローム2%。

SB02 Pit3(D-D')
1層 10YR2/2　黒褐色土　柱痕。10YR6/6明黄褐色ローム3%。
2層 10YR2/1　黒 色 土　10YR5/8黄褐色ローム10%。
3層 10YR5/8　黄褐色土　10YR2/1黒色土5%。

SB02 Pit4(D-D')
1層 10YR2/2　黒褐色土　10YR6/8明黄褐色ローム3%、炭化物2%。
2層 10YR2/1　黒 色 土　10YR5/8黄褐色ローム5%。

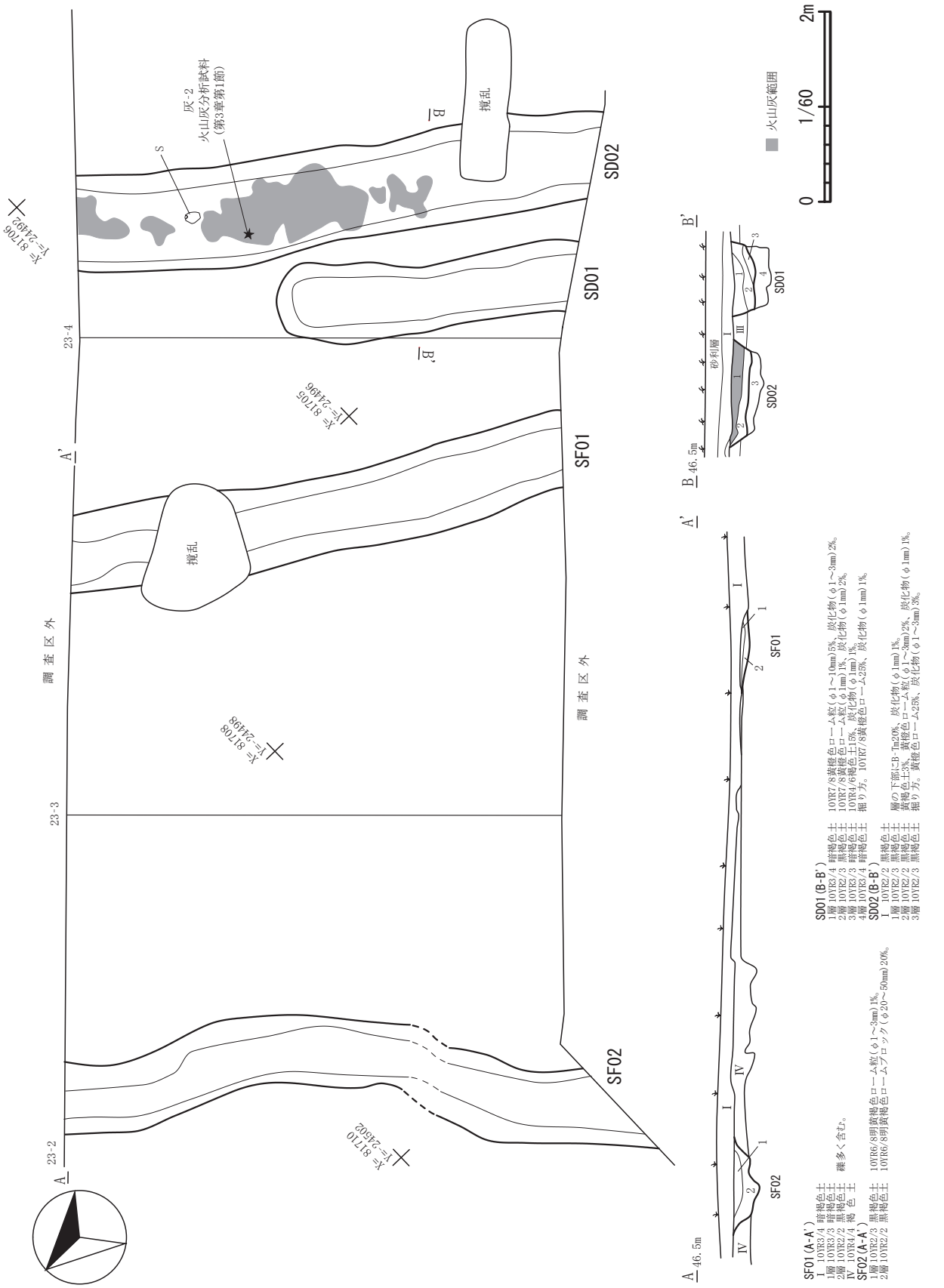
SB02 Pit6(E-E')
1層 10YR2/1　黒 色 土　10YR4/6褐色ローム3%。

SB02 Pit7(E-E')
1層 10YR2/1　黒 色 土　10YR4/6褐色ローム5%。

SB02 Pit5(E-E'·H-H')
1層 10YR2/1　黒 色 土　10YR4/4褐色ローム5%。

SP01(I-I')
Ⅰ　10YR2/1　黒 色 土
Ⅲ　10YR1.7/1　黒 色 土
1層 10YR2/1　黒 色 土
2層 10YR2/2　黒褐色土　10YR6/8明黄褐色ローム2%。
3層 10YR2/3　黒褐色土　10YR6/8明黄褐色ローム10%。
Ⅳ　10YR1.7/1　黒 色 土と黒褐色土の混合層。10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1～3mm)2%。

図43　第１・２号掘立柱建物跡・ピット



灰-2
火山灰分析試料
(第3章第1節)
S
撹乱
撹乱
SD01
SD02
SF01
SF02
調査区外
調査区外
23-2
23-3
23-4
A
A'
B
B'
X= 81706
Y= 24492
X= 81705
Y= 24496
X= 81708
Y= 24498
X= 81710
Y= 24502
砂利層
46.5m
46.5m
火山灰範囲
0
1/60
2m
SF01(A-A')
I 10YR3/4 暗褐色土
1層 10YR3/3 暗褐色土
2層 10YR2/2 黒褐色土 礫多く含む。
IV 10YR4/4 褐 色 土
SF02(A-A')
1層 10YR2/3 黒褐色土 10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1～3mm)1%。
2層 10YR2/2 黒褐色土 10YR6/8明黄褐色ロームブロック(φ20～50mm)20%。
SD01(B-B')
1層 10YR3/4 暗褐色土 10YR7/8黄橙色ローム粒(φ1～10mm)5%、炭化物(φ1～3mm)2%。
2層 10YR2/3 黒褐色土 10YR7/8黄橙色ローム粒(φ1mm)1%、炭化物(φ1mm)2%。
3層 10YR3/3 暗褐色土 10YR4/6褐色土15%、炭化物(φ1mm)1%。
4層 10YR3/4 暗褐色土 掘り方。10YR7/8黄橙色ローム25%、炭化物(φ1mm)1%。
SD02(B-B')
I 10YR2/2 黒褐色土 層の下部にB-Tm20%、炭化物(φ1mm)1%。
1層 10YR2/3 黒褐色土 黄褐色土3%、黄橙色ローム粒(φ1～3mm)2%、炭化物(φ1mm)1%。
2層 10YR2/2 黒褐色土 掘り方。黄橙色ローム25%、炭化物(φ1～3mm)3%。

図44　溝跡・道路状遺構

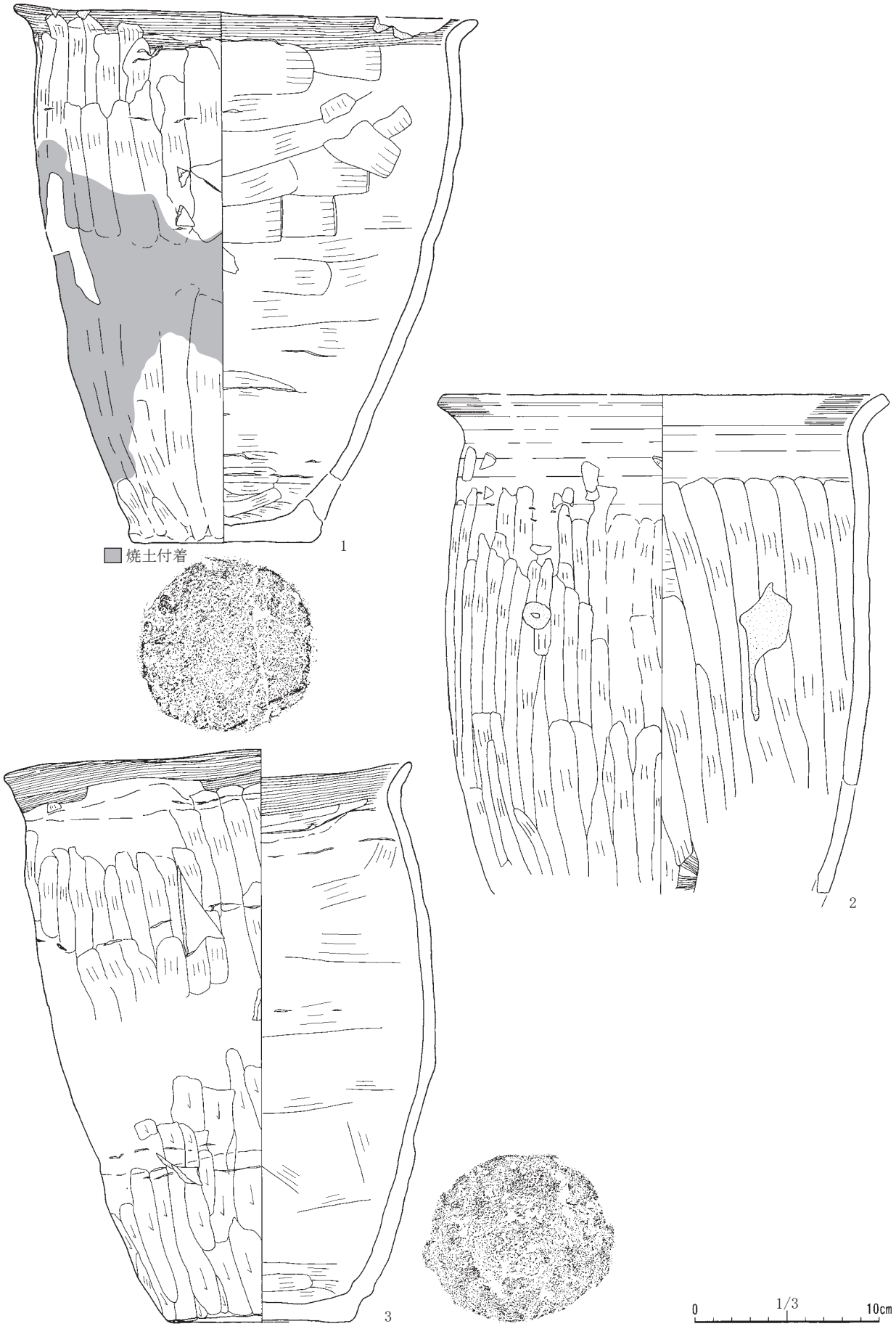


図45　第１号竪穴住居跡　出土遺物

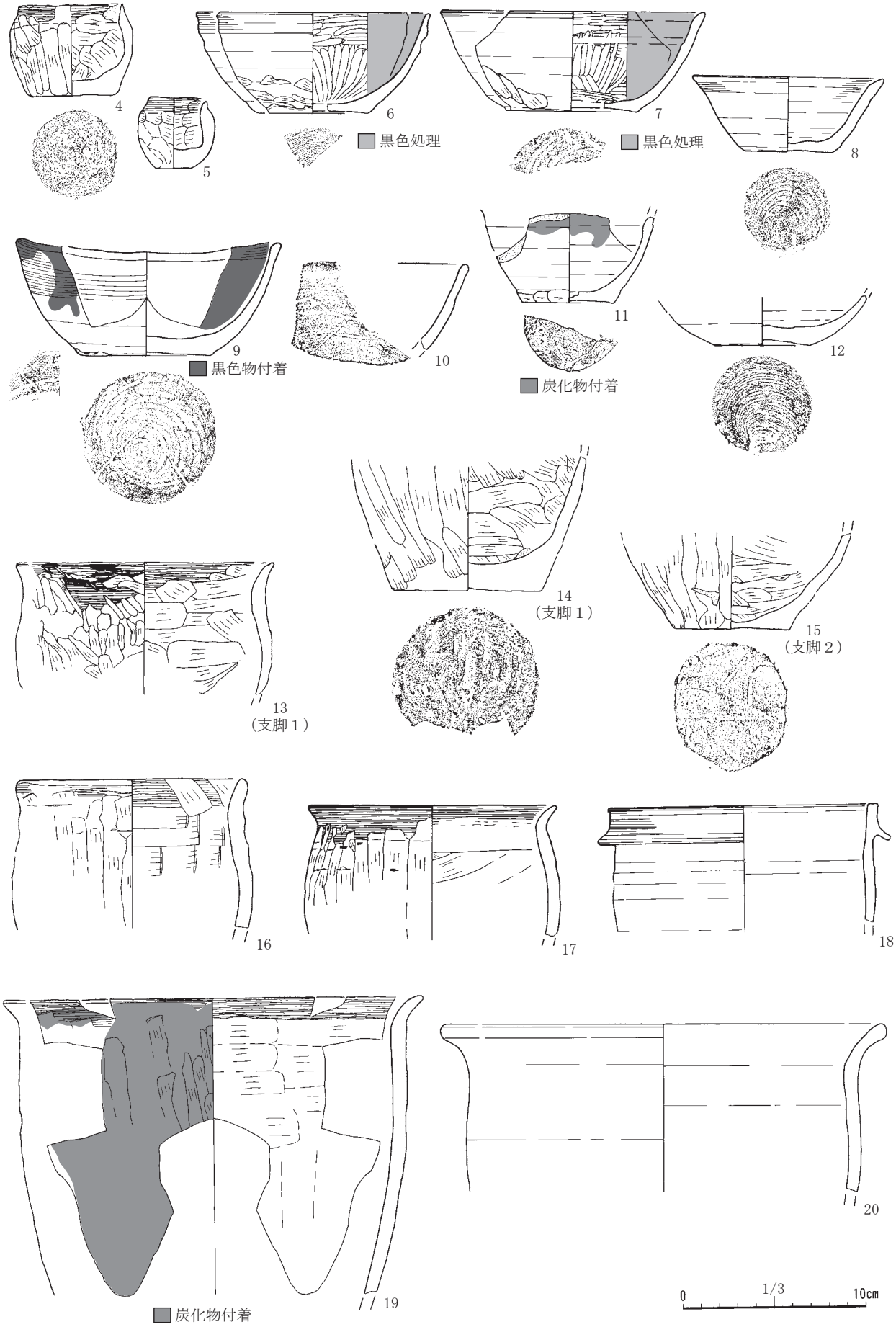


図46　第３号竪穴住居跡　出土遺物(1)

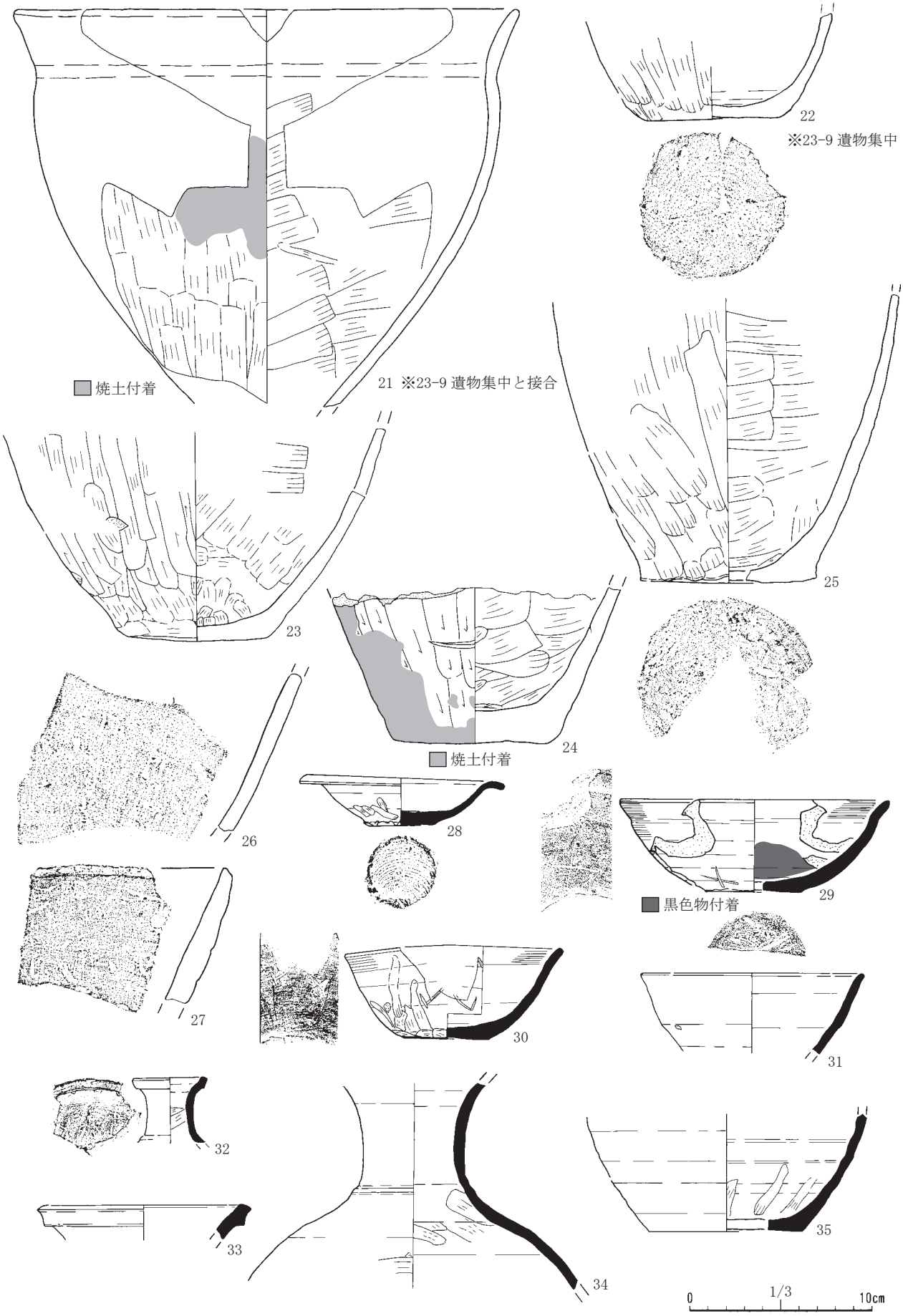


図47　第３号竪穴住居跡　出土遺物(2)

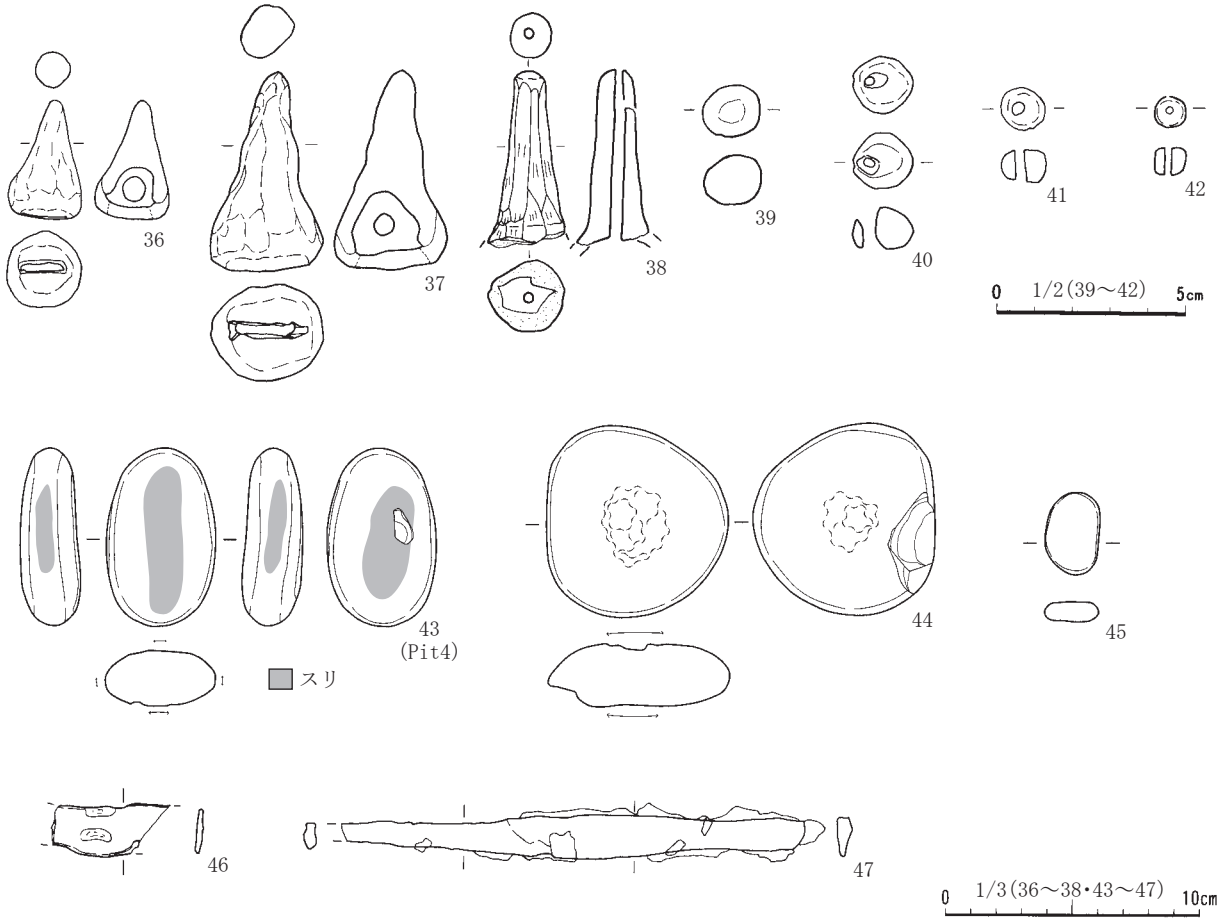


図48　第３号竪穴住居跡　出土遺物(3)

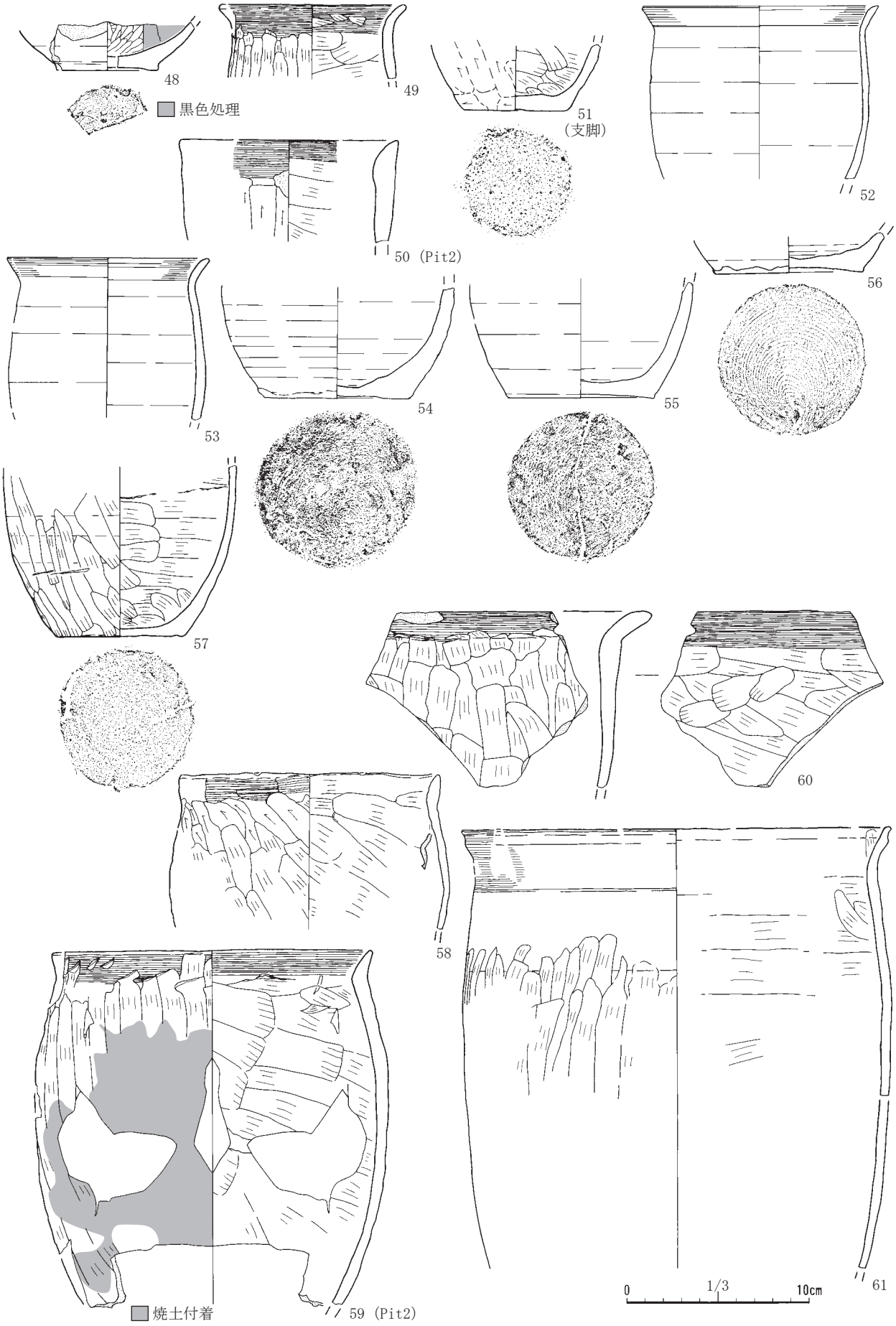


図49　第４号竪穴住居跡　出土遺物(1)

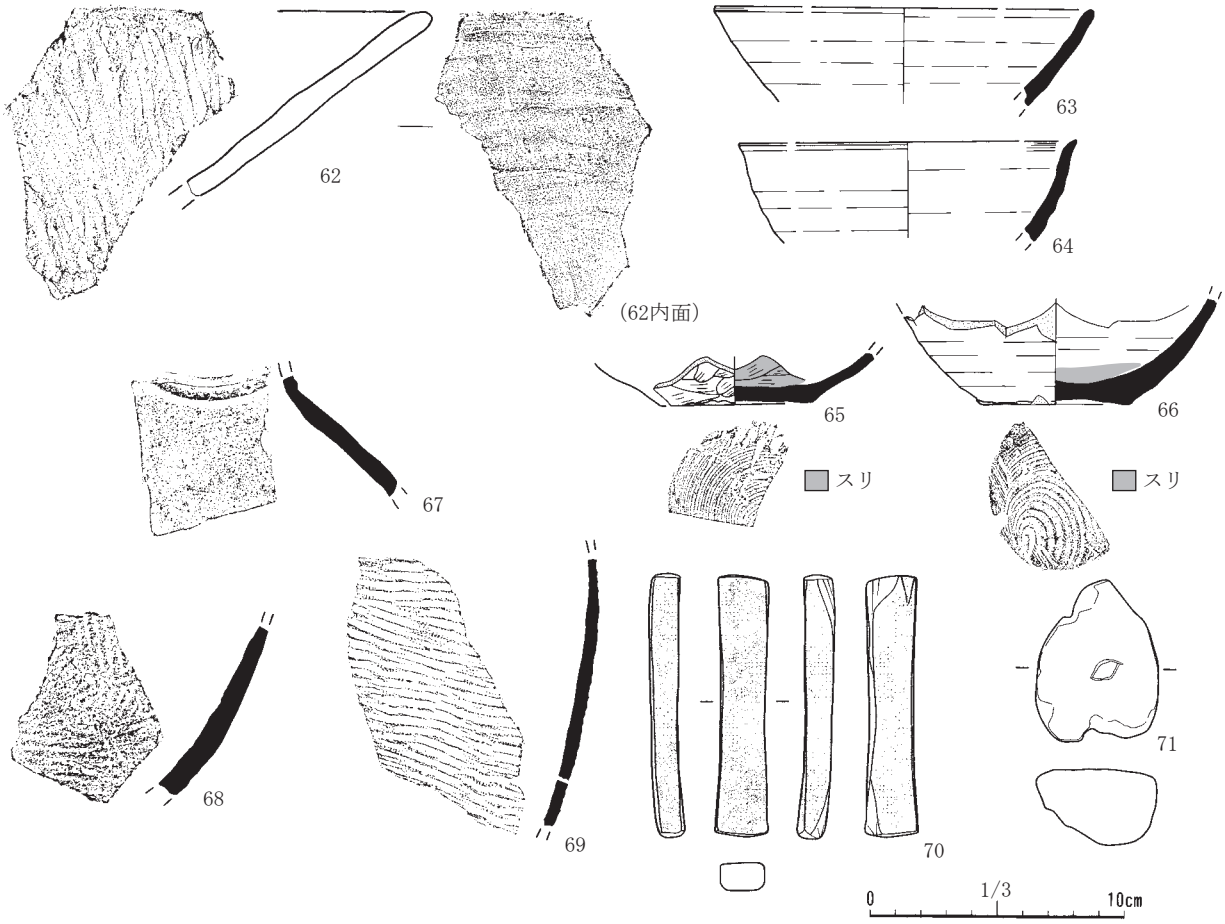


図50　第４号竪穴住居跡　出土遺物(2)

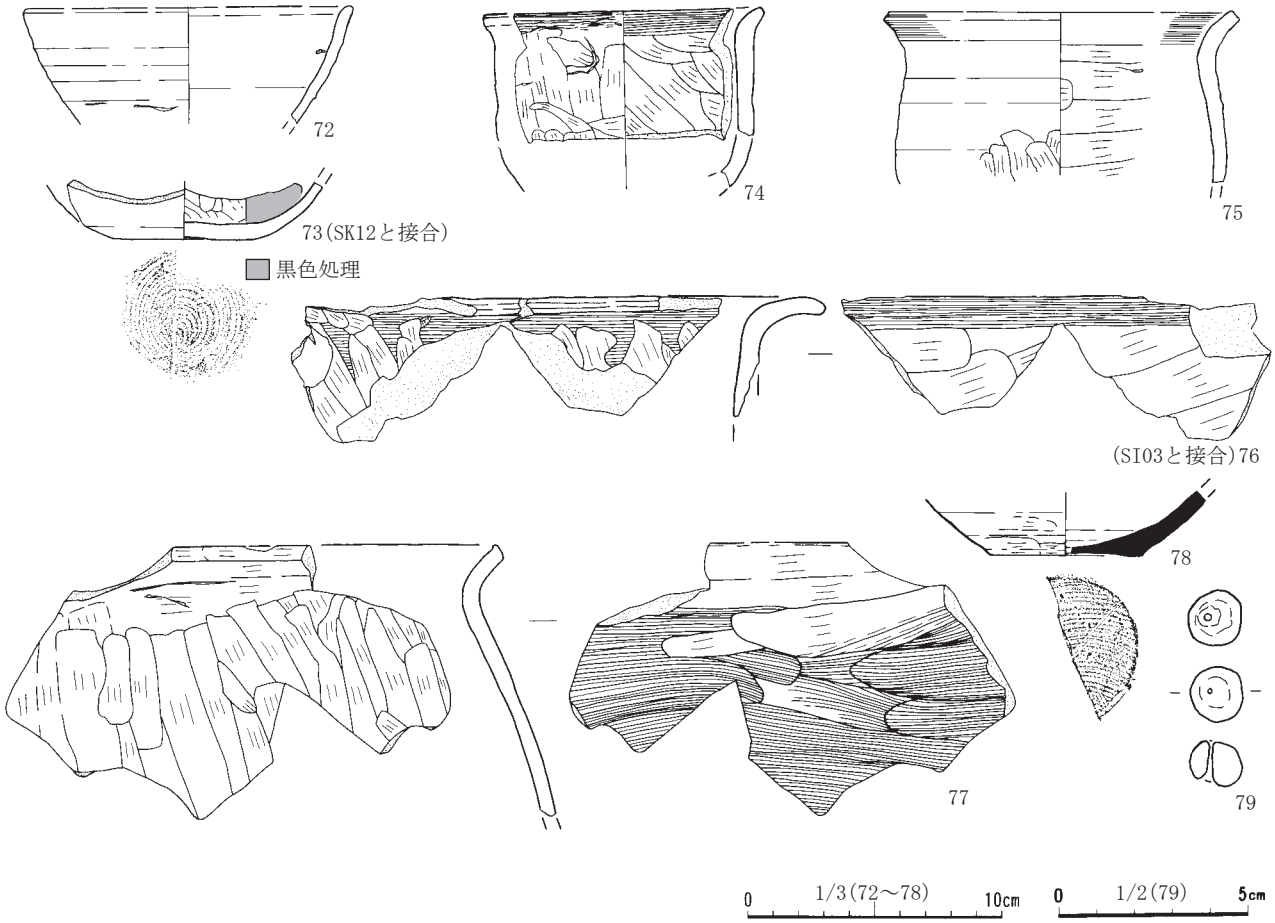


図51　第５号竪穴住居跡　出土遺物

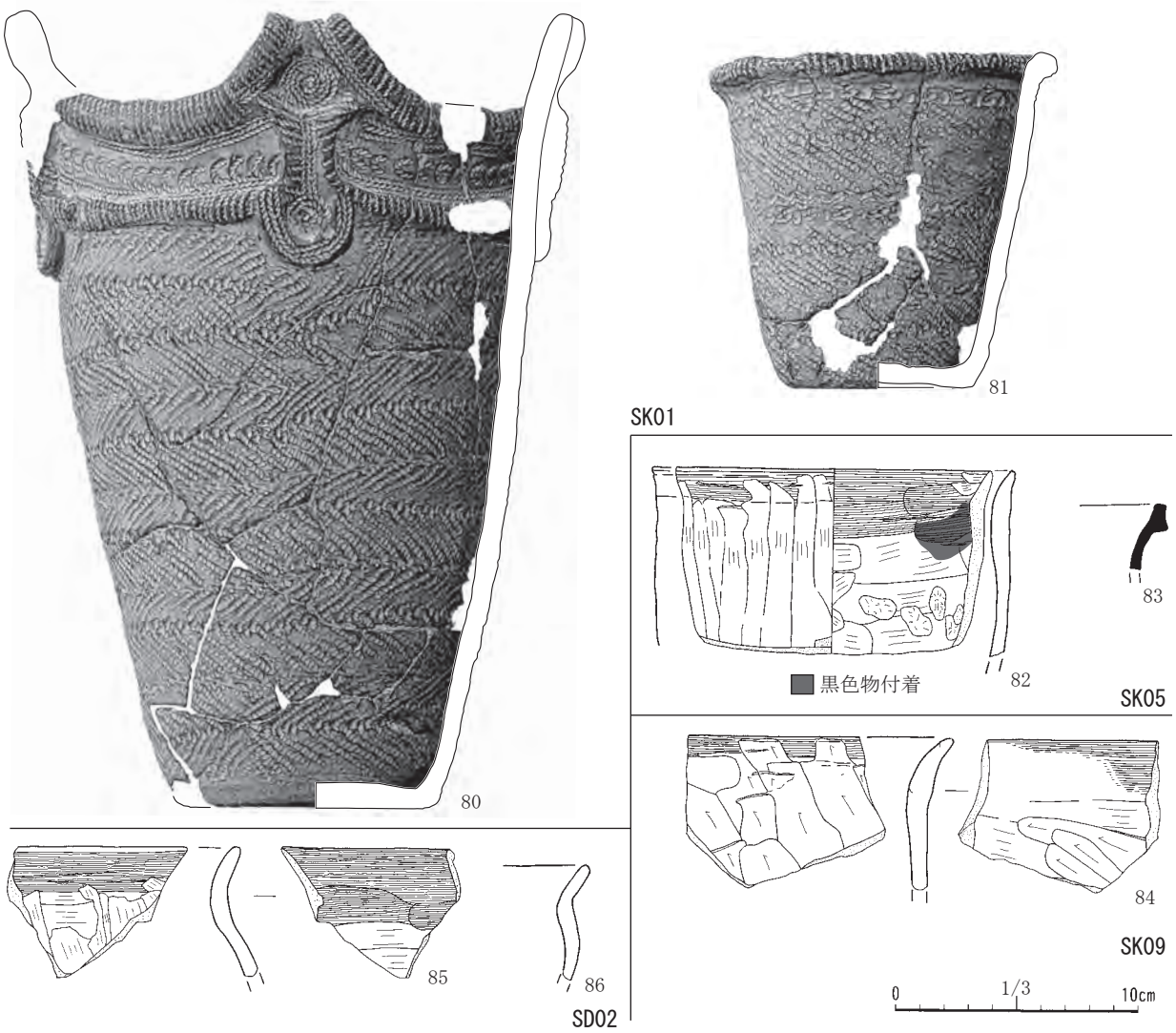


図52　土坑・溝跡　出土遺物

２　遺構外の出土遺物

（１）　縄文時代の出土遺物（図53）

縄文時代の土器は、前期（87）・中期（88・89）・後期（90）・晩期（91・92）のものがあり、石器は削掻器（97・98）がある。88は図52-81と同一グリッドから出土したことに加え、施文方法・器形・法量とも類似しており、関連性が窺える。

（２）　平安時代の出土遺物（図53）

平安時代の遺物は、土師器鉢（93）、須恵器坏（94）・甕（95）、羽口（96）、貫通孔を有する土製玉（99）がある。94は酸化焼成で橙色を呈する須恵器坏で、外面には刻書がみられる。

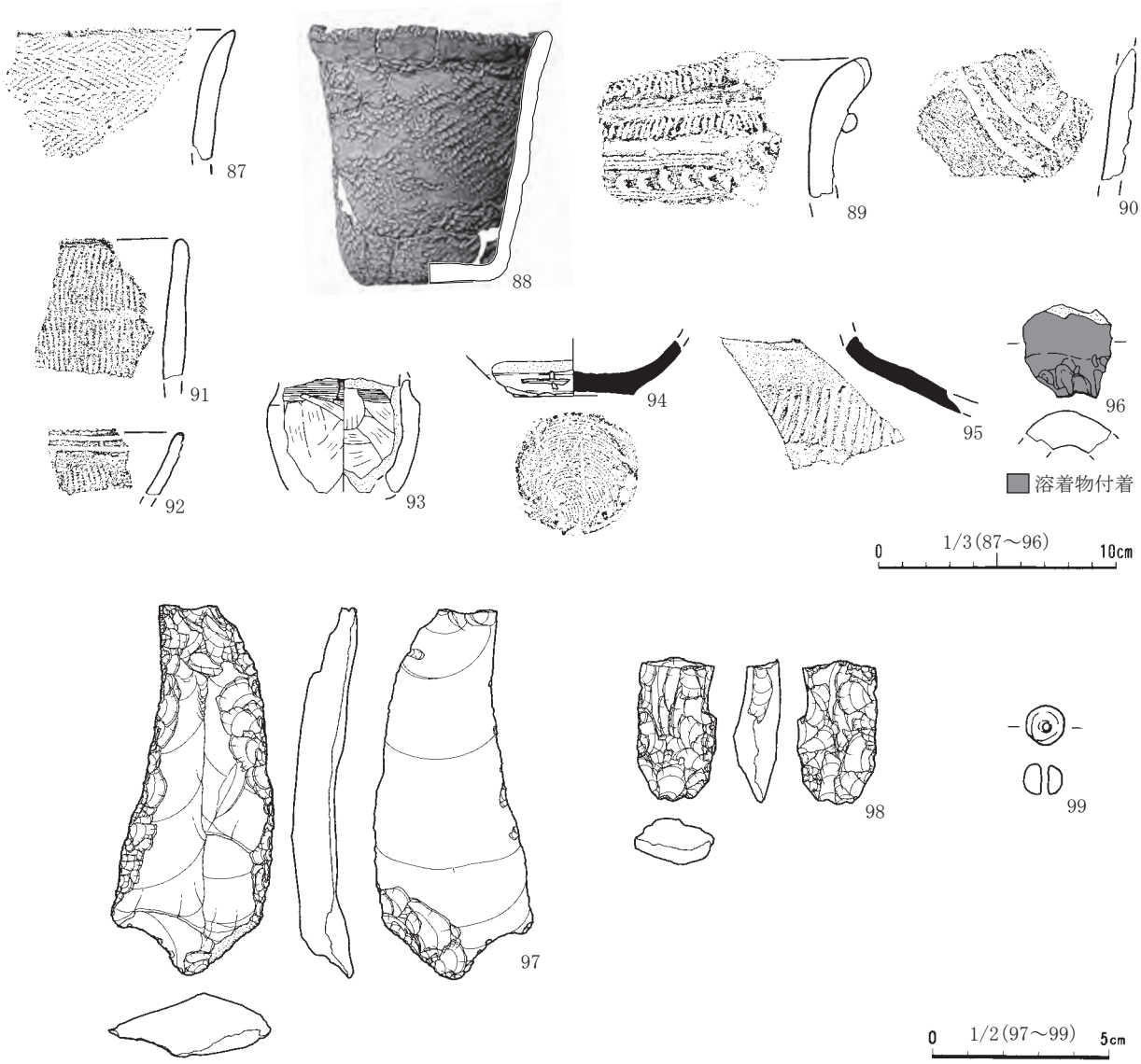

87
88
89
90
91
92
93
94
95
96
溶着物付着
0
1/3(87～96)
10cm
97
98
99
0
1/2(97～99)
5cm

図53　遺構外　出土遺物

３　遺物観察表

表14　農道23号　土器観察表

図番号	遺物番号	遺構名	出土位置・層位等	種類	器種	部位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	外面調整(文様)	内面調整(文様)	備考(底面調整)	時期
45	1	SI01	カマド左袖芯材P25～27、床面直上P6・8～15・18・23、覆土	土師器	甕	略完形	25.0	9.6	29.5	横ナデ、ヘラナデ	指ナデ、ナデ、ヘラナデ、横ナデ	底外面砂底。外面焼土付着。	平安時代
45	2	SI01	カマド覆土P1～5、カマド左袖芯材P25・26、床面直上P19～23、煙出部覆土	土師器	甕	体部上半	23.8	-	27.3	ロクロ、ヘラナデ	ロクロ、ヘラナデ		平安時代
45	3	SI01	カマド袖芯材P27	土師器	甕	略完形	22.0	10.0	31.3	輪積痕、横ナデ、ヘラナデ、ヘラケズリ	指ナデ、ナデ、横ナデ	底外面オサエ、ナデ。歪み顕著。	平安時代
46	4	SI03	カマド周辺P102	土師器	小鉢	完形	5.6	4.6	5.0	横ナデ、ヘラナデ	横ナデ、指ナデ	底外面圧痕?	平安時代
46	5	SI03	床面P4・47	土師器	小鉢	略完形	(3.1)	1.8	3.9	オサエ、横ナデ、指ナデ	指ナデ、横ナデ	底外面オサエ。	平安時代
46	6	SI03	北半覆土上位	土師器	坏	略完形	(12.6)	(6.0)	5.5	ロクロ、ナデ	ミガキ、黒色処理	底外面回転糸切。	平安時代
46	7	SI03	北半覆土上位	土師器	坏	略完形	(14.3)	(7.2)	5.5	ロクロ、ナデ	ミガキ、黒色処理	底外面回転糸切、ナデ。	平安時代
46	8	SI03	南半覆土上位	土師器	坏	略完形	10.4	4.8	4.1	ロクロ	ロクロ	底外面回転糸切、ナデ。	平安時代
46	9	SI03	床直P31、床面P36・68、覆土	土師器	坏	略完形	13.9	7.0	6.4	ロクロ	ロクロ	内外面黒色物付着。内底面磨滅。	平安時代
46	10	SI03	カマドP92	須恵器?	坏	体部上半	-	-	-	ロクロ,刻書	ロクロ		平安時代
46	11	SI03	覆土	土師器	甕	底部	-	(5.0)	(4.9)	ロクロ、ヘラケズリ	ロクロ	底外面回転糸切。内外面炭化物付着。	平安時代
46	12	SI03	覆土上位	土師器	甕	底部	-	5.2	(2.7)	ロクロ	ロクロ	底外面回転糸切。	平安時代
46	13	SI03	カマド支脚1 P99	土師器	小甕	口縁部	(13.9)	-	(7.2)	横ナデ、(ミガキに近い)ヘラナデ	ナデ、横ナデ	13・14同一個体?	平安時代
46	14	SI03	カマド支脚1 P1・P99	土師器	甕	底部	-	8.0	(7.4)	ヘラナデ	指ナデ、ナデ	底外面ナデ。13・14同一個体?	平安時代
46	15	SI03	カマド支脚2 P100、6層P101	土師器	甕	底部	-	6.4	(5.4)	ヘラナデ	指ナデ、ナデ	底外面ヘラケズリ、ナデ。	平安時代
46	16	SI03	床面P36・69・90	土師器	甕	口縁部	(12.2)	-	(8.2)	輪積痕、横ナデ、ヘラナデ	ヘラナデ、横ナデ、ナデ		平安時代
46	17	SI03	床面P33・34・38・42・43、覆土	土師器	甕	口縁部	13.4	-	(7.5)	輪積痕、横ナデ、ヘラナデ	ナデ、横ナデ		平安時代
46	18	SI03	床面P35・37・38・40・70	土師器	羽釜	口縁部	14.6	-	(6.9)	ロクロ	ロクロ		平安時代
46	19	SI03	1層下位、床面P48、南半覆土上位	土師器	甕	口縁部	(22.8)	-	(16.3)	横ナデ、ヘラナデ	輪積痕、ナデ、横ナデ	外面炭化物付着。	平安時代
46	20	SI03	1層下位、1層	土師器	甕	口縁部	(24.0)	-	(9.2)	ロクロ	ロクロ		平安時代
47	21	SI03(23-9遺物集中地点)	カマドP84、23-9遺物集中地点P2・8、23-9・10Ⅰ層	土師器	甕	体部上半	(27.6)	-	(22.0)	ヘラナデ	ヘラナデ	外面焼土付着。	平安時代
47	22	SI03(23-9遺物集中地点)	23-9遺物集中地点P-1、23-10Ⅰ層	土師器	甕	底部	-	7.3	(5.5)	ヘラナデ	ロクロ	底外面回転糸切。ヘラナデ?	平安時代
47	23	SI03	床面P33、カマドP88	土師器	甕	底部	-	7.6	(11.8)	ヘラナデ、ヘラケズリ、ヘラナデ	ナデ、ヘラナデ		平安時代
47	24	SI03	6層P101	土師器	甕	底部	-	8.4	(8.6)	ヘラケズリ	ナデ	底外面ヘラナデ?外面・底外面焼土付着。	平安時代
47	25	SI03	カマド覆土、覆土、ベルト4層、掘り方	土師器	甕	体部下半	-	(9.6)	(15.8)	ヘラナデ	ナデ	底外面に砂底をはぎ取るヘラナデ。	平安時代
47	26	SI03	南半覆土上位	土師器	堝	胴部	-	-	-	ヘラケズリ、ナデ	ナデ		平安時代
47	27	SI03	覆土	土師器	堝	口縁部	-	-	-	輪積痕、ナデ	ナデ	内面剥落。	平安時代
47	28	SI03	カマド4層P96	須恵器	皿	完形	10.3	3.5	2.9	ロクロ、ナデ	ロクロ	底外面回転糸切。	平安時代
47	29	SI03	床直P67	須恵器	坏	略完形	(14.7)	(5.2)	6.1	ロクロ、刻書	ロクロ	内面火襷痕・黒色物付着。底外面回転糸切、ヘラナデ。	平安時代

図番号	遺物番号	遺構名	出土位置・層位等	種類	器種	部位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	外面調整(文様)	内面調整(文様)	備考(底面調整)	時期
47	30	SI03	床直P32、北半覆土上位、覆土	須恵器	坏	略完形	12.6	5.0	5.5	ロクロ、ナデ	ロクロ	底外面回転糸切。外面刻書あり。底内面スリ?	平安時代
47	31	SI03	床面P3	須恵器	坏	口縁部	(12.0)	-	(4.4)	ロクロ	ロクロ		平安時代
47	32	SI03	覆土	須恵器	壺	口頸部	(3.9)	-	(3.6)	ロクロ、凸帯	ロクロ、指ナデ	頸部外面刻書?	平安時代
47	33	SI03	床面P63、1層下位	須恵器	壺	口縁部	(10.6)	-	(1.9)	ロクロ	ロクロ		平安時代
47	34	SI03	床直P25、床面P1、南半覆土上位	須恵器	壺	頸部	-	-	(11.3)	ロクロ、ヘラナデ	ロクロ、ナデ	頸部に隆帯。	平安時代
47	35	SI03	南半覆土上位、覆土、H23-9Ⅰ層	須恵器	壺	底部	-	(8.4)	(6.5)	ロクロ	ロクロ、指ナデ	ヘラナデ。	平安時代
49	48	SI04	覆土上位(黒色)	土師器	坏	底部	-	(5.6)	(2.7)	ロクロ	ミガキ、黒色処理	底外面回転糸切。	平安時代
49	49	SI04	張出部手前覆土	土師器	小甕	口縁部	(10.0)	-	(4.1)	横ナデ、ヘラナデ	ナデ、横ナデ		平安時代
49	50	SI04Pit2	覆土	土師器	小甕	口縁部	(12.0)	-	(5.6)	横ナデ、ヘラケズリ	ナデ、横ナデ		平安時代
49	51	SI04	火床面支脚下位P24	土師器	小甕	底部	-	5.6	(4.0)	ヘラケズリ	指ナデ	底外面砂底。外面被熱により摩滅。	平安時代
49	52	SI04	床面P-2、カマド床面P-9、燃焼部 覆土、覆土	土師器	小甕	体部上半	(12.9)	-	(9.5)	ロクロ	ロクロ		平安時代
49	53	SI04	火山灰上	土師器	小甕	体部上半	(11.0)	-	(8.9)	ロクロ	ロクロ		平安時代
49	54	SI04	カマド火床面P4	土師器	小甕	底部	-	8.1	(6.5)	ロクロ	ロクロ	底外面回転糸切、ヘラナデ。	平安時代
49	55	SI04	カマド3層P8・13、燃焼部覆土	土師器	小甕	底部	-	8.0	(6.6)	ロクロ	ロクロ	底外面回転糸切、ヘラナデ?	平安時代
49	56	SI04	4層P26	土師器	小甕	底部	-	8.2	(2.1)	ロクロ	ロクロ	底外面回転糸切。	平安時代
49	57	SI04	床面P1	土師器	小甕	底部	-	7.0	(9.4)	ヘラナデ	ナデ	底外面砂底。	平安時代
49	58	SI04	床面P-1、カマド覆土、3層P7、燃焼部覆土	土師器	小甕	口縁部	(14.1)	-	(8.5)	横ナデ、ヘラケズリ、ヘラナデ	ナデ		平安時代
49	59	SI04	煙道覆土、9層P19～21、7層P23、カマド確認面	土師器	甕	体部上半	17.4	-	(19.8)	横ナデ、ヘラナデ	輪積痕、ナデ、横ナデ	外面焼土付着。	平安時代
49	60	SI04	火山灰上	土師器	甕	口縁部	-	-	-	横ナデ、ヘラナデ	ヘラナデ、横ナデ		平安時代
49	61	SI04	カマド床面P11・12、カマド3層P13・15、カマド覆土、火床面P5、燃焼部・煙道 覆土、床面直上、7b層P25、3層上部、Pit1確認面、覆土	土師器	甕	体部上半	23.6	-	(24.3)	ロクロ、横ナデ、ヘラナデ	ロクロ、ヘラナデ	被熱により内面摩耗。	平安時代
50	62	SI04	覆土下位	土師器	堝	口縁部	-	-	-	横ナデ、ヘラナデ、ミガキ?	ヘラナデ、横ナデ		平安時代
50	63	SI04	南半床面直上	須恵器	坏	口縁部	(15.0)	-	(3.8)	ロクロ	ロクロ		平安時代
50	64	SI04	床面直上	須恵器	坏	口縁部	(13.2)	-	(4.0)	ロクロ	ロクロ		平安時代
50	65	SI04	南半床面直上	須恵器	坏(転用硯?)	底部	-	6.0	(1.9)	ロクロ、ナデ	ロクロ、ナデ	底外面回転糸切。底内面スリ痕・黒色付着物あり。	平安時代
50	66	SI04	床面直上	須恵器	坏(転用硯?)	体部下半	-	6.0	(4.2)	ロクロ	ロクロ	底外面回転糸切。底内面スリ痕あり。	平安時代
50	67	SI04	南半床面直上	須恵器	壺	肩部	-	-	-	ロクロ、隆帯	ロクロ、ナデ		平安時代
50	68	SI04	南半床面直上	須恵器	甕	胴部下半	-	-	-	タタキ	オサエ、ナデ		平安時代
50	69	SI04	煙道確認面	須恵器	甕	胴部	-	-	-	タタキ	ナデ		平安時代
51	72	SI05	床面直上、23-10Ⅰ層	土師器	坏	体部上半	(12.8)	-	(4.6)	輪積痕、ロクロ	輪積痕、ロクロ		平安時代
51	73	SI05	SI05床面直上、SK12覆土	土師器	坏	底部	-	5.5	(2.3)	ロクロ	ミガキ、黒色処理	底外面回転糸切。	平安時代
51	74	SI05	床面直上	土師器	小鉢	体部上半	(10.9)	-	(7.0)	輪積痕、横ナデ、ヘラナデ	ナデ、横ナデ		平安時代
51	75	SI05	床面直上、覆土	土師器	小甕	口縁部	(13.6)	-	(6.8)	ロクロ、ヘラナデ	輪積痕、ナデ、横ナデ		平安時代
51	76	SI05	SI05床面直上、SI03覆土	土師器	甕	口縁部	-	-	-	横ナデ、ヘラナデ	ヘラナデ、横ナデ		平安時代
51	77	SI05	2層、覆土	土師器	甕	口縁部	-	-	-	ロクロ?、ナデ、ヘラナデ	刷毛目、ナデ		平安時代

図番号	遺物番号	遺構名	出土位置・層位等	種類	器種	部位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	外面調整(文様)	内面調整(文様)	備考(底面調整)	時期
51	78	SI05	床面直上	須恵器	坏	底部	-	(6.0)	(2.6)	ロクロ、ナデ	ロクロ	底外面回転糸切?	平安時代
52	80	SK01	底面P1、23R-18 I層	縄文土器	深鉢	略完形	21.4	10.0	33.0	粘土紐貼付 ・L側面圧痕、L・R・L側面圧痕、縄(LR)のC字状圧痕、結束第1種(RL・LR)横位回転・縄端回転文	ミガキ	波状口縁。胎土に植物繊維微量混入。	縄文時代中期前葉(円筒上層b式)
52	81	SK01	底面P1・2	縄文土器	鉢	略完形	14.2	7.4	13.9	口唇L側面圧痕、結束第1種(RL・LR)横位回転、縄端回転文	ミガキ	胎土に植物繊維微量混入。	縄文時代前期前葉(円筒上層b式?)
52	82	SK05	底面P-1	土師器	小甕	体部上半	(14.8)	-	(7.7)	輪積痕、横ナデ、ヘラナデ	輪積痕、ヘラナデ、横ナデ、指ｱﾄ	内面黒色物付着。	平安時代
52	83	SK05	覆土	須恵器	壺	口縁部	-	-	-	ロクロ	ロクロ		平安時代
52	84	SK09	1層	土師器	甕	口縁部	-	-	-	横ナデ、ヘラケズリ	ヘラケズリ、ナデ、横ナデ	内面磨滅。	平安時代
52	85	SD02(旧SF03)	覆土	土師器	甕	口縁部	-	-	-	ナデ、横ナデ、ヘラナデ	ナデ、横ナデ		平安時代
52	86	SD02(旧SF03)	覆土	土師器	小甕	口縁部	-	-	-	横ナデ、ヘラナデ	ナデ、横ナデ		平安時代
53	87	遺構外	23-R12 I層	縄文土器	深鉢	口縁部	-	-	-	結束第1種回転	ミガキ	胎土に植物繊維混入。	縄文時代前期後葉(円筒下層式)
53	88	遺構外	23-R18 IV層	縄文土器	鉢	略完形	10.2	6.2	11.1	口唇L側面圧痕、結節回転文(LR)、縄端回転文	ナデ	胎土に植物繊維微量混入。	縄文時代中期前葉(円筒上層b式?)
53	89	遺構外	23-R12 I層	縄文土器	深鉢	口縁部	-	-	-	R・L側面圧痕、L単軸絡条体回転、縄(RL)のC字状圧痕	ナデ		縄文時代中期前葉(円筒上層b式)
53	90	遺構外	23-13 I層	縄文土器	深鉢	胴部	-	-	-	沈線、LR回転充填	ナデ		縄文時代後期前葉
53	91	遺構外	23-13 I層	縄文土器	深鉢	口縁部	-	-	-	LR斜回転	ナデ		縄文時代晩期?
53	92	遺構外	23-13 I層	縄文土器	鉢	口縁部	-	-	-	沈線、RL斜回転		口唇刻み	縄文時代晩期中葉
53	93	遺構外	23-22 I層	土師器	小鉢?	体部上半	-	-	(4.8)	オサエ、指ナデ、横ナデ	オサエ、ナデ、横ナデ		平安時代
53	94	遺構外	23-R17 I層	須恵器	坏	底部	-	5.1	(2.3)	ロクロ	ロクロ	底外面回転糸切。酸化焼成。外面火襷、刻書あり。	平安時代
53	95	遺構外	23-4 撹乱	須恵器	甕	肩部	-	-	-	タタキ	ナデ		平安時代

表15　農道23号　石器観察表

図番号	遺物番号	遺構名	出土位置・層位	器種	分類	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石材	備考
48	43	N23SI-03pit4	覆土	磨石	平坦面・側面	7.0	4.3	2.4	82.5	凝灰岩	楕円礫・全体に平滑
48	44	N23SI-03S-6	床面	凹石	1個両平坦面	7.6	7.2	2.5	116.6	凝灰岩	扁平礫
50	70	N23SI-04	床面直上	砥石		10.4	2.2	1.5	39.1	凝灰岩	
50	71	N23SI-04	床面直上	軽石		6.5	4.9	3.0	14.2	軽石	平坦に整えている
53	97	遺構外	N23-R8　I層	削掻器	3側縁	10.4	4.3	1.3	55.0	珪質頁岩	
53	98	遺構外	N23-R14　表土	削掻器	3側縁	4.1	2.2	1.2	11.7	珪質頁岩	

表16　農道23号　土製品観察表

図番号	遺物番号	遺構名	出土位置・層位	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	外面調整(文様)	備考
48	36	N23SI-03	土鈴-1　床直	土鈴	4.7	2.9	3.0	18.7	オサエ	鈴部に玉封入
48	37	N23SI-03	土鈴-3　床直	土鈴	7.8	4.4	3.8	60.0	オサエ	鈴部に玉封入
48	38	N23SI-03	土鈴-2　床直	土鈴	7.0	3.0	2.8	26.3	ナデ	中軸に貫通孔あり
48	39	N23SI-03	土玉-4　床面	土玉	1.4	1.5	1.4	3.4	オサエ	貫通孔なし
48	40	N23SI-03	土玉-3　1層	土玉	1.5	1.6	1.6	2.1	オサエ	貫通孔あり
48	41	N23SI-03	土玉-2　床面	土玉	1.2	1.2	0.9	1.0	オサエ	貫通孔あり
48	42	N23SI-03	土玉-1　床面	土玉	0.8	0.8	0.8	0.6	オサエ	貫通孔あり
51	79	N23SI-05	土玉-1　床面	土玉	1.5	1.4	1.2	2.1	オサエ	貫通孔あり
53	96	遺構外	N23-R8　I層	羽口	(3.7)	(3.9)	1.5	26.1		
53	99	遺構外	N23-11　I層	土玉	1.2	1.1	0.9	1.3	オサエ	貫通孔なし

表17　農道23号　石製品観察表

図番号	遺物番号	遺構名	出土位置・層位	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石材	備考
48	45	N23SI-03	S-10　床面	碁石状	3.3	2.2	0.8	10.1	玉髄	

表18　農道23号　鉄製品観察表

図番号	遺物番号	遺構名	出土位置	層位	種類	分類	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備考
48	46	N23SI-03	鉄3	床面	鉄製品	刀子？	4.6	2.0	0.3	3.3	保存処理4
48	47	N23SI-03	鉄5①②	床面	鉄製品	刀子	19.0	2.3	0.6	26.4	保存処理5・6 ①②接合 ②木質部残存

第５節　農道24号Ｅ区の検出遺構と出土遺物

農道24号Ｅ区は、農道24号と配水管15号の工事予定範囲を含んでおり、長さ約150m、幅約６m、合計1,000㎡を調査した。検出された遺構とその略称は、下記のとおりである。

竪穴住居跡(SI)	12軒(縄文：ESI07～09・11・13、平安：ESI01～03・05・06・10・12)
土坑(SK)	47基(縄文：ESK05・06・08・09・11～14・18～48・51、 平安：ESK01～03・10・15・49・50)
掘立柱建物跡(SB)	１棟
ピット(SP)	65基
溝跡(SD)	11条
焼土遺構(SN)	１基
埋設土器遺構(SR)	３基
遺物包含層	１箇所

縄文時代の遺構・遺物は調査区南東側で比較的濃い分布が認められる。平安時代の遺構は調査区内に平均的に分布する。出土した遺物は、土器類33箱、石器類５箱の合計38箱であった。

１　検出遺構

（１）　竪穴住居跡

12軒の竪穴住居跡が検出された。時期は縄文時代前期のものが５軒、平安時代のものが７軒で、縄文時代のものは調査区南東側から４軒がまとまって検出された。

第１号建物跡（ESI01 、ESI04、ESD05 、ESK07・16・17、図75～77）

【概要】調査区南側北部、24－29～31グリッドに位置し、遺構確認面の標高は41.0～41.4 m、第Ⅴ層で確認した。ESD01と重複しており、本住居跡が古い。

【竪穴住居跡－ ESI01】

［平面形 ・規模］ほぼ床面のみの検出である。住居南西部約５分の１が調査区域外にあるが、平面形は方形と推定される。壁長及び確認面から床面までの深さは、北西壁4.0m・深さ５～11cm、北東壁4.0m・深さ８～15cm、南東壁(1.8)m・深さ８～13cm、南西壁(2.5)m・深さ８～14cmを測る。住居の軸方向はN－ 37°　－Wである。

［床面 ・壁溝］床面のほどんどを貼り床によって平坦に整えられている。壁溝は幅16～24cm、深さ８～19cmで、壁際を全周するように巡らされている。

［柱穴］柱穴は10 基検出された。ほとんどは壁際の壁溝内から検出されている。

［カマド］南西壁の東寄りに検出された。半地下式であり、燃焼部や煙道部は粘土で構築される。24×23cmの火床面が検出され、深さ３cmまで被熱していた。煙道は住居外に延び、煙道の軸方向はN－33°　－Wである。土師器甕の底部（図77－１）が火床面奥側に倒立状態で出土しており、支脚に転用されていたものと考えられる。

［堆積土］暗褐色土主体とし、焼土粒を混入することから人為堆積と考えられる。３～５層は住居南東側に堆積していた粘土層で、おそらくカマドの廃棄粘土と思われる。６層は壁溝堆積土、７層は貼

り床埋土である。

［出土遺物］土師器甕（図77－１・２・４）・堝（３）、須恵器坏（５）・壺（６）・甕（７）、石製品（９）を図示した。

【外周溝－ ESD05、ESI04、ESK07・16・17】

［平面形・規模・底面］ESI01を囲むように検出された。幅約80～150cm、確認面からの深さは28～57cmである。屈曲部には土坑状に膨らむ部分（ESK16・17）があり、深さ15～44cmを呈する。

［堆積土］黒褐色土～暗褐色土主体で火山灰が層状に堆積する。理化学的分析の結果、白頭山苫小牧テフラと十和田テフラのガラスが、また、十和田のテフラガラスと十和田八戸テフラガラスが混合していると推定された（第３章第１節参照）。人為的に埋め戻されたものの、埋まりきらない凹地に火山灰が堆積したものと考えられる。

［出土遺物］土師器坏（10・11）・甕（12～16）のほか、縄文土器（17）・石器（８）を図示した。

［小結］出土遺物や堆積土の様相などから、９世紀後葉～10世紀前葉頃に廃絶されたと思われる。

第２号竪穴住居跡（ESI02、図71・78）

［位置・確認］調査区中央北部、24－19～22グリッドに位置し、遺構確認面の標高は43.3～43.7 m、第Ⅴ層で確認した。ESD07と重複しており、本住居跡が新しい。

［平面形・規模］住居南西部と北東端が調査区域外にあるが、平面形は方形と推定される。壁長及び確認面から床面までの深さは、北西壁（6.5）m・深さ32cm、北東壁（6.0）m・深さ48cm、南東壁（2.8）m・深さ43cm、南西壁（1.7）m・深さ43cmを測る。いずれの壁も垂直に近い立ち上がりをみせている。住居の軸方向はN－ 32°－Wである。

［床面・壁溝］床面は全体を貼り床によって平坦に整えられている。壁溝は幅15～26cm、深さ11～21cmで、壁際を全周するように巡らされている。カマド部分でも壁溝が確認できたことから、一旦壁溝を掘削した後、埋め戻してカマドを構築した可能性が高い。壁溝内から柱穴が確認されている。

［柱穴］柱穴は23基検出された。Pit１・３が主柱穴の可能性がある。Pit３の掘り方底面から、一辺約30cmの方形の柱痕跡が確認された。前述のように壁溝内から柱穴が確認されているほか、住居掘り方除去後にも確認されたものがある。

［カマド］南東壁の東寄りで検出された。半地下式であり、燃焼部や煙道部は粘土で構築される。煙出し部や煙道部の天井部分が崩落した状態で検出した。火床面規模は55×50cm、厚さ５cmである。煙道は住居外に延び、緩やかに立ち上がっていく。煙道の軸方向はN－43°－Wである。火床面奥側から、支脚に転用されていたと考えられる土師器甕（図78－19）が倒立状態で出土した。

［その他の施設］ESD03・04は外周溝の可能性がある。

［堆積土］黒褐色土～暗褐色土主体で８層に分層された。８層は掘り方埋土である。しまりがあり、堅致であった。焼土粒が混入することから人為的に埋め戻されたものと考えられる。

［出土遺物］土師器甕（図78－18・19）、須恵器長頸壺（20）・甕（21）のほか、縄文土器（22）・石器（23～26）が出土している。26の磨石はカマド内から出土しており、平安時代の可能性もある。

［小結］出土遺物から、９世紀後葉～10世紀前葉頃に廃絶されたものと思われる。

第３号竪穴住居跡（ESI03、図68・79）

［位置 ・確認］調査区東側中央、24－13・14グリッドに位置する。第Ⅴ層で確認したが、調査区壁面での土層観察では第Ⅱ層を掘り込んで構築されている。確認面の標高は43.9～44.2 mである。

［平面形 ・規模］住居南西部が調査区域外にあるが、平面形は方形と推定される。壁長及び確認面から床面までの深さは、北西壁（1.7）m ・深さ65cm、北東壁（4.2）m ・深さ70cm、南東壁（1.7）m ・深さ60cmを測る。壁は垂直に近い立ち上がりをみせている。住居の軸方向はN－ 47° －Wである。

［床面・壁溝］地山をそのまま床面としている。

［柱穴・カマド］調査範囲内では検出されなかった。

［土坑］住居内土坑は５基（ESI03内SK01～05）検出された。各土坑の規模は、SK01が（290）×75cmの歪な楕円形を呈し深さは52cm、SK02が119×110cmの歪な円形を呈し深さは33cm、SK03が70×54cmの歪な円形を呈し深さは28cm、SK04が53×50cmの歪な円形を呈し深さは16cm、SK05が41×36cmの円形を呈し深さは13cmを測る

［堆積土］上位は黒色～黒褐色土、下位は黄褐色土主体で、焼土粒等が混入することから人為的に埋め戻されたと考えられる。

［出土遺物］土師器坏（図79－27）・甕（図28～32）、須恵器壺（33）のほか、縄文土器（34・35）・石器（36）が出土している。36の磨石は平安時代の砥石の可能性もある。

［小結］ 出土遺物から、９世紀後葉～10世紀前葉頃に廃絶されたものと思われる。

第４号竪穴住居跡（ESI04、図75・77）

［位置 ・確認］竪穴住居跡として調査時したものの、第１号建物跡を構成する外周溝の一部と考えられることから、そちらで報告している。

第５号竪穴住居跡（ESI05、図61・62・79）

［位置 ・確認］調査区南東側、24－７・８グリッドに位置する。第Ⅲ層で確認した。ESK40・42・43・45・ESB01と重複し、本遺構は土坑より新しいが、掘立柱建物跡との新旧関係は不明である。

［平面形・規模］住居南西半が調査区域外にあるが、平面形は方形と推定される。

［床面・壁溝］床面はⅤ層で、緩やかに起伏する。

［柱穴・カマド］調査区内では検出されなかった。

［その他の施設］床面から検出されたESK42は、住居内土坑の可能性がある。

［堆積土］黒色土～暗褐色土主体層がブロック状に堆積することから、人為的に埋め戻されたものと考えられる。床面直上には、廃棄焼土が不整形に散布している。

［出土遺物］土師器坏（図79－37）・甕（39・40）、須恵器壺（38）のほか、縄文土器の底部を加工した円盤状土製品（41）を図示した。

［小結］ 出土遺物から、９世紀後葉～10世紀前葉頃に廃絶されたものと思われる。

第６号竪穴住居跡（ESI06、図58～60・80）

［位置・確認］調査区東側中央、24－４～６グリッドに位置し、遺構確認面の標高は45.6～45.8 m、第Ⅳ層で確認した。ESP65と重複し、本住居の方が古い。

［平面形・規模］住居北東部約５分の１が調査区域外にあるが、平面形は方形と推定される。壁長は北西壁6.9m・北東壁（2.1）m・南東壁（2.3）m・南西壁6.8mを測る。壁はやや外傾して立ち上がる。住居の軸方向はN－75°－Wである。

［床面・壁溝］床面のほぼ全面に渡って貼り床が施されている。壁溝は検出されなかった。

［柱穴］柱穴は11基検出された。Pit１～３が主柱穴になると思われる。それ以外の柱穴は壁際から検出されている。

［カマド］南東壁の南寄りで検出した。煙道は半地下式で、大半が調査区外にある。燃焼部や煙道部は粘土で構築されており、燃焼部や煙道部の天井部分が崩落した状態で検出した。火床面の大きさは54×49㎝で、深さ７㎝まで被熱していた。煙道の軸方向はN－75°－Wである。カマド左袖から土師器の甕（図80－44）が出土した。

［その他の施設］住居の南東隅および南西隅から粘土が検出された。

［堆積土］上位は黒～黒褐色土、下位は褐色土主体で、焼土由来と推定される赤褐色土粒を混入することから人為堆積と考えられる。なお、１層上部には火山灰が確認されており、これについて自然科学的分析（試料番号灰－６）を行ったところ、十和田ａテフラガラスのみからなると推定された（第３章第１節）。

［出土遺物］土師器甕（図80－42～45）・小杯（47）、須恵器甕（46）のほか、縄文土器（48）・石器（49）を図示した。

［小結］出土遺物から、９世紀後葉～10世紀前葉頃に廃絶されたものと思われる。

第７号竪穴住居跡（ESI07、H14SI10、H14SK14、図55・81）

［位置・確認］農道24号調査区の南東端24－１グリッドに位置する。配水管14号調査区の北東端のH14SI10は本住居の一部であるため、ここで纏めて記述する。第Ⅴ層で確認したが、調査区壁面での土層観察からは、第Ⅳ層を掘り込んで構築されている。H14SK13・ESD10と重複し、本住居跡の方が古い。なお、H14SK14も本住居の住居内土坑と考えられる。

［平面形・規模］平面形は楕円状と推定され、確認面から床面の深さは15～32㎝である。壁は外傾しながら立ち上がる皿状の断面形状をなす。

［床面・壁溝］床面には若干の起伏がみられる。壁溝は検出されなかった。

［柱穴］本住居跡に帰属すると思われる柱穴は４基検出された。

［炉］検出されなかったものの、Pit４がその可能性がある。

［その他の施設］配水管14号調査区で検出されたH14SK14は本住居の住居内土坑と考えられる。

［堆積土］覆土上位は黒褐色土、覆土中位には暗褐色土、床面付近では褐色土を主体として堆積する。黄褐色土のロームや焼土粒が混入することから、人為堆積と考えられる。

［出土遺物］縄文土器８点（図81－50～57）・石器２点（58・59）を図示した。

［遺構の時期等］出土遺物から縄文時代前期中葉～後葉の住居跡と考えられる。

第８号竪穴住居跡（ESI08、図56・82）

［位置・確認］24－２・１グリッドに位置する。耕作による削平や植栽による撹乱を受けている。

［平面形・規模］平面形は直径約3.3～3.5mの歪な楕円形をなすものと推定される。確認面から床面の深さは22cmで、やや開きながら立ち上がる。住居の長軸方向はＮ－24°－Ｅと推定される。

［床面・壁溝］床面は地山をそのまま床面としている。住居中央がやや凹んでいる。

［柱穴］本住居跡に帰属すると思われる柱穴は５基検出された。

［炉］検出されなかったが、住居中央の凹みに存在していた可能性もある。

［堆積土］黒褐色土の単層である。黄褐色土のロームが混入し、人為堆積と考えられる。

［出土遺物］縄文土器６点（図82－60～65）・石器６点（68～71）を図示した。

［遺構の時期等］出土遺物から縄文時代前期中葉～後葉の住居跡と考えられる。

第９号竪穴住居跡（ESI09、図57・83・84）

［位置・確認］24－２・３グリッドに位置し、第Ⅳ層で確認した。ESI10と重複し、本遺構の方が古い。

［平面形・規模］確認できる規模は直径約5.7mの不整円形をなすものと推定されるが、西半分は調査区域外にある。確認面から床面の深さは40～60cmを測り、やや開きながら立ち上がる。

［床面・壁溝］床面は地山をそのまま床面とし、ほぼ平坦である。Pit１周辺には硬化箇所がみられた。

［柱穴］本住居跡に帰属すると思われる柱穴は１基検出された。深さが69cmを測る。

［炉］検出されなかったものの、Pit１は覆土上位に炭化物粒が多量に混入することから、火床面が形成されなかった地床炉か、炉体を抜き取った後の埋甕炉とも考えられる。

［堆積土］覆土上位は黒褐色土、覆土中は暗褐色土、床面付近は褐色土が堆積している。ローム粒や焼土粒が混入することから、人為堆積と考えられる。

［出土遺物］縄文土器９点（図83－72～77・図84－78～80）・石器９点（81～89）を図示した。

［遺構の時期等］出土遺物から縄文時代前期中葉～後葉の住居跡と考えられる。

第10号竪穴住居跡（ESI10、図57・85・86）

［位置・確認］調査区東側南部、24－３・４グリッドに位置し、遺構確認面の標高は45.4～45.7 mである。ESI09・11より本遺構が新しく、ESK49・50より古い。

［平面形・規模］住居南西半が調査区域外にあるが、平面形は方形と推定される。壁長及び確認面から床面までの深さは、北東壁3.1m・深さ35cm、南東壁2.8m・深さ46cmを測る。壁はやや外反気味に立ち上がる。住居の軸方向はＮ－６°－Ｅである。

［床面・壁溝］ほぼ全面を貼り床としている。床面はほぼ平坦である。

［柱穴］柱穴は北東隅と南東隅からそれぞれ１基検出された。

［カマド］調査区内からは検出されなかった。

［その他の施設］床の中央付近から焼土が検出された。焼土範囲は確認された範囲で50×30cm程の不整長方形で、床面下部（掘り方）まで被熱が及んでいる。

［堆積土］堆積土上位は黒～黒褐色土、下位は褐色土主体で、焼土由来と推定される赤褐色土粒を混入することから人為堆積と考えられる。

［出土遺物］土師器坏（図85－90～92）・甕（93～95）・小杯（100）、須恵器坏（96）・壺（97・98）・甕（99）、鞴羽口（101）のほか、縄文土器（図86－102～106）を図示した。
［小結］ 出土遺物から、９世紀後葉～10世紀前葉頃に廃絶されたものと思われる。

第11号竪穴住居跡（ESI11、図57・86）
［位置・確認］24－３・４グリッドに位置し、第Ⅴ層で確認した。ESI10・ESK50と重複し、本住居跡が古い。
［平面形・規模］南西部が重複により残存しないものの、直径約3.2mのほぼ円形をなすものと推定される。確認面から床面の深さは16cmで、やや開きながら立ち上がる。
［床面・壁溝］床面は地山をそのまま床面としている。
［柱穴］本住居跡に帰属すると思われる柱穴は３基検出された。
［炉］検出されなかった。
［堆積土］単層で暗褐色土が主体である。
［出土遺物］縄文土器２点（図86－107・108）・石器３点（109～111）を図示した。
［遺構の時期等］出土遺物から縄文時代前期中葉～後葉の住居跡と考えられる。

第12号竪穴住居跡（ESI12、図65・87）
［位置・確認］調査区東側中央部、24－８グリッドに位置する。確認面の標高は45.6 mで、第Ⅴ層で床面のみを検出した。北側・南東側は撹乱を受けている。ESK32・48と重複し、それらより新しい。
［平面形・規模］住居北東半が調査区域外にあるが、平面形は方形と推定される。壁長は確認された範囲で北西壁1.7m・南西壁2.8mで、住居の軸方向はN－ 69°－Wである。
［床面・壁溝］ほぼ全面を貼り床としている。壁溝は床面の西端および南端で検出され、幅15～19cm、深さ４～16cmで、壁際を全周するように巡らされていたと考えられる。
［柱穴］調査区内からは、柱穴は住居南西隅から１基検出された。
［カマド・その他の施設］調査範囲内では検出されなかった。
［堆積土］上位は黒褐色土、下位は暗褐色土主体層が堆積し、ロームが粒状やブロック状に混入することから人為堆積と考えられる。３層は貼り床埋土である。
［出土遺物］縄文土器（図87－112・112）を図示した。
［小結］ 堆積土の状況から平安時代と推定されるが、詳細な時期は不明である。

第13号竪穴住居跡（第４号土坑）（ESI13←ESK04、図73・87）
［位置・確認］24－23・24グリッドに位置し、第Ⅴ層で確認した。調査当初はESK04としていたものである。ESK02と重複し、本住居後の方が古い。
［平面形・規模］平面形は直径約2.7～3.1mの楕円形を呈する。確認面から床面の深さは23～41cmを測り、壁は床面からほぼ垂直に立ち上がる。住居の長軸方向はN－10°－Eと推定される。
［床面・壁溝］床面は地山をそのまま床面としている。
［柱穴］本住居跡に帰属すると思われる柱穴は10基検出された。

［炉］検出されなかったが、住居跡中央に位置するPit１が、火床面が形成されなかった地床炉か、炉体を抜き取った後の埋甕炉とも考えられる。
［その他の施設］検出されなかった。
［堆積土］覆土上位は褐色土、覆土中位以下は黄褐色土主体である。ロームブロックや焼土粒を混入することから、人為堆積と考えられる。
［出土遺物］縄文土器２点（図87－114・115）・石器１点（116）を図示した。
［遺構の時期等］出土遺物等から縄文時代前期中葉～後葉の住居跡と考えられる。また、床面から出土した炭化材について放射性炭素年代測定を行ったところ、縄文時代前期中葉～後葉の年代が得られた（第３章第５節参照）。

（２）　土坑

第１号土坑（ESK01、図74・87）
［位置・確認］24－25・26グリッドに位置する。第Ⅴ層で検出したが、調査区壁面での土層観察では第Ⅲ層を掘り込んで構築されている。撹乱を受けている。
［平面形・規模］北半のみ検出された。確認できる規模は長軸308cm、短軸（77）cm、確認面からの深さは28㎝で平面形は不整円形と推定される。底面はほぼ平坦で皿状の断面形をしている。
［堆積土］黒褐色～暗褐色土主体で、ロームブロックが混入することから人為堆積と考えられる。
［出土遺物・遺構の時期等］底面から須恵器甕（図87－117・118）が出土しており、平安時代の遺構と考えられる。

第２号土坑（ESK02、図73）
［位置・確認］24－24グリッドに位置する。ESI13と重複し、本遺構が新しい。
［平面形・規模］平面形は長軸79cm、短軸56cmの隅丸長方形状を呈し、確認面からの深さは19㎝である。底面はほぼ平坦で、箱状の断面形状をなしている。
［堆積土］黒褐色土主体の単層で、焼土粒が混入することから人為堆積と考えられる。
［出土遺物・遺構の時期等］堆積土の様相から平安時代もしくはそれ以降の遺構と考えられる。

第３号土坑（ESK03、図71）
［位置・確認］24－22グリッドに位置する。第Ⅴ層で確認した。ESD03と重複し、本遺構が新しい。
［平面形・規模］調査区際に位置し、北半のみ検出された。確認できる規模は長軸115cm、短軸72cmの楕円形を呈していると考えられる。確認面からの深さは24㎝である。第Ⅴ層まで掘り込んでいる。底面は平坦で、皿状の断面形をなしている。
［堆積土］暗褐色土主体の単層で、ローム粒が混入することから人為堆積と考えられる。
［出土遺物・遺構の時期等］遺物は出土しなかった。平安時代の遺構と考えられるが、詳細な時期および用途は不明である。

第４号土坑（ESK04→ESI13、図73・87）
［位置・確認］竪穴住居跡と考えられることから、第13号竪穴住居跡として報告している。

第５号土坑（ESK05、図73）
［位置・確認］24－24グリッドに位置する。第Ⅴ層で確認した。
［平面形・規模］調査区際に位置し、南半のみ検出された。確認できる規模は長軸168cm、短軸107cmの不整円形を呈していると考えられる。確認面からの深さは22cmである。第Ⅴ層まで掘り込んでおり、底面はやや凹凸があって皿状の断面形をなしている。
［堆積土］褐色土主体で、暗褐色土がブロック状に混入することから人為堆積と考えられる。
［出土遺物・遺構の時期等］遺物は出土しなかった。堆積土の状況から縄文時代の遺構と考えられるが、詳細な時期や用途は不明である。

第６号土坑（ESK06、図73・87）
［位置・確認］24－24・25グリッドに位置する。第Ⅴ層で確認した。ESP14と重複し、それより古い。
［平面形・規模］平面形は長軸301cm、短軸194cmの歪な楕円形を呈し、確認面からの深さは34cmである。底面は第Ⅴ層まで掘り込んで構築されており、中央付近が低くなる鍋底状の断面形状である。
［堆積土］２層に分層された。１層は暗褐色土、２層は黄褐色土主体で、焼土粒が混入することから人為堆積と考えられる。
［出土遺物・遺構の時期等］１層中から抉入扁平磨製石器が２点出土した（図87－119・120）。縄文時代前期中葉～後葉（円筒下層土器期）の遺構と考えられるが、その用途は不明である。

第７号土坑（ESK07、図75・77）
［位置・確認］土坑として調査時したものの、第１号建物跡を構成する外周溝の一部と考えられることから、そちらで報告している。

第８号土坑（ESK08、図69・88）
［位置・確認］24－14・15グリッドに位置する。第Ⅴ層で確認した。
［平面形・規模］調査区際に位置し北東半のみ検出された。確認できる規模は長軸105cm、短軸54cmで不整円形状である。確認面からの深さは23cmである。底面は第Ⅴ層まで掘り込んで構築され、中央付近が低くなる鍋底状の断面形状である。
［堆積土］褐色土主体の単層で、第Ⅴ層を母材とした土で人為的に埋め戻されたものと考えられる。
［出土遺物・遺構の時期等］底面からほぼ完形の縄文土器が１個体出土した（図88－121・122）。縄文時代前期の遺構と考えられるが、用途は不明である。

第９号土坑（ESK09、図67）
［位置・確認］24－12グリッドに位置する。第Ⅴ層で確認した。
［平面形・規模］平面形は長軸112cm、短軸107cmの円形を呈し、確認面からの深さは49cmである。

底面は第Ⅴ層まで掘り込んでいる。断面形はフラスコ状をなしている。
[堆積土]暗褐色土～褐色土主体でローム粒を混入することから人為的に埋め戻されたものと考えられる。１層は黒褐色土で、埋没後の最終堆積土と思われる。
[出土遺物 ・遺構の時期等] 遺物は出土しなかった。土坑の形状から縄文時代のフラスコ土坑と考えられるが、詳細な時期は不明である。

第10号土坑(ESK10、図65・66・88)
[位置・確認] 24－9グリッドに位置する。第Ⅲ層で確認した。ESK47と重複し、本遺構が新しい。
[平面形・規模] 平面形は長軸111cm、短軸106cmの円形を呈し、確認面からの深さは(1.42)cmである。壁は垂直に立ち上がる。
[堆積土] 黒色土～黒褐色土主体で、焼土粒が混入することから人為堆積と考えられる。
[出土遺物 ・遺構の時期等] 平安時代の土師器坏(図88－123・124)・甕(125～127)、須恵器坏(128)・長頸壺(129)・壺(130)・甕(131)などが出土した。平安時代の井戸跡と推定される。

第11号土坑(ESK11、図65・66・89)
[位置・確認] 24－9グリッドに位置する。第Ⅴ層で確認した。
[平面形・規模] 平面形は長軸154cm、短軸127cmの歪な円形を呈し、確認面からの深さは30cmである。底面はほぼ平坦で、箱状の断面形状をなしている。底面からピットが３基検出された。
[堆積土] 暗褐色土主体の単層で、ローム粒を混入することから人為堆積と考えられる。
[出土遺物・遺構の時期等] 縄文土器(図89－132)が出土しており、縄文時代前期と考えられる。

第12号土坑(ESK12、図65・66・89)
[位置・確認] 24－10グリッドに位置する。第Ⅴ層で確認した。
[平面形 ・規模] 調査区際に位置し、南西半のみ検出された。確認できる規模は長軸224cm、短軸136cmで歪な円形を呈していると考えられる。確認面からの深さは40cmである。底面はほぼ平坦で、断面形は皿状をなしている。底面からピットが１基検出された。
[堆積土] 堆積土上位は黒褐色土主体、中位以下は暗褐色土主体で、ロームが粒状やブロック状に混入することから人為堆積と考えられる。
[出土遺物 ・遺構の時期等] 堆積土中から縄文土器が出土しており、うち２点(図89－133・134)を図示した。出土遺物から、縄文時代前期の遺構と考えられるが、その用途は不明である。

第13号土坑(ESK13、図65・66・89)
[位置・確認] 24－10・11グリッドに位置する。ESK19と重複し、本遺構が新しい。
[平面形 ・規模] 調査区際に位置し、南西半が調査区域外に存在する。確認できる規模は長軸204cm、短軸130cmで歪な円形を呈していると考えられる。確認面からの深さは30cmである。底面はやや起伏を有し、断面形は鍋底状をなしている。
[堆積土] 暗褐色土主体の単層で、黒褐色土やローム粒が混入することから人為堆積と考えられる。

［出土遺物 ・遺構の時期等］堆積土中から縄文土器が出土しており、うち２点（図89－135・136）を図示した。出土遺物から、縄文時代前期の遺構と考えられるが、その用途は不明である。

第14号土坑（ESK14、図67）
［位置・確認］24－10・11グリッドに位置する。第Ⅴ層で確認した。SEP36と重複し、それより古い。
［平面形 ・規模］南西半のみ検出された。確認できる規模は長軸111cm、短軸106cmで不整円形と考えられる。確認面からの深さは24cmである。底面はほぼ平坦で、断面形は皿状をなしている。
［堆積土］暗褐色土主体の単層で、焼土粒が混入することから人為堆積と考えられる。
［出土遺物 ・遺構の時期等］削掻器が出土したが、図示しなかった。縄文時代前期の遺構と考えられるが、その用途は不明である。

第15号土坑（ESK15、図75）
［位置 ・確認］24－32グリッドに位置する。第Ⅴ層で確認した。ESD01・ESP60と重複し、本遺構はESD01より新しく、ESP60より古い。
［平面形 ・規模］平面形は長軸157cm、短軸112cmのやや歪な楕円形を呈し、確認面からの深さは31cmである。底面は凹凸を有し、断面形はやや開いたコ字状をなしている。
［堆積土］黒褐色土主体の単層である。焼土粒が混入するものの、自然堆積と見られる。
［出土遺物・遺構の時期等］平安時代の遺構と考えられるが、遺物は出土せず、ESD01よりも新しいが、詳細な時期は不明である。

第16号土坑（ESK16、図75）
［位置 ・確認］土坑として調査時したものの、第１号建物跡を構成する外周溝の一部と考えられることから、そちらで報告している。

第17号土坑（ESK17、図75・77）
［位置 ・確認］土坑として調査時したものの、第１号建物跡を構成する外周溝の一部と考えられることから、そちらで報告している。

第18号土坑（ESK18、図65・66・89）
［位置・確認］24－10グリッドに位置する。第Ⅴ層で確認した。他遺構との重複は認められなかった。
［平面形 ・規模］調査区際に位置し、北東半のみ検出された。確認できる規模は長軸114cm、短軸32cmの円形を呈すると考えられる。確認面からの深さは43cmである。底面はほぼ平坦で、断面形はコ字状をなしている。
［堆積土］暗褐色～褐色土主体で、底面付近の４層は黄褐色土である。ロームや焼土粒が混入することから人為堆積と考えられる。
［出土遺物・遺構の時期等］堆積土中から縄文土器が出土しており、うち１点（図89－137）を図示した。出土遺物から、縄文時代前期の遺構と考えられるが、その用途は不明である。

第19号土坑（ESK19、図65・66・89）

［位置・確認］24－10グリッドに位置する。第Ⅴ層で確認した。ESK13と重複し、本遺構が古い。

［平面形 ・規模］北東半のみ検出された。確認できる規模は長軸91cm、短軸78cmで、不整楕円形を呈していると考えられる。確認面からの深さは18cmである。底面には段差が見られる。

［堆積土］黄褐色土主体層と暗褐色土主体層の２層に分層された。

［出土遺物・遺構の時期等］堆積土中から縄文土器が出土しており、うち１点（図89－138）を図示した。出土遺物から、縄文時代前期の遺構と考えられるが、その用途は不明である。

第20号土坑（ESK20、図65・66・89）

［位置 ・確認］24－10グリッドに位置する。第Ⅴ層で確認した。ESK21・31と重複し、本遺構はESK21より新しく、ESK31より古い。底面からピットが２基検出された。

［平面形 ・規模］ほぼ円形で、長軸197cm、短軸176cm、確認面からの深さは30cmである。底面はほぼ平坦で、皿状の断面形をしている。

［堆積土］暗褐色土～褐色土主体で、ローム粒を混入することから人為堆積と推定される。

［出土遺物・遺構の時期等］堆積土中から縄文土器が出土しており、うち１点（図89－139）を図示した。出土遺物から、縄文時代前期の遺構と考えられるが、その用途は不明である。

第21号土坑（ESK21、図65・66・89）

［位置・確認］24－10グリッドに位置する。ESK21・31・ESP57・58と重複し、それらより古い。

［平面形 ・規模］確認できる規模は長軸220cm、短軸204cm、確認面からの深さは32cmで、ほぼ楕円形である。底面はほぼ平坦で、箱状の断面形をなしている。底面からピットが１基検出された。

［堆積土］暗褐色土主体で、ローム粒を混入することから人為堆積と推定される。

［出土遺物 ・遺構の時期等］出土した縄文土器のうち２点（図89－140・141）を図示した。後者は底面出土のものである。出土遺物から、縄文時代前期の遺構と考えられるが、その用途は不明である。

第22号土坑（ESK22、図65・66・89）

［位置・確認］24－9グリッドに位置する。第Ⅴ層で確認した。

［平面形 ・規模］平面形は不整円形で、長軸167cm、短軸148cm、確認面からの深さは43cmである。底面はほぼ平坦である。西壁はややオーバーハングしており、平行四辺形状の断面形をなしている。底面からピットが１基検出されている。

［堆積土］暗褐色土主体で、ローム粒を混入することから人為堆積と推定される。

［出土遺物 ・遺構の時期等］堆積土中から縄文土器が出土しており、うち２点（図89－142・143）を図示した。出土遺物から、縄文時代前期の遺構と考えられるが、その用途は不明である。

第23号土坑（ESK23、図65・66）

［位置・確認］24－９グリッドに位置する。第Ⅴ層で確認した。

［平面形 ・規模］調査区際に位置し、北西側のみ検出された。円形を呈すると考えられ、規模は確認

範囲で長軸145cm、短軸141cm、確認面からの深さ63cmである。底面はほぼ平坦であるが、端部が外側に張り出し、袋状の断面形をなしている。
［堆積土］暗褐色土主体で、ローム粒を混入することから人為堆積と推定される。
［出土遺物 ・遺構の時期等］遺物は出土しなかったが、堆積土の状況から縄文時代前期の遺構と考えられる。その用途は不明である。

第24号土坑（ESK24、図65・66・89）
［位置・確認］24－９グリッドに位置する。第Ⅴ層で確認した。
［平面形・規模］平面形は楕円形を呈し、長軸128cm、短軸97cm、確認面からの深さは57～68cmである。底面は中央が深く凹み、Ⅴ字状の断面形状をなしている。
［堆積土］暗褐色～褐色土主体で、ローム粒を混入することから人為堆積と推定される。
［出土遺物 ・遺構の時期等］堆積土中から縄文土器が出土しており、うち２点（図89－144・145）を図示した。出土遺物から、縄文時代前期の遺構と考えられるが、その用途は不明である。

第25号土坑（ESK25、図65・66）
［位置・確認］24－９グリッドに位置する。第Ⅴ層で確認した。ESK34と重複し、本遺構が新しい。
［平面形 ・規模］平面形は円形を呈し、長軸115cm、短軸104cm、確認面からの深さは10cmである。底面は平坦で、断面形は皿状をなしている。
［堆積土］暗褐色土主体の単層で、ローム粒を混入することから人為堆積と推定される。
［出土遺物 ・遺構の時期等］遺物は出土しなかった。堆積土の様相から縄文時代前期の遺構と考えられる。その用途は不明である。

第26号土坑（ESK26、図61・62・89）
［位置・確認］24－８グリッドに位置する。第Ⅴ層で確認した。
［平面形 ・規模］平面形は不整円形で、長軸174cm、短軸153cm、確認面からの深さは55cmである。底面はほぼ平坦に仕上げている。箱状の断面形状をなしている。
［堆積土］暗褐色土主体で、ローム粒を混入することから人為堆積と推定される。
［出土遺物 ・遺構の時期等］堆積土中から縄文土器 ・石器が出土しており、うち４点（図89－146～149）を図示した。出土遺物から、縄文時代前期の遺構と考えられるが、その用途は不明である。

第27号土坑（ESK27、図65・66）
［位置・確認］24－９・10グリッドに位置する。第Ⅳ層で確認した。
［平面形 ・規模］調査区際に位置し、北東半のみ検出された。円形を呈すると推測され、確認できる規模は長軸183cm、短軸99cm、確認面からの深さ40cmである。底面はほぼ平坦で、北側が袋状に張り出している。底面からピットが２基検出された。
［堆積土］黒褐色～暗褐色土主体で、ローム粒を混入することから人為堆積と推定される。
［出土遺物 ・遺構の時期等］使用痕のある剥片が出土したが、図示しなかった。堆積土の様相から縄

文時代前期の遺構と考えられる。その用途は不明である。

第28号土坑（ESK28、図61・62・90）
［位置・確認］24－７・８グリッドに位置する。第Ⅴ層で確認した。
［平面形・規模］平面形は円形で、長軸90cm、短軸84cm、確認面からの深さ62cmである。底面は平坦で、断面形はフラスコ状をなしている。
［堆積土］暗褐色土主体で、ローム粒を混入することから人為堆積と推定される。
［出土遺物・遺構の時期等］堆積土中から縄文土器・石器が出土しており、うち５点（図90－150～154）を図示した。また、底面から炭化種実が出土した。理化学的分析の結果、オニグルミであり、縄文時代前期中葉～後葉の年代が得られた（第３章第３節・第５節参照）。出土遺物等から、縄文時代前期中葉～後葉のフラスコ土坑と考えられる。

第29号土坑（ESK29、図65）
［位置・確認］24－７・８グリッドに位置する。第Ⅴ層で確認した。
［平面形・規模］南西半のみ検出された。円形を呈していると考えられ、確認できる規模は長軸200cm、短軸106cm、確認面からの深さは59cmである。底面はほぼ平坦で、南東壁は袋状に張り出す。
［堆積土］黒褐色～暗褐色土主体で、ローム粒を混入することから人為堆積と推定される。
［出土遺物・遺構の時期等］遺物は出土しなかった。堆積土の様相から、縄文時代前期の遺構と考えられるが、その用途は不明である。

第30号土坑（ESK30、図65・66・90）
［位置・確認］24－９グリッドに位置する。第Ⅴ層で確認した。
［平面形・規模］北東半のみ検出された。円形を呈していると考えられる。確認できる規模は長軸220cm、短軸129cm、確認面からの深さ34cmである。底面はほぼ平坦で、箱状の断面形状をなす。
［堆積土］暗褐色土主体で、ローム粒を混入することから人為堆積と推定される。３層中に炭化物と焼土が検出されたが、埋め戻し土中の廃棄焼土とみられる。
［出土遺物・遺構の時期等］堆積土中から縄文土器・石器が出土しており、うち４点（図90－155～158）を図示した。出土遺物から、縄文時代前期の土坑と考えられる。

第31号土坑（ESK31、図65・66・90）
［位置・確認］24－10グリッドに位置する。ESK20・21と重複し、本遺構が新しい。
［平面形・規模］平面形は楕円状で、長軸235cm、短軸214cm、確認面からの深さは40cmである。底面には凹凸が見られ、鍋底状の断面形をなしている。
［堆積土］暗褐色土主体で、ローム粒を混入することから人為堆積と推定される。
［出土遺物・遺構の時期等］堆積土中から縄文土器が出土しており、うち１点（図90－159）を図示した。出土遺物から、縄文時代前期の土坑と考えられる。

第32号土坑（ESK32、図65・66・90）

［位置・確認］24－８・９グリッドに位置する。第Ⅴ層で確認した。ESI05・ESK33と重複し、本遺構が古い。

［平面形・規模］平面形は円形と推定され、長軸244cm、短軸215cm、確認面からの深さは31cmである。底面は中央がやや凹む、鍋底状の断面形状をなす。底面からピットが４基検出されている。

［堆積土］暗褐色土主体で、ローム粒を混入することから人為堆積と推定される。

［出土遺物・遺構の時期等］堆積土中から縄文土器が出土しているが、ESK33と一括して取り上げた。うち４点（図90－160～163）を図示した。出土遺物から、縄文時代前期の土坑と考えられる。

第33号土坑（ESK33、図65・66・90）

［位置・確認］24－９グリッドに位置する。第Ⅴ層で確認した。ESK32と重複し、本遺構が新しい。

［平面形・規模］平面形は長軸133cm、短軸124cmの円形を呈し、確認面からの深さは53cmである。底面はやや傾斜を有し、底面の一部が袋状に張り出すフラスコ状の断面形をなしている。

［堆積土］暗褐色土～褐色土主体で、ロームブロック等を混入することから人為堆積と推定される。

［出土遺物・遺構の時期等］堆積土中から縄文土器が出土しているが、ESK32と一括して取り上げた（図90－160～163）。出土遺物から、縄文時代前期の土坑と考えられる。

第34号土坑（ESK34、図65・66・90）

［位置・確認］24－８・９グリッドに位置する。第Ⅴ層で確認した。ESK25と重複し、本遺構が古い。

［平面形・規模］調査区際に位置し、東半のみ検出された。確認できる規模は長軸186cm、短軸112cmで、歪な円形を呈していると考えられる。確認面からの深さは60cmである。底面は第Ⅴ層まで掘り込んでそのまま底面としており、底面の一部が段状に低くなった箇所や袋状に張り出す箇所があり、フラスコ状の断面形をなしている。

［堆積土］暗褐色～褐色土主体で、暗褐色土主体で、ローム粒やブロックを混入することから人為堆積と推定される。

［出土遺物・遺構の時期等］堆積土中から縄文土器・石器が出土しており、うち２点（図90－164・165）を図示した。出土遺物から、縄文時代前期の土坑と考えられる。

第35号土坑（ESK35、図61・62・90）

［位置・確認］24－７グリッドに位置する。第Ⅴ層で確認した。ESK36と重複し、本遺構が新しい。

［平面形・規模］調査区際に位置し、東側が調査区域外に存在する。確認できる規模は長軸198cm、短軸155cmで、楕円形を呈していると考えられる。確認面からの深さは26cmである。底面は第Ⅴ層まで掘り込んでそのまま底面としており、ほぼ平坦で皿状の断面形をなしている。底面からピットが１基検出されている。

［堆積土］暗褐色土主体で、ローム粒を混入することから人為堆積と推定される。

［出土遺物・遺構の時期等］堆積土中から縄文土器が出土しているが、ESK36と一括して取り上げた。うち２点（図90－166・167）を図示した。出土遺物から、縄文時代前期の土坑と考えられる。

第36号土坑（ESK36、図61・62・91）

［位置・確認］24－６グリッドに位置する。第Ⅴ層で確認した。ESK35と重複し、本遺構が古い。

［平面形 ・規模］平面形は円形で、長軸104cm、短軸80cm、確認面からの深さは87cmである。底面は第Ⅴ層を掘り込んでほぼ平坦に構築され、袋状に張り出してフラスコ状の断面形状をなしている。

［堆積土］暗褐色土主体で、ローム粒を混入することから人為堆積と推定される。

［出土遺物・遺構の時期等］堆積土中から縄文土器が出土しているが、ESK35と一括して取り上げた。うち２点（図91－168・169）を図示した。出土遺物から、縄文時代前期の土坑と考えられる。

第37号土坑（ESK37、図61～63・91）

［位置・確認］24－８グリッドに位置する。第Ⅴ層で確認した。ESK39と重複し、本遺構が古い。

［平面形 ・規模］重複により規模は不明だが、確認できた規模は長軸186cm、短軸128cmで楕円形を呈していると考えられえる。確認面からの深さは50cmである。底面は第Ⅴ層を掘り込んで構築されており、ほぼ平坦で、箱状の断面形状をなしている。

［堆積土］暗褐色土主体で、ローム粒やロームブロックを混入することから人為堆積と推定される。

［出土遺物 ・遺構の時期等］堆積土中から縄文土器 ・石器が出土しており、うち３点（図91－170～172）を図示した。出土遺物から、縄文時代前期の土坑と考えられる。

第38号土坑（ESK38、図61～63・91）

［位置・確認］24－６・７グリッドに位置する。第Ⅴ層で確認した。

［平面形・規模］平面形は長軸104cm、短軸99cmの円形を呈し、確認面からの深さは82cmである。底面は第Ⅴ層まで掘り込んで構築されている。やや凹凸があり、袋状に張り出してフラスコ状の断面形状をなしている。

［堆積土］暗褐色～褐色土主体で、ローム粒やブロックを混入することから人為堆積と推定される。

［出土遺物 ・遺構の時期等］堆積土中から縄文土器 ・石器が出土しており、うち３点（図91－173～175）を図示した。出土遺物から、縄文時代前期の土坑と考えられる。

第39号土坑（ESK39、図61～63・91）

［位置・確認］24－８グリッドに位置する。ESK37・46と重複し、本遺構が新しい。

［平面形 ・規模］重複により規模は不明だが、確認できた規模は長軸204cm、短軸128cmで円形を呈していると考えられる。確認面からの深さは46cmである。底面は第Ⅴ層まで掘り込んで構築されている。若干起伏があるものの、箱状の断面形状をなす。

［堆積土］暗褐色～褐色土主体で、ローム粒やブロックを混入することから人為堆積と推定される。

［出土遺物 ・遺構の時期等］堆積土中から縄文土器が出土しており、うち11点（図91－176～186）を図示した。出土遺物から、縄文時代前期の土坑と考えられる。

第40号土坑（ESK40、図61）

［位置・確認］24－７・８グリッドに位置する。ESK43と重複するが、新旧関係は不明である。

［平面形・規模］径120㎝程のほぼ円形と推定される。
［堆積土］土層断面図を作成しなかったため、不明である。
［出土遺物・遺構の時期等］遺物は出土しなかった。縄文時代前期の遺構と推定される。

第41号土坑（ESK41、図61～63・92）
［位置・確認］24－６グリッドに位置する。第Ⅴ層で確認した。ESK46と重複し、本遺構が新しい。
［平面形・規模］平面形は長軸234cm、短軸154cmの楕円形を呈し、確認面からの深さは33㎝である。底面は若干起伏があるものの。皿状の断面形をなしている。
［堆積土］暗褐色土主体で、ローム粒やロームブロックを混入することから人為堆積と推定される。
［出土遺物・遺構の時期等］堆積土中から縄文土器が出土しており、うち４点（図92－187～190）を図示した。出土遺物から、縄文時代前期の土坑と考えられる。

第42号土坑（ESK42、図61～63・92）
［位置・確認］24－７グリッドに位置する。ESI05と重複し、本遺構が古い。
［平面形・規模］平面形は長軸約115cm、短軸約85cmの楕円形を呈し、確認面からの深さは49㎝である。底面は中央が深く凹み、Ⅴ字状の断面形をなしている。
［堆積土］黒褐色～暗褐色土主体で、焼土粒やローム粒が混入することから人為堆積と考えられる。
［出土遺物・遺構の時期等］堆積土中から縄文土器が出土しており、うち２点（図92－191・192）を図示した。出土遺物から縄文時代前期の土坑と考えられるが、ESI05住居内土坑の可能性もある。

第43号土坑（ESK43、図61～63）
［位置・確認］24－７グリッドに位置する。ESI05・ESK40と重複し、ESI05より古い。ESK40との新旧関係は不明である。
［平面形・規模］調査区際に位置し、北東半のみ検出された。確認できる規模は長軸175cm、短軸145cmで楕円形を呈していると考えられる。確認面からの深さは34㎝である。底面は中央がやや凹み、断面形状は鍋底状に近い。
［堆積土］暗褐色～褐色土主体で、焼土粒やローム粒が混入することから人為堆積と考えられる。
［出土遺物・遺構の時期等］遺物は出土しなかった。堆積土から縄文時代前期の遺構と考えられる。

第44号土坑（ESK44、図61～63・92）
［位置・確認］24－７グリッドに位置する。ESB01・ESK45と重複し、本遺構が古い。
［平面形・規模］平面形は長軸168cm、短軸164cmの歪な円形を呈し、確認面からの深さは58㎝である。底面は第Ⅴ層まで掘り込んで構築されており、ほぼ平坦で概ね箱状の断面形状をなすが、一部底面が袋状に張り出す部分がある。
［堆積土］暗褐色土主体で、赤褐色土（焼土）粒やローム粒を混入することから人為堆積と推定される。
［出土遺物・遺構の時期等］堆積土中から縄文土器・石器が出土しているが、ESK45と一括して取り上げた。うち４点（図92－193～196）を図示した。出土遺物から縄文時代前期の土坑と考えられる。

第45号土坑（ESK45、図61～63・92）

［位置・確認］24－７グリッドに位置する。第Ⅴ層で確認した。ESK44と重複し、本遺構が新しい。

［平面形 ・規模］平面形は長軸約125cm、短軸約105cmの楕円形を呈し、確認面からの深さは24cmである。底面は西側に向かって傾斜しているものの、皿状の断面形をなしている。

［堆積土］暗褐色土主体で、赤褐色土（焼土）粒やローム粒を混入することから人為堆積と推定される。

［出土遺物 ・遺構の時期等］堆積土中から縄文土器が出土しているが、ESK44と一括して取り上げた（図92－193～196）。出土遺物から、縄文時代前期の土坑と考えられる。

第46号土坑（ESK46、図61～63・93）

［位置・確認］24－７・８グリッドに位置する。ESK39・41と重複し、本遺構が古い。

［平面形・規模］平面形は長軸167cm、短軸149cmの歪な円形を呈し、確認面からの深さは81cmである。底面はほぼ平坦で、袋状に張り出してフラスコ状の断面形状をなしている。

［堆積土］暗褐色～褐色土主体で、ロームブロックを混入することから人為堆積と推定される。

［出土遺物 ・遺構の時期等］堆積土中から縄文土器 ・石器が出土しており、うち７点（図93－197～203）を図示した。出土遺物から縄文時代前期の土坑と考えられる。

第47号土坑（ESK47、図65・66・93）

［位置・確認］24－９グリッドに位置する。第Ⅴ層で確認した。ESK10と重複し、本遺構が古い。

［平面形・規模］平面形は長軸208cm、短軸180cmの歪な円形を呈し、確認面からの深さは68cmである。底面はほぼ平坦で、壁は中位で外側に開き、箱を二段重ねたような断面形状をなしている。

［堆積土］暗褐色土主体層で、ローム粒・ロームブロックを混入することから人為堆積と推定される。

［出土遺物・遺構の時期等］堆積土中から縄文土器が出土しており、うち１点（図93－204）を図示した。出土遺物から縄文時代前期の土坑と考えられる。

第48号土坑（ESK48、図61～63）

［位置・確認］24－８グリッドに位置する。第Ⅴ層で確認した。ESI12と重複し、それより古い。

［平面形 ・規模］平面形は長軸121cm、短軸119cmの円形を呈し、確認面からの深さは50cmである。底面は第Ⅴ層まで掘り込んで構築され、中央がやや凹む鍋底状の断面形をなしている。

［堆積土］暗褐色～褐色土主体で、ローム粒やブロックを混入することから人為堆積と推定される。

［出土遺物 ・遺構の時期等］遺物は出土しなかったものの、堆積土の様相から、縄文時代前期の遺構と考えられる。

第49号土坑（ESK49、図57）

［位置 ・確認］24－３・４グリッドに位置する。ESI10・ESK50と重複し、ESI10より新しく、ESK50より古い。

［平面形 ・規模］調査区際に位置し、北東半のみ検出された。確認できた規模は長軸143cm、短軸82cmで、楕円形を呈していると考えられる。確認面からの深さは40cmである。底面は第Ⅴ層まで掘

り込まれ、やや起伏があるものの箱状の断面形状をなす。
［堆積土］黒褐色～暗褐色土主体で、赤褐色土（焼土）粒やローム粒を混入することから人為堆積と推定される。
［出土遺物・遺構の時期等］遺物は出土しなかった。重複関係から平安時代の遺構と考えられる。

第50号土坑（ESK50、図57）
［位置・確認］24－４グリッドに位置する。ESI10・ESK49と重複し、本遺構はそれらより新しい。
［平面形・規模］調査区際に位置し、北東半のみ検出された。確認できた範囲では径67cmの円形を呈していると考えられる。確認面からの深さは45cmである。底面は第Ⅴ層まで掘り込まれ、やや起伏があり、南壁は外反するものの北壁が袋状に張り出す平行四辺形状の断面形をなしている。
［堆積土］黒褐色土や黄褐色土を主体とし、暗褐色土や明黄褐色土のブロックを混入することから人為堆積と推定される。
［出土遺物・遺構の時期等］遺物は出土しなかった。重複関係から平安時代の遺構と考えられる。

第51号土坑（ESK51←ESI01Pit、図75・93）
［位置・確認］24－30グリッドに位置する。ESI01のピットとして調査したが、縄文時代の土坑と考えられる。ESI01と重複し、本遺構が古い。
［平面形・規模］平面形は長軸約65cm、短軸約45cmの楕円形を呈する。底面は第Ⅴ層まで掘り込んで構築されている。
［堆積土］土層断面図を作成しなかったため不明である。
［出土遺物・遺構の時期等］堆積土中から完形の縄文土器が出土しており、図示した（図93－205）。出土遺物から縄文時代前期の土坑と考えられる。

（３）　掘立柱建物跡・ピット
　農道24号Ｅ区からは合計71基のピットが検出され、そのうち６基のピットが１棟の掘立柱建物跡になるものと想定される。ここでは、掘立柱建物跡について述べる。
第１号掘立柱建物跡（ESB01、図64）
［位置・確認］24－６・７グリッドに位置するPit１～６の６基で構成される。第Ⅲ層で検出された。ESI05・ESK45と重複し、前者より新しいが、後者との関係は不明である。
［形態・規模］梁行１間・桁行２間のほぼ東西棟の建物跡である。平面形は歪な長方形で、北側の柱筋はPit５が建物内側入り込んでいる。梁行2.04～2.37m・桁行約4.6mで、柱間はほぼ2.3mである。
［柱穴］柱穴掘り方は径約40cm、深さ19～32cmである。
［出土遺物・遺構の時期等］柱穴堆積土中から縄文土器が出土しているが、図示しなかった。平安時代の時期が想定されるが、詳細な時期は不明である。

表19　農道24号Ｅ区　ピット計測表

ESP番号	図版番号	グリッド	標高(m)	規模(cm)			備考
				長軸	短軸	深さ	
1	74	N24-28	41.3	41	35	12	
2	74	N24-27	41.6	32	29	21	
3	74	N24-27	41.7	29	26	36	縄文土器
4	74	N24-27	41.7	41	35	12	UF
5	74	N24-26	41.8	35	32	14	
6	71	N24-23	42.5	37	31	31	
7	71	N24-22	42.6	37	28	32	
8	74	N24-28	41.4	29	27	22	土師器
9	74	N24-26	41.7	28	28	29	ESD06に伴う
10	71	N24-21	42.7	29	25	18	＞ESP11
11	71	N24-21	42.7	54	45	25	＜ESP10
12	71	N24-22	42.6	44	33	28	
13	73	N24-23	42.1	36	35	11	
14	73	N24-25	42.0	45	31	27	＞ESK06
15	73	N24-24・25	42.0	36	36	38	
16	73	N24-24	42.0	36	32	44	
17	74	N24-27	41.5	30	26	20	＞ESD02
18	71	N24-22	42.7	76	26	17	縄文土器
19	74	N24-27	41.6	40	35	37	
20	69	N24-15	43.7	34	29	26	
21	69	N24-15	43.8	34	28	23	
22	69	N24-15	43.8	55	46	14	
23	69	N24-15	43.8	37	34	51	
24	69	N24-14	43.8	40	37	13	
25	69	N24-14	43.8	62	49	28	
26	69	N24-14	43.8	58	42	16	
27	69	N24-14	43.9	42	32	39	
28	74	N24-27	41.7	36	33	25	
29	74	N24-27	41.7	30	28	13	
30	74	N24-25	41.9	28	26	30	
31	74	N24-25	41.9	32	30	41	土師器　ESD09に伴う
32	74	N24-25	41.9	31	30	14	
33	74	N24-25・26	41.8	45	33	40	土師器　ESD09に伴う
34	75	N24-31	40.7	31	20	31	ESI01に伴う
35	75	N24-29	41.1	35	34	19	縄文土器
36	67	N24-10	48.3	48	47	17	＞ESK14
37	70	N24-16	43.5	32	23	44	ESD08に伴う
38	70	N24-16	43.5	39	31	47	ESD08に伴う
39	70	N24-16	43.5	33	24	42	ESD08に伴う
40	68	N24-13	43.9	56	53	23	
41	68	N24-13	44.2	33	28	11	
42	68	N24-13	44.0	53	44	9	縄文土器
43	67	N24-12	44.1	23	22	18	
44	67	N24-12	44.2	37	33	18	
45	67	N24-12	44.2	26	25	5	
46	67	N24-12	44.3	32	31	44	＜ESP47
47	67	N24-12	44.3	29	29	13	＞ESP46
48	67	N24-12	44.3	26	25	23	
49	67	N24-12	44.4	34	34	29	
50	67	N24-11	44.5	25	24	8	
51	67	N24-11	44.5	30	25	7	
52	67	N24-11	44.5	35	28	15	
53	67	N24-11	44.6	44	42	9	
54	67	N24-11	44.6	41	34	22	
55	67	N24-11	44.7	44	41	13	土師器
56	67	N24-11	44.7	33	24	23	
57	65	N24-10	49.7	31	28	32	＞ESK21
58	65	N24-10	45.0	29	24	29	＞ESK21
59	65	N24-10	45.1	27	23	11	
60	75	N24-31	40.6	59	44	21	＞ESD01・ESK15
61	75	N24-32	40.6	58	49	13	
62	74	N24-28	41.2	74	71	24	
63	75	N24-29	40.9	46	32	35	
64	75	N24-29	40.8	48	43	49	
65	58	N24-4	45.5	51	44	18	＞ESI06

（４）　溝跡

農道24号Ｅ区からは合計11条の溝跡が検出された。多くは北東～南西方向へ流れるものと思われる。ESD05は竪穴住居跡の外周溝とみられることから、第１号建物跡において記載している。

第１号溝跡（ESD01、図75・93）

［位置 ・確認］24－29～32グリッドに位置する。第Ｖ層で確認した。第１号建物跡、ESK15・ESP60と重複し、本遺構は前者より新しく、後者より古い。

［平面形 ・規模 ・底面］両端とも調査区域外に延びている。24－29グリッドでＬ字状に屈曲する。新旧２条の溝跡で、ａ→ｂの順に新しい。底面はほぼ平坦で、断面形は上部が開くコ字～Ｕ字状で、西に向かって傾斜している。

［堆積土］暗褐色土主体で、一部、底面に黒褐色土層が堆積する箇所がある。ローム粒を混入することから人為堆積と推定されるが、判断は難しい。24－29グリッドで火山灰が確認されたが、ESK07を掘り込んだ際に混ざり込みんだものと考えられ、本遺構に伴うものではないと推定される。

［出土遺物 ・遺構の時期等］縄文土器 ・石器、土師器が出土し、うち石器１点を図示した（図93－206）。堆積土の様相や出土遺物等から平安時代もしくはそれ以降と推定されるが詳細な時期は不明である。

第２号溝跡（ESD02、図74）

［位置・確認］24－27・28グリッドに位置する。ESP17と重複し、それより古い。

［平面形 ・規模 ・底面］南西から北東に伸び、南東にＬ字状に屈曲する溝跡で、南東端は調査区域外に延びると考えられる。調査区内で確認できた長さは8.5ｍで、弧状を呈する。確認面での幅は0.3～0.55ｍを測るが、概ね0.4ｍ前後といえる。深さは32㎝である。底面はＶ層まで掘り込んでおり、ほぼ平坦で断面形は皿形をなす。南西端が南東端より30㎝標高が低く、南西側に向かって傾斜している。

［堆積土］にぶい黄褐色土を主体とする単層で、焼土粒が混入することから人為堆積と考えられる。

［出土遺物 ・遺構の時期等］遺物は出土しなかった。平安時代の遺構と推定されるが詳細は不明である。

第３号溝跡（ESD03、図71・93）

［位置・確認］24－22グリッドに位置する。ESK03と重複し、それより古い。

［平面形・規模・底面］北側のみ検出した。調査区内で確認できた長さは3.4ｍで、ゆるやかな弧状を呈する。確認面での幅は0.2ｍ前後、深さは11㎝である。底面には細かな凹凸があるものの、断面形は皿形をなす。南側に向かって傾斜するが、底面の比高差はほとんどない。

［堆積土］部分的に黒褐色土もしくは暗褐色土が主体となる。ローム粒を混入することから人為堆積と推定されるが、判断は難しい。

［出土遺物 ・遺構の時期等］縄文時代の石器が出土し、１点を図示した（図93－207）。平安時代の遺構と推定されるが詳細は不明である。

第４号溝跡（ESD04、図71・93）

［位置・確認］24－21・22グリッドに位置する。

［平面形 ・規模 ・底面］調査区際に位置するため、南西端のみ検出された。調査区内で確認できた長さは2.6ｍで、直線的な溝である。確認面での幅は0.8～1.2ｍを測るが、概ね1.0ｍ前後といえる。深さは33㎝である。底面は凹凸があるものの、鍋底状の断面形状をなす。底面は北東端が南西端より12㎝標高が低く、北東端へ傾斜して構築されている。

［堆積土］黒褐色土 ・暗褐色土を主とする２層に分層された。焼土粒やローム粒が混入することから人為堆積と考えられる。

［出土遺物 ・遺構の時期等］土師器が出土し、１点を図示した（図93－208）。平安時代の遺構と推定され、ESI02の外周溝の可能性がある。

第５号溝跡（ESD05、図75・77）

［位置 ・確認］溝跡として調査時したものの、第１号建物跡を構成する外周溝の一部と考えられることから、そちらで報告している。

第６号溝跡（ESD06、図74）

［位置 ・確認］ESD09と一連の溝と考えられることから、ここで纏めて記述する。24－25～27グリッドに位置する。ESP09・31・33と一体の遺構と考えられる。

［平面形 ・規模 ・底面］北東端は調査区外に延びており、南西端は浅く先細りする。調査区内で確認できた長さは約９ｍで、直線的な溝である。確認面での幅は0.1～0.3ｍを測るが、概ね0.2ｍ前後といえる。深さは８～19㎝である。底面は平坦に近く、断面形は上部が開くＶ字状～Ｕ字状である。底面の標高は南西端が北東端より12㎝低く、南西に向かって傾斜している。

［堆積土］暗褐色土主体の単層で、にぶい黄褐色土を混入することから人為堆積と推定される。

［出土遺物 ・遺構の時期等］遺物は出土しなかった。平安時代もしくはそれ以降と推定されるが、詳細は不明である。柵もしくは塀と推測される。

第７号溝跡（ESD07、図71）

［位置・確認］24－21グリッドに位置する。ESI02と重複し、本溝跡はESI02よりより古い。

［平面形 ・規模 ・底面］北端は調査区域外に延びており、南端はSI02と重複している。調査区内で確認できた長さは2.2ｍで、直線的な溝である。確認面での幅は0.9～1.4ｍを測るが、概ね1.1ｍ前後といえる。深さは27～39㎝である。底面はほぼ平坦で、断面形は上部が開く皿形をなす。底面の標高は南端が北端より15㎝低く、南端へ傾斜して構築されている。

［堆積土］堆積土は黒褐色土主体の単層で、褐色土が混入しており人為的に埋め戻されたものとみられるが、判断は難しい。

［出土遺物 ・遺構の時期等］遺物が出土しているが、細片のため図示しなかった。平安時代と推定されるが、詳細な時期は不明である。

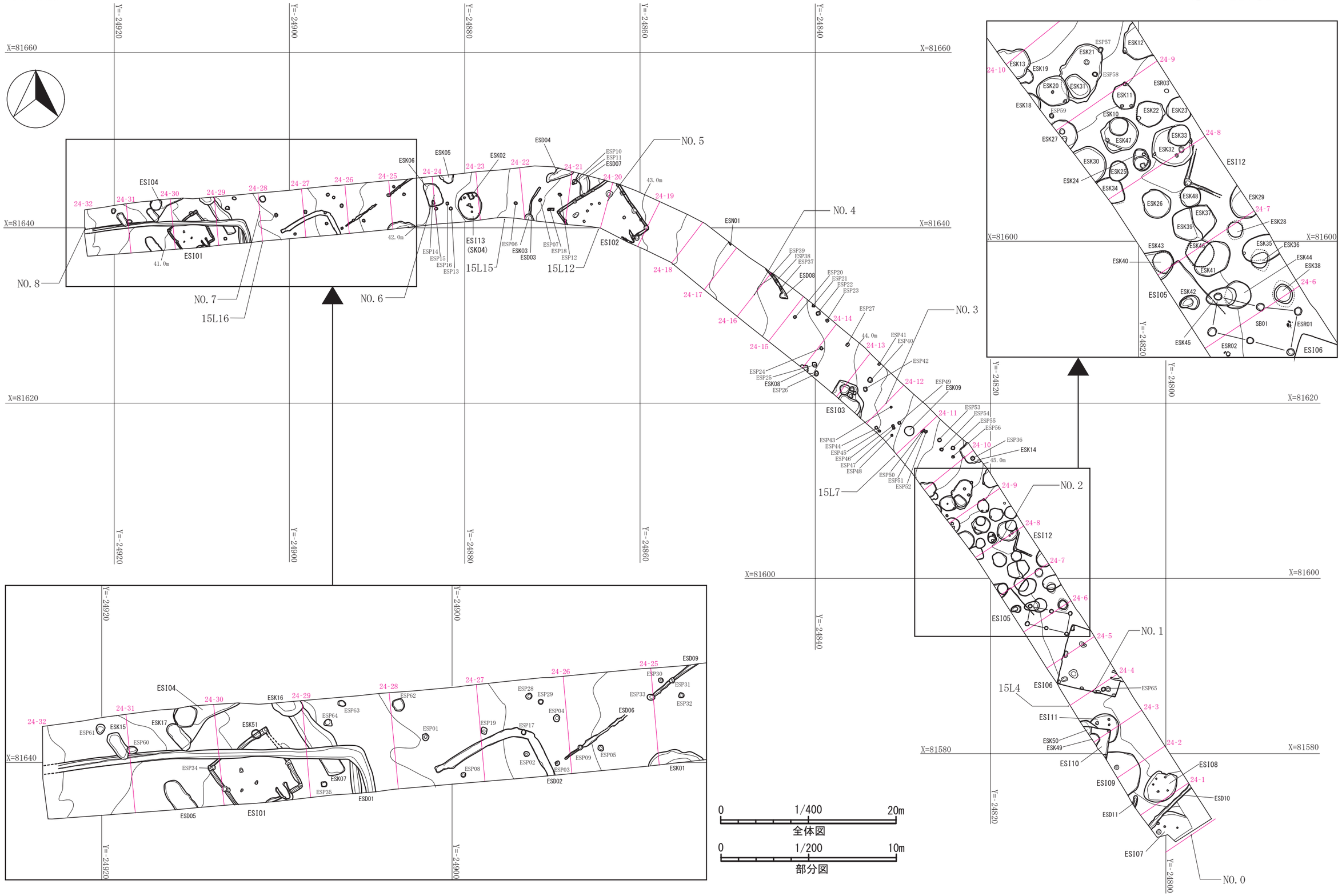
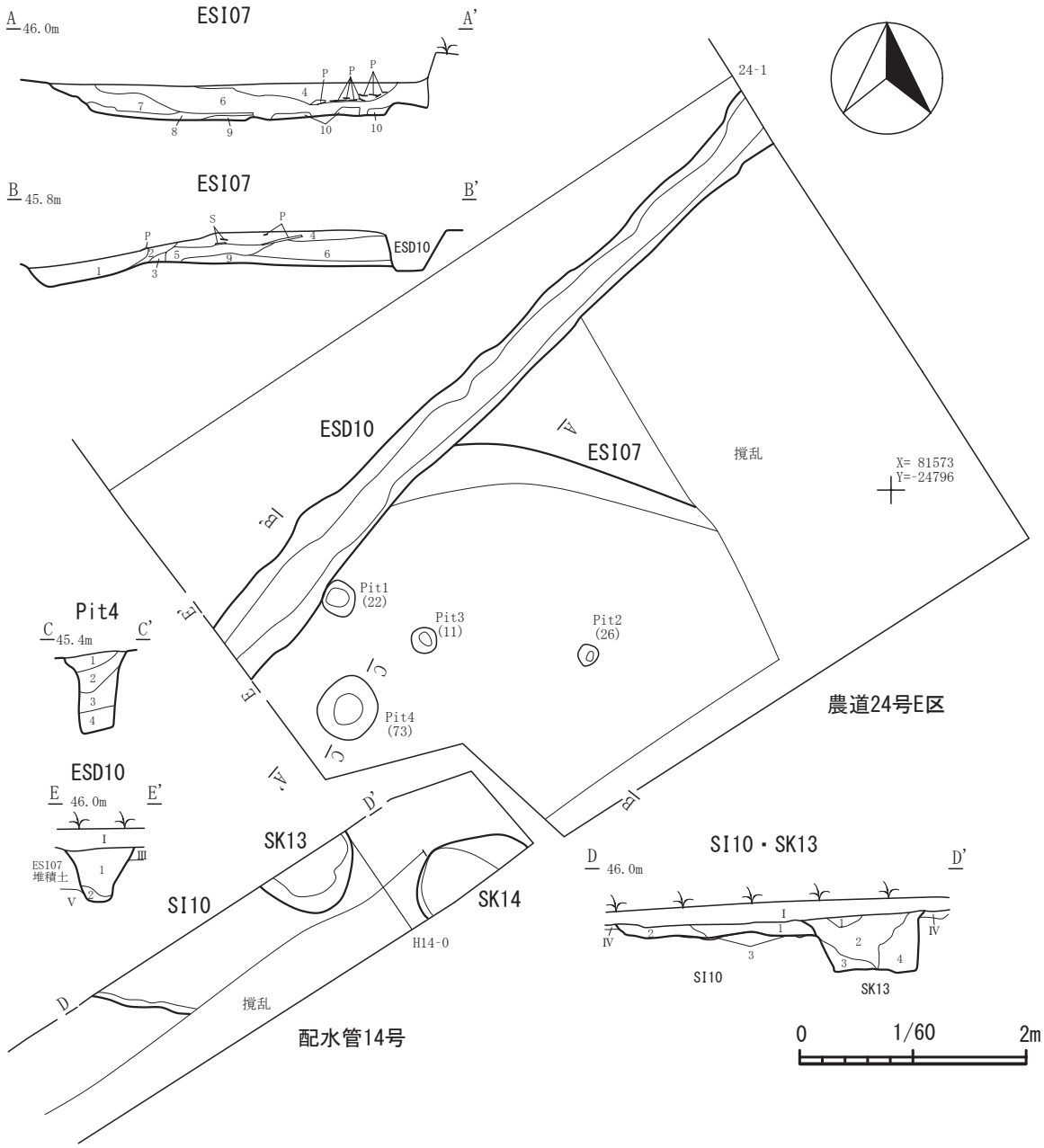


図54　農道24号Ｅ区 遺構配置図



ESI07(A-A'・B-B')

1層	10YR2/2	黒褐色土	
2層	10YR3/4	暗褐色土	10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1～30mm)3%。
3層	10YR6/6	明黄褐色土	
4層	10YR3/2	黒褐色土	10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1～5mm)1%、5YR4/8赤褐色焼土粒(φ1mm)1%、炭化物(φ1～3mm)1%、土器複数あり。
5層	10YR3/3	暗褐色土	10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1mm)2%、炭化物(φ1mm)1%。
6層	10YR3/4	暗褐色土	10YR7/8黄橙色ローム粒(φ1～10mm)3%、7.5YR4/6暗褐色焼土粒(φ1～3mm)1%、(φ1～5mm)1%。
7層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	10YR7/8黄橙色ローム粒(φ1～20mm)5%、10YR3/3暗褐色土(φ50mm)3%中央付近に堆積、炭化物(φ1mm)1%。
8層	10YR4/4	褐 色 土	10YR3/3暗褐色土(φ40mm)2%、10YR7/8黄橙色ローム粒(φ1～30mm)3%。
9層	10YR3/3	暗褐色土	10YR7/8黄橙色ローム粒(φ1mm)1%。
10層	10YR6/8	明黄褐色土	10YR3/3暗褐色土3%。

Pit4(C-C')

1層	10YR3/2	黒褐色土	炭化物(φ1mm)1%、7.5YR4/6褐色焼土粒(φ1mm)1%。
2層	10YR3/1	黒褐色土	10YR4/4褐色土3%左側に堆積、7.5YR4/6褐色焼土粒(φ1mm)1%。
3層	10YR2/3	黒褐色土	10YR6/6明黄褐色ロームブロック(φ10～40mm)10%。
4層	10YR2/2	黒褐色土	10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1～7mm)1%。

SI10(D-D')

1層	10YR4/4	褐 色 土	10YR6/8明黄褐色土7%、10YR2/3黒褐色土3%、10YR8/8黄橙色ローム粒(φ1mm)1%、しまりやや強い、粘性やや弱い。
2層	10YR4/6	褐 色 土	10YR6/8明黄褐色土3%、10YR2/3黒褐色土2%、10YR8/8黄橙色ローム粒(φ1～5mm)1%、しまり強い、粘性やや弱い。
3層	10YR7/8	黄橙色土	掘り方。10YR4/3にぶい黄褐色土5%。

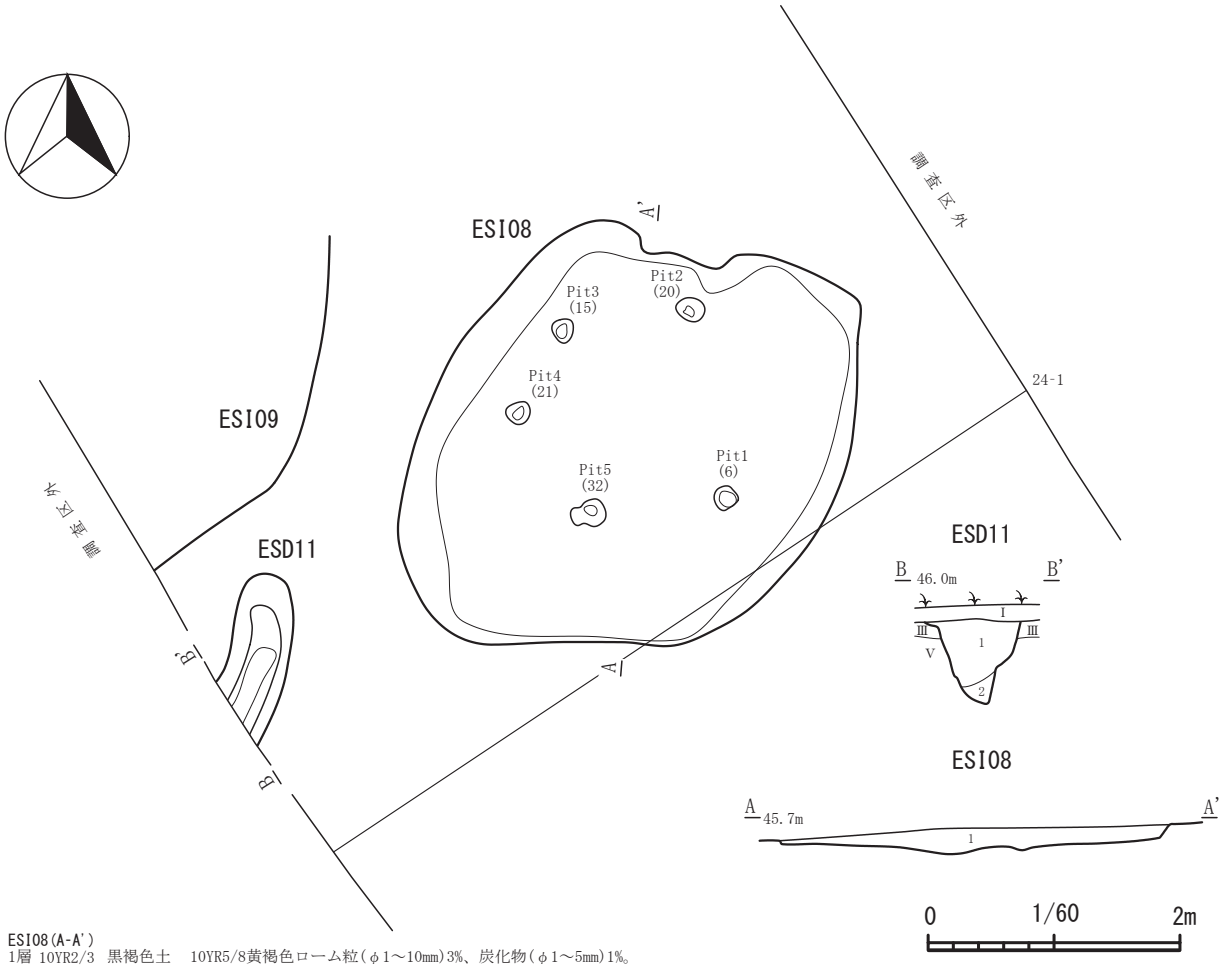
SK13(D-D')

1層	10YR3/2	黒褐色土	10YR7/8黄橙色ローム粒(φ1mm)2%、しまり強い、粘性やや弱い。
2層	10YR4/4	褐 色 土	10YR7/8黄橙色ローム粒(φ1～3mm)5%、10YR2/3黒褐色土3%、炭化物(φ1～3mm)1%、しまりやや弱い、粘性やや強い。
3層	10YR5/8	黄褐色土	10YR4/3にぶい黄褐色土7%、10YR3/3暗褐色土5%、しまり、粘性やや弱い。
4層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	10YR8/6黄橙色ブロック(φ10～20mm)20%、10YR2/1黒色土3%、10YR5/8黄褐色土2%、炭化物(φ1～3mm)1%、しまり、粘性やや弱い。

ESD10(E-E')

1層	10YR1.7/1	黒 色 土	10YR4/6褐色土5%、10YR7/6明黄褐色ローム粒(φ1～5mm)2%。
2層	10YR2/3	黒褐色土	10YR6/6明黄褐色土7%。

図55　24-0グリッド周辺遺構



ESI08(A-A')
1層 10YR2/3 黒褐色土 10YR5/8黄褐色ローム粒(φ1～10mm)3%、炭化物(φ1～5mm)1%。
ESD11(B-B')
1層 10YR2/3 黒褐色土 10YR5/6黄褐色土3%、10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ5～20mm)2%。
2層 10YR2/1 黒 色 土 10YR6/6明黄褐色ロームブロック(φ5～30mm)7%。

図56 24-1グリッド周辺遺構

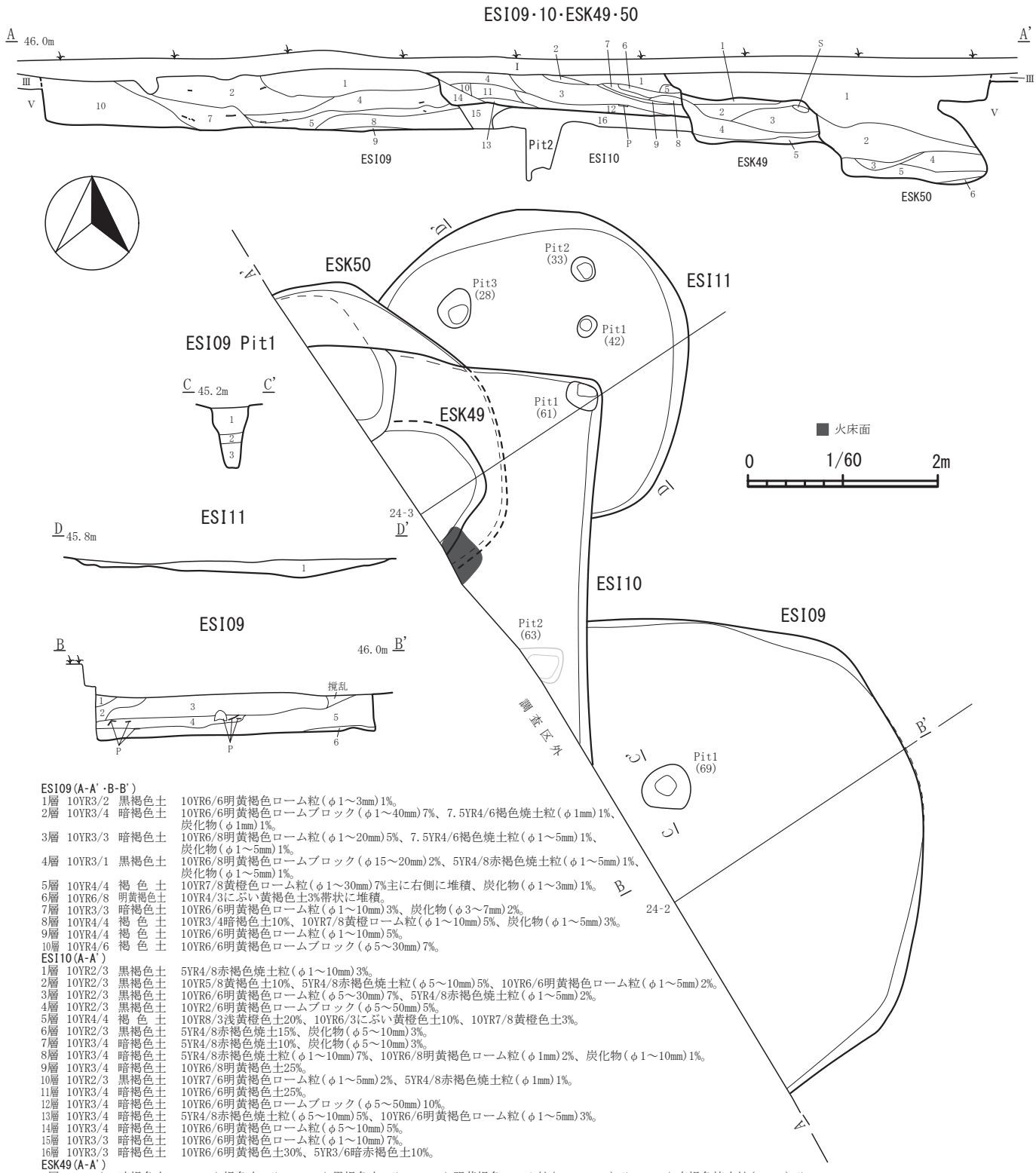
第８号溝跡(ESD08、図70・93)

[位置・確認] 24－16・17グリッドに位置する。ESP37～39と一体の溝と考えられる。

[平面形・規模・底面] 調査区際に位置し、南東半が検出された。調査区内で確認できた長さは3.9mで、直線的な溝である。確認面での幅は0.3～0.8mを測るが、概ね0.5m前後といえる。深さは13～43cmである。底面は起伏があるものの、断面形は皿形である。底面の標高は北西端が南東端より13cm低く、北西端へ傾斜して構築されている。

[堆積土] 暗褐色土主体の単層で、ロームブロックや焼土粒が混入することから人為堆積と考えられる。

[出土遺物・遺構の時期等] 須恵器が出土し、１点を図示した(図93－209)。平安時代もしくはそれ以降と推定されるが、詳細は不明である。柵もしくは塀と推測される。



ESI09(A-A'・B-B')
1層　10YR3/2　黒褐色土　10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1～3mm)1%。
2層　10YR3/4　暗褐色土　10YR6/6明黄褐色ロームブロック(φ1～40mm)7%、7.5YR4/6褐色焼土粒(φ1mm)1%、炭化物(φ1mm)1%。
3層　10YR3/3　暗褐色土　10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1～20mm)5%、7.5YR4/6褐色焼土粒(φ1～5mm)1%、炭化物(φ1～5mm)1%。
4層　10YR3/1　黒褐色土　10YR6/8明黄褐色ロームブロック(φ15～20mm)2%、5YR4/8赤褐色焼土粒(φ1～5mm)1%、炭化物(φ1～5mm)1%。
5層　10YR4/4　褐　色　土　10YR7/8黄橙色ローム粒(φ1～30mm)7%主に右側に堆積、炭化物(φ1～3mm)1%。
6層　10YR6/8　明黄褐色土　10YR4/3にぶい黄褐色土3%帯状に堆積。
7層　10YR3/3　暗褐色土　10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1～10mm)3%、炭化物(φ3～7mm)2%。
8層　10YR4/4　褐　色　土　10YR3/4暗褐色土10%、10YR7/8黄橙ローム粒(φ1～10mm)5%、炭化物(φ1～5mm)3%。
9層　10YR4/4　褐　色　土　10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1～10mm)5%。
10層　10YR4/6　褐　色　土　10YR6/6明黄褐色ロームブロック(φ5～30mm)7%。

ESI10(A-A')
1層　10YR2/3　黒褐色土　5YR4/8赤褐色焼土粒(φ1～10mm)3%。
2層　10YR2/3　黒褐色土　10YR5/8黄褐色土10%、5YR4/8赤褐色焼土粒(φ5～10mm)5%、10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1～5mm)2%。
3層　10YR2/3　黒褐色土　10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ5～30mm)7%、5YR4/8赤褐色焼土粒(φ1～5mm)2%。
4層　10YR2/3　黒褐色土　10YR2/6明黄褐色ロームブロック(φ5～50mm)5%。
5層　10YR4/4　褐　色　土　10YR8/3浅黄橙色土20%、10YR6/3にぶい黄橙色土10%、10YR7/8黄橙色土3%。
6層　10YR2/3　黒褐色土　5YR4/8赤褐色焼土15%、炭化物(φ5～10mm)3%。
7層　10YR3/4　暗褐色土　5YR4/8赤褐色焼土10%、炭化物(φ5～10mm)3%。
8層　10YR3/4　暗褐色土　5YR4/8赤褐色焼土粒(φ1～10mm)7%、10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1mm)2%、炭化物(φ1～10mm)1%。
9層　10YR3/4　暗褐色土　10YR6/8明黄褐色土25%。
10層　10YR2/3　黒褐色土　10YR7/6明黄褐色ローム粒(φ1～5mm)2%、5YR4/8赤褐色焼土粒(φ1mm)1%。
11層　10YR3/4　暗褐色土　10YR6/6明黄褐色土25%。
12層　10YR3/4　暗褐色土　10YR6/6明黄褐色ロームブロック(φ5～50mm)10%。
13層　10YR3/4　暗褐色土　5YR4/8赤褐色焼土粒(φ5～10mm)5%、10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1～5mm)3%。
14層　10YR3/4　暗褐色土　10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ5～10mm)5%。
15層　10YR3/3　暗褐色土　10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1～10mm)7%。
16層　10YR3/3　暗褐色土　10YR6/6明黄褐色土30%、5YR3/6暗赤褐色土10%。

ESK49(A-A')
1層　10YR3/4　暗褐色土　10YR4/6褐色土15%、10YR2/3黒褐色土10%、10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1～10mm)7%、5YR4/8赤褐色焼土粒(φ5mm)1%。
2層　10YR3/4　暗褐色土　10YR6/6明黄褐色ロームブロック(φ5～50mm)7%、10YR2/3黒褐色土5%。
3層　10YR3/3　暗褐色土　10YR6/6明黄褐色ロームブロック(φ5～50mm)10%。
4層　10YR2/3　黒褐色土　10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1～5mm)5%、5YR4/8赤褐色焼土粒(φ5～10mm)2%。
5層　10YR2/3　黒褐色土　10YR6/6明黄褐色ロームブロック(φ10～50mm)15%、5YR4/8赤褐色焼土粒(φ10～50mm)7%、10YR8/4浅黄橙色土(φ10～30mm)5%。

ESK50(A-A')
1層　10YR2/2　黒褐色土　10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1～10mm)5%、10YR3/4暗褐色土3%。
2層　10YR2/3　黒褐色土　10YR6/6明黄褐色ロームブロック(φ5～50mm)25%、10YR7/4にぶい黄橙色ローム粒(φ5～20mm)7%。
3層　10YR3/4　暗褐色土　10YR6/6明黄褐色土10%。
4層　10YR5/8　黄褐色土　10YR3/4暗褐色土7%。
5層　10YR5/6　黄褐色土　10YR2/3黒褐色土15%。
6層　10YR6/6　明黄褐色土　10YR3/4暗褐色土7%。

ESI09 Pit1(C-C')
1層　10YR3/4　暗褐色土　10YR7/6明黄褐色ローム粒(φ1～5mm)5%、炭化物(φ5～10mm)7%。
2層　10YR3/3　暗褐色土　10YR5/8黄褐色土10%、10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1～10mm)2%、炭化物(φ1～10mm)3%。
3層　10YR4/4　褐　色　土　10YR5/6黄褐色土15%、10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1～5mm)2%、炭化物(φ1～10mm)3%。

ESI11(D-D')
1層　10YR3/4　暗褐色土　10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1～30mm)3%、炭化物(φ1mm)1%。

図57　24-２・３グリッド周辺遺構

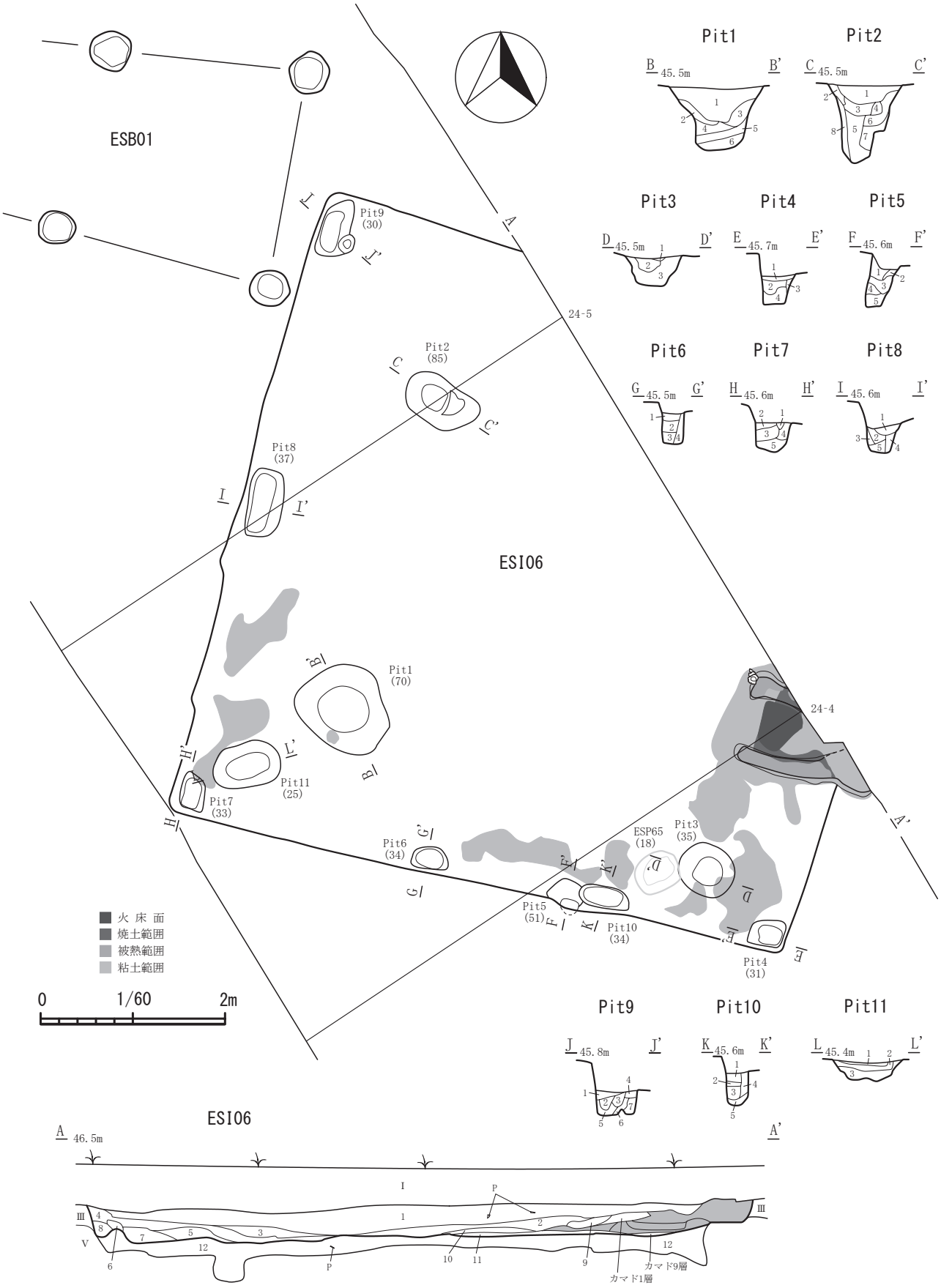


図58　24-３～５グリッド周辺遺構（１）

ESI06(A-A')
1層 10YR1.7/1　黒 色 土　10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ5～20mm)5%、5YR4/8赤褐色焼土粒(φ5～10mm)2%、層上部に火山灰有り(φ5～30mm)2%。
※火山灰サンプル(灰-6)採取。
2層 10YR2/2　黒褐色土　10YR6/6明黄褐色ロームブロック(φ5～30mm)10%。
3層 10YR2/2　黒褐色土　10YR6/6明黄褐色ロームブロック(φ5～50mm)7%、10YR5/8黄褐色ローム粒(φ1～5mm)3%。
4層 10YR2/3　黒褐色土　10YR1.7/1黒色土15%、10YR4/4褐色土10%、10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1～5mm)7%、5YR4/8赤褐色焼土粒(φ5mm)1%。
5層 10YR2/2　黒褐色土　10YR6/6明黄褐色ロームブロック(φ5～30mm)5%、10YR7/6明黄褐色ローム粒(φ5～10mm)3%。
6層 10YR3/4　暗褐色土　10YR5/4にぶい黄褐色土15%、10YR2/3黒褐色土10%、10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1～5mm)2%。
7層 10YR2/3　黒褐色土　10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ5～20mm)5%、5YR4/8赤褐色焼土粒(φ5mm)1%。
8層 10YR3/4　暗褐色土　10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1～5mm)3%。
9層 10YR4/6　褐 色 土　10YR5/6黄褐色土15%、10YR2/2黒褐色土7%、10YR7/6明黄褐色ローム粒(φ5～10mm)5%。
10層 10YR4/4　褐 色 土　10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ5～20mm)10%、10YR6/4にぶい黄橙色土(φ20mm)2%。
11層 10YR2/2　黒褐色土　10YR6/8明黄褐色ロームブロック(φ5～50mm)5%。
12層 10YR2/3　黒褐色土　掘り方。10YR1.7/1黒色土20%、10YR6/8明黄褐色土(φ5～50mm以上)20%、10YR5/8黄褐色土(φ5～50mm)10%。

ESI06 Pit1(B-B')
1層 10YR2/3　黒褐色土　10YR6/8黄褐色ロームブロック(φ5～50mm以上)15%、10YR2/2黒褐色土7%、5YR4/8赤褐色焼土粒(φ1～10mm)1%、炭化物(φ1～20mm)2%
2層 10YR2/2　黒褐色土　10YR5/8黄褐色土20%、5YR4/8赤褐色焼土粒(φ1～5mm)1%、炭化物(φ1～5mm)2%。
3層 10YR2/3　黒褐色土　10YR6/8黄褐色ロームブロック(φ5～30mm)5%。
4層 10YR5/8　黄褐色土　10YR3/2黒褐色土7%。
5層 10YR4/6　褐 色 土　10YR5/8黄褐色ローム粒(φ1～5mm)5%、10YR6/6明黄褐色ロームブロック(φ20mm)3%。
6層 10YR4/4　褐 色 土　10YR6/6明黄褐色ロームブロック(φ5～50mm以上)20%、10YR2/3黒褐色土5%。

ESI06 Pit2(C-C')
1層 10YR2/2　黒褐色土　10YR5/8黄褐色ロームブロック(φ5～30mm)7%。
2層 10YR2/3　黒褐色土　10YR3/4暗褐色土15%、10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1～5mm)2%。
3層 10YR2/2　黒褐色土　10YR5/8黄褐色ロームブロック(φ5～30mm)2%。
4層 10YR3/4　暗褐色土　10YR5/8黄褐色ローム粒(φ1～5mm)3%。
5層 10YR4/6　褐 色 土　10YR3/4暗褐色土15%、10YR5/6黄褐色ロームブロック(φ10～50mm)10%。
6層 10YR4/4　褐 色 土　10YR5/8黄褐色ロームブロック(φ5～30mm)7%。
7層 10YR4/6　褐 色 土　10YR6/8明黄褐色ロームブロック(φ5～30mm)5%、炭化物(φ1～10mm)3%。
8層 10YR5/6　黄褐色土　10YR3/4暗褐色土3%。

ESI06 Pit3(D-D')
1層 10YR4/6　褐 色 土　10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1～10mm)7%、10YR2/3黒褐色土3%、5YR4/8赤褐色焼土粒(φ3mm)1%。
2層 10YR2/3　黒褐色土　10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1～10mm)5%。
3層 10YR4/6　褐 色 土　10YR6/6明黄褐色ロームブロック(φ5～50mm)15%、7.5YR5/4にぶい褐色焼土(φ10～30mm)5%。

ESI06 Pit4(E-E')
1層 10YR3/4　暗褐色土　10YR7/8黄橙色ロームブロック(φ5～30mm)5%。
2層 10YR3/3　暗褐色土　10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1～5mm)3%。
3層 10YR3/3　暗褐色土　10YR6/8明黄褐色ロームブロック(φ5～30mm)7%。
4層 10YR3/3　黒褐色土　10YR6/8明黄褐色ロームブロック(φ5～50mm)7%。

ESI06 Pit5(F-F')
1層 10YR2/3　黒褐色土　10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1～5mm)3%。
2層 10YR2/3　黒褐色土　10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1～5mm)3%。
3層 10YR2/3　黒褐色土　10YR6/8明黄褐色ロームブロック(φ1～20mm)3%。
4層 10YR2/3　黒褐色土　10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1～7mm)5%。
5層 10YR2/3　黒褐色土　10YR6/8明黄褐色ロームブロック(φ5～20mm)10%。

ESI06 Pit6(G-G')
1層 10YR2/3　黒褐色土　10YR7/8黄橙ローム粒(φ1～5mm)3%。
2層 10YR2/3　黒褐色土　10YR7/6明黄褐色ローム粒(φ1～10mm)3%。
3層 10YR3/4　暗褐色土　10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1～7mm)5%。
4層 10YR3/4　暗褐色土　10YR7/6明黄褐色ロームブロック(φ5～30mm)5%、10YR6/6明黄褐色ロームブロック(φ5～20mm)3%。

ESI06 Pit7(H-H')
1層 10YR2/3　黒褐色土　10YR6/8明黄褐色ロームブロック(φ5～20mm)5%、10YR6/6明黄褐色ロームブロック(φ20mm)3%。
2層 10YR6/8　明黄褐色土　10YR3/4暗褐色土7%。
3層 10YR2/3　黒褐色土　10YR7/6明黄褐色ローム粒(φ1～10mm)2%。
4層 10YR3/2　黒褐色土　10YR6/8明黄褐色ロームブロック(φ5～50mm)5%。
5層 10YR3/4　暗褐色土　10YR6/8明黄褐色ロームブロック(φ5～50mm)10%、10YR7/4にぶい黄橙色ロームブロック(φ20mm)2%。

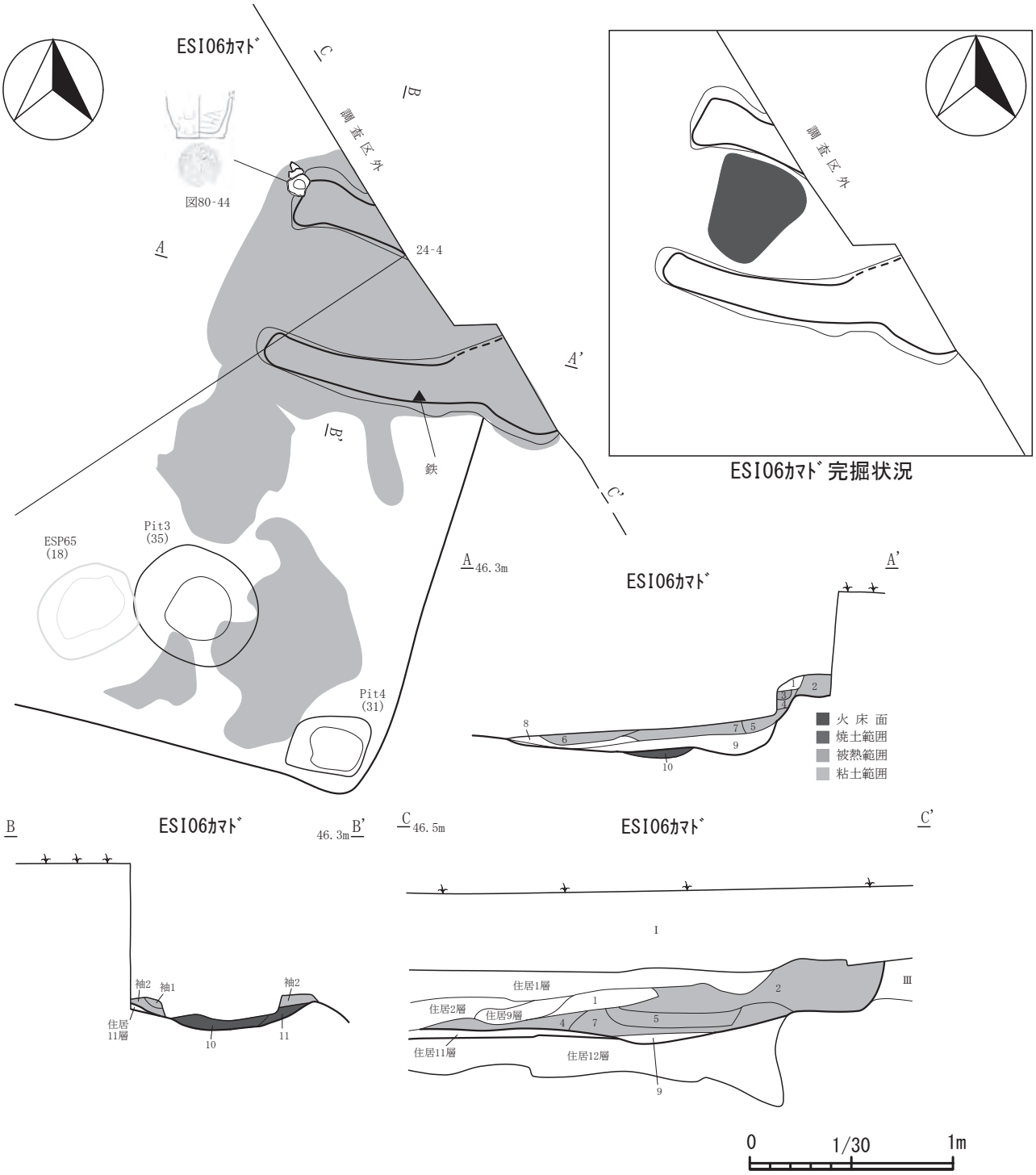
ESI06 Pit8(I-I')
1層 10YR2/3　黒褐色土　10YR6/6明黄褐色ロームブロック(φ5～20mm)5%。
2層 10YR2/3　黒褐色土　10YR6/6明黄褐色ロームブロック(φ5～20mm)3%、炭化物(φ1～20mm)1%。
3層 10YR2/3　黒褐色土　10YR6/6明黄褐色ロームブロック(φ5～20mm)3%。
4層 10YR4/6　褐 色 土　10YR6/6明黄褐色ロームブロック(φ5～50mm)20%、炭化物(φ1～10mm)2%。
5層 10YR3/4　暗褐色土　10YR6/6明黄褐色ロームブロック(φ5～30mm)7%。

ESI06 Pit9(J-J')
1層 10YR3/2　黒褐色土　10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1～10mm)2%。
2層 10YR3/3　暗褐色土　10YR6/6明黄褐色ロームブロック(φ5～15mm)3%。
3層 10YR3/4　暗褐色土　10YR6/6明黄褐色ロームブロック(φ5～30mm)5%。
4層 10YR3/4　暗褐色土　10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1～5mm)2%。
5層 10YR3/4　暗褐色土　10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1～3mm)3%。
6層 10YR3/3　暗褐色土　10YR6/6明黄褐色ロームブロック(φ30mm)7%。
7層 10YR3/2　黒褐色土　10YR6/6明黄褐色ロームブロック(φ5～15mm)3%。

ESI06 Pit10(K-K')
1層 10YR2/3　黒褐色土　10YR5/8黄褐色ローム粒(φ1～5mm)1%。
2層 10YR2/3　黒褐色土　10YR5/8黄褐色ロームブロック(φ1～30mm)20%。
3層 10YR2/2　黒褐色土　10YR5/8黄褐色ローム粒(φ1～5mm)3%。
4層 10YR3/2　黒褐色土　10YR5/8黄褐色ロームブロック(φ10～40mm)30%。
5層 10YR5/8　黄褐色土　10YR3/2黒褐色土2%。

ESI06 Pit11(L-L')
1層 10YR3/1　黒褐色土　10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1～10mm)1%、7.5YR4/6褐色焼土粒(φ1mm)1%。
2層 10YR3/2　黒褐色土　10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1～5mm)3%。
3層 10YR3/2　黒褐色土　10YR6/6明黄褐色ロームブロック(φ1～60mm)5%。

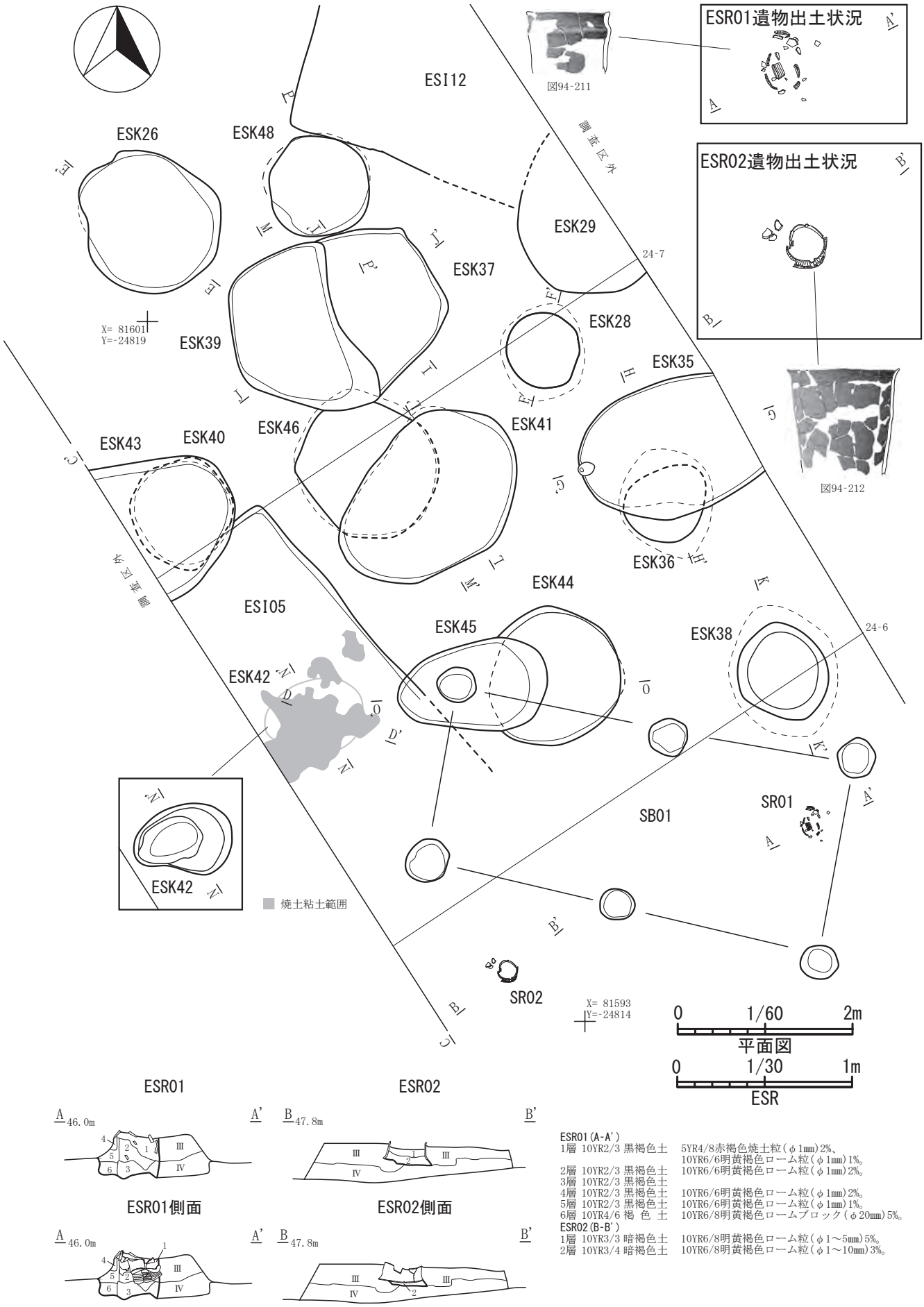
図59　24-３～５グリッド周辺遺構（２）



ESI06ｶﾏﾄﾞ(A-A'･B-B')

1層	10YR3/4	暗褐色土	10YR4/4褐色土10%、5YR4/8赤褐色焼土粒(φ1～5mm)5%、10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1～5mm)3%、炭化物(φ1～10mm)2%。
2層	10YR4/4	褐色粘土	10YR3/4暗褐色土7%、5YR5/8明赤褐色焼土(φ30mm)5%、炭化物(φ1～5mm)1%。
3層	5YR4/6	赤褐色焼土	7.5YR5/4にぶい褐色土5%、炭化物(φ1mm)1%。
4層	7.5YR5/4	にぶい褐色粘土	7.5YR7/4にぶい橙色土3%。
5層	7.5YR4/4	褐色粘土	10YR2/1黒褐色土7%、10YR7/6明黄褐色ローム粒(φ5～10mm)7%、5YR4/8赤褐色焼土粒(φ5～10mm)3%。
6層	7.5YR4/4	褐色粘土	10YR3/4暗褐色土5%、5YR4/8赤褐色焼土粒(φ5mm)2%、炭化物(φ1～5mm)2%。
7層	7.5YR4/4	褐色粘土	5YR5/6明赤褐色焼土10%、炭化物(φ1～5mm)1%。
8層	10YR3/3	暗褐色土	7.5YR3/4暗褐色焼土15%、5YR4/8赤褐色焼土粒(φ5mm)2%、炭化物(φ1mm)1%。
9層	7.5YR3/4	暗褐色土	5YR3/4暗赤褐色焼土20%、10YR2/3黒褐色土10%、5YR5/6明赤褐色焼土7%、10YR7/6明黄褐色ローム粒(φ5～20mm)5%、5YR4/8赤褐色焼土粒(φ1～5mm)2%。
10層	5YR4/4	にぶい赤褐色焼土	火床面。5YR5/6明赤褐色焼土15%、炭化物(φ1～5mm)1%。
11層	5YR3/2	暗赤褐色焼土	火床面。5YR5/6明赤褐色焼土7%、10YR1.7/1黒色土3%。
袖1層	5YR4/4	にぶい赤褐色焼土	5YR4/8赤褐色焼土7%、被熱範囲。
袖2層	7.5YR4/4	褐 色 土	5YR4/8赤褐色焼土15%、10YR7/1灰白粘土10%、7.5YR2/3極暗褐色焼土2%。

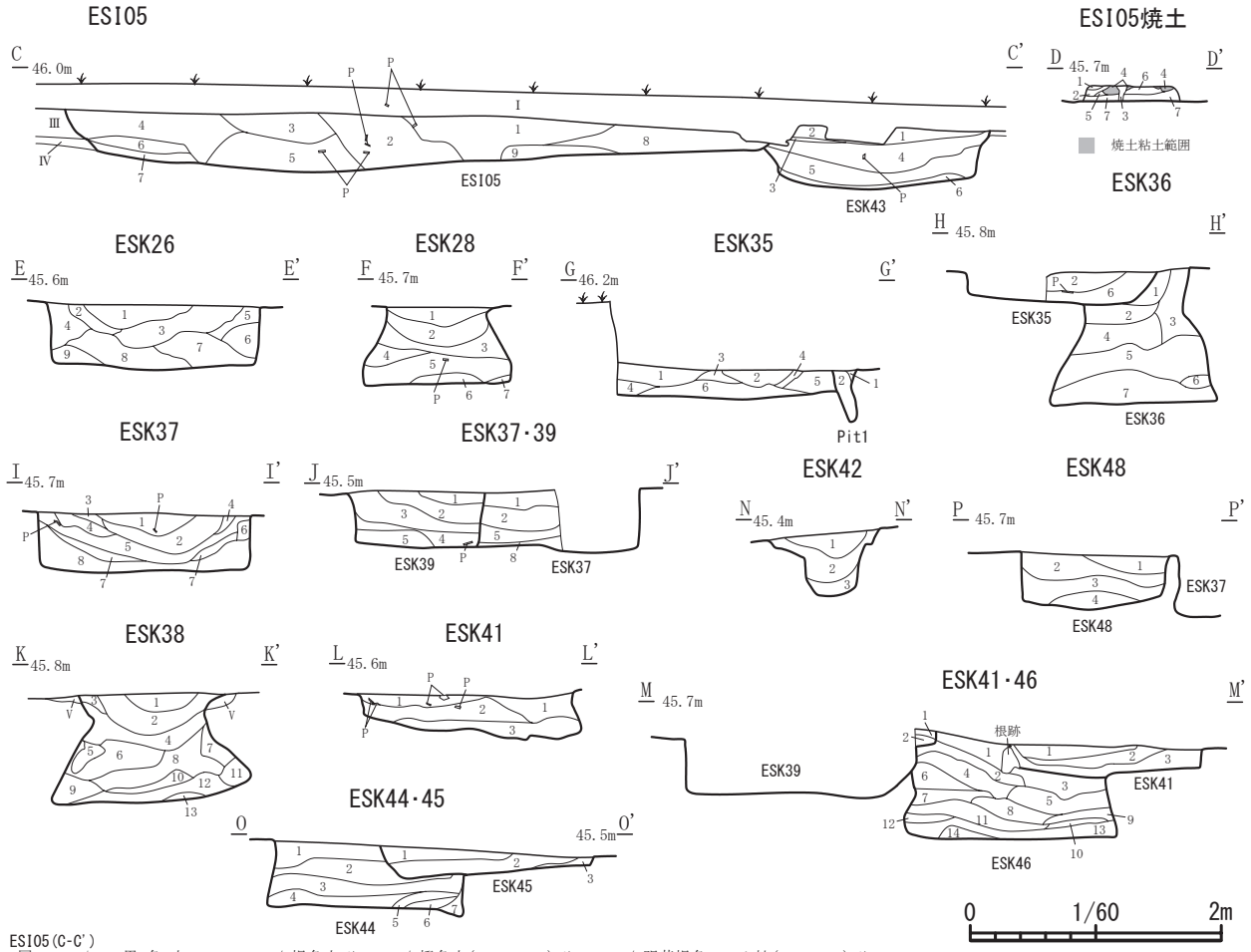
図60　24-３～５グリッド周辺遺構（３）



ESR01(A-A')
1層 10YR2/3 黒褐色土　5YR4/8赤褐色焼土粒(φ1mm)2%、10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1mm)1%。
2層 10YR2/3 黒褐色土　10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1mm)2%。
3層 10YR2/3 黒褐色土
4層 10YR2/3 黒褐色土　10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1mm)2%。
5層 10YR2/3 黒褐色土　10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1mm)1%。
6層 10YR4/6 褐 色 土　10YR6/8明黄褐色ロームブロック(φ20mm)5%。

ESR02(B-B')
1層 10YR3/3 暗褐色土　10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1～5mm)5%。
2層 10YR3/4 暗褐色土　10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1～10mm)3%。

図61　24-５～７グリッド周辺遺構（１）



ESI05(C-C')

1層	10YR1.7/1	黒 色 土	10YR4/4褐色土7%、5YR6/8橙色土(φ5～10mm)5%、10YR7/6明黄褐色ローム粒(φ1～5mm)3%。
2層	10YR3/4	暗褐色土	10YR1.7/1黒色土25%、10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1～30mm)7%、7.5YR4/4褐色土(φ50mm)3%、炭化物(φ5mm)1%。
3層	10YR1.7/1	黒 色 土	10YR2/3黒褐色土、10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1～5mm)3%。
4層	10YR3/4	暗褐色土	10YR1.7/1黒色土10%、10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1～20mm)5%、7.5YR4/4褐色土(φ1～10mm)3%。
5層	10YR3/3	暗褐色土	10YR2/3黒褐色土20%、10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ5～50mm)10%、炭化物(φ1～10mm)3%。
6層	10YR4/6	褐 色 土	10YR5/8黄褐色土15%。
7層	10YR3/4	暗褐色土	10YR5/8黄褐色土25%、10YR7/6明黄褐色ローム粒(φ1～10mm)2%。
8層	10YR3/4	暗褐色土	10YR1.7/1黒色土20%、10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1～10mm)5%、5YR6/8橙色土(φ1～5mm)2%、炭化物(φ1～5mm)3%。
9層	10YR2/3	黒褐色土	10YR6/8明黄褐色土20%、10YR3/4暗褐色土10%。

ESI05焼土(D-D')

1層	7.5YR2/2	黒褐色土	7.5YR1.7/1黒色土10%、5YR4/8赤褐色焼土粒(φ5～10mm)7%、炭化物(φ1～5mm)1%。
2層	7.5YR3/4	暗褐色土	5YR4/8赤褐色焼土粒(φ1～10mm)7%、5YR5/8明赤褐色焼土粒(1～10mm)5%、7.5YR4/2黒褐色土3%、炭化物(φ1～3mm)2%。
3層	7.5YR2/1	黒 色 土	7.5YR3/2黒褐色土5%、5YR4/8赤褐色焼土粒(φ1～5mm)2%、炭化物(φ1～3mm)1%。
4層	5YR4/4	にぶい赤褐色焼土粒土	5YR4/8赤褐色焼土粒(φ5～50mm)7%、炭化物(φ1～30mm)3%。
5層	7.5YR2/3	極暗褐色土	5YR5/8明赤褐色焼土粒(φ1～5mm)5%、5YR4/8赤褐色焼土粒(φ1～3mm)2%。
6層	7.5YR3/4	暗褐色土	7.5YR6/4にぶい橙粘土7%、5YR4/8赤褐色焼土(φ10～50mm)5%、炭化物(φ1mm)1%。
7層	7.5YR1.7/1	黒 色 土	7.5YR5/4にぶい褐色粘土3%、5YR4/8赤褐色焼土粒(φ1～5mm)2%。

ESK26(E-E')

1層	10YR3/4	暗褐色土	10YR5/6黄褐色ローム粒(φ1～30mm)10%、5YR3/6暗赤褐色焼土粒(φ1～5mm)2%、浮石(φ1～5mm)2%、炭化物(φ1～30mm)5%。
2層	10YR3/3	暗褐色土	10YR7/6明黄褐色ローム粒(φ1～30mm)15%、10YR4/6褐色土5%、炭化物(φ1～5mm)3%。
3層	10YR3/4	暗褐色土	10YR5/6黄褐色ローム粒(φ1～30mm)20%、7.5YR4/6褐色土5%、10YR1.7/1黒色土3%、浮石(φ1mm)2%、炭化物(φ1～30mm)2%。
4層	10YR3/4	暗褐色土	10YR5/8黄褐色ローム粒(φ1～10mm)7%、炭化物(φ1mm)2%。
5層	10YR3/4	暗褐色土	10YR5/8黄褐色ローム粒(φ1～30mm)10%、炭化物(φ1～3mm)2%。
6層	10YR3/4	暗褐色土	10YR5/8黄褐色ローム粒(φ5～30mm)5%、浮石(φ1mm)1%、炭化物(φ1～3mm)1%。
7層	10YR3/3	暗褐色土	10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1～50mm)20%、浮石(φ1mm)2%、炭化物(φ1～30mm)5%。
8層	10YR3/4	暗褐色土	10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1～50mm)15%、炭化物(φ1～10mm)2%。
9層	10YR3/2	黒褐色土	10YR5/8黄褐色ローム粒(φ1～5mm)3%、炭化物(φ1mm)1%。

ESK28(F-F')

1層	10YR3/3	暗褐色土	10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1～5mm)3%、10YR8/6黄橙色ローム粒(φ1～5mm)3%、炭化物(φ1～30mm)2%。
2層	10YR3/3	暗褐色土	10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1～5mm)2%、10YR8/6黄橙色ローム粒(φ1～2mm)2%、炭化物(φ1～5mm)1%。
3層	10YR3/3	暗褐色土	10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1～5mm)2%、炭化物(φ1～30mm)3%。
4層	10YR3/3	暗褐色土	10YR7/4にぶい黄橙色粘土3%、10YR5/8黄褐色ローム粒(φ10mm)1%、炭化物(φ1mm)1%。
5層	10YR3/4	暗褐色土	5YR6/8明赤褐色ロームブロック(φ20mm)2%、10YR8/4黄橙色ロームブロック(φ20mm)2%、炭化物(φ1～10mm)5%。
6層	10YR3/4	暗褐色土	10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ10mm)2%。
7層	10YR5/6	黄褐色土	炭化物(φ1mm)1%。

ESK35(G-G'・H-H')

1層	10YR3/4	暗褐色土	10YR6/6明黄褐色ロームブロック(φ5～20mm)7%、10YR8/6黄橙色ローム粒(φ1～2mm)3%、炭化物(φ1～3mm)3%。
2層	10YR3/3	暗褐色土	10YR6/6明黄褐色ロームブロック(φ5～50mm)15%、10YR8/6黄橙色ローム粒(φ1～5mm)5%、炭化物(φ1～5mm)3%。
3層	10YR3/4	暗褐色土	10YR6/6明黄褐色ロームブロック(φ5～50mm)10%、10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ5～15mm)3%、炭化物(φ1～5mm)2%。
4層	10YR3/4	暗褐色土	10YR7/6明黄褐色ローム粒(φ1～10mm)5%、10YR5/8黄褐色ローム粒(φ1～10mm)3%、炭化物(φ5～10mm)2%。
5層	10YR3/4	暗褐色土	10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1～10mm)3%、10YR7/6明黄褐色ローム粒(φ1～5mm)1%、炭化物(φ1～5mm)2%。
6層	10YR3/4	暗褐色土	10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ5～10mm)5%、10YR7/6明黄褐色ローム粒(φ1～5mm)3%、炭化物(φ1～10mm)5%。

ESK35 Pit1(G-G')

1層	10YR5/8	黄褐色土	10YR3/4暗褐色土3%。
2層	10YR3/4	暗褐色土	10YR5/8黄褐色ローム粒(φ5～10mm)3%、炭化物(φ1mm)1%。

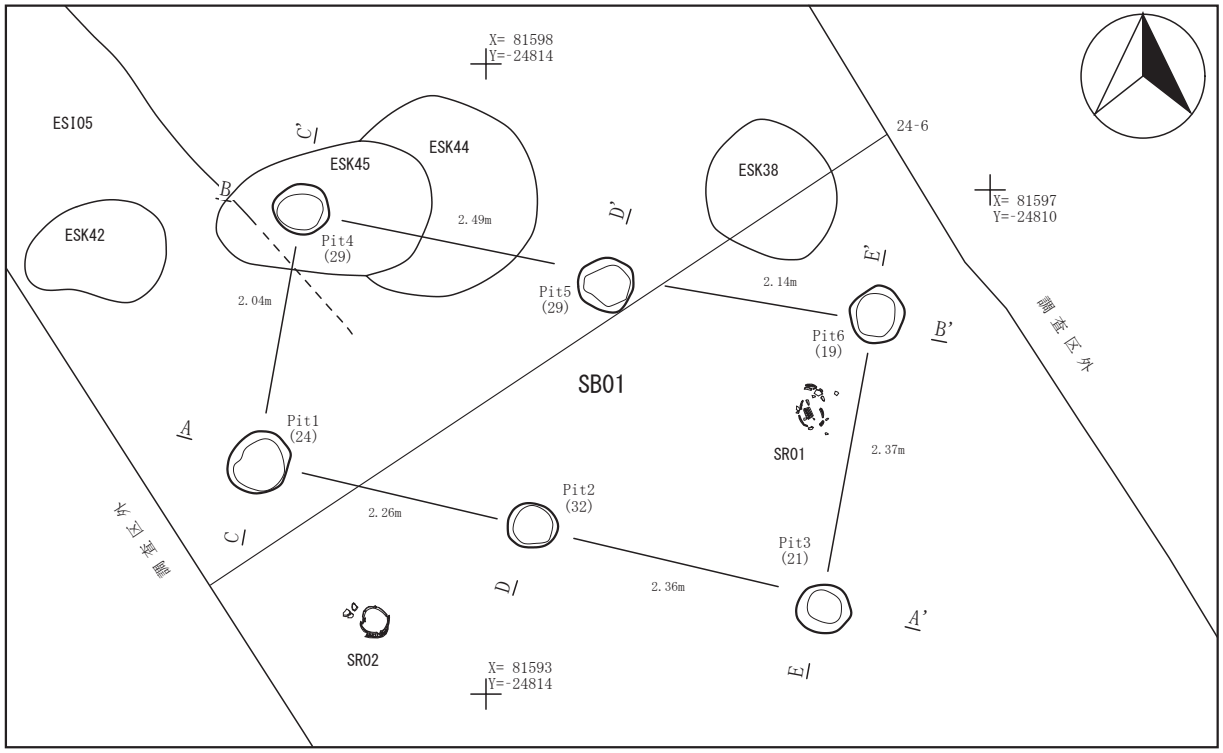
ESK36(H-H')

1層	10YR3/4	暗褐色土	10YR4/4褐色土10%、10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1～5mm)5%、5YR5/8明赤褐色焼土粒(φ1～5mm)1%、炭化物(φ1～5mm)2%。
2層	10YR3/3	暗褐色土	10YR5/8黄褐色ロームブロック(φ5～10mm)3%、10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1～5mm)2%、炭化物(φ1～5mm)3%。
3層	10YR3/4	暗褐色土	10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1～5mm)2%、10YR7/6明黄褐色ローム粒(φ1～5mm)2%、炭化物(φ1～5mm)2%。
4層	10YR3/4	暗褐色土	10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1～10mm)7%、炭化物(φ1～10mm)3%。
5層	10YR3/3	暗褐色土	10YR4/4褐色土7%、7.5YR5/6明褐色土(φ1～20mm)5%、炭化物(φ5～20mm)3%。
6層	7.5YR5/6	明褐色土	10YR3/3暗褐色土5%。
7層	10YR4/4	褐 色 土	7.5YR5/6明褐色土(φ5～50mm以上)10%、7.5YR6/4にぶい橙色土(φ1～5mm)3%、炭化物(φ1～5mm)2%。

図62　24-５～７グリッド周辺遺構（２）

ESK37(I-I'・J-J')
1層 10YR3/4 暗褐色土　10YR6/8明黄褐色ロームブロック(φ1～20mm)10%、炭化物(φ1～30mm)5%。
2層 10YR3/3 暗褐色土　10YR5/6黄褐色土25%、10YR6/6明黄褐色ロームブロック(φ5～50mm)20%。
3層 10YR3/3 暗褐色土　10YR2/3黒褐色土7%、10YR6/6明黄褐色ロームブロック(φ5～50mm)7%、炭化物(φ5～10mm)2%。
4層 10YR3/3 暗褐色土　10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1～10mm)10%、炭化物(φ1mm)1%。
5層 10YR3/3 暗褐色土　10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1～30mm)10%、10YR4/6褐色土5%、炭化物(φ5～20mm)7%。
6層 10YR4/4 褐 色 土　10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1mm)2%、炭化物(φ1mm)1%。
7層 10YR3/4 暗褐色土　10YR5/6黄褐色土7%、10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1～10mm)3%、炭化物(φ1～10mm)3%。
8層 10YR3/4 暗褐色土　10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1～10mm)、炭化物(φ1～20mm)3%。
ESK39(J-J')
1層 10YR3/4 暗褐色土　10YR6/8明黄褐色ロームブロック(φ5～20mm)7%、炭化物(φ1～5mm)2%。
2層 10YR3/3 暗褐色土　10YR6/8明黄褐色ローム30%、浮石(φ1～5mm)5%、炭化物(φ1～5mm)2%。
3層 10YR3/4 暗褐色土　10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1～20mm)7%、炭化物(φ1～10mm)2%。
4層 10YR3/3 暗褐色土　10YR7/6明黄褐色ローム粒(φ1～10mm)3%、炭化物(φ1～10mm)2%。
5層 10YR3/4 暗褐色土　10YR2/3黒褐色土7%、10YR7/6明黄褐色ローム粒(φ1～5mm)3%。
ESK38(K-K')
1層 10YR3/3 暗褐色土　7.5YR4/4褐色土20%、10R6/8明黄褐色ロームブロック(φ5～50mm以上)15%、10YR7/4にぶい黄橙色粘土3%、炭化物(φ1～20mm)3%。
2層 10YR3/3 暗褐色土　10YR5/8黄褐色ローム粒(φ1～10mm)7%、浮石(φ1mm)2%。
3層 10YR4/6 褐 色 土　10YR6/8明黄褐色ロームブロック(φ5～30mm)5%、炭化物(φ1mm)3%。
4層 10YR3/4 暗褐色土　10YR6/8明黄褐色土7%、10YR7/6明黄褐色ローム粒(φ1mm)3%。
5層 10YR4/4 褐 色 土　10YR6/8明黄褐色土15%、浮石(φ1mm)2%。
4層 10YR3/3 暗褐色土　10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1～10mm)5%、炭化物(φ1～5mm)2%。
5層 10YR3/4 暗褐色土　10YR5/6黄褐色ロームブロック(φ5～30mm)7%、炭化物(φ1mm)1%。
6層 10YR4/6 褐 色 土　10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1～50mm)15%、炭化物(φ1～10mm)2%。
7層 10YR3/4 暗褐色土　10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1～10mm)3%、炭化物(φ1mm)1%。
8層 10YR4/4 褐 色 土　10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1～10mm)7%、浮石(φ1～5mm)1%、炭化物(φ1～20mm)3%。
9層 10YR3/3 暗褐色土　10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1～3mm)7%、炭化物(φ1～5mm)3%。
10層 10YR3/4 暗褐色土　10YR5/8黄褐色ローム粒(φ1～10mm)7%、炭化物(φ1～10mm)2%。
11層 10YR4/4 褐 色 土　10YR6/8明黄褐色ロームブロック(φ5～50mm)20%、炭化物(φ1～5mm)1%。
12層 10YR3/4 暗褐色土　10YR5/8黄褐色ローム粒(φ1～10mm)5%、炭化物(φ1～10mm)2%。
13層 10YR4/4 褐 色 土　10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1mm)3%。
ESK41(L-L'・M-M')
1層 10YR3/3 暗褐色土　10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1～50mm)10%、炭化物(φ1～5mm)3%。
2層 10YR3/3 暗褐色土　10YR6/8明黄褐色ロームブロック(φ5～50mm)20%、炭化物(φ5～10mm)2%。
3層 10YR3/4 暗褐色土　10YR6/8明黄褐色土15%、炭化物 (φ1～5mm) 2%。
ESK46(M-M')
1層 10YR4/6 黄褐色土　10YR6/6明黄褐色ローム15%、炭化物(φ5～10mm)2%。
2層 10YR5/6 褐 色 土　10YR6/6明黄褐色ローム15%、炭化物(φ1～5mm)1%。
3層 10YR4/4 暗褐色土　10YR6/8明黄褐色ロームブロック(φ5～30mm)10%、炭化物(φ1～5mm)2%。
4層 10YR3/3 黄褐色土　10YR5/6黄褐色土10%、10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ5～10mm)5%、炭化物(φ1～10mm)3%。
5層 10YR5/8 暗褐色土　10YR4/4褐色土20%、10YR7/8黄橙色ロームブロック(φ5～20mm)5%、10YR6/4にぶい黄橙色粘土(φ20mm)2%、炭化物(φ1～10mm)2%。
6層 10YR3/4 暗褐色土　10YR6/8明黄褐色ロームブロック(φ5～20mm)5%、炭化物(φ1～5mm)2%。
7層 10YR3/3 暗褐色土　10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1～10mm)3%、炭化物(φ1～5mm)2%。
8層 10YR5/8 黄褐色土　10YR4/4褐色土20%、10YR6/4にぶい黄橙色粘土(φ50mm)5%、炭化物(φ1～5mm)2%。
9層 10YR4/4 褐 色 土　10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1～5mm)2%。
10層 10YR4/4 褐 色 土　10YR3/3暗褐色土10%。
11層 10YR4/6 褐 色 土　10YR6/8明黄褐色ロームブロック(φ5～20mm)5%、炭化物(φ1～5mm)1%。
12層 10YR4/6 褐 色 土　10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1～10mm)5%。
13層 10YR4/4 褐 色 土　10YR3/4暗褐色土7%、10YR6/8明黄褐色ロームブロック(φ5～50mm)5%、炭化物(φ1～20mm)3%。
14層 10YR4/6 褐 色 土　10YR6/8明黄褐色土15%、炭化物(φ1～10mm)2%。
ESK42(N-N')
1層 10YR2/3 黒褐色土　10YR5/8黄褐色ローム粒(φ1～10mm)7%、5YR4/8赤褐色焼土粒(φ1～10mm)2%、炭化物(φ1～5mm)3%。
2層 10YR3/4 暗褐色土　10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1～5mm)3%。
3層 10YR3/3 暗褐色土　10YR6/6明黄褐色ロームブロック(φ5～50mm)7%。
ESK43(C-C')
1層 10YR3/4 暗褐色土　10YR2/3黒褐色土7%、10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1～5mm)2%、浮石(φ1mm)1%。
2層 10YR3/4 暗褐色土　10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1～5mm)5%、炭化物(φ1～5mm)2%。
3層 10YR3/3 暗褐色土　10YR6/6明黄褐色ロームブロック(φ5～30mm)15%。
4層 10YR3/4 暗褐色土　10YR6/6明黄褐色ロームブロック(5～50mm以上)7%、10YR8/3浅黄橙色土5%、炭化物(φ1～10mm)2%。
5層 10YR4/4 褐 色 土　10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1～10mm)7%、炭化物(φ1～5mm)2%。
6層 10YR4/4 褐 色 土　10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1～5mm)5%、炭化物(φ1～5mm)2%。
ESK44(O-O')
1層 10YR3/3 暗褐色土　10YR4/6褐色土7%、10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1～20mm)7%。
2層 10YR3/3 暗褐色土　10YR4/6褐色土20%、10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1～30mm)10%、5YR4/8赤褐色焼土粒(φ1～10mm)2%、炭化物(φ1～10mm)3%。
3層 10YR3/4 暗褐色土　10YR6/8明黄褐色土7%、10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1～10mm)7%、5YR4/8赤褐色焼土粒(φ1～5mm)1%、炭化物(φ1～10mm)3%。
4層 10YR2/2 黒褐色土　10YR3/4暗褐色土7%、10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1～20mm)5%、5YR4/8赤褐色焼土粒(φ1～10mm)1%。
5層 10YR5/6 黄褐色土　10YR2/2黒褐色土5%、炭化物(φ1～5mm)1%。
6層 10YR3/4 暗褐色土　10YR4/4褐色土5%、10YR5/6黄褐色ロームブロック(φ1～20mm)2%。
7層 10YR6/4 にぶい黄橙色土　10YR4/4褐色土3%。
ESK45(O-O')
1層 10YR3/4 暗褐色土　10YR7/6明黄褐色ローム粒(φ1～10mm)5%、5YR4/8赤褐色焼土粒(φ1～5mm)1%、炭化物(φ1～10mm)2%。
2層 10YR3/3 暗褐色土　10YR5/6黄褐色ローム粒(φ5～50mm)15%、炭化物(φ1～10mm)3%。
3層 10YR6/6 明黄褐色土　10YR2/1黒色土7%。
ESK48(P-P')
1層 10YR4/6 褐 色 土　10YR2/3黒褐色土20%、10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1～50mm)10%、炭化物(φ1～20mm)3%。
2層 10YR4/4 褐 色 土　10YR6/8明黄褐色ロームブロック(φ5～50mm)15%が層上部に多い。10YR3/4暗褐色土7%、炭化物(φ1～20mm)5%。
3層 10YR4/6 褐 色 土　10YR6/8明黄褐色ロームブロック(φ5～50mm)7%が層下部に多い。炭化物(φ1～5mm)3%。
4層 10YR3/4 暗褐色土　10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1～5mm)5%、炭化物(φ1～10m)2%。

図63　24-５～７グリッド周辺遺構（３）



第１号掘立柱建物跡

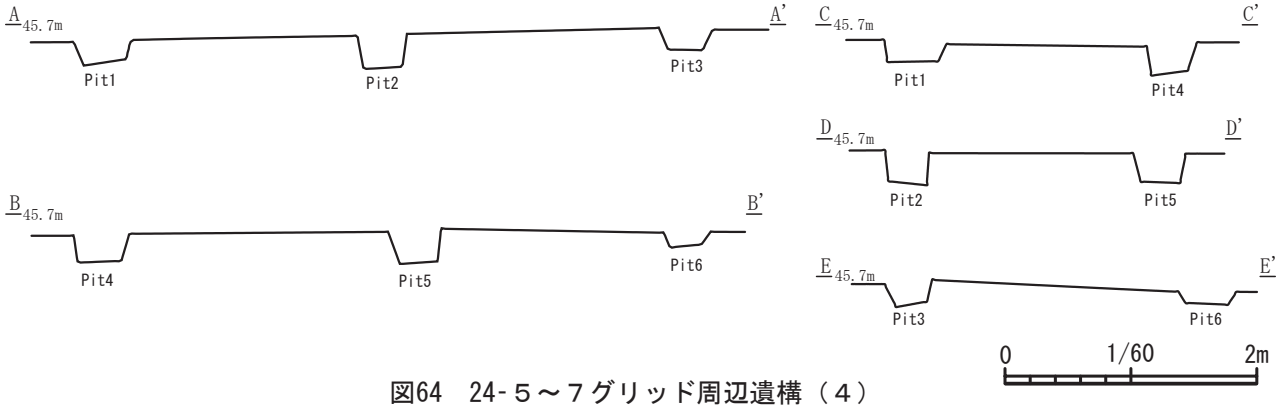
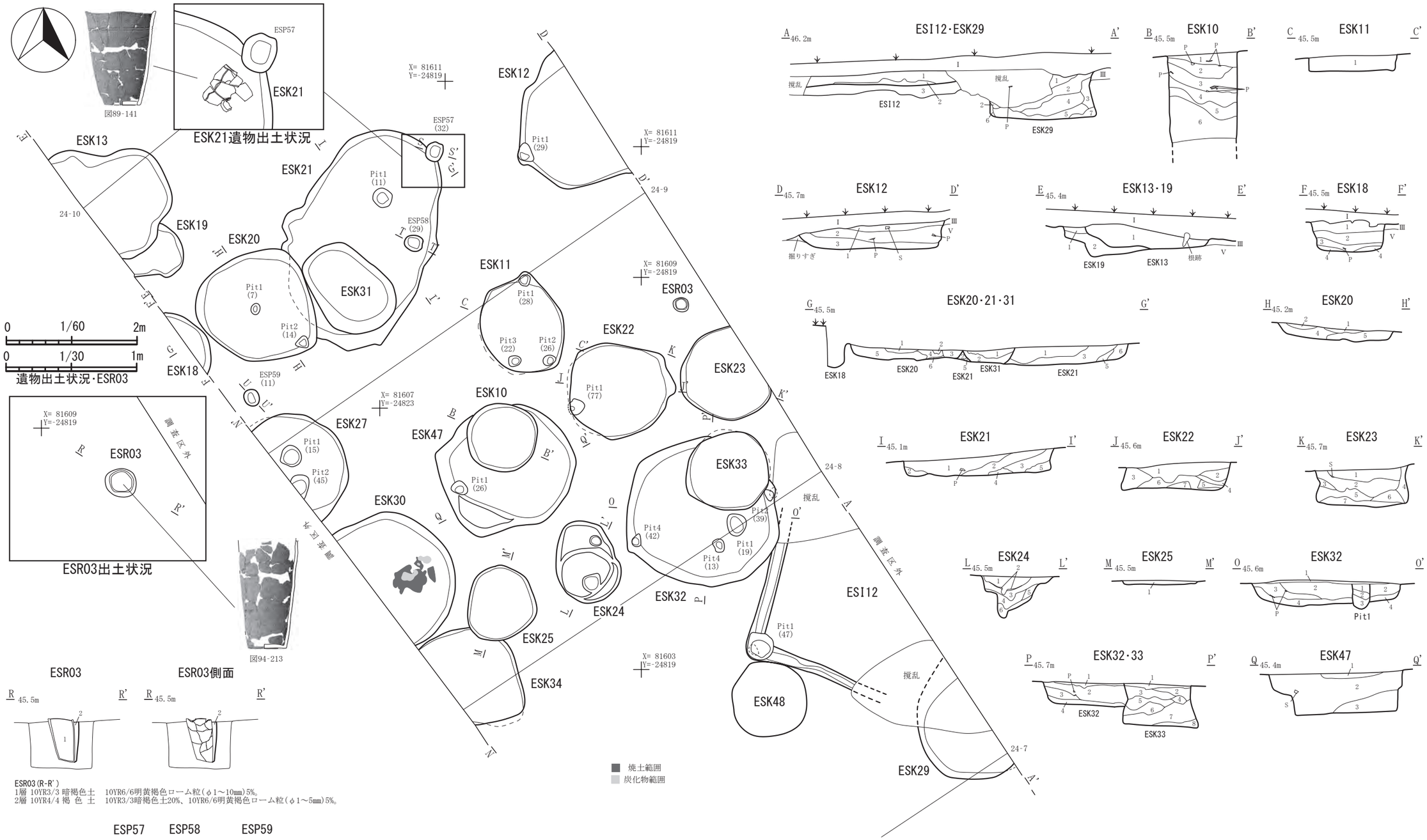


図64　24-５～７グリッド周辺遺構（４）



ESR03(R-R')
1層 10YR3/3 暗褐色土　10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1～10mm)5%。
2層 10YR4/4 褐 色 土　10YR3/3暗褐色土20%、10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1～5mm)5%。

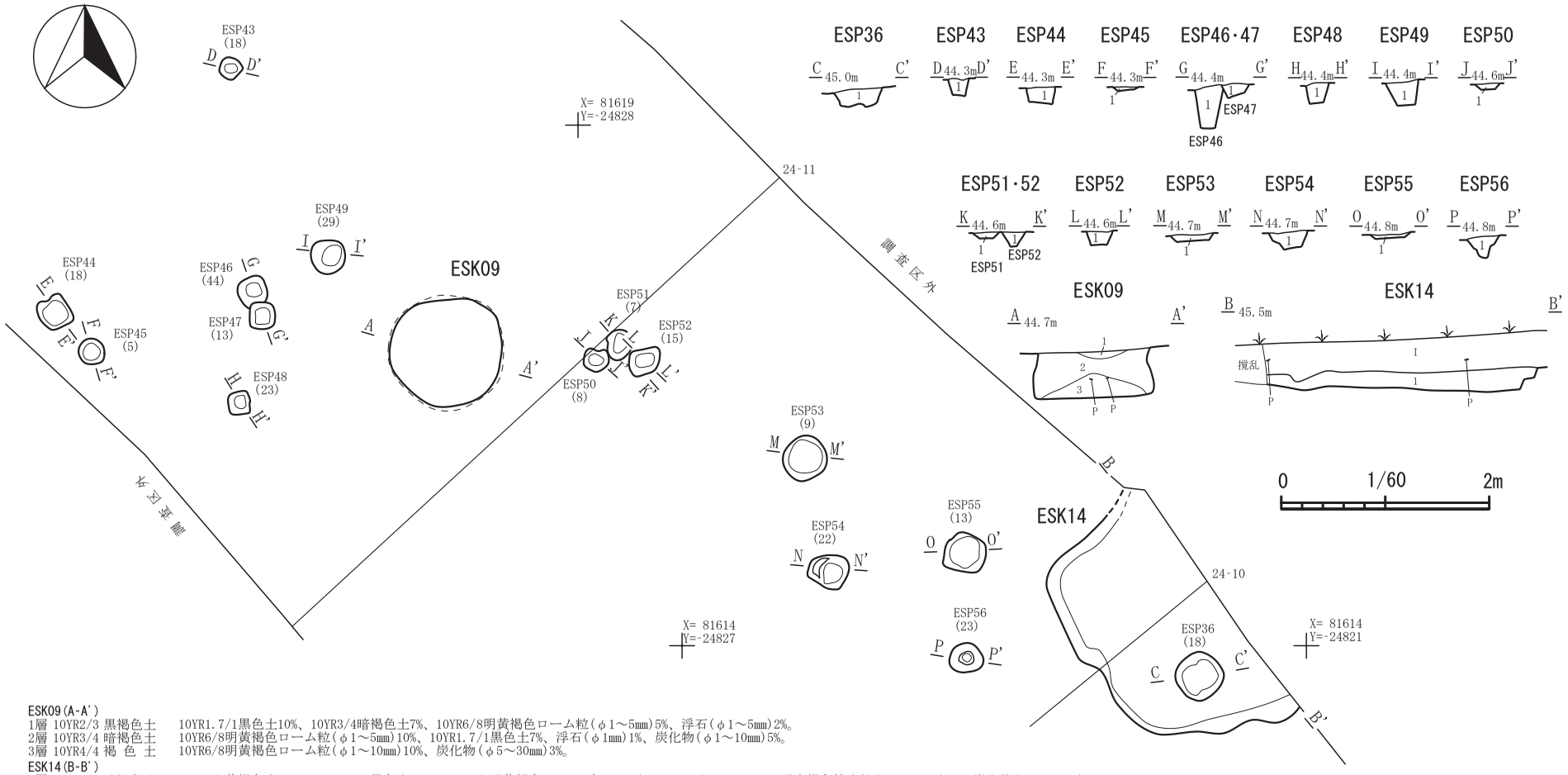
ESP57(S-S')
1層 10YR1.7/1　黒 色 土　10YR5/8黄褐色ローム粒(φ1～10mm)3%。
2層 10YR5/8　黄褐色土　10YR2/2黒褐色土5%。
ESP58(T-T')
1層 10YR2/2　黒褐色土　10YR3/3暗褐色土7%、10YR5/6黄褐色ローム粒(φ1～50mm)5%。
ESP59(U-U')
1層 10YR2/21　黒 色 土　10YR5/6黄褐色土7%。

ESI12(A-A')
1層 10YR3/4 暗褐色土　10YR6/6明黄褐色土25%、5YR4/8赤褐色焼土粒(φ1～10mm)1%、炭化物(φ1mm)1%。
2層 10YR5/6 黄褐色土　10YR4/4褐色土20%、10YR3/3暗褐色土5%、5YR4/8赤褐色焼土粒(φ1～5mm)1%。
3層 10YR2/2 黒褐色土　掘り方。10YR6/6明黄褐色土20%、5YR4/8赤褐色焼土粒(φ5～10mm)2%。
ESK29(A-A')
1層 10YR3/3 暗褐色土　10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1～20mm)5%、炭化物(φ1～5mm)2%。
2層 10YR4/3 にぶい黄褐色土　10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1～50mm)15%、炭化物(φ1～10mm)3%。
3層 10YR3/3 暗褐色土　10YR7/6明黄褐色ローム粒(φ1～10mm)5%、炭化物(φ1～10mm)2%。
4層 10YR3/3 暗褐色土　10YR7/6明黄褐色ローム粒φ1～20mm)10%、炭化物(φ1～10mm)2%。
5層 10YR3/3 暗褐色土　10YR7/6明黄褐色ロームブロック(φ5～30mm)5%、炭化物(φ1～10mm)3%。
6層 10YR2/3 黒褐色土　10YR5/6黄褐色土20%、炭化物(φ1mm)1%。
7層 10YR3/2 黒褐色土　10YR5/8黄褐色土5%、炭化物(φ1～5mm)2%。

図65　24-８～10グリッド周辺遺構（１）

ESK10(B-B')
1層 10YR1.7/1 黒 色 土　10YR4/4褐色土7%、10YR5/6黄褐色ローム粒(φ1～5mm)3%、5YR5/8明赤褐色焼土粒(φ1～10mm)2%。
2層 10YR1.7/1 黒 色 土　10YR4/4褐色土3%、10YR5/6黄褐色ローム粒(φ1～5mm)3%、5YR5/8明赤褐色焼土粒(φ1～5mm)1%。
3層 10YR2/2 黒褐色土　10YR4/4褐色土7%、10YR5/8黄褐色ローム粒(φ5～20mm)5%、5YR5/8明赤褐色焼土粒(φ1～5mm)2%。
4層 10YR2/3 黒褐色土　7.5YR5/6明褐色粘土20%、10YR5/6黄褐色ロームブロック (φ5～50mm)7%。
5層 10YR2/2 黒褐色土　7.5YR5/6明褐色粘土5%、10YR5/6黄褐色ローム粒(φ1～10mm)3%。
6層 10YR2/2 黒褐色土　7.5YR5/6明褐色粘土20%、10YR5/6黄褐色ロームブロック(φ5～20mm)5%。
ESK11(C-C')
1層 10YR3/3 暗褐色土　10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1～50mm)10%、炭化物(φ1～10mm)5%。
ESK12(D-D')
1層 10YR2/3 黒褐色土　10YR2/1黒色土10%、10YR5/8黄褐色ローム粒(φ1～20mm)10%、炭化物(φ1～5mm)3%。
2層 10YR3/4 暗褐色土　10YR2/3黒褐色土5%、10YR5/6黄褐色ロームブロック(φ5～50mm)10%、炭化物(φ5～20mm)3%。
3層 10YR3/3 暗褐色土　10YR6/8明黄褐色ロームブロック(φ5～50mm)7%、炭化物(φ1～30mm)5%。
ESK13(E-E')
1層 10YR3/4 暗褐色土　10YR2/2黒褐色土10%、10YR5/6黄褐色ローム粒(φ1～5mm)10%、炭化物(φ1～10mm)7%。
ESK19(E-E')
1層 10YR5/6 黄褐色土　10YR4/6褐色土5%、10YR6/4にぶい黄橙色粘土3%、炭化物(φ1～3mm)2%。
2層 10YR2/3 暗褐色土　10YR2/2黒褐色土5%、10YR5/6黄褐色ローム粒(φ1～20mm)5%、炭化物(φ1～30mm)5%。
ESK18(F-F')
1層 10YR3/4 暗褐色土　10YR4/4褐色土15%、10YR7/6明黄褐色ローム粒(φ1～5mm)15%、5YR4/8赤褐色焼土粒(φ1～5mm)1%、炭化物(φ1～10mm)2%。
2層 10YR4/4 褐 色 土　10YR7/6明黄褐色ローム粒(φ1～5mm)7%、炭化物(φ1～30mm)2%。
3層 10YR3/4 暗褐色土　10YR5/8黄褐色ローム粒(φ1～10mm)7%、炭化物(φ1～5mm)3%。
4層 10YR5/6 黄褐色土　10YR6/6明黄褐色ローム10%、炭化物(φ1mm)1%。
ESK20(G-G'･H-H')
1層 10YR4/4 褐 色 土　10YR6/8明黄褐色ロームブロック(φ5～50mm)20%、炭化物(φ1～10mm)5%。
2層 10YR3/3 暗褐色土　10YR6/6明黄褐色ロームブロック(φ5～50mm)10%、炭化物(φ1～5mm)5%。
3層 10YR4/4 褐 色 土　10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1～30mm)7%、炭化物(φ1～10mm)2%。
4層 10YR4/6 褐 色 土　10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1～30mm)7%、炭化物(φ1mm)1%。
5層 10YR3/4 暗褐色土　10YR6/6明黄褐色ロームブロック(φ5～50mm)15%、炭化物(φ1～10mm)7%。
6層 10YR4/4 褐 色 土　10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1～30mm)5%、炭化物(φ1～5mm)1%。
ESK21(G-G'･I-I')
1層 10YR3/3 暗褐色土　10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1～30mm)7%、7.5YR6/3にぶい褐色粘土5%、炭化物(φ1～30mm)5%。
2層 10YR3/4 暗褐色土　10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1～10mm)5%、炭化物(φ1mm)2%。
3層 10YR3/3 暗褐色土　10YR7/6明黄褐色ローム粒(φ1～50mm)7%、炭化物(φ1～10mm)3%。
4層 10YR4/6 暗褐色土　10YR7/6明黄褐色ローム20%、10YR3/3暗褐色土3%、炭化物(φ1～10mm)2%。
5層 10YR3/4 褐 色 土　10YR5/6黄褐色ロームブロック(φ5～50mm)7%、炭化物(φ1～10mm)3%。
ESK31(G-G')
1層 10YR3/4 暗褐色土　10YR1.7/1黒色土30%。
2層 10YR3/3 暗褐色土　10YR6/6明黄褐色ロームブロック(φ5～50mm)10%、炭化物(φ1～2mm)2%。
ESK22(J-J')
1層 10YR3/3 暗褐色土　10YR5/8黄褐色ローム粒(φ1～50mm)10%、7.5YR6/4にぶい橙色粘土3%、5YR4/8赤褐色焼土粒(φ1～5mm)2%、炭化物(φ1～30mm)7%。
2層 10YR3/4 暗褐色土　10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1～30mm)10%、7.5YR6/4にぶい橙色粘土7%。
3層 10YR3/3 暗褐色土　10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1～10mm)15%、炭化物(φ1～3mm)2%。
4層 10YR4/6 褐 色 土　7.5YR6/4にぶい橙色粘土20%、10YR5/6黄褐色ローム粒(φ1～50mm)10%、炭化物(φ1mm)1%。
5層 10YR6/6 明黄褐色土　7.5YR6/4にぶい橙色粘土7%、5YR5/8明赤褐色焼土粒(φ1～5mm)1%。
6層 10YR3/4 暗褐色土　10YR5/6黄褐色ローム粒(φ1～30mm)10%、7.5YR5/8明褐色土2%。
7層 10YR3/3 暗褐色土　10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1～10mm)7%、炭化物(φ1～5mm)2%。
ESK23(K-K')
1層 10YR3/3 暗褐色土　10YR5/8黄褐色ローム粒(φ1～50mm)20%、7.5YR5/3にぶい褐色粒土7%、炭化物(φ1～10mm)7%。
2層 10YR3/4 暗褐色土　7.5YR5/3にぶい褐色粘土3%、10YR5/8黄褐色ローム粒(φ1～5mm)3%、炭化物(φ1～5mm)3%。
3層 10YR3/4 暗褐色土　10YR6/6明黄褐色ロームブロック(φ5～50mm)25%、炭化物(φ1～10mm)3%。
4層 10YR3/3 暗褐色土　10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1～10mm)5%、10YR3/2黒褐色土3%。
5層 10YR3/4 暗褐色土　10YR6/6明黄褐色ローム30%、7.5YR5/3にぶい褐色粘土7%、炭化物(φ1～5mm)1%。
6層 10YR3/3 暗褐色土　10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1～30mm)10%、炭化物(φ1～5mm)3%。
7層 10YR2/3 黒褐色土　10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1～30mm)10%、7.5YR5/3にぶい褐色粘土3%、炭化物(φ1～5mm)3%。
ESK24(L-L')
1層 10YR3/4 暗褐色土　10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1～10mm)15%、炭化物(φ1～30mm)5%。
2層 10YR6/8 明黄褐色土　10YR3/4暗褐色土15%。
3層 10YR3/3 暗褐色土　10YR7/8黄褐色ローム粒(φ1～20mm)10%、炭化物(φ1～10mm)2%。
4層 10YR4/4 褐 色 土　10YR6/6明黄褐色ロームブロック(φ5～50mm)15%、10YR3/2黒褐色土3%。
5層 10YR4/6 褐 色 土　10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1～30mm)5%、炭化物(φ1～3mm)2%。
6層 10YR5/6 黄褐色土　10YR4/4褐色土3%、5YR5/6明赤褐色焼土3%、炭化物(φ5～30mm)1%。
ESK25(M-M')
1層 10YR3/3 暗褐色土　10YR5/6黄褐色ローム粒(φ1～10mm)10%、炭化物(φ1～10mm)2%。
ESK27(N-N')
1層 10YR2/3 黒褐色土　10YR3/4暗褐色土3%、10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1mm)1%。
2層 10YR3/3 暗褐色土　10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1～3mm)3%、7.5YR4/6褐色焼土粒(φ1mm)1%、炭化物(φ1～3mm)1%。
3層 10YR3/4 暗褐色土　10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1～3mm)2%、炭化物(φ1mm)1%。
4層 10YR3/2 黒褐色土　10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1～5mm)3%、炭化物(φ1～5mm)1%。
5層 10YR4/4 褐 色 土　10YR3/2黒褐色土2%、10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1～5mm)1%。
6層 10YR3/4 暗褐色土　10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1mm)1%。
ESK30(N-N')
1層 10YR3/4 暗褐色土　10YR2/3黒褐色土15%、10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1～10mm)5%、炭化物(φ1～5mm)3%。
2層 10YR3/3 暗褐色土　10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1～10mm)15%、10YR5/6褐色土5%、炭化物(φ1～10mm)5%。
3層 10YR3/3 暗褐色土　10YR5/8黄褐色ローム粒(φ1～50mm)7%、炭化物(φ1～5mm)2%。
4層 10YR3/4 暗褐色土　10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1～20mm)7%、炭化物(φ1～20mm)3%。
ESK34(N-N')
1層 10YR3/4 暗褐色土　10YR5/8黄褐色ローム粒(φ1～10mm)5%、炭化物(φ1mm)1%。
2層 10YR3/3 暗褐色土　10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1～10mm)5%、7.5YR6/3にぶい褐色粘土3%、炭化物(φ1～20mm)2%。
3層 10YR5/8 黄褐色土　10YR3/4暗褐色土15%、10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1～10mm)5%、炭化物(φ1～5mm)2%。
4層 10YR3/4 暗褐色土　10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1～20mm)10%、炭化物(φ1～5mm)3%。
5層 10YR4/6 褐 色 土　10YR7/6明黄褐色ロームブロック(φ5～30mm)15%、炭化物(φ1～5mm)3%。
6層 10YR5/6 褐 色 土　10YR3/4暗褐色土3%、炭化物(φ1mm)1%。
7層 10YR4/4 褐 色 土　10YR6/6明黄褐色ロームブロック(φ5～20mm)、炭化物(φ1～10mm)1%。
8層 10YR3/3 暗褐色土　10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1～30mm)10%、7.5YR6/3にぶい褐色粘土7%、炭化物(φ1～5mm)2%。
9層 10YR4/4 褐 色 土　10YR6/6明黄褐色ロームブロック(φ1～20mm)7%、炭化物(φ1mm)2%。
10層 10YR4/6 褐 色 土　10YR6/8明黄褐色ロームブロック(φ5～50mm)3%、炭化物(φ1mm)1%。
11層 10YR3/4 暗褐色土　10YR5/8黄褐色ローム粒(φ1～30mm)10%、炭化物(φ1～5mm)2%。
12層 10YR3/4 暗褐色土　10YR5/8黄褐色ローム粒(φ1～5mm)3%、炭化物(φ1～5mm)2%。
13層 10YR3/4 暗褐色土　10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1～10mm)3%、炭化物(φ1～10mm)2%。
ESK32(O-O'･P-P')
1層 10YR3/2 黒褐色土　10YR3/3暗褐色土15%、10YR8/6黄橙色ローム粒(φ1～5mm)7%、炭化物(φ1～10mm)3%。
2層 10YR3/3 暗褐色土　10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1～10mm)15%、炭化物(φ1～20mm)5%。
3層 10YR3/3 暗褐色土　10YR8/6黄橙色ローム粒(φ1～10mm)7%、炭化物(φ1mm)1%。
4層 10YR3/4 暗褐色土　10YR8/6黄橙色ローム粒(φ1～10mm)5%、炭化物(φ1～5mm)2%。
ESK33(P-P')
1層 10YR3/2 黒褐色土　10YR2/3黒褐色土15%、10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1～5mm)7%、7.5YR4/6褐色土(φ10mm)2%、炭化物(φ1～5mm)2%。
2層 10YR3/3 暗褐色土　10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1～10mm)10%、5YR4/8赤褐色焼土5%、10YR7/4にぶい黄橙色粘土3%、炭化物(φ1～30mm)5%。
3層 10YR3/3 暗褐色土　10YR7/6明黄褐色ロームブロック(φ5～50mm以上)15%、7.5YR6/4にぶい黄橙色土10%、、炭化物(φ1～30mm)3%。
4層 10YR4/6 褐 色 土　10YR6/6明黄褐色ロームブロック(φ5～50mm以上)15%、7.5YR6/4にぶい橙色粘土7%、炭化物(φ1～3mm)2%。
5層 10YR3/3 暗褐色土　10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1～10mm)10%、10YR7/4にぶい黄橙色粘土5%、炭化物(φ1～30mm)3%。
6層 10YR4/4 褐 色 土　10YR6/6明黄褐色ロームブロック(φ5～50mm)15%、10YR7/1灰白色粘土10%、7.5YR6/4にぶい橙色粘土7%、炭化物(φ1～30mm)2%。
7層 10YR3/4 暗褐色土　10YR6/6明黄褐色ロームブロック(φ5～30mm)10%、5YR4/8赤褐色焼土粒(φ5～10mm)2%、炭化物(φ1～10mm)5%。
8層 10YR3/3 暗褐色土　10YR6/6明黄褐色ロームブロック(φ5～20mm)7%、炭化物(φ1～5mm)2%。
ESK47(Q-Q')
1層 10YR3/4 暗褐色土　10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1～15mm)3%。
2層 10YR3/4 暗褐色土　10YR6/6明黄褐色ロームブロック(φ5～130mm)20%、炭化物(φ1～3mm)1%。
3層 10YR6/6 明黄褐色土　10YR3/4暗褐色土15%。

図66　24-８～10グリッド周辺遺構（２）



ESK09(A-A')
1層 10YR2/3 黒褐色土　10YR1.7/1黒色土10%、10YR3/4暗褐色土7%、10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1～5mm)5%、浮石(φ1～5mm)2%。
2層 10YR3/4 暗褐色土　10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1～5mm)10%、10YR1.7/1黒色土7%、浮石(φ1mm)1%、炭化物(φ1～10mm)5%。
3層 10YR4/4 褐 色 土　10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1～10mm)10%、炭化物(φ5～30mm)3%。

ESK14(B-B')
1層 10YR3/3 暗褐色土　10YR5/6黄褐色土15%、10YR1.7/1黒色土10%、10YR6/8明黄褐色ロームブロック(φ5～30mm)10%、5YR5/6明赤褐色焼土粒(φ1～10mm)2%、炭化物(φ1～10mm)3%。

ESP36(C-C')
1層 10YR2/2 黒褐色土　10YR5/8黄褐色ロームブロック(φ1～50mm)8%、5YR4/8赤褐色焼土粒(φ1mm)1%、しまりやや強い、粘性やや弱い。

ESP43(D-D')
1層 10YR2/2 黒褐色土　10YR4/6褐色ローム粒(φ1～10mm)5%、10YR6/1褐灰色土(φ1～5mm)1%。

ESP44(E-E')
1層 10YR2/2 黒褐色土　10YR4/6褐色ロームブロック(φ5～30mm)3%、5YR3/6暗赤褐色焼土粒(φ1～5mm)1%。

ESP45(F-F')
1層 10YR2/2 黒褐色土　10YR6/4にぶい黄橙粘土5%。

ESP46(G-G')
1層 10YR2/2 黒褐色土　10YR5/6黄褐色ローム粒(φ1～10mm)7%。

ESP47(G-G')
1層 10YR2/2 黒褐色土

ESP48(H-H')
1層 10YR2/1 黒 色 土　10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1～10mm)3%。

ESP49(I-I')
1層 10YR2/1 黒 色 土　10YR2/2黒褐色土15%、10YR4/4褐色土7%。

ESP50(J-J')
1層 10YR2/1 黒 色 土　10YR6/6明黄褐色土5%、粘性やや強い。

ESP51(K-K')
1層 10YR2/1 黒 色 土　10YR6/6明黄褐色土3%、粘性やや強い。

ESP52(K-K'・L-L')
1層 10YR2/1 黒 色 土　10YR6/6明黄褐色土3%、粘性やや強い。

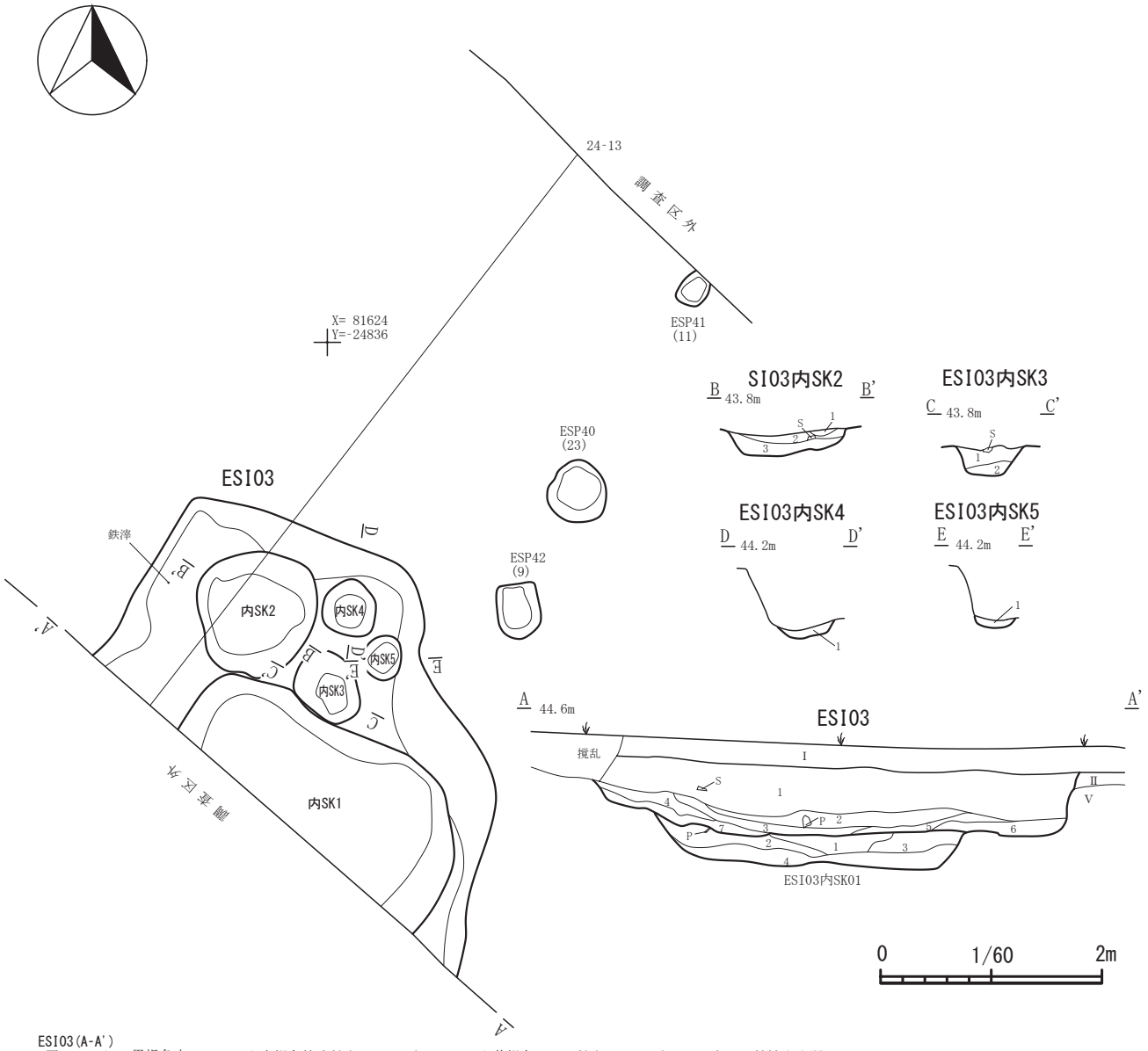
ESP53(M-M')
1層 10YR2/1 黒 色 土　10YR3/3暗褐色土7%、10YR6/6明黄褐色土5%、粘性やや強い。

ESP54(N-N')
1層 10YR2/1 黒 色 土　10YR5/6黄褐色ローム粒(φ1～10mm)3%、10YR6/6明黄褐色土2%、粘性やや強い。

ESP55(O-O')
1層 10YR2/1 黒 色 土　10YR5/6黄褐色ローム粒(φ1～10mm)3%。

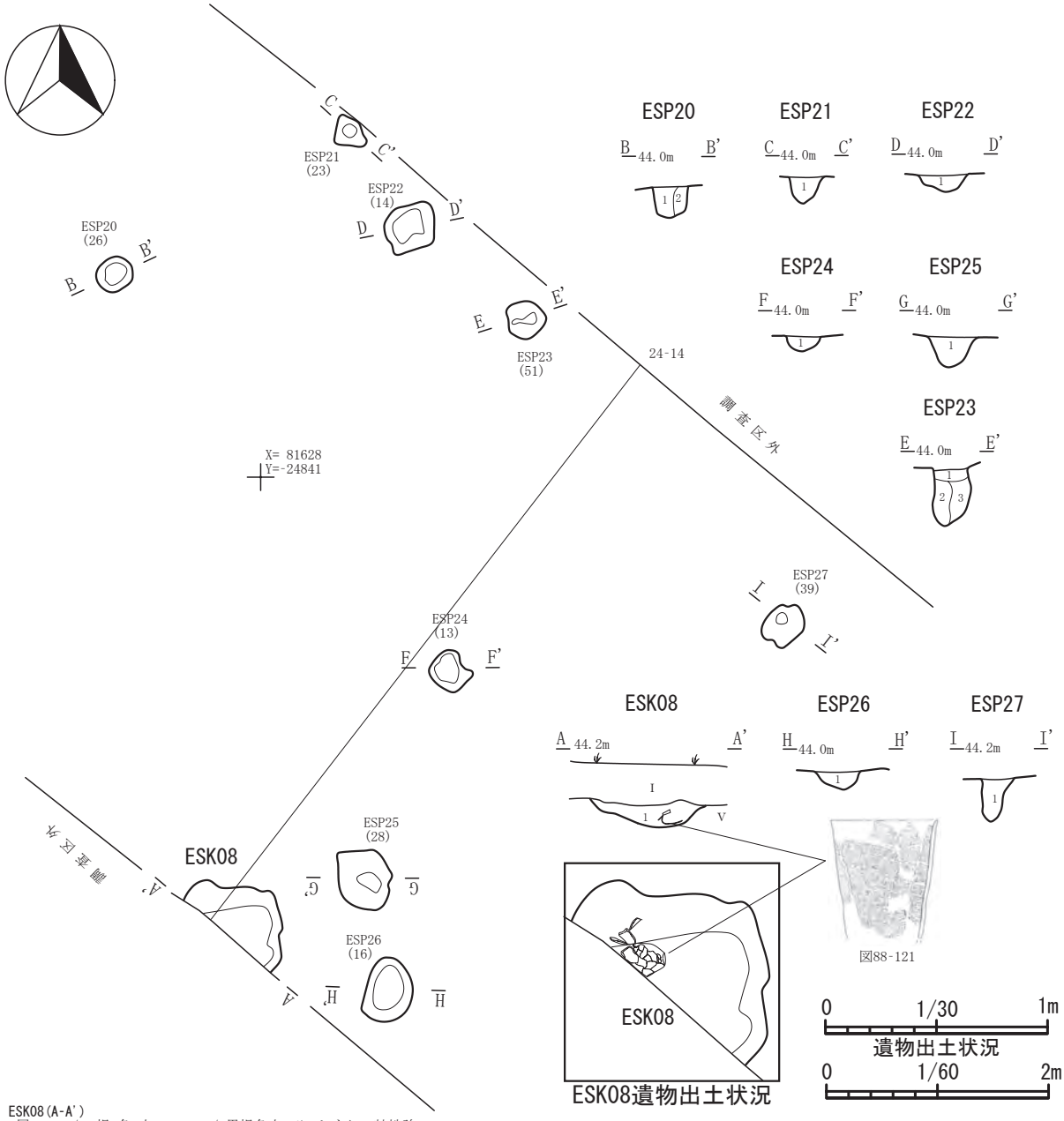
ESP56(P-P')
1層 10YR2/1 黒 色 土　10YR5/6黄褐色土15%。

図67　24-11・12グリッド周辺遺構



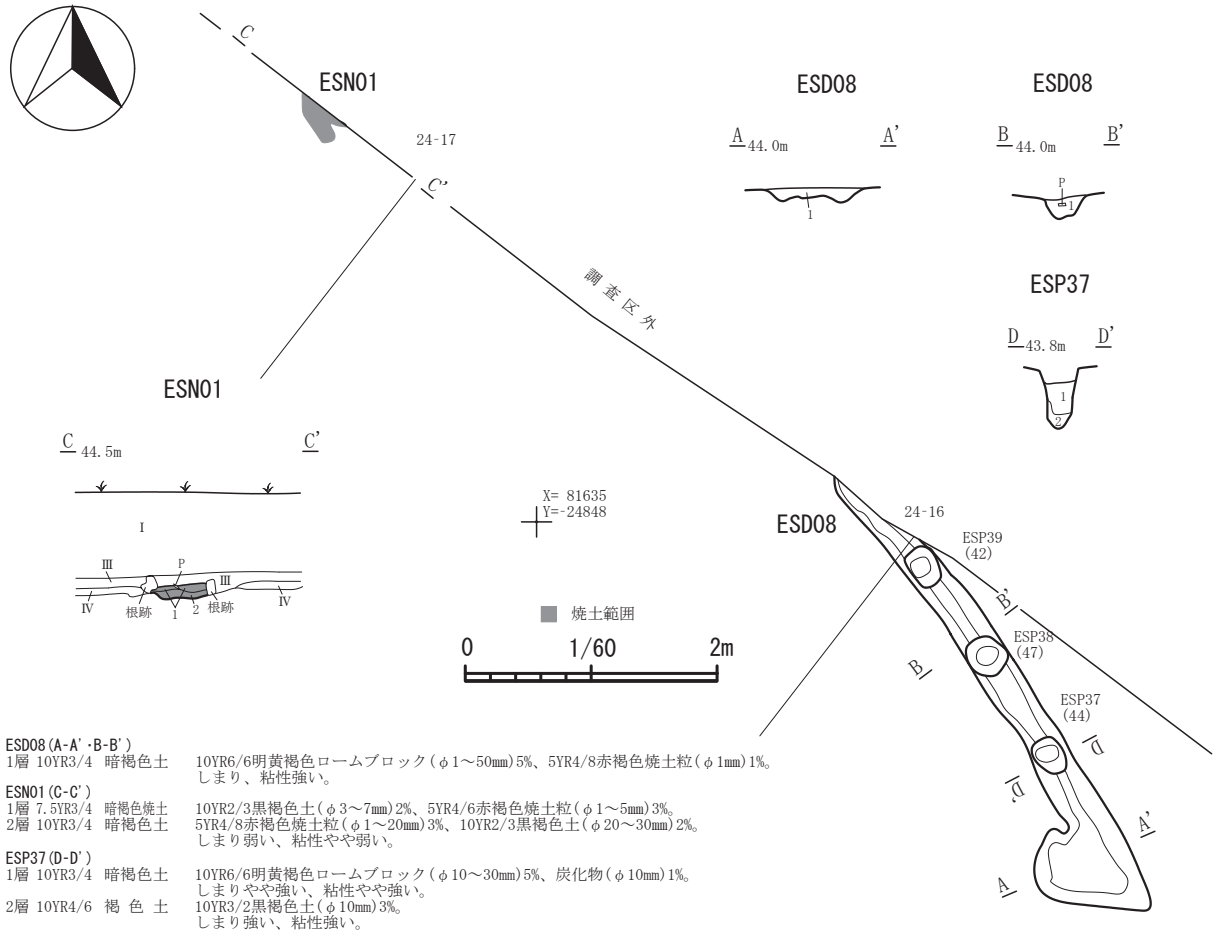
ESI03(A-A')
1層 10YR2/3　黒褐色土　5YR4/6赤褐色焼土粒(φ3～20mm)5%、5YR5/6黄褐色ローム粒(φ1～20mm)3%、しまり、粘性やや弱い。
2層 10YR2/2　黒褐色土　10YR5/6黄褐色ロームブロック(φ10～80mm)7%層左側に堆積、5YR4/6赤褐色焼土粒(φ1～3mm)1%、しまりやや弱い、粘性やや強い。
3層 10YR2/1　黒 色 土　10YR5/6黄褐色ロームブロック(φ10～50mm)10%、10YR7/6明黄褐色ローム粒(φ1～3mm)2%。
4層 10YR1.7/1　黒 色 土　10YR5/6黄褐色ローム粒(φ1～5mm)3%、10YR7/6明黄褐色ローム粒(φ1～3mm)2%。
5層 10YR5/6　黄褐色土　10YR2/3黒褐色土5%、10YR1.7/1黒色土2%。
6層 10YR2/3　黒褐色土　10YR5/6黄褐色ロームブロック(φ5～50mm)10%。
7層 10YR5/6　黄褐色粘土　10YR1.7/1黒色土25%、炭化物(φ1～3mm)3%。
ESI03内SK1(A-A')
1層 10YR3/3　暗褐色土　10YR6/6明黄褐色ロームブロック(φ5～50mm)5%、10YR5/6黄褐色ローム粒(φ1～10mm)3%。
2層 10YR2/1　黒 色 土　10YR5/6黄褐色ロームブロック(φ5～50mm)3%、10YR6/6明黄褐色ロームブロック(φ5～30mm)2%。
3層 10YR2/3　黒褐色土　10YR6/6明黄褐色ロームブロック(φ5～50mm)3%、10YR5/6黄褐色ローム粒(φ5～10mm)3%、浮石(φ10mm)1%。
4層 10YR4/4　褐 色 土　10YR5/6黄褐色粘土25%、10YR1.7/1黒色土7%、炭化物粒(φ1～5mm)1%。
ESI03内SK2(B-B')
1層 10YR4/4　褐 色 土　10YR3/2黒褐色土5%。
2層 10YR2/1　黒 色 土　10YR5/6黄褐色土10%。
3層 10YR2/3　黒褐色土　10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1～5mm)3%。
ESI03内SK3(C-C')
1層 10YR2/2　黒褐色土　10YR5/6黄褐色土(φ5～50mm)7%。
2層 10YR4/4　褐 色 土　10YR3/2黒褐色土3%。
ESI03内SK4(D-D')
1層 10YR2/2　黒褐色土　10YR5/6黄褐色土15%。
ESI03内SK5(E-E')
1層 10YR2/2　黒褐色土　10YR5/6黄褐色土(φ10～30mm)7%。

図68　24－13・14グリッド周辺遺構



ESK08(A-A')
1層 10YR4/6 褐 色 土 10YR2/2黒褐色土10%、しまり、粘性強い。
ESP20(B-B')
1層 10YR6/6 明黄褐色土 10YR3/3暗褐色土(φ5～10mm)3%、しまり強い、粘性強い。
2層 10YR3/4 暗褐色土 10YR6/6明黄褐色土(φ5～20mm)5%、10YR2/3黒褐色土(φ20mm)2%下部に堆積、しまり強い、粘性弱い。
ESP21(C-C')
1層 10YR3/4 暗褐色土 10YR5/6黄褐色ローム粒(φ1～5mm)3%、しまり強い、粘性やや弱い。
ESP22(D-D')
1層 10YR3/2 黒褐色土 10YR5/6黄褐色ローム粒(φ1～10mm)2%、しまり強い、粘性やや弱い。
ESP23(E-E')
1層 10YR3/4 暗褐色土 10YR6/8明黄褐色ロームブロック(φ20mm)1%、しまり弱い、粘性弱い、非常にもろい。
2層 10YR2/3 黒褐色土 10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1mm)1%、しまり弱い、粘性弱い、非常にもろい。
3層 10YR5/8 黄褐色土 10YR2/3黒褐色土5%、しまり弱い、粘性やや強い。
ESP24(F-F')
1層 10YR3/2 黒褐色土 10YR5/6黄褐色ロームブロック(φ10～100mm)7%、しまり強い、粘性弱い。
ESP25(G-G')
1層 10YR2/3 黒褐色土 10YR5/8黄褐色土(φ10～100mm)3%、炭化物(φ1mm)1%、しまり強い、粘性やや弱い。
ESP26(H-H')
1層 10YR2/3 黒褐色土 10YR5/6黄褐色ローム粒(φ1～5mm)2%、7.5YR4/6褐色焼土粒(φ1mm)1%、しまり強い、粘性やや弱い。
ESP27(I-I')
1層 10YR2/3 黒褐色土 10YR5/6黄褐色土(φ30～70mm)3%、しまりやや強い、粘性弱い。

図69 24-14・15グリッド周辺遺構



ESD08(A-A'・B-B')
1層 10YR3/4　暗褐色土　10YR6/6明黄褐色ロームブロック(φ1～50mm)5%、5YR4/8赤褐色焼土粒(φ1mm)1%。しまり、粘性強い。

ESN01(C-C')
1層 7.5YR3/4　暗褐色焼土　10YR2/3黒褐色土(φ3～7mm)2%、5YR4/6赤褐色焼土粒(φ1～5mm)3%。
2層 10YR3/4　暗褐色土　5YR4/8赤褐色焼土粒(φ1～20mm)3%、10YR2/3黒褐色土(φ20～30mm)2%。しまり弱い、粘性やや弱い。

ESP37(D-D')
1層 10YR3/4　暗褐色土　10YR6/6明黄褐色ロームブロック(φ10～30mm)5%、炭化物(φ10mm)1%。しまりやや強い、粘性やや強い。
2層 10YR4/6　褐色土　10YR3/2黒褐色土(φ10mm)3%。しまり強い、粘性強い。

図70　24-16～18グリッド周辺遺構

第９号溝跡（ESD09、図74）

［位置・確認］ESD09として調査したが、ESD06と一連の溝と考えられることからそちらで報告する。

第10号溝跡（ESD10・H14SD06、図14・55）

［位置・確認］配水管14号調査区の北東端のH14－SD06は本溝跡の一部であるため、ここで纏めて記述する。農道24号調査区の南端、24－1グリッド及び配水管14号調査区の東側14－１・２に位置する。ESI07とH14SI09と重複し、それらより新しい。第Ⅴ層で確認したが、調査区壁面での土層観察からは、第Ⅲ層を掘り込んで構築されている。

［平面形・規模・底面］両端とも調査区域外に延びている。確認できた長さは18.6mで、直線的な溝である。確認面での幅は0.37～0.55mを測るが、概ね0.2m前後といえる。深さは42～45cmである。横断面での断面形はＶ字状をなし、南西に向かって傾斜している。

［堆積土］黒～黒褐色土主体で、ローム粒を混入することから人為堆積と推定される。

［出土遺物・遺構の時期等］遺物は出土しなかった。平安時代もしくはそれ以降と推定されるが詳細な時期は不明である。

第11号溝跡（ESD11、図56・93）

［位置・確認］24－2グリッドに位置する。第Ⅴ層で確認したが、調査区壁面での土層観察からは、第Ⅲ層を掘り込んで構築されている。

［平面形・規模・底面］北東端は浅く先細りし、自然になくなる。調査区内で確認できた長さは1.16mで、若干弧状である。確認面での幅は0.37～0.55mを測るが、概ね0.2m前後といえる。深さは50～52cmである。断面形はＶ字状をなす。底面は北東端と南西端で比高差がほとんどないが、南西に向かって僅かに傾斜する。

［堆積土］黒～黒褐色土主体で、ローム粒を混入することから人為堆積と推定されるが、判断は難しい。

［出土遺物・遺構時期等］縄文土１点を図示した（図93－210）。掘り込み面から平安時代もしくはそれ以降と推定される。

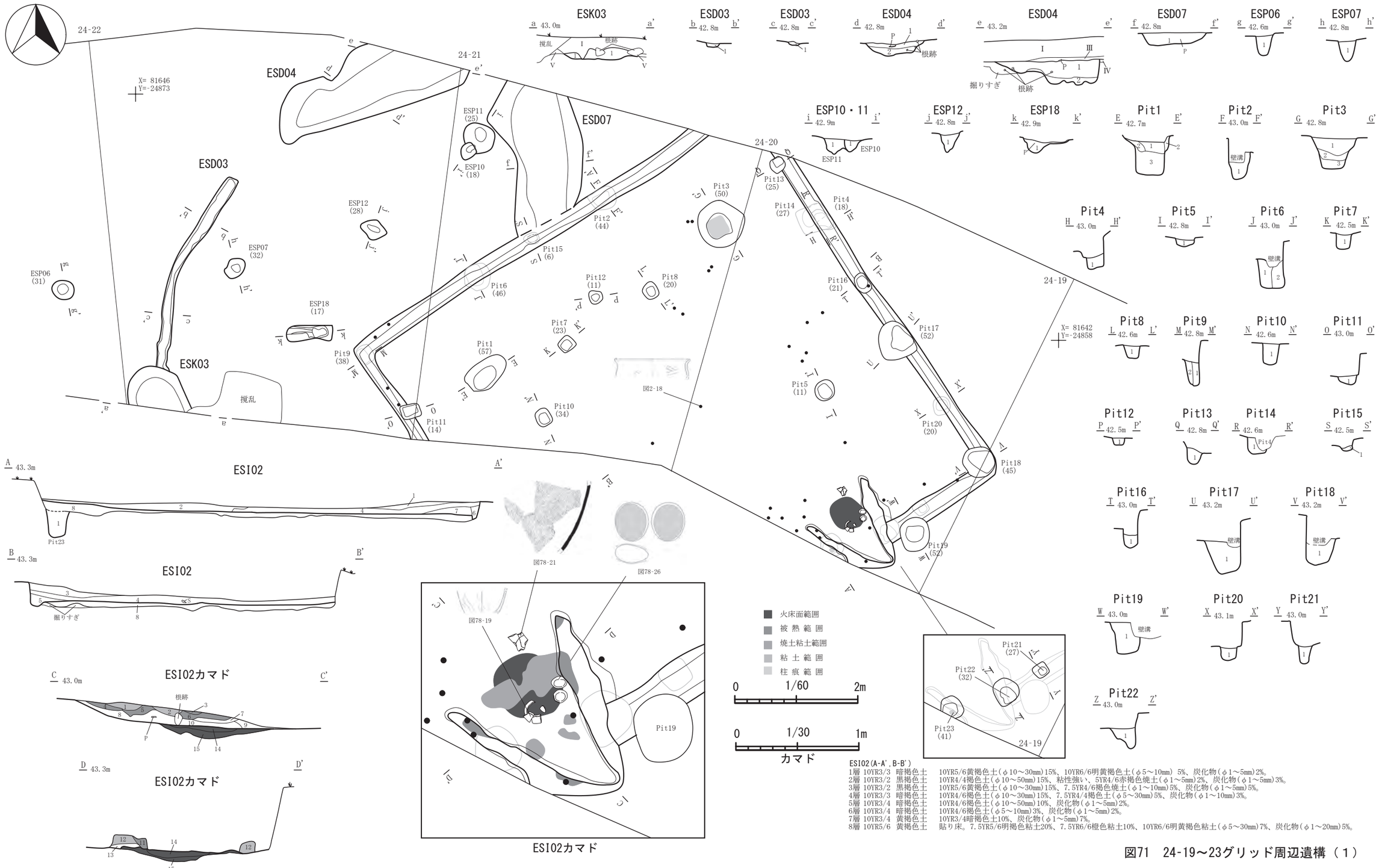
（５）　焼土遺構

第１号焼土遺構（ESN01、図70）

［位置・確認］24－18グリッドに位置し、第Ⅴ層で確認した。第Ⅲ層に被覆されている。

［平面形・規模・堆積土］焼土規模は長軸約40cm、短軸約20cmの不整円形状をなし、被熱により深さ約10cmまで赤色化している。焼土は暗褐色を呈しており、焼土化は顕著でない。

［出土遺物・遺構の時期等］遺物は出土しなかった。縄文時代と推測されるが、詳細は不明である。

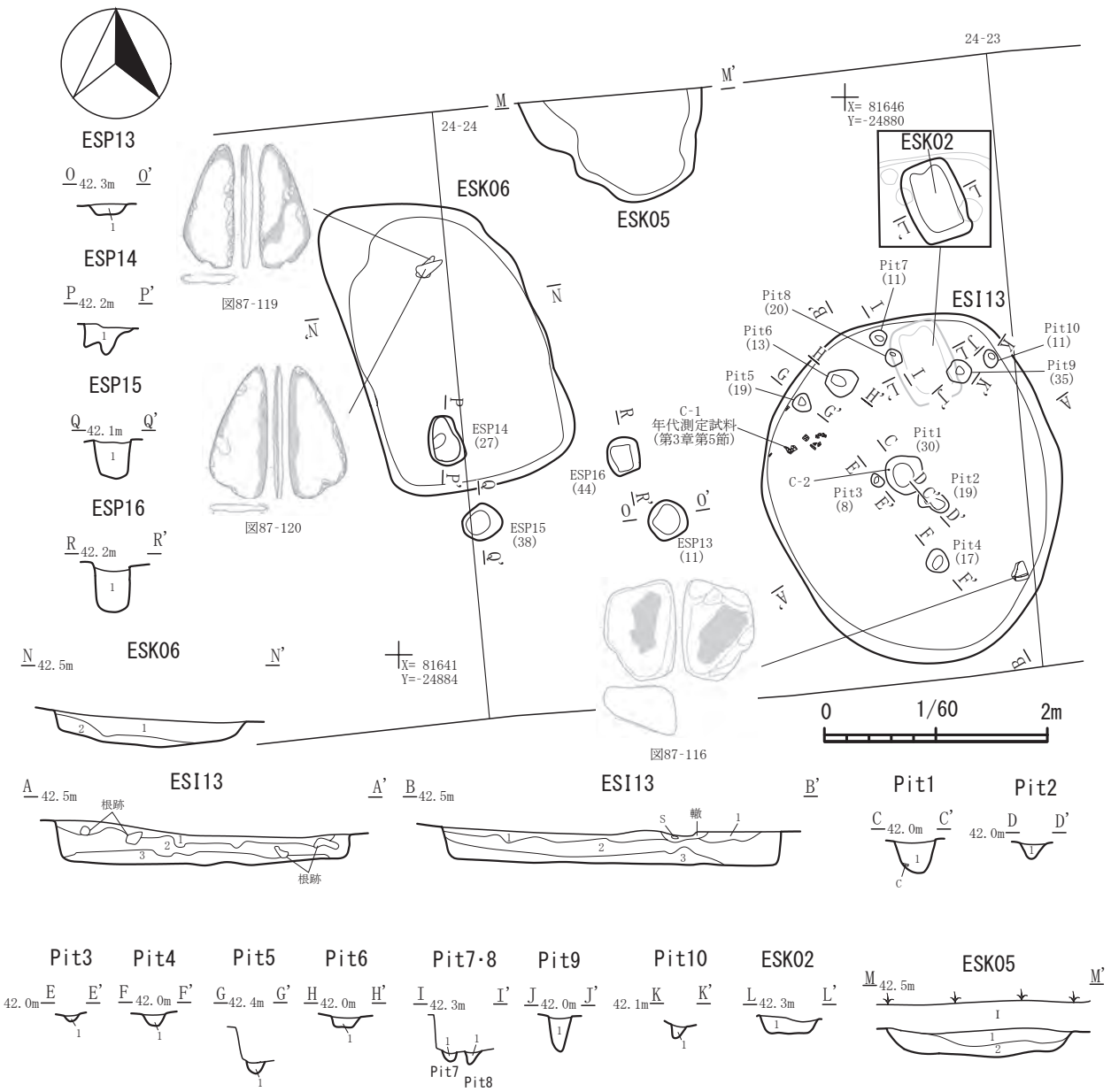


ESI02(A-A',B-B')
1層 10YR3/3 暗褐色土　10YR5/6黄褐色土(φ10～30mm)15%、10YR6/6明黄褐色土(φ5～10mm) 5%、炭化物(φ1～5mm)2%。
2層 10YR3/2 黒褐色土　10YR4/4褐色土(φ10～50mm)15%、粘性強い、5YR4/6赤褐色焼土(φ1～5mm)2%、炭化物(φ1～5mm)3%。
3層 10YR3/2 黒褐色土　10YR5/6黄褐色土(φ10～30mm)15%、7.5YR4/6褐色焼土(φ1～10mm)5%、炭化物(φ1～5mm)5%。
4層 10YR3/3 暗褐色土　10YR4/6褐色土(φ10～30mm)15%、7.5YR4/4褐色土(φ5～30mm)5%、炭化物(φ1～10mm)3%。
5層 10YR3/4 暗褐色土　10YR4/6褐色土(φ10～50mm)10%、炭化物(φ1～5mm)2%。
6層 10YR3/4 暗褐色土　10YR4/6褐色土(φ5～10mm)3%、炭化物(φ1～5mm)2%。
7層 10YR3/4 黄褐色土　10YR3/4暗褐色土10%、炭化物(φ1～5mm)7%。
8層 10YR5/6 黄褐色土　貼り床。7.5YR5/6明褐色粘土20%、7.5YR6/6橙色粘土10%、10YR6/6明黄褐色粘土(φ5～30mm)7%、炭化物(φ1～20mm)5%。

図71　24-19～23グリッド周辺遺構（１）

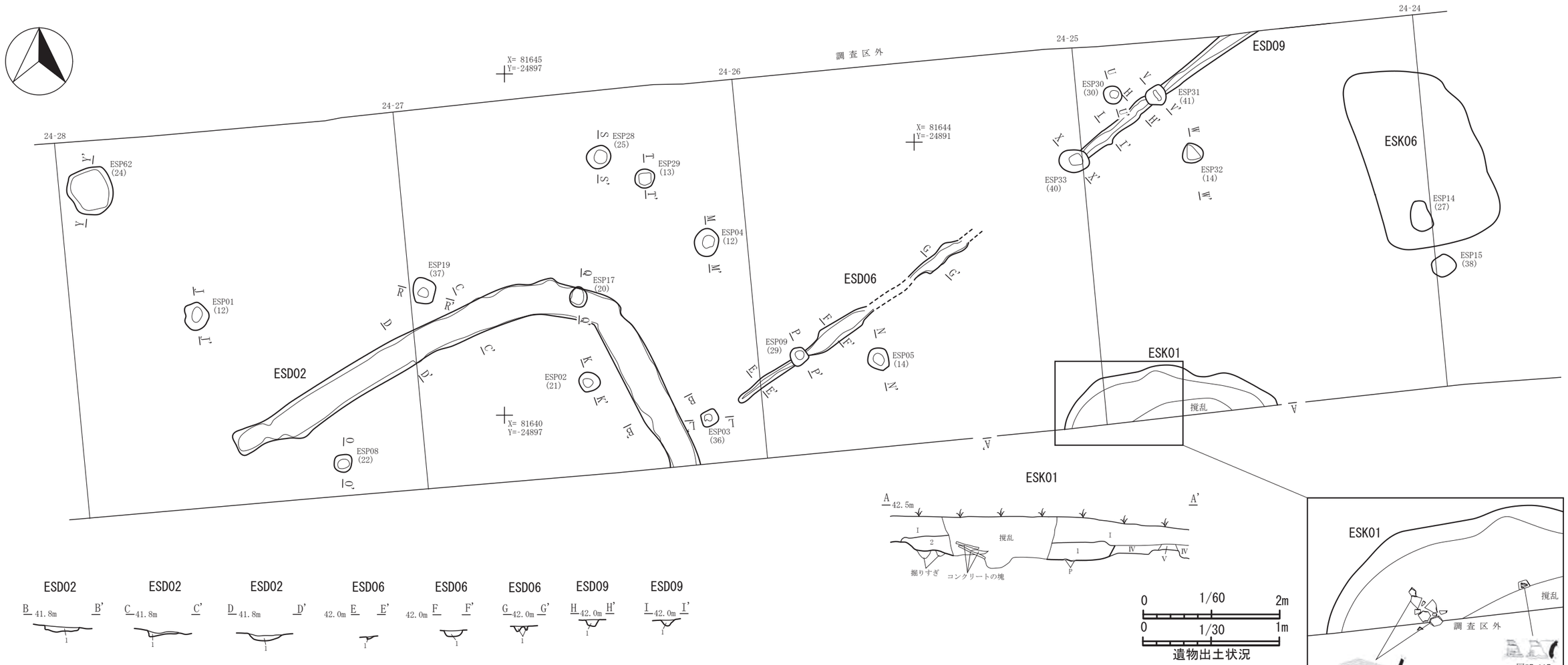
ESI02カマド(C-C',D-D')
1層 7.5YR4/4 褐 色 土　10YR3/3暗褐色土3%、炭化物(φ1mm)1%、天井の粘土の崩落土。
2層 10YR4/4 褐 色 土　10YR6/6明黄褐色土7%、5YR4/8赤褐色焼土(φ10～30mm)5%、炭化物(φ1mm)2%、天井の粘土の崩落土。
3層 10YR3/3 暗褐色土　5YR4/8赤褐色焼土粒(φ1～5mm)3%、炭化物(φ1～5mm)1%、天井の被熱部分。
4層 7.5YR3/4 暗褐色焼土　5YR3/6暗赤褐色焼土(φ10～30mm)7%、炭化物(φ1～5mm)2%、天井の被熱部分。
5層 5YR3/4 暗赤褐色土　5YR4/8赤褐色焼土(φ10～50mm)10%、炭化物(φ1～5mm)2%、天井の被熱部分。
6層 7.5YR3/4 暗褐色焼土　5YR4/8赤褐色焼土(φ10～50mm)15%、炭化物(φ1～5mm)3%、崩落土、天井の被熱部分
7層 7.5YR4/6 褐色焼土　5YR4/8赤褐色焼土(φ10～50mm)20%、7.5YR4/4褐色焼土(φ10～30mm)3%、炭化物(φ1～5mm)2%。
8層 7.5YR3/4 暗褐色焼土　5YR3/6暗赤褐色焼土(φ5～10mm)3%、炭化物(φ1～5mm)2%。
9層 7.5YR3/3 暗褐色焼土　5YR4/8赤褐色焼土(φ5～30mm)15%、10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1～10mm)1%、炭化物(φ1～5mm)5%、崩落土。
10層 7.5YR4/6 褐色焼土　7.5YR3/2極暗褐色土2%、炭化物(φ1～5mm)3%。
11層 7.5YR4/6 褐色焼土　5YR4/8赤褐色焼土15%、炭化物(φ1mm)1%、カマド袖の被熱範囲。
12層 10YR5/4 にぶい黄褐色土　10YR7/4にぶい黄橙色土10%、炭化物(φ1～3mm)2%、カマド袖。
13層 10YR3/4 暗褐色土　10YR5/4にぶい黄褐色土5%、炭化物(φ1～3mm)2%。
14層 5YR5/8 明赤褐色焼土　炭化物(φ1～10mm)5%、硬化した火床面。
15層 5YR4/8 赤褐色焼土　7.5YR4/6褐色土5%、浮石(φ1～5mm)1%、炭化物(φ1～3mm)2%、地山の被熱範囲。
Pit1(E-E')
1層 10YR3/4 暗褐色土　10YR5/6黄褐色土20%、しまり、粘性強い。
2層 10YR3/3 暗褐色土　10YR5/6黄褐色土25%、しまり、粘性強い。
3層 10YR4/6 褐 色 土　10YR5/6褐色土25%、10YR4/4褐色土(φ10～30mm)3%、粘性強い。
Pit2(F-F')
1層 10YR2/3 黒褐色土　10YR6/6明黄褐色土(φ10～50mm)7%、10YR4/6褐色土(φ10～30mm)3%、しまり、粘性やや強い。
Pit3(G-G')
1層 10YR2/3 黒褐色土　10YR5/6黄褐色土(φ20～50mm以上) 20%、7.5YR4/6褐色焼土(φ10～30mm)、粘性強い。
2層 10YR4/6 褐 色 土　10YR5/6黄褐色土15%、7.5YR4/6褐色焼土(φ10～20mm)7%、10YR6/4にぶい黄橙色粘土(φ10～30mm) 2%、炭化物(φ10mm)2%。
3層 10YR6/6 明黄褐色土　10YR6/6明黄褐色土(φ50mm)2%、炭化物(φ10～20mm)2%、粘性強い。
Pit4(H-H')
1層 10YR2/1 黒 色 土　10YR4/4褐色土(φ10～40mm)7%、しまり、粘性やや強い。
Pit5(I-I')
1層 10YR2/2 黒褐色土　10YR5/6黄褐色土(φ10～40mm)7%、層中部に帯状に堆積する、しまり、粘性やや強い。
Pit6(J-J')
1層 10YR2/3 黒褐色土　10YR4/6褐色土(φ10～５０mm)10%、7.5YR4/6褐色土(φ10～20mm)2%。
2層 10YR4/4 褐 色 土　しまり強い、粘性やや強い。
Pit7(K-K')
1層 10YR5/6 黄褐色土　しまりやや弱い、粘性強い。
Pit8(L-L')
1層 10YR5/6 黄褐色土　7.5YR5/6明褐色土(φ20～60mm)5%、しまり強い、粘性強い。
Pit9(M-M')
1層 10YR3/4 暗褐色土　10YR5/6黄褐色土(φ10～20mm)2%、しまりやや弱い、粘性強い。
2層 10YR4/6 褐 色 土　10YR3/4暗褐色土(φ5～10mm)1%、しまり強い、粘性強い。
Pit10(N-N')
1層 10YR4/6 褐 色 土　10YR5/6黄褐色土(φ5～20mm)2%、しまり、粘性強い。
Pit11(O-O')
1層 10YR3/4 暗褐色土　10YR4/6褐色土(φ10～20mm)2%、10YR3/2黒褐色土(φ5～10mm)1%、しまり、粘性強い。
Pit12(P-P')
1層 10YR4/6 褐 色 土　10YR3/3暗褐色土(φ1～5mm)1%、しまりやや強い、粘性強い。
Pit13(Q-Q')
1層 10YR4/4 褐 色 土　7.5YR6/6橙色土(φ30mm)7%、10YR5/6黄褐色土(φ10～20mm)3%、しまり強い、粘性強い。
Pit14(R-R')
1層 10YR4/6 褐 色 土　10YR3/4暗褐色土(φ3～10mm)3%、10YR5/8黄褐色土2%、下部に帯状に堆積、しまりやや強い、粘性強い。
Pit15(S-S')
1層 10YR4/6 褐 色 土　10YR5/6黄褐色土(φ10～20mm)5%、10YR6/8明黄褐色土(φ20mm)2%、しまり強い、粘性強い。
Pit16(T-T')
1層 10YR5/8 黄褐色土　10YR3/4暗褐色土(φ5～20mm)3%、しまり、粘性強い。
Pit17(U-U')
1層 10YR5/8 黄褐色土　10YR6/6明黄褐色土(φ5～50mm)15%、10YR2/3黒褐色土10%、しまり、粘性強い。
Pit18(V-V')
1層 10YR5/6 黄褐色土　7.5YR6/6橙色土10%、10YR2/2黒褐色土3%。
Pit19(W-W')
1層 10YR3/4 暗褐色土　7.5YR5/6明褐色粘土20%、7.5YR6/6橙色粘土(φ10～50mm)5%、10YR6/6明黄褐色土(φ10～50mm)7%、炭化物(φ1～30mm)3%。
Pit20(X-X')
1層 10YR4/6 褐 色 土　10YR3/3暗褐色土(φ10～30mm)3%、しまり強い、粘性やや強い。
Pit21(Y-Y')
1層 10YR5/6 黄褐色土　10YR4/4褐色土7%、10YR3/2黒褐色土5%、5YR4/8赤褐色焼土粒(φ1～5mm)1%。
Pit22(Z-Z')
1層 10YR3/3 暗褐色土　10YR2/2黒褐色土7%、10YR5/6黄褐色土5%、10YR7/6明黄褐色土3%、粘性強い、炭化物(φ1～2mm)1%。
Pit23(A-A')
1層 10YR3/3 暗褐色土　10YR2/2黒褐色土7%、10YR5/6黄褐色土5%、7.5YR5/6明褐色土3%、5YR5/8明赤褐色焼土粒(φ1～2mm)1%、炭化物(φ1～2mm)1%。
ESK03(a-a')
1層 10YR3/3 暗褐色土　10YR4/6褐色土3%、10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1～3mm)2%、しまりやや強い、粘性やや強い。
ESD03(b-b',c-c')
1層 10YR2/3 黒褐色土　10YR4/3にぶい黄褐色土10%、10YR5/6黄褐色土2%、しまり強い、粘性強い。
ESD04(d-d',e-e')
1層 10YR3/2 黒褐色土　10YR4/4褐色ローム粒(φ2～15mm)7%、7.5YR3/4暗褐色焼土2%、浮石2%、炭化物1%。
2層 10YR3/3 暗褐色土　10YR5/6黄褐色土10%下部に堆積、10YR4/3にぶい黄褐色粘土7%、浮石1%。
ESD07(f-f')
1層 10YR3/2 黒褐色土　10YR4/4褐色土7%、浮石(φ1～5mm)3%、小礫(φ1～2mm)1%。
ESP06(g-g')
1層 10YR4/3 にぶい黄褐色土　10YR3/3暗褐色土3%、10YR5/6黄褐色ロームブロック(φ10～30mm)3%、しまり強い、粘性強い。
ESP07(h-h')
1層 10YR3/4 暗褐色土　10YR5/6黄褐色ロームブロック(φ10～50mm)5%、10YR4/3にぶい黄褐色土2%、7.5YR4/6褐色焼土粒(φ1mm)1%、しまり強い、粘性強い。
ESP10(i-i')
1層 10YR4/4 褐 色 土　10YR5/6黄褐色ローム粒(φ2～10mm)5%、しまりやや強い、粘性やや強い。
ESP11(i-i')
1層 10YR3/4 暗褐色土　10YR5/6黄褐色ローム粒(φ5～10mm)7%、しまりやや強い、粘性やや強い。
ESP12(j-j')
1層 10YR2/3 黒褐色土　10YR3/4暗褐色土20%(層下部に堆積)、しまり強い、粘性やや強い。
ESP18(k-k')
1層 10YR2/2 黒褐色土　10YR4/6褐色土5%、10YR5/8黄橙色ローム粒(φ1mm)3%、しまりやや強い、粘性強い。

図72　24-19～23グリッド周辺遺構（２）



ESI13(A-A',B-B')
1層 10YR4/4 褐 色 土　10YR3/2黒褐色土10%、灰白色浮石(φ1～3mm)2%、5YR4/8赤褐色焼土粒(φ2mm)1%、炭化物(φ1mm)1%。
2層 10YR5/6 黄褐色土　10YR4/3にぶい黄褐色土5%、10YR6/8明黄褐色ロームブロック3%、5YR4/8赤褐色粘土(φ1mm)1%、炭化物(φ 1 ～3mm)3%。
3層 10YR5/8 黄褐色土　10YR6/8明黄褐色ロームブロック5%、7.5YR4/6褐色粘土(φ1mm)1%、炭化物(φ1mm)1%。
Pit1(C-C')
1層 10YR4/4 褐 色 土　10YR5/8黄褐色土(φ5mm)2%、炭化物(φ1mm)1%、炭化物ブロック(φ10～30mm) 3%。
Pit2(D-D')
1層 10YR4/6 褐 色 土　7.5YR5/8明褐色ローム粒(φ1～3mm)2%、炭化物(φ1mm)1%。
Pit3(E-E')
1層 10YR4/6 褐 色 土　10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1mm)1%、炭化物(φ1mm)1%。
Pit4(F-F')
1層 10YR4/6 褐 色 土　10YR6/1褐灰色粘土(φ1mm)1%、炭化物(φ1mm)1%。
Pit5(G-G')
1層 10YR4/6 褐 色 土　炭化物(φ1mm)1%。
Pit6(H-H')
1層 10YR4/4 褐 色 土　10YR6/4にぶい黄橙色粘土(φ1mm)1%、炭化物(φ1～2mm)2%。
Pit7(I-I')
1層 10YR4/4 褐 色 土　10YR7/8黄橙色ローム粒(φ1～3mm)1%、炭化物(φ1mm)1%。
Pit8(I-I')
1層 10YR4/6 褐 色 土　10YR7/8黄橙色ローム粒(φ1mm)1%、7.5YR5/8明褐色ローム粒(φ1mm)1%、炭化物(φ1mm)1%。
Pit9(J-J')
1層 10YR4/6 褐 色 土　10YR7/8黄橙色ローム粒(φ1mm)1%、7.5YR5/8明褐色ローム粒(φ1mm)1%、炭化物(φ1～3mm)2%。
Pit10(K-K')
1層 10YR5/6 黄褐色土　10YR7/1灰色色浮石(φ1mm)1%、7.5YR5/8明褐色ローム粒(φ1mm)1%、炭化物(φ1mm)1%。
ESK02(L-L')
1層 10YR3/2 黒褐色土　10YR5/6黄褐色ロームブロック(φ10～40mm)15%、10YR4/4褐色土2%、7.5YR4/6褐色焼土粒(φ1mm)1%、しまり強い、粘性強い。
ESK05(M-M')
1層 10YR4/4 褐 色 土　10YR3/3暗褐色土(φ50mm)3%、しまりやや強い、粘性強い。
2層 10YR4/6 褐 色 土　10YR3/3暗褐色土(φ20mm～40mm)3%、炭化物(φ5mm)1%、しまり強い、粘性強い。
ESK06(N-N')
1層 10YR3/4 暗褐色土　10YR2/2黒褐色土20%、5YR4/8赤褐色焼土(φ10～20mm)2%鉄分、浮石(φ1mm)1%。
2層 10YR5/6 黄褐色土　10YR2/2黒褐色土(φ5～30mm)3%、浮石(φ1mm)1%。
ESP13(O-O')
1層 10YR3/4 暗褐色土　10YR4/6褐色土5%、しまり強い、粘性やや強い。
ESP14(P-P')
1層 10YR4/3 にぶい黄褐色土　10YR4/6褐色土7%右側に堆積、しまり強い、粘性強い。
ESP15(Q-Q')
1層 10YR3/4 暗褐色土　10YR4/6褐色土10%、10YR7/8黄橙色ローム粒(φ2～10mm)2%、しまり強い、粘性やや強い。
ESP16(R-R')
1層 10YR2/3 黒褐色土　10YR4/6褐色土5%、10YR7/8黄橙色ローム粒(φ2～5mm)3%、しまり強い、粘性やや強い。

図73　24-23・24グリッド周辺遺構



ESK01(A-A')
1層 10YR3/4 暗褐色土 10YR4/6褐色粘土ブロック(φ5～50mm)5%、10YR5/6黄褐色ロームブロック(φ5～10mm)2%、炭化物(φ1mm)2%。
2層 10YR2/2 黒褐色土 10YR6/8明黄褐色粘土ブロック(φ10～20mm)2%。

ESD02(B-B'・C-C'・D-D')
1層 10YR4/3 にぶい黄褐色土 10YR5/6黄褐色土7%、10YR3/4暗褐色土5%、7.5YR4/6褐色焼土(φ1mm)1%、しまり強い、粘性やや強い。

ESD06(E-E'・F-F'・G-G')
1層 10YR3/4 暗褐色土 10YR3/4にぶい黄褐色土5%、しまり強い、粘性強い。

ESD09(H-H'・I-I')
1層 10YR4/4 褐 色 土 10YR3/3暗褐色土5%、7.5YR4/6褐色土(φ1～5mm)鉄分1%。

ESP01(J-J')
1層 10YR3/3 暗褐色土 10YR5/6黄褐色ロームブロック(φ10～20mm)3%、しまり強い、粘性強い。

ESP02(K-K')
1層 10YR3/2 黒褐色土 10YR5/6黄褐色ローム粒(φ5～10mm)3%、しまり強い、粘性強い。

ESP03(L-L')
1層 10YR3/3 暗褐色土 10YR5/6黄褐色ロームブロック(φ10～70mm)5%、しまり強い、粘性強い。

ESP04(M-M')
1層 10YR3/4 暗褐色土 10YR5/6黄褐色土20%右半分に堆積、10YR3/2黒褐色土1%、しまり強い、粘性弱い。

ESP05(N-N')
1層 10YR3/4 暗褐色土 10YR4/3にぶい黄褐色土5%、10YR5/6黄褐色ローム粒(φ5～10mm)2%、しまり強い、粘性強い。

ESP08(O-O')
1層 10YR3/4 暗褐色土 10YR5/6黄褐色ローム粒(φ3～7mm)2%、しまりやや強い、粘性強い、10YR4/3にぶい黄褐色土1%。

ESP09(P-P')
1層 10YR3/2 黒褐色土 10YR5/6黄褐色土2%、しまりやや弱い、粘性やや強い。

ESP17(Q-Q')
1層 10YR3/3 暗褐色土 10YR4/6褐色土3%、10YR7/8黄橙色ローム粒(φ1mm)1%、しまり強い、粘性強い。

ESP19(R-R')
1層 10YR3/4 暗褐色土 7.5YR4/6褐色焼土粒(φ1mm)1%、しまり強い、粘性やや弱い。

ESP28(S-S')
1層 10YR3/4 暗褐色土 10YR5/8黄褐色ローム粒(φ1～3mm)1%、しまり強い、粘性やや強い。

ESP29(T-T')
1層 10YR3/3 暗褐色土 10YR4/4褐色土(φ3～7mm)3%、しまり強い、粘性やや強い。

ESP30(U-U')
1層 10YR4/4 褐 色 土 10YR5/6黄褐色土(φ3～10mm)2%、しまり強い、粘性弱い。

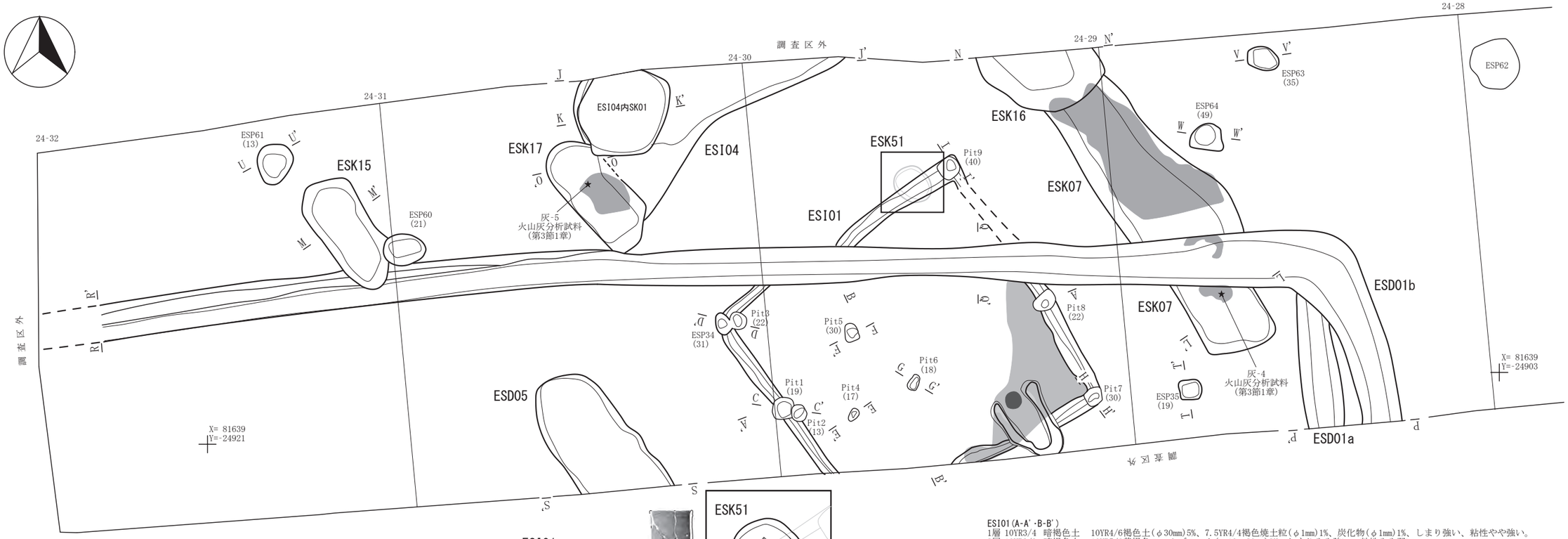
ESP31(V-V')
1層 10YR3/3 暗褐色土 10YR5/6黄褐色土(φ5～20mm)5%、しまり強い、粘性強い。

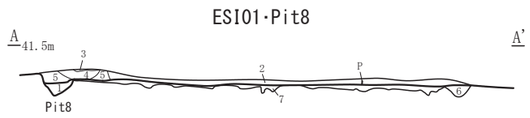
ESP32(W-W')
1層 10YR3/3 暗褐色土 10YR5/6黄褐色ローム粒(φ1～3mm)1%、しまり強い、粘性やや弱い。

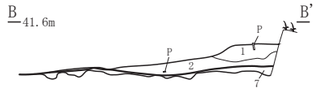
ESP33(X-X')
1層 10YR3/4 暗褐色土 10YR5/6黄褐色土(φ3～20mm)3%、しまり強い、粘性やや強い。

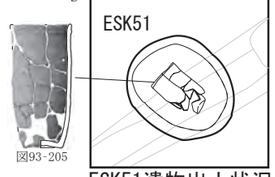
ESP62(Y-Y')
1層 10YR2/2 黒褐色土 10YR4/4褐色土15%、浮石(φ1mm)1%粘性やや強い。

図74　24-24～28グリッド周辺遺構

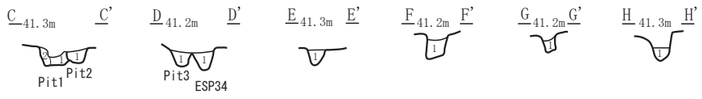


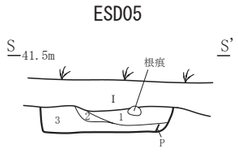


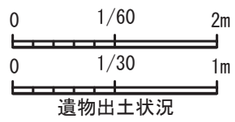




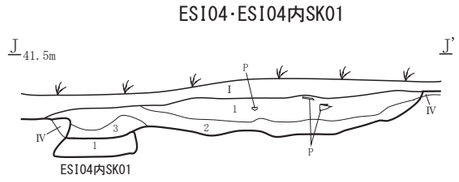
ESK51遺物出土状況

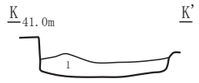


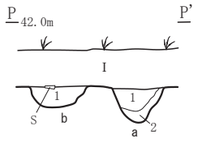


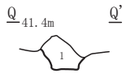


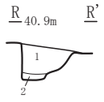
遺物出土状況

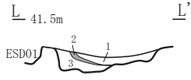


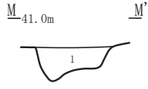


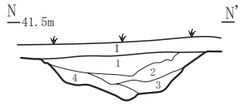


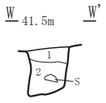










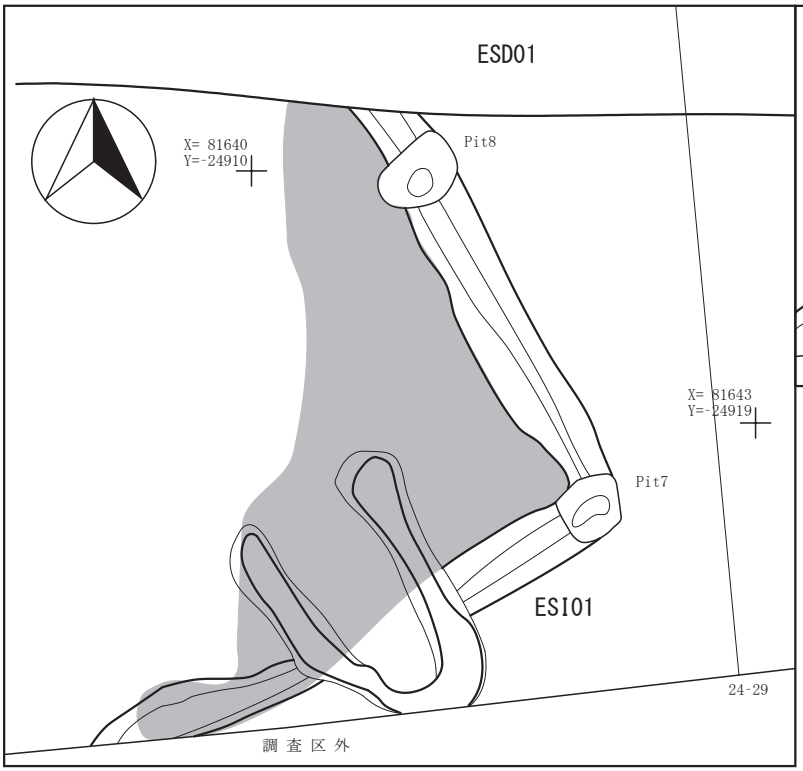


ESP35(T-T')
1層 10YR2/3 黒褐色土　10YR5/6黄褐色土(φ10～50mm以上)7%、10YR6/6明黄褐色土2%、5YR3/6暗赤褐色土(φ1～5mm)2%。
ESP61(U-U')
1層 10YR2/3 黒褐色土　10YR5/6黄褐色土5%、10YR4/4褐色土3%、5YR4/8赤褐色土(φ1～3mm)2%。

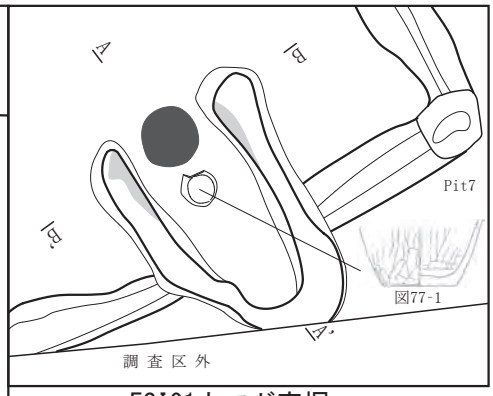
ESP63(V-V')
1層 10YR2/2 黒褐色土　10YR4/4褐色土25%、浮石(φ1mm)2%、5YR3/6暗赤褐色土(φ2mm)1%粘性やや強い。
ESP64(W-W')
1層 10YR2/2 黒褐色土　10YR4/4褐色土7%、浮石(φ1mm)2%、炭化物(φ1mm)2%。
2層 10YR3/3 暗褐色土　10YR4/4褐色土7%、炭化物(φ1～5mm)3%。

ESI01(A-A'・B-B')
1層 10YR3/4 暗褐色土　10YR4/6褐色土(φ30mm)5%、7.5YR4/4褐色焼土粒(φ1mm)1%、炭化物(φ1mm)1%、しまり強い、粘性やや強い。
2層 10YR3/3 暗褐色土　10YR5/6黄褐色ロームブロック(φ10～20mm)2%、しまりやや強い、粘性やや弱い。
3層 10YR5/6 黄褐色土　10YR3/4暗褐色土(φ1～5mm)1%、しまり強い、粘性強い。
4層 10YR4/4 褐 色 土　10YR5/6黄褐色ローム粒(φ3～5mm)1%、しまり、粘性やや強い。
5層 10YR4/6 褐 色 土　10YR5/6黄褐色ローム粒(φ5～10mm)3%、しまり強い、粘性強い。
6層 10YR3/4 暗褐色土　壁溝堆積土。10YR4/6褐色土(φ1～20mm)2%、しまり、粘性やや強い。
7層 10YR3/4 暗褐色土　掘り方。10YR6/6明黄褐色土10%、10YR5/6黄褐色土7%、10YR2/2黒褐色土5%、炭化物(φ1～5mm)1%。
Pit1(C-C')
1層 10YR3/3 暗褐色土　10YR5/8黄褐色ローム粒(φ5～15mm)3%、しまり、粘性やや強い。
2層 10YR2/3 黒褐色土　10YR5/8黄褐色ローム粒(φ1～7mm)2%、しまり、粘性やや強い。
Pit2(C-C')
1層 10YR3/4 暗褐色土　10YR4/3にぶい黄褐色土(φ5～20mm)3%、しまりやや弱い、粘性やや強い。
Pit3(D-D')
1層 10YR3/3 暗褐色土　10YR5/6黄褐色土(φ10～40mm)7%、しまり強い、粘性強い。
ESP35(D-D')
1層 10YR3/3 暗褐色土　10YR5/6黄褐色土(φ10～40mm)7%、しまり強い、粘性強い。
Pit4(E-E')
1層 10YR3/3 暗褐色土　10YR5/6黄褐色土(φ10～20mm)3%、しまり、粘性やや強い。
Pit5(F-F')
1層 10YR3/3 暗褐色土　10YR5/6黄褐色土(φ10～50mm)10%、しまり、粘性強い。
Pit6(G-G')
1層 10YR2/3 黒褐色土　10YR4/6褐色土(φ10～50mm)10%、7.5YR4/6褐色土(φ10～20mm)2%。
Pit7(H-H')
1層 10YR4/4 褐 色 土　しまり強い、粘性やや強い。
Pit8(A-A')
1層 10YR4/4 褐 色 土　10YR4/6褐色土(φ20～50mm)5%、しまり弱い、粘性強い。
Pit9(I-I')
1層 10YR4/4 褐 色 土　しまり弱い、粘性やや強い。
ESI04(J-J')
1層 10YR2/3 黒褐色土　10YR5/6黄褐色ロームブロック(φ5～30mm)7%、10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1～3mm)3%、浮石(φ1mm) 1%。
2層 10YR2/2 黒褐色土　10YR6/6明黄褐色土30%、10YR5/6黄褐色土10%、10YR4/4褐色土10%、5YR4/8赤褐色焼土粒(φ1～10mm)3%、浮石(φ1mm) 1%。
3層 10YR5/6 黄褐色土　10YR2/3黒褐色土7%、5YR4/8赤褐色焼土粒(φ1～3mm)2%、浮石(φ1～3mm)1%。
ESI04内SK01(J-J'・K-K')
1層 10YR3/3 暗褐色土　10YR4/6褐色土(φ20～70mm)20%、5YR4/8赤褐色焼土粒(φ1～3mm)1% しまり強い、粘性やや強い。
ESK07(L-L')
1層 10YR2/3 黒褐色土　10YR4/6褐色火山灰(φ10～50mm)10%、火山灰ブロックとの混合土。
2層 10YR5/4 火山灰層　10YR3/4暗褐色土(φ50mm)5%。
3層 10YR3/4 暗褐色土　10YR5/6黄褐色土(φ10～20mm)3%、5YR3/4暗赤褐色焼土粒(φ2mm)1%、炭化物(φ1～5mm)1%。
ESK15(M-M')
1層 10YR3/2 黒褐色土　10YR5/6黄褐色土(φ30mm)5%、7.5YR4/6褐色焼土粒(φ1mm)1%、しまりやや強い、粘性強い。
ESK16(N-N')
1層 10YR3/4 暗褐色土　10YR4/4褐色土10%、10YR6/4にぶい黄橙色土(φ10～50mm)7%、5YR4/8赤褐色焼土粒(φ1～10mm)3%、浮石(φ1～5mm)3%。
2層 10YR2/3 黒褐色土　10YR3/4暗褐色土7%、10YR6/4にぶい黄橙色土(φ10～50mm)5%、5YR4/8赤褐色焼土粒(φ1～3mm)1%、浮石(φ1～3mm)1%。
3層 10YR2/3 黒褐色土と10YR5/6黄褐色土の混合層。10YR6/4にぶい黄橙色粘土3%。
4層 10YR3/3 暗褐色土　10YR5/6黄褐色粘土30%。
ESK17(O-O')
1層 10YR3/3 暗褐色土　10YR2/3黒褐色土15%、浮石(φ1～10mm)5%、小礫(φ1mm)3%。
ESD01(P-P'・Q-Q'・R-R')
1層 10YR3/3 暗褐色土　10YR5/6黄褐色ロームブロック(φ10～30mm)3%、10YR4/4褐色土3%、炭化物(φ1mm)1%。しまりやや弱い、粘性強い。
2層 10YR2/2 黒褐色土　10YR4/6褐色ローム粒(φ1～3mm)5%、10YR4/4褐色土(φ5～20mm)2%。
ESD05(S-S')
1層 10YR2/1 黒 色 土　しまりやや弱い、粘性やや弱い。
2層 10YR2/3 黒褐色土　しまり弱い、粘性やや弱い。
3層 10YR3/2 黒褐色土　10YR3/4暗褐色土5%、しまりやや弱い、粘性弱い。

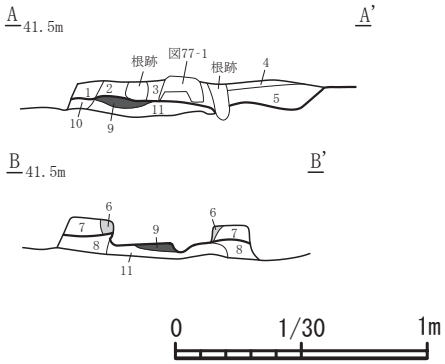
図75　24-28～32グリッド周辺遺構（１）



ESI01粘土検出状況



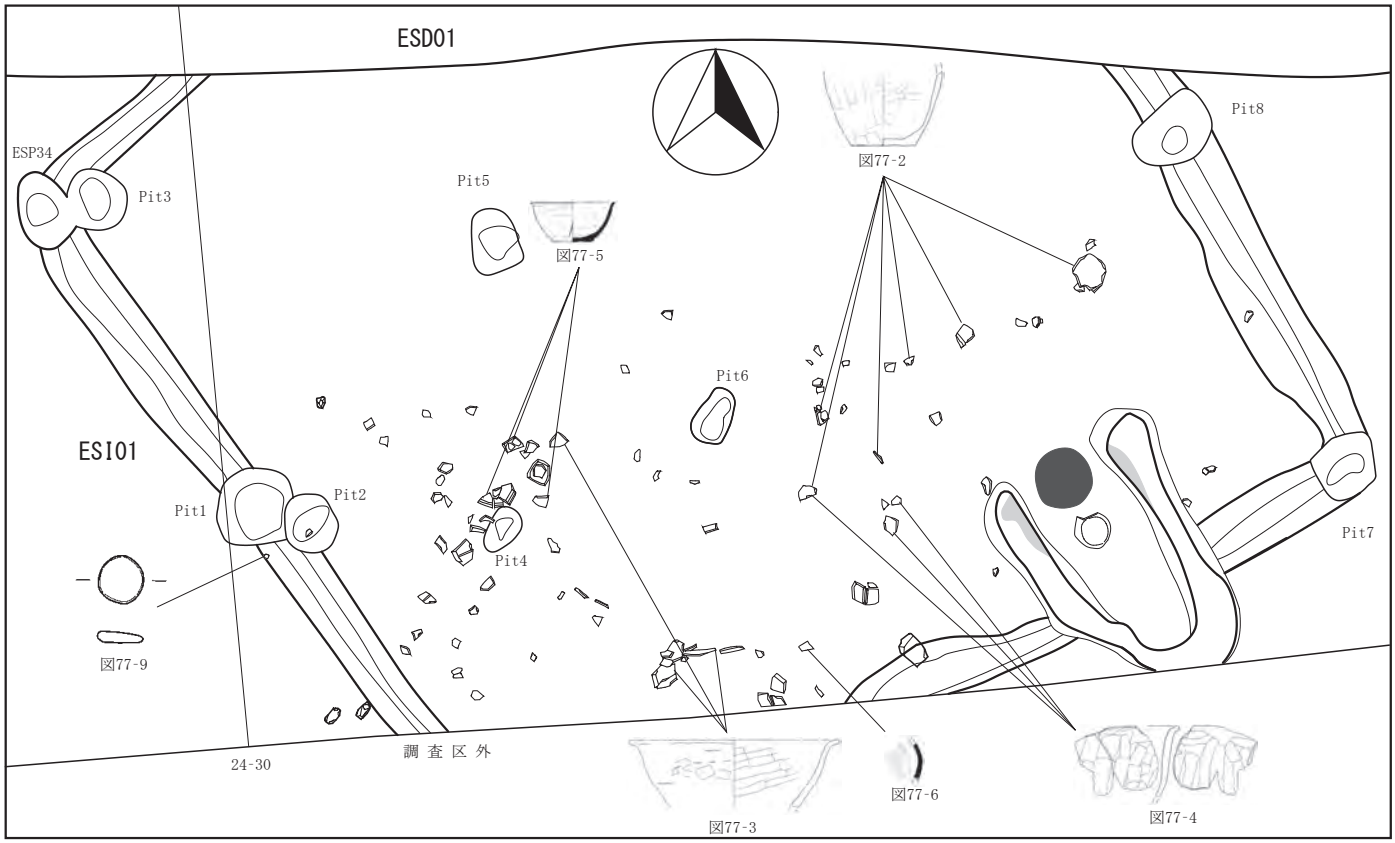
ESI01カマド完掘



ESI01カマド(A-A',B-B')

1層	10YR3/4	暗褐色土	5YR4/8赤褐色焼土粒(φ1～3mm)1%、しまりやや弱い、粘性やや強い。
2層	7.5YR3/4	暗褐色焼土	5YR4/8赤褐色焼土(φ1～10mm)1%、5YR3/6暗赤褐色焼土(φ20mm)1%、しまりやや弱い、粘性やや弱い。
3層	7.5YR2/3	極暗褐色焼土	5YR4/8赤褐色焼土粒(φ1mm)1%、しまり弱い、粘性やや強い。
4層	10YR3/3	暗褐色土	5YR3/6暗褐色焼土ブロック(φ30mm)2%、5YR4/8赤褐色焼土粒(φ5～10mm)2%、10YR4/6褐色土5%、しまり強い、粘性弱い。
5層	10YR2/3	黒褐色土	7.5YR3/4暗褐色焼土粒(φ1mm)1%、炭化物(φ1mm)1%、しまりやや強い、粘性やや強い。
6層	7.5YR4/4	褐色焼土	5YR4/8赤褐色焼土粒(φ1mm)1%、しまり強い、粘性弱い、カマド袖の被熱範囲。
7層	10YR4/4	褐 色 土	10YR5/6黄褐色土(φ20mm)3%、5YR4/8赤褐色焼土粒(φ1mm)1%、炭化物(φ1mm)1%、しまり強い、粘性弱い。
8層	10YR3/3	暗褐色土	掘り方。10YR4/6褐色土(φ5～10mm)2%、しまり弱い、粘性強い。
9層	5YR3/4	暗褐色焼土	火床面。5YR4/4にぶい赤褐色焼土(φ10～30mm)10%、しまり、粘性やや強い。
10層	10YR3/4	暗褐色土	掘り方。10YR5/4にぶい黄褐色土7%、7.5YR3/4暗褐色焼土5%。
11層	10YR2/3	黒褐色土	掘り方。10YR5/4にぶい黄褐色土5%、粘性強い、5YR3/6暗褐色焼土(φ10mm)1%。

■ 火床面範囲
■ 粘土範囲
■ 被熱範囲



ESI01遺物出土状況

図76　24-28～32グリッド周辺遺構（２）

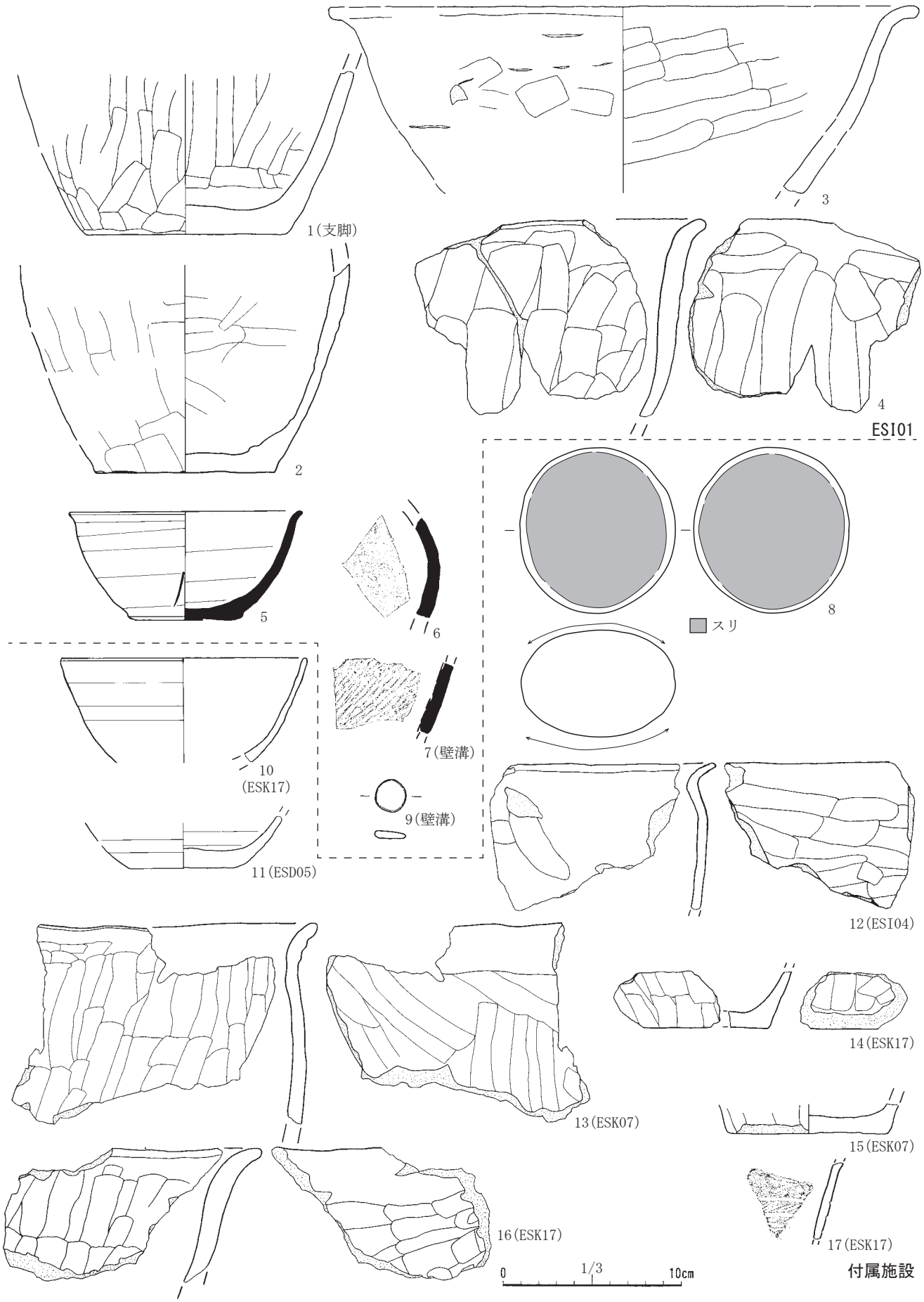


図77　第１号竪穴住居跡　出土遺物

図78　第２号竪穴住居跡　出土遺物

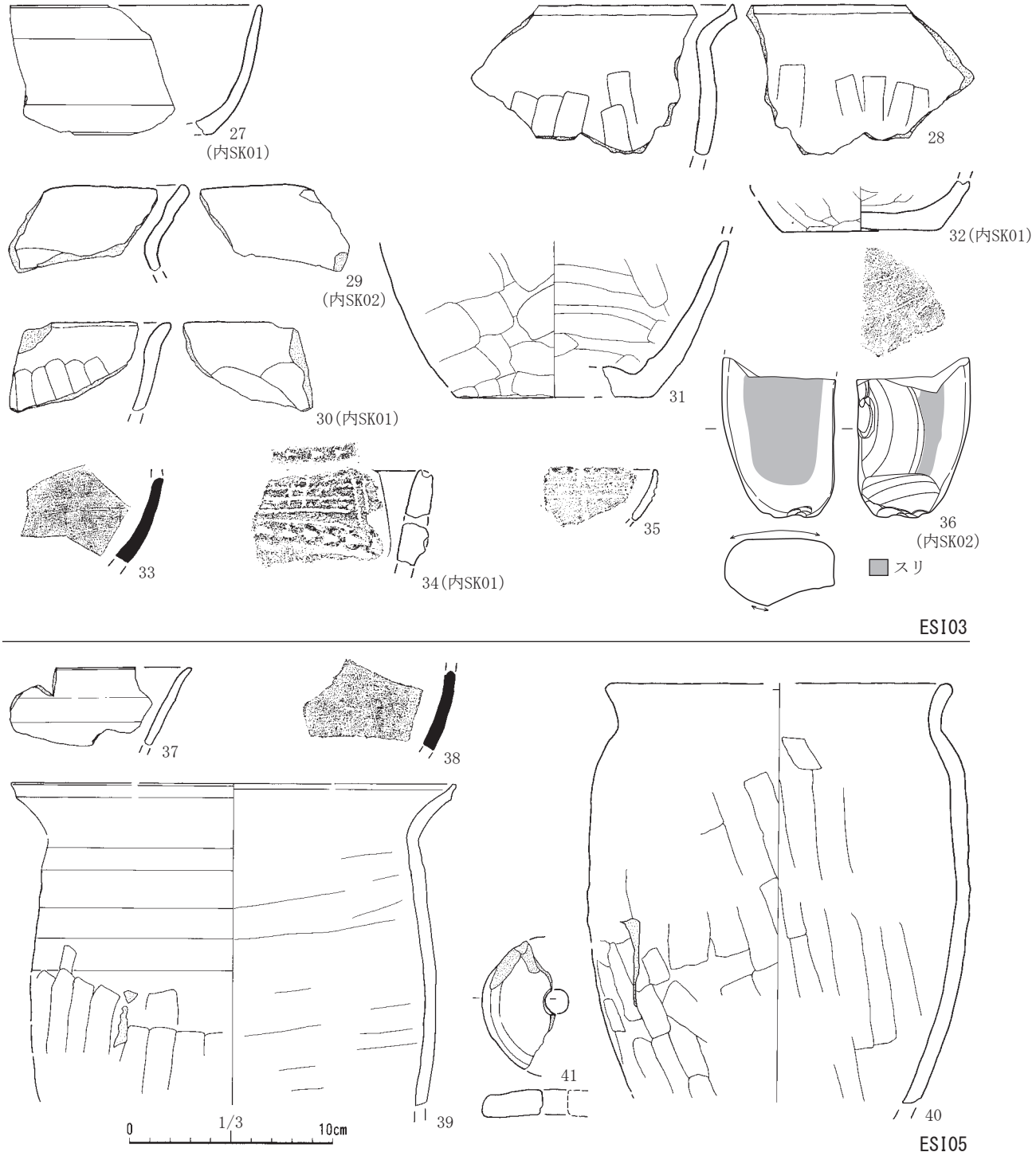


図79　第３・５号竪穴住居跡　出土遺物

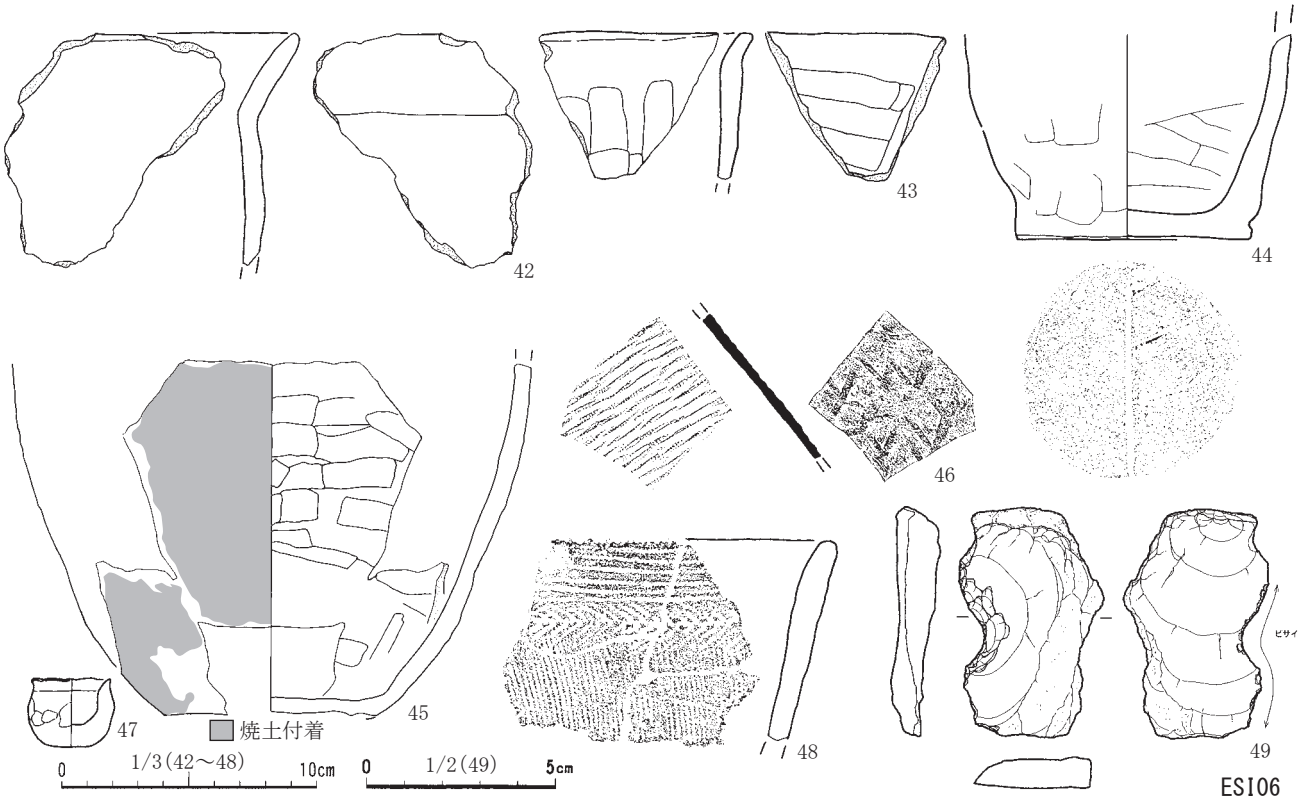


図80　第６号竪穴住居跡　出土遺物

（６）　埋設土器遺構

第１号埋設土器遺構(ESR01、図61・94)

[位置・確認] 24－６グリッドに位置し、第Ⅲ層で確認した。

[埋設方法 ・掘り方 ・堆積土] 深鉢の上半部が、南西方向に傾いた倒立状態で埋置されている。掘り方は径約35cm・深さ約30cmの筒状で、堆積土は黒褐色土主体である。

[土器の詳細と時期] 口縁部に側面圧痕で菱形状のモチーフが押圧される深鉢形土器(図94－211)で、縄文時代前期後葉(円筒下層ｃ～ｄ式)に比定されるものと考えられる。

第２号埋設土器遺構(ESR02、図61・94)

[位置・確認] 24－6グリッドに位置し、第Ⅲ層で確認した。

[埋設方法 ・掘り方 ・堆積土] 深鉢の上半部が、北東方向に傾いた倒立立状態で埋置されている。掘り方はほぼ土器と同じ大きさで、堆積土は暗褐色土主体である。

[土器の詳細と時期] 口縁部に側面圧痕で菱形状のモチーフが押圧される深鉢形土器(図94－212)で、縄文時代前期後葉(円筒下層ｃ～ｄ式)に比定されるものと考えられる。

第３号埋設土器遺構(ESR03、図65・94)

[位置・確認] 24－９グリッドに位置し、第Ⅲ層で確認した。

[埋設方法 ・掘り方 ・堆積土] 深鉢の下半部が、正立状態で埋置されている。掘り方はほぼ土器と同じ大きさで、堆積土は褐色土主体である。土器内部には暗褐色土が堆積していた。

図81　第７号竪穴住居跡　出土遺物

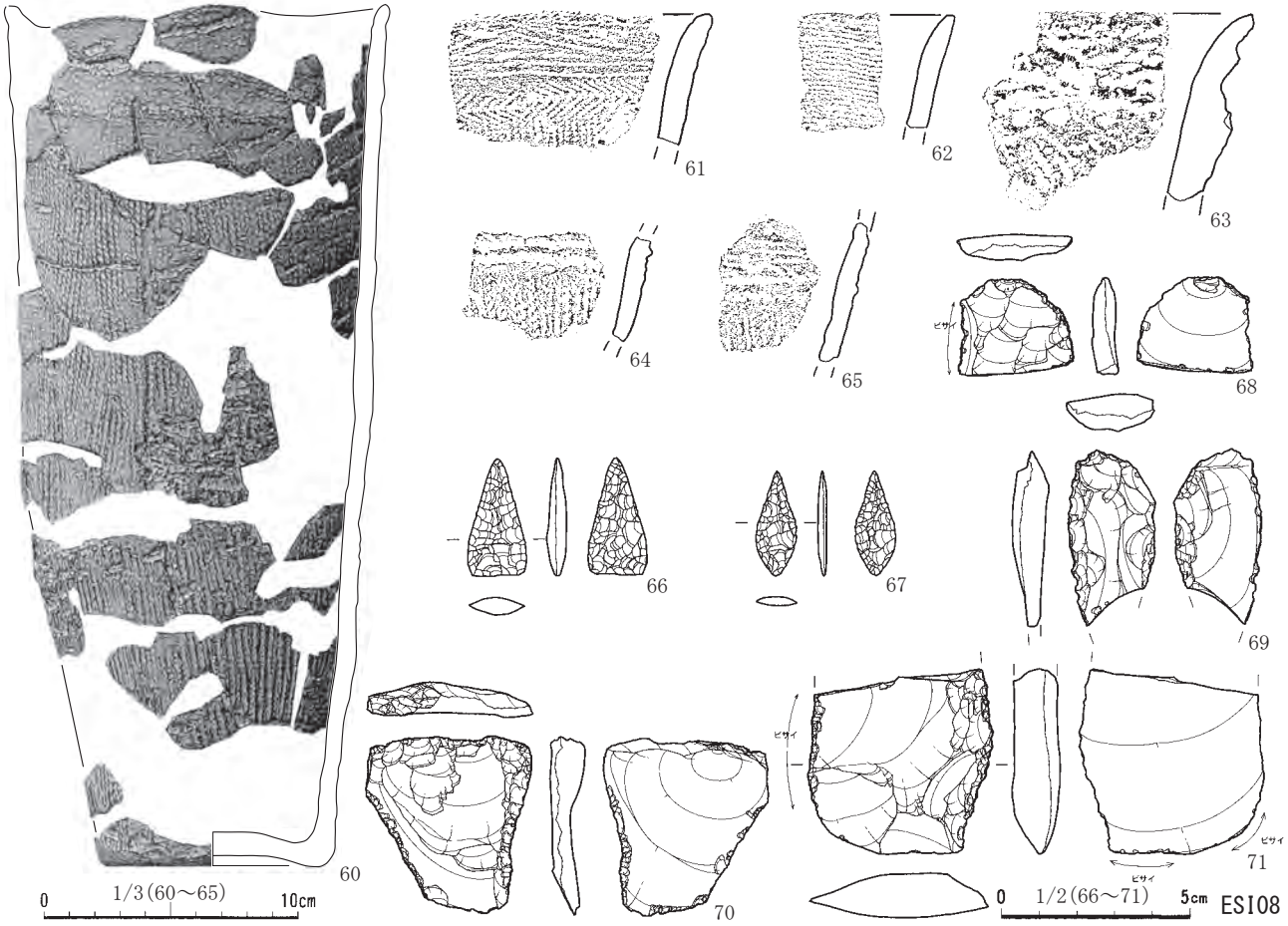


図82　第８号竪穴住居跡　出土遺物

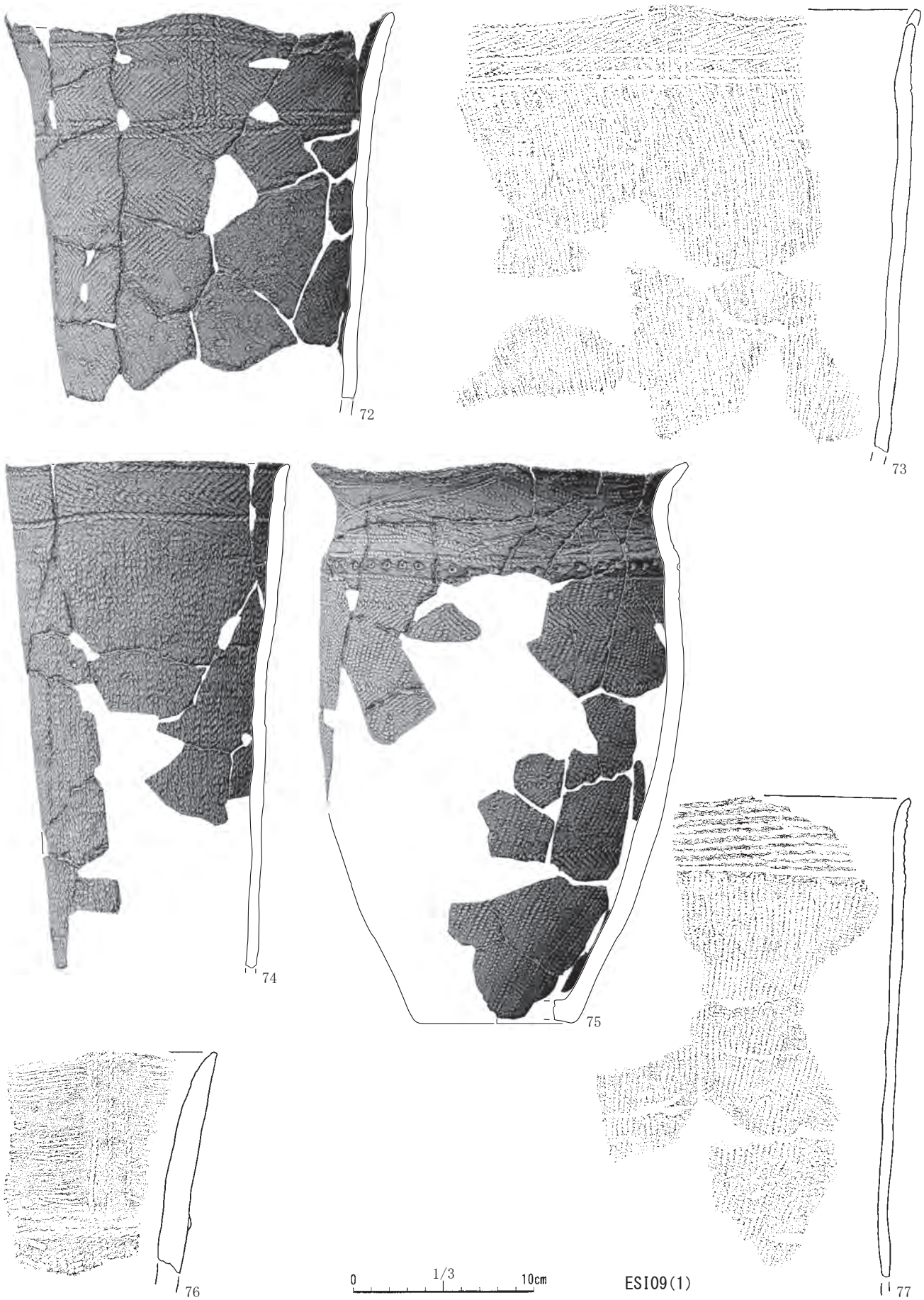


図83　第９号竪穴住居跡　出土遺物(1)

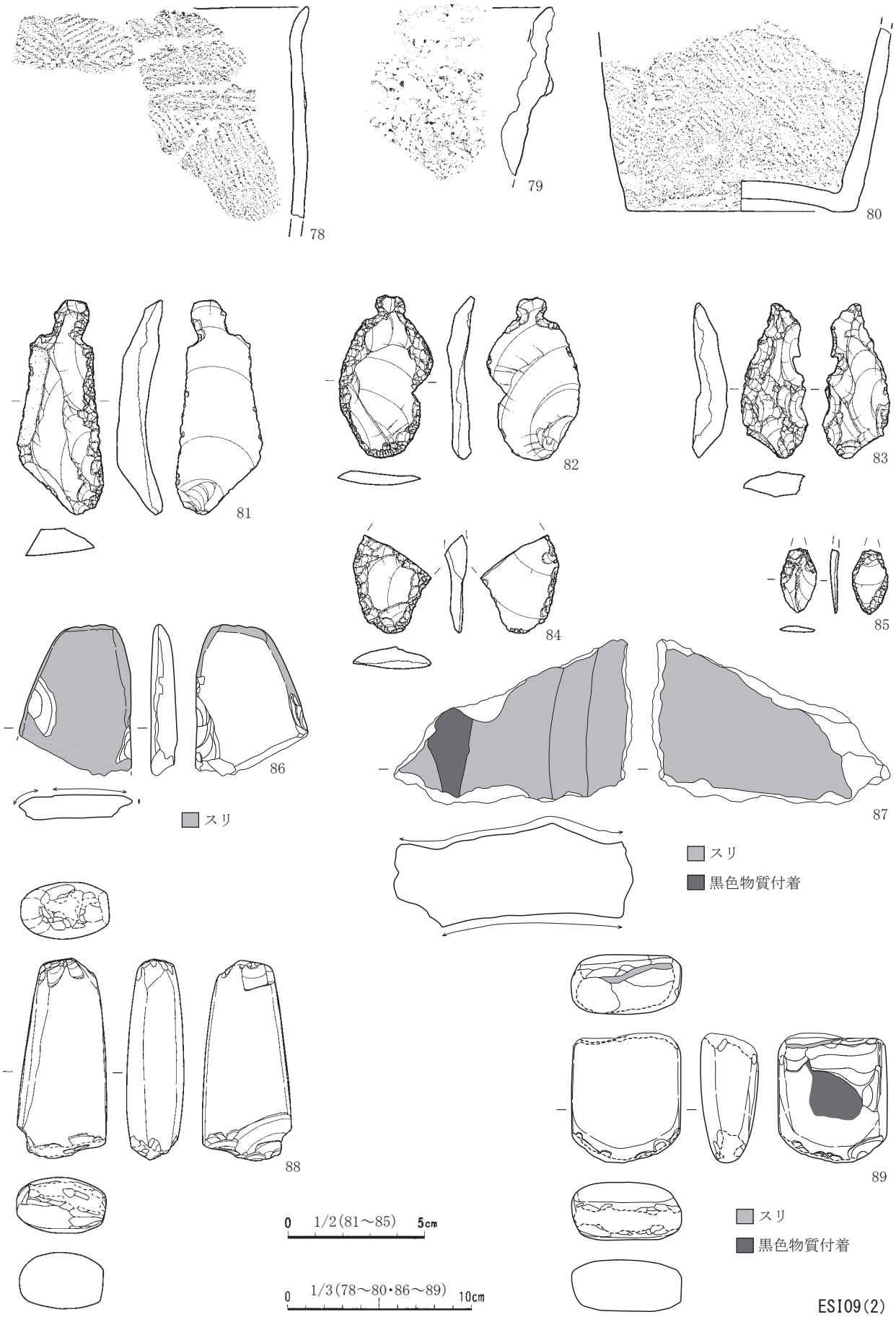


図84　第９号竪穴住居跡　出土遺物(2)

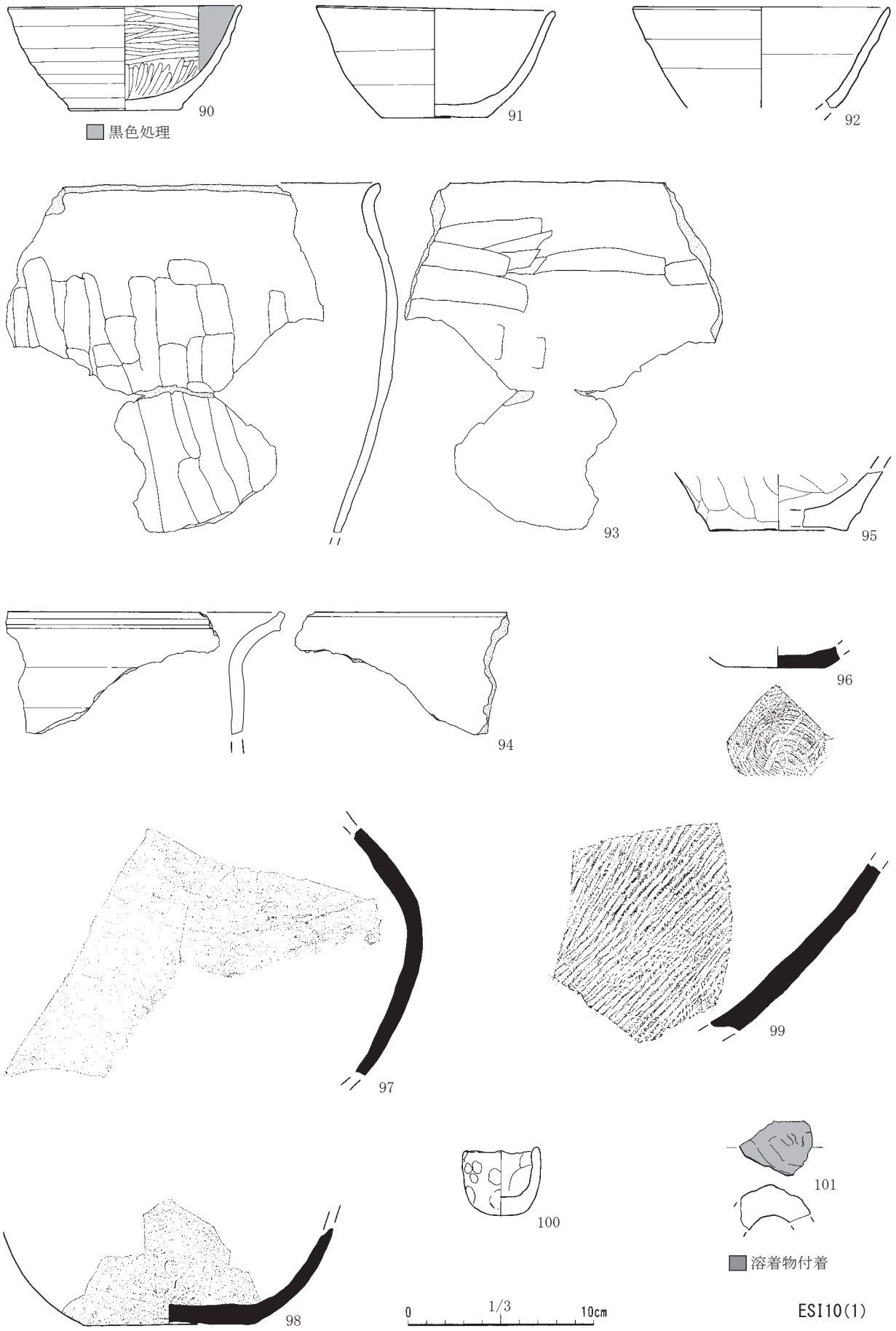


図85　第10号竪穴住居跡　出土遺物(1)

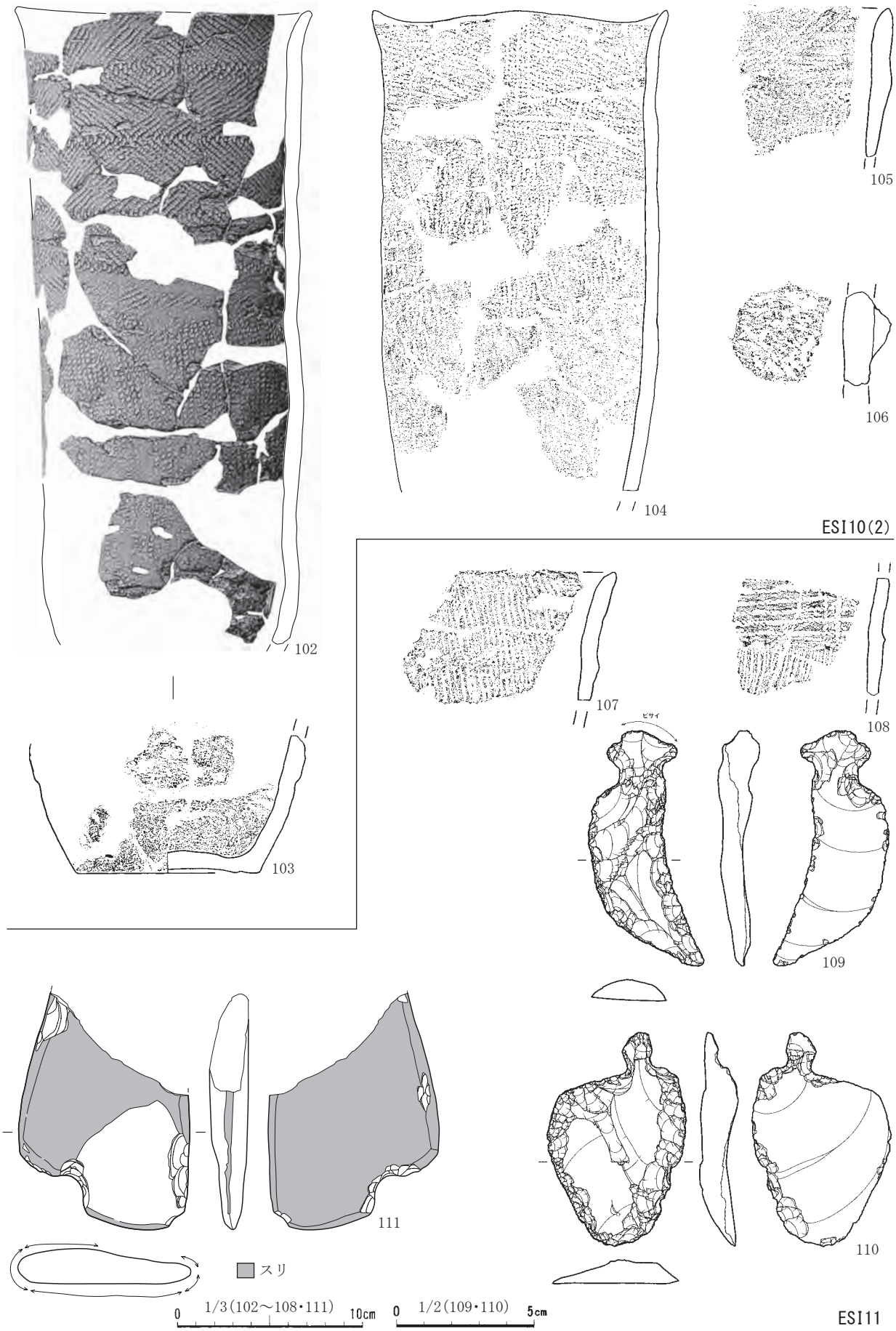


図86　第10号竪穴住居跡(2)・第11号竪穴住居跡　出土遺物

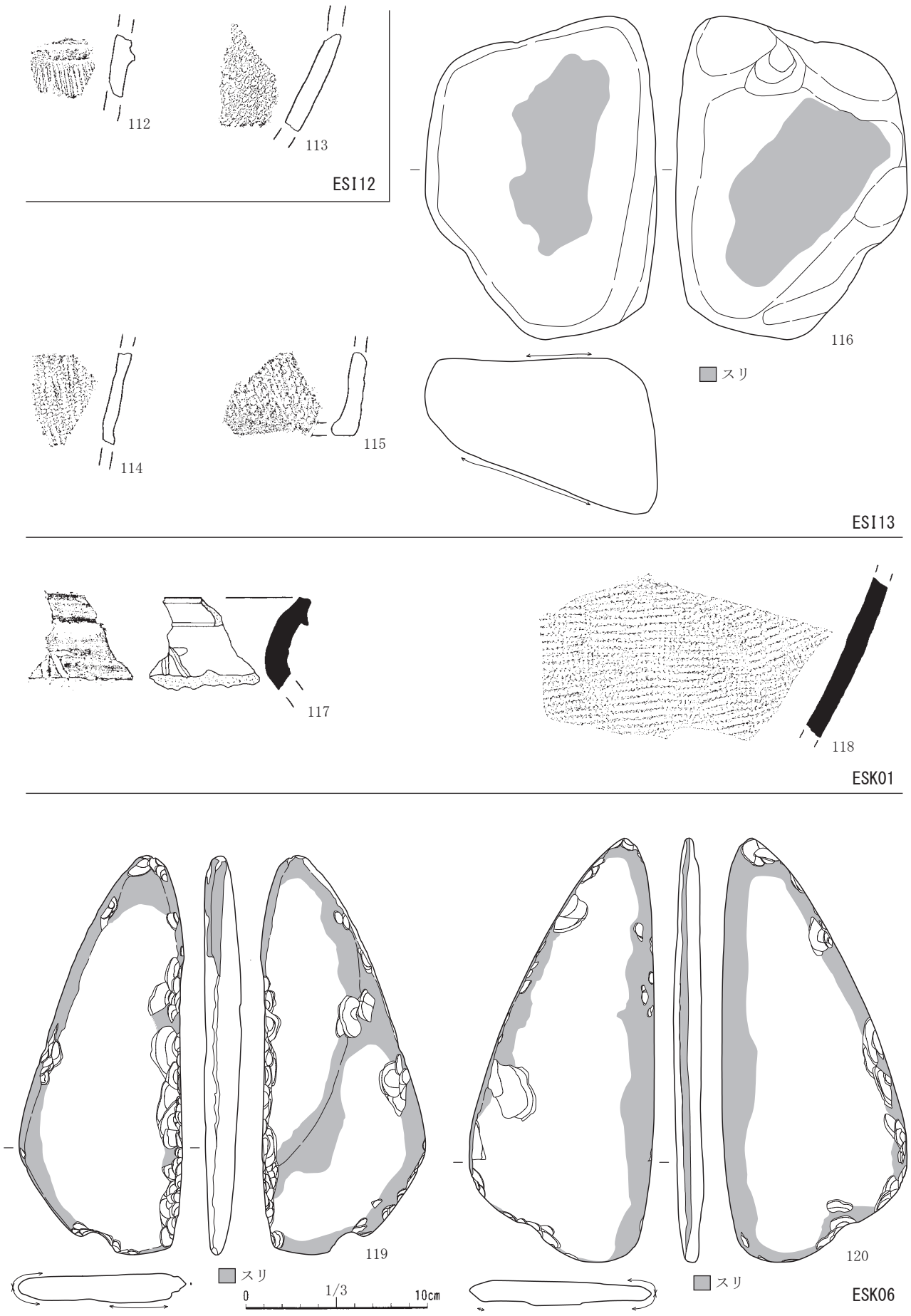


図87　第12・13号竪穴住居跡　出土遺物・土坑　出土遺物(1)

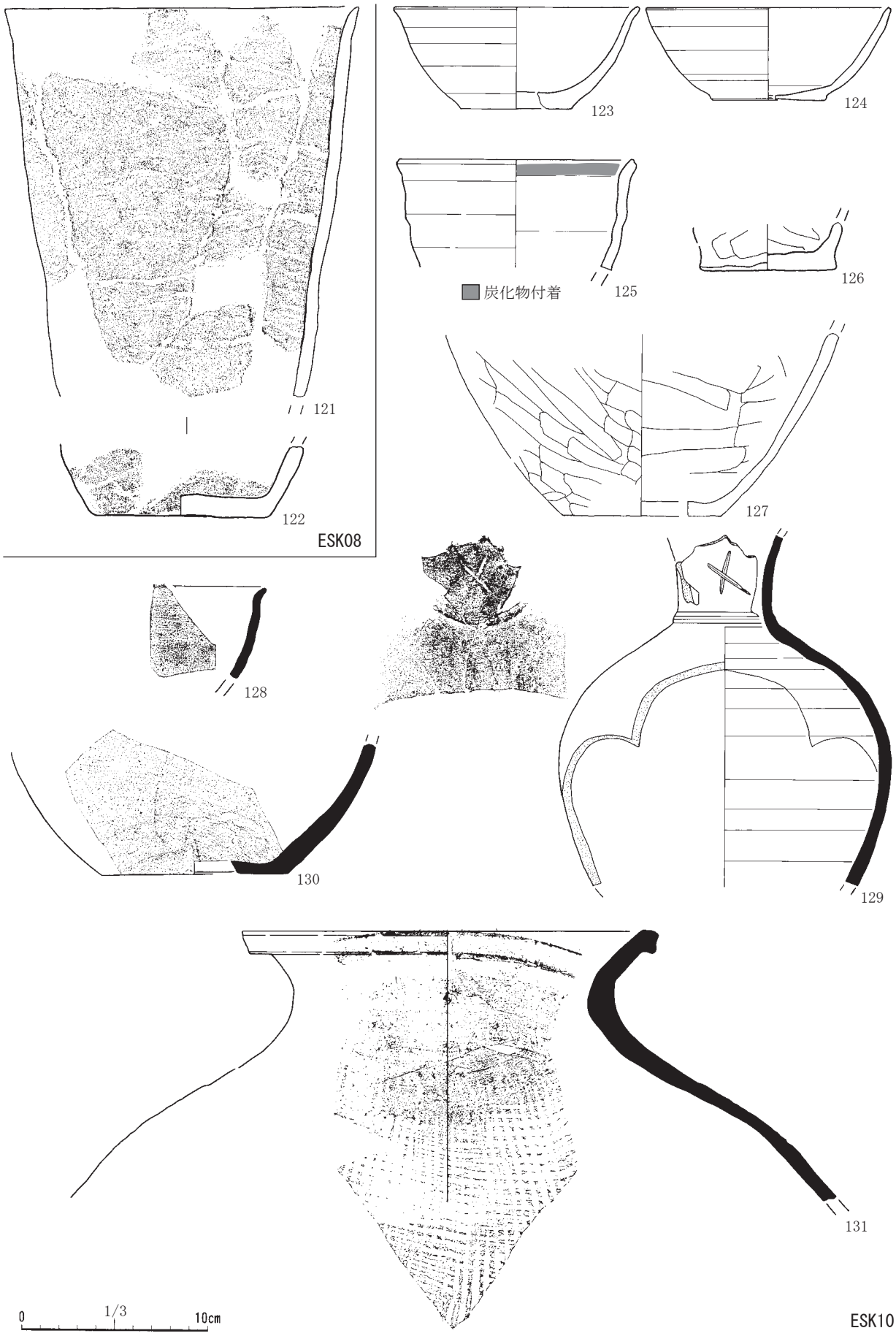

121
122
ESK08
123
124
125
炭化物付着
126
127
128
129
130
131
0
1/3
10cm
ESK10

図88　土坑　出土遺物(2)

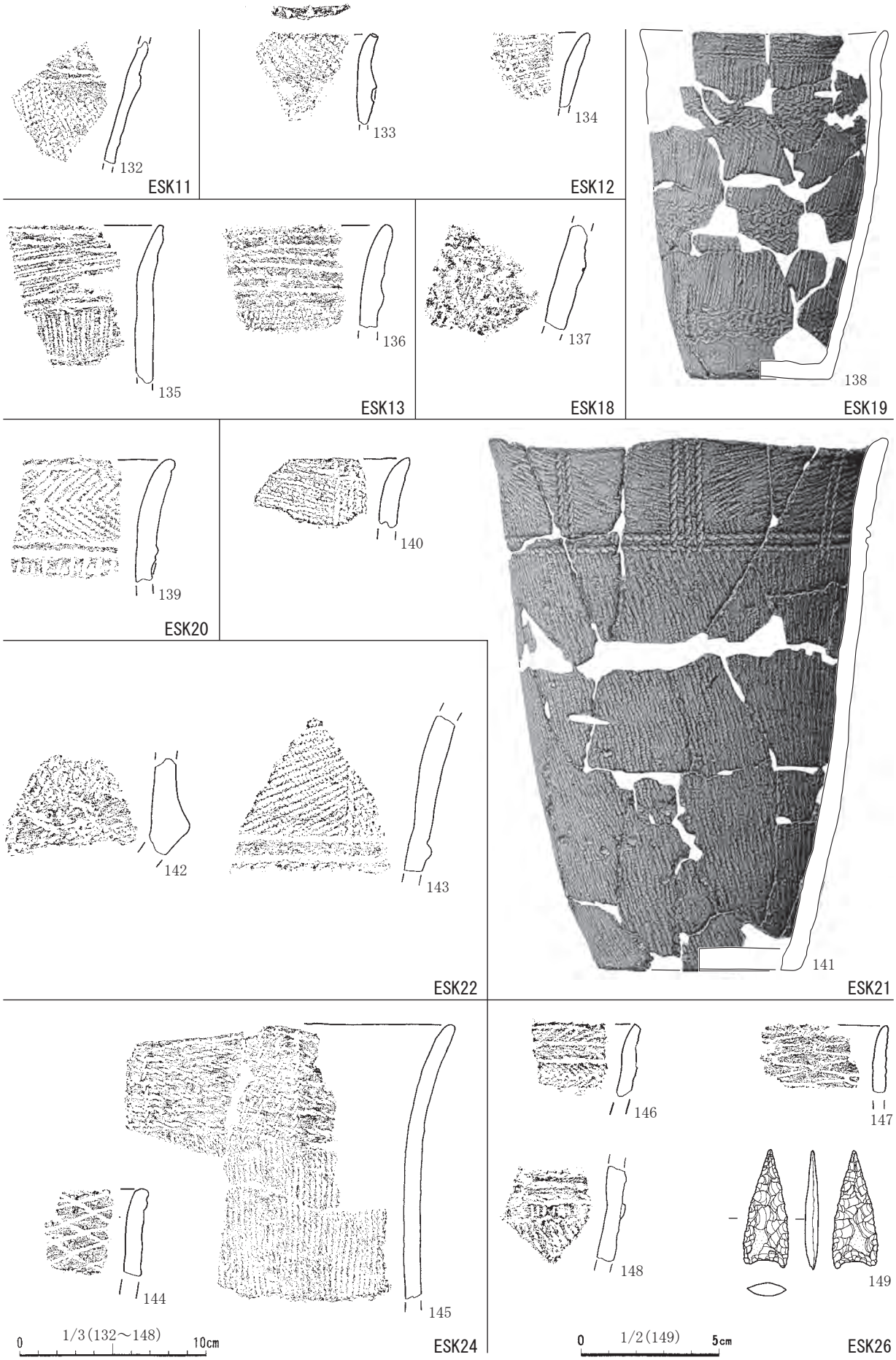

132
ESK11
133
134
ESK12
135
136
ESK13
137
ESK18
138
ESK19
139
ESK20
140
141
ESK21
142
143
ESK22
144
145
ESK24
146
147
148
149
ESK26
0
1/3(132～148)
10cm
0
1/2(149)
5cm

図89　土坑　出土遺物(3)

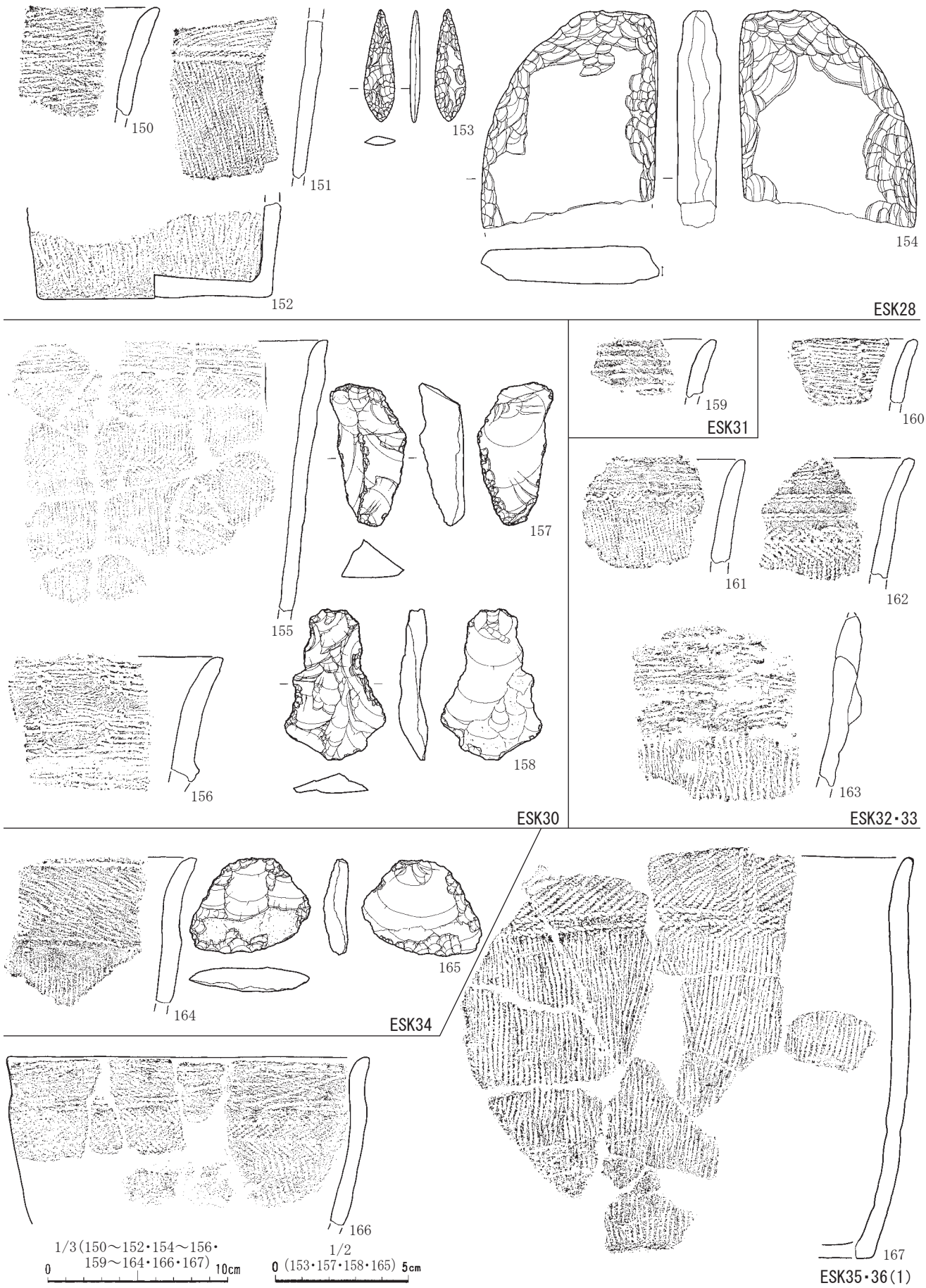

150
151
152
153
154
ESK28
155
156
157
158
ESK30
159
ESK31
160
161
162
163
ESK32・33
164
165
ESK34
166
167
ESK35・36(1)
1/3(150～152・154～156・159～164・166・167)
0
10cm
1/2
0 (153・157・158・165) 5cm

図90　土坑　出土遺物(4)

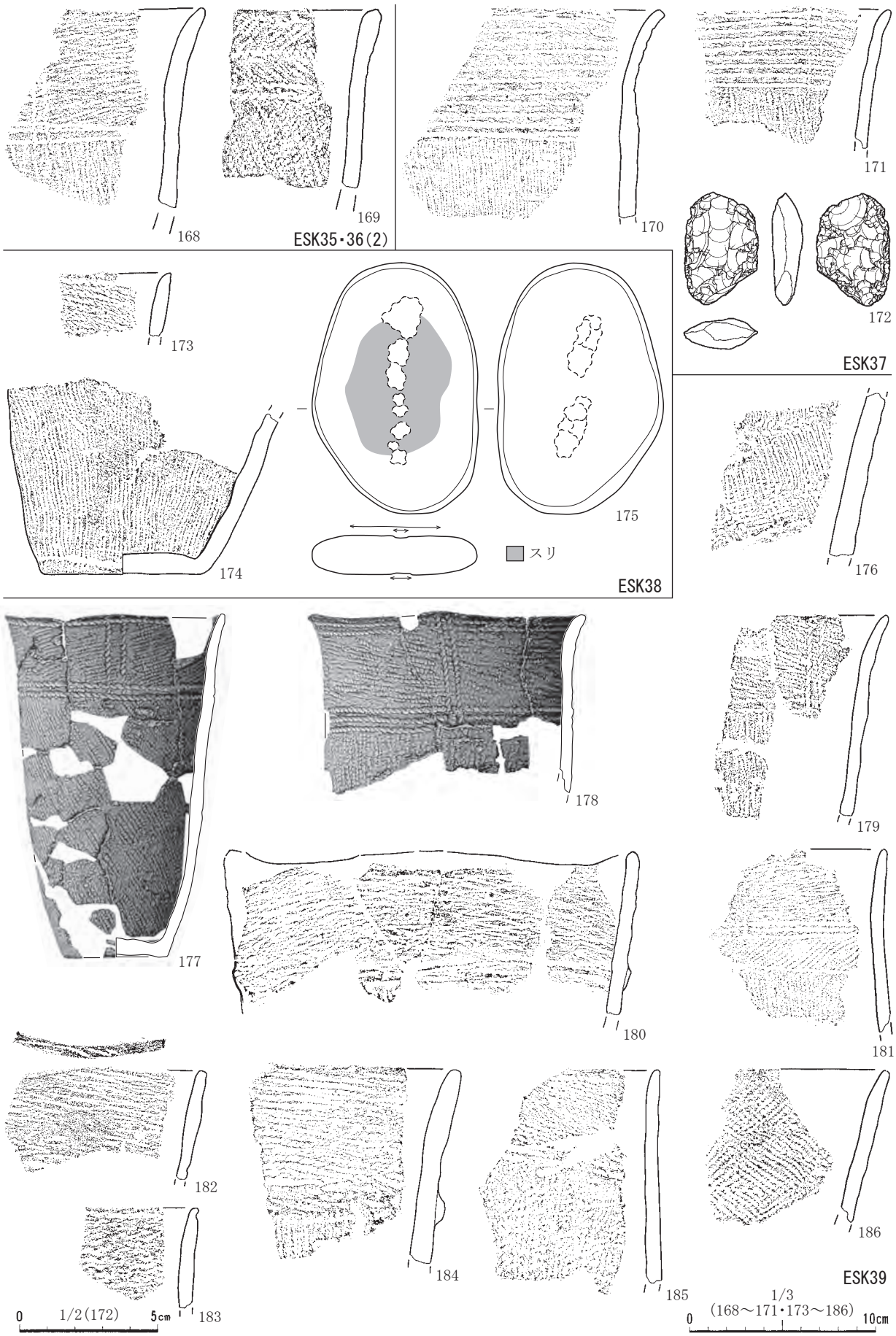

168
169
ESK35・36(2)
170
171
172
ESK37
173
174
175
スリ
ESK38
176
177
178
179
180
181
182
183
184
185
186
ESK39
0 1/2(172) 5cm
1/3
(168～171・173～186)
0 10cm

図91　土坑　出土遺物(5)

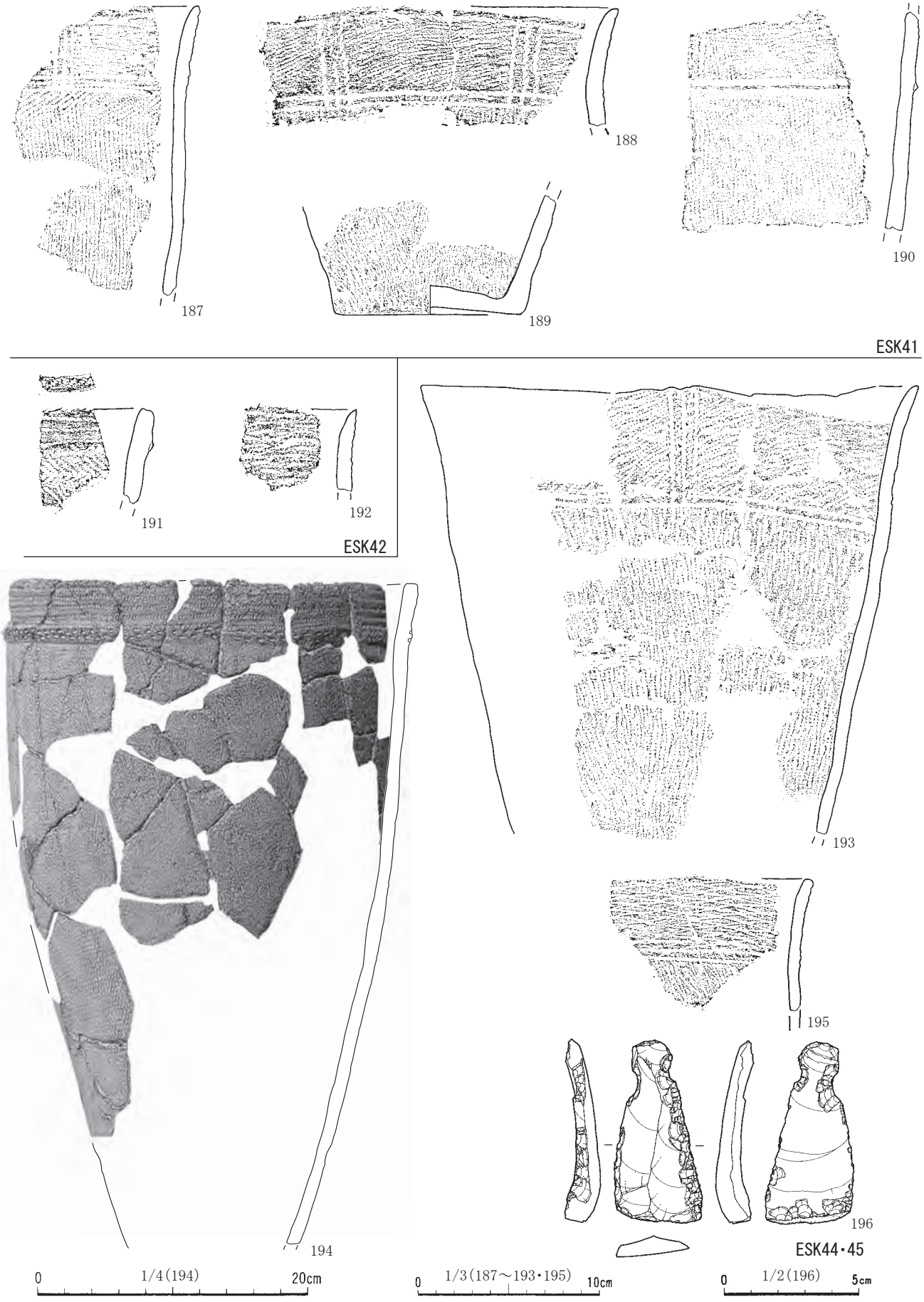

187
188
189
190
ESK41
191
192
ESK42
193
194
195
196
ESK44・45
0
1/4(194)
20cm
0
1/3(187～193・195)
10cm
0
1/2(196)
5cm

図92　土坑　出土遺物(6)

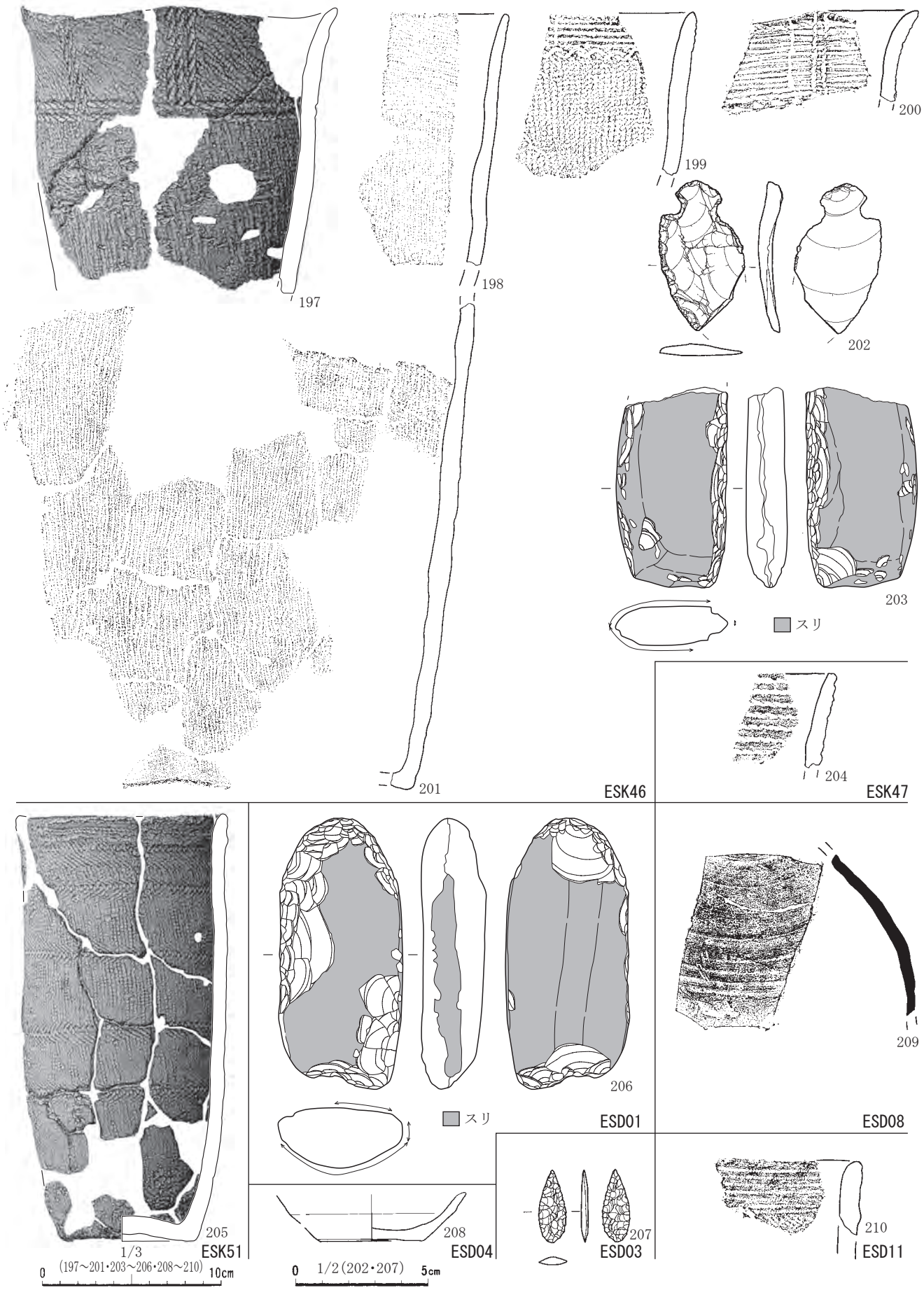


図93　土坑　出土遺物(7)・溝跡　出土遺物

［土器の詳細と時期］外面に直前段反撚が縦走して施文される深鉢形土器深鉢形土器（図94－213）で、縄文時代前期中～後葉（円筒下層ｂ～ｃ式）に比定されるものと考えられる。

（７）　遺物包含層（図94～96）

［位置・確認］基本層序の第Ⅲ層としたもので、調査区南東端の24－１～11　グリッドにかけて確認された。暗褐色土を主体として、ローム粒や炭化物粒を混入し、縄文時代の遺物を包含する。層厚は15～25cm程度で、24－８～９グリッド周辺が厚く、それより北側および南側に向かうに従い薄くなる。また、調査区東側は西側に比して層厚が薄い傾向にある。第Ⅰ層直下で確認されていること、本層が確認された箇所では第Ⅱ層が欠如していることから、耕作による削平を受けており、遺存しているのは遺物包含層の一部（下部）であると考えられる。平安時代と推定される遺構は本層を掘り込んで構築されている。また、縄文時代の遺構堆積土は、本層を主体としているものと推測される。

［出土遺物・遺構時期等］縄文土器15点・石器６点・土製品１点を図示した。図94－214～216・図95－217～228は縄文土器で、縄文時代前期中葉～後葉の土器と考えられる。図96－230～234は石器で、230は石匙、231は削掻器、232は半円状扁平打製石器、233・234は抉入扁平磨製石器、235は凹石である。出土遺物から、縄文時代前期中葉～後葉にかけて形成されたものと考えられる。

２　遺構外の出土遺物

（１）　縄文時代の出土遺物（図96・97）

縄文土器２点・石器12点を図示した。図96－236・237は縄文土器で、236は縄文時代前期中葉～後葉、237は縄文時代後期前葉の土器と考えられる。図96－243～245・図97－246～254は石器で、243～245は石鏃、246・247は石匙、248は石篦、249は削掻器、250は半円状扁平打製石器、251・252は磨製石斧、253は磨石、254は台石である。

（２）　平安時代の出土遺物（図96）

土師器・須恵器計５点を図示した。図96－238は土師器甕である。239～242は須恵器で、239・240は坏、241は壺、242は甕である。

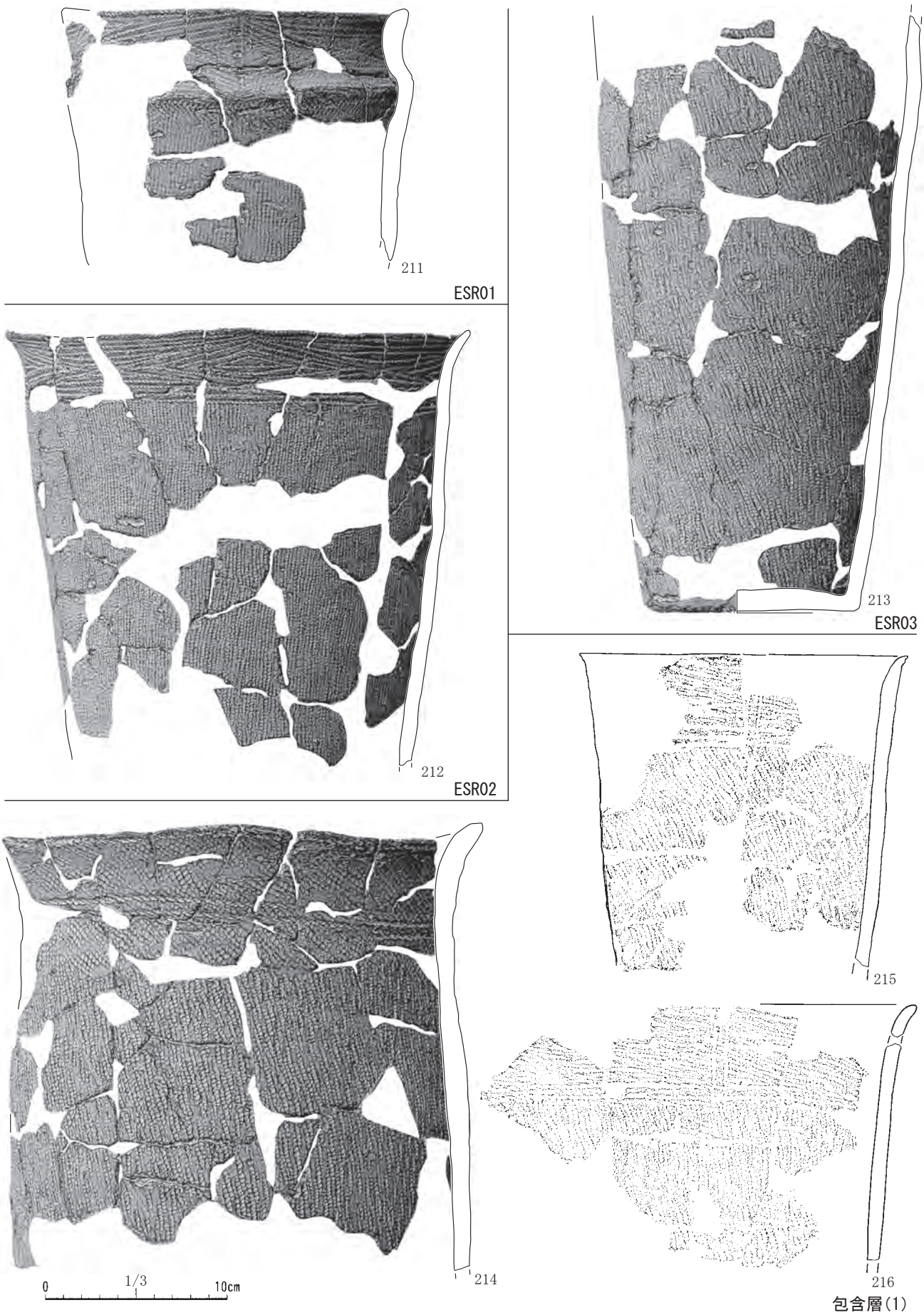


図94　土器埋設遺構　出土遺物・包含層　出土遺物(1)

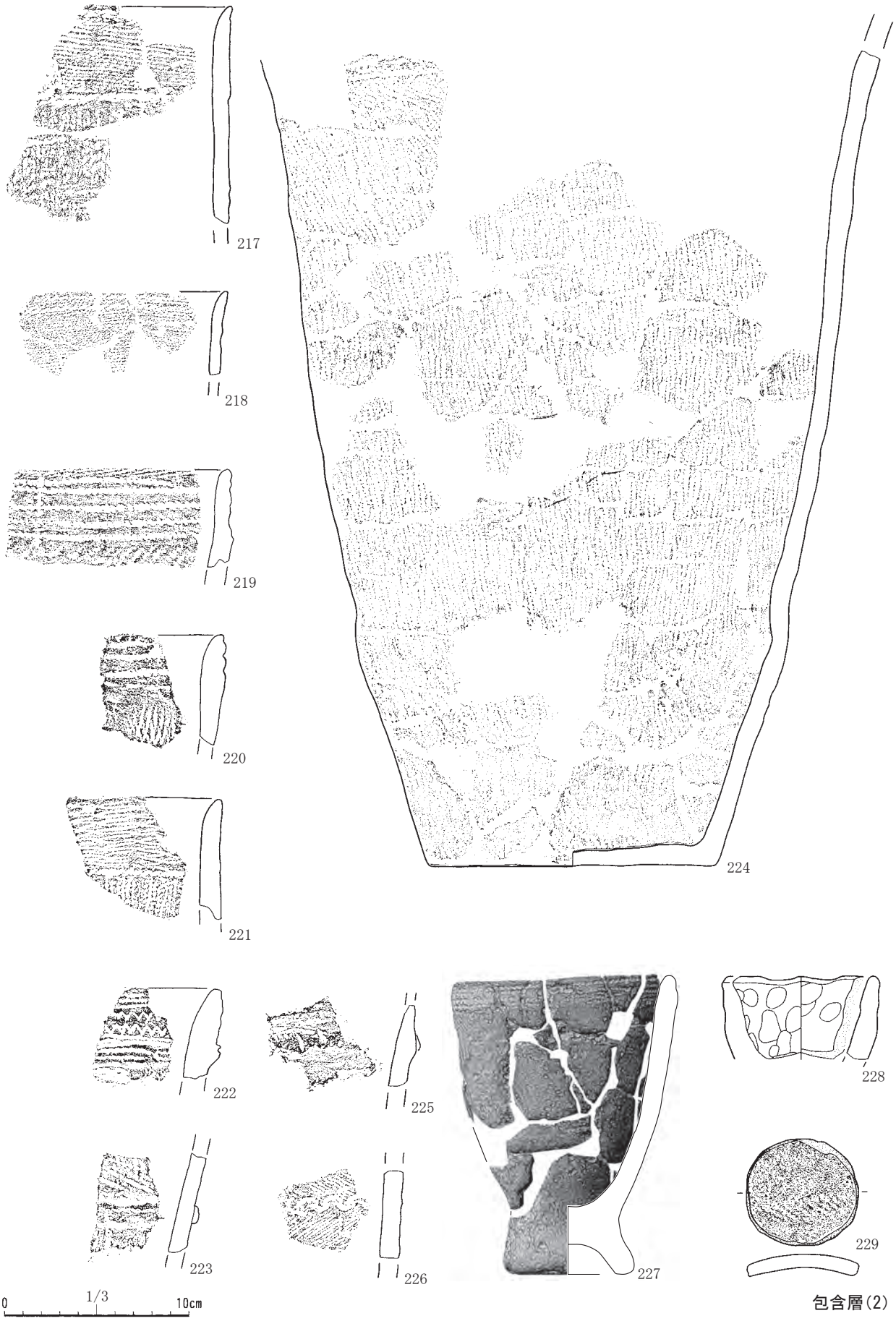
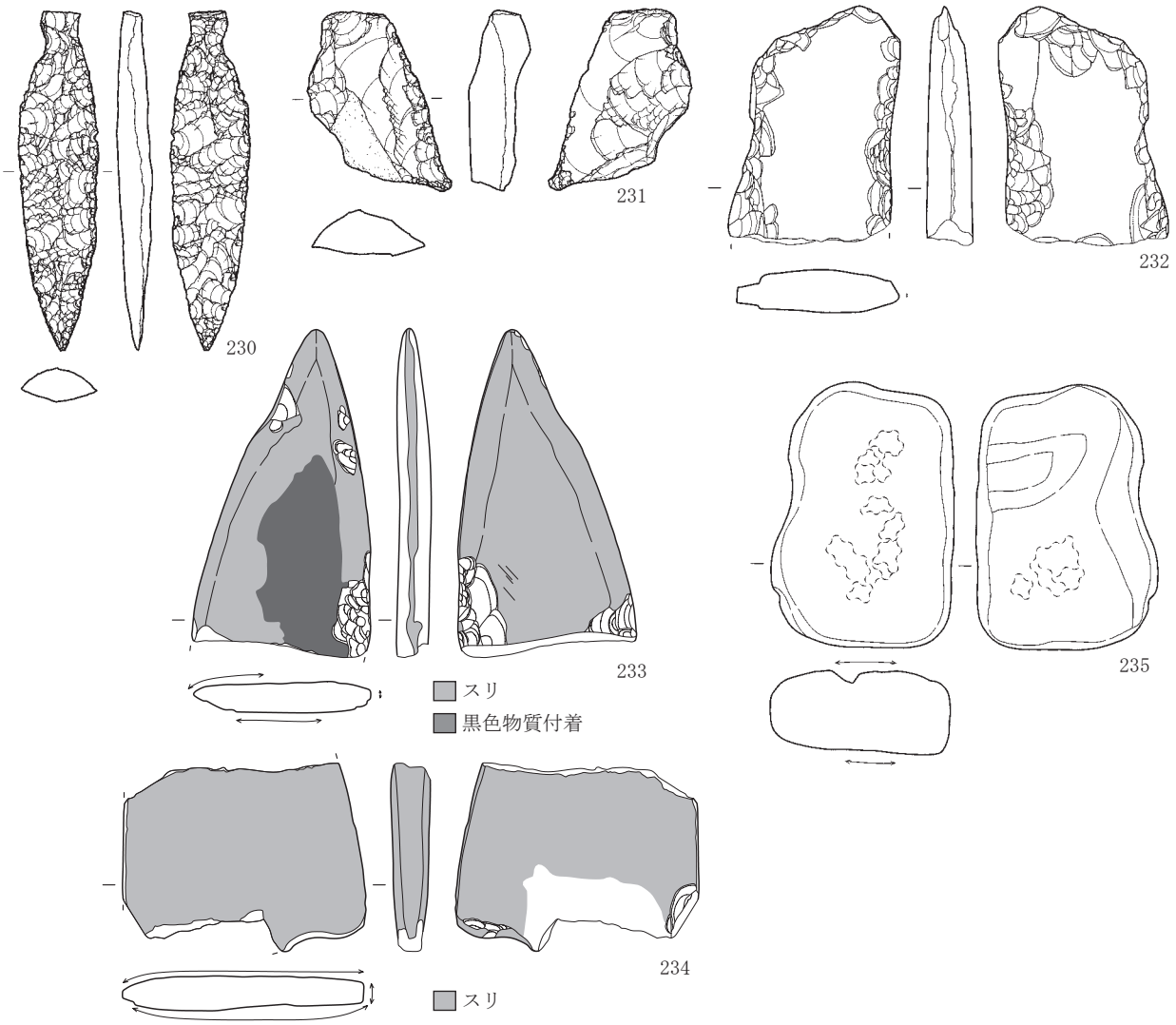
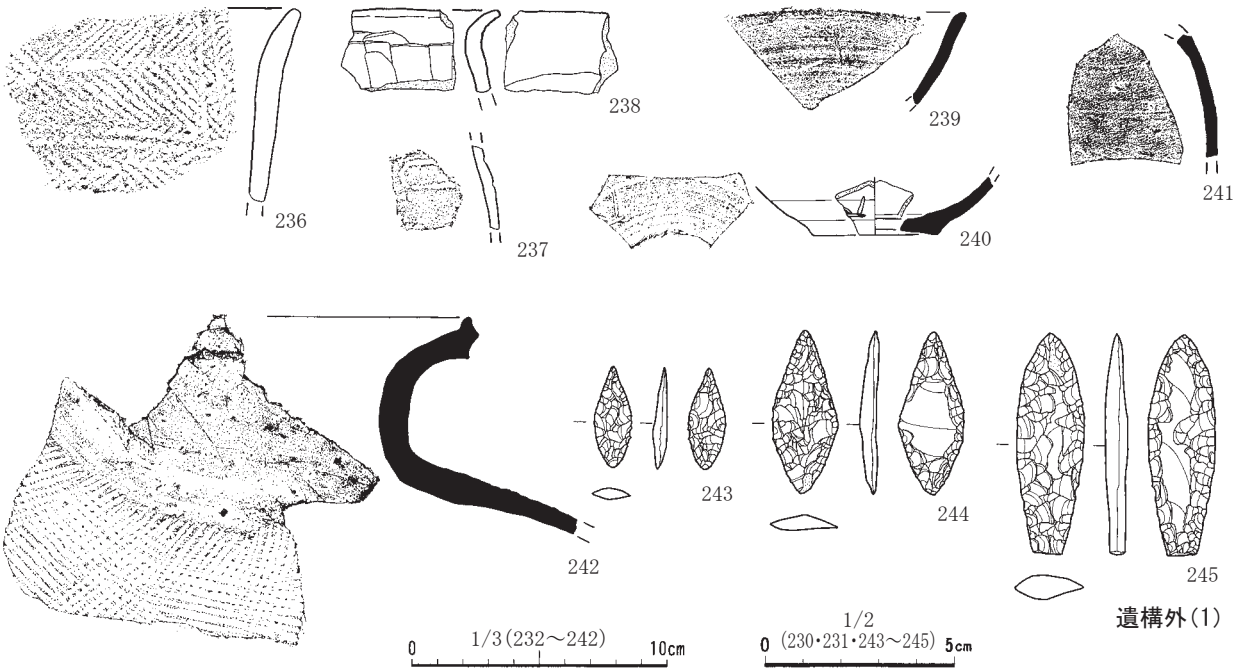


図95　包含層　出土遺物(2)



包含層(3)



遺構外(1)

図96　包含層　出土遺物(3)・遺構外　出土遺物(1)

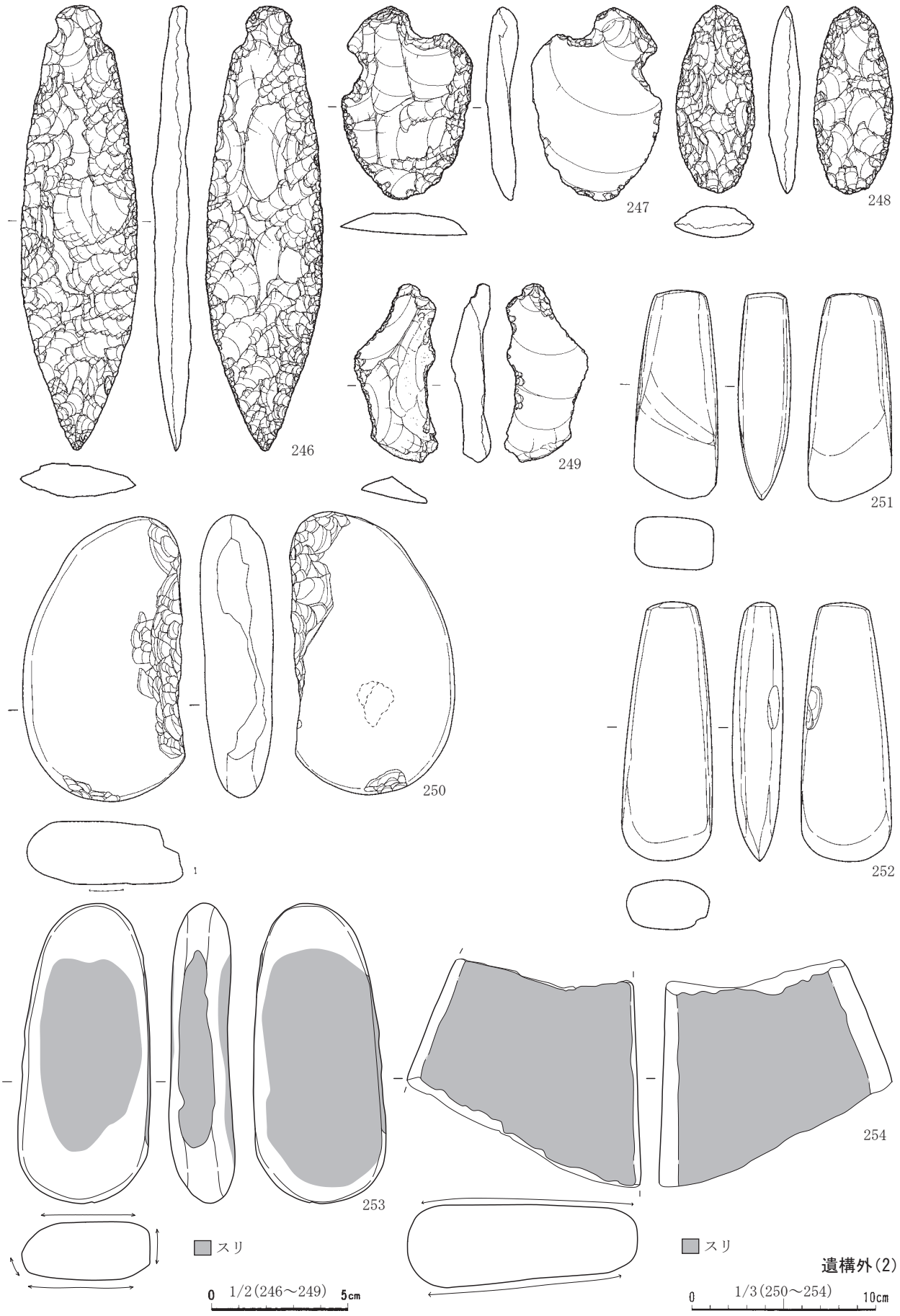


図97　遺構外　出土遺物(2)

表20　農道24号Ｅ区　土器観察表

図番号	遺物番号	遺構名	出土位置・層位等	種類	器種	部位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	外面調整(文様)	内面調整(文様)	備考(底面調整)	時期
77	1	ESI01	カマドP58	土師器	甕	底部	-	11.2	(9.2)	ケズリ	ナデ	底外面砂底。カマド支脚。	平安時代
77	2	ESI01	1層P4・5・11・14・15・18・54、N24-30 5層	土師器	甕	胴部～底部	-	10.0	11.7	ケズリ	ナデ		平安時代
77	3	ESI01	1層P27・51、N24-30 5層	土師器	塝	口縁部	(32.7)	-	(10.5)	ナデ、横ナデ	ナデ、横ナデ		平安時代
77	4	ESI01	1層P16,17,18	土師器	甕	口縁部	-	-	-	ケズリ	指ナデ、横ナデ		平安時代
77	5	ESI01	1層P29・31・33	須恵器	坏	略完形	13.0	6.0	6.1	ロクロ、刻書(|)	ロクロ	底外面回転糸切。	平安時代
77	6	ESI01	1層P20	須恵器	壺	胴部	-	-	-	ロクロ、ケズリ	ロクロ		平安時代
77	7	ESI01周溝	N24-31	須恵器	甕	胴部	-	-	-	タタキ	火ハジケ		平安時代
77	10	ESK17	1層	土師器	坏	口縁部～胴部	13.8	-	(5.9)	ロクロ	ロクロ		平安時代
77	11	ESD05	N24-31	土師器	坏	底部	-	6.0	(2.9)	ロクロ	ロクロ	底外面回転糸切。	平安時代
77	12	ESI04	N24-31 1層	土師器	甕	口縁部～胴部	-	-	-	ナデ、横ナデ	ナデ、横ナデ		平安時代
77	13	ESK07	N24-29 撹乱、N24-29 覆土	土師器	甕	口縁部～胴部	-	-	-	ケズリ、横ナデ	ナデ、横ナデ		平安時代
77	14	ESK17	1層	土師器	甕	底部	-	(10.0)	(3.2)	ケズリ	ナデ	底外面砂底。	平安時代
77	15	ESK07	N24-29 火山灰直上	土師器	甕	底部	-	(9.0)	(1.7)	ケズリ	ナデ	底外面砂底。	平安時代
77	16	ESK17	1層	土師器	甕	口縁部	-	-	-	ナデ、ケズリ、横ナデ	ナデ、横ナデ		平安時代
77	17	ESK17	1層	縄文土器	深鉢	胴部	-	-	-	LR、沈線、磨消			縄文時代後期前葉
78	18	ESI02	床面P8、N24-20 1層、N24-21 1層・掘り方	土師器	甕	口縁部	(24.2)	-	(5.5)	ナデ、横ナデ	ナデ、横ナデ		平安時代
78	19	ESI02	カマドP32	土師器	甕	胴部	-	-	-	ケズリ(磨滅)	ナデ		平安時代
78	20	ESI02	3層	須恵器	長頸壺	口縁部	-	-	-	ロクロ	ロクロ		平安時代
78	21	ESI02	2層P28、カマド左袖 3層	須恵器	甕	胴部	-	-	-	タタキ	あて具痕、ナデ		平安時代
78	22	ESI02	4層	縄文土器	深鉢	口縁部	-	-	-	円盤状貼付、波状口縁、R側面圧痕?		繊維混入。	縄文時代前期後葉?(円筒下層d式?)
79	27	ESI03	内SK1 1層	土師器	坏	口縁部～底部	-	-	(6.4)	ロクロ	ロクロ		平安時代
79	28	ESI03	2層	土師器	甕	口縁部	-	-	-	ロクロ、ケズリ	ロクロ、ヘラナデ		平安時代
79	29	ESI03	内SK2 1層	土師器	甕	口縁部	-	-	-	横ナデ	横ナデ		平安時代
79	30	ESI03	内SK1 1層	土師器	甕	口縁部	-	-	-	ナデ、横ナデ	ナデ、横ナデ		平安時代
79	31	ESI03	N24-13 1層	土師器	甕	胴部～底部	-	(9.4)	(8.0)	ケズリ	ナデ	底外面ナデ?	平安時代
79	32	ESI03	内SK1 1層	土師器	甕	底部	-	7.6	(2.4)	ケズリ	ナデ	底外面木葉痕。	平安時代
79	33	ESI03	N24-13 1層	須恵器	壺	胴部	-	-	-	ロクロ	ロクロ		平安時代
79	34	ESI03	内SK1 1層	縄文土器	深鉢	口縁部	-	-	-	口唇部刺突(箆状工具)、刺突(箆状工具)		補修孔。繊維混入。	縄文時代前期後葉(円筒下層d式)
79	35	ESI03	1層	縄文土器	深鉢?	胴部	-	-	-	沈線、刺突、LR?			縄文時代晩期前葉
79	37	ESI05	N24-6 覆土	土師器	坏	口縁部	-	-	-	ロクロ	ロクロ		平安時代
79	38	ESI05	N24-6 覆土	須恵器	壺	胴部	-	-	-	ケズリ	ロクロ		平安時代
79	39	ESI05	N24-6 覆土・包含層、N24-6 3層	土師器	甕	口縁部～胴部	(22.0)	-	(16.0)	ロクロ、ケズリ	ナデ		平安時代
79	40	ESI05	N24-6 焼土上、N24-6 覆土、N24-6 3層	土師器	甕	口縁部～胴部	(16.8)	-	(20.8)	ケズリ、横ナデ	ナデ、横ナデ		平安時代
80	42	ESI06	Pit02 N24-4 覆土	土師器	甕	口縁部	-	-	-	横ナデ	ナデ、横ナデ		平安時代
80	43	ESI06	N24-4 覆土	土師器	甕	口縁部	-	-	-	ケズリ、横ナデ	ナデ、横ナデ		平安時代
80	44	ESI06	カマド N24-5 P1、N24-4 床	土師器	甕	底部	-	9.1	(8.1)	ケズリ?	ナデ	底外面木葉痕。被熱。	平安時代
80	45	ESI06	Pit02 N24-4 覆土	土師器	甕	胴部～底部	-	8.4	(13.9)	焼土	ナデ	底外面ハクリ。	平安時代
80	46	ESI06	N24-4 床	須恵器	甕	胴部	-	-	-	タタキ	あて具痕(千鳥足状)		平安時代
80	47	ESI06	1層	土師器	小坏	完形	3.1	1.4	2.7	指アト	ナデ?		平安時代
80	48	ESI06	掘り方	縄文土器	深鉢	口縁部	-	-	-	R側面圧痕(横位)、結束第1種(RL・LR)、LR縦走		繊維混入。	縄文時代前期後葉(円筒下層c～d式)
81	50	ESI07	N24-1 覆土	縄文土器	深鉢	口縁部～胴部	(16.6)	-	(17.6)	RRL横走(口縁部)・縦走(胴部)、LR側面圧痕(横位・縦位)		繊維混入。	縄文時代前期中葉～後葉

図番号	遺物番号	遺構名	出土位置・層位等	種類	器種	部位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	外面調整(文様)	内面調整(文様)	備考(底面調整)	時期
81	51	ESI07	N24-1 覆土	縄文土器	深鉢	口縁部～胴部	(18.0)	-	(14.6)	結束第1種(LR･RL)、R側面圧痕(横位)		繊維混入。	縄文時代前期中葉～後葉
81	52	ESI07	N24-1 覆土	縄文土器	深鉢	胴部	-	-	-	RR(横位・縦位)		繊維混入。52・53同一個体。	縄文時代前期中葉～後葉
81	53	ESI07	N24-1 覆土	縄文土器	深鉢	口縁部	-	-	-	RR(横位・縦位)		繊維混入。52・53同一個体。	縄文時代前期中葉～後葉
81	54	ESI07(旧配水管14号SI10)	覆土	縄文土器	深鉢	口縁部	-	-	-	RL側面圧痕(横位・縦位)、RR横位?、RR縦走		繊維混入。	縄文時代前期中葉～後葉
81	55	ESI07(旧配水管14号SI10)	覆土	縄文土器	深鉢	口縁部	-	-	-	LR側面圧痕(横位・縦位)、LL縦位?		繊維混入。	縄文時代前期中葉～後葉
81	56	ESI07	N24-1 覆土	縄文土器	深鉢	胴部～底部	-	9.4	(15.4)	単軸絡条体1類(R)縦走			縄文時代前期中葉～後葉
81	57	ESI07	N24-1 覆土	縄文土器	深鉢	胴部	-	-	(3.9)	指アト	指アト		縄文時代前期中葉～後葉
82	60	ESI08	N24-2 覆土	縄文土器	深鉢	略完形	(14.0)	8.8	34.0	低い隆帯、LR?側面圧痕(横位)、単軸絡条体(R)縦位		繊維混入。	縄文時代前期中葉～後葉
82	61	ESI08	N24-2 覆土	縄文土器	深鉢	口縁部	-	-	-	R側面圧痕(横位・斜位)、結束第1種(LR･RL)、RL縦走		繊維混入。	縄文時代前期後葉(円筒下層c～d式)
82	62	ESI08	覆土	縄文土器	深鉢	口縁部	-	-	-	単軸絡条体第1類(L)横位		繊維混入。	縄文時代前期中葉～後葉
82	63	ESI08	N24-2 覆土	縄文土器	深鉢	口縁部	-	-	-	RL側面圧痕(横位)、刺突(棒状工具?)、RL		繊維混入。	縄文時代前期中葉
82	64	ESI08	N24-2 覆土	縄文土器	深鉢	胴部	-	-	-	LR側面圧痕(横位)、単軸絡条体(R)縦位?		繊維混入。	縄文時代前期中葉
82	65	ESI08	N24-2 覆土	縄文土器	深鉢	胴部	-	-	-	R･LR側面圧痕(横位)、単軸絡条体第1類(R)縦位		繊維混入。	縄文時代前期中葉
83	72	ESI09	N24-2・3 覆土	縄文土器	深鉢	口縁部～胴部	(21.2)	-	(21.5)	結束第1種(RL･LR)、RL側面圧痕(横位・縦位)、LR縦位?		繊維混入。	縄文時代前期中葉～後葉
83	73	ESI09	N24-2・3 覆土	縄文土器	深鉢	口縁部～胴部	-	-	-	RR?縦位、L側面圧痕(横位・縦位)、RR?縦走		繊維混入。	縄文時代前期中葉～後葉
83	74	ESI09	N24-2・3 覆土	縄文土器	深鉢	口縁部～胴部	15.7	-	(18.8)	結束第1種(RL･LR)、RL側面圧痕(横位)、LR側面圧痕(横位)、附加条(LR･L?)縦走?		繊維混入。	縄文時代前期中葉～後葉
83	75	ESI09	N24-2・3 覆土	縄文土器	深鉢	口縁部～底部	(20.0)	-	(31.3)	低い隆帯、L側面圧痕(横位・斜位)、刺突(竹管状工具)、結束第1種(LR･RL)、RL縦位		繊維混入。	縄文時代前期後葉(円筒下層c～d式)
83	76	ESI09	N24-2・3 覆土	縄文土器	深鉢	口縁部	-	-	-	RL側面圧痕(横位)、低い隆帯、単軸絡条体(R)横位、LR側面圧痕(縦位)、RL?縦走		繊維混入。	縄文時代前期中葉～後葉
83	77	ESI09	N24-2・3 覆土	縄文土器	深鉢	口縁部～胴部	-	-	-	L側面圧痕(横位)、LR縦走		繊維混入。	縄文時代前期中葉～後葉
84	78	ESI09	N24-2・3 覆土	縄文土器	深鉢	口縁部～胴部	-	-	-	低い隆帯、結束第1種(LR･RL)、RL?		繊維混入。	縄文時代前期中葉～後葉
84	79	ESI09	N24-2・3 覆土	縄文土器	深鉢	口縁部	-	-	-	隆帯、刺突(爪形)、RLR		繊維混入。	縄文時代前期中葉?
84	80	ESI09	N24-2・3 覆土	縄文土器	深鉢	胴部～底部	-	12.2	10.1	LR縦位		繊維混入。	縄文時代前期中葉～後葉
85	90	ESI10	N24-3・4 覆土	土師器	坏	略完形	12.5	5.7	9.9	ロクロ	ミガキ、黒色処理	底外面回転糸切。	平安時代
85	91	ESI10	N24-3 覆土	土師器	坏	略完形	13.0	5.8	6.1	ロクロ	ロクロ	底外面回転糸切。	平安時代
85	92	ESI10	N24-3・4 覆土	土師器	坏	口縁部	13.8	-	(5.4)	ロクロ	ロクロ	被熱。	平安時代
85	93	ESI10	N24-3・4 覆土	土師器	甕	口縁部～胴部	-	-	-	ケズリ、横ナデ	ナデ、横ナデ		平安時代
85	94	ESI10	N24-3 貼床	土師器	甕	口縁部	-	-	-	ロクロ	ロクロ		平安時代
85	95	ESI10	N24-3・4 覆土	土師器	甕	底部	-	(7.4)	3.2	ケズリ	ナデ	底外面砂底。	平安時代
85	96	ESI10	N24-3・4 覆土	須恵器	坏	底部	-	5.4	(1.2)	ロクロ	ロクロ	底外面回転糸切。刻書(川)。火だすき。	平安時代

図番号	遺物番号	遺構名	出土位置・層位等	種類	器種	部位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	外面調整(文様)	内面調整(文様)	備考(底面調整)	時期
85	97	ESI10、ESK50	N24-3・4 覆土(ESI10)、覆土(ESK50)	須恵器	壺	胴部	-	-	-	ロクロ、ケズリ	ロクロ		平安時代
85	98	ESI10	N24-3・4 覆土、N24-3 床面	須恵器	壺	底部	-	(9.2)	(5.1)	ケズリ	ロクロ	底外面ケズリ。	平安時代
85	99	ESI10	N24-3・4 覆土	須恵器	甕	胴部	-	-	-	タタキ	あて具痕		平安時代
85	100	ESI10	N24-3 覆土	土師器	小坏	略完形	3.8	1.8	3.7	指アト	指アト		平安時代
86	102	ESI10・11	N24-3 覆土(ESI10)、N24-3・4 覆土(ESI11)	縄文土器	深鉢	口縁部～胴部	(15.6)	-	(35.5)	結束第1種(LR・RL)(胴部上半)、単軸絡状体第1類(LR)縦位(胴部下半)		繊維混入。102・103 同一個体。	縄文時代前期中葉～後葉
86	103	ESI10	N24-3 覆土	縄文土器	深鉢	底部	-	10.0	(7.5)	単軸絡条体第1類(L)縦位?		繊維混入。102・103 同一個体。	縄文時代前期中葉～後葉
86	104	ESI10	N24-3 覆土	縄文土器	深鉢	口縁部～胴部	(16.0)	-	(26.1)	LR、単軸絡条体第1類(R?)、側面圧痕(横位・縦位・斜位)、RRL?縦走		繊維混入。	縄文時代前期中葉～後葉
86	105	ESI10	N24-3・4 覆土	縄文土器	深鉢	口縁部	-	-	-	低い隆帯、単軸絡条体第1類(RL)、側面圧痕(横位)、結束第1種(LR・LR)?		繊維混入。	縄文時代前期中葉～後葉
86	106	ESI10	N24-3 覆土	縄文土器	深鉢	胴部	-	-	-	隆帯		繊維混入。	縄文時代前期中葉
86	107	ESI11	N24-3・4 覆土	縄文土器	深鉢	口縁部	-	-	-	低い隆帯、単軸絡条体1類(R)縦位		繊維混入。	縄文時代前期中葉?
86	108	ESI11	N24-3・4 覆土	縄文土器	深鉢	口縁部～胴部	-	-	-	低い隆帯、L 側面圧痕(横位・縦位)、単軸絡条体第1類(R)縦位		繊維混入。	縄文時代前期中葉～後葉
87	112	ESI12	覆土	縄文土器	深鉢	胴部	-	-	-	隆帯、LR 側面圧痕(横位)、単軸絡条体第1類(R)縦位		繊維混入。	縄文時代前期中葉?
87	113	ESI12	覆土	縄文土器	深鉢	胴部	-	-	-	多軸絡条体(LR)縦位		繊維混入。	縄文時代前期中葉～後葉
87	114	ESI13	覆土	縄文土器	深鉢	胴部	-	-	-	RR?縦走		繊維混入。	縄文時代前期中葉～後葉
87	115	ESI13	覆土	縄文土器	深鉢	底部	-	-	(4.5)	附加条(RL+RR?)?		繊維混入。	縄文時代前期中葉～後葉
87	117	ESK01	1層P1	須恵器	甕	口縁部	-	-	-	刻書(　?)			平安時代
87	118	ESK01	1層P4・9	須恵器	甕	胴部	-	-	-	タタキ	あて具痕		平安時代
88	121	ESK08	N24-14・15 1層P1	縄文土器	深鉢	口縁部～胴部	19.0	-	(21.1)	磨滅		繊維混入。	縄文時代前期中葉～後葉?
88	122	ESK08	N24-14・15 1層P1	縄文土器	深鉢	底部	-	9.0	(3.9)	磨滅		繊維混入。	縄文時代前期中葉～後葉?
88	123	ESK10	N24-9 3層	土師器	坏	略完形	(13.0)	(6.0)	5.5	ロクロ	ロクロ	底外面ナデ?	平安時代
88	124	ESK10	N24-9 覆土	土師器	坏	略完形	(13.0)	(6.0)	5.0	ロクロ	ロクロ	底外面回転糸切。	平安時代
88	125	ESK10	N24-9 1層	土師器	甕	口縁部	12.6	-	(6.0)	ロクロ	ロクロ、黒色物質付着		平安時代
88	126	ESK10	N24-9 1・2層	土師器	甕	底部	-	(7.2)	2.6	ナデ	ナデ	底外面砂底。	平安時代
88	127	ESK10	N24-9 1・2・6層	土師器	甕	胴部～底部	-	(8.4)	(9.9)	ケズリ	ナデ	底外面ケズリ。	平安時代
88	128	ESK10	N24-9 2層	須恵器	坏	口縁部～胴部	-	-	-	ロクロ、火だすき	ロクロ		平安時代
88	129	ESK10	N24-9 1～3層	須恵器	長頸壺	頸部～胴部	-	-	(18.9)	ロクロ、ケズリ、刻書(乂)、自然軸	ロクロ		平安時代
88	130	ESK10	N24-9 覆土上層	須恵器	壺	胴部～底部	-	(10.0)	(6.9)	ケズリ	ロクロ	底外面ケズリ?	平安時代
88	131	ESK10	N24-9 1・3層	須恵器	甕	口縁部	22.2	-	(14.7)	タタキ、横ナデ	あて具痕(千鳥足状)、横ナデ		平安時代
89	132	ESK11	N24-9 覆土	縄文土器	深鉢	胴部	-	-	-	低い隆帯、LR 側面圧痕(横位)、附加条(RLR+R)?		繊維混入。	縄文時代前期中葉～後葉
89	133	ESK12	N24-10 2層	縄文土器	深鉢	口縁部	-	-	-	口唇刺突(篦状工具)、隆帯・刺突(棒状工具)、RLR		繊維混入。	縄文時代前期中葉
89	134	ESK12	N24-10 2層	縄文土器	深鉢	口縁部	-	-	-	RRL?横走、LR 側面圧痕(斜位)		繊維混入。	縄文時代前期中葉?
89	135	ESK13	1層	縄文土器	深鉢	口縁部	-	-	-	単軸絡条体第1類(L)横位、L 側面圧痕(横位)、単軸絡条体第1類(L?)縦走?		繊維混入。	縄文時代前期中葉～後葉
89	136	ESK13	2層	縄文土器	深鉢	口縁部	-	-	-	低い隆帯、L 側面圧痕(横位)、多軸絡条体縦位		繊維混入。	縄文時代前期中葉～後葉
89	137	ESK18	覆土	縄文土器	深鉢	口縁部	-	-	-	低い隆帯、単軸絡条体第5類、側面圧痕(横位)、刺突(棒状工具)		繊維混入。	縄文時代前期後葉(円筒下層d式)

図番号	遺物番号	遺構名	出土位置・層位等	種類	器種	部位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	外面調整(文様)	内面調整(文様)	備考(底面調整)	時期
89	138	ESK19	覆土	縄文土器	深鉢	略完形	(13.6)	7.4	(18.9)	R･L側面圧痕(横位)、単軸絡条体第1類(R)縦位、RL、結節回転文(横位)		繊維混入。	縄文時代前期中葉～後葉
89	139	ESK20	N24-10 覆土	縄文土器	深鉢	口縁部	-	-	-	低い隆帯、刺突(爪型)、結束第1種(LR･RLR)、LR側面圧痕(横位)		繊維混入。	縄文時代前期中葉(円筒下層b式?)
89	140	ESK21	N24-10 覆土	縄文土器	深鉢	口縁部	-	-	-	単軸絡条体第1類(L)横位、LR側面圧痕(縦位)		繊維混入。	縄文時代前期中葉～後葉
89	141	ESK21	N24-10 覆土、底面P1	縄文土器	深鉢	口縁部～胴部	21.4	(10.2)	29.0	RRL(横走)口縁部、LR側面圧痕(横位・縦位)、RRL(縦走)胴部		繊維混入。	縄文時代前期中葉～後葉
89	142	ESK22	N24-9 覆土	縄文土器	深鉢	胴部	-	-	-	隆帯、刺突(縄文原体)、附加条(RLR+LR)?		繊維混入。	縄文時代前期中葉
89	143	ESK22	N24-9 覆土	縄文土器	深鉢	胴部	-	-	-	隆帯、LR縦位?、LR側面圧痕(横位・縦位)		繊維混入。	縄文時代前期中葉
89	144	ESK24	N24-9 覆土	縄文土器	深鉢	口縁部	-	-	-	単軸絡条体第5類(R)		繊維混入。	縄文時代前期中葉～後葉
89	145	ESK24	N24-9 覆土	縄文土器	深鉢	口縁部～胴部	-	-	-	LR側面圧痕(横位・縦位)、単軸絡条体第1類(L)縦位		繊維混入。	縄文時代前期中葉～後葉
89	146	ESK26	N24-8 覆土	縄文土器	深鉢	口縁部	-	-	-	低い隆帯、RL側面圧痕(斜位)、LR側面圧痕(横位)、結束第2種(RL･LR)、口唇部RL		繊維混入。	縄文時代前期中葉～後葉
89	147	ESK26	N24-8 覆土	縄文土器	深鉢	口縁部	-	-	-	単軸絡条体第5類(R)		繊維混入。	縄文時代前期中葉～後葉
89	148	ESK26	N24-8 覆土	縄文土器	深鉢	胴部	-	-	-	低い隆帯、刺突(篦状工具)、LR側面圧痕(横位)、RL側面圧痕(横位)、単軸絡条体第1類(R)縦位		繊維混入。	縄文時代前期中葉
90	150	ESK28	N24-7･8 覆土	縄文土器	深鉢	口縁部	-	-	-	RRL横走		繊維混入。	縄文時代前期中葉～後葉
90	151	ESK28	N24-7 覆土	縄文土器	深鉢	胴部	-	-	-	RL横走、RL側面圧痕(横位)、RL縦走		繊維混入。	縄文時代前期中葉～後葉
90	152	ESK28	N24-7･8 覆土	縄文土器	深鉢	底部	-	(13.0)	(5.5)	RRL縦走		繊維混入。	縄文時代前期中葉～後葉
90	155	ESK30	N24-9 覆土	縄文土器	深鉢	口縁部～胴部	-	-	-	RL側面圧痕(横位)、結束第1種(LR･RL)、RL縦走		繊維混入。	縄文時代前期後葉
90	156	ESK30	N24-9 覆土	縄文土器	深鉢	口縁部	-	-	-	隆帯、単軸絡条体第4類(R)横位、R･LR側面圧痕(横位)		繊維混入。	縄文時代前期中葉～後葉
90	159	ESK31	N24-10 覆土	縄文土器	深鉢	口縁部	-	-	-	LR側面圧痕(横位)		繊維混入。	縄文時代前期中葉～後葉
90	160	ESK32･33	N24-8･9 覆土	縄文土器	深鉢	口縁部	-	-	-	単軸絡条体第4類(L)横位		繊維混入。	縄文時代前期中葉～後葉
90	161	ESK32･33	N24-8･9 覆土	縄文土器	深鉢	口縁部	-	-	-	LR側面圧痕(横位)、結節回転(LR)、RL縦位、口唇RL		繊維混入。	縄文時代前期中葉～後葉
90	162	ESK32･33	N24-8･9 覆土	縄文土器	深鉢	口縁部	-	-	-	R･LR側面圧痕(横位)、結束第1種(LR･RL)横位、RL縦走		繊維混入。	縄文時代前期中葉～後葉
90	163	ESK32･33	N24-8･9 覆土	縄文土器	深鉢	口縁部	-	-	-	隆帯、R側面圧痕(横位)、単軸絡条体1類(R)縦位		繊維混入。	縄文時代前期中葉
90	164	ESK34	N24-8･9 覆土	縄文土器	深鉢	口縁部	-	-	-	低い隆帯、RRL、LR側面圧痕(横位)、単軸絡条体1類(L?)縦位?		繊維混入。	縄文時代前期中葉～後葉
90	166	ESK35･36	N24-7 覆土(ESK35･36)	縄文土器	深鉢	口縁部	20.2	-	(9.4)	低い隆帯、L側面圧痕(斜位・横位)、結束第1種(LR･RL)、RL?縦走		繊維混入。	縄文時代前期中葉～後葉
90	167	ESK35	N24-7 覆土	縄文土器	深鉢	口縁部～胴部	-	-	-	LR縦位?、LR側面圧痕(横位・縦位)、単軸絡条体第1類(R?)縦位?		繊維混入。	縄文時代前期中葉～後葉
91	168	ESK36	N24-7 覆土	縄文土器	深鉢	口縁部	-	-	-	RRL横位、LR側面圧痕(横位・縦位)、単軸絡条体第1類(L)縦位		繊維混入。	縄文時代前期中葉～後葉

図番号	遺物番号	遺構名	出土位置・層位等	種類	器種	部位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	外面調整(文様)	内面調整(文様)	備考(底面調整)	時期
91	169	ESK36	N24-7 覆土	縄文土器	深鉢	口縁部	-	-	-	結束第1種(LR・RL)、LR・RL側面圧痕(横位)、RLR ?		繊維混入。	縄文時代前期中葉～後葉
91	170	ESK37	N24-8 覆土	縄文土器	深鉢	口縁部	-	-	-	LR側面圧痕(横位)、単軸絡条体1類(R)縦位、口唇L側面圧痕?		繊維混入。	縄文時代前期中葉～後葉
91	171	ESK37	N24-8 覆土	縄文土器	深鉢	口縁部	-	-	-	LR側面圧痕(横位・縦位)、RRL縦走		繊維混入。	縄文時代前期中葉～後葉
91	173	ESK38	N24-6・7 覆土	縄文土器	深鉢	口縁部	-	-	-	単軸絡条体1類(L)横位、L側面圧痕(横位)		繊維混入。	縄文時代前期中葉～後葉
91	174	ESK38	N24-6・7 覆土	縄文土器	深鉢	胴部～底部	-	8.5	(10.0)	単軸絡条体1類(R)縦位		繊維混入。	縄文時代前期中葉～後葉
91	176	ESK39	N24-8 覆土	縄文土器	深鉢	頸部	-	-	-	単軸絡条体第4類(R)縦位		繊維混入。	縄文時代前期中葉～後葉
91	177	ESK39	覆土	縄文土器	深鉢	略完形	11.6	5.5	18.6	RL横走(口縁部)、LR側面圧痕(横位・縦位)、RL		繊維混入。	縄文時代前期中葉～後葉
91	178	ESK39	N24-8 覆土	縄文土器	深鉢	口縁部	15.0	-	(9.9)	RRL横走(口縁部)、LR側面圧痕(横位・縦位)、RRL縦走(胴部)		繊維混入。	縄文時代前期中葉～後葉
91	179	ESK39	N24-8 覆土	縄文土器	深鉢	口縁部～胴部	-	-	-	RRL横位、LR側面圧痕(横位・縦位)、RL縦走?		繊維混入。	縄文時代前期中葉～後葉
91	180	ESK39、包含層	N24-6 Ⅲ層(包)、N24-8 覆土(ESK39)	縄文土器	深鉢	口縁部	(22.0)	-	(8.8)	低い隆帯、単軸絡条体第1類(R)横位、単軸絡条体第1類(R)横位		繊維混入。	縄文時代前期中葉
91	181	ESK39	N24-8 覆土	縄文土器	深鉢	口縁部	-	-	-	単軸絡条体第5類(R)横位、R側面圧痕(横位・縦位)、LR、単軸絡条体1類(L)縦位		繊維混入。181・187同一個体?	縄文時代前期中葉～後葉
91	182	ESK39	N24-8 覆土	縄文土器	深鉢	口縁部	-	-	-	単軸絡条体第1類(R)横位		繊維混入。	縄文時代前期中葉～後葉
91	183	ESK39	N24-8 覆土	縄文土器	深鉢	口縁部	-	-	-	単軸絡条体第1類(L)横位?、LR側面圧痕(横位)		繊維混入。	縄文時代前期中葉～後葉
91	184	ESK39	N24-8 覆土	縄文土器	深鉢	口縁部	-	-	-	隆帯、RL横走?、RL縦走		繊維混入。	縄文時代前期中葉
91	185	ESK39	N24-8 覆土	縄文土器	深鉢	口縁部～胴部	-	-	-	LL?横走、R側面圧痕(横位)、RLR?縦走		繊維混入。	縄文時代前期中葉～後葉
91	186	ESK39	N24-8 覆土	縄文土器	深鉢	口縁部	-	-	-	LR・RL(羽状)		繊維混入。	縄文時代前期中葉～後葉
92	187	ESK41、包含層	N24-7 覆土(ESK41)、N24-6 Ⅲ層(包)	縄文土器	深鉢	口縁部～胴部	-	-	-	単軸絡条体第5類(R)、R側面圧痕(横位・縦位)、LR、単軸絡条体第1類(L)縦位		繊維混入。181・187同一個体?	縄文時代前期中葉～後葉
92	188	ESK41	N24-7 覆土	縄文土器	深鉢	口縁部	-	-	-	RRL縦位?、LR側面圧痕(横位・縦位)、RL縦走		繊維混入。	縄文時代前期中葉～後葉
92	189	ESK41、包含層	N24-7 覆土(ESK41)、N24-6Ⅲ層(包)	縄文土器	深鉢	底部	-	(10.4)	(6.6)	RRL縦走		底外面ミガキ。繊維混入。	縄文時代前期中葉～後葉
92	190	ESK41	N24-7 覆土	縄文土器	深鉢	胴部	-	-	-	低い隆帯、L側面圧痕?(横位?・縦位)、LR縦走?		繊維混入。	縄文時代前期中葉～後葉
92	191	ESK42	N24-7 覆土	縄文土器	深鉢	口縁部	-	-	-	低い隆帯、LR側面圧痕(横位)、結束第1種(RL・LR)、単軸絡条体第1類(R)斜位、口唇RL		繊維混入。	縄文時代前期中葉～後葉
92	192	ESK42	N24-7 覆土	縄文土器	深鉢	口縁部	-	-	-	RRL横走?		繊維混入。	縄文時代前期中葉～後葉
92	193	ESK44・45	N24-7 覆土(ESK44・45)	縄文土器	深鉢	口縁部～胴部	(27.6)	-	(24.9)	RRL縦位、LR側面圧痕(横位・縦位)、RRL縦走		繊維混入。	縄文時代前期中葉～後葉
92	194	ESK44・45、包含層	N24-6 Ⅲ層(包)、N24-7(ESK44・45)	縄文土器	深鉢	口縁部～胴部	(30.2)	-	(48.7)	隆帯、刺突(棒状工具)、単軸絡状体第1類(R?)側面圧痕、口唇刺突(篦状工具)、単軸絡状体第1A類(L・R対)縦位(胴部上半)、多軸絡状体(R?)縦位(胴部下半)		繊維混入。	縄文時代前期後葉(円筒下層d式)
92	195	ESK44	N24-7 覆土	縄文土器	深鉢	口縁部	-	-	-	単軸絡条体第5類(R)横位・斜位?、LR側面圧痕(横位)		繊維混入。	縄文時代前期中葉

図番号	遺物番号	遺構名	出土位置・層位等	種類	器種	部位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	外面調整(文様)	内面調整(文様)	備考(底面調整)	時期
93	197	ESK46	N24-7・8 覆土	縄文土器	深鉢	口縁部～胴部	(17.6)	-	(16.1)	RRL、LR側面圧痕(横位・縦位)、RRL縦走(胴部)		繊維混入。	縄文時代前期中葉～後葉
93	198	ESK46	N24-7 覆土	縄文土器	深鉢	口縁部～胴部	-	-	-	RRL横走?、LR側面圧痕(横位)、RL縦走		繊維混入。198・201同一個体?	縄文時代前期中葉～後葉
93	199	ESK46	N24-7 覆土	縄文土器	深鉢	口縁部	-	-	-	R側面圧痕(横位・縦位)、結節回転文(R?)、RLR?縦走		繊維混入。	縄文時代前期中葉～後葉
93	200	ESK46	N24-7 覆土	縄文土器	深鉢	口縁部	-	-	-	低い隆帯、刺突(箆状工具)、沈線?、LR側面圧痕(横位)、L側面圧痕(縦位)		繊維混入。	縄文時代前期中葉～後葉
93	201	ESK46	N24-7 覆土	縄文土器	深鉢	胴部～底部	-	(8.0)	(27.4)	RRL縦走		繊維混入。198・201同一個体?	縄文時代前期中葉～後葉
93	204	ESK47	N24-9 覆土	縄文土器	深鉢	口縁部	-	-	-	LR側面圧痕		繊維混入。	縄文時代前期後葉
93	205	ESK51	N24-30 周溝 P59	縄文土器	深鉢	略完形	(12.0)	7.8	24.1	低い隆帯、L側面圧痕(横位)、RL縦走、結束第1種(RL・RL/LR・RL)		脆弱。繊維混入。	縄文時代前期後葉(円筒下層d式)
93	208	ESD04	覆土	土師器	坏	底部	-	(5.8)	(2.6)	ロクロ	ロクロ	底外面回転糸切。	平安時代
93	209	ESD08	N24-16 1層	須恵器	壺	肩部	-	-	-	ロクロ、ケズリ	ロクロ		平安時代
93	210	ESD11	N24-2 覆土	縄文土器	深鉢	口縁部	-	-	-	単軸絡条体第1類側面圧痕(横位)、結束第1種(RL・LR)		繊維混入。	縄文時代前期後葉(円筒下層d式？)
94	211	ESR01	N24-6 P1	縄文土器	深鉢	口縁部	(19.3)	-	(14.0)	低い隆帯、RL側面圧痕(横位・斜位・縦位)、結束第1種(LR・RL)、RL縦走		繊維混入。	縄文時代前期後葉(円筒下層c式)
94	212	ESR02	本体	縄文土器	深鉢	体部上半	25.6	-	(24.1)	LR側面圧痕(横位・斜位)(菱形状)、RL縦走		繊維混入。	縄文時代前期後葉(円筒下層c式)
94	213	ESR03	1層	縄文土器	深鉢	胴部～底部	-	11.5	(33.0)	RRL縦走		繊維混入。	縄文時代前期中葉
94	214	包含層	N24-6 Ⅲ層	縄文土器	深鉢	口縁部～胴部	(28.6)	-	(24.7)	RL(口縁部)、LR側面圧痕(横位)、RRL縦走(胴部)		繊維混入。214・224同一個体?	縄文時代前期中葉～後葉
94	215	包含層	N24-6 Ⅲ層	縄文土器	深鉢	口縁部～胴部	(18.2)	-	(17.3)	RRL横走、R側面圧痕(横位・縦位)、RRL		繊維混入。	縄文時代前期中葉～後葉
94	216	包含層	N24-5 Ⅲ層、N24-6 Ⅲ層	縄文土器	深鉢	口縁部～胴部	-	-	-	RRL縦位(口縁部)、LR側面圧痕(横位・縦位)、RRL		補修孔。繊維混入。	縄文時代前期中葉～後葉
95	217	包含層	N24-6 Ⅲ層	縄文土器	深鉢	口縁部～胴部	-	-	-	単軸絡条体第1類(R)横位、R側面圧痕(横位)、LR?		繊維混入。	縄文時代前期中葉～後葉
95	218	包含層	N24-5 Ⅲ層	縄文土器	深鉢	口縁部	-	-	-	単軸絡条体第1類(R)横位、RL側面圧痕(横位)		繊維混入。	縄文時代前期中葉～後葉
95	219	包含層	N24-5・6 Ⅲ層	縄文土器	深鉢	口縁部	-	-	-	低い隆帯、単軸絡条体(LR)、側面圧痕(横位・縦位)、RL縦位		繊維混入。	縄文時代前期中葉～後葉
95	220	包含層	N24-6 Ⅲ層	縄文土器	深鉢	口縁部	-	-	-	刺突(棒状工具)、L側面圧痕(横位)、LLR?縦走		繊維混入。	縄文時代前期中葉～後葉
95	221	包含層	N24-8 Ⅲ層	縄文土器	深鉢	口縁部	-	-	-	単軸絡条体(R)横位、RL側面圧痕(横位)、附加条(LR+R?)縦走		補修孔(未貫通)あり。繊維混入。	縄文時代前期中葉～後葉
95	222	包含層	N24-6 Ⅲ層	縄文土器	深鉢	口縁部	-	-	-	低い隆帯、単軸絡条体第5類(R)、側面圧痕(横位)、L側面圧痕(横位)		繊維混入。	縄文時代前期後葉
95	223	包含層	N24-5 Ⅲ層	縄文土器	深鉢	胴部	-	-	-	隆帯、LR側面圧痕(横位)、附加条(RL・L?)、LR		繊維混入。	縄文時代前期中葉～後葉
95	224	包含層	N24-6 Ⅲ層	縄文土器	深鉢	胴部～底部	-	15.6	(44.5)	LR側面圧痕、RL、RRL縦走		繊維混入。214・224同一個体?	縄文時代前期中葉～後葉
95	225	包含層	N24-5・6 Ⅲ層	縄文土器	深鉢	頸部	-	-	-	隆帯、刺突(箆状工具)、R側面圧痕(横位)		繊維混入。	縄文時代前期中葉
95	226	包含層	N24-5 Ⅲ層	縄文土器	深鉢	胴部	-	-	-	R、L、結節回転文(L)		繊維混入。	縄文時代前期中葉～後葉
95	227	包含層	N24-11 Ⅲ層	縄文土器	台付鉢	略完形	(11.6)	7.2	16.3	RL側面圧痕、RL、単軸絡条体第1類(R)縦位?		脆い。繊維混入。	縄文時代前期後葉(円筒下層d式？)

図番号	遺物番号	遺構名	出土位置・層位等	種類	器種	部位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	外面調整(文様)	内面調整(文様)	備考(底面調整)	時期
95	228	包含層	N24-5・6 Ⅲ層	ミニチュア	ミニチュア	口縁部	(8.6)	-	(4.5)	指アト	指アト		縄文時代
96	236	遺構外	N24-8 Ⅰ層	縄文土器	深鉢	口縁部	-	-	-	結束第1種(LR・RL)、LR側面圧痕(横位・縦位)、RL側面圧痕(横位)		繊維混入。	縄文時代前期中葉
96	237	遺構外	N24-11 Ⅰ層	縄文土器	壺	胴部	-	-	-	沈線			縄文時代後期前葉
96	238	遺構外	表採	土師器	甕	口縁部	-	-	-	ケズリ、横ナデ	ナデ、横ナデ		平安時代
96	239	遺構外	表採	須恵器	坏	口縁部	-	-	-	ロクロ	ロクロ、火だすき		平安時代
96	240	遺構外	N24-27 Ⅰ層	須恵器	坏	底部	-	(5.0)	(2.2)	ロクロ、火だすき、刻書(⌒)	ロクロ、火だすき	底外面回転糸切。	平安時代
96	241	遺構外	表採	須恵器	壺	胴部	-	-	-	ロクロ	ロクロ		平安時代
96	242	遺構外	表採	須恵器	甕	口頸部	-	-	-	タタキ、横ナデ	あて具痕、横ナデ		平安時代

表21　農道24号Ｅ区　石器観察表

図番号	遺物番号	遺構名	出土位置・層位	器種	分類	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石材	備考
77	8	ESI-04	1層	磨石	全面	9.3	8.7	6.0	666.9	安山岩	
78	23	ESI-02 Pit3	覆土	削掻器	3側縁	6.5	6.0	2.0	69.0	珪質頁岩	
78	24	ESI-02	N24-20　4層	削掻器	3側縁	6.5	5.9	1.8	68.5	珪質頁岩	
78	25	ESI-02	N24-20　4層	石匙	縦型	8.6	2.0	0.9	15.6	珪質頁岩	
78	26	ESI-02S-1	カマド	磨石	全面	12.4	10.7	5.5	877.2	凝灰岩	未製品？・被熱？で脆い？
79	36	ESI-03SK02	2層	磨石		7.9	5.6	3.5	175.6	凝灰岩	砥石？
80	49	ESI-06	N24-4・5　覆土	削掻器	1側縁	6.0	3.7	1.1	25.7	珪質頁岩	
81	58	ESI-07	N24-1　覆土	石匙	縦型	6.0	3.1	0.7	11.4	珪質頁岩	
81	59	ESI-07	覆土	石匙	横型	4.1	7.2	1.8	29.8	珪質頁岩	
82	66	ESI-08	覆土	石鏃	無茎平基	3.1	1.5	0.6	2.1	玉髄	
82	67	ESI-08	覆土	石鏃	無茎尖基	2.8	1.1	0.5	0.7	珪質頁岩	
82	68	ESI-08	N24-2　覆土	削掻器	3側縁	2.5	3.0	0.6	5.9	珪質頁岩	石匙の欠損？
82	69	ESI-08	N24-2　覆土	削掻器	3側縁	4.5	0.3	0.9	9.7	珪質頁岩	
82	70	ESI-08	N24-2　覆土	削掻器	3側縁	4.7	4.3	0.9	15.1	珪質頁岩	
82	71	ESI-08	N24-2　覆土	削掻器	2側縁	4.7	4.8	1.3	34.8	珪質頁岩	
84	81	ESI-09	N24-2・3　覆土	石匙	縦型	7.9	3.0	1.2	26.0	珪質頁岩	
84	82	ESI-09	覆土	石匙	縦型	6.0	3.3	0.7	12.9	珪質頁岩	
84	83	ESI-09	N24-2・3　覆土	削掻器	2側縁	5.6	2.3	1.1	14.0	珪質頁岩	
84	84	ESI-09	N24-2・3　覆土	削掻器	3側縁	3.2	2.8	0.8	6.0	珪質頁岩	石匙の欠損？
84	85	ESI-09	覆土	削掻器	3側縁	2.3	1.3	0.3	0.8	珪質頁岩	鏃か？
84	86	ESI-09	N24-2・3　覆土	抉入扁平磨製石器		8.3	6.1	1.5	87.6	流紋岩	
84	87	ESI-09	N24-2・3　覆土	石皿	磨面両面	9.1	13.0	5.0	527.6	安山岩	
84	88	ESI-09	N24-3　覆土	磨製石斧	基部	11.0	4.9	3.2	273.4	緑色凝灰岩	刃部加工？
84	89	ESI-09	N24-2・3　覆土	磨製石斧？		7.1	6.0	3.3	238.3	緑色岩	刃部加工？
86	109	ESI-11	覆土	石匙	縦型	7.7	2.8	1.3	25.0	珪質頁岩	
86	110	ESI-11	N24-4・5　覆土	石匙	縦型	7.5	5.0	1.3	33.8	珪質頁岩	
86	111	ESI-11	N24-4・5　覆土	抉入扁平磨製石器		12.9	9.4	2.2	245.8	凝灰岩	
87	116	ESI-13S-1	N24-24　底面	台石	磨面両面	17.9	12.8	7.9	2574.2	緑色凝灰岩	
87	119	ESK-06S-2	N24-24　1層	抉入扁平磨製石器		22.1	9.2	2.2	441.9	流紋岩	完形・研磨は顕著でない
87	120	ESK-06S-1	N24-25　1層	抉入扁平磨製石器		23.5	10.3	1.7	448.9	凝灰岩	完形
89	149	ESK-26	N24-8　覆土	石鏃	無茎凹基	4.3	1.7	0.5	2.9	珪質頁岩	
90	153	ESK-28	底面	石鏃	無茎尖基	4.3	1.2	0.4	1.7	珪質頁岩	
90	154	ESK-28	N24-7　覆土	半円状扁平打製石器		12.2	9.9	2.5	421.6	安山岩	
90	157	ESK-30	N24-9　焼土中	削掻器	3側縁	5.2	2.6	1.6	18.2	珪質頁岩	
90	158	ESK-30	N24-9　覆土	削掻器	2側縁	5.7	3.7	1.0	13.4	珪質頁岩	
90	165	ESK-34	N24-8・9　覆土	削掻器	4側縁	3.6	4.3	0.8	12.6	緑色凝灰岩	
91	172	ESK-37	覆土	石篦		4.0	2.6	1.1	11.8	珪質頁岩	
91	175	ESK-38	N24-6・7　覆土	凹石		13.6	9.0	2.3	342.0	凝灰岩	扁平礫
92	196	ESK-44	覆土	石匙	縦型	6.8	3.2	1.1	21.0	珪質頁岩	
93	202	ESK-46	覆土	石匙	縦型	5.6	3.2	0.6	9.8	珪質頁岩	
93	203	ESK-46	N24-7・8　覆土	抉入扁平磨製石器		11.4	6.2	2.4	262.2	凝灰質砂岩	
93	206	ESD-01	1層	磨石		15.3	7.0	3.7	546.0	凝灰岩	抉入扁平磨製石器の未製品？
93	207	ESD-03	24-22　1層	石鏃	無茎尖基	2.8	1.1	0.3	0.8	珪質頁岩	
96	230	包含層	N24-10　Ⅲ層	石匙	縦型	9.4	2.2	0.9	17.9	珪質頁岩	
96	231	包含層	N24-6　Ⅲ層	削掻器	2側縁	4.6	3.2	1.4	23.6	珪質頁岩	
96	232	包含層	N24-6　Ⅲ層	半円状扁平打製石器？	刃部磨	10.9	7.2	2.0	182.4	流紋岩	
96	233	包含層	N24-5・6　Ⅲ層	抉入扁平磨製石器		13.7	7.4	1.4	166.7	凝灰岩	
96	234	包含層	N24-6　Ⅲ層	抉入扁平磨製石器		7.8	10.1	1.7	200.3	流紋岩	下面平坦
96	235	包含層	N24-6　Ⅲ層	凹石		11.0	7.7	3.8	413.7	凝灰岩	
96	243	遺構外	N24-8　Ⅰ層	石鏃	無茎尖基	2.7	1.0	0.4	0.7	玉髄	
96	244	遺構外	N24-27　Ⅴ層	石鏃	無茎尖基	4.4	1.8	0.5	2.9	珪質頁岩	
96	245	遺構外	N24-27　Ⅴ層	石鏃	無茎尖基	5.9	1.8	0.6	6.4	珪質頁岩	石槍？

97	246	遺構外	N24-22　Ⅴ層	石匙	縦型	16.4	4.3	1.3	91.2	珪質頁岩	
97	247	遺構外	N24-27　Ⅴ層	石匙	縦型	7.0	4.7	1.1	32.3	珪質頁岩	
97	248	遺構外	N24-21　Ⅴ層	石箆		6.9	2.9	1.1	23.2	珪質頁岩	
97	249	遺構外	N24-21　Ⅴ層	削掻器	3側縁	6.5	2.9	1.2	16.7	緑色凝灰岩	
97	250	遺構外	N24-30　Ⅰ層	半円状扁平打製石器		15.6	8.8	3.6	750.2	安山岩	A類
97	251	遺構外	N24-28　Ⅴ層	磨製石斧		11.4	4.6	2.9	283.6	緑色凝灰岩	完形
97	252	遺構外	N24-27　Ⅴ層	磨製石斧		14.3	5.0	2.8	340.2	緑色凝灰岩	完形
97	253	遺構外	N24-27　Ⅰ層	磨石		16.4	7.2	3.6	479.8	凝灰岩	平坦面もスリ
97	254	遺構外	N24-28　Ⅰ層	台石	磨面両面	12.6	12.8	4.6	1121.6	安山岩	

表22　農道24号Ｅ区　土製品観察表

図番号	遺物番号	遺構名	出土位置・層位	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	外面調整(文様)	備考	時期
79	41	ESI-05	N24-6　覆土	円盤状	6.4	(3.6)	1.4	25.7		中心に孔	
85	101	ESI-10	N24-2･3　覆土	羽口	(3.9)	(2.9)	1.7	18.4			
95	229	包含層	N24-6　Ⅲ層	円盤状	5.8	6.1	0.8	37.8	結束第1種(LR･RL)、表面耗滅		縄文時代

表23　農道24号Ｅ区　石製品観察表

図番号	遺物番号	遺構名	出土位置・層位	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石材	備考
77	9	ESI-01	P-43　1層	碁石状	1.8	1.7	0.5	1.4	凝灰岩	

第６節　農道24号Ｗ区の検出遺構と出土遺物

農道24号Ｗ区は、農道24号と配水管15号、給水栓10号の範囲を含んでおり、長さ約150m、幅約６ｍで、合計920㎡を調査した。配水管15号は農道24号と併走することから、農道24号と一体化した調査区であり、給水栓10号は24-81グリッドで北側に約６ｍ張り出した部分である。

77グリッドライン以北では撹乱が著しく、遺構が遺存していないことが判明した（図118）。地形的に78グリッドラインに比高差約３ｍの段丘崖があり、給水栓10号地点を含む79ライン以北は沖積低地にあたる。ここではトレンチを２本設定して調査を行い、近代以降と思われる水路跡や道跡が検出されたのみで古代以前の遺構は確認されず、水路跡からは磨滅した縄文土器片や土師器片が出土したが流入したものとみられることから、この区域の調査はこれで終了した。

以上のことから、農道24号Ｗ区で実質、本調査範囲となったのは52グリッドライン付近から77グリッドライン付近までである。ここで検出された遺構とその略称は、下記のとおりである。

竪穴住居跡（WSI）	14棟（いずれも平安時代で、うち２軒で建て替えあり）
土坑（WSK）	55基（縄文12基：WSK02・13・14・19・20・22・23・28～30・37・38、 平安43基：WSK03～12・15～18・21・24～27・31～36・39～55）
掘立柱建物跡（WSB）	１棟
ピット（WSP）	22基　※単独のもののみ
ピット列	１条
溝跡（WSD）	18条
溝状土坑（WSV）	１基
捨て場	１ヶ所

縄文時代の遺構は58グリッドライン付近の捨て場と65グリッドライン以西にみられ、平安時代の遺構は71グリッドライン以南・以東に多くみられる。72グリッドライン以北は、西側へ落ちる段丘の縁にあたり、現代の道跡が調査区を縦断して削平・撹乱を受けていたこともあって、西半の斜面下方で見つかった遺構はWSK28のみであった。

農道24号W区から出土した遺物は、土器類31箱、石器類２箱の合計33箱で、縄文時代前期の捨て場から出土した縄文土器以外、大半を占めるのは平安時代のものである。

以下に各遺構の詳細を記載していくが、下記の遺構は整理作業等に伴って名称を変更した。

第１号土坑（WSK01）	→	（撹乱であることが判明したため欠番）
第２号溝跡（WSD02）	→	第１号溝状土坑（WSV01）

１　検出遺構

（１）　竪穴住居跡

平安時代の竪穴住居跡が14軒検出され、そのうち２軒（WSI03・04）で建て替えが認められた。

第１号竪穴住居跡（WSI01、図106・107・119）

［位置 ・確認］調査区中央南部、24－63・64グリッドに位置し、遺構確認面の標高は33.8 m、第Ⅳ層で床面及び壁溝を確認した。WSK06、WSP17は本竪穴住居跡に伴うものである可能性が高い。WSK05・25、WSP18より本遺構が古いが、WSP19との新旧関係は不明である。

［平面形・規模］南東側が調査区域外に延びていて遺構の全容は不明だが、平面形は方形と推定される。壁長は、北西壁5.1m、北東壁（3.9）m、南西壁（1.4）mで、いずれの壁も確認面からの深さは２～７cmで立ち上がる。住居の軸方向はN－ 125°－Eである。

［床面・壁溝］ロームを混入する貼り床を一部で検出したが、床面の大半が黒色土を用いていたようで、床面全面を検出することができなかった。壁溝は幅12～27cm、深さ７～19cmで、壁際を全周するように巡らされているようである。

［柱穴］WSP17が本竪穴住居跡に伴う主柱穴と思われる。61×55cmの円形で床面からの深さ52cmで、柱痕を有している。また壁際にピット７基が検出された。Pit１はWSK25北西壁際で検出され、Pit３はWSK05底面で検出されたもので、いずれも位置的にWSI01に付属するものと判断されたことからWSI01のPit１・３とそれぞれ改称した。

［カマド］調査区域内では明確なカマドは検出されなかったが、北西壁際の西寄りに深さ４cmまで被熱が及んで赤色化した47×30cmの火床面が検出されたことから、ここにカマドが存在していた可能性がある。しかし煙道は遺存しておらず、他の竪穴住居跡では南東壁にカマドが作られるものが多いことから、このカマドは壊され、調査区域外の南東壁にカマドを作り直している可能性が考えられる。

［その他の施設］位置的にWSK06が本竪穴住居跡に伴う施設である可能性がある。

［堆積土］堆積土を図化することができなかったが、調査区壁の土層観察によると住居廃絶後は黒色土が堆積しており、自然堆積と思われる。貼床及び掘り方には黒褐色土が用いられている。

［出土遺物］覆土からの出土はなく掘り方から土師器片が少量出土した。甕口縁部（１）を図示した。

［小結］出土遺物、遺構の重複関係などから、10世紀前半頃に廃絶されたものと思われる。

第２号竪穴住居跡（WSI02、図108・119）

［位置・確認］調査区中央南部、24－63・64グリッドに位置し、遺構確認面の標高は33.6m、第Ⅳ層で確認した。他遺構との重複は認められなかった。

［平面形・規模］北側大半が調査区域外に延びていて、遺構の全容は不明である、平面形は方形と推定される。壁長及び確認面から床面までの深さは、南西壁（2.6）m・深さ24～32cm、南東壁（3.3）m・深さ24～27cmを測る。いずれの壁も垂直に近い立ち上がりをみせている。南西壁にカマドがあるとすれば、住居の軸方向はN－ 60°－Wである。

［床面・壁溝］床面は掘り方を有し、貼床によって平坦に整えられている。壁溝は幅15～24cm、深さ18～26cmで、壁際を全周するように巡らされている。

［柱穴］ピットが４基検出され、そのうちPit1が主柱穴と思われる。図示していないが、Pit１からは

土師器甕胴部片が出土した。
[カマド・その他の施設]検出されなかった。
[堆積土]上位には黒色土が堆積し、床面付近には黒褐色土が堆積している。北東側ではロームを多量に含む土壌が互層状に堆積し、南隅付近では床面から約10～20㎝浮いた状態で焼土及び炭化物が検出された。人為堆積と思われ、調査区域外近くにカマドが存在するものと推定される。
[出土遺物]土師器、須恵器が少量出土し、土師器甕（２～６）、須恵器坏（７～９）を図示した。５・６は砂底である。７・８の胴部外面、９の底部外面にそれぞれ刻書がみられる。８の底外面は回転糸切り後、再調整されている。本住居跡から出土した炭化材４点について、樹種同定を行った（第３章第４節参照）。
[小結] 出土遺物、堆積土の様相などから、10世紀前半頃に廃絶されたものと思われる。WSI02床面出土のC-4についてAMS法による年代測定を行った（第３章第５節参照）結果、８世紀後半～９世紀後半の年代が示され、古木効果の可能性がある。

第３号ａ竪穴住居跡（WSI03a、図111・119）
[位置・確認]調査区中央西部、24－67グリッドに位置し、遺構確認面の標高は33.2m、第Ⅳ層で確認した。調査の結果、第３号竪穴住居跡は建て替えられていることが判明し、新期をWSI03a、貼り床層下層から検出された古期の住居跡をWSI03bとした。またWSK35と重複し、本遺構が新しい。
[平面形・規模]大半が調査区域外にあって遺構の全容は不明であるが、北隅部分約４分の１程度の検出で、全体の平面形は方形を呈するものと思われる。壁長及び確認面から床面までの深さは、北西壁(3.5)ｍ・深さ７～24㎝、北東壁(3.6)ｍ・深さ11～21㎝を測る。いずれの壁も垂直に近い立ち上がりをみせている。南東壁にカマドがあるとすれば、住居の軸方向はＮ－ 130°－Ｅである。
[床面・壁溝]本住居跡はWSI03bを埋めて貼り床を施して平坦な床としているが、一部地山を床面としている部分もある。壁溝は幅25～33㎝、深さ10～23㎝で、北西壁の西側では検出されなかった。
[柱穴・カマド]調査区域内ではいずれも検出されなかった。
[その他の施設]ピット２基が検出された。Pit１は53×43㎝の歪な隅丸長方形で深さ28㎝、Pit２は37×34㎝の歪な円形で深さ10㎝である。Pit１から土師器甕片、縄文土器片が少量出土した。
[堆積土]黒褐色土が主として堆積し、人為堆積の可能性がある。
[出土遺物]縄文土器、土師器、須恵器が少量出土し、量的には縄文土器が最も多い。そのうち土師器坏(10・11)・小甕(12～14)・甕(15～17)、須恵器坏(18・19)・壺(20・21)、縄文土器(22～24)を図示した。須恵器坏の18には並行する２条の刻書が、Pit１から出土した19には円形の刻書がみられる。縄文土器は前期中葉のもので、22・23は同一個体とみられる。
[小結] 出土遺物、遺構の重複関係、堆積土の様相などから、10世紀前半頃に廃絶されたものと思われる。

第３号ｂ竪穴住居跡（WSI03b、図111・119）

［位置・確認］調査区中央南部、24－67グリッドに位置し、遺構確認面の標高は33.1 m、WSI03a床面精査中に小規模な壁溝を確認した。調査の結果、第３号竪穴住居跡は造り替えられていることが判明し、新期をWSI03a、貼り床層下層から検出された古期の住居跡をWSI03bとした。

［平面形・規模］大半が調査区域外にあって北隅付近のみの検出で、平面形は方形をなすものと推定される。確認できた規模は、北西壁（1.9）m、北東壁（1.1）mを測る。本住居跡は床面が遺存しておらず、WSI03a床面からの深さはいずれも不明である。また、南東壁にカマドがあるとすれば、住居の軸方向はN－ 123°－Eである。

［床面・壁溝］床面は検出されなかったが、掘り方及び壁溝を有している。壁溝は幅10～18cm、遺構確認面からの深さは北西壁33～38cm、北東壁27～31cmを測る。WSI03aと同様、北西壁の西側では検出されなかった。

［柱穴・カマド等］調査区域内ではいずれも検出されなかった。

［堆積土］床面が遺存しておらず堆積土は不明で、掘り方は黒褐色土を含む明黄褐色土である。

［出土遺物］堆積土がないことから本住居跡に帰属する遺物は出土していないが、SI03a掘り方から出土した縄文土器口縁部片（24）が本住居跡埋め土からの出土と解釈できる。

［小結］出土遺物、遺構の重複関係、堆積土の様相などから、９世紀末葉～10世紀前半頃に廃絶されたものと思われる。

第４号ａ竪穴住居跡（WSI04a、図112～114・120）

［位置・確認］調査区中央西部、24－68・69グリッドに位置し、遺構確認面の標高は32.7～33.1 m、第Ⅳ層で確認した。調査の結果、WSI04は建て替えられていることが判明したことから、新期をWSI04a、貼り床層下層から検出された古期の住居跡をWSI04bとした。WSK48・49より新しく、WSK50より古い。またWSK45、WSD017は本竪穴住居跡に伴う可能性がある。

［平面形・規模］北西側が斜面下方で住居北西半が遺存していないが、平面形は方形と推定される。壁長及び確認面から床面までの深さは、南西壁（1.7）m・深さ16～24cm、南東壁（5.3）m・深さ14～19cmを測る。いずれの壁も垂直に近い立ち上がりで、住居の軸方向はN－ 111°－Eである。

［床面・壁溝］本住居跡はWSI04bを埋めて平坦な床に整えられているが、地山をそのまま床面としている部分もある。壁溝は幅11～20cm、深さ５～16cmで、南西壁際にのみ検出された。

［柱穴］ピットは７基検出され、床面の遺存状況、壁溝・床下溝等との位置関係からWSI04aに付属するaPitとWSI04bに付属するbPitの2時期に分けてみたが、共用しているものがある可能性がある。いずれも主柱穴は不明である。aPit１は33×31cmの歪な円形で深さ15cm、aPit２は65×50cmの歪な楕円形で深さ14cm、aPit３は72×62cmの歪な楕円形で深さ21cmの規模である。

［カマド］調査区域内でカマドは検出されなかったが、南東壁際で焼土や粘土が散布していた範囲が検出されたことから、その付近の調査区域外にあるものと推定される。

［その他の施設］WSK45が本竪穴住居跡に付属する施設である可能性がある。また、WSI04b構築時の床下溝も引き続き機能していたと思われる。

［堆積土］第１層には焼土及び炭化物が多く含まれ、上位には黒色土もしくは黒褐色土が、下位には暗

褐色土が堆積している。

［出土遺物］土師器・須恵器が約１箱分、縄文土器が２点出土した。そのうち、覆土から出土した土師器坏（25）・小甕（26）・甕（27・28）、須恵器坏（29）・壺（30・31）、石篦（32）を図示した。また掘り方からは土師器坏（33・34）、須恵器甕（35）が出土した。須恵器坏（29）外面には「×」状の刻書が、図上復元した須恵器壺（30）頸部付近には「１」状の刻書がみられる。

［小結］出土遺物、遺構の重複関係、堆積土の様相などから、10世紀前半頃に廃絶されたものと思われる。

第４号ｂ竪穴住居跡（WSI04b、図112～114・120）

［位置・確認］調査区中央西部、24－68・69グリッドに位置し、遺構確認面の標高は32.7～33.1 m、WSI04aの精査中に壁溝を検出した。調査の結果、WSI04は建て替えられていることが判明したことから、新期をWSI04a、貼り床層下層から検出された古期の住居跡をWSI04bとした。WSK48・49より新しく、WSK50より古い。またWSK45、WSD17は本竪穴住居跡に伴う可能性がある。

［平面形・規模］住居の北東部が遺存していないが、平面形は長方形と推定される。壁長は、北西壁（4.8）m、南西壁（4.1）m、南東壁（3.3）mで、壁は遺存していないため床面までの深さは不明である。住居の軸方向はＮ－ 120°－Ｅである。

［床面・壁溝］南東壁際、カマド周辺で地山をそのまま使用していた床面が検出された。壁溝は幅15～30cm、深さ５～８cmで、カマド部分でも幅８～12cm、深さ12cmの壁溝を検出したことから、全周するように巡らされていた可能性がある。

［柱穴］ピットは７基検出され、床面の遺存状況、壁溝・床下溝等との位置関係からWSI04aに付属するaPitとWSI04bに付属するbPitの2時期に分けてみたが、共用しているものがある可能性がある。いずれも主柱穴は不明である。bPit１は39×33cmの歪な楕円形で深さ19cm、bPit２は30×29cmの歪な隅丸方形で深さ18cm、bPit３は50×45cmの歪な円形で深さ50cm、bPit４は32×29cmの歪な楕円形で深さ15cmの規模である。

［カマド］南東壁で半地下式カマドが検出されたが、WSI04aに改築した際、大半が壊されており、火床面と袖の一部、煙道掘り方が検出された。火床面は30×42cmの楕円形で、深さ８cmまで被熱していた。煙道は住居外に約0.7m 延び、煙道の軸方向はＮ－120°－Ｅと推定される。

［その他の施設］貼り床の下から床下溝２条（うち１条はWSD17）を検出した。雨水や湿度を逃すための暗渠として機能していたものと考えられ、WSI04aでもその役目を果たしていたものと思われる。

［堆積土］WSI04aの貼り床層で埋め戻されている状態であり、堆積土は不明である。

［出土遺物］WSI04a掘り方から出土した遺物が本住居跡の埋め土からの出土と解釈でき、土師器、須恵器が少量出土した。そのうち土師器坏（33・34）、須恵器甕（35）を図示した。

［小結］出土遺物、遺構の重複関係、堆積土の様相などから、10世紀前葉頃に廃絶されたものと思われる。

第５号竪穴住居跡（WSI05、図100・101・121）

［位置 ・確認］調査区東側西部、24－57～59グリッドに位置し、遺構確認面の標高は33.7 m、第Ⅱ～Ⅲ層で確認した。WSP09・10・16より本遺構が古く、WSK13、捨て場より新しい。

［平面形・規模］北西側約３分の２が調査区域外にあり、遺構の全容は不明であるが、平面形は方形と推定される。壁長及び確認面から床面までの深さは、南西壁(6.3)ｍ・深さ８～12㎝、南東壁(5.3)ｍ・深さ３～５㎝を測る。いずれの壁もやや開きながら立ち上がる。カマドが検出されていないが、南西壁にカマドがあるとすれば住居の軸方向はＮ－166°－Ｗである。

［床面 ・壁溝］床面の大部分は地山（第Ⅲａ層）をそのまま床面としているが、西側で部分的に貼り床を施している。

［柱穴・カマド］調査区域内では検出されなかった。

［その他の施設］焼土が58×27㎝の不整楕円形の範囲で、暗褐色土ともに検出された。掘り方を有しているが廃棄焼土とみられ､火床面ではない。床下溝は住居南側と西側セクション部分で検出された。住居南側で検出されたものは幅23～42㎝、深さ２～17㎝で弧状を呈し、南東隅付近が最も深くなっている。西側セクション部分のものは幅40㎝程度、深さ14㎝で、溝の平面形状は不明である。図示していないが床下溝からは土師器１点、縄文土器２点が出土した。

［堆積土］黒色土及び黒褐色土が堆積し、自然堆積と思われる。南西壁の西側では床面から火山灰が検出され、分析の結果、白頭山苫小牧火山灰であることが確認された（第３章第１節）。

［出土遺物］土師器、須恵器、縄文土器が少量出土した。本住居跡の下位には沢の埋没に伴って縄文土器が流入して形成された縄文時代前期の捨て場が位置していることもあり、縄文土器が約２分の１を占めている。そのうち、覆土から出土した土師器小甕（36・37）・甕（38・39）、縄文土器（40～49）を図示した。39は平成24年度の試掘調査で出土した遺物と接合したものである。縄文土器はいずれも前期中葉～後葉と思われるものである。口縁に並行する縄の圧痕を巡らす40～43、縦位方向に条痕施文する47～49は、それぞれ同一個体と思われる。

［小結］ 床面から白頭山苫小牧火山灰が検出されたことから、白頭山苫小牧火山灰降下直前に廃棄された住居跡と考えられる。また出土遺物、遺構の重複関係、堆積土の様相などから、９世紀末葉～10世紀初頭頃に廃絶されたものと思われる。

第６号竪穴住居跡（WSI06、図102～105・122・138）

［位置 ・確認］調査区中央南部、24－62・63グリッドに位置し、遺構確認面の標高は33.9 m、第Ⅳ層で確認した。WSP30が本竪穴住居跡に伴うものと思われる。WSK41・46・55、WSP20より本遺構が新しく、WSK25より本遺構が古い。また、WSI06・07・09周辺で土坑やピットが多数検出されているが、それらとの同時性や新旧関係が不明なものが多い。

［平面形 ・規模］南側が調査区域外に延び、北側は他遺構との重複等によって確認することができなかったが、壁溝を西側及び東側で、床面を西側及びカマド周辺で検出した。平面形は北西・南東壁が約(6.0)ｍ、南西壁が約(5.3)ｍ程度とみられ、平面形は長方形を呈する可能性がある。壁は遺存していない。住居の軸方向はＮ－ 127°－Ｅである。

［床面・壁溝］部分的な床面を３ヶ所で検出し、ロームや焼土粒を含む黒褐色土で貼り床を施している。

壁溝は、北西壁溝が幅14～18cm、深さ３～６cm、南西壁溝が幅15～20cm、深さ３～10cm、南東壁溝が幅20～29cm、深さ10～20cmで、地形的に高い南東側の壁溝がより幅広く、より深く検出された。南東壁溝はWSI09カマドを壊し、もともと壁際を全周するように巡らされていた可能性がある。

[柱穴]西側の壁溝で検出されたPit１とWSP30が本竪穴住居跡に伴う柱穴である可能性がある。

[カマド]南東壁の西寄りに半地下式カマドの一部が検出され、袖部・煙道部は長さ60cmを確認したが大半は調査区域外に延びている。火床面は30×24cmの規模で検出され、深さ約５cmまで被熱していた。煙道の軸方位はＮ－146°－Ｅである。

[その他の施設]本竪穴住居跡周辺では多数の遺構が検出されており、一部は本竪穴住居跡に伴う可能性がある。

[堆積土]住居廃絶後の堆積土は不明であるが、貼床層及び掘り方はローム粒・焼土粒を含む黒褐色土が主体となっている。

[出土遺物]土師器、須恵器、縄文土器が少量出土した。そのうち、土師器小杯(50)・皿？(51)・小甕(52)・甕(53～55)、砥石(56)を図示した。50は底面が厚く作られている小杯で、内外面ともオサエ・ナデ調整が施されている。51は胴部が直線的に立ち上がる皿の形状をなすが、やや器高が高く、坏との中間的な形状を示している。56は凝灰岩製の砥石で大きく破損しているが砥面が４面確認できる。また、図138－223はWSD18出土遺物と接合したもので、胴部上半に輪積痕を残しながらやや細かいヘラナデ調整が施され、底外面には菰編痕がみられる。また図138－224は、WSI07・WSD18出土遺物と接合した、胴部の膨らみが豊かな土師器甕である。

[小結] 出土遺物、遺構の重複関係などから、10世紀中葉頃に廃絶されたものと思われる。

第７号竪穴住居跡(WSI07、図102～105・122・138)

[位置・確認]調査区中央南部、24－61・62グリッドに位置し、遺構確認面の標高は33.9 m、第Ⅲ～Ⅳ層で確認した。またWSI06・08・09、WSK55、WSD19、WSP29より本遺構が新しい。WSP28は本竪穴住居跡に伴うものと思われる。また、WSI06・07・09周辺で土坑やピットが多数検出されているが、それらとの同時性や新旧関係が不明なものが多い。

[平面形・規模]本竪穴住居跡はカマド周辺部分のみ確認できたため、不明な点が多い。平面形は方形と推定され、壁長及び確認面から床面までの深さは、南東壁は長さ(205)cm、深さ４～11cm、南西壁は長さ(84)cm、深さ９～11cmで、方形になるものと推定される。いずれの壁もしっかりと立ち上がり、住居の軸方向はＮ－ 133°－Ｅである。

[床面・壁溝]床面はカマド火床面北西部でのみ検出され、WSI08重複部分にも延びている。壁溝は検出されていない。

[柱穴]カマド袖脇にPit１が、南西隅にWSP28が検出された。Pit１は28×19cm、深さ53cm、WSP28は25×24cm、深さ26cmで、図示していないが土師器甕片２点が出土した。

[カマド]南東壁の西寄りに、半地下式カマドが検出されたが、煙道部中ほどが撹乱によって壊されている。袖部・煙道部は約1.4m延び、煙道の軸方向はＮ－152°－Ｅと思われる。火床面は19×14cmで、深さ3cmまで被熱していた。

[その他の施設]周辺では多数の遺構が検出されており、一部は本竪穴住居跡に伴う可能性がある。

[堆積土]廃絶後の堆積土は遺存していないが、ロームを含む黒色土の貼床層と掘り方層を確認した。
[出土遺物]土師器、須恵器が少量出土し、縄文土器もわずかに出土した。そのうち、土師器甕(57～59)・ミニチュア壺(60)、須恵器坏(61)を図示した。60は南隅の覆土から出土したオサエ・ナデで調整されるミニチュア壺で、61は床面直上から出土した外面に刻書がみられる須恵器坏である。WSI08の確認面より上位から出土しており、WSI08ではなく本住居跡に帰属するものである。また図138－224はWSI06・WSD18出土遺物と接合した、胴部の膨らみが豊かな土師器甕である。
[小結] 出土遺物、遺構の重複関係などから、10世紀中葉～後半頃に廃絶されたものと思われる。

第８号竪穴住居跡(WSI08、図102～105・123)
[位置・確認]調査区南側北部、24－61グリッドに位置し、遺構確認面の標高は33.7m、第Ⅳ層で確認した。WSK27・55、WSD19より本遺構が新しく、WSI07・12、WSK36・53、WSD14・15・18より古い。
[平面形・規模]北側が調査区域外に延び、他遺構との重複等によって壊されており、不明な点が多い。平面形は方形と推定され、確認できた壁長及び確認面から床面までの深さは、南西壁(4.1)ｍ・深さ21～27cm、南東壁(3.3)ｍ・深さ25cmを測り、いずれの壁も垂直に近い立ち上がりをみせている。住居の軸方向はＮ－130°－Ｅである。
[床面・壁溝]床面は大部分を貼り床によって平坦に整えらており、15～25cm程度の掘り方を有している。壁溝は幅16～24cm、深さ８～15cmで、壁際を全周するように巡らされているものと思われる。カマド部分でも壁溝が確認でき、一旦壁溝を掘削し、埋め戻してカマドを構築したものと考えられる。
[柱穴]竪穴住居跡内で柱穴は検出されなかった。
[カマド]南東壁のやや西寄りで半地下式カマドが検出された。火床面は３枚あり、１枚目は31×27cm、深さ２cmまで被熱し、２枚目は39×25cm、深さ7cmまで被熱し、３枚目は33×16cm、深さ3cmまで被熱していた。３枚目火床面を使用後、４～６cmの厚さで黒褐色土とロームの混合した土壌で埋めて２枚目火床面を形成し、２枚目火床面上部に同様に埋めて１枚目火床面を形成したものである。２枚目火床面の奥から土師器底部片(72)等が出土しており、支脚として設置されていた土器がそのまま埋められた可能性がある。煙道は住居外に約1.2m 延び、煙出部末端の粘土材が遺存している。煙道の軸方向はＮ－130°－Ｅである。
[その他の施設]床下溝、北東部からPit1が、南東壁外側でPit2が、それぞれ検出された。床下溝は幅16～23cm、床面からの深さは６～15cmで、南コーナー付近から北側へ延びている。南端より北端の底面が約６cm低く北側へ傾斜し、黒色土が堆積している。Pit１は65×57cmの歪な円形で深さ35cmで、底面中央部には23×16cm、深さ30cmの小ピットがある。黒色土が堆積しており、ロクロが設置されていたロクロピットと思われ、図示していないが土師器甕片が出土している。Pit2は46×36cmの楕円形、深さ28cmの規模で、WSD13で検出されたPit1や西隅外側のピット(Pit３)と組み合わされて掘立柱建物跡を構成する可能性が考えられる。
[堆積土]上位は黒褐色土が、下位はロームや焼土を含む褐色土や黒色土が堆積している。掘り方にはロームを含む黒色土で貼床としている。
[出土遺物]土師器、須恵器が約１箱分出土し、縄文土器がごく少量出土した。そのうち、カマド火床

面や壁溝覆土などの堆積土から出土した土器として土師器小甕(62)・甕(63・64)、須恵器甕(65・66)を図示した。62は口頸部に屈曲がほとんどみられない小甕である。63はWSK25出土土器と接合した甕底部片で、底外面が菰編痕である。67～72は旧カマドの充填土や掘り方から出土した遺物である。土師器小甕(67)・甕(68～72)で、底部片が多く出土した。本カマドでは３枚目火床面での土師器甕片がやや多く出土しており、図示した底部片は支脚として用いられ火床面の埋め戻し(充填)時にまとめて埋め戻された(廃棄された)可能性がある。

[小結] 出土遺物、遺構の重複関係、堆積土の様相などから、10世紀中葉頃に廃絶されたものと思われる。またロクロピット(Pit１)の検出から、土師器製作遺構であったと考えられる。

第９号竪穴住居跡(WSI09、図102～105・124)

[位置 ・確認]調査区中央南部、24－61・62グリッドに位置し、遺構確認面の標高は33.9 m、第Ⅳ層で確認した。WSK55、WSP27・29は本竪穴住居跡に付属する遺構と考えられる。WSI06・07、WSK51より本遺構が古く、WSD19より本遺構が新しい。また、WSI06・07・09周辺で土坑やピットが多数検出されているが、それらとの同時性や新旧関係が不明なものが多い。

[平面形・規模]本竪穴住居跡の大半が遺構の重複によって壊されていてカマドと床面の一部が検出されただけであるため、住居の平面形、規模及び軸方位は不明である。

[床面 ・壁溝]床面はカマド北西部で部分的に検出されたが、WSI06やWSK51等によって壊されており、大半は遺存していない。壁溝は作られなかったものと思われる。

[柱穴]WSP27・29が本竪穴住居跡に付属するピットと考えられ、確認面からの深さはそれぞれ43cm・39cmで主柱穴の可能性が高い。

[カマド]南東壁と思われる部分で半地下式カマドの火床面と煙道の一部が検出され、南東の調査区域外にも延びている。煙道には黒褐色土が堆積し、確認面では煙道天井部の粘土・焼土ブロックが散在していた。火床面北西部はWSI06壁溝によって壊されていて、52×23cmが遺存しており、深さ約７cmまで被熱していた。火床面奥には支脚と思われる土師器甕底部(図124－76)が倒立状態で設置されていた。煙道の軸方向はＮ－118° －Ｅである。

[その他の施設] WSK55が本竪穴住居跡の付属施設と思われる。また本竪穴住居跡周辺では多数の遺構が検出されており、一部は本竪穴住居跡に伴う可能性がある。

[堆積土]本竪穴住居跡はカマドのみ遺存していたため、堆積土は不明である。

[出土遺物]カマド周辺から土師器、須恵器が少量出土し、そのうち土師器小甕(73)・甕(74～76)を図示した。76は火床面奥に倒立で出土しており支脚として用いられていたものである。

[小結] 出土遺物、遺構の重複関係などから、10世紀前葉頃に廃絶されたものと思われる。

第10号竪穴住居跡(WSI10、図100・124)

[位置 ・確認]調査区中央北部、24－60グリッドに位置し、遺構確認面の標高は33.6 m、第Ⅲ～Ⅳ層で確認した。WSD11と重複し、本遺構が古い。

[平面形 ・規模]遺構の大半が調査区域外にあってWSD11にも壊されており、検出されたのは南西隅のみである。平面形は方形と推定され、確認できた壁長及び確認面から床面までの深さは、南西壁(0.6)

ｍ・深さ36㎝、南東壁(1.0)ｍ・深さ28㎝を測り、壁は垂直に近い立ち上がりをみせる。カマドが南東壁にあるとすると、住居の軸方向はＮ－ 126°－Ｅと推定される。
[床面・壁溝]床面は貼り床によって平坦に整えられている。壁溝は幅10～15㎝、深さ10～12㎝で、壁際を全周するようである。
[柱穴]柱穴は南西隅で１基のみ検出され、32×20㎝の楕円形で床面からの深さは36㎝である。
[カマド・その他の施設]調査区域内では検出されなかった。
[堆積土]黒褐色土が堆積し、自然堆積の可能性がある。
[出土遺物]土師器、須恵器、縄文土器がごく少量出土し、そのうち床面から出土した須恵器甕胴部片(77)を図示した。
[小結] 出土遺物、遺構の重複関係、堆積土の様相などから、９世紀後半～10世紀前葉頃に廃絶されたものと思われる。

第11号竪穴住居跡(WSI11、図102)
[位置・確認]調査区中央東部、24－60・61グリッドに位置し、遺構確認面の標高は33.8ｍ、第Ⅳ層でWSD11周辺の精査中に確認した。WSD11・14・15と重複し、本遺構が古い。
[平面形・規模]他遺構との重複や調査区域外に延びていていることから、床面と北東壁溝の一部のみを検出しただけであることから、不明な点が多い。南東壁にカマドがあるとすれば、住居の軸方向はＮ－ 125°－Ｅと推定される。
[床面・壁溝]床面は地山をそのまま床面としている。検出された壁溝は、長さ(1.4)ｍ、幅22～28㎝、深さ７㎝である。
[柱穴・カマド・その他の施設]検出されなかった。
[堆積土]セクション図を記録できなかったが、黒褐色土が堆積しており、自然堆積と思われる。
[出土遺物]遺物は出土しなかった。
[小結] 遺構の重複関係、堆積土の様相などから、９～10世紀代に廃絶されたものと思われる。WSD13は本遺構の北西部壁溝かと考えたが、確認面の標高レベルが異なることから、別遺構と判断された。

第12号竪穴住居跡(WSI12、図102・124、写真81)
[位置・確認]調査区中央東部、24－60・61グリッドに位置し、遺構確認面の標高は33.8ｍ、第Ⅳ層で確認した。WSI08、WSD14より本遺構が新しく、WSK24・36、WSD15・18より古い。
[平面形・規模]他遺構との重複等により南西部の掘り方のみを検出したため、不明な点が多い。平面形は方形と推定され、壁長は南東壁(0.5)ｍ、南西壁(2.5)ｍであるが、深さは不明である。住居の軸方向はＮ－129°－Ｅと思われる。
[床面・壁溝]床面は10～ 20㎝程度の掘り方を有し貼り床によって平坦に整えられているが、床面を検出できたのは一部である。壁溝は確認できなかった。
[柱穴・カマド・その他の施設]検出されなかった。
[堆積土]ローム粒を微量含む黒褐色土が堆積している。掘り方にも黒褐色土が堆積しているが、ロー

ム粒の混入率が高い。
[出土遺物]掘り方から土師器、須恵器、縄文土器、窯壁片がごく少量出土した。そのうち掘り方から出土した須恵器甕(78)を図示し、窯壁と思われる破片は写真81に掲載している。
[小結] 出土遺物、遺構の重複関係、堆積土の様相などから、10世紀代に廃絶されたものと思われる。

第13号竪穴住居跡(WSI13、図115・124)
[位置・確認]調査区西側北部、24－70グリッドに位置し、遺構確認面の標高は32.7m、第Ⅳ層で床面を確認した。WSK30よりも本遺構が新しい。
[平面形・規模]遺構の東側大半が調査区域外にあって、かつ西側が斜面下方にあたるため、遺構の全容は不明である。平面形・壁等規模、軸方向等も不明である。
[床面・壁溝]長さ(2.1)m、幅(1.3)mの範囲で、貼り床によって平坦に整える床面を検出したが、掘り方のセクションは記録できなかった。壁溝は検出されなかった。
[柱穴・カマド・その他の施設]検出されなかった。
[堆積土]大半がローム・粘土を含む黒褐色土及び暗褐色土で、埋め戻されたものと思われる。
[出土遺物]覆土から土師器、須恵器、縄文土器が各数点出土した。そのうち、覆土から出土した須恵器甕(79)を図示した。
[小結] 出土遺物、遺構の重複関係、堆積土の様相などから、9世紀末葉～10世紀代頃に廃絶されたものと思われる。

第14号竪穴住居跡(WSI14、図115・124)
[位置・確認]調査区西側北部、24－71グリッドに位置し、遺構確認面の標高は32.5 m、第Ⅳ層で床面のみ確認した。本遺構はWSK39より新しく、WSK31より古い。
[平面形・規模]遺構の東側大半が調査区域外にあって、かつ西側が斜面下方にあたるため、遺構の全容は不明である。平面形・壁等規模、軸方向等も不明である。
[床面・壁溝]長さ(1.7)m、幅(0.4)mの範囲で、貼り床によって平坦に整える床面を検出した。壁溝は検出されなかった。
[柱穴・カマド・その他の施設]検出されなかった。
[堆積土]焼土・ローム粒・炭化物を含む黒褐色土の貼り床層が検出された。廃絶後の堆積土は、セクション図を作成していないがロームを含む黒褐色土で、人為堆積と思われる。
[出土遺物]覆土から土師器、須恵器、縄文土器が各数点出土した。そのうち、覆土から出土した土師器坏(80)を図示した。外面に「土」と思われる墨書が確認できる。
[小結] 出土遺物、遺構の重複関係、堆積土の様相などから、9世紀末葉～10世紀代頃に廃絶されたものと思われる。

（２）　土坑

55基の土坑が検出された。時期は平安時代のものが大半であるが、縄文時代前期と思われるもの11基、晩期の土坑が１基である。なお調査現場でWSK01として精査した遺構は、撹乱であったため欠番とした。

第１号土坑（WSK01）

［位置・確認］調査の結果、撹乱であることが判明したため、欠番とした。

第２号土坑（WSK02、図117）

［位置 ・確認］調査区西側北部、24-76グリッドに位置し、遺構確認面の標高は30.4～31.0m、第Ⅳ層で確認した。他遺構との重複は認められなかった。

［平面形・規模］南東部の一部が撹乱によって壊されているため、確認できた規模は長軸290cm、短軸(230)cmの楕円形であるが、本来は円形を呈している可能性がある。確認面からの深さは４～36cmである。地山をそのまま平坦な底面とし、断面形は皿状をなしている。

［堆積土］暗褐色土が堆積し、底面付近には黄褐色土ブロックがみられる。人為堆積の可能性がある。

［出土遺物・遺構の時期等］遺物は出土しなかった。堆積土の様相や遺構の形状等から、縄文時代の遺構である可能性がある。その機能は不明である。

第３号土坑（WSK03、図117）

［位置 ・確認］調査区西側北部、24-76グリッドに位置し、遺構確認面の標高は30.1～30.2m、第Ⅳ層で確認した。他遺構との重複は認められなかった。

［平面形 ・規模］東半が調査区域外にあって遺構の全容は不明であるが、確認できた規模は長軸(190)cm、短軸155cmで、楕円形を呈しているものと思われる。確認面からの深さは90～109cmである。地山をそのまま底面とし、断面形はコ字状をなしている。底面西側には10～50cmの段がついている。

［堆積土］上位は黒色土及び黒褐色土が自然堆積しているが下位には黄褐色ローム土が流入し、その間に黒褐色土や暗褐色土が互層状に含まれている。よって人為的に埋め戻されたものとみられる。

［出土遺物・遺構の時期等］遺物は出土しなかった。堆積土の様相や遺構の形状等から、平安時代の遺構と考えられるが、その機能は不明である。

第４号土坑（WSK04、図108・125）

［位置 ・確認］調査区中央北部、24-63グリッドに位置し、遺構確認面の標高は33.6m、第Ⅳ層で確認した。他遺構との重複は認められなかった。

［平面形 ・規模］北側が調査区域外に延びていて遺構の全容は不明だが、確認できた規模は長軸(128)cm、短軸120cmで、平面形は楕円形もしくは溝状をなすものと思われる。確認面からの深さは36cm、地山をそのまま平坦な底面とし、断面形は皿状をなしている。

［堆積土］焼土・ローム・炭化物を含む黒色土もしくは黒褐色土が堆積している。人為的に埋め戻されたものと思われる。

［出土遺物 ・遺構の時期等］確認面で土師器 ・須恵器などの遺物が散在した状態で約１箱分出土した。

そのうち土師器浅鉢？（81）・甕（82・83）、須恵器坏（84・85）を図示した。81は内外面にナデ調整を施し、皿に近い浅鉢である。84・85は外面に刻書がみられ、84は明瞭な「井」が刻まれている。堆積土の様相や出土遺物等から平安時代の遺構とみられるが、その機能は不明である。

第５号土坑（WSK05、図106・107・125）

［位置 ・確認］調査区中央南部、24-63グリッドに位置し、遺構確認面の標高は33.7m、第Ⅳ層で確認した。WSI01、WSK06と重複し、本遺構が新しい。

［平面形・規模］平面形は直径94cmのほぼ円形を呈し、確認面からの深さは47cmである。地山をそのままやや起伏ある底面とし、断面形は逆台形状をなしている。北側壁際にピットが検出されたが、位置的にWSI01に付属するピットと考えられたことから、WSI01Pit3とした。

［堆積土］ロームを含む黒褐色土が堆積し、人為堆積と思われる。

［出土遺物 ・遺構の時期等］土師器と須恵器が各数点出土し、そのうち土師器甕（86）、須恵器壺（87）を図示した。87は遺構確認面からの出土で、肩部付近に「十」字状の刻書がみられる。堆積土の様相、出土遺物、遺構との重複関係等から平安時代の遺構と考えられるが、その機能は不明である。

第６号土坑（WSK06、図106・107・125・126）

［位置 ・確認］調査区中央南部、24-63グリッドに位置し、遺構確認面の標高は33.7m、第Ⅳ層で確認した。WSI01の付属施設である可能性が高い。WSK05・25と重複し、本遺構が古い。

［平面形 ・規模］長軸両端が他遺構と重複していて遺存していないが、平面形は長軸（160）cm、短軸140cmの楕円形を呈するが、本来は長軸200cmほどと思われる。確認面からの深さは48cmである。地山をそのまま平坦な底面としているが北西側はやや起伏があって浅く、断面形は皿状をなしている。

［堆積土］上位及び下位はローム粒を多く含む黒色土が主体で、中位には焼土・ローム粒・炭化物・遺物が混在した土層が検出された。人為堆積の様相を呈している。

［出土遺物・遺構の時期等］覆土中位から下位に堆積する第２層から焼土粒とともに多量の遺物が出土した。大半が土師器で、須恵器が少量、縄文土器数点が含まれる。そのうち土師器坏（88～91）・鉢（92～94）・小甕（95～97）・甕（98～101）、須恵器坏（102）・大甕（103）・壺（104）を図示した。88・89は内面黒色処理を施す坏で、88底外面に刻書様の線刻がある。92は法量的にやや大ぶりな鉢で、93・94は器高が低く頸部が内側に屈曲しないことから小甕でなく鉢としたものである。94の外面下半では部分的に、口縁内面には広い範囲に炭化物が付着している。98は輪積痕を残しロクロ整形した土師器甕である。100・101はWSK25出土土器片と接合したものである。102外面には刻書がみられる。堆積土の様相や出土遺物、遺構との重複関係等から平安時代の遺構と考えられるが、その機能は不明である。

第７号土坑（WSK07、図109・110）

［位置 ・確認］調査区中央西部、24-65グリッドに位置し、遺構確認面の標高は33.5m、第Ⅳ層で確認した。WSD01と重複し、本遺構が新しい。

［平面形・規模］平面形は長軸73cm、短軸63cmの楕円形を呈し、確認面からの深さは28cmである。地山をそのまま底面とし、全体の形状は筒状をなしている。

［堆積土］ロームブロックを含む黒褐色土や黒色土が堆積しており、人為的に埋め戻されている。

［出土遺物・遺構の時期等］土師器甕底部片１点が出土したが、図示し得る遺物はなかった。堆積土の様相や遺構の形状、出土遺物、遺構との重複関係等から平安時代の遺構と考えられ、その機能は柱穴と思われる。

第８号土坑（WSK08、図109・110）

［位置 ・確認］調査区中央西部、24-65グリッドに位置し、遺構確認面の標高は33.5m、第Ⅳ層で確認した。WSD01、WSP01と重複し、本遺構が古い。

［平面形 ・規模］他遺構と重複していて遺構の全容は不明だが、確認できた規模は長軸（72）cm、短軸（55）cmで、本来は直径80cm程度の円形を呈していたものと思われる。確認面からの深さは29cmである。地山をそのまま凹凸のある底面とし、断面形は皿状をなしている。

［堆積土］上位はローム・炭化物を含む黒褐色土が、下位には黄褐色土が堆積し、人為堆積と思われる。

［出土遺物・遺構の時期等］遺物は出土しなかった。堆積土の様相や遺構の形状等から、遺構との重複関係等から平安時代の遺構と考えられるが、その機能は不明である。

第９号土坑（WSK09、図109・110・127）

［位置 ・確認］調査区中央南部、24-66グリッドに位置し、遺構確認面の標高は33.4m、第Ⅳ層で確認した。WSK10、WSD16と重複し、本遺構が新しい。

［平面形 ・規模］南東半が調査区域外にあって遺構の全容は不明だが、平面形は直径170cm程度の円形をなすものと思われる。確認できた規模は、長軸（160）cm、短軸（90）cmで、確認面からの深さは28～32cmである。地山をそのまま平坦な底面とし、断面形はコ字状をなしている。

［堆積土］焼土・ローム・炭化物等を含む黒褐色土が主体で、覆土下位は黒色土が、底面直上層には褐色土が堆積している。底面付近は人為的影響を受けるものの、覆土下位は自然に堆積し、上位の大半は再び人為的に埋め戻された可能性がある。

［出土遺物・遺構の時期等］覆土から土師器、須恵器が約１箱分出土し、そのうち土師器ミニチュア甕（105）・皿（106）・小甕（107）を図示した。堆積土の様相、出土遺物、遺構との重複関係等から平安時代の遺構と考えられる。さらに調査区壁の土層観察によると白頭山苫小牧火山灰と思われる火山灰が第Ⅱ層下部で検出されて、その上方から掘り込まれて本土坑が作られていることから、平安時代の中でも白頭山苫小牧火山灰降下以後に作られた遺構と考えられる。その機能は不明である。

第10号土坑（WSK10、図109・110）

［位置 ・確認］調査区中央南部、24-66グリッドに位置し、遺構確認面の標高は33.4m、第Ⅳ層で確認した。WSK09より本遺構が古い。

［平面形 ・規模］南東半がWSK09によって壊されており、遺構の全容は不明であるが、平面形は直径150cm程度の円形をなすものと思われる。確認できた規模は長軸（141）cm、短軸（80）cm、確認面からの深さは９cmである。地山をそのまま平坦な底面とし、断面形は皿状をなしている。底面に直径40cmの円形もしくは楕円形で、土坑底面からの深さ26cm、遺構確認面からの深さ35cmのPit1が検出された。本土坑より古いピットの可能性がある。

［堆積土］ローム粒・炭化物を含んだ黒褐色土が堆積し、自然堆積の可能性がある。

［出土遺物・遺構の時期等］遺物は出土しなかった。堆積土の様相、遺構の形状、遺構との重複関係等から平安時代の遺構と考えられるが、その機能は不明である。

第11号土坑（WSK11、図109・110・127）

［位置 ・確認］調査区中央南部、24-65・66グリッドに位置し、遺構確認面の標高は33.5m、第Ⅳ層で確認した。WSK12より本遺構が新しい。

［平面形 ・規模］南東半が調査区域外にあって遺構の全容は不明であるが、直径250cm程度の円形を呈するものと思われる。確認できた規模は長軸246cm、短軸（85）cmで、遺構確認面からの深さは38～46cmである。地山をそのまま平坦な底面とし、やや丸みを帯びて壁が立ち上がる。断面形は皿状をなしている。底面南西部には直径30cmの円形で、深さ８cmのピットが検出された。

［堆積土］全体的に焼土・ローム粒を含んだ黒色土が堆積し、第２層には焼土と共に遺物が多く出土している。覆土中位南西部には白頭山苫小牧火山灰と思われる火山灰が検出された。

［出土遺物・遺構の時期等］遺物は約１箱分出土し、土師器、須恵器が大半で縄文土器が数点含まれる。そのうち土師器小甕（108）・甕（109）、須恵器坏（110・111）・壺（112）・大甕（113・114）を図示した。111は底内面にスリの痕跡がみられて平滑になっていることから、硯に転用されたものと思われる。112の底外面に菊花状調整がみられ、113内面には平行するあて具痕がみられる。堆積土の様相、出土遺物、遺構との重複関係等から平安時代の遺構と考えられ、特に白頭山苫小牧火山灰と思われる火山灰が検出されていることから、火山灰降下以前の遺構である。その機能は不明である。

第12号土坑（WSK12、図109・110・128）

［位置 ・確認］調査区中央南部、24-65・66グリッドに位置し、遺構確認面の標高は33.5m、第Ⅳ層で確認した。WSK11より本遺構が古く、WSP03より本遺構が新しい。

［平面形 ・規模］南側が他遺構と重複しているため、遺構の全容は不明であるが、直径280cm程度の円形もしくは楕円形を呈するものと思われる。確認できた規模は長軸270cm、短軸250cmで、確認面からの深さは２～８cmである。地山をそのまま平坦な底面とし、断面形は浅い皿状をなしている。

［堆積土］黒色土が堆積し、自然堆積の可能性がある。

［出土遺物・遺構の時期等］土師器少量、縄文土器１点が出土し、そのうち覆土から出土した土師器甕

(115) を図示した。堆積土の様相、出土遺物、遺構との重複関係等から平安時代の遺構と考えられるが、その機能は不明である。

第13号土坑（WSK13、図100・128）

[位置 ・確認] 調査区東側西部、24-58グリッドに位置し、遺構確認面の標高は33.4m、第Ⅲ層で確認した。WSI05と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模] 調査区際に位置するため遺構の全容は不明だが、南東半が検出されたと思われる。本土坑の上部はWSI05によって壊されているが、平面形は円形または楕円形を呈するものと考えられる。検出された長軸は(47)cm、短軸(20)cmの歪な楕円形を呈し、確認面できた深さは6～10cmである。地山第Ⅲa層まで掘り込んでそのまま底面としており、断面形は皿状をなしている。

[堆積土] ローム粒をわずかに含んだ黒色土が堆積し、自然堆積とみられる。

[出土遺物 ・遺構の時期等] 縄文時代晩期鉢片 (116) が底面から出土したのみである。堆積土の様相、出土遺物、遺構との重複関係等から縄文時代晩期の遺構と考えられるが、その機能は不明である。

第14号土坑（WSK14、図99・128）

[位置 ・確認] 調査区東側東部、24-55、56グリッドに位置し、遺構確認面の標高は34.8～35.0m第Ⅳ層で確認した。他遺構との重複は認められなかった。

[平面形・規模] 北半が調査区域外に延びていて遺構の全容は不明であるが、平面形は不整な円形または楕円形を呈するものと思われる。検出された規模は、長軸136cm、短軸 (71) cmで、確認面からの深さは、斜面下方の西側では６cm、上方の東側では24cmを測る。底面にはやや起伏があって、地山をそのまま底面とし、断面形は皿状をなしている。

[堆積土] ローム粒を含んだ黒褐色土が堆積し、底面と堆積土の境界が不明瞭である。

[出土遺物 ・遺構の時期等] 縄文土器が数点出土し、そのうち縄文時代前期土器片 (117) を図示した。平安時代の遺物は出土しておらず、堆積土の様相と遺構の形態等から縄文時代の遺構の可能性があるが、その機能は不明である。

第15号土坑（WSK15、図99・128）

[位置 ・確認] 調査区東側東部、24-52グリッドに位置し、遺構確認面の標高は36.0～36.1m、第Ⅳ層で確認した。WSD04より本遺構が古い。

[平面形 ・規模] 他遺構との重複などにより遺構の全容は不明だが、長軸2.7m、短軸1.4mほどの楕円形を呈する土坑と思われる。検出された規模は、長軸(250)cm、短軸(122)cmで、確認面からの深さは17cmである。地山をそのまま平坦な底面とし、断面形状は皿状をなしている。

[堆積土] 上位は黒色土、下位は黒褐色土が堆積し、自然堆積とみられる。

[出土遺物 ・遺構の時期等] 覆土１層から出土した石鏃 (118) を図示したが、他に土師器片１点が出土している。堆積土の様相、出土遺物、遺構との重複関係等から平安時代の遺構と考えられるが、その機能は不明である。

第16号土坑（WSK16、図99・128）

［位置 ・確認］調査区東側東部、24-52グリッドに位置し、遺構確認面の標高は36.1m、第Ⅳ層で確認した。WSK18、WSD10と重複し、いずれよりも本遺構が古い。

［平面形・規模］重複により全体の規模は不明だが、確認できた規模は、長軸（220）cm、短軸112cmで、本来は長軸290cm程度の楕円形を呈するものと考えられる。確認面からの深さは13～17cmで、地山をそのまま平坦な底面とし、断面形は皿状をなしている。

［堆積土］全体的に黒色土が堆積し、自然堆積とみられる。

［出土遺物・遺構の時期等］土師器、縄文土器が少量出土し、そのうち土師器甕（119・120）を図示した。119は底が厚い砂底で、外面にケズリの稜線が明確に残っている。120は外面に輪積痕が残るようにナデが施され、器形的に垂直に立ち上がる。激しい被熱は受けていないが、器形と整形手法から製塩土器である可能性が高い。堆積土の様相、出土遺物、遺構との重複関係等から平安時代の遺構と考えられる。その機能は不明である。

第17号土坑（WSK17、図102・103・128）

［位置 ・確認］調査区東側西部、24-59・60グリッドに位置し、遺構確認面の標高は33.6m、第Ⅳ層で確認した。WSD11と重複し、本遺構が古い。

［平面形 ・規模］北西端がWSD11と重複しているため遺構の全容は不明だが、確認された平面形の長軸は（120）cm、短軸113cm、確認面からの深さは13～17cmである。本来は150～200cm程度の楕円形を呈するものと思われる。底面は部分的に掘り方を有するが、大部分は地山をそのまま平坦な底面としており、断面形は皿状をなしている。

［堆積土］ 主に黒褐色土が堆積するが底面付近は黒褐色土と褐色土の混合土で、人為堆積とみられる。

［出土遺物 ・遺構の時期等］覆土から出土した須恵器甕胴部（121）を図示し、他に土師器 ・縄文時代前期土器が各３点出土している。堆積土の様相、出土遺物、他遺構との重複関係等から平安時代の遺構と考えられる。その機能は不明である。

第18号土坑（WSK18、図99・128）

［位置 ・確認］調査区東側東部、24-52グリッドに位置し、遺構確認面の標高は36.1m、第Ⅳ層で確認した。WSK16、WSD04と重複し、本遺構が新しいが、北壁の一部は確認できなかった。

［平面形・規模］一部調査区域外にあって他遺構とも重複することから遺構の全容は不明だが、長さ3.0m、幅1.8mの楕円形を呈するものと考えられる。検出された長軸は（287）cm、短軸（174）cmで、確認面からの深さは38cmである。地山を平坦な底面とし、断面形は皿状をなしている。

［堆積土］ローム粒・炭化物を微量含んだ黒褐色土及び黒色土が堆積し、自然堆積とみられる。

［出土遺物 ・遺構の時期等］覆土から出土した土師器小甕（122）と須恵器甕（123）を図示し、その他に土師器・縄文土器数点、須恵器１点が出土している。堆積土の様相、出土遺物、遺構との重複関係等から平安時代の遺構と考えられるが、その機能は不明である。

第19号土坑（WSK19、図115・128）

［位置 ・確認］調査区西側北部、24-71・72グリッドに位置し、遺構確認面の標高は31.7m、第Ⅳ層で確認した。他遺構との重複は認められなかった。

［平面形・規模］平面形は長軸223cm、短軸133cmの歪な楕円形を呈し、中央部西側に約40cmの溝が延びている。確認面からの深さは35～45cmで、斜面下方である西側は壁が遺存していないと思われる。断面形は本来、フラスコ状をなしているものと思われる。底面中央部の溝は長さ130cm、幅18～27cm、深さ15cmで、西側の標高が約10cm低く、西側へ傾斜している。

［堆積土］上位は暗褐色土、ローム粒を含んだ褐色土が堆積し、壁際にはロームブロック・炭化物を含んだ黄褐色土が堆積している。自然堆積とみられる。

［出土遺物・遺構の時期等］図示した縄文時代前期土器片（124）のみが覆土から出土した。遺構の形状、堆積土の様相、出土遺物から、遺構との重複関係等から縄文時代前期の遺構と考えられ、その機能は貯蔵である可能性がある。

第20号土坑（WSK20、図116）

［位置 ・確認］調査区西側北部、24-72グリッドに位置し、遺構確認面の標高は31.9～32.2m、第Ⅳ層で確認した。他遺構との重複は認められなかった。

［平面形 ・規模］北東半が調査区域外にあって遺構の全容は不明だが、検出された規模は長軸194cm、短軸119cm、確認面からの深さは５～18cmで、斜面下方である西側が浅い。本来は直径２mほどの円形をなすものと考えられる。地山をそのまま平坦な底面とし、断面形は皿状をなす。

［堆積土］全体的にローム粒・炭化物を含んでおり、上位は黒褐色土、下位は暗褐色土が堆積し、自然堆積の可能性がある。

［出土遺物・遺構の時期等］遺物は出土しなかった。堆積土の様相や遺構の形状等から、縄文時代の遺構と考えられるが、その機能は不明である。

第21号土坑（WSK21、図116）

［位置 ・確認］調査区西側南部、24-72・73グリッドに位置し、遺構確認面の標高は31.7～32.0m、第Ⅳ層で確認した。他遺構との重複は認められなかった。

［平面形・規模］平面形は長軸115cm、短軸110cmの歪な隅丸方形を呈し、確認面からの深さは19～48cmで斜面下方である西側が浅い。地山をそのまま底面とし、断面形は上部が開くコ字状をなす。

［堆積土］上位に黒褐色土、下位に暗褐色土が堆積し、一部に褐色土も含まれるが自然堆積とみられる。

［出土遺物 ・遺構の時期等］土師器と縄文時代前期の土器各１点が出土したが、図示し得る遺物はなかった。堆積土の様相、遺構の形状、出土遺物等から、平安時代の遺構と考えられるが、その機能は不明である。

第22号土坑（WSK22、図116・128）

［位置 ・確認］調査区西部南部、24-73グリッドに位置し、遺構確認面の標高は31.2～31.8m、第Ⅳ層で確認した。他遺構との重複は認められなかった。

［平面形・規模］東端が調査区域外にあるが、概ね平面形は長軸210cm、短軸200cmの円形を呈し、確認面からの深さは７～45cmで、斜面下方である西側が浅い。地山をそのまま平坦な底面とし、断面形はフラスコ状をなすものと思われる。底面中央には長さ200cm、幅20～32cm、土坑底面からの深さ８～21cmの溝が検出された。溝底面は西側が18cm低く、傾斜している。

［堆積土］ローム粒や炭化物を含んだ暗褐色土が主として堆積し、壁際には褐色土と黄褐色ロームの混合土がみられる。底面溝には黒褐色土が堆積している。全体的に自然堆積と思われる。

［出土遺物 ・遺構の時期等］覆土から出土した縄文前期土器片（125）を図示した。古代の土器は出土していない。堆積土の様相、出土遺物等から縄文時代前期の遺構と考えられるが、その機能は不明である。

第23号土坑（WSK23、図116）

［位置 ・確認］調査区西側南部、24-73・74グリッドに位置し、遺構確認面の標高は30.9～31.3m、第Ⅳ層で確認した。他遺構との重複は認められなかった。

［平面形・規模］平面形は長軸185cm、短軸118cmの歪な楕円形を呈し、確認面からの深さは４～40cmで、斜面下方である西側が浅い。地山をそのまま底面とし、断面形はコ字状であるが、本来はフラスコ状をなしていた可能性がある。また底面中央には、長さ153cm、幅14～25cm、土坑底面からの深さ２～10cmの溝が検出された。溝底面は東西両端よりも中央部が４cm低く、傾斜している。

［堆積土］ローム粒を含んだ暗褐色土が堆積し、自然堆積の可能性がある。

［出土遺物・遺構の時期等］遺物は出土しなかった。堆積土の様相や遺構の形状等から縄文時代の遺構と考えられ、その機能は貯蔵と思われる。

第24号土坑（WSK24、図102・103・128）

［位置 ・確認］調査区中央東部、24-60、61グリッドに位置し、遺構確認面の標高は33,7～33.9m、第Ⅳ層で確認した。WSD13より本遺構が古く、WSI12より本遺構が新しい。

［平面形・規模］平面形は122～125cmのやや歪な楕円形を呈し、確認面からの深さは15～22cmである。地山をそのまま底面とし、断面形は皿状をなす。

［堆積土］上位に黒褐色土、中位には粘土を多く含む黒色土及び黒褐色土が、底面付近はにぶい黄褐色土が堆積している。人為堆積と思われる。。

［出土遺物 ・遺構の時期等］土師器が少量、須恵器と縄文土器が各１点出土し、その他に土師器甕（126）、縄文後期土器片（127）を図示した。堆積土の様相、出土遺物、遺構との重複関係等から平安時代の遺構と考えられ、その機能は粘土の貯蔵と思われる。

第25号土坑（WSK25、図106・107・123・126・129・131）

［位置 ・確認］調査区中央南部、24-62・63グリッドに位置し、遺構確認面の標高は33.7～33.8m、第Ⅳ層で確認した。WSI01・WSK06と重複し、本遺構が新しい。本土坑精査中にピット２基（Pit1・2）を検出したが、整理作業において別遺構と判断したため、Pit1→WSI01Pit1、Pit2→WSP33と改称した。これらは本土坑より古いものと思われる。

［平面形・規模］平面形は長軸372cm、短軸174cmの楕円形を呈し、確認面からの深さは39～55cmである。地山をそのまま平坦な底面とし、断面形は皿状をなす。北西壁際からピットが検出されたが、位置的にWSI01に付属するものと判断されたことから、WSI01Pit1と改称した。

［堆積土］焼土・ローム粒・炭化物を含んだ黒褐色土あるいは黒色土が主として堆積し、底面直上層には褐灰色土がみられる。覆土中位第３層には焼土や遺物が密に含まれ、人為堆積の様相を示している。

［出土遺物・遺構の時期等］遺物は約１箱分出土し、土師器が大半で、須恵器・縄文土器が少量ずつ出土した。そのうち、土師器小杯（129・130）・小甕（131～135）・甕（136～138）、須恵器坏（139～141）・壺（142～144）・大甕（145）、石鏃（146）を図示した。132は厚みのある胴部を有し、頸部の屈曲がみられないことから、鉢としたものである。134・135は接合しなかったものの同一個体の小甕である。137・138は輪積み後ロクロを使用した土師器甕であるが外面調整が異なり、137はヘラケズリ、138はタタキ目を残してロクロ仕上げをしている。140・141は外面に刻書がみられる須恵器坏で、142はWSK36出土土器と接合した須恵器広口壺である。144はタタキ目をナデで消しヘラナデで仕上げているものであるが、タタキ目が明瞭に残存していている。また、WSI08出土土器と接合した底外面が菰編痕の土師器甕底部片（図123－63）と、WSK06出土土器片と接合した土師器甕底部（図126－100・101）、WSK36出土遺物と接合した土師器甕（図131－155・156）、須恵器坏（図131－157）もある。堆積土の様相、出土遺物、遺構との重複関係等から平安時代の遺構と考えられるが、その機能は不明である。

第26号土坑（WSK26、図102・103・128）

［位置 ・確認］調査区中央東部、24-62グリッドに位置し、遺構確認面の標高は33.8m、WSI06・07・09の精査中に確認した。WSK27と重複し、本遺構が新しい。

［平面形 ・規模］平面形は長軸98cm、短軸82cmの楕円形を呈し、確認面からの深さは54cmである。底面は丸底状で、断面形状は擂り鉢状をなしている。

［堆積土］上位に黒褐色土、下位は暗褐色土が堆積し、いずれもローム粒等を含んでおり、人為的に埋め戻されたものと思われる。

［出土遺物・遺構の時期等］土師器と須恵器がごく少量出土し、そのうち覆土から出土した頸部に刻書がみられる須恵器壺（128）を図示した。堆積土の様相、出土遺物から、遺構の重複関係等から平安時代の遺構と考えられるが、その機能は不明である。

第27号土坑（WSK27、図102・103）

［位置 ・確認］調査区中央東部、24-61、62グリッドに位置し、遺構確認面の標高は33.8m、WSI06・07・09の精査中に確認した。WSD19より本遺構が新しく、WSI08、WSK26より本遺構が古い。

［平面形 ・規模］平面形は長軸210cm、短軸110cmの楕円形を呈し、確認面からの深さは39cmである。地山をそのまま平坦な底面とし、断面形は擂り鉢状をなす。

［堆積土］ローム粒を含んだ黒褐色土が主として堆積し、黒色土やロームブロックも部分的にみられる。人為的に埋め戻されたものである。

［出土遺物・遺構の時期等］土師器と縄文土器が少量出土したが、図示し得る遺物はなかった。堆積土の様相や遺構の形状、出土遺物、遺構の重複関係等から平安時代の遺構と考えられるが、その機能は不明である。

第28号土坑（WSK28、図116）

［位置 ・確認］調査区西側北部、24-74グリッドに位置し、遺構確認面の標高は30.0～30.3m、第Ⅳ層相当で確認した。他遺構との重複は認められなかった。

［平面形・規模］平面形は長軸200cm、短軸166cmの楕円形を呈し、確認面からの深さは５～32cmである。地山をそのまま平坦な底面とし、断面形は皿状をなす。

［堆積土］全体的にローム粒や炭化物を含み、上位に粘土を含んだ暗褐色土、斜面下方底面には褐色土が堆積し、自然堆積とみられる。

［出土遺物・遺構の時期等］縄文時代前期と思われる土器が数点出土したのみで、図示し得る遺物はなかった。堆積土の様相や遺構の形状、出土遺物等から縄文時代前期の遺構と考えられるが、その機能は不明である。

第29号土坑（WSK29、図115）

［位置 ・確認］調査区西側南部、24-71グリッドに位置し、遺構確認面の標高は32.0～32.3m、第Ⅳ層で確認した。WSK31よりも本遺構が古い。

［平面形・規模］平面形は長軸148cm、短軸140cmの隅丸方形を呈し、確認面からの深さは15～34cmで、斜面下方である西側は浅くなっている。地山をそのまま底面とし、断面形は皿状をなす。

［堆積土］確認面付近は黒褐色土、底面付近には暗褐色土が堆積し、自然堆積の可能性がある。

［出土遺物・遺構の時期等］遺物は出土しなかった。堆積土の様相や遺構の形状、遺構との重複関係等から縄文時代の遺構と考えられるが、その機能は不明である。

第30号土坑（WSK30、図115）

［位置 ・確認］調査区西側南部、24-70グリッドに位置し、遺構確認面の標高は32.4～32.6m、第Ⅳ層で確認した。WSI13、WSK37よりも本遺構が古い。

［平面形・規模］重複により遺構の全容は不明だが、確認できた平面形は長軸85cm、短軸(73)cmの歪な楕円形を呈し、確認面からの深さは７～16cmで斜面下方である西側が浅い。地山をそのまま平坦な底面とし、断面形は皿状をなす。

[堆積土]ローム粒を含んだ黒褐色土が堆積し、人為堆積と思われる。
[出土遺物・遺構の時期等]遺物は出土しなかった。堆積土の様相や遺構の形状、遺構との重複関係等から縄文時代の遺構と考えられる。その機能は不明である。

第31号土坑（WSK31、図115）
[位置 ・確認]調査区西側南部、24-71グリッドに位置し、遺構確認面の標高は32.3～32.4m、WSI04の精査中に確認した。WSI14、WSK29・39よりも、本遺構が新しい。
[平面形・規模]平面形は長軸74cm、短軸62cmの楕円形を呈し、確認面からの深さは20～37cmである。地山をそのまま底面とし、断面形は皿状をなす。
[堆積土]上位は黒褐色土、下位は暗褐色土と黄褐色土の混合土が堆積し、人為堆積と思われる。
[出土遺物・遺構の時期等]土師器が数点出土したのみで、図示し得る遺物はなかった。堆積土の様相や遺構の形状、遺構との重複関係等から平安時代の遺構と考えられるが、その機能は不明である。

第32号土坑（WSK32、図115）
[位置 ・確認]調査区西側南部、24-70グリッドに位置し、遺構確認面の標高は32.4m、第Ⅳ層で確認した。WSK33より本遺構が新しい。
[平面形・規模]平面形は長軸140cm、短軸120cmの隅丸長方形を呈し、確認面からの深さは東側24～37cm、斜面下方の西側で３～８cmを測る。地山をそのまま起伏ある底面とし、断面形は皿状をなす。
[堆積土]焼土・ローム粒・ロームブロックを含んだ黒色土が堆積し、人為堆積と思われる。
[出土遺物・遺構の時期等]土師器が数点出土したのみで、図示し得る遺物はなかった。堆積土の様相や遺構の形状、遺構との重複関係等から平安時代の遺構と考えられるが、その機能は不明である。

第33号土坑（WSK33、図115）
[位置 ・確認]調査区西側南部、24-70グリッドに位置し、遺構確認面の標高は32.3m、第Ⅳ層で確認した。WSK32より本遺構が古い。
[平面形・規模]東端がWSK32によって壊されているが、平面形は概ね長軸(106)cm、短軸92cmの楕円形を呈するものと思われ、確認面からの深さは10～19cmである。地山を整えてやや起伏ある底面とし、断面形は丸底状をなす。
[堆積土]ローム粒・炭化物を含んだ暗褐色土が堆積し、人為堆積と思われる。
[出土遺物・遺構の時期等]土師器３点、須恵器１点が出土したが、図示し得なかった。堆積土の様相や遺構の形状、出土遺物、重複関係等から平安時代の遺構と考えられるが、その機能は不明である。

第34号土坑（WSK34、図111・130）
[位置 ・確認]調査区中央西部、24-67グリッドに位置し、遺構確認面の標高は33.1m、第Ⅳ層で確認した。WSK35より本遺構が新しい。
[平面形・規模]本遺構の南西半は調査区域外に延びていて、遺構の全容は不明である。おそらく直径210cm程度の円形または楕円形を呈するものと考えられるが、検出された平面形の規模は、長軸

210cm、短軸（136）cm、確認面からの深さ37～48cmである。地山をそのまま平坦な底面とし、断面形は上部が開くコ字状をなす。
［堆積土］全体的にローム粒を含む黒色土もしくは黒褐色土が堆積し、第４層には黄橙色土ブロックがみられる。中位からは遺物も多く出土しており、人為堆積とみられる。
［出土遺物・遺構の時期等］遺物は約１箱分出土し、大半が土師器で、須恵器数点、縄文土器１点がある。そのうち土師器甕（147～152）、須恵器広口壺（153）、半円状扁平打製石器（154）を図示し、いずれも覆土からの出土である。152の底外面には菰編痕が、153肩部には刻書がみられる。堆積土の様相、出土遺物、遺構との重複関係等から平安時代の遺構と考えられるが、その機能は不明である。

第35号土坑（WSK35、図111）
［位置 ・確認］調査区中央西部、24-67グリッドに位置し、遺構確認面の標高は33.1m、第Ⅳ層で確認した。WSI03、WSK34より本遺構が古い。
［平面形 ・規模］西半が調査区域外に延び、南北端とも他遺構との重複関係によって壊されているが、おそらく直径160～200cm程度の円形もしくは楕円形をなすものと思われる。確認できた規模は、長軸（170）cm、短軸（130）cm、遺構確認面からの深さは20～24cmである。地山をそのまま平坦な底面としており、断面形はおそらく皿状をなすものと思われる。
［堆積土］上位はローム粒を含んだ黒褐色土であるが、下位は褐色土と黄褐色ロームの混合層が堆積している。ロームの割合が高く、人為的に埋め戻された可能性がある。
［出土遺物・遺構の時期等］土師器２点と縄文土器１点が出土したが、図示し得る遺物はなかった。堆積土の様相や遺構の形状、出土遺物、遺構との重複関係等から平安時代の遺構と考えられるが、その機能は不明である。

第36号土坑（WSK36、図102・131）
［位置 ・確認］調査区東側西部、24-60・61グリッドに位置し、遺構確認面の標高は33.4m、WSD14底面の精査中に確認した。WSI08・12、WSD15より本遺構が新しく、WSD14より古い。
［平面形 ・規模］平面形は長軸134cm、短軸94cmの楕円形を呈し、遺構確認面からの深さは51～54cmほどである。地山をそのまま底面としており、北東側にテラス状の段がある。
［堆積土］上位は黒色土、中位は黒褐色土、下位は暗褐色土が堆積し、いずれもローム粒や炭化物を含むことから、人為的に埋め戻されたものと思われる。
［出土遺物・遺構の時期等］土師器が少量、須恵器・縄文土器が各１点出土し、それ以外に土師器甕（155・156）、須恵器坏（157・158）・大甕（159）を図示した。155～157はWSK25出土遺物と接合したものである。158は外面に刻書がある。また、142はWSK25出土土器と接合した須恵器広口壺である。堆積土の様相、出土遺物、遺構との重複関係等から平安時代の遺構と考えられるが、その機能は不明である。

第37号土坑（WSK37、図115）

［位置 ・確認］調査区西側南部、24-70・71グリッドに位置し、遺構確認面の標高は32.2～32.6m、第Ⅳ層で確認した。WSK30より本遺構が新しい。

［平面形・規模］平面形は長軸190cm、短軸150cmの歪な楕円形で、確認面からの深さは12～34cmだが斜面下方の西側壁は遺存していない。地山をやや凹凸がある底面とし、断面形は皿状をなす。

［堆積土］ローム粒・炭化物を含んだ褐色土が堆積し、人為堆積と思われる。

［出土遺物・遺構の時期等］遺物は出土しなかった。堆積土の様相や遺構の形状等から、遺構との重複関係等から縄文時代の遺構である可能性が考えられ、その機能は貯蔵穴の可能性がある。

第38号土坑（WSK38、図109・110・131）

［位置 ・確認］調査区中央、24-66グリッドに位置し、遺構確認面の標高は33.3m、第Ⅳ層で確認した。WSD16より本遺構が古いと考えられる。

［平面形 ・規模］平面形は長軸77cm、短軸72cmのほぼ円形を呈し、確認面からの深さは20cmである。地山をそのまま底面とし、断面形は皿状をなす。

［堆積土］上位に黒色土、下位に褐色土が堆積し、人為堆積とみられる。土層断面図にWSD16b堆積土がみられないことから、WSK38南側でWSD16bが立ち上がっているものと思われる。

［出土遺物 ・遺構の時期等］底面直上から縄文時代前期中葉の円筒下層ｃ式土器（160）が潰れた状態で出土したことから縄文時代前期の遺構と考えられるが、その機能は不明である。

第39号土坑（WSK39、図115）

［位置 ・確認］調査区西側南部、24-71グリッドに位置し、遺構確認面の標高は32.4m、WSI14、WSK31等の精査中に確認した。WSI14、WSK31よりも本遺構が古い。

［平面形 ・規模］北東半が調査区域外にあって遺構の全容は不明だが、長さ約1.6mほどの円形もしくは楕円形を呈するものと思われる。検出された規模は、長軸160cm、短軸（84）cmで、確認面からの深さは20～23cmである。中央部には直径約60cmで土坑底面からの深さ15～20cmを測るピットが検出された。地山をそのまま凹凸のある底面とし、断面形は丸底状をなす。

［堆積土］ロームや炭化物を微量含む褐色土が堆積しており、自然堆積の可能性がある。

［出土遺物・遺構の時期等］覆土から須恵器坏が１点出土したが、図示し得なかった。堆積土の様相や遺構形状、出土遺物、遺構の重複関係等から平安時代の遺構と考えられるが、その機能は不明である。

第40号土坑（WSK40、図102・103）

［位置 ・確認］調査区中央東部、24-62・63グリッドに位置し、遺構確認面の標高は33.7m、WSI06の精査中に確認した。

［平面形・規模］平面形は長軸96cm、短軸58cmの楕円形を呈し、確認面からの深さは22cmである。地山をそのまま底面とし、断面形は丸底状をなす。

[堆積土]ローム粒や炭化物を微量含んだ黒色土が堆積し、人為的に埋め戻された可能性がある。
[出土遺物・遺構の時期等]土師器２点が出土したが、図示し得なかった。堆積土の様相や遺構の形状、出土遺物、遺構の重複関係等から平安時代の遺構と考えられるが、その機能は不明である。

第41号土坑（WSK41、図102・103・131）
[位置 ・確認]調査区中央東部、24-62グリッドに位置し、遺構確認面の標高は33.8m、WSI06の精査中に確認した。WSI06、WSK25、WSP20と重複し、本遺構が古い。
[平面形 ・規模]他遺構と重複しているため遺構の全容は不明だが、検出された平面形の長軸は（125）cm、短軸100cmの隅丸方形を呈し、確認面からの深さは43cmである。地山をそのまま平坦な底面とし、断面形は上部が開くコ字状をなす。
[堆積土]上位に黒褐色土、下位に黒色土が堆積し、人為的に埋め戻されたものである。
[出土遺物・遺構の時期等]土師器が少量、須恵器が２点出土し、そのうち覆土から出土した土師器鉢？（161）・小甕（162）を図示した。堆積土の様相、出土遺物、遺構との重複関係等から平安時代の遺構と考えられるが、その機能は不明である。

第42号土坑（WSK42、図102・103）
[位置 ・確認]調査区中央東部、24-62グリッドに位置し、遺構確認面の標高は33.8m、WSI06・07・09の精査中に確認した。
[平面形・規模]平面形は長軸164cm、短軸127cmの楕円形を呈し、確認面からの深さは44～48cmである。地山をそのまま底面とし、断面形は皿状をなす。
[堆積土]全体的にローム粒を含んだ黒褐色土が堆積し、壁際は黄褐色ロームの割合が高い。人為的に埋め戻されたものである。
[出土遺物・遺構の時期等]土師器が少量、須恵器・縄文土器が各１点出土したが、図示し得なかった。堆積土の様相や遺構の形状、出土遺物等から平安時代の遺構と考えられるが、その機能は不明である。

第43号土坑（WSK43、図102・103）
[位置・確認]調査区中央部東部、24-62グリッドに位置し、遺構確認面の標高は33.7m、WSI06・07・09の精査中に確認した。
[平面形・規模]平面形は長軸157cm、短軸138cmの楕円形を呈し、確認面からの深さは23～28cmである。地山をそのまま底面とし、断面形は皿状をなす。底面北側には、長軸60cm、短軸43cmの楕円形で、深さ15cmのピットが検出された。
[堆積土]ローム粒を含んだ黒色土が堆積し、人為的に埋め戻されたものである。
[出土遺物・遺構の時期等]遺物は出土しなかった。堆積土の様相や遺構の形状等から平安時代の遺構と考えられるが、その機能は不明である。

第44号土坑（WSK44、図102・103・131）

［位置 ・確認］調査区中央東部、24-62グリッドに位置し、遺構確認面の標高は33.6m、WSI06・07・09の精査中に確認した。

［平面形・規模］平面形は長軸71cm、短軸63cmの楕円形を呈し、確認面からの深さは28cmである。地山をそのまま底面とし、断面形は皿状をなす。

［堆積土］ローム・炭化物を含んだ黒褐色土が堆積し、人為的に埋め戻されている。

［出土遺物 ・遺構の時期等］覆土から出土した須恵器甕（163）を図示し、他に土師器 ・須恵器各１点が出土した。堆積土の様相、出土遺物、遺構の重複関係等から平安時代の遺構と考えられるが、その機能は不明である。

第45号土坑（WSK45、図112・113・131）

［位置 ・確認］調査区中央北部、24-69グリッドに位置し、遺構確認面の標高は32.8m、WSI04精査中に確認した。WSI04の付属施設の可能性がある。

［平面形 ・規模］平面形は長軸92cm、短軸89cmの円形を呈し、確認面からの深さは64～69cmである。地山をそのまま丸底状の底面とし、壁は上部が直線的に開いている。

［堆積土］全体的にローム粒や炭化物を含んでおり、上位に焼土を含んだにぶい黄褐色土、下位に暗褐色土が堆積している。人為堆積の様相を示している。

［出土遺物 ・遺構の時期等］須恵器小壺（164）を図示したが、他に土師器と縄文土器が各２点出土している。164は覆土中位から逆位で出土した焼成不良の須恵器壺で、内部に炭化したアズキ・ダイズ・ササゲ属アズキ亜属が入っていた。底外面に回転糸切り痕がみられる。アズキ等については種実同定及び放射性炭素年代測定を行っている（第３章第２節参照）。堆積土の様相、出土遺物等から平安時代９世紀末葉～10世紀代頃に廃絶された遺構と考えられるが、その機能は不明である。

第46号土坑（WSK46、図102・103）

［位置 ・確認］調査区中央東部、24-62グリッドに位置し、遺構確認面の標高は33.7m、WSI06精査中に確認した。WSP20より本遺構が新しく、WSI06より本遺構が古い。

［平面形・規模］平面形は長軸55cm、短軸52cmの不整な円形を呈し、確認面からの深さは33cmである。地山をそのまま底面とし、断面形は擂り鉢状をなす。

［堆積土］ローム粒や炭化物を含んだ黒褐色土や黒色土が堆積し、人的に埋め戻されたものである。

［出土遺物・遺構の時期等］遺物は出土しなかった。堆積土の様相や遺構の形状、遺構との重複関係等から平安時代の遺構と考えられ、その機能は柱穴の可能性がある。

第47号土坑（WSK47、図106）

［位置 ・確認］調査区中央北部、24-63グリッドに位置し、遺構確認面の標高は33.6m、第Ⅳ層で確認した。他遺構との重複は認められなかった。

［平面形・規模］北半が調査区域外に延びていて、遺構の全容は不明であるが。確認できた規模は長軸（148）cm、短軸（73）cmで、歪な楕円形を呈する可能性がある。確認面からの深さは43cmで、底面は

やや起伏があって、断面形は皿状をなしている。２層は掘り方の可能性がある。
[堆積土]上位は黒色土が、下位は黒褐色土と褐色土の混合土が堆積し、自然堆積とみられる。
[出土遺物・遺構の時期等]土師器、須恵器、縄文土器が少量出土したが、図示し得なかった。堆積土の様相や遺構の形状、出土遺物等から平安時代の遺構と考えられるが、その機能は不明である。

第48号土坑（WSK48、図112・113）
[位置・確認]調査区中央北部、24-69グリッドに位置し、遺構確認面の標高は32.8m、WSI04精査中に確認した。WSI04、WSD17より本遺構が古い。
[平面形・規模]東半が調査区域外に延びていて遺構の全容は不明だが、検出された平面形の長軸は(140)cm、短軸(126)cm、確認面からの深さは23～26cmである。平面形は円形もしくは楕円形を呈すると考えられる。地山をそのまま平坦な底面とし、断面形は丸底状をなす。
[堆積土]上位に黒色土及び暗褐色土が、下位に黒褐色土及び黄褐色土が堆積し、人為堆積と思われる。
[出土遺物・遺構の時期等]遺物は出土しなかった。堆積土の様相や遺構の形状、遺構との重複関係等から平安時代の遺構と考えられるが、その機能は不明である。

第49号土坑（WSK49、図112～114）
[位置・確認]調査区中央北部、24-69グリッドに位置し、遺構確認面の標高は32.7m、WSI04精査中に確認した。WSI04より本遺構が古い。
[平面形・規模]平面形は長軸88cm、短軸81cmの隅丸方形もしくは歪な円形を呈し、確認面からの深さは31～37cmである。地山をそのまま凹凸がある底面とし、断面形は擂り鉢状をなす。
[堆積土]覆土上位は焼土ブロックを多量に含む黒褐色土が、下位は焼土・ローム粒を少量含む暗褐色土が堆積しており、人為堆積の様相を示している。
[出土遺物・遺構の時期等]覆土から須恵器が１点出土したが、図示し得なかった。堆積土の様相や遺構形状、出土遺物、遺構との重複関係等から平安時代の遺構と考えられるが、その機能は不明である。

第50号土坑（WSK50、図112・113）
[位置・確認]調査区中央北部、24-68グリッドに位置し、遺構確認面の標高は32.9m、WSI04精査中に確認した。WSI04よりも本遺構が新しい。
[平面形・規模]平面形は長軸126cm、短軸116cmの不整な円形を呈し、確認面からの深さは５～18cmで、斜面下方にあたる西側が浅くなっている。底面はやや凹凸があるものの貼床によって概ね平坦に整えられ、断面形は皿状をなす。
[堆積土]上位にローム粒や炭化物を含んだ黒褐色土、下位に炭化物を含んだ黒褐色土と黄褐色土の混合土である。上位は堆積土で、下位は貼り床として底面を整えた可能性がある。
[出土遺物・遺構の時期等]覆土から土師器、須恵器が少量出土し、掘り方から土師器が数点出土したが、図示し得る遺物はなかった。堆積土の様相や遺構の形状、出土遺物、遺構との重複関係等から平安時代の遺構と考えられるが、その機能は不明である。

第51号土坑（WSK51、図102）

［位置 ・確認］調査区中央東部、24-62グリッドに位置し、遺構確認面の標高は33.9m、WSI06・07・09の精査中に確認した。WSI06、WSP27と重複し、本遺構が新しい。

［平面形・規模］平面形は長軸88cm、短軸72cmの楕円形を呈し、確認面からの深さは54cmである。地山をそのまま平坦な底面とし、断面形は上部が開くコ字状をなす。

［堆積土］ロームブロックを多く含んだ黒褐色土で人為的に埋め戻されている。

［出土遺物・遺構の時期等］土師器甕片と縄文土器片が各１点出土したが、図示し得なかった。堆積土の様相や遺構の形状、出土遺物、遺構との重複関係等から平安時代の遺構と考えられるが、その機能は不明である。

第52号土坑（WSK52、図102・103）

［位置 ・確認］調査区中央東部、24-62グリッドに位置し、遺構確認面の標高は33.7m、WSI06精査中に確認した。

［平面形・規模］平面形は長軸39cm、短軸28cmの歪な楕円形を呈し、確認面からの深さは36cmである。地山をそのまま底面とし、断面形は漏斗状をなす。

［堆積土］柱痕と思われる黒色土と、掘り方と思われるロームを中量含む黒褐色土が堆積している。

［出土遺物・遺構の時期等］覆土から土師器甕片３点が出土したが、図示し得なかった。堆積土の様相や遺構の形状、出土遺物等から平安時代の遺構と考えられる。また柱痕及び掘り方を示す堆積土の様相と遺構の形状から機能は柱穴と考えられる。

第53号土坑（WSK53、図102・103・132）

［位置 ・確認］調査区中央東部、24-61グリッドに位置し、遺構確認面の標高は33.6m、WSI08の精査中に確認した。WSI08、WSD18と重複し、本遺構が新しい。

［平面形 ・規模］北半は調査区域外にあって全容は不明だが、検出された平面形の長軸は（152）cm、短軸（61）cm、確認面からの深さは26cmである。おそらく直径180cm前後の円形または楕円形を呈するものと考えられる。地山をそのまま平坦な底面とし、断面形は皿状をなす。

［堆積土］上位に黒褐色土、下位に焼土・炭化物等を含む暗褐色土が堆積し、自然堆積の可能性がある。

［出土遺物 ・遺構の時期等］土師器、須恵器が少量出土し、そのうち土師器甕（165）、須恵器壺（166・167）を図示した。165はWSD14出土遺物と接合したもので、外面に焼土が付着している。166は肩部片で、167は輪積痕を残しロクロ・ナデで調整されたものであることから、器厚が厚いが調整技法の観点から甕ではなく、壺の胴部下半であるものと判断された。また器表面には縄の圧痕のようなものが部分的にみられ、偶発的に縄が接触したものである可能性がある。堆積土の様相、出土遺物、遺構との重複関係等から平安時代の遺構と考えられるが、その機能は不明である。

第54号土坑（WSK54、図102・103・132）

［位置 ・確認］調査区中央東部、24-61グリッドに位置し、遺構確認面の標高は33.8m、WSI07の精査中に確認した。WSK55、WSD19より本遺構が新しく、WSI07より古い。

［平面形 ・規模］平面形は長軸95cm、短軸83cmの隅丸方形を呈し、確認面からの深さは36cmである。地山をそのまま平坦な底面とし、丸みを帯びながら壁が立ち上がる。断面形はコ字状をなす。

［堆積土］ローム粒や炭化物を含んだ黒褐色土が堆積し、人為的に埋め戻されたものと思われる。

［出土遺物 ・遺構の時期等］土師器甕片が少量出土したが、図示したのは土師器坏（168）である。内外面ともにナデ調整がなされ、底外面にナデ調整後の爪痕らしき痕跡がみられる。堆積土の様相、出土遺物、遺構との重複関係等から平安時代の遺構と考えられるが、その機能は不明である。

第55号土坑（WSK55、図102・103）

［位置 ・確認］調査区中央東部、24-61グリッドに位置し、遺構確認面の標高は33.8m、WSI07の精査中に確認した。検出された層位及び位置的に、WSI09に伴う遺構と考えられる。WSI07、WSK54と重複し、本遺構が古い。

［平面形 ・規模］西端がWSK54によって壊されており、確認できた平面形は長軸（96）cm、短軸84cmで楕円形を呈し、確認面からの深さは32cmである。地山をそのまま平坦な底面とし、壁は湾曲しながら立ち上がって断面形は皿状をなす。

［堆積土］確認面付近の黒褐色土は堅く締まっており、WSI09の床面として使用されたものと考えられる。中位に黒色土、下位には黒褐色土が堆積し、人為的に埋め戻されたものである。

［出土遺物・遺構の時期等］土師器甕片が少量出土したが、図示し得る遺物はなかった。堆積土の様相や遺構の形状、出土遺物、遺構との重複関係等から平安時代の遺構と考えられ、WSI09に付属する遺構である可能性がある。

第56号土坑（WSK56、図102・103）

［位置 ・確認］調査区中央東部、24-62グリッドに位置し、遺構確認面の標高は33.6m、第Ⅳ層で確認した。他遺構との重複は認められなかった。

［平面形 ・規模］北西半が調査区域外にあって遺構の全容は不明だが、検出された平面形の長軸は116cm、短軸（53）cmで、平面形は円形または楕円形を呈すると考えられ、確認面からの深さは37～46cmで西側が深くなっている。地山をそのまま底面とし、断面形は歪んだコ字状をなす。

［堆積土］ロームを含んだ黒褐色土が堆積し、人為的に埋め戻されたものと思われる。

［出土遺物・遺構の時期等］遺物は出土しなかった。堆積土の様相や遺構の形状等から、平安時代の遺構と考えられるが、その機能は不明である。

（３）　掘立柱建物跡・ピット

農道24号W区からは合計33基のピットが検出され、そのうち４基のピットが掘立柱建物跡（WSB01）を構成し、３基のピットが１条のピット列に、４基のピットが竪穴住居跡の付属施設に、それぞれ組み込まれるものと想定される。したがって、現状で構造物に組み込まれない単独のピットは22基である。各ピットの位置や計測値等諸特徴は、図98の遺構配置図や表24の計測表に示した。

ここでは掘立柱建物跡１棟とピット列１条について記載する。

表24　農道24号Ｗ区　ピット計測表

WSP番号	図版番号	グリッド	標高（m）	規模（cm）			備考
				長軸	短軸	深さ	
1	109	N24-65	33.9	58	55	46	WSB01を構成するピット。WSK08、WSD01より新しい。須恵器坏（図132－169）・甕（同170）、縄文前期土器（同171）出土。他に須恵器坏・壺・甕、土師器甕、縄文前期土器の破片出土。
2	109・110	N24-65	32.9	59	41	47	WSB01を構成するピット。
3	109・110	N24-65	32.8	49	39	48	WSB01を構成するピット。
4	109・110	N24-65	33.0	30	44	59	WSB01を構成するピット。
5	108	N24-64	33.2	54	43	39	縄文前期土器片出土。
6	99	N24-53	35.4	33	26	13	WSD04との新旧関係不明。
7	99	N24-53	35.6	38	30	15	
8	99	N24-55	34.5	47	41	23	WSD09との新旧関係不明。
9	100・101	N24-58	33.3	35	31	24	ピット列を構成するピット。
10	100・101	N24-58	33.2	36	29	21	ピット列を構成するピット。縄文前期土器片出土。
11	102・103	N24-59	33.4	49	46	61	土師器甕、須恵器坏・甕の破片出土。
12	102・103	N24-59	33.8	59	54	19	土師器甕、須恵器壺の破片出土。
13	102・103	N24-59	33.7	54	53	21	隅丸方形。
14	100・102・103	N24-59・60	33.7	55	50	10	土師器甕、縄文前期土器の破片出土。
15	102・103	N24-59	33.6	42	40	30	隅丸方形。須恵器壺・甕、縄文前期土器の破片出土。
16	100・101	N24-59	33.1	33	27	36	ピット列を構成するピット。土師器甕の破片出土。
17	106・107	N24-63	33.1	61	55	52	
18	106・107	N24-63	33.5	44	11	25	WSI01より新しい。
19	106・107	N24-63	33.3	40	31	37	
20	102・103	N24-62	33.5	54	43	28	WSK41より新しい。WSK46、WSI06より古い。土師器甕、須恵器坏の破片出土。
21	109	N24-66	33.1	37	23	19	
22	109	N24-66	32.9	41	36	38	
23	109	N24-66	33.2	42	31	19	
24	109	N24-66	33.0	48	32	36	
25	106・107	N24-63	33.3	52	36	32	
26	106	N24-63	33.5	44	34	18	
27	102	N24-62	33.4	34	29	43	WSI09ピット。WSK51より古い。土師器甕の破片出土。
28	102・104	N24-61	33.6	25	24	26	WSI07ピット。
29	102・104	N24-61	33.4	50	38	39	WSI09ピット。土師器甕、須恵器壺・甕の破片出土。
30	102	N24-63	33.2	36	35	46	WSI06ピット。
31	102	N24-62	33.2	67	56	39	土師器甕、縄文前期土器の破片出土。WSP32より新しい。
32	102	N24-62	33.3	46	(34)	22	WSP31より古い。
33	106・107	N24-63	33.6	(53)	39	43	WSK25より古い？

第１号掘立柱建物跡（WSB01、図109・110・132）

24-65グリッドにおいてWSP01～04の４基のピットで構成される掘立柱建物跡である。WSP01がやや北側に寄っていて若干歪な１間×１間で、北西から南東方向に主軸があるとすれば、N－148°－Eである。ただし、24-65・66グリッドではピットが多く検出されており、これらも組み合わされる可能性がある。WSD03が壁溝、WSD16が床下溝の可能性があり、床面が遺存していない竪穴住居跡が24-65・66グリッドにあったことが考えられる。WSP01からは土師器、須恵器、縄文土器片などが出土し、そのうち３点を図132に示した。

ピット列（図101）

24-58・59グリッドにおいて、WSP09・10・16がピット列をなしている。柱間寸法は約1.7mと約1.8mである。これらはWSI05より新しいが、上部を掘り上げてから調査着手したため、各ピットの実際の深さは３基とも30cm以上あったものと推測される。図示していないがWSP10からは縄文土器片が、WSP16からは土師器甕片が出土している。

（４） 溝跡

農道24号W区からは合計18条の溝跡が検出された。溝跡は埋没沢を挟んだ52～56グリッドと60～62グリッドにまとまりがみられる。多くは南東から北西方向へ流れるものが多く、若干南西から北東方向へ流れるものがある。なお第２号溝跡（WSD02）は溝状土坑であることが判明したため、第１号溝状土坑（WSV01）に改称しそちらに記載している。

第１号溝跡（WSD01、図109・110・112・114・133・134）

［位置 ・確認］調査区中央、24－64・65グリッドと24－69～71グリッドの２カ所で検出され、同一の溝と思われる。遺構確認面の標高は南東部で33.4～33.6m、北西部で31.5～32.6m、第Ⅳ層で確認した。本遺構はWSK08より新しく、WSK07、WSP01より古い。

［平面形・規模・底面］調査区を北西－南東に横切る直線状の溝跡で、確認できた長さは（7.9）m、（8.2）m、幅は170～210cmの直線状の溝跡で、確認面からの深さは30～62cmである。底面は地山をそのまま平坦な底面としており、断面形は逆台形状をなす。北西側には底面から約15cm高い、地山を掘り残して作出された堰堤状の仕切りが検出された。24-64グリッドの南東端と24-71グリッドの北西端では、溝底面の比高差は2.1mあり、北西側に傾斜して構築されている。特に24-69～71グリッドだけで1.2mの急傾斜をなしている。

［堆積土］堆積土は黒色土もしくは黒褐色土が主として堆積し自然堆積と思われるが、部分的にロームが多く混入する部分があり、これは流水によって運搬・堆積された可能性がある。

［出土遺物 ・遺構の時期等］遺物が南東部で多く出土した溝跡で、土師器、須恵器、縄文土器がある。そのうち土師器坏（172～174）・小甕（175・176）・甕（177～181）、須恵器坏（182～186）・壺（187～189）、削掻器（190）を図示した。172は口縁部で屈曲して端反りがみられ、173・174は内外面ともナデ調整が施されている。175・176とも特徴的な口縁形状をなしており、羽釜をイメージしたものに感じられる。177は胴部上位に輪積みの凹凸が明瞭に残っているもので、178・179はロクロ調整の甕である。須恵器坏の183は胴部下半が大きく膨らむ器形をなし、椀に近い器形をなしている。184～186は外面に刻書がみられる。壺底部の188・189はともに底外面がヘラナデ調整で、189は大型のものである。堆積土の様相、遺構の形状、出土遺物等から平安時代以降のものと考えられる。本遺構の機能は、その形状や走行方向から排水、区画等の可能性が考えられる。

第２号溝跡（WSD02→WSV01）

［位置 ・確認］調査時は溝跡と想定していたが、溝状土坑であることが判明したため「WSV01」に名称を変更し、そちらで報告している。

第３号溝跡（WSD03、図109・110）

［位置・確認］調査区中央、24－65グリッドに位置し、遺構確認面の標高は33.7m、第Ⅳ層で確認した。他遺構との重複は認められなかった。

［平面形・規模・底面］南東部が調査区域外に延びていて遺構の全容は不明であるが、確認できた長さは（1.4）m、幅27～30cmの溝跡で、確認面からの深さは12～15cmである。底面はやや凹凸があり断面形状はU字状である。底面は南東端と南西端で比高差がほとんどなく水平である。また、南東部に深さ26cmのPit１が検出された。

［堆積土］ロームを含む黒色土が堆積しており、人為堆積と思われる。

［出土遺物・遺構の時期等］土師器甕胴部片が出土したが、図示し得なかった。堆積土の様相や遺構の形状、出土遺物、ピットの検出などから、平安時代竪穴住居跡の壁溝である可能性がある。そうであった場合、WSK08・38、WSP01・02などと組み合わされるものと思われる。

第４号溝跡（WSD04、図99・135）

［位置 ・確認］調査区東側東部24－52・53グリッドに位置し、遺構確認面の標高は35.6～36.1m、第Ⅳ層で確認した。WSK15・18と重複し、本遺構はWSK15より新しく、WSK18より古い。WSP06との新旧関係は不明である。

［平面形・規模・底面］面形は長さ11.2m、幅54～95cmの弧状の溝跡で、南東端の上端はWSK18によって遺存していない。確認面からの深さは、西側で7～12cm、東側で15～42cmであるが、底面は東端より西端が標高で24cmほど低くなっており、西端へ傾斜して構築されている。底面は若干凹凸があるものの概ね整えられた丸底状の断面形状をなしている。

［堆積土］黒褐色土が堆積し、ローム粒や炭化物を多く含む部分があるため、人為的に埋め戻されたものと思われる。

［出土遺物 ・遺構の時期等］土師器、須恵器、縄文土器が出土し、そのうち須恵器胴部片（191）、縄文前期土器底部片（192）を図示した。192は底外面にもRL回転施文がみられる。遺構の形状、堆積土の様相、出土遺物等から平安時代の遺構と考えられる。南東半は直線的だが北西半が弧状をなす平面形であることから、竪穴住居跡の外周溝である可能性がある。そうであった場合、WSD10が壁溝でWSP07が柱穴と考えられるが、他の柱穴や床面、カマド等の痕跡は確認できなかった。

第５号溝跡（WSD05、図99・135）

［位置 ・確認］調査区東側東部、24－53・54グリッドに位置し、遺構確認面の標高は35.3～35.7m、第Ⅳ層で確認した。他遺構との重複は認められなかった。

［平面形・規模・底面］調査区を北西－南東に横切る直線状の溝跡で、確認できた長さは（10.3）m、幅218～244cm、確認面からの深さは、斜面下方である西壁が30～40cm、斜面上方である東壁が48～65cmである。底面は第Ⅴ層まで掘り込んで、地山をそのまま平坦な底面とし、断面形は上部が開く逆台形状をなす。底面は南東端より北西端が約20cm低くなっており、北西端へ傾斜している。

［堆積土］ロームを多く含んだ黒褐色土が堆積しており、人為的に埋め戻されたものと思われる。

［出土遺物 ・遺構の時期等］土師器、須恵器、縄文土器が出土し、そのうち土師器堝（193）、須恵器坏

(194)・大甕(195)、縄文前期土器片(196)を図示した。193は小型の堝で、194は外面に刻書があり、196の口縁部文様帯は横位に胴部文様帯は縦位に条痕が走っている。遺構の形状、堆積土の様相、出土遺物等から平安時代の遺構と考えられる。本遺構の機能は、その形状や走行方向から排水、区画、壕跡などの可能性が考えられる。

第６号溝跡(WSD06、図99)

[位置 ・確認]調査区東側東部、24－54・55グリッドに位置し、遺構確認面の標高は35.2～35.4m、第Ⅳ層で確認した。他遺構との重複は認められなかった。

[平面形・規模・底面]北西側が調査区外に延びていて遺構の全容は不明だが、確認できた長さは(5.9)m、幅36cmの直線的な溝跡で、確認面からの深さは8～17cmである。底面にはやや凹凸があって断面形はU字状をなす。底面は南東端より北西端が約10cm低く、北西端へ傾斜して構築されている。

[堆積土]ローム粒や炭化物を含んだ黒褐色土が堆積し、人為的に埋め戻されたものと思われる。

[出土遺物・遺構の時期等]土師器、縄文土器が数点出土したが、図示し得る遺物はなかった。堆積土の様相や遺構の形状、出土遺物等から、平安時代の遺構と考えられる。本遺構の機能は、その形状や走行方向から排水、区画などの可能性が考えられる。

第７号溝跡(WSD07、図99・135)

[位置 ・確認]調査区東側東部、24－54・55グリッドに位置し、遺構確認面の標高は35.1～35.4m、第Ⅳ層で確認した。他遺構との重複は認められなかった。

[平面形・規模・底面]両端とも調査区域外に延びていて遺構の全容は不明だが、部分的に蛇行する溝跡である。確認できた長さは(9.0)m、幅73～128cm、確認面からの深さは7～18cmである。底面は凹凸があって、ほぼ掘り方層を検出したものと思われる。遺構の断面形は皿状をなす。底面は南東端より北西端が約40cm低く、北西端へ傾斜して構築されている。

[堆積土]黒褐色土と明黄褐色土の混合土がみられ、掘り方層と思われる。

[出土遺物 ・遺構の時期等]土師器、須恵器、縄文土器が出土し、そのうち土師器小甕(197)、須恵器甕(198)を図示した。遺構の形状、堆積土(掘り方)の様相、出土遺物等から平安時代の遺構と考えられる。本遺構の機能は、その形状や走行方向から排水、区画などの可能性が考えられる。

第８号溝跡(WSD08、図99・135)

[位置 ・確認]調査区東側東部、24－55グリッドに位置し、遺構確認面の標高は35.0m、第Ⅳ層で確認した。他遺構との重複は認められなかった。

[平面形・規模・底面]平面形は長さ3.1m、幅26～54cmの溝跡で、確認面からの深さは18～29cmである。底面はやや凹凸があって、断面形はU字状をなす。底面は南東端より北西端が約20cm低く、北西端へ傾斜して構築されている。

[堆積土]上位は黒色土が、下位は黒褐色土が堆積し、自然堆積と思われる。

[出土遺物・遺構の時期等]土師器、須恵器、縄文土器が出土し、そのうち須恵器？坏(199)を図示した。酸化焼成しており、色調は橙色～赤褐色を呈している。遺構の形状、堆積土の様相、出土遺物等から

平安時代の遺構と考えられる。本遺構の機能は、その形状や走行方向から排水、区画などの可能性が考えられる。

第９号溝跡（WSD09、図99・135）

［位置 ・確認］調査区東側中央、24－55・56グリッドに位置し、遺構確認面の標高は34.5～35.0m、第Ⅳ層で確認した。WSP08と重複するが、新旧関係は不明である。

［平面形・規模・底面］両端とも調査区域外に延びていて遺構の全容は不明であるが、確認できた長さは（9.0）mである。そのうち東半約３m分は幅45cm、深さ６～18cmの直線的溝跡で、西半約６m分は幅114～145cm、深さ16～22cmの弧状に湾曲する溝となっている。底面及び断面形状は東半ではやや凹凸があるU字状をなし、西半では起伏の少ない皿状をなす。底面は南東端より北西端が低く、北西端へ傾斜して構築されている。東半の直線部分で10cm、西半の弧状部分で30cmの比高差がある。

［堆積土］ローム粒や炭化物を含んだ黒褐色土が堆積し、下位には黄褐色ロームが多く含まれ、人為的に埋め戻されたものと思われる。また、掘り方を有し底面を整えている。

［出土遺物・遺構の時期等］土師器、須恵器、縄文土器が出土し、そのうち土師器坏（200）、須恵器甕（201）を図示した。いずれも覆土からの出土で、200は内面黒色処理を施すものである。堆積土の様相、出土遺物等から平安時代の遺構と考えられる。本遺構の機能は、その形状や走行方向から外周溝の可能性や、排水、区画などの可能性が考えられる。

第10号溝跡（WSD10、図99）

［位置 ・確認］調査区東側東部、24－52グリッドに位置し、遺構確認面の標高は35.9m、第Ⅳ層で確認した。WSK16と重複し、本遺構が新しい。

［平面形 ・規模 ・底面］南東側は調査区域外に延びており遺構の全容は不明だが、確認できた長さは（2.4）m、幅32～55cmの直線状の溝跡で、確認面からの深さは19cmである。底面はやや凹凸があり、断面形は皿状をなす。底面は北西端が南東端より約10cm低く、北西端へ傾斜している。

［堆積土］ロームブロックや炭化物を微量含んだ黒褐色土が堆積し、自然堆積と思われる。

［出土遺物・遺構の時期等］土師器、縄文土器片が数点出土したが、図示し得る遺物はなかった。堆積土の様相や遺構の形状等から、遺構の重複関係、出土遺物、堆積土の様相等から平安時代の遺構と考えられる。本遺構の機能は、その形状や走行方向から排水や、区画などの可能性が考えられる。

第11号溝跡（WSD11、図100・102・103・136）

［位置 ・確認］調査区中央東部、24－59・60グリッドに位置し、遺構確認面の標高は33.6～33.8m、第Ⅳ層で確認した。WSI10・11、WSK17、WSD12・14・15と重複し、本遺構が新しい。

［平面形・規模・底面］両端とも調査区域外に延びていて遺構の全容は不明であるが、確認できた長さは（8.0）m、幅112～210cm、確認面からの深さは24～66cmである。北側ほど幅が広く、深さがある。地山をそのまま底面として使用し、断面形状は丸底状で丸みを帯びながら壁が立ち上がる。底面は北端が南端より44cmほど標高が低く、北側へ傾斜して構築されている。

［堆積土］上位に黒色土、下位に黒褐色土が堆積し、部分的にローム粒や炭化物を少量含むが、自然堆

積と思われる。
[出土遺物 ・遺構の時期等]土師器、須恵器、縄文土器、土鈴が出土した。そのうち土師器甕(202)、須恵器？皿(203)、須恵器坏(204)、須恵器？甕(205)、土鈴(206)を図示した。203・205は色調が橙色を呈した酸化焼成で、焼成不良の須恵器と思われる。206は把手部のみで両端部が欠損しているが、端部を扁平に潰し、貫通孔を設けていたようである。また、図136－210はWSD14出土遺物と接合した須恵器甕片である。遺構の重複関係、出土遺物、堆積土の様相等から平安時代の遺構と考えられる。本遺構の機能は、その形状や走行方向から排水、区画等の可能性が考えられる。

第12号溝跡(WSD12、図102・103)
[位置 ・確認]調査区中央東部、24－60グリッドに位置し、遺構確認面の標高は33.5～33.8m、第Ⅳ層で確認した。WSD11と重複し、本遺構が古い。
[平面形 ・規模 ・底面]北西端が調査区域外に延びていて遺構の全容は不明だが、確認できた長さは(6.0)m、幅67～75cmで、確認面からの深さは北西部12～17cm、南東部は７～10cmで北西側の規模が若干大きくなっている。北西端は幅100cm、深さ９～21cmの土坑状をなし、底面には深さ９cmの小ピットもあることから、この部分は別遺構の可能性がある。溝跡の底面は地山をそのまま使用し、断面形は皿状をなす。底面は北西端より南東端が28cm低く、北西端へ傾斜して構築されている。
[堆積土]上位に黒褐色土、下位に黄褐色土が堆積し、自然堆積とみられる。
[出土遺物・遺構の時期等]土師器、縄文前期土器が少量出土したが、図示し得る遺物はなかった。堆積土の様相や遺構の形状、出土遺物等から平安時代の遺構と考えられる。本遺構の機能は、その形状や走行方向から排水、区画等の可能性が考えられる。

第13号溝跡(WSD13、図102・103)
[位置 ・確認]調査区中央東部、24－61グリッドに位置し、遺構確認面の標高は33.9m、第Ⅳ層で確認した。WSK24と重複し、本遺構が新しい。
[平面形・規模・底面]重複と調査区際に位置するため遺構の全容は不明だが、確認できた長さは(1.1)cm、幅20～40cmの溝跡で、確認面からの深さは４～19cmで南西側が深い。底面は地山をそのまま底面とし、やや凹凸がある。断面形はU字状をなす。南西には深さ31cmのPit1が検出された。
[堆積土]黒色土が堆積している。
[出土遺物・遺構の時期等]遺物は出土しなかった。堆積土の様相や遺構の形状等から平安時代と考えられ、本遺構の機能はその形状やPit1が検出されたことから、竪穴住居跡の壁溝の可能性、WSI08Pit2と組み合わされてWSI08に付属する掘立柱建物跡の仕切り溝などの可能性が考えられる。

第14号溝跡(WSD14、図102・132・136)
[位置・確認]調査区中央東部、24－60・61グリッドに位置し、第Ⅳ層で確認した。WSK36、WSI08・11・12・15と重複し、本遺構はWSK36、WSI08・12・15より新しく、WSD11より古い。
[平面形・規模・底面]北西端が調査区域外に延びているため遺構の全容は不明だが、確認できた長さは(7.2)m、幅56～120cmの緩やかに蛇行する溝跡で、確認面からの深さは、北半16～35cm、南半８～

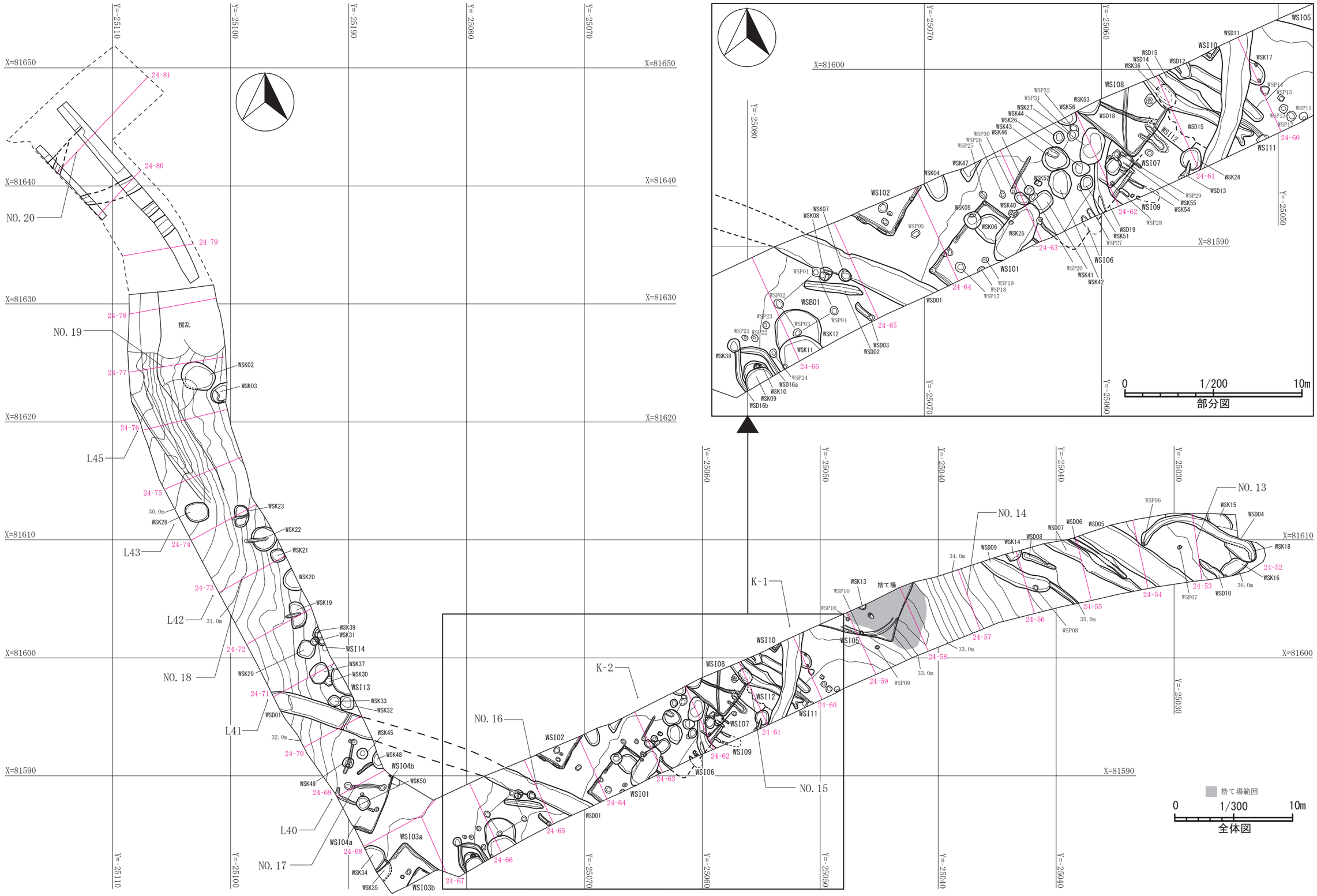


図98　農道24号W区 遺構配置図

WSD04(A-A')
1層 10YR3/2 黒褐色土　10YR6/6明黄褐色ロームブロック(φ10～50mm)10%、5YR5/8明赤褐色焼土(φ1mm)1%、炭化物(φ1mm)1%。
WSD10(A-A')
1層 10YR2/2 黒褐色土　10YR6/8明黄褐色ロームブロック(φ10×10mm)2%、炭化物(φ1mm)1%。
WSK16(A-A')
1層 10YR4/4 褐 色 土　10YR2/2黒褐色土3%。
2層 10YR2/1 黒 色 土　10YR5/8黄褐色ローム粒(φ1～3mm)1%、5YR5/8明赤褐色焼土(φ1mm)1%、炭化物(φ1mm)1%。
3層 10YR1.7/1 黒 色 土　10YR6/8明黄褐色ロームブロック(φ1～30mm)2%。
WSK18(A-A')
1層 10YR2/2 黒褐色土　10YR5/6黄褐色ローム粒(φ1～30mm)2%、炭化物(φ1mm)1%。
2層 10YR1.7/1 黒 色 土　10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1～3mm)1%、5YR5/8明赤褐色焼土(φ1mm)1%、炭化物(φ1mm)1%。
WSD04(B-B')
1層 10YR2/2 黒褐色土と10YR5/6黄褐色土の混合層。炭化物(φ1～3mm)3%。
2層 10YR2/3 黒褐色土　10YR5/6黄褐色ローム粒(φ1～3mm)1%、炭化物(φ1mm)1%。
WSK15(B-B')
1層 10YR2/1 黒 色 土　10YR5/6黄褐色ローム粒(φ1～10mm)1%、炭化物(φ1mm)1%。
2層 10YR2/2 黒褐色土　10YR5/6黄褐色ローム5%、炭化物(φ1mm)1%。
WSD04(C-C')
1層 10YR2/2 黒褐色土　10YR5/6黄褐色ローム粒(φ1～30mm)3%、炭化物(φ1～2mm)1%。
2層 10YR2/3 黒褐色土　10YR8/6黄橙色ロームブロック(φ10～30mm)5%、10YR5/6黄褐色ローム粒(φ1～3mm)2%、炭化物(φ1mm)1%。
WSD05(D-D')
1層 10YR3/3 暗褐色土　10YR4/4褐色土5%、10YR6/6明黄褐色ローム(φ1～10mm)3%、炭化物(φ1mm)1%。
2層 10YR3/3 暗褐色土と10YR6/6明黄褐色ロームの混合層。10YR2/2黒褐色土10%、炭化物(φ1～3mm)1%。
3層 10YR2/3 黒褐色土　10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1～30mm)5%、炭化物(φ1～5mm)2%。
4層 10YR2/2 黒褐色土と10YR6/6明黄褐色ロームの混合層。10YR5/8黄褐色ロームブロック(φ5～10mm)3%、炭化物(φ1mm)1%。
5層 10YR2/2 黒褐色土　10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1～10mm)1%、炭化物(φ1mm)1%。
6層 10YR2/2 黒褐色土と10YR7/6明黄褐色ロームの混合層。10YR5/8黄褐色ローム10%、炭化物(φ1mm)1%。
7層 10YR2/3 黒褐色土　10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1～20mm)5%、炭化物(φ1mm)1%。
WSD06(D-D')
1層 10YR2/2 黒褐色土　10YR5/8黄褐色ローム20%、炭化物(φ1mm)1%。
WSD07(E-E')
1層 10YR2/2 黒褐色土と10YR6/6明黄褐色土の混合層。掘り方。10YR3/4暗褐色土3%、炭化物(φ1mm)1%。
WSD08(F-F')
1層 10YR2/1 黒 色 土　10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1mm)2%、5YR4/8赤褐色焼土(φ1mm)1%、炭化物(φ1mm)1%、しまり強い。
2層 10YR2/3 黒褐色土　10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1～5mm)3%、5YR4/8(φ1～3mm)1%、しまりやや強い。
WSD09(G-G')
1層 10YR2/3 黒褐色土　10YR5/8黄褐色ローム粒(φ1～20mm)10%、炭化物(φ1mm)1%。
2層 10YR2/2 黒褐色土　10YR5/8黄褐色ローム粒(φ1～20mm)5%、炭化物(φ1～3mm)3%。
3層 10YR5/8 黄褐色土　10YR3/3暗褐色土5%、炭化物(φ1mm)1%。
4層 10YR3/3 暗褐色土　掘り方。10YR5/8黄褐色ローム粒(φ1～5mm)1%、炭化物(φ1～5mm)2%。
WSK14(H-H')
Ⅰ 10YR2/1 黒 色 土
1層 10YR2/3 黒褐色土　10YR4/6褐色土5%、炭化物(φ1～5mm)3%。
2層 10YR2/3 黒褐色土と10YR4/6褐色土の混合層。10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1～2mm)1%、炭化物(φ1mm)1%。

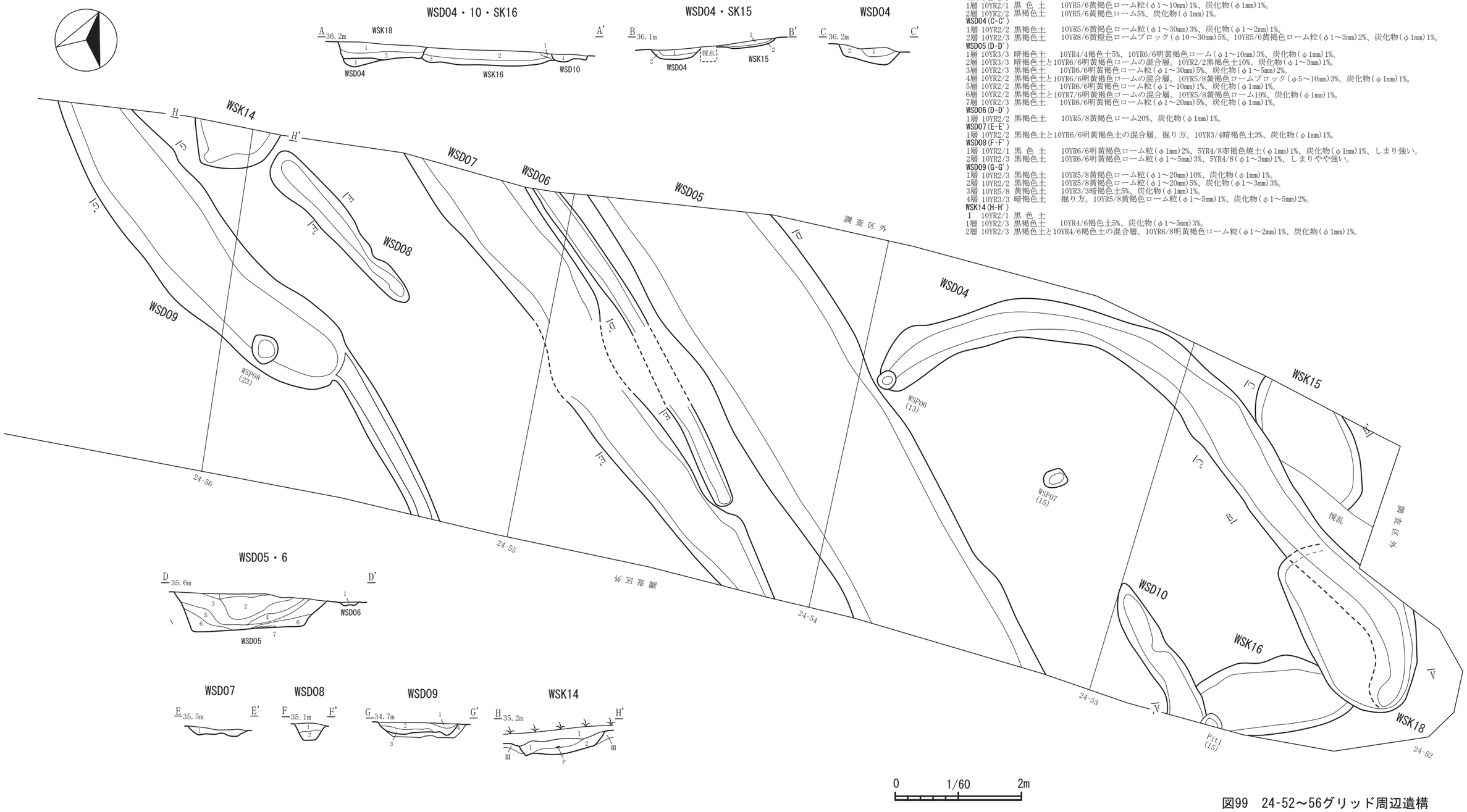
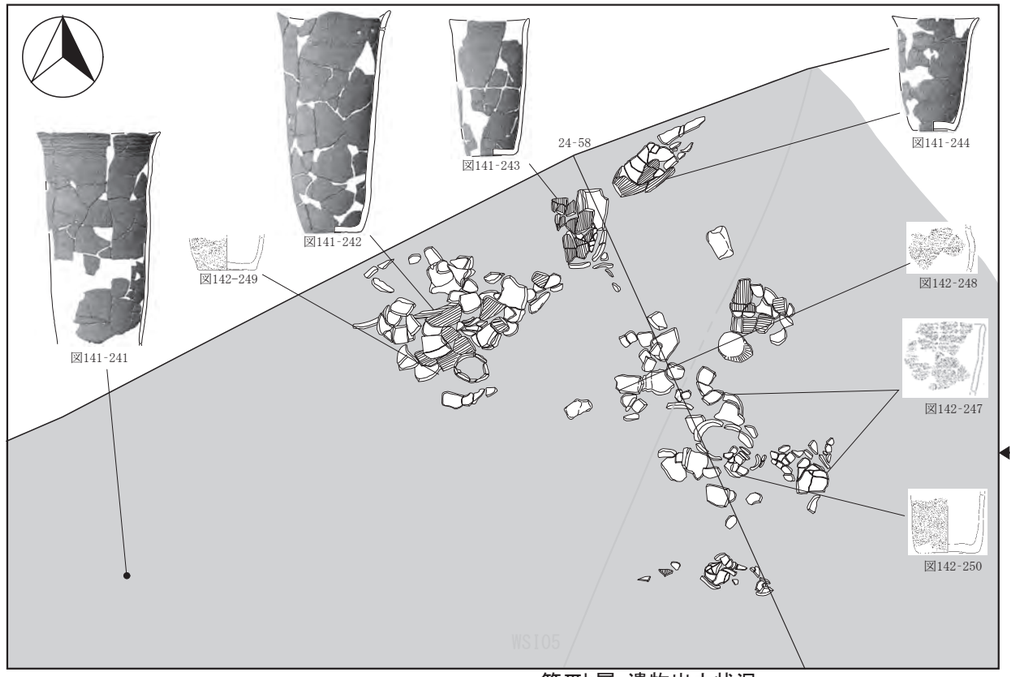


図99　24-52～56グリッド周辺遺構



第Ⅲb層 遺物出土状況

基本層序(A-A')

Ⅰa 10YR2/2	黒褐色土	根、小礫多い。
Ⅰb 10YR2/3	黒褐色土	10YR7/1灰白色浮石(φ1mm)1%。
Ⅱ 10YR1.7/1	黒 色 土	10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1mm)1%。
Ⅲ 10YR2/3	黒褐色土	10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1～3mm)1%、5YR5/8明赤褐色焼土(φ1mm)1%、炭化物(φ1mm)1%。
Ⅲa 10YR3/4	暗褐色土	炭化物(φ1mm)1%。
Ⅲb 10YR3/3	暗褐色土	10YR3/4暗褐色土10%、10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1～5mm)2%、土器多い。
Ⅲc 10YR3/2	黒褐色土	10YR7/1灰白色浮石(φ1～3mm)1%。
Ⅲd 10YR3/3	暗褐色土	10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1mm)1%。
Ⅳ 10YR2/1	黒 色 土	10YR7/6明黄褐色ローム粒(φ1mm)1%、10YR7/1灰白色浮石(φ1～3mm)1%。
Ⅴ 10YR2/2	黒褐色土	

WSI05(A-A')

1層 10YR1.7/1	黒 色 土	10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ2～5mm)3%、5YR5/8明赤褐色焼土(φ1～2mm)1%、炭化物(φ1～10mm)5%。
2層 10YR2/1	黒 色 土	10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1～3mm)2%、5YR5/8明赤褐色焼土(φ1mm)1%、炭化物(φ1mm)1%。
3層 10YR2/2	黒褐色土	10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1mm)1%、炭化物(φ1mm)1%。
貼床 10YR2/3	黒褐色土	10YR4/4暗褐色土3%、10YR7/8黄橙色ローム粒(φ1mm)2%、5YR5/8明赤褐色焼土(φ1mm)1%、炭化物(φ1～5mm)2%。
床下溝 10YR2/1	黒 色 土	10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1～5mm)1%。炭化物(φ1mm)1%。

WSI10(A-A')

1層 10YR2/3	黒褐色土	10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1～10mm)2%、炭化物(φ1mm)1%。
2層 10YR2/2	黒褐色土	10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1mm)1%。
3層 10YR3/2	黒褐色土	10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1～5mm)1%。
4層 10YR2/3	黒褐色土	壁溝。10YR5/6黄褐色ローム粒(φ1～3mm)2%。
5層 10YR5/6	黄褐色土	掘り方。10YR2/2黒褐色土10%、炭化物(φ1mm)1%。

WSI10 Pit1(A-A')

1層 10YR2/3	黒褐色土	10YR5/6黄褐色ローム粒(φ1～30mm)7%。

WSD11(A-A')

1層 10YR1.7/1	黒 色 土	10YR6/6明黄褐色ローム粒(1mm)3%、5YR5/8明赤褐色焼土(φ1mm)2%、炭化物(φ1mm)1%。
2層 10YR2/1	黒 色 土	7.5YR4/6褐色土3%、10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1mm)1%。
3層 10YR2/3	黒褐色土	10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1～10mm)5%、7.5YR4/6褐色土2%、炭化物(φ1～3mm)1%。
4層 10YR2/2	黒褐色土	10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1mm)2%、炭化物(φ1mm)1%。

WSK13(A-A')

1層 10YR2/1	黒 色 土	10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1mm)1%。

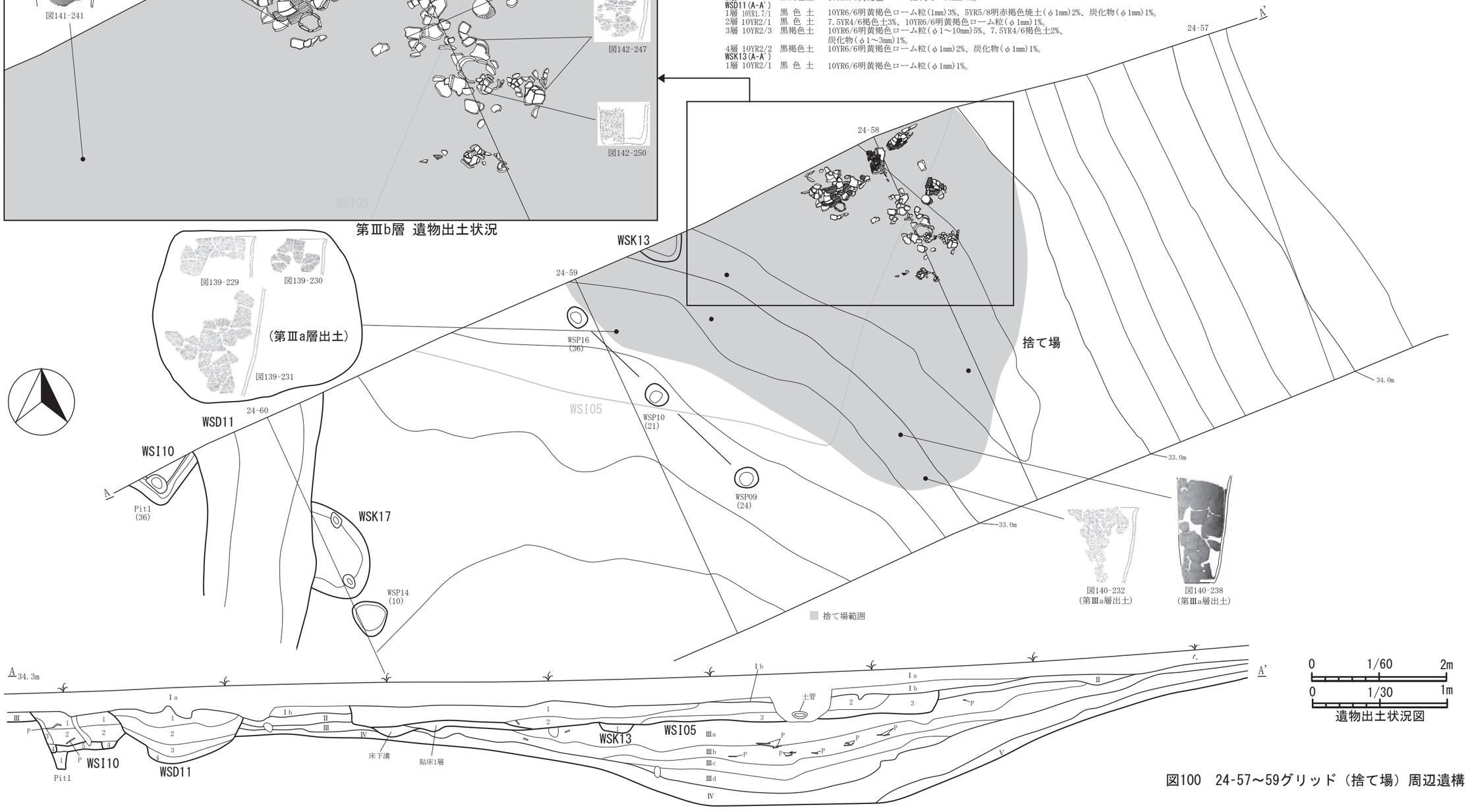
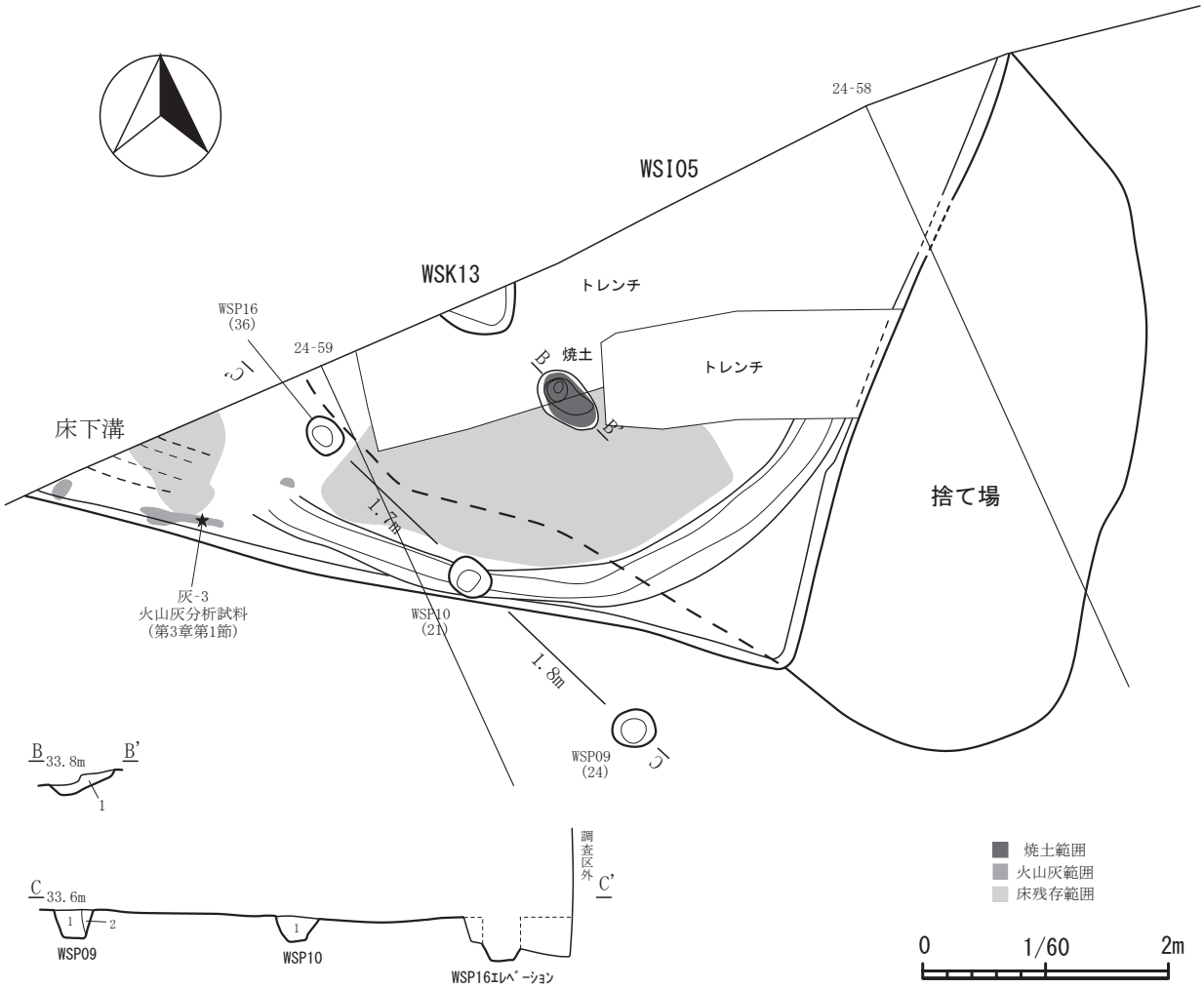


図100　24-57～59グリッド（捨て場）周辺遺構



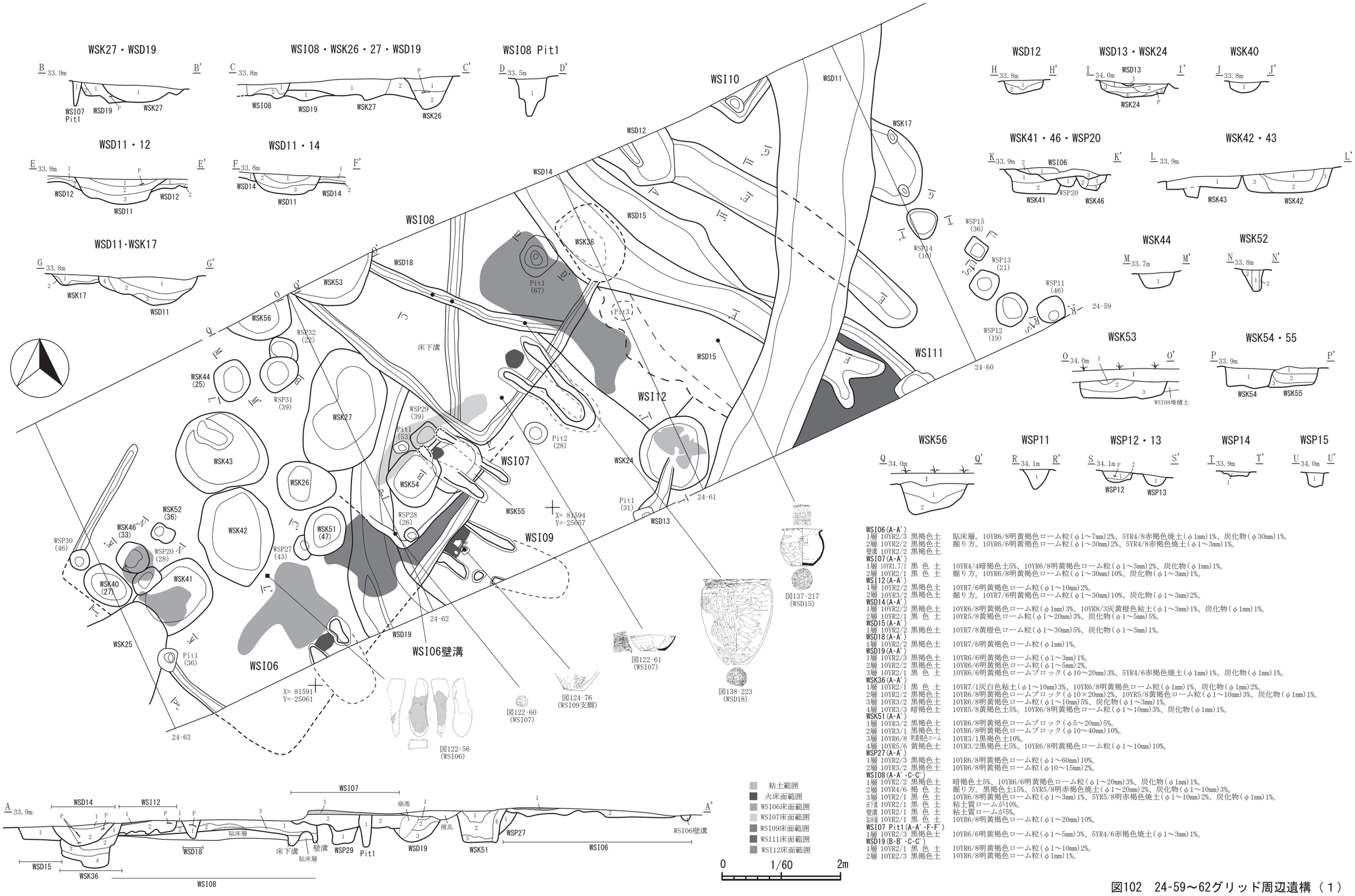
WSI05(図100 A-A')
1層 10YR1.7/1 黒 色 土　10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ2～5mm)3%、5YR5/8明赤褐色焼土(φ1～2mm)1%、炭化物(φ1～10mm)5%。
2層 10YR2/1 黒 色 土　10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1～3mm)2%、5YR5/8明赤褐色焼土(φ1mm)1%、炭化物(φ1mm)1%。
3層 10YR2/2 黒褐色土　10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1mm)1%、炭化物(φ1mm)1%。
貼床 10YR2/3 黒褐色土　10YR4/4暗褐色土3%、10YR7/8黄橙色ローム粒(φ1mm)2%、5YR5/8明赤褐色焼土(φ1mm)1%、炭化物(φ1～5mm)2%。
床下溝 10YR2/1 黒 色 土　10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1～5mm)1%。炭化物(φ1mm)1%。
WSI05焼土(B-B')
1層 10YR3/3 暗褐色土　10YR4/6褐色土が3%、5YR4/8赤褐色焼土(φ3～20mm)5%、炭化物(φ1mm)1%。
WSP09(C-C')
1層 10YR2/1 黒 色 土　柱痕。10YR8/3浅黄橙色粘土(φ1～5mm)1%、10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1～3mm)1%、炭化物(φ1～3mm)2%。
2層 10YR2/1 黒 色 土と10YR8/3浅黄橙色粘土の混合層。掘り方。10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1～5mm)3%、炭化物(φ1mm)1%。
WSP10(C-C')
1層 10YR2/3 黒褐色土　10YR3/4暗褐色土10%、10YR5/6黄褐色ローム粒(φ1～3mm)1%、5YR4/8赤褐色焼土(φ1mm)1%、炭化物(φ1mm)1%。

図101　24-58・59グリッド周辺遺構

15cmで、北半がより深くなっている。掘り方を有しておらず、地山もしくは下位遺構の覆土をそのまま底面としている。底面の断面形は丸底状をなし。底面は南東端より北西端が約30cm低く、北西端へ傾斜して構築されている。また、南東端は二叉に分かれている。
[堆積土]全体的に黒褐色土もしくは黒色土が堆積している。ローム粒や粘土粒を少量含むが、自然堆積の可能性がある。
[出土遺物 ・遺構の時期等]土師器、須恵器、縄文土器が出土し、そのうち土師器甕(甕(207・208)、須恵器？坏(209)、須恵器甕(210・211)を図示した。210はWSD11出土遺物と接合したものである。209の色調は淡橙色を呈しているが外面に刻書があることから、焼成不良の須恵器である可能性が高い。また、WSK53出土遺物と接合した土師器甕(図132－165)もあり、外面に焼土が付着している。堆積土の様相や遺構の形状、出土遺物等から平安時代の遺構と考えられる。本遺構の機能は、その形状や走行方向から排水等の可能性が考えられる。

第15号溝跡(WSD15、図102・137)
[位置 ・確認]調査区中央東部、24－60グリッドに位置し、遺構確認面の標高は33.4～33.7m、第Ⅳ層で確認した。WSD11・14、WSK36と重複し、いずれよりも本遺構が古い。
[平面形・規模・底面]他遺構との重複や北西側が調査区域外にあるため遺構の全容は不明である。南端では底面がせり上がってきていることから、遺構の端部分がWSD11によって壊されたものと思われる。確認できた遺構の長さは(4.7)m、幅194～230cmの溝跡だが、北側では幅100cm程度に細くなるものと思われる。確認面からの深さは12～28cmである。底面は地山をそのまま使用しやや起伏があって、断面形は上部が開く皿状をなすようである。特に南西部はWSI12の掘り方とWSD15の上端との区別がつきにくく、明確なプランを確認することができなかった。底面は南東端より北西端へ約20cm低く、北西端へ傾斜して構築されている。
[堆積土]ローム粒や炭化物を含んだ黒褐色土が堆積し、人為堆積の可能性がある。
[出土遺物 ・遺構の時期等]WSD14と重複している部分では遺物が掻き取られたものと思われるが、本溝跡の底面及び底面直上から比較的多くの平安時代遺物が出土した。土師器、須恵器、縄文土器が出土し、そのうち土師器甕(215・216)、須恵器鉢(217)・大甕(218～220)を図示した。217は倒立で底面直上から出土したもので、頸部に「夷」の簡略字の可能性がある刻書がみられる。219は器厚があり、格子目状にタタキ目がみられる。堆積土の様相や遺構の形状、出土遺物等から平安時代の遺構と考えられる。本遺構の機能は、その形状や走行方向から排水、貯水等の可能性が考えられる。

第16号溝跡(WSD16a･b、図109・110)
[位置 ・確認]調査区中央、24－66グリッドに位置し、遺構確認面の標高は33.4m、第Ⅲb～Ⅳ層で確認した。同一の弧状溝跡２条からなり、東側をWSD16a、西側をWSD16bとして調査を行った。WSK09・38と重複し、WSK09よりも本遺構が古く、縄文時代前期土器が出土したWSK38よりも本遺構が新しいと考えられる。



WSI06(A-A')
1層 10YR2/3 黒褐色土　貼床層。10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1～7mm)2%、5YR4/8赤褐色焼土(φ1mm)1%、炭化物(φ30mm)1%。
2層 10YR2/2 黒褐色土　掘り方。10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1～30mm)2%、5YR4/8赤褐色焼土(φ1～3mm)1%。
壁溝 10YR2/2 黒褐色土
WSI07(A-A')
1層 10YR1.7/1 黒 色 土　10YR4/4暗褐色土5%、10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1～3mm)2%、炭化物(φ1mm)1%。
2層 10YR2/1 黒 色 土　掘り方。10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1～30mm)10%、炭化物(φ1～3mm)1%。
WSI12(A-A')
1層 10YR2/2 黒褐色土　10YR7/6明黄褐色ローム粒(φ1～10mm)2%。
2層 10YR3/2 黒褐色土　掘り方。10YR7/6明黄褐色ローム粒(φ1～30mm)10%、炭化物(φ1～3mm)2%。
WSD14(A-A')
1層 10YR2/2 黒褐色土　10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1mm)3%、10YR8/3灰黄橙色粘土(φ1～3mm)1%、炭化物(φ1mm)1%。
2層 10YR2/1 黒 色 土　10YR5/8黄褐色ローム粒(φ1～20mm)3%、炭化物(φ1～5mm)5%。
WSD15(A-A')
1層 10YR2/2 黒褐色土　10YR7/8黄橙色ローム粒(φ1～30mm)5%、炭化物(φ1～3mm)1%。
WSD18(A-A')
1層 10YR2/2 黒褐色土　10YR7/6明黄褐色ローム粒(φ1mm)1%。
WSD19(A-A')
1層 10YR2/3 黒褐色土　10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1～3mm)1%。
2層 10YR2/2 黒褐色土　10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1～5mm)2%。
3層 10YR2/1 黒 色 土　10YR6/6明黄褐色ロームブロック(φ10～20mm)3%、5YR4/6赤褐色焼土(φ1mm)1%、炭化物(φ1mm)1%。
WSK36(A-A')
1層 10YR2/1 黒 色 土　10YR7/1灰白色粘土(φ1～10mm)3%、10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1mm)1%、炭化物(φ1mm)2%。
2層 10YR2/2 黒褐色土　10YR6/8明黄褐色ロームブロック(φ10×20mm)2%、10YR5/8黄褐色ローム粒(φ1～10mm)3%、炭化物(φ1mm)1%。
3層 10YR3/2 黒褐色土　10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1～10mm)5%、炭化物(φ1～3mm)1%。
4層 10YR3/3 暗褐色土　10YR5/8黄褐色土5%、10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1～10mm)3%、炭化物(φ1mm)1%。
WSK51(A-A')
1層 10YR3/2 黒褐色土　10YR6/8明黄褐色ロームブロック(φ5～20mm)5%。
2層 10YR3/1 黒褐色土　10YR6/8明黄褐色ロームブロック(φ10～40mm)10%。
3層 10YR6/8 明黄褐色ローム　10YR3/1黒褐色土10%。
4層 10YR5/6 黄褐色土　10YR3/2黒褐色土5%、10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1～10mm)10%。
WSP27(A-A')
1層 10YR2/3 黒褐色土　10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1～60mm)10%。
2層 10YR3/2 黒褐色土　10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ10～15mm)2%。
WSI08(A-A'・C-C')
1層 10YR2/2 黒褐色土　暗褐色土5%、10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1～20mm)3%、炭化物(φ1mm)1%。
2層 10YR4/6 褐 色 土　掘り方。黒褐色土15%、5YR5/8明赤褐色焼土(φ1～20mm)2%、炭化物(φ1～10mm)3%。
3層 10YR2/1 黒 色 土　10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1～3mm)1%、5YR5/8明赤褐色焼土(φ1～10mm)2%、炭化物(φ1mm)1%。
床下溝 10YR2/1 黒 色 土　粘土質ロームが10%。
壁溝 10YR2/1 黒 色 土　粘土質ロームが5%。
貼床層 10YR2/1 黒 色 土　10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1～20mm)10%。
WSI07 Pit1(A-A'・F-F')
1層 10YR2/3 黒褐色土　10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1～5mm)3%、5YR4/6赤褐色焼土(φ1～3mm)1%。
WSD19(B-B'・C-C')
1層 10YR2/1 黒 色 土　10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1～10mm)2%。
2層 10YR2/3 黒褐色土　10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1mm)1%。

図102　24-59～62グリッド周辺遺構（１）

農道24号W区

WSK27(B-B'･C-C')
1層　10YR2/2　黒褐色土　10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1～10mm)7%、炭化物(φ1～3mm)3%。
2層　10YR2/3　黒褐色土と褐色土の混合層。明黄褐色ローム粒(φ1～3mm)2%、炭化物(φ1mm)1%。
WSK26(C-C')
1層　10YR2/3　黒褐色土　10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1～5mm)1%、5YR3/6暗赤褐色焼土(φ1～3mm)1%、炭化物(φ1～20mm)5%
2層　10YR3/3　暗褐色土　10YR5/8黄褐色ローム粒(φ1～20mm)10%、炭化物(φ1～10mm)3%。
WSI08 Pit1(D-D')
1層　10YR1.7/1　黒　色　土　10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1～20mm)10%。
WSD11(E-E')
1層　10YR2/2　黒褐色土　10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1～10mm)1%。
2層　10YR2/1　黒　色　土　10YR6/8明黄褐色ロームブロック(φ10～35mm)5%。
3層　10YR3/2　黒褐色土　10YR6/8明黄褐色ロームブロック(φ1～30mm)1%。
WSD12(E-E')
1層　10YR2/2　黒褐色土　10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1mm)1%。
2層　10YR5/6　黄褐色土　10YR2/1黒色土20%、10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1～3mm)2%。
WSD11(F-F')
1層　10YR2/2　黒褐色土　10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1mm)1%。
2層　10YR5/6　黄褐色土　10YR2/1黒色土20%、10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1～3mm)2%。
WSD14(F-F')
1層　10YR2/3　黒褐色土　10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1～10mm)3%、炭化物(φ1mm)1%。
2層　10YR3/4　暗褐色土　10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1～10mm)10%。
WSD11(G-G')
1層　10YR1.7/1　黒　色　土　10YR6/6明黄褐色ローム粒(1mm)3%、5YR5/8明赤褐色焼土(φ1mm)2%、炭化物(φ1mm)1%。
2層　10YR2/1　黒　色　土　7.5YR4/6褐色土3%、10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1mm)1%。
3層　10YR2/3　黒褐色土　10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1～10mm)5%、7.5YR4/6褐色土2%、炭化物(φ1～3mm)1%。
4層　10YR2/2　黒褐色土　10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1mm)2%、炭化物(φ1mm)1%。
WSK17(G-G')
1層　10YR2/3　黒褐色土　10YR5/8黄褐色ローム粒(φ1mm)1%。
2層　10YR2/2　黒褐色土と褐色土の混合層。黄褐色ローム粒(φ1～5mm)3%、炭化物(φ1mm)1%。
WSD12(H-H')
1層　10YR2/2　黒褐色土　10YR5/8黄褐色ロームブロック(φ3mm)2%、10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1mm)1%。
2層　10YR5/6　黄褐色土　10YR2/2黒褐色土10%、10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1～3mm)3%。
WSD13(I-I')
1層　10YR2/1　黒　色　土　10YR5/6黄褐色ローム(φ1mm)1%。
WSK24(I-I')
1層　10YR2/2　黒褐色土　10YR5/6黄褐色ローム7%、10YR8/6黄橙色粘土(φ10～20mm)3%、炭化物(φ1mm)1%。
2層　10YR2/1　黒　色　土　10YR8/6黄橙色粘土(φ10～50mm)30%、10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1mm)1%、炭化物(φ1mm)1%。
3層　10YR1.7/1　黒　色　土　10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1～10mm)3%、炭化物(φ1～3mm)2%。
4層　10YR2/2　黒褐色土と10YR6/6明黄褐色ロームの混合層。10YR8/6黄橙色粘土(φ1～10mm)3%、炭化物(φ1～3mm)2%。
5層　10YR5/4　にぶい黄褐色土　10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1～3mm)1%。
WSK40(J-J')
1層　10YR2/1　黒　色　土　10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1～5mm)3%、炭化物(φ1mm)1%。
WSK41(K-K')
1層　10YR2/2　黒褐色土　10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1～3mm)3%、炭化物(φ1mm)1%。
2層　10YR2/1　黒　色　土　2.5YR4/6赤褐色焼土ブロック(φ5×7mm)1%、10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1～10mm)3%、炭化物(φ1～3mm)5%。
WSK46(K-K')
1層　10YR2/3　黒褐色土　10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1～3mm)1%、炭化物(φ1～5mm)3%
2層　10YR2/1　黒　色　土　10YR6/8明黄褐色ロームブロック(φ10×10mm)3%、炭化物(φ3mm)1%。
3層　10YR2/1　黒　色　土と10YR5/8黄褐色土の混合層。炭化物(φ1mm)1%。
WSP20(K-K')
1層　10YR2/1　黒　色　土　炭化物(φ1mm)1%。
WSK42(L-L')
1層　10YR2/2　黒褐色土　10YR7/8黄橙色ローム粒(1～10mm)2%、5YR5/8明赤褐色焼土(1～20mm)1%、炭化物(1～3mm)1%。
2層　10YR2/3　黒褐色土　10YR7/8黄橙色ローム粒(1～10mm)5%。
3層　10YR2/3　黒褐色土と10YR5/8黄褐色ロームの混合層。10YR7/8黄橙色ロームブロック(10×30mm)3%。
WSK43(L-L')
1層　10YR2/1　黒　色　土　10YR6/6明黄褐色ローム粒(1～20mm)5%。
WSK44(M-M')
1層　10YR2/2　黒褐色土　10YR6/6明黄褐色土20%、炭化物炭化物(1～3mm)1%。
WSK52(N-N')
1層　10YR2/1　黒　色　土　柱痕。10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1～5mm)2%。
2層　10YR2/2　黒褐色土　10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1～20mm)10%。
WSK53(O-O')
1層　10YR2/3　黒褐色土
2層　10YR3/2　黒褐色土　10YR5/8黄褐色ローム粒(φ1～30mm)5%、炭化物(φ1～5mm)2%。
3層　10YR3/3　暗褐色土　10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1～20mm)5%、10YR6/6明黄褐色ロームブロック(φ80mm)3%、5YR4/6赤褐色焼土(φ1mm)1%、炭化物(φ1mm)1%。
WSK54(P-P')
1層　10YR2/3　黒褐色土　10YR5/8黄褐色土10%、10YR7/6明黄褐色ローム粒(φ1～30mm)5%、炭化物(φ1～5mm)5%。
WSK55(P-P')
1層　10YR2/2　黒褐色土　上面がWSI09床面と思われ、固くしまっている。10YR7/6明黄褐色ローム粒(φ1～20mm)3%、炭化物(φ1～5mm)2%。
2層　10YR2/1　黒　色　土　10YR7/6明黄褐色ローム粒(φ1～3mm)1%、炭化物(φ1～5mm)2%。
3層　10YR2/3　黒褐色土　10YR5/8黄褐色土3%、10YR7/6明黄褐色ローム粒(φ1～20mm)5%、炭化物(φ1mm)1%。
WSK56(Q-Q')
1層　10YR2/3　黒褐色土　10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1～15mm)2%、炭化物(φ1～2mm)1%。
2層　10YR2/2　黒褐色土　10YR6/8明黄褐色ロームブロック(φ10～50mm)5%。
WSP11(R-R')
1層　10YR2/1　黒　色　土　10YR4/4褐色土2%、10YR6/8明黄褐色ロームブロック(φ30×50mm)3%が層右側に堆積。
WSP12(S-S')
1層　10YR3/2　黒褐色土　10YR7/8明黄褐色ローム粒(φ1～3mm)2%。
2層　10YR5/8　黄褐色土　5YR4/8赤褐色焼土(φ1～3mm)1%、炭化物(φ1mm)1%。
WSP13(S-S')
1層　10YR2/3　黒褐色土　10YR5/6黄褐色ローム粒(φ1～3mm)1%、炭化物(φ1mm)1%。
WSP14(T-T')
1層　10YR3/3　暗褐色土　10YR7/6明黄褐色ローム粒(φ1～5mm)3%、炭化物(φ1～3mm)2%。
WSP15(U-U')
1層　10YR2/2　黒褐色土　10YR5/8黄褐色土5%、10YR7/6明黄褐色ローム粒(φ1～10mm)3%、炭化物(φ1～5mm)3%。

図103　24-59～62グリッド周辺遺構（２）

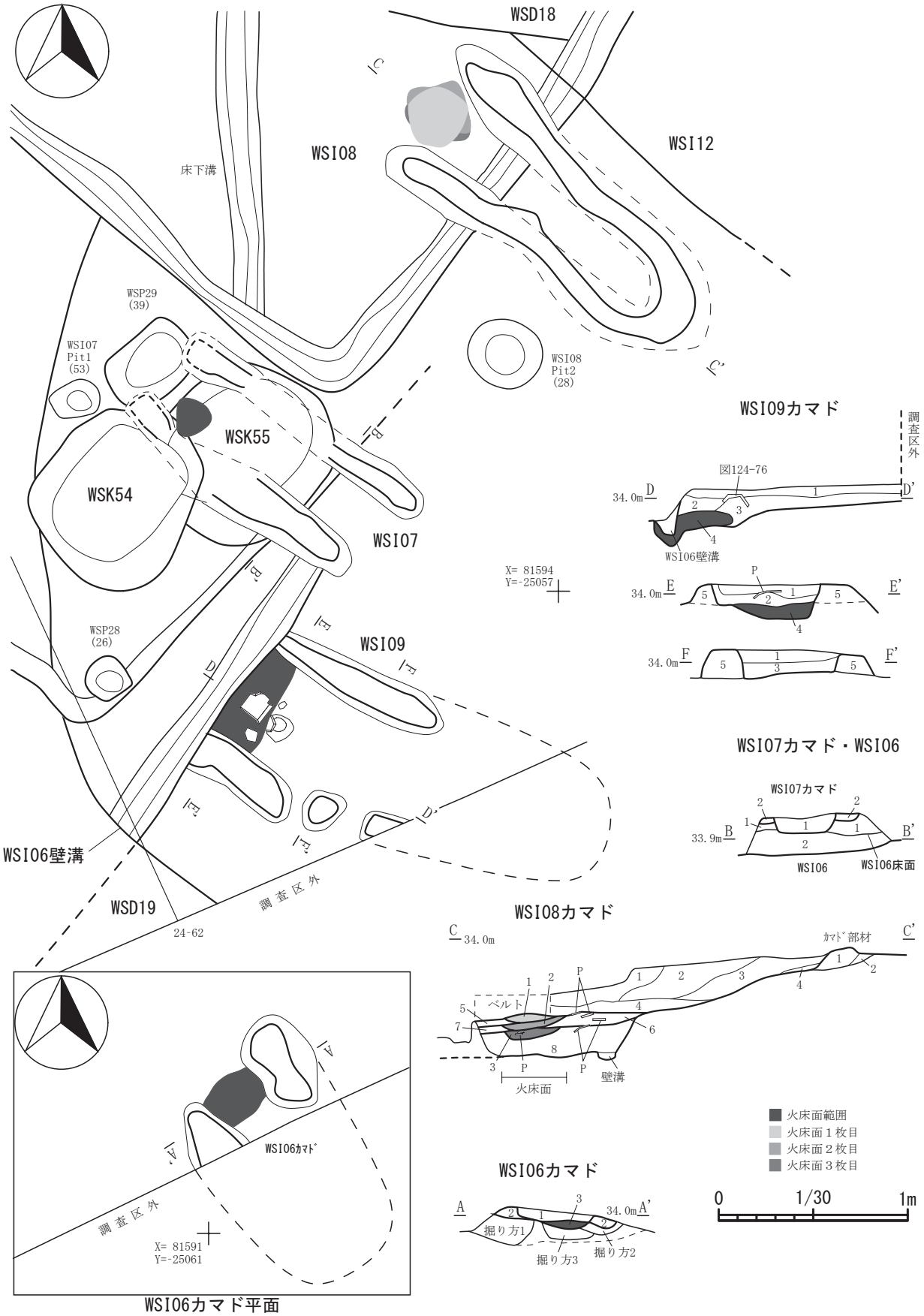


図104　24-59～62グリッド周辺遺構（３）

WSI06ｶﾏﾄﾞ(A-A')
1層 10YR2/3 黒褐色土　5YR5/8明赤褐色焼土(φ1～3mm)3%、炭化物(φ1～10mm)5%。
2層 10YR7/8 黄橙色土　煙道壁部材。10YR3/3暗褐色土3%、5YR5/8明赤褐色焼土(φ1～3mm)3%、炭化物(φ1mm)1%。
3層 5YR5/8 明赤褐色焼土　火床面。炭化物(φ1～3mm)2%。
掘り方1 10YR2/3 黒褐色土　10YR5/8黄褐色ローム粒(φ1～5mm)1%、炭化物(φ1～3mm)5%。
掘り方2 10YR3/3 暗褐色土　10YR5/8黄褐色ローム粒(φ1mm)1%、炭化物(φ1mm)2%。
掘り方3 10YR2/3 黒褐色土　5YR5/8明赤褐色焼土(φ1mm)1%、10YR5/8黄褐色ローム粒(φ1mm)3%、炭化物(φ1～3mm)2%。
WSI06(B-B')
1層 10YR1.7/1 黒 色 土　WSI06堆積土。10YR4/4暗褐色土5%、10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1～3mm)2%、炭化物(φ1mm)1%。
2層 10YR2/1 黒 色 土　WSI06貼床層。10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1～30mm)10%、炭化物(φ1～3mm)1%。
WSI07ｶﾏﾄﾞ(B-B')
1層 10YR2/2 黒褐色土　煙道堆積土。10YR8/3浅黄褐色土粘土(φ10～20mm)2%、5YR3/6暗赤褐色焼土(φ1～3mm)3%、炭化物(φ1～10mm)5%。
2層 10YR8/2 灰白色粘土　煙道壁。10YR2/2黒褐色土5%。
WSI08ｶﾏﾄﾞ(C-C')
1層 10YR2/2 黒褐色土　10YR5/8黄褐色ローム粒(φ1～10mm)2%、10YR7/4にぶい黄橙色粘土(φ1mm)1%、5YR5/8明赤褐色焼土(φ1～3mm)1%、炭化物(φ1mm)1%。
2層 10YR2/3 黒褐色土と5YR5/8明赤褐色焼土の混合層。10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1～3mm)1%、炭化物(φ1mm)1%。
3層 10YR2/2 黒褐色土　ｶﾏﾄﾞ部材が流れ込んだ層。10YR4/6褐色土5%、5YR5/8明赤褐色焼土(φ1～3mm)1%、炭化物(φ1mm)1%。
4層 10YR2/3 黒褐色土　10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1～10mm)3%、5YR5/8明赤褐色焼土(φ1～10mm)5%、10YR7/4にぶい黄橙色粘土(φ1～5mm)1%、炭化物(φ1～3mm)3%。
5層 10YR6/6 明黄褐色土　ｶﾏﾄﾞ火床面かさ上げ材。10YR3/4にぶい黄褐色土2%。
6層 10YR5/4 にぶい黄褐色土　ｶﾏﾄﾞ火床面かさ上げ材。10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1mm)1%、炭化物(φ1mm)1%。
7層 10YR3/4 暗褐色土　ｶﾏﾄﾞ火床面かさ上げ材。10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1～20mm)5%。
8層 10YR2/3 黒褐色土　住居掘り方。10YR5/8黄褐色ロームが20%、炭化物(φ1mm)1%。
壁溝 10YR2/1 黒 色 土　粘土質ロームが5%。
WSI08ｶﾏﾄﾞ部材(C-C')
1層 10YR6/6 明黄褐色ローム
2層 10YR6/6 明黄褐色ローム　10YR3/3褐色土15%。
WSI08ｶﾏﾄﾞ火床面(C-C')
1層 5YR5/8 明赤褐色焼土　10YR4/4褐色土5%、炭化物(φ1～2mm)1%。
2層 10YR4/4 褐 色 土　5YR5/8明赤褐色焼土3%。
3層 5YR4/8 赤褐色焼土　10YR4/3にぶい黄褐色土5%。
WSI06(D-D')
壁溝 10YR2/1 黒 色 土　炭化物(φ1mm)1%。
WSI09ｶﾏﾄﾞ(D-D'･E-E'･F-F')
1層 5YR5/8 明赤褐色焼土　天井崩落土。7.5YR4/6褐色土2%、10YR3/1黒褐色土10%、炭化物(φ1～10mm)7%。
2層 10YR2/3 黒褐色土　煙道堆積土。10YR3/4暗褐色土10%、10YR4/3にぶい黄褐色土3%、5YR5/8明赤褐色焼土ブロック(φ20～50mm)5%。
3層 10YR2/3 黒褐色土　煙道堆積土。10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1mm)1%。
4層 10YR4/4 褐 色 土　火床面を形成する充填材。10YR2/3黒褐色土2%。
5層 10YR8/2 灰白色粘土　煙道壁の構築材。5YR5/8明褐色焼土10%、黒褐色土5%、炭化物(φ1～10mm)3%。

図105　24-59～62グリッド周辺遺構（４）

[平面形・規模・底面]南東部が調査区域外に延び、北西側はWSK38と重複していて遺構の全容は不明だが、確認できた長さはそれぞれ(2.3)m、幅31～35cmの屈曲した溝跡で、確認面からの深さはいずれも９～14cmである。WSK38の土層断面図にWSD16b堆積土がみられないことから、WSK38南側でWSD16bが立ち上がっているものと思われる。底面はわずかに凹凸があって、断面形はU字状をなす。底面は比高差がほとんどなく、おおむね水平である。

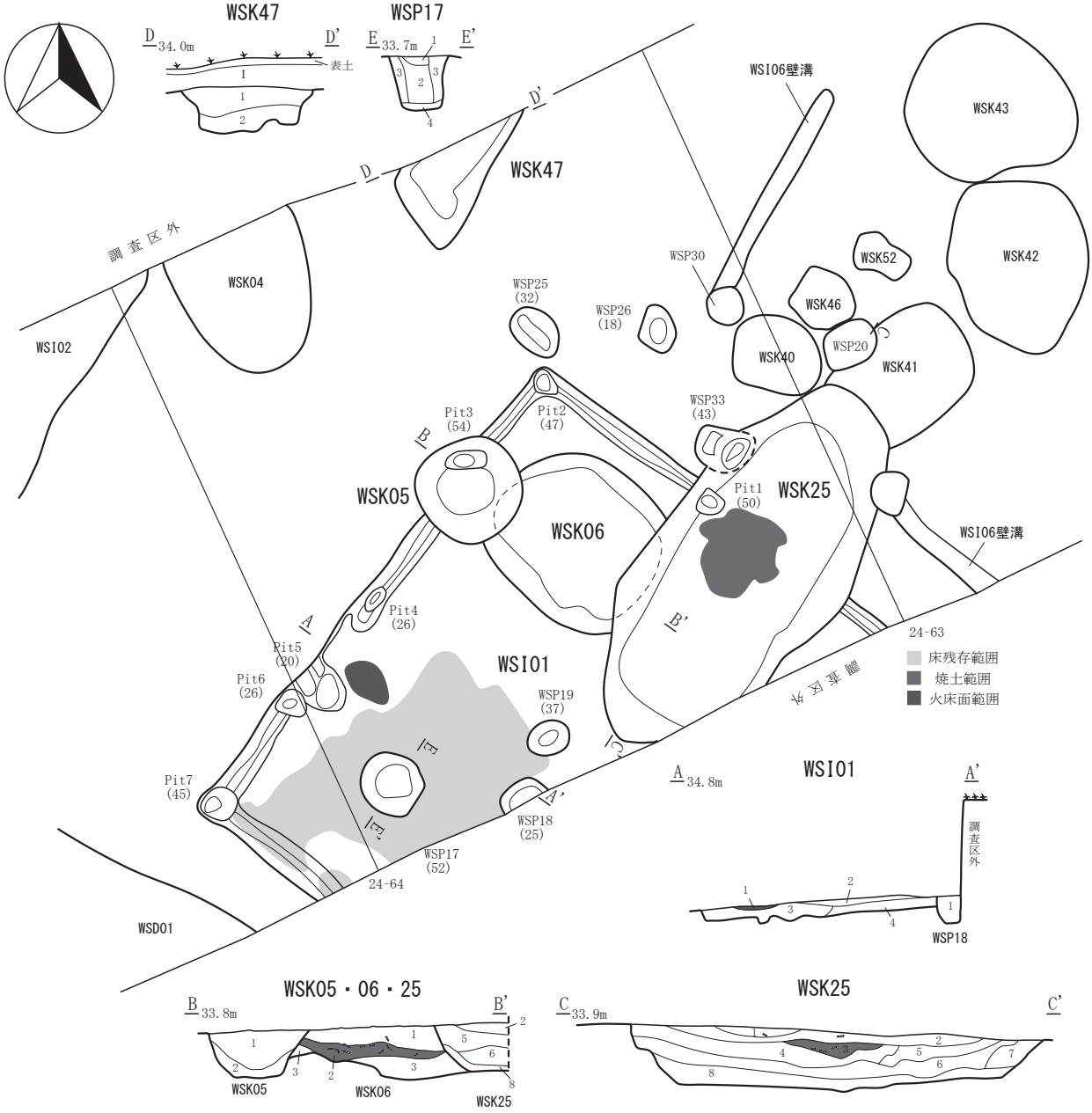
[堆積土]ロームを含む黒褐色土が堆積しており、掘り方の可能性がある。

[出土遺物・遺構の時期等]遺物は出土しなかった。堆積土の様相や遺構の形状、遺構との重複関係等から平安時代のものと思われる。平面形が弧状溝を組み合わせたような溝跡であることから、WSI04b･05・08などの掘り方に作られている「床下溝」と同様の目的で作られた可能性が考えられる。そうであった場合、除湿や排水などの機能が考えられるが、土層観察では明確な床面等を確認できなかったため、断定できない。

第17号溝跡(WSD17、図112～114)

[位置・確認]調査区中央北部、24－69グリッドに位置し、遺構確認面の標高は32.6m、WSI04精査中に第Ⅴ層で確認した。WSK48より本遺構が古く、WSI04bの付属施設の可能性がある。

[平面形・規模・底面]重複によって遺構の全容は不明だが、確認できた長さは(1.6)m、幅22～27cm



WSI01(A-A')
1層 5YR4/6 赤褐色焼土　火床面。10YR3/3暗褐色土5%、炭化物(φ1mm)1%。
2層 10YR2/2 黒褐色土　貼床。10YR6/6明黄褐色ローム20%、5YR4/6赤褐色焼土(φ1～2mm)1%、炭化物(φ1～2mm)2%。
3層 10YR2/3 黒褐色土　掘り方。10YR6/6明黄褐色ローム5%、炭化物(φ1mm)1%。
4層 10YR3/2 黒褐色土　掘り方。10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1mm)1%、炭化物(φ1mm)1%。

WSP18(A-A')
1層 10YR2/1 黒 色 土　10YR6/6明黄褐色ローム2%。

WSK05(B-B')
1層 10YR2/2 黒褐色土　10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1～10mm)5%、10YR6/6明黄褐色ロームブロック(φ1～10mm)2%。
2層 10YR2/3 黒褐色土　10YR6/6明黄褐色ロームブロック(φ10～50mm)10%、炭化物(φ5～10mm)3%。

WSK06(B-B')
1層 10YR2/1 黒 色 土　10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1～10mm)10%、5YR4/8赤褐色焼土(φ5～10mm)3%、炭化物(φ1mm)1%。
2層 10YR2/2 黒褐色土　5YR4/8赤褐色焼土(φ5～10mm)20%、10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1～10mm)5%、炭化物(φ1～20mm)5%。
3層 10YR1.7/1 黒 色 土　10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ10～30mm)10%、炭化物(φ1～10mm)1%。

WSK25(B-B'・C-C')
1層 10YR3/3 暗褐色土　10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1～10mm)3%、5YR5/8明赤褐色焼土(φ1～3mm)1%、炭化物(φ1～3mm)1%。
2層 10YR2/2 黒褐色土　10YR5/8黄褐色ロームブロック(φ10×10mm)1%、10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1～3mm)2%、5YR5/8明赤褐色焼土(φ1～10mm)2%、炭化物(φ1～5mm)1%。
3層 10YR2/2 黒褐色土と10YR5/6黄褐色土の混合層。10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1～3mm)1%、5YR5/8明赤褐色焼土(φ1～10mm)10%、炭化物(φ1mm)1%。
4層 10YR2/1 黒 色 土　10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1～3mm)1%、5YR5/8明赤褐色焼土(φ1～3mm)1%、炭化物(φ1mm)1%。
5層 10YR2/2 黒褐色土　10YR6/6明黄褐色ロームブロック(φ20×50mm)7%、5YR5/8明赤褐色焼土(φ1～10mm)3%、炭化物(φ1mm)1%。
6層 10YR2/1 黒 色 土　10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1mm)1%、5YR5/8明赤褐色焼土(φ1mm)1%、炭化物(φ1mm)1%。
7層 10YR2/3 黒褐色土と10YR5/6黄褐色ロームの混合層。5YR5/8明赤褐色焼土(φ1mm)1%、炭化物(φ1mm)1%。
8層 10YR5/1 褐灰色土　10YR3/2黒褐色土(φ1～20mm)7%、10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1～3mm)5%、5YR5/8明赤褐色焼土(φ1mm)1%、炭化物(φ1～3mm)1%。

WSK47(D-D')
1層 10YR2/1 黒 色 土　10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1～3mm)1%、炭化物(φ1mm)1%。
2層 10YR2/2 黒褐色土と10YR4/4褐色土の混合層。10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1mm)1%。

WSP17(E-E')
1層 10YR2/2 黒褐色土　10YR5/6黄褐色土5%、5YR4/8赤褐色焼土(φ1～3mm)1%、炭化物(φ1mm)1%。
2層 10YR2/1 黒 色 土　柱痕。10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1mm)1%。
3層 10YR2/1 黒 色 土と10YR5/6黄褐色土の混合層。10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1～3mm)2%。
4層 10YR2/3 黒褐色土　10YR5/6黄褐色土3%、10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1mm)1%。

図106　24-63・64グリッド周辺遺構（1）

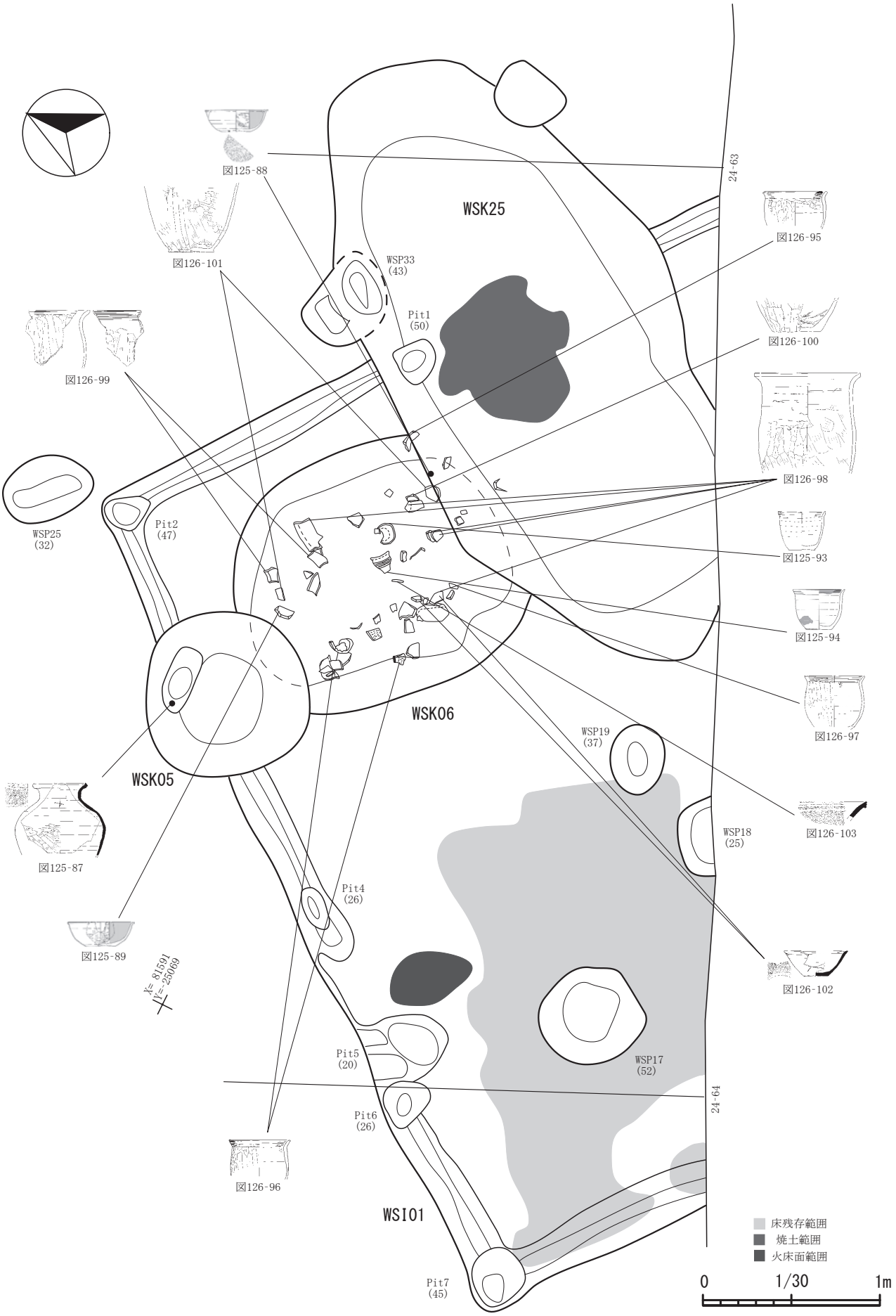
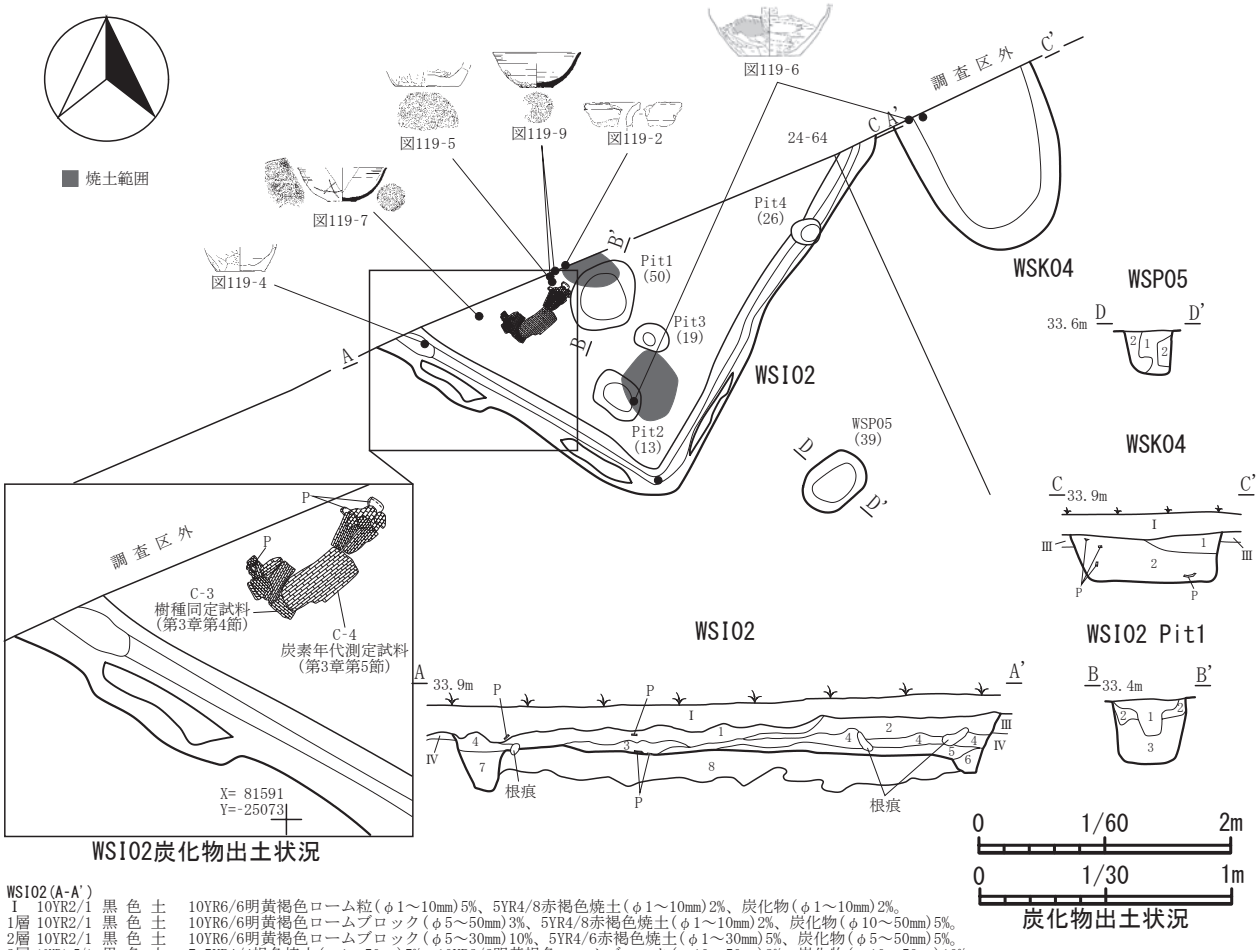


図107　24-63・64グリッド周辺遺構（２）



WSI02(A-A')
Ⅰ 10YR2/1 黒 色 土　10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1～10mm)5%、5YR4/8赤褐色焼土(φ1～10mm)2%、炭化物(φ1～10mm)2%。
1層 10YR2/1 黒 色 土　10YR6/6明黄褐色ロームブロック(φ5～50mm)3%、5YR4/8赤褐色焼土(φ1～10mm)2%、炭化物(φ10～50mm)5%。
2層 10YR2/1 黒 色 土　10YR6/6明黄褐色ロームブロック(φ5～30mm)10%、5YR4/6赤褐色焼土(φ1～30mm)5%、炭化物(φ5～50mm)5%。
3層 10YR1.7/1 黒 色 土　7.5YR4/4褐色焼土(φ1～50mm)5%、10YR6/6明黄褐色ロームブロック(φ10～50mm)3%、炭化物(φ10～50mm)10%。
4層 10YR6/6 明黄褐色ローム　10YR2/1黒色土30%、5YR4/8赤褐色焼土(φ1～10mm)2%、炭化物(φ1～10mm)2%。
5層 10YR1.7/1 黒 色 土　10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1～5mm)5%、10YR6/6明黄褐色ロームブロック(φ5～50mm)3%、炭化物(φ1～10mm)2%。
6層 10YR2/2 黒褐色土　10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1～10mm)5%、5YR5/8明赤褐色焼土(φ1～10mm)3%、炭化物(φ1mm)1%。
7層 10YR2/3 黒褐色土　10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1～10mm)10%、炭化物(φ1～5mm)1%。
8層 10YR6/6 明黄褐色ロームと10YR2/3黒褐色土の混合層。掘り方。10YR2/1黒色土2%、10YR6/1褐灰色粘土(φ3～50mm)2%。
WSI02 Pit1(B-B')
1層 10YR2/2 黒褐色土　柱痕。10YR5/8黄褐色ローム粒(φ1～10mm)3%、5YR5/8明赤褐色焼土(φ1～5mm)2%、炭化物(φ1～20mm)5%。
2層 10YR4/4 褐 色 土　掘り方。10YR2/1黒色土15%、10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1～3mm)3%、炭化物(φ1mm)1%。
3層 10YR4/3 にぶい黄褐色土　掘り方。10YR6/4にぶい黄橙色粘土(φ3～15mm)10%、10YR2/1黒色土5%、10YR5/8黄褐色ローム粒(φ3～10mm)5%。
WSK04(C-C')
1層 10YR2/1 黒 色 土　5YR4/8赤褐色焼土(φ1～3mm)2%、10YR5/8黄褐色ローム粒(φ1mm)1%、炭化物(φ1mm)1%。
2層 10YR2/2 黒褐色土　10YR7/6明黄褐色ローム粒(φ1～3mm)5%、5YR4/8赤褐色焼土(φ1～3mm)2%、炭化物(φ1～5mm)3%。
WSP05(D-D')
1層 10YR2/2 黒褐色土　柱痕。10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1～5mm)1%。
2層 10YR4/4 褐 色 土と10YR2/2黒褐色土の混合層。10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ3～20mm)3%。

図108　24-63・64グリッド周辺遺構（3）

のやや蛇行する溝跡で、確認面からの深さは６～11cmである。底面はわずかに凹凸があって、断面形はＵ字状をなす。底面は東端より西端が５cm低く、西端へ傾斜して構築されている。
[堆積土]ローム粒や炭化物を微量に含んだ黒褐色土が堆積している。
[出土遺物・遺構の時期等]須恵器坏・甕が出土したが、図示し得る遺物はなかった。堆積土の様相や遺構の形状、出土遺物、遺構の重複関係等から、平安時代の遺構と考えられる。本遺構の機能は、その形状や走行方向からおそらくWSI04bの床下溝と思われ、除湿あるいは排水の機能が考えられる。

第18号溝跡（WSD18、図102・138）
[位置・確認]調査区中央東部、24－61グリッドに位置し、WSI08の床面を精査中に検出した。遺構確認した床面の標高は33.4～33.6mで、WSI08・12、WSK53と重複し、本遺構はWSI08より新しく、WSK53より古い。WSI12との新旧関係は不明である。
[平面形・規模・底面]他遺構との重複等により遺構の全容は不明だが、確認できた長さは(2.8)m、幅19～24cmの直線的な溝跡で、WSI08床面からの深さは５～13cmだが、土層観察によると本来30cm以上の深さがある薬研状の断面形状をなしている。底面は北西端が南東端より13cm標高が低く、北西へ傾斜して構築されている。
[堆積土]黒褐色土が自然堆積している。
[出土遺物・遺構の時期等]土師器、縄文土器が出土し、そのうち土師器小杯(221)・甕(222～224)を図示した。223はWSI06出土遺物と接合したもので、胴部上半に輪積痕を残しながらやや細かいヘラナデ調整が施され、底外面には菰編痕がみられる。224はWSI06・07出土遺物と接合した、胴部の膨らみが豊かな土師器甕である。堆積土の様相や遺構の形状、出土遺物等から平安時代の遺構と考えられる。本遺構の機能は、その形状や走行方向から排水、区画等の可能性が考えられる。

第19号溝跡（WSD19、図102・136）
[位置・確認]調査区中央東部、24－61・62グリッドに位置し、遺構確認面の標高は33.6～33.9m、第Ⅳ層で確認した。WSI07・08・09、WSK27・54より本遺構が古い。
[平面形・規模・底面]他遺構との重複等のため全容は不明だが、確認できた長さは(4.3)m、幅62～124cmの弧状を呈する溝跡で、確認面からの深さは44～49cmである。底面は地山をそのまま底面とし、断面形はＵ字状をなす。底面は南端より北端が13cm低く、北端へ傾斜して構築されている。
[堆積土]上位は黒褐色土、下位は焼土・ローム粒・炭化物を微量含んだ黒色土が自然堆積している。
[出土遺物・遺構の時期等]土師器、須恵器、縄文土器が出土した。須恵器坏(212・213)・鉢(214)を図示し、いずれも刻書がみられる。213は底外面が大きく剥離しているが「十」状の線刻である可能性がある。全体に器高が低い鉢の器形を呈する214は、外面２カ所に刻書がみられる。頸部で強く内湾するものの、口縁部は急激に外反する器形を有している。調整は、口縁部ではロクロナデがみられるものの胴部では輪積痕が残り、胴部及び底部はヘラナデで調整されている。堆積土の様相や遺構の形状、出土遺物等から平安時代の遺構と考えられる。本遺構の機能は、その形状や走行方向から排水、区画等の可能性が考えられる。

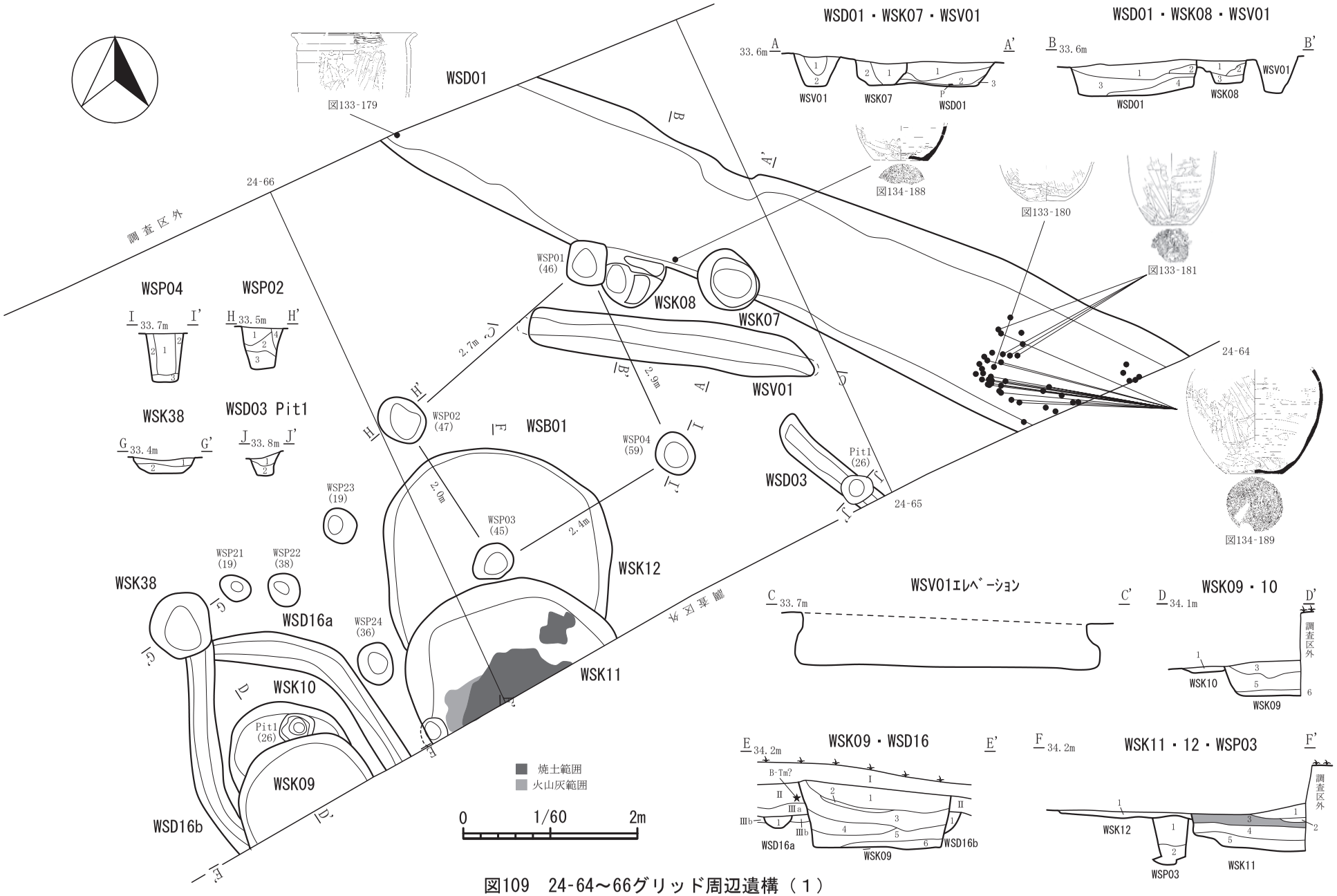
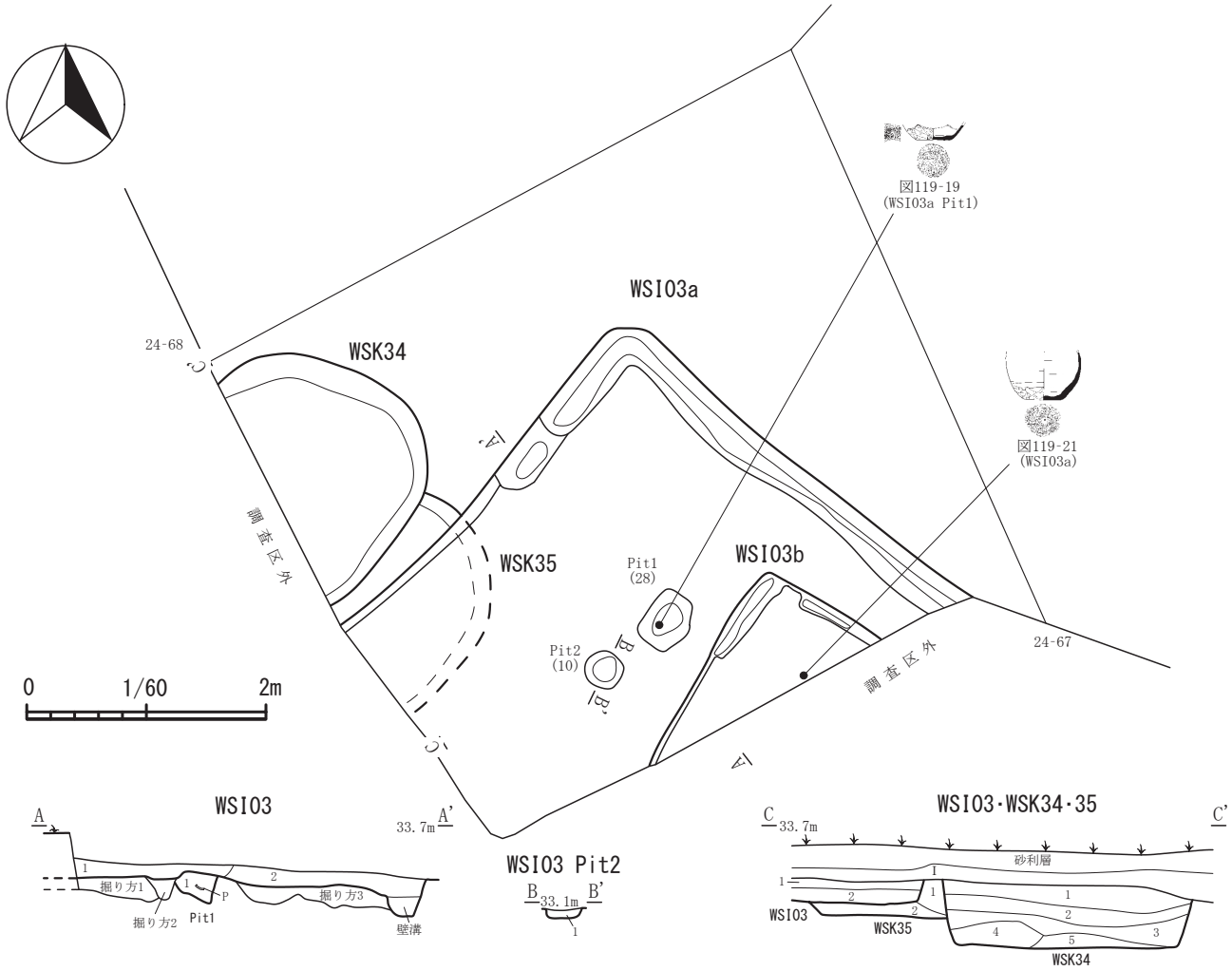


図109　24-64～66グリッド周辺遺構（１）

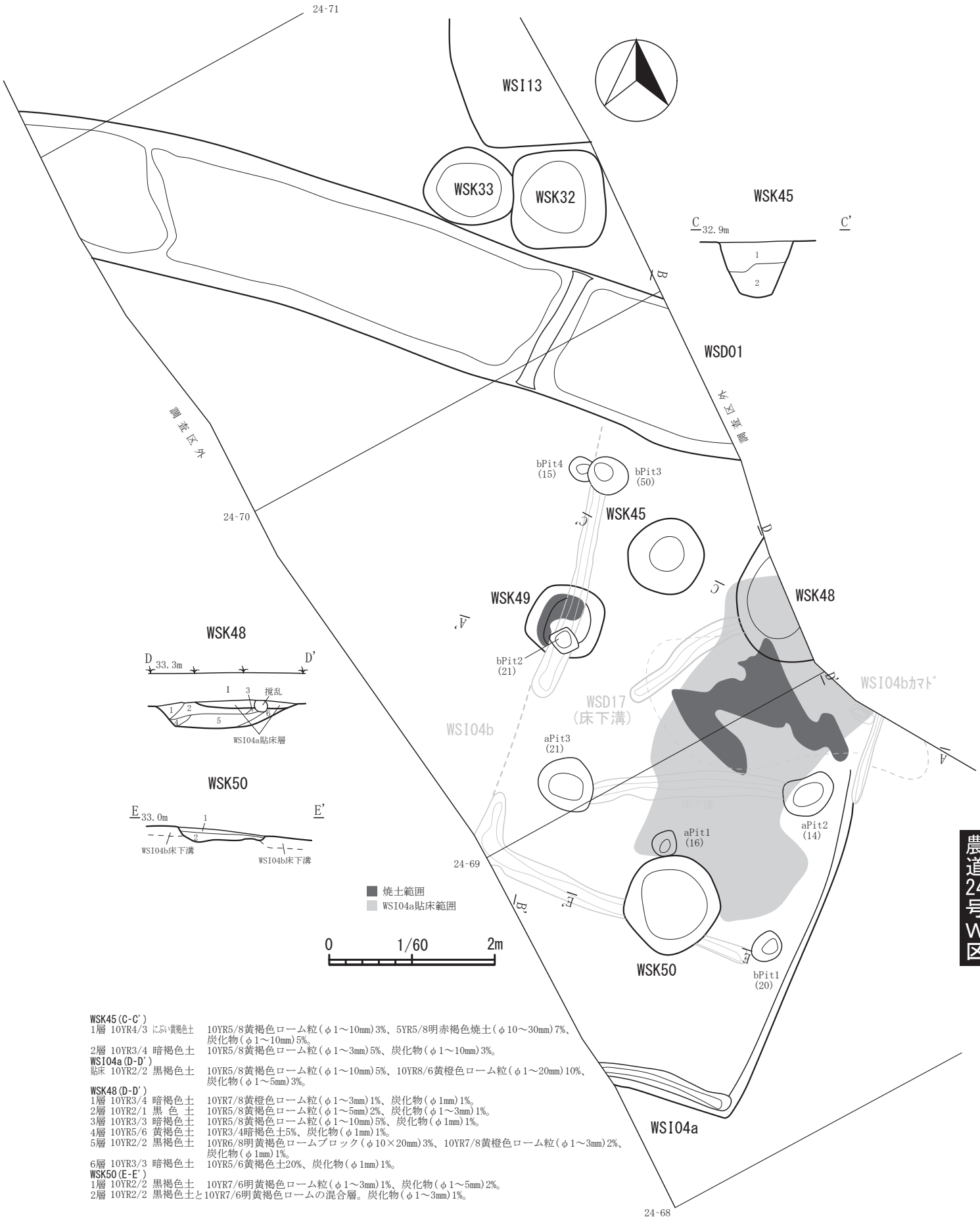
WSD01(A-A')
1層　10YR2/1　黒 色 土　10YR4/6褐色土5%、10YR5/8黄褐色ロームブロック(φ20×30mm)2%、7.5YR4/6褐色焼土(φ1mm)1%、炭化物(φ1mm)1%。
2層　10YR2/2　黒 色 土　10YR5/8黄褐色ローム粒(φ1～3mm)3%、7.5YR4/6褐色焼土(φ1mm)1、炭化物(φ1～3mm)1%。
3層　10YR2/1　黒褐色土　10YR4/6褐色土15%、10YR5/8黄褐色ローム粒(φ1mm)1%。
WSK07(A-A')
1層　10YR2/2　黒褐色土　10YR6/8明黄褐色土15%、10YR3/3暗褐色土10%、炭化物(φ1mm)1%。
2層　10YR2/1　黒 色 土　10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1～5mm)1%、炭化物(φ1mm)1%。
WSD01(B-B')
1層　10YR2/1　黒 色 土　10YR5/8黄褐色ローム粒(φ3～30mm)10%、7.5YR5/8明褐色焼土(φ1mm)1%、炭化物(φ1～5mm)3%。
2層　10YR4/6　褐 色 土　10YR2/2黒褐色土15%、炭化物(φ1～3mm)1%。
3層　10YR1.7/1　黒 色 土　10YR5/8黄褐色ローム粒(φ1～10mm)5%、炭化物(φ1mm)1%。
4層　10YR6/8　明黄褐色土　10YR2/2黒褐色土10%、10YR4/6褐色土7%、10YR8/4浅黄橙色粘土3%、炭化物(φ1～3mm)3%。
WSK08(B-B')
1層　10YR2/2　黒褐色土　10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1～10mm)10%、炭化物(φ1～3mm)3%。
2層　10YR2/1　黒 色 土　10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1～2mm)2%。
3層　10YR5/6　黄褐色土　10YR2/2黒褐色土3%、炭化物(φ1mm)1%。
WSV01(A-A'・B-B'・C-C')
1層　10YR2/2　黒褐色土　10YR5/6黄褐色ローム粒(φ1～3mm)1%、炭化物(φ1mm)1%。
2層　10YR2/3　黒褐色土　10YR4/6褐色土10%、炭化物(φ1mm)1%。
WSK10(D-D')
1層　10YR2/3　黒褐色土　10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1～3mm)3%、炭化物(φ1mm)1%。
WSD16a(E-E')
1層　10YR3/2　黒褐色土　10YR6/6明黄褐色土20%、炭化物(φ1mm)1%。
WSD16b(E-E')
1層　10YR2/3　黒褐色土　10YR6/6明黄褐色土10%、炭化物(φ1～3mm)1%。
WSK09(D-D'・E-E')
Ⅰ　10YR2/1　黒 色 土
Ⅱ　10YR1.7/1　黒 色 土　10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1mm)1%。
Ⅲa　10YR3/4　暗褐色土　炭化物(φ1mm)1%。
Ⅲb　10YR3/3　暗褐色土　10YR3/4暗褐色土10%、10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1～5mm)2%、土器多い。
1層　10YR2/2　黒褐色土　10YR4/6褐色土5%、10YR5/8黄褐色ローム粒(φ1～3mm)1%、炭化物(φ1mm)1%。
2層　10YR2/3　黒褐色土　10YR5/8黄褐色ローム粒(φ1mm)1%。
3層　10YR2/2　黒褐色土　10YR5/8黄褐色ローム粒(φ1～5mm)2%、炭化物(φ1mm)1%。
4層　10YR2/2　黒褐色土　10YR5/8黄褐色ローム粒(φ1mm)1%、5YR3/6暗赤褐色焼土(1～10mm)1%、炭化物(φ1～3mm)1%。
5層　10YR1.7/1　黒 色 土　10YR5/8黄褐色ローム粒(φ1mm)1%、5YR3/6暗赤褐色焼土(φ1～5mm)2%、炭化物(φ1mm)1%。
6層　10YR4/4　褐 色 土　10YR6/8明黄褐色ロームブロック(φ10×30mm)5%、5YR3/6暗赤褐色焼土(φ1～20mm)3%、炭化物(φ1～10mm)5%。
WSK11(F-F')
1層　10YR2/2　黒褐色土　炭化物(φ1mm)1%。
2層　10YR2/1　黒 色 土　5YR5/6明赤褐色焼土(φ1～20mm)10%、炭化物(φ1mm)1%。
3層　10YR2/1　黒 色 土　火山灰？1%、10YR5/8黄褐色ローム粒(φ1～3mm)1%。
4層　10YR1.7/1　黒 色 土　5YR5/6明赤褐色焼土(φ1mm)1%。
5層　10YR2/2　黒褐色土と10YR6/6明黄褐色ロームの混合層。10YR4/4暗褐色土が10%含む。炭化物(φ1mm)1%。
WSK12(F-F')
1層　10YR2/1　黒 色 土　10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1～10mm)2%。
WSP03(F-F')
1層　10YR2/2　黒褐色土　10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1～3mm)2%、炭化物(φ1～3mm)1%。
2層　10YR3/2　黒褐色土　10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1～5mm)3%、炭化物(φ1mm)1%。
WSK38(G-G')
1層　10YR2/1　黒 色 土　10YR4/6褐色土3%、10YR7/8黄橙色ローム粒(φ1～10mm)1%。
2層　10YR4/4　褐 色 土　10YR7/8黄橙色ローム粒(φ1mm)1%、炭化物(φ1mm)1%。
WSP02(H-H')
1層　10YR2/1　黒 色 土　柱痕。10YR4/6褐色ローム(φ1～30mm)5%。
2層　10YR2/1　黒 色 土　柱痕。10YR4/6褐色ローム(φ1～10mm)7%。
3層　10YR1.7/1　黒 色 土　柱痕。10YR5/6黄褐色ローム(φ1～5mm)2%。
4層　10YR2/2　黒褐色土　10YR4/6褐色ローム(φ1～5mm)10%、10YR6/6明黄褐色ローム7%。
WSP04(I-I')
1層　10YR1.7/1　黒 色 土　柱痕。
2層　10YR2/2　黒褐色土と10YR5/6黄褐色ロームの混合層。掘り方。
3層　10YR3/3　暗褐色土と10YR6/6明黄褐色ロームの混合層。掘り方(柱あたり)。
WSD03 Pit1(J-J')
1層　10YR2/1　黒 色 土　10YR7/8黄橙色ローム粒(φ1～10mm)5%。
2層　10YR2/1　黒 色 土と10YR5/6黄褐色土の混合層。10YR7/8黄橙色ローム粒(φ1～5mm)2%、炭化物(φ1mm)1%。

図110　24-64～66グリッド周辺遺構（２）



WSI03(A-A')
1層 10YR2/2 黒褐色土　10YR6/6明黄褐色ローム10%、10YR4/6褐色ローム粒(φ10～20mm)3%、炭化物(φ1～3mm)1%。
2層 10YR1.7/1 黒 色 土　10YR6/6明黄褐色ローム5%、10YR4/6褐色ローム粒(φ5～20mm)2%、炭化物(φ1mm)1%。
掘り方1 10YR6/6 明黄褐色ローム　WSI03b掘り方。10YR2/3黒褐色土10%、10YR8/6黄橙色ロームブロック(φ10×20mm)5%、炭化物(φ1～3mm)3%。
掘り方2 10YR2/3 黒褐色土　WSI03a掘り方。10YR6/6明黄褐色ローム5%、炭化物(φ1mm)1%。
掘り方3 10YR2/1 黒 色 土　WSI03a掘り方。10YR4/6褐色ロームブロック(φ10～50mm)5%、10YR6/6明黄褐色ローム3%、炭化物(φ1～5mm)1%。
壁溝 10YR2/3 黒褐色土　10YR4/6褐色ローム粒(φ1～5mm)3%、炭化物(φ1mm)1%。
WSI03 Pit1(A-A')
1層 10YR2/1 黒 色 土　10YR4/6褐色ローム粒(φ1～5mm)3%、炭化物(φ1～3mm)1%。
WSI03 Pit2(B-B')
1層 10YR2/1 黒 色 土と10YR6/6明黄褐色ロームの混合層。10YR4/6褐色土3%、炭化物(φ1～3mm)1%。
WSI03(C-C')
1層 10YR2/2 黒褐色土　10YR4/6褐色ローム粒(φ5～10mm)2%、炭化物(φ1～3mm)1%。
2層 10YR2/2 黒褐色土　10YR1.7/1黒色土5%、10YR6/6明黄褐色ローム(φ1～20mm)7%。
WSK34(C-C')
1層 10YR2/1 黒 色 土
2層 10YR3/1 黒褐色土　10YR7/8黄橙色ローム粒(1mm)1%。
3層 10YR2/3 黒褐色土　10YR7/8黄橙色ローム粒(1mm)1%、根多い。
4層 10YR7/8 黄橙色土　10YR7/8黄橙色ローム粒(1～3mm)1%。
5層 10YR2/1 黒 色 土　10YR2/1黒色土10%。
WSK35(C-C')
1層 10YR2/3 黒褐色土　10YR7/8黄橙色ローム粒(1～3mm)3%。
2層 10YR4/4 褐 色 土と10YR7/8黄橙色ロームの混合層。

図111　24-67グリッド周辺遺構



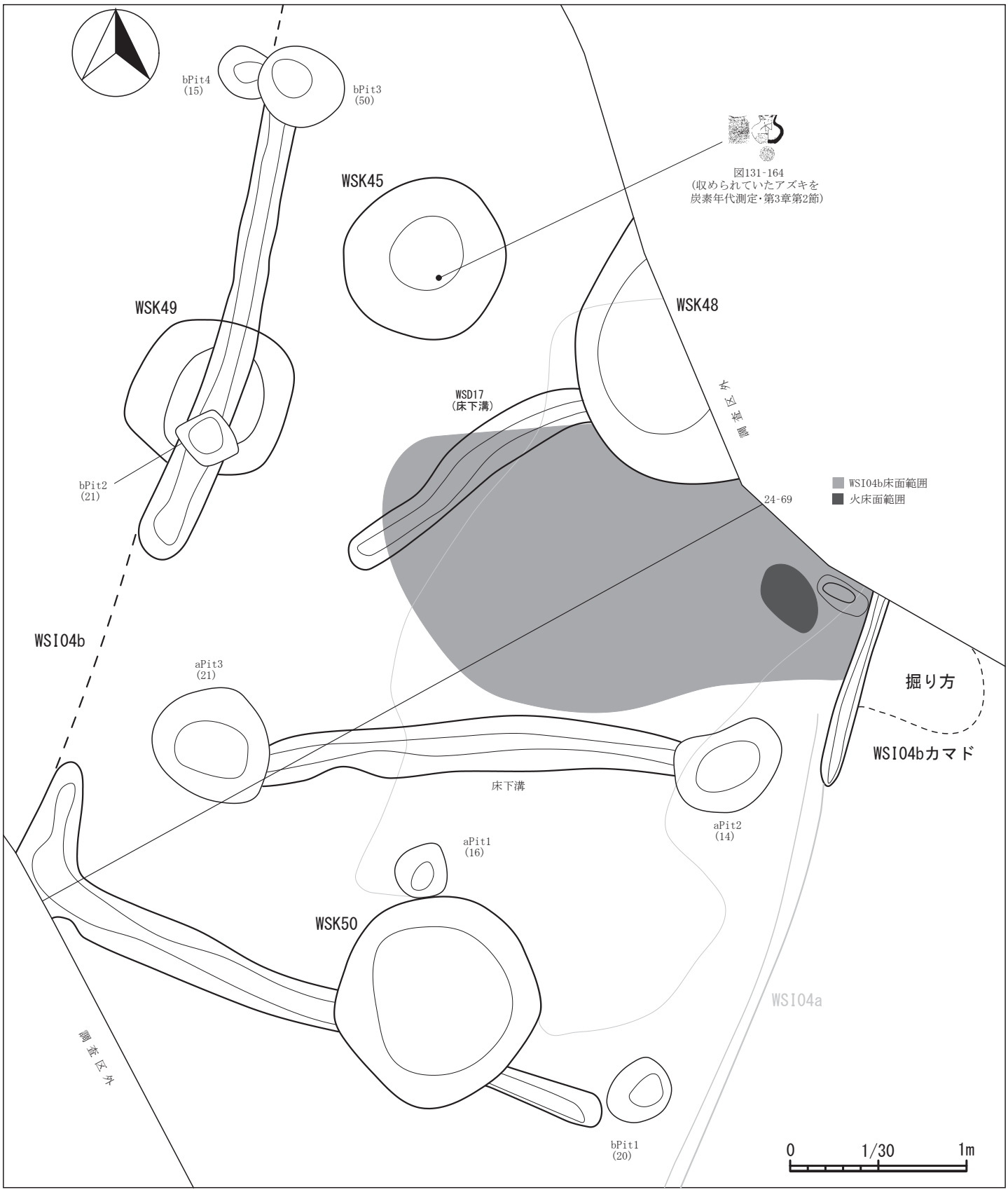
WSK45(C-C')
1層 10YR4/3 にぶい黄褐色土　10YR5/8黄褐色ローム粒(φ1～10mm)3%、5YR5/8明赤褐色焼土(φ10～30mm)7%、炭化物(φ1～10mm)5%。
2層 10YR3/4 暗褐色土　10YR5/8黄褐色ローム粒(φ1～3mm)5%、炭化物(φ1～10mm)3%。

WSI04a(D-D')
貼床 10YR2/2 黒褐色土　10YR5/8黄褐色ローム粒(φ1～10mm)5%、10YR8/6黄橙色ローム粒(φ1～20mm)10%、炭化物(φ1～5mm)3%。

WSK48(D-D')
1層 10YR3/4 暗褐色土　10YR7/8黄橙色ローム粒(φ1～3mm)1%、炭化物(φ1mm)1%。
2層 10YR2/1 黒 色 土　10YR5/8黄褐色ローム粒(φ1～5mm)2%、炭化物(φ1～3mm)1%。
3層 10YR3/3 暗褐色土　10YR5/8黄褐色ローム粒(φ1～10mm)5%、炭化物(φ1mm)1%。
4層 10YR5/6 黄褐色土　10YR3/4暗褐色土5%、炭化物(φ1mm)1%。
5層 10YR2/2 黒褐色土　10YR6/8明黄褐色ロームブロック(φ10×20mm)3%、10YR7/8黄橙色ローム粒(φ1～3mm)2%、炭化物(φ1mm)1%。
6層 10YR3/3 暗褐色土　10YR5/6黄褐色土20%、炭化物(φ1mm)1%。

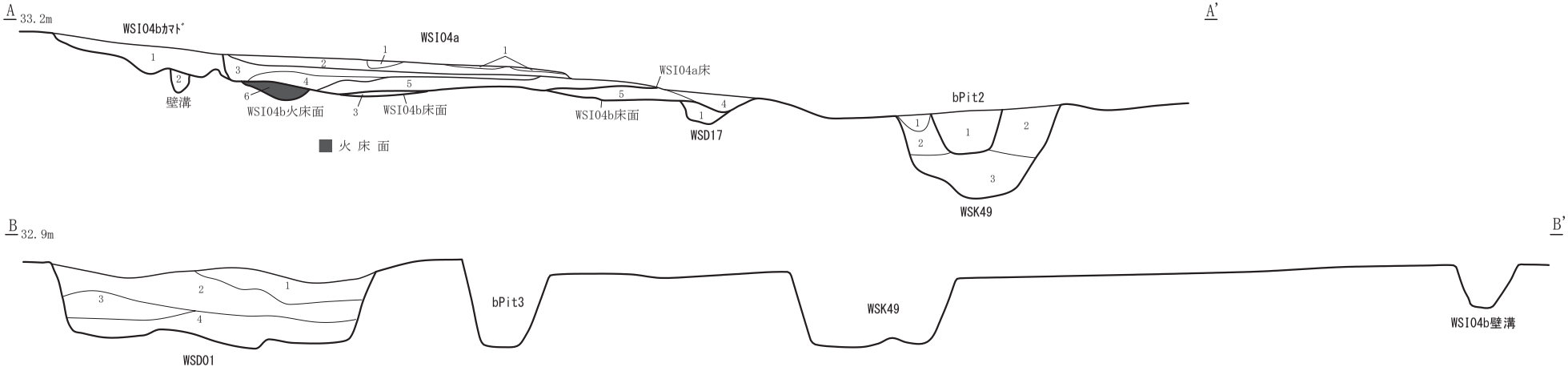
WSK50(E-E')
1層 10YR2/2 黒褐色土　10YR7/6明黄褐色ローム粒(φ1～3mm)1%、炭化物(φ1～5mm)2%。
2層 10YR2/2 黒褐色土と10YR7/6明黄褐色ロームの混合層。炭化物(φ1～3mm)1%。

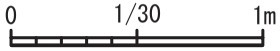
図112　24-68･69グリッド周辺遺構（１）



第４号ｂ竪穴住居跡

図113　24-68･69グリッド周辺遺構（２）





WSI04a(A-A')
1層 5YR4/4 にぶい赤褐色焼土　10YR3/3暗褐色土3%、炭化物(φ1～10mm)3%。
2層 10YR2/1 黒 色 土　10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1～5mm)3%、10YR8/2灰白色粘土(φ1mm)1%、炭化物(φ1～3mm)3%。
3層 10YR2/3 黒褐色土　10YR8/2灰白色粘土(φ1～50mm)25%、10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1mm)1%。
4層 10YR2/1 黒 色 土　10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1～3mm)1%。
5層 10YR3/3 暗褐色土　10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1～10mm)5%、10YR8/2灰白色粘土(φ1mm)3%、炭化物(φ1～3mm)3%。

WSI04b(A-A')
1層 10YR2/3 黒褐色土　10YR7/6明黄褐色ローム粒(φ1～20mm)5%、10YR7/1灰白色粘土(φ1～10mm)3%、5YR5/8明赤褐色焼土(φ1～5mm)1%、炭化物(φ1～10mm)3%。
2層 10YR4/4 褐 色 土　壁溝。10YR7/8黄橙色ローム粒ローム粒(φ1～2mm)2%、炭化物(φ1mm)1%。
3層 10YR5/4 にぶい黄褐色土　炭化物(φ1mm)1%。
4層 10YR2/3 黒褐色土　10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1～10mm)10%、炭化物(φ1～5mm)3%。
5層 10YR3/4 暗褐色土　10YR2/2黒褐色土5%、10YR5/6黄褐色ローム粒(φ1～10mm)3%、炭化物(φ1mm)1%。
6層 5YR6/8 橙色焼土　WSI04b火床面。10YR2/1黒色土10%、炭化物(φ1mm)1%。

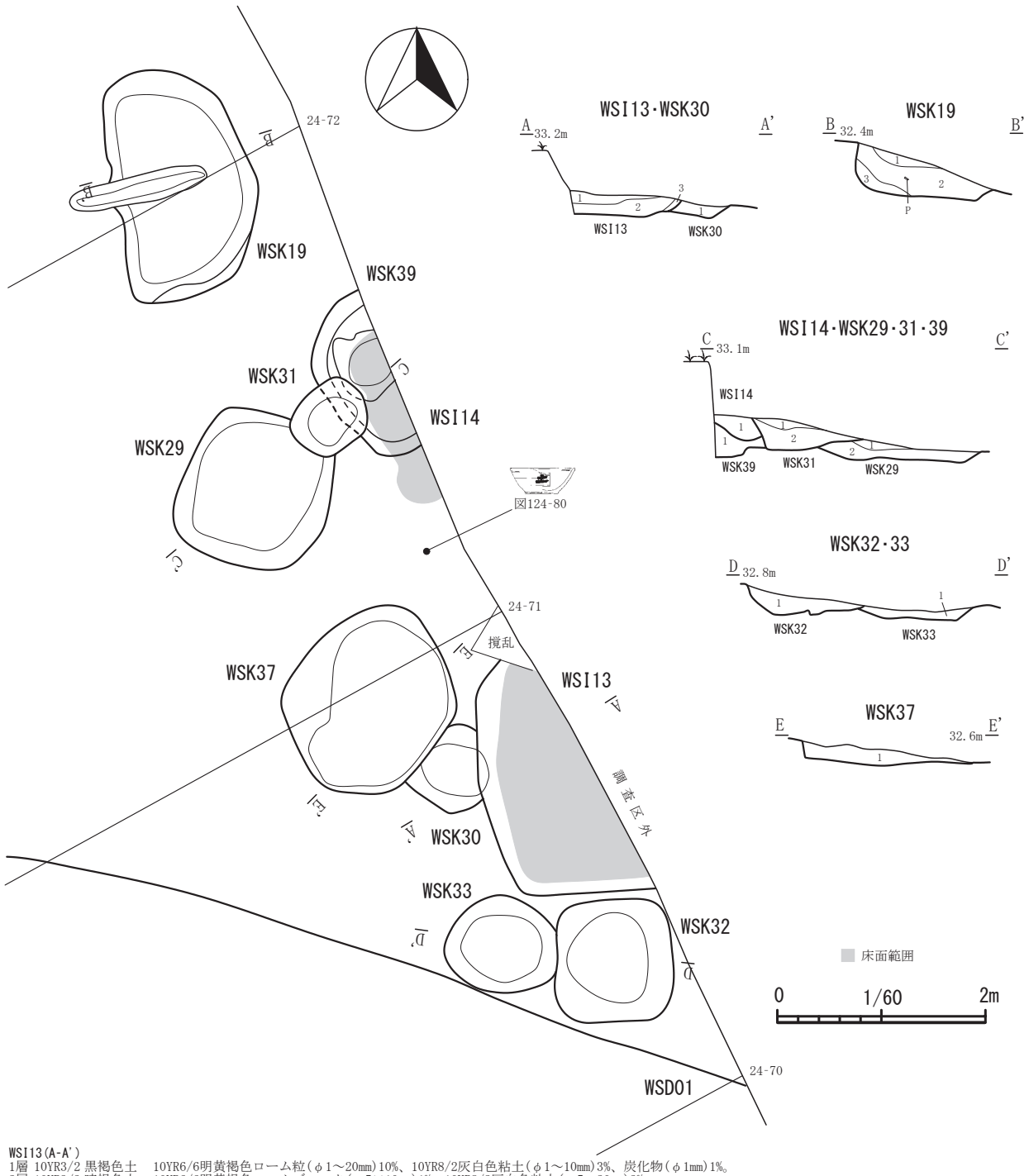
WSD17(A-A')
1層 10YR2/2 黒褐色土　10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1～10mm)2%、炭化物(φ1～3mm)1%。

WSI04b Pit2(A-A')
1層 10YR2/2 黒褐色土　10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1～10mm)3%、炭化物(φ1～3mm)1%。

WSK49(A-A')
1層 10YR2/1 黒 色 土　炭化物(φ1mm)1%。
2層 10YR2/3 黒褐色土と5YR5/8明赤褐色焼土の混合層。10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1～10mm)3%、炭化物(φ1～5mm)2%。
3層 10YR3/3 暗褐色土　10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1～5mm)3%、5YR5/8明赤褐色焼土(φ1～10mm)5%、炭化物(φ1～10mm)1%。

WSD01(B-B')
1層 10YR3/3 暗褐色土　10YR6/1褐灰色粘土10%、10YR6/8明黄褐色ロームブロック(φ1～30mm)3%、炭化物(1～3mm)1%。
2層 10YR2/1 黒 色 土　10YR6/1褐灰色粘土(φ5～20mm)3%、10YR6/8明黄褐色ロームブロック(φ1～30mm)3%。
3層 10YR3/3 暗褐色土と10YR2/1黒色土の混合層。10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1～3mm)2%、炭化物(φ1mm)1%。
4層 10YR3/2 黒褐色土　10YR6/1褐灰色粘土(φ10～30mm)3%、10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1mm)1%。

図114　24-68･69グリッド周辺遺構（３）



WSI13(A-A')
1層 10YR3/2 黒褐色土　10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1～20mm)10%、10YR8/2灰白色粘土(φ1～10mm)3%、炭化物(φ1mm)1%。
2層 10YR3/3 暗褐色土　10YR6/6明黄褐色ロームブロック(φ5×10mm)1%、10YR8/2灰白色粘土(φ5～20mm)3%。
3層 10YR3/4 暗褐色土と10YR6/6明黄褐色ロームの混合層。10YR8/2灰白色粘土(φ1～5mm)2%、炭化物(φ1mm)1%。

WSK30(A-A')
1層 10YR2/2 黒褐色土　10YR5/6黄褐色ローム粒(φ1mm)1%。

WSK19(B-B')
1層 10YR3/4 暗褐色土　10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1mm)2%、炭化物(φ1mm)1%。
2層 10YR4/4 褐 色 土　10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1～3mm)2%、10YR8/2灰白色浮石(φ1mm)1%、炭化物(φ1～3mm)1%。
3層 10YR5/6 黄褐色土　10YR6/8明黄褐色ロームブロック(φ5～10mm)2%、10YR8/2灰白色浮石(φ1mm)1%、炭化物(φ1mm)1%。

WSI14(C-C')
1層 10YR2/3 黒褐色土　貼床。10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1～20mm)10%、5YR5/8明赤褐色焼土(φ1mm)1%、炭化物(φ1～5mm)3%。

WSK29(C-C')
1層 10YR2/3 黒褐色土　10YR5/8黄褐色ローム粒(φ1mm)1%。
2層 10YR3/4 暗褐色土　10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1～20mm)2%。

WSK31(C-C')
1層 10YR2/3 黒褐色土　10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1mm)1%、5YR4/8赤褐色焼土(φ1～3mm)1%、炭化物(φ1mm)1%。
2層 10YR3/4 暗褐色土と10YR5/6黄褐色土の混合層。5YR4/8赤褐色焼土(φ1mm)1%、炭化物(φ1～3mm)2%。

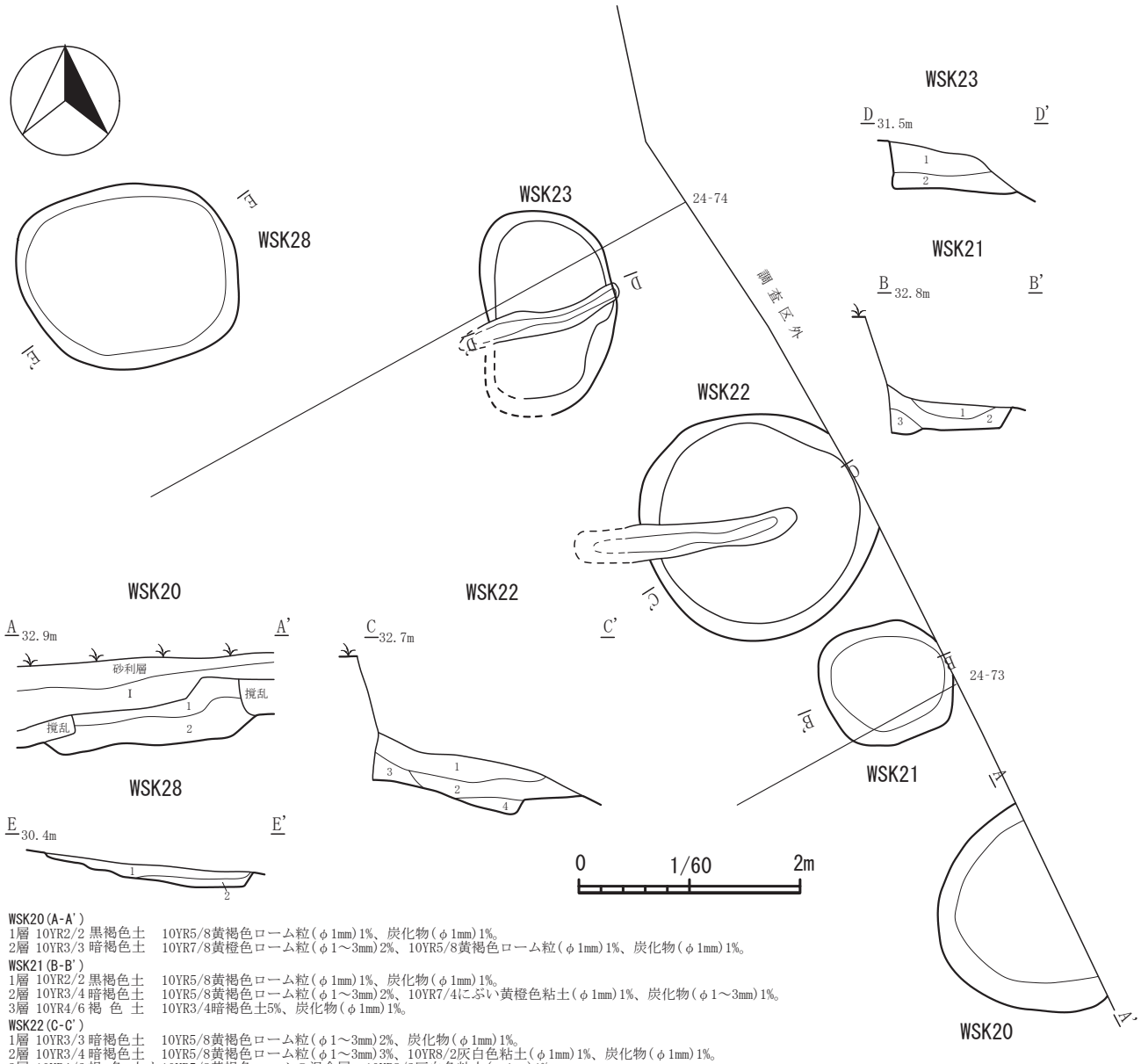
WSK39(C-C')
1層 10YR4/4 褐 色 土　10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1mm)1%、炭化物(φ1mm)1%。

WSK32(D-D')
1層 10YR2/1 黒 色 土　10YR8/6黄橙色ロームブロック(φ20×40mm)5%が層右側に堆積している。10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1～5mm)2%、5YR5/8明赤褐色焼土(φ1mm)1%。

WSK33(D-D')
1層 10YR3/3 暗褐色土　10YR7/8黄橙色ローム粒(φ1～20mm)3%、炭化物(φ1～3mm)2%。

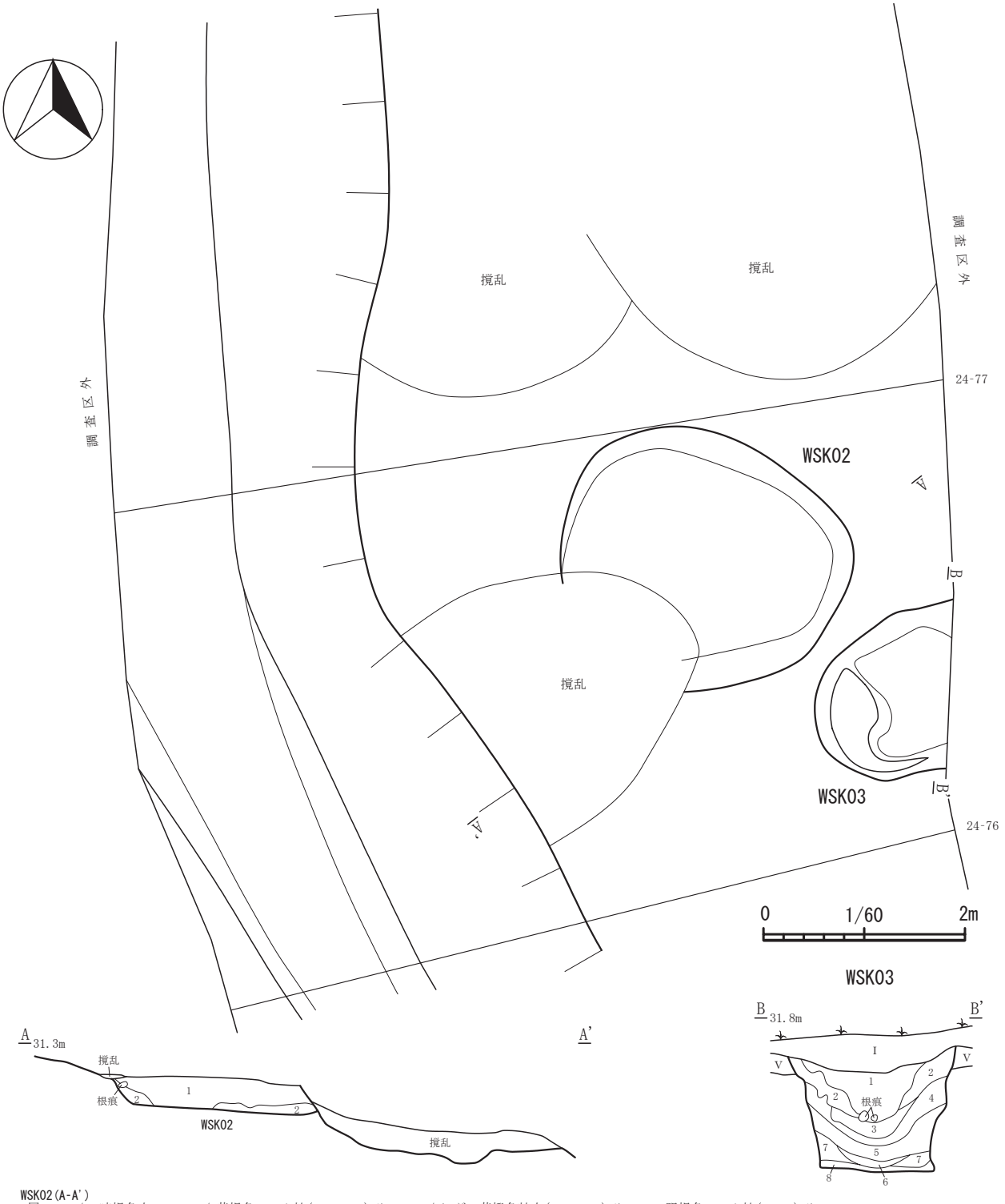
WSK37(E-E')
1層 10YR4/4 褐 色 土　10YR5/6黄褐色土3%、10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1～10mm)3%、炭化物(φ1～3mm)1%。

図115　24-70～72グリッド周辺遺構



WSK20(A-A')
1層 10YR2/2 黒褐色土　10YR5/8黄褐色ローム粒(φ1mm)1%、炭化物(φ1mm)1%。
2層 10YR3/3 暗褐色土　10YR7/8黄橙色ローム粒(φ1～3mm)2%、10YR5/8黄褐色ローム粒(φ1mm)1%、炭化物(φ1mm)1%。
WSK21(B-B')
1層 10YR2/2 黒褐色土　10YR5/8黄褐色ローム粒(φ1mm)1%、炭化物(φ1mm)1%。
2層 10YR3/4 暗褐色土　10YR5/8黄褐色ローム粒(φ1～3mm)2%、10YR7/4にぶい黄橙色粘土(φ1mm)1%、炭化物(φ1～3mm)1%。
3層 10YR4/6 褐　色　土　10YR3/4暗褐色土5%、炭化物(φ1mm)1%。
WSK22(C-C')
1層 10YR3/3 暗褐色土　10YR5/8黄褐色ローム粒(φ1～3mm)2%、炭化物(φ1mm)1%。
2層 10YR3/4 暗褐色土　10YR5/8黄褐色ローム粒(φ1～3mm)3%、10YR8/2灰白色粘土(φ1mm)1%、炭化物(φ1mm)1%。
3層 10YR4/6 褐　色　土と10YR5/8黄褐色ロームの混合層。10YR8/2灰白色粘土(φ1mm)1%。
4層 10YR2/2 黒褐色土　10YR3/4暗褐色土3%、炭化物(φ1mm)1%。
WSK23(D-D')
1層 10YR3/3 暗褐色土　10YR5/8黄褐色ローム粒(φ1～3mm)3%、10YR8/2灰白色粘土(φ1mm)1%、炭化物(φ1mm)1%。
2層 10YR3/4 暗褐色土　10YR5/8黄褐色ローム粒(φ1mm)1%。
WSK28(E-E')
1層 10YR3/3 暗褐色土　10YR8/4浅黄橙色粘土(φ1～3mm)2%、10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1mm)1%、炭化物(φ1～3mm)2%。
2層 10YR4/4 褐　色　土　10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1～3mm)1%、炭化物(φ1mm)1%。

図116　24-72～74グリッド周辺遺構



WSK02(A-A')
1層 10YR3/3 暗褐色土 10YR7/8黄褐色ローム粒(φ1～3mm)7%、10YR6/4にぶい黄橙色粘土(φ1～5mm)5%、7.5YR明褐色ローム粒(φ1mm)1%、5YR3/6暗赤褐色焼土(φ1～3mm)1%、炭化物(φ1mm)1%。
2層 10YR5/6 黄褐色土 10YR4/4暗褐色土10%、10YR7/8黄橙色ローム粒(φ1～3mm)3%、炭化物(φ1mm)2%。

WSK03(B-B')
Ⅰ 10YR2/2 黒褐色土 10YR7/8黄橙色ローム粒(φ1mm)1%、炭化物(φ1mm)1%。
1層 10YR2/1 黒 色 土 10YR7/8黄橙色ローム粒(φ1mm)3%、7.5YR3/4暗褐色土(φ1～3mm)1%、炭化物(φ1mm)%。
2層 10YR2/2 黒褐色土 10YR7/8黄橙色ローム粒(φ1～3mm)1%、7.5YR3/4暗褐色土(φ1～3mm)1%、炭化物(φ1mm)1%。
3層 10YR2/3 黒褐色土 10YR7/8黄橙色ローム粒(φ1mm)1%、炭化物(φ1mm)1%。
4層 10YR3/3 暗褐色土 10YR5/8黄褐色土10%、10YR7/8黄橙色ローム粒(φ1～5mm)5%、炭化物(φ1～5mm)3%。
5層 10YR5/8 黄褐色土 10YR3/4暗褐色土15%、10YR2/2黒褐色土10%、10YR7/8黄橙色ローム粒(φ1～3mm)3%、10YR6/3にぶい黄橙色粘土ブロック(φ10×20mm)2%、炭化物(φ1～3mm)1%。
6層 10YR3/3 暗褐色土 10YR4/4褐色土10%、10YR8/6黄橙色土2%、10YR6/8明黄褐色ロームブロック(φ10×10mm)2%、炭化物(φ1mm)1%。
7層 10YR8/6 黄橙色土 10YR7/3にぶい黄橙色粘土(φ3～20mm)5%、10YR4/6褐色土3%、炭化物(φ1～3mm)1%。
8層 10YR2/2 黒褐色土 7.5YR5/8明褐色土3%、10YR8/4浅黄橙色粘土ブロック(φ20×50mm)3%が層左側に見られる。

図117 24-76～77グリッド周辺遺構

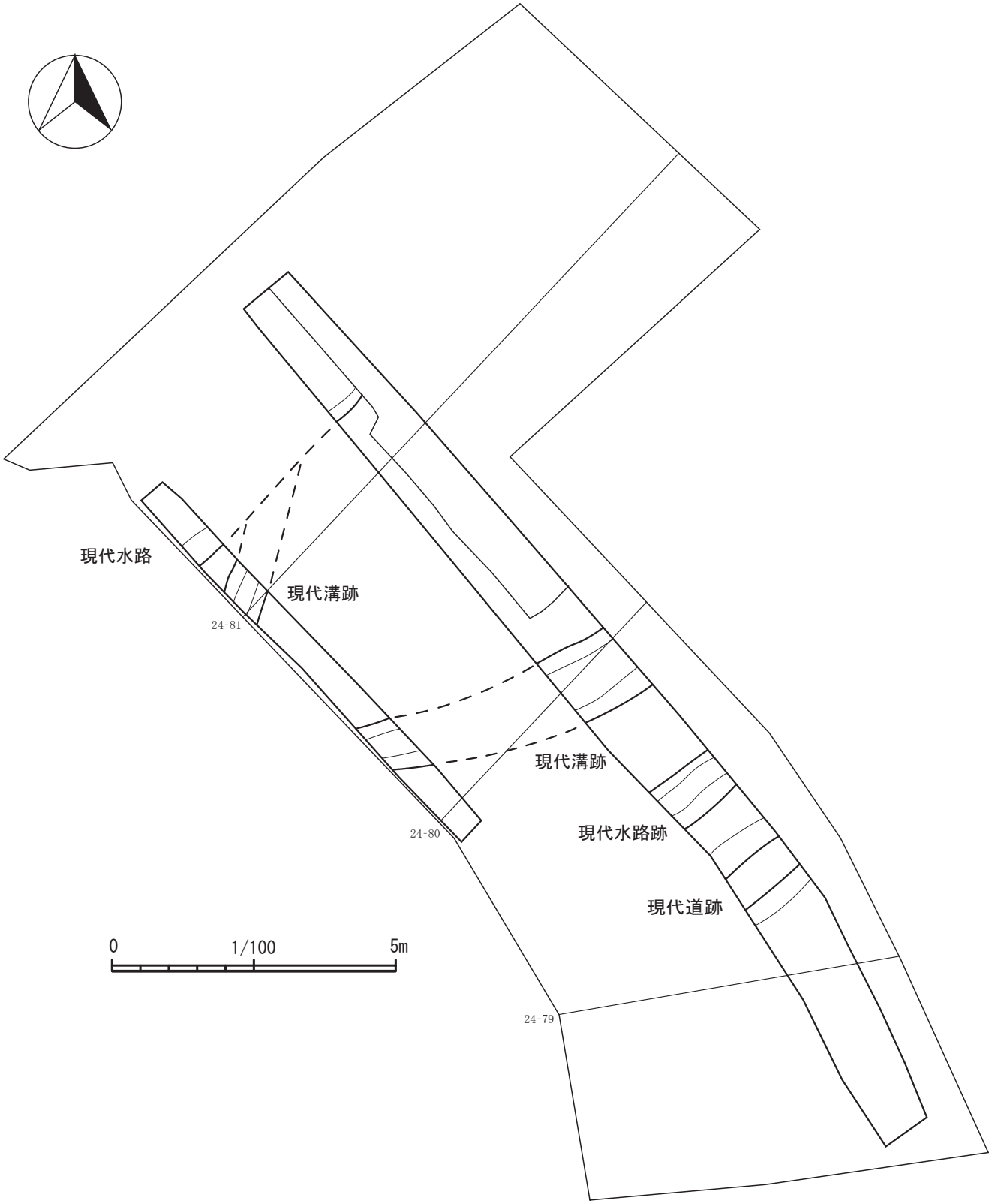


図118　24-78～81グリッド周辺

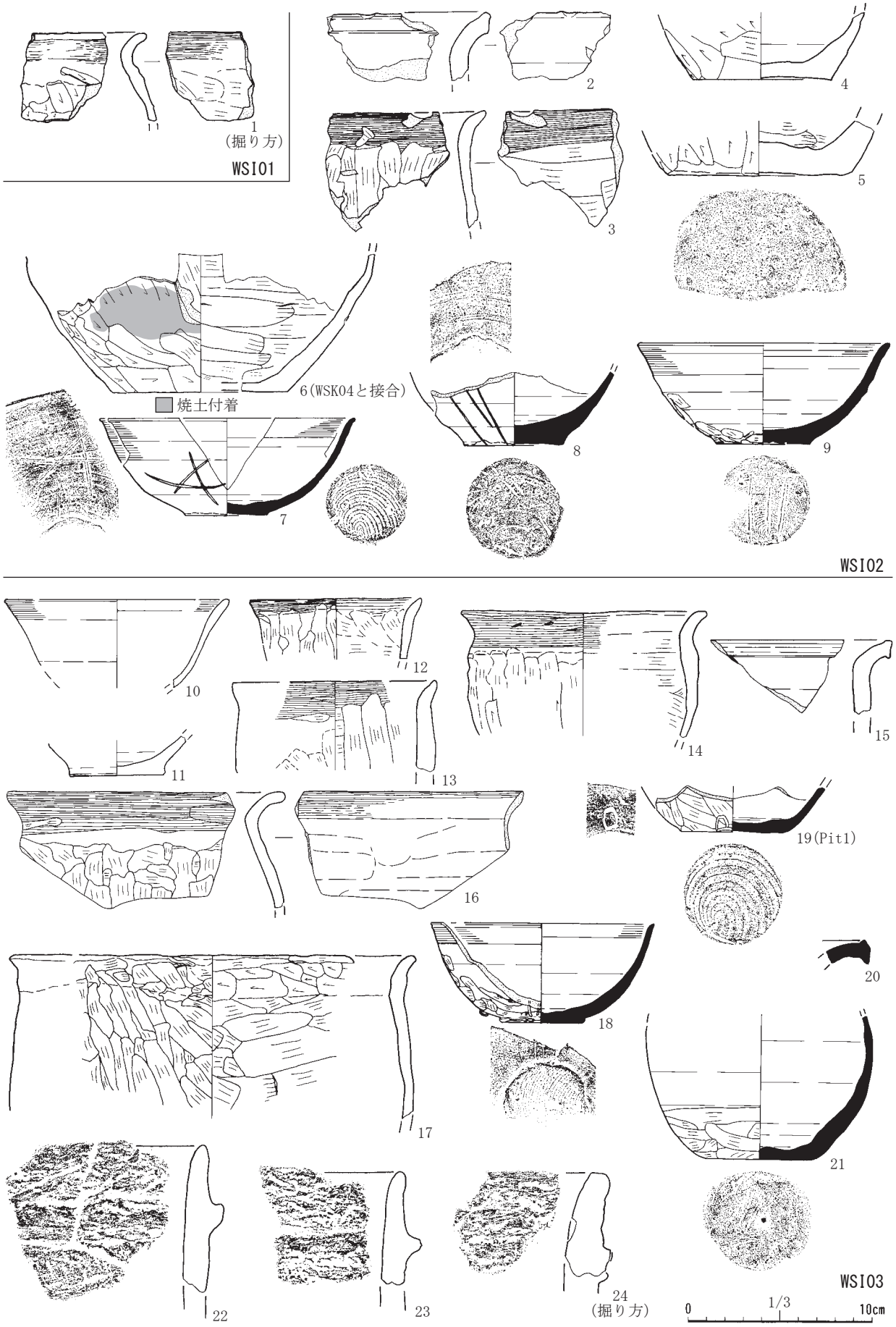


図119　第１・２・３号竪穴住居跡　出土遺物

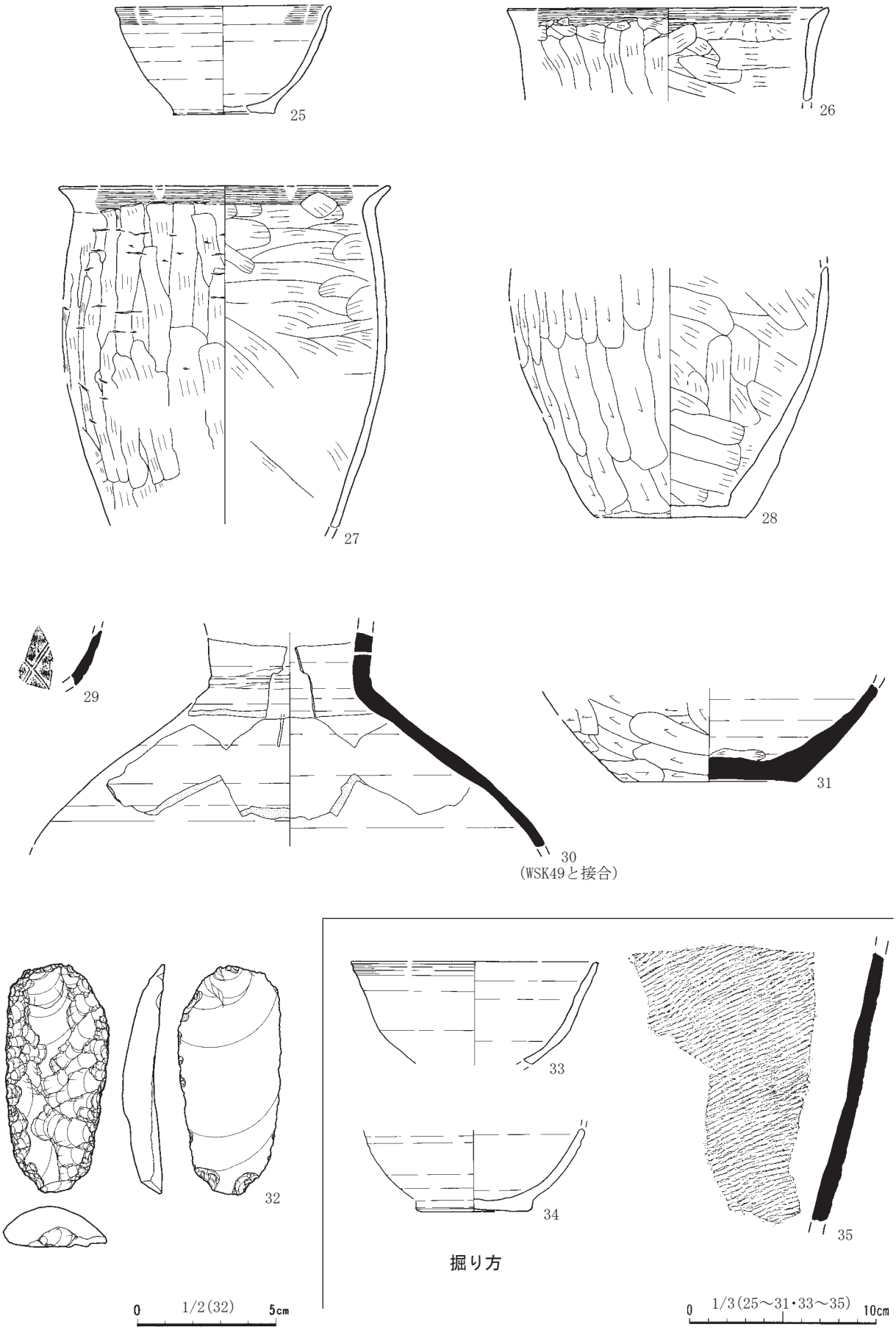


図120　第４号竪穴住居跡　出土遺物

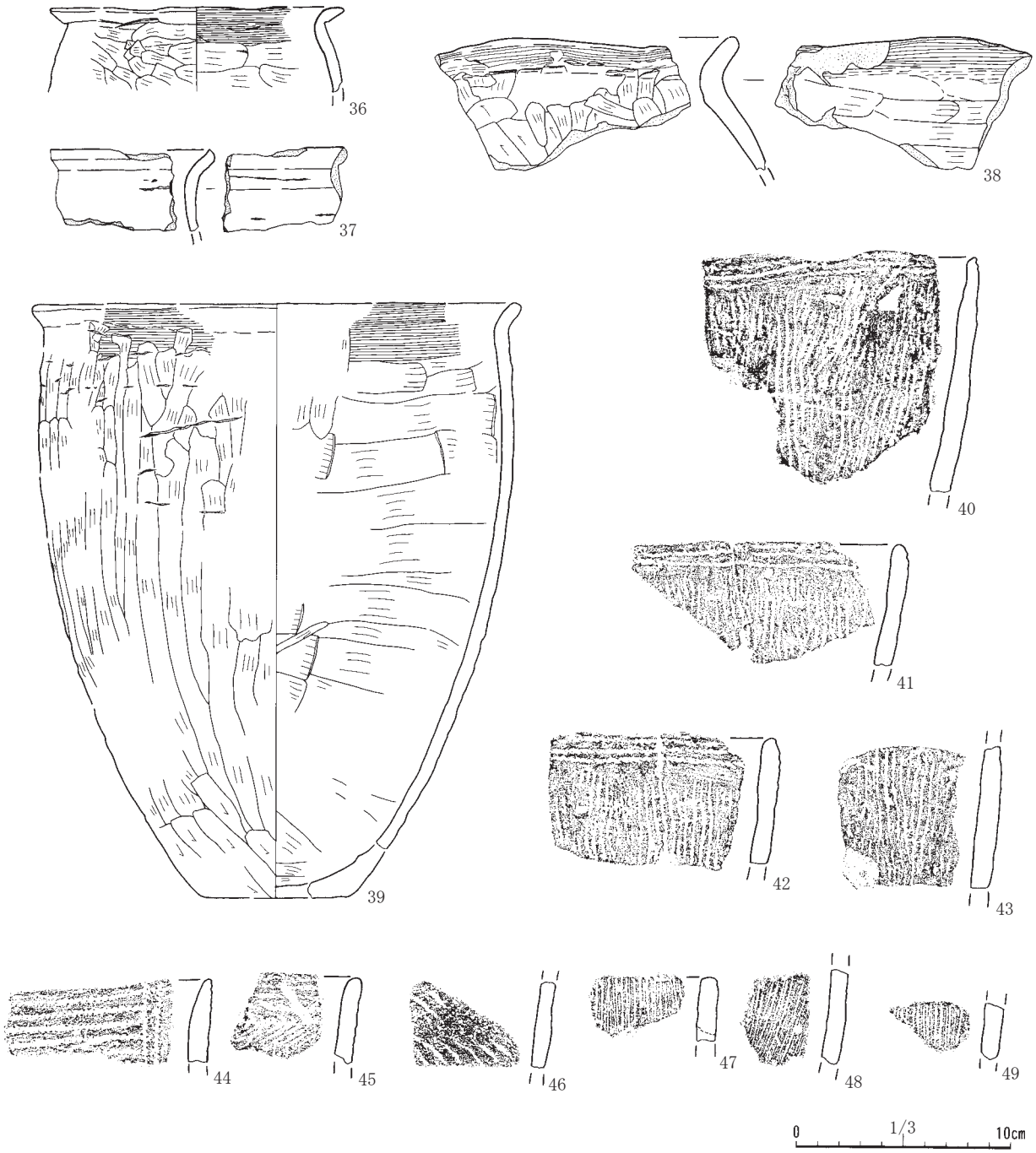


図121　第５号竪穴住居跡　出土遺物

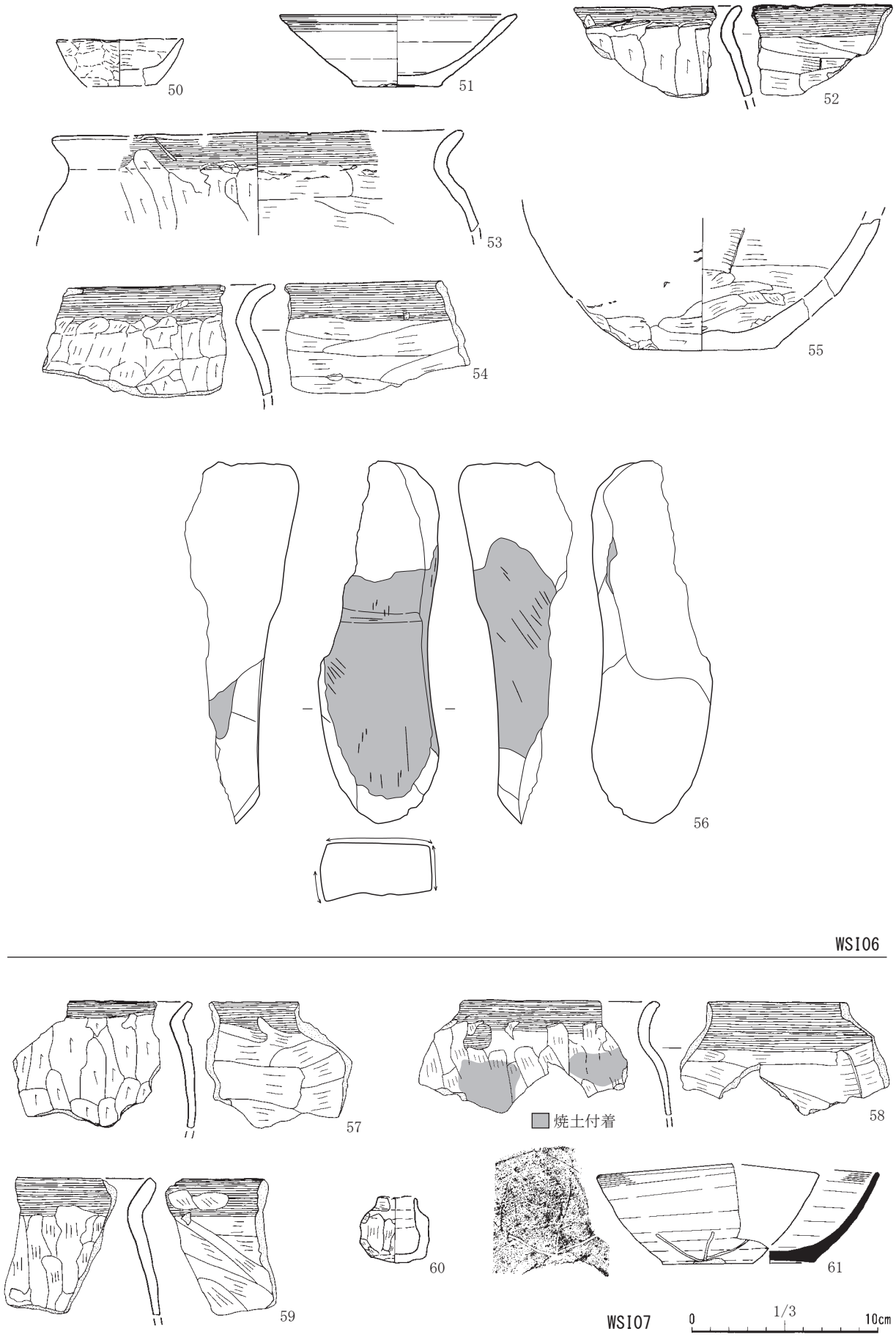


図122　第６・７号竪穴住居跡　出土遺物

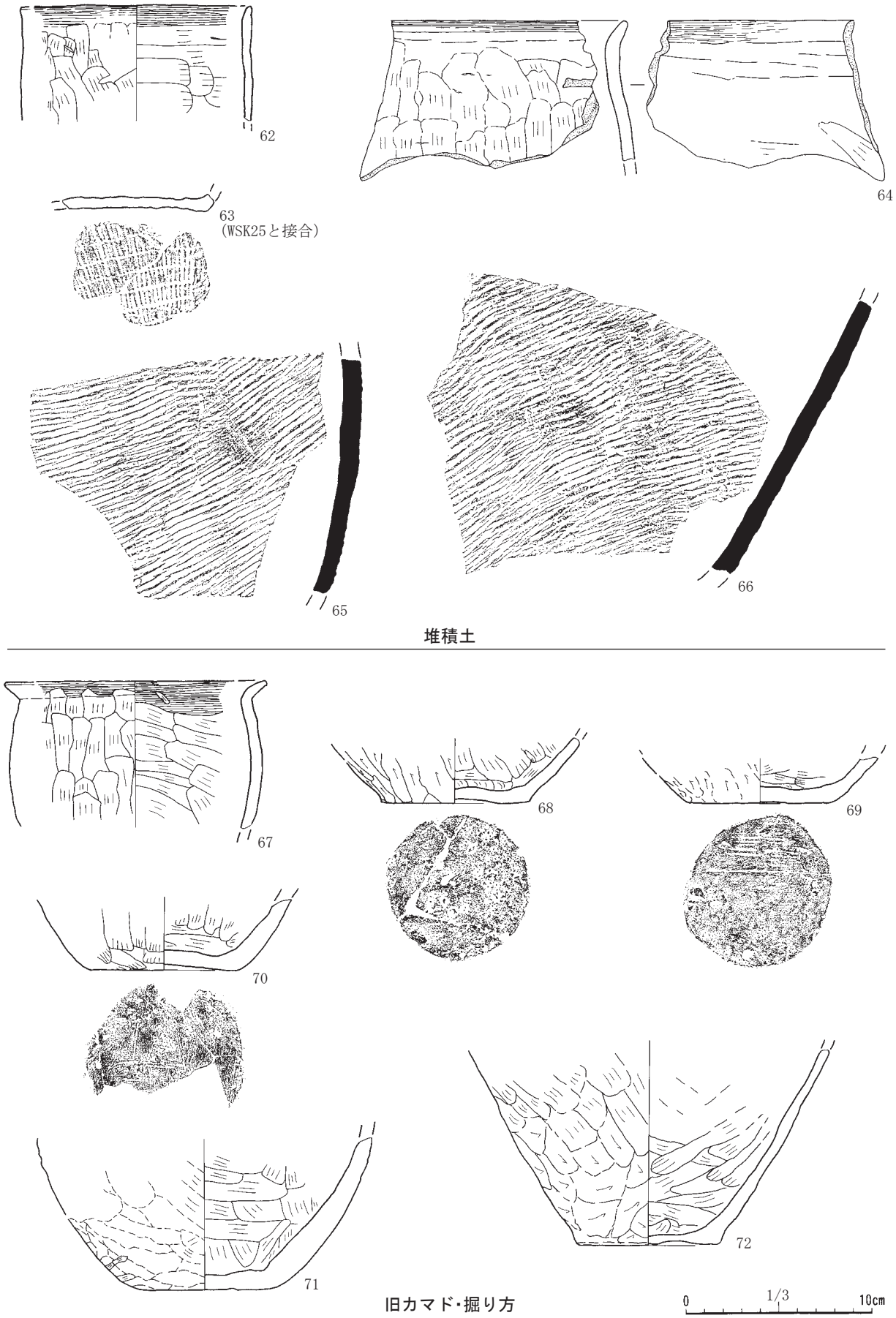


図123　第８号竪穴住居跡　出土遺物

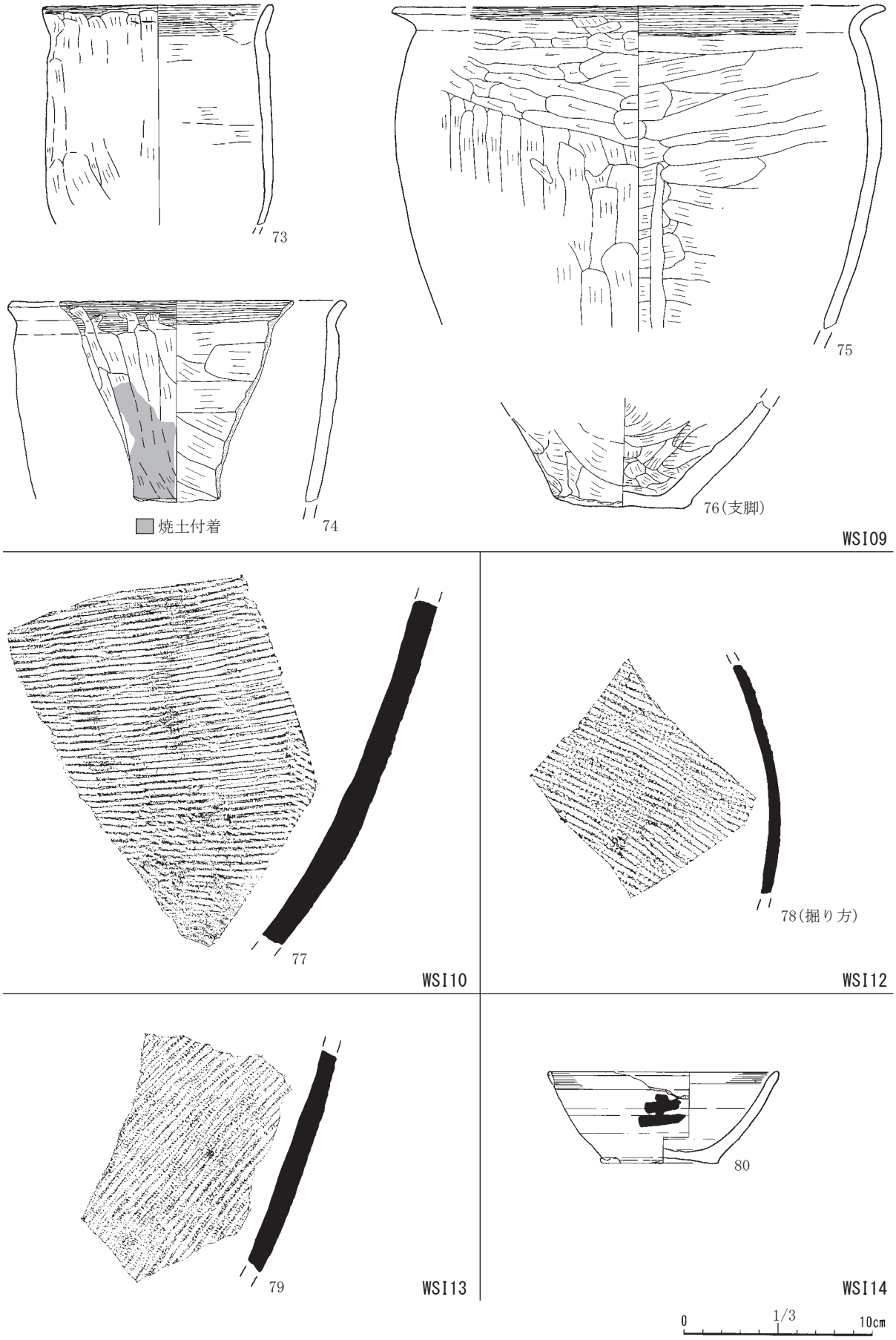


図124　第９･10･12～14号竪穴住居跡　出土遺物

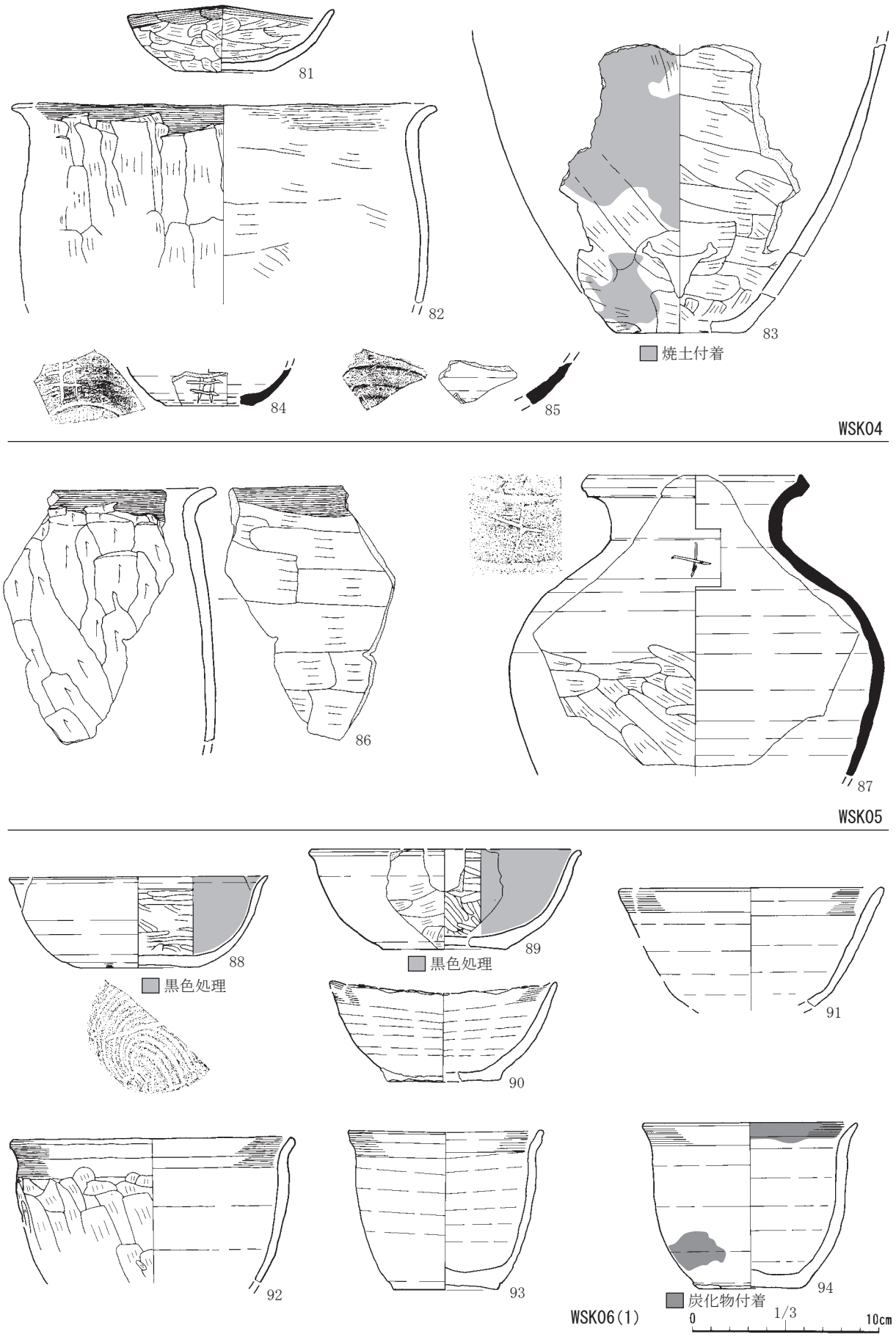


図125　土坑　出土遺物(1)

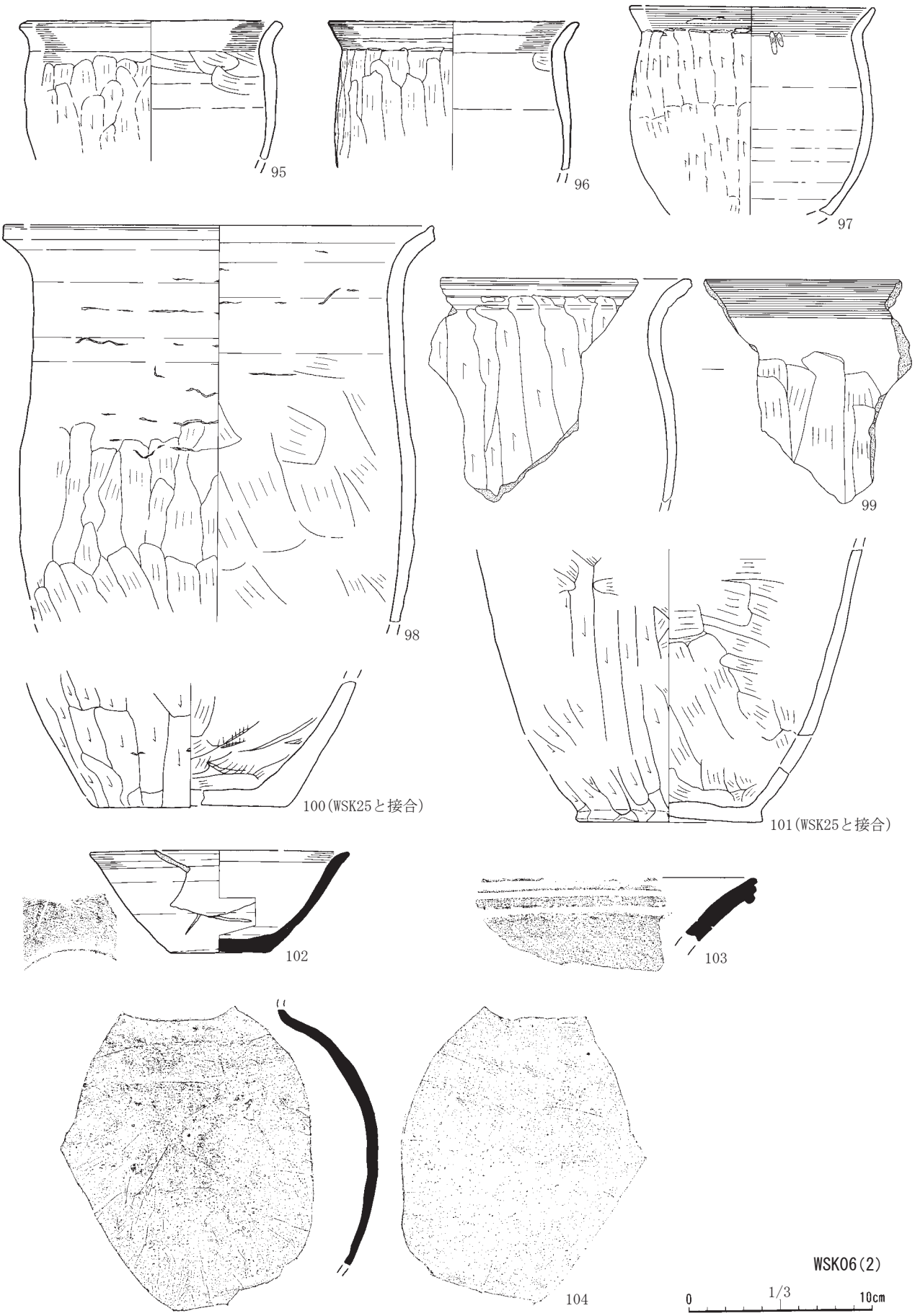


図126　土坑　出土遺物(2)

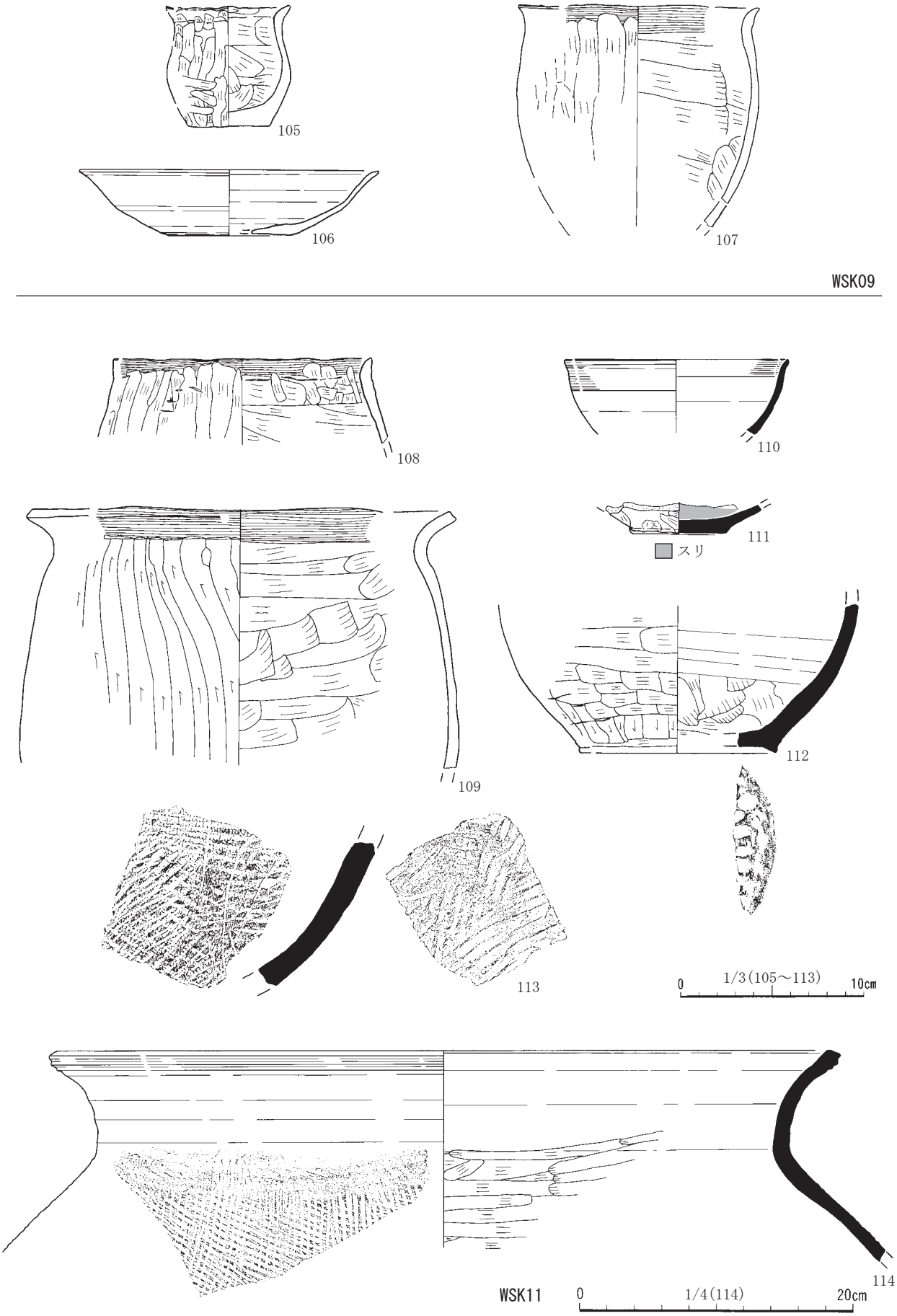


図127　土坑　出土遺物(3)

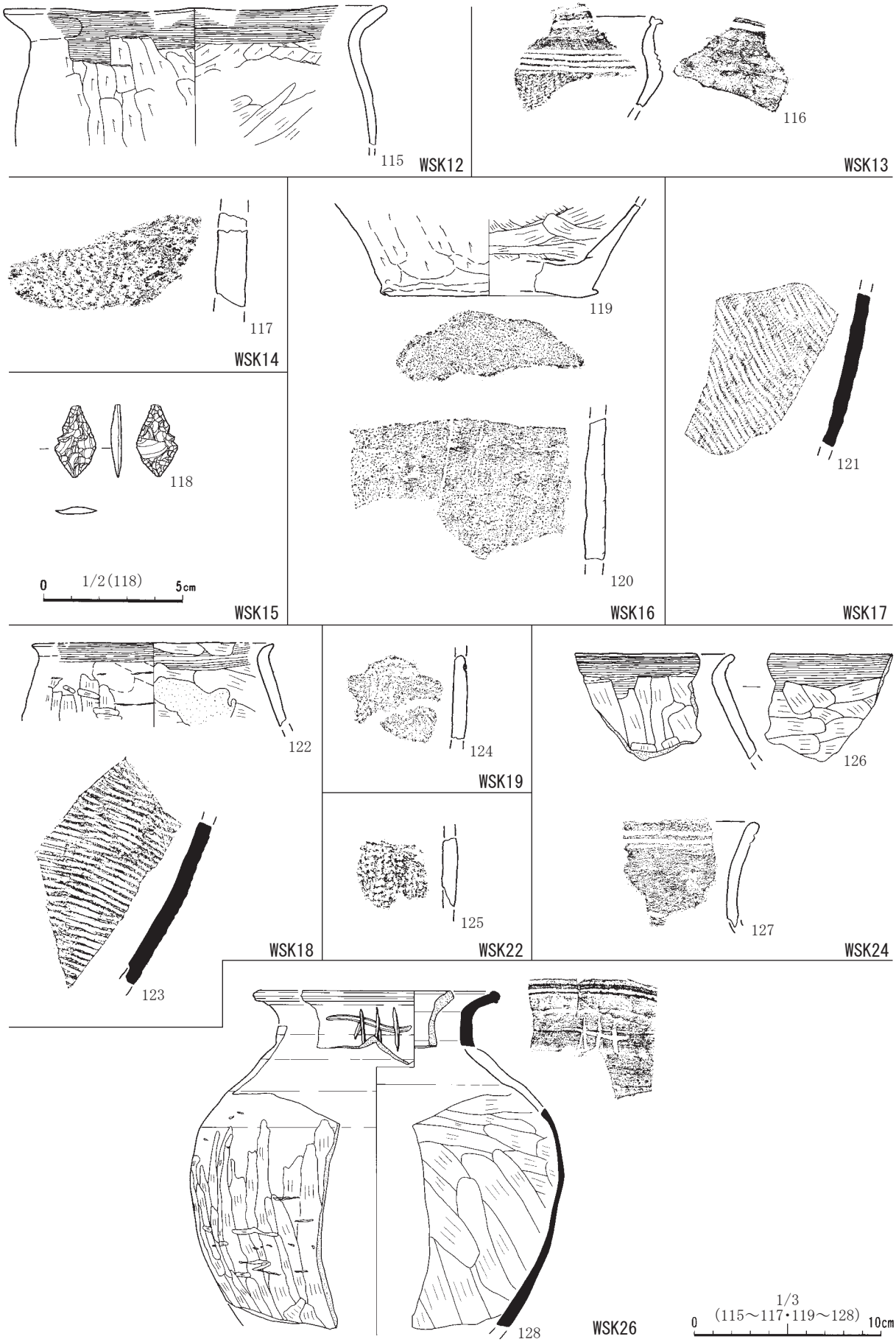


図128　土坑　出土遺物(4)

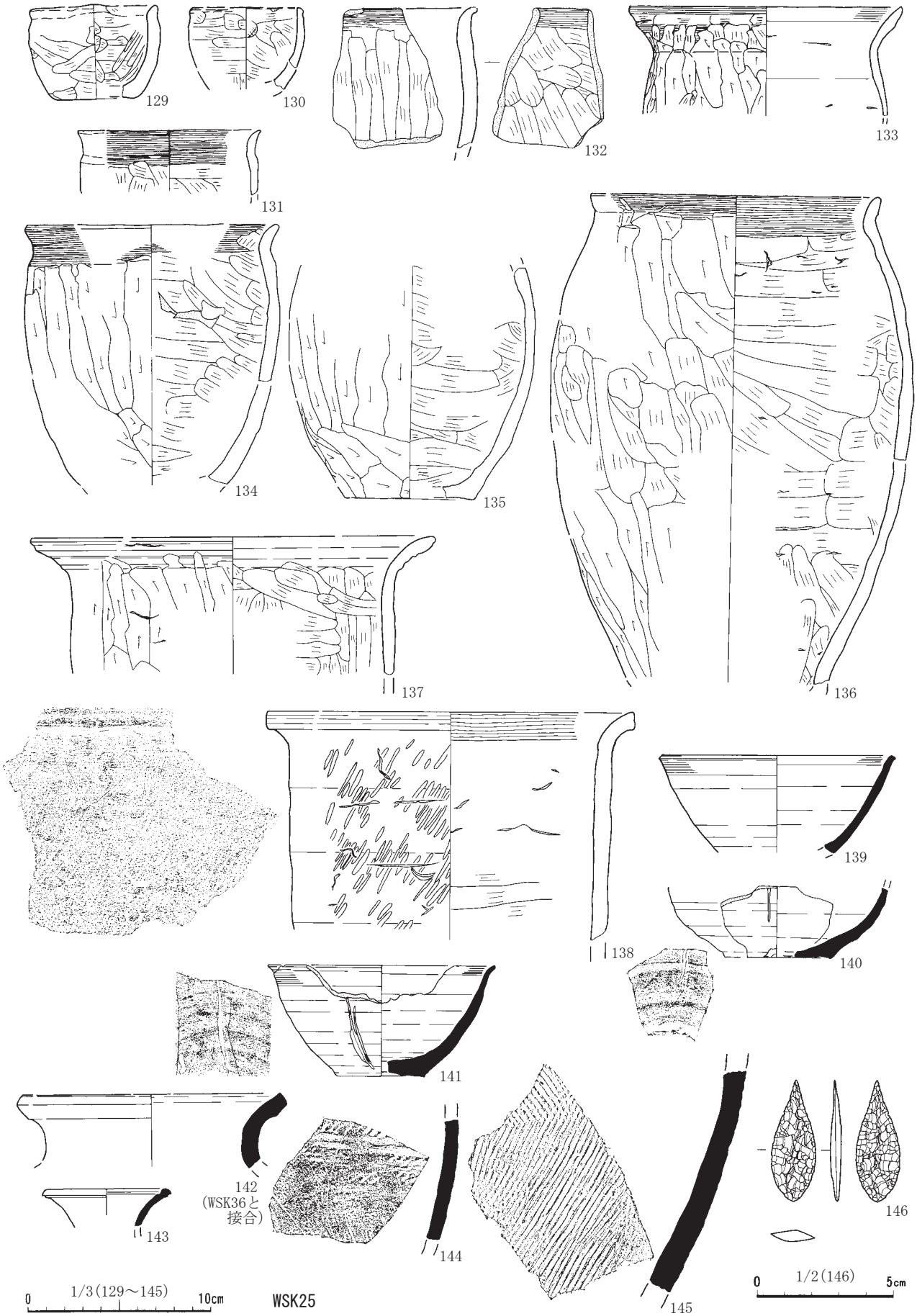


図129　土坑　出土遺物(5)

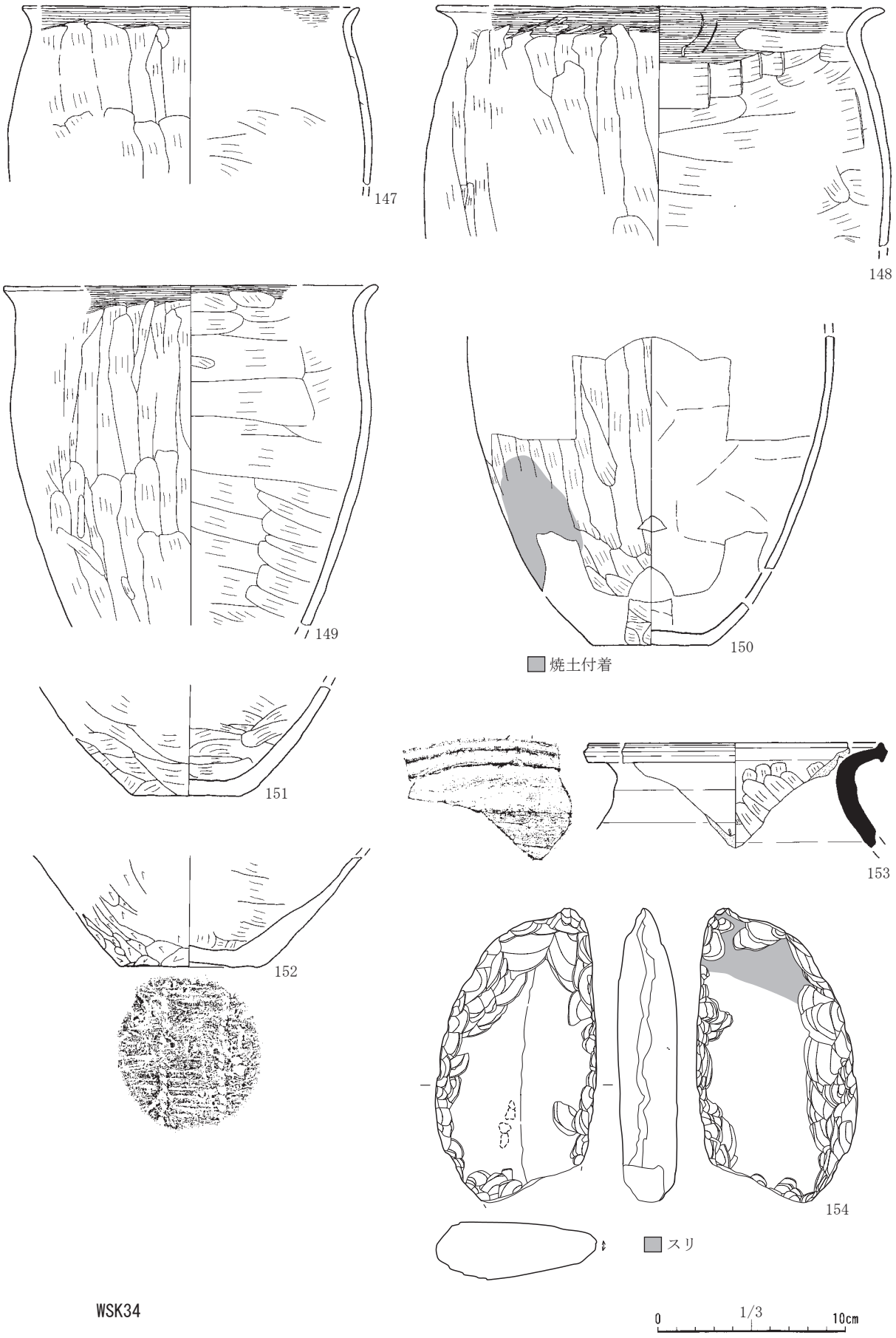


図130　土坑　出土遺物(6)

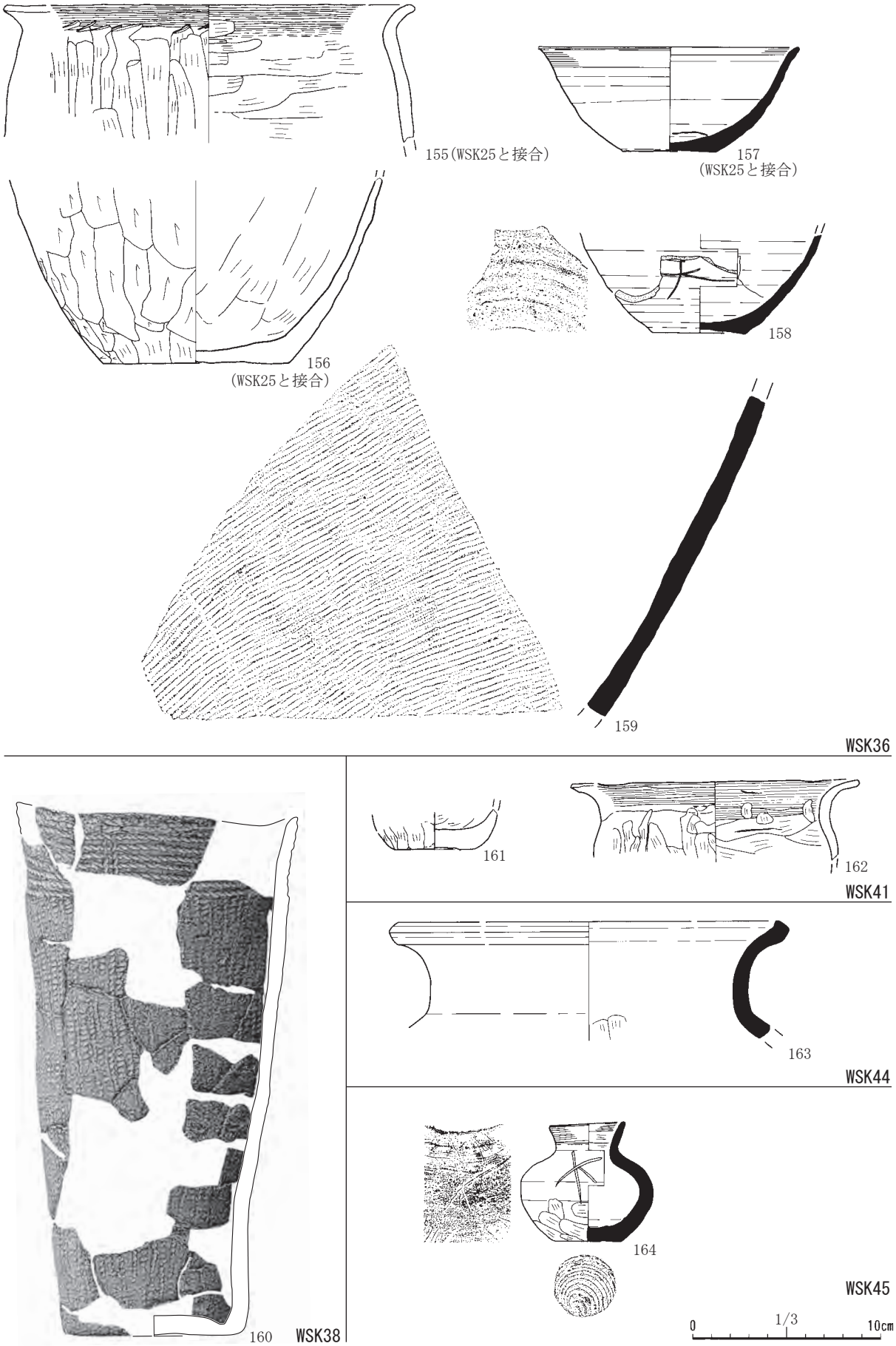


図131　土坑　出土遺物(7)

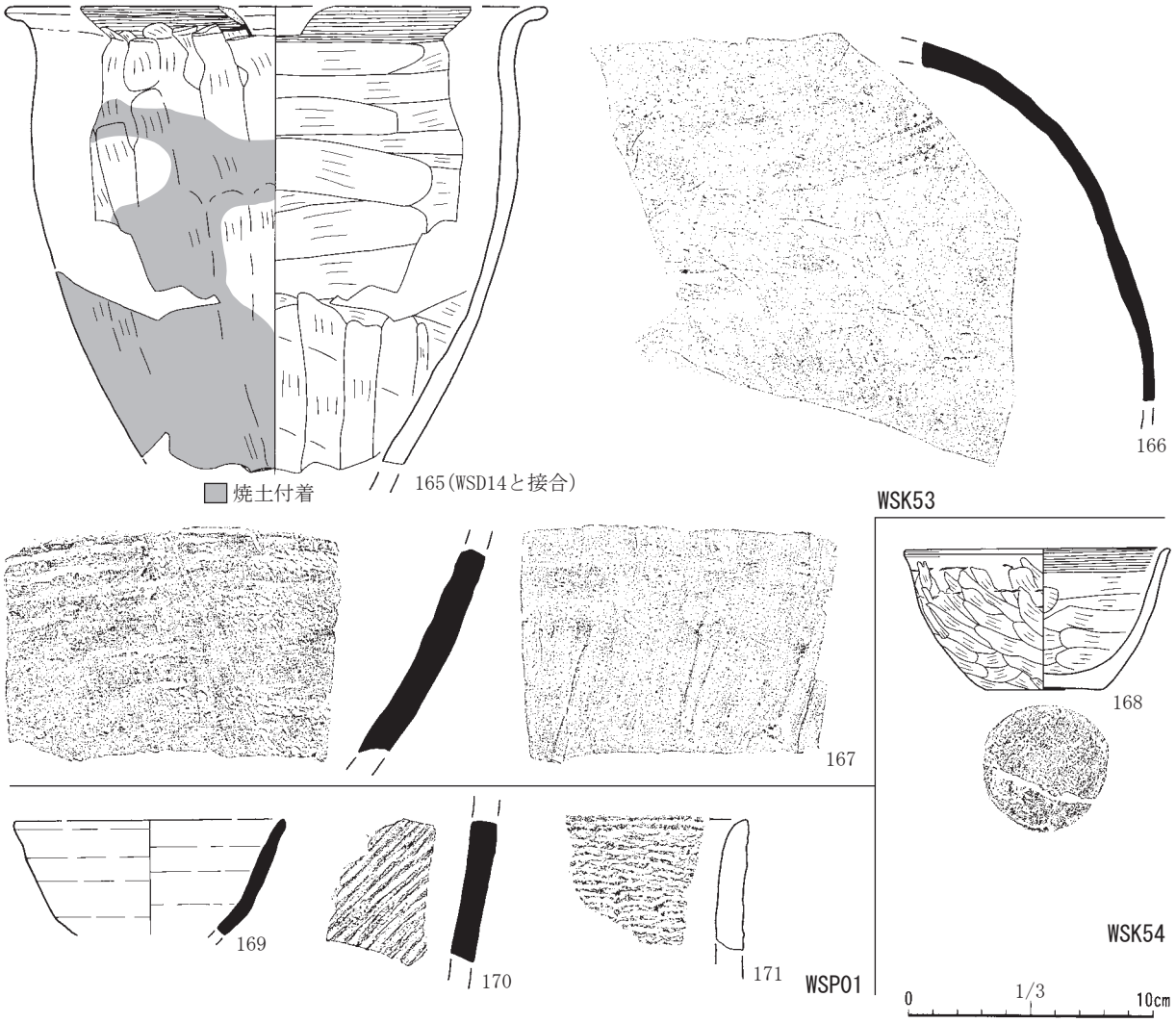


図132　土坑(8)・ピット　出土遺物

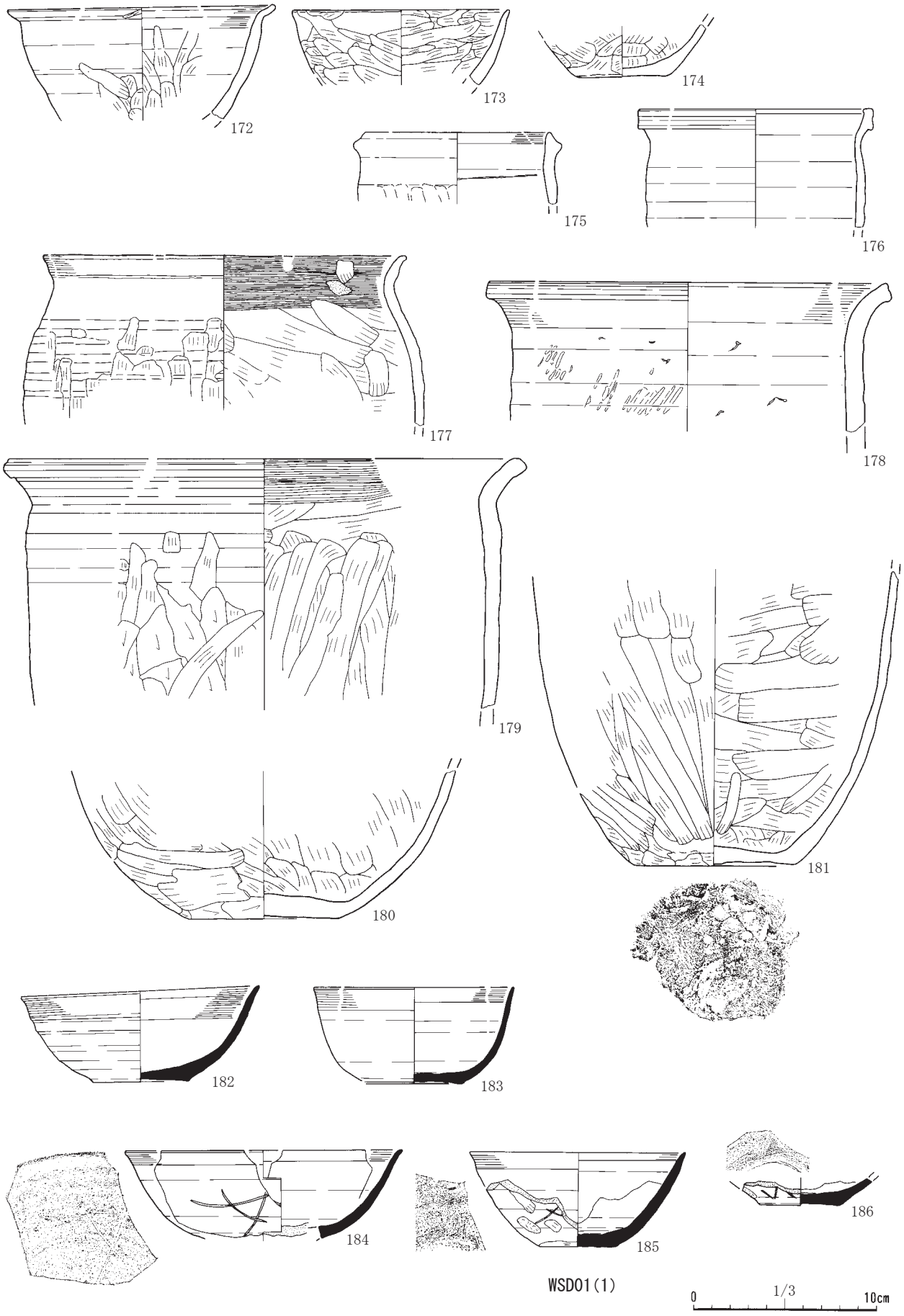


図133　溝跡　出土遺物(1)

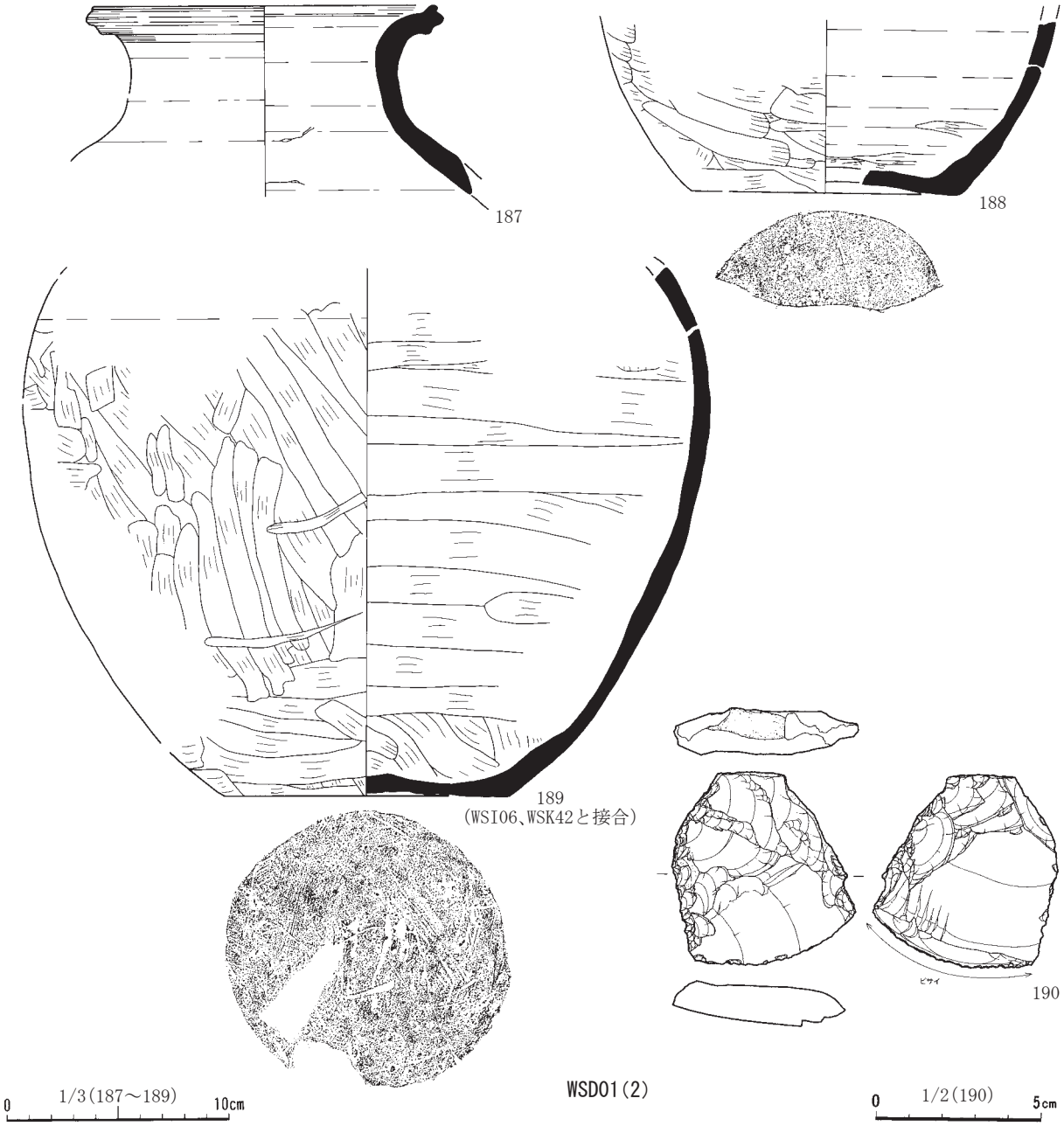


図134　溝跡　出土遺物(2)

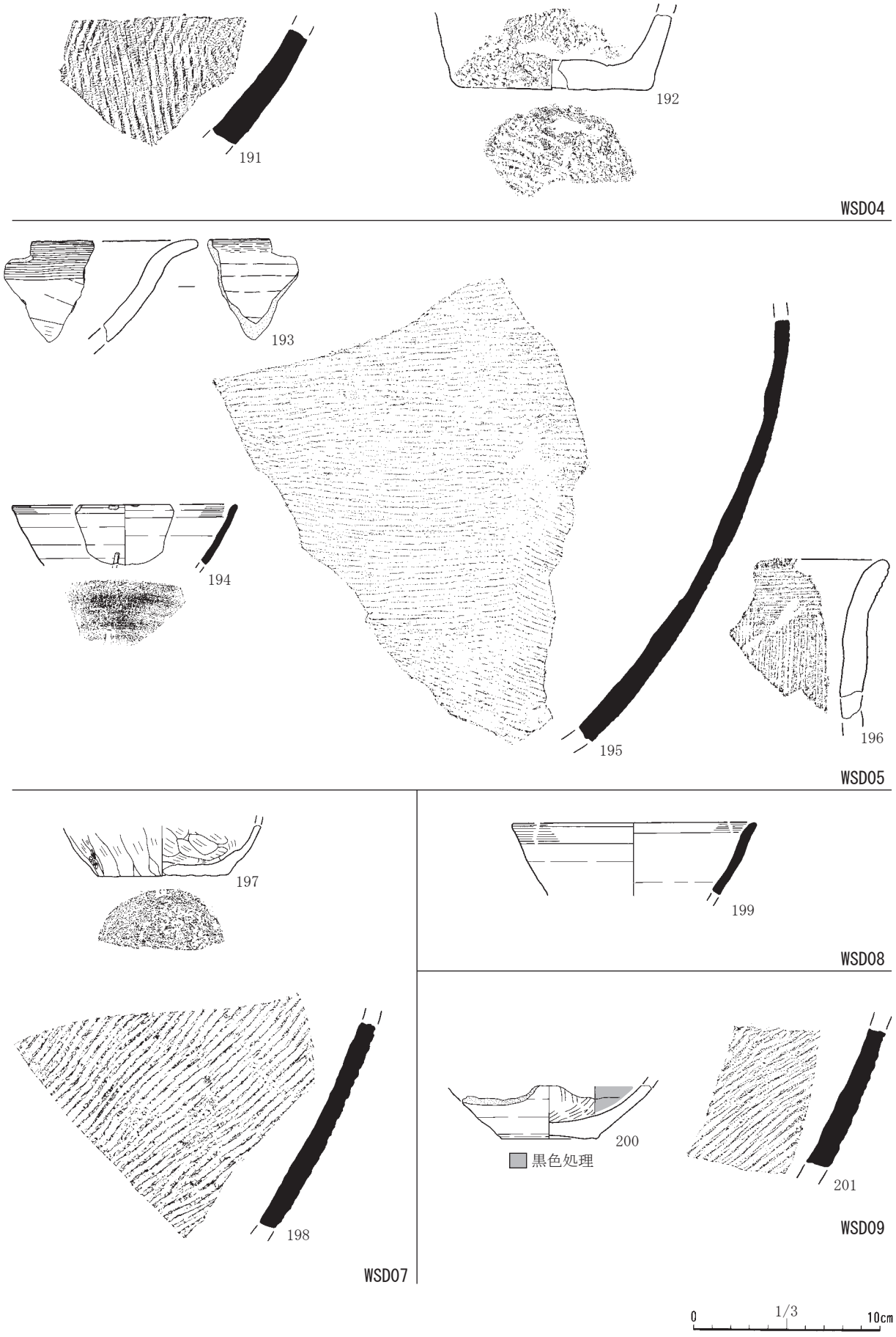


図135　溝跡　出土遺物(3)

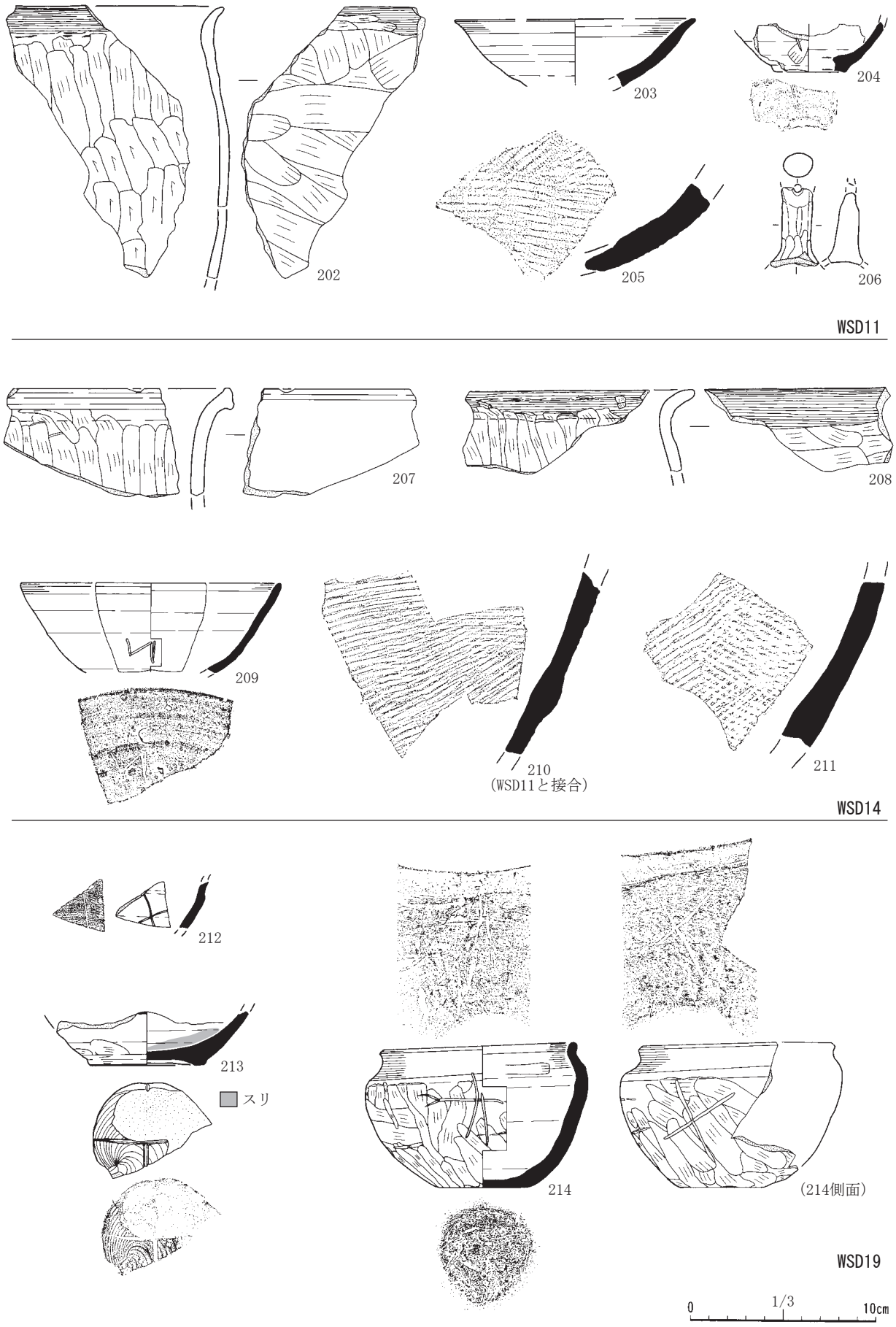


図136　溝跡　出土遺物(4)

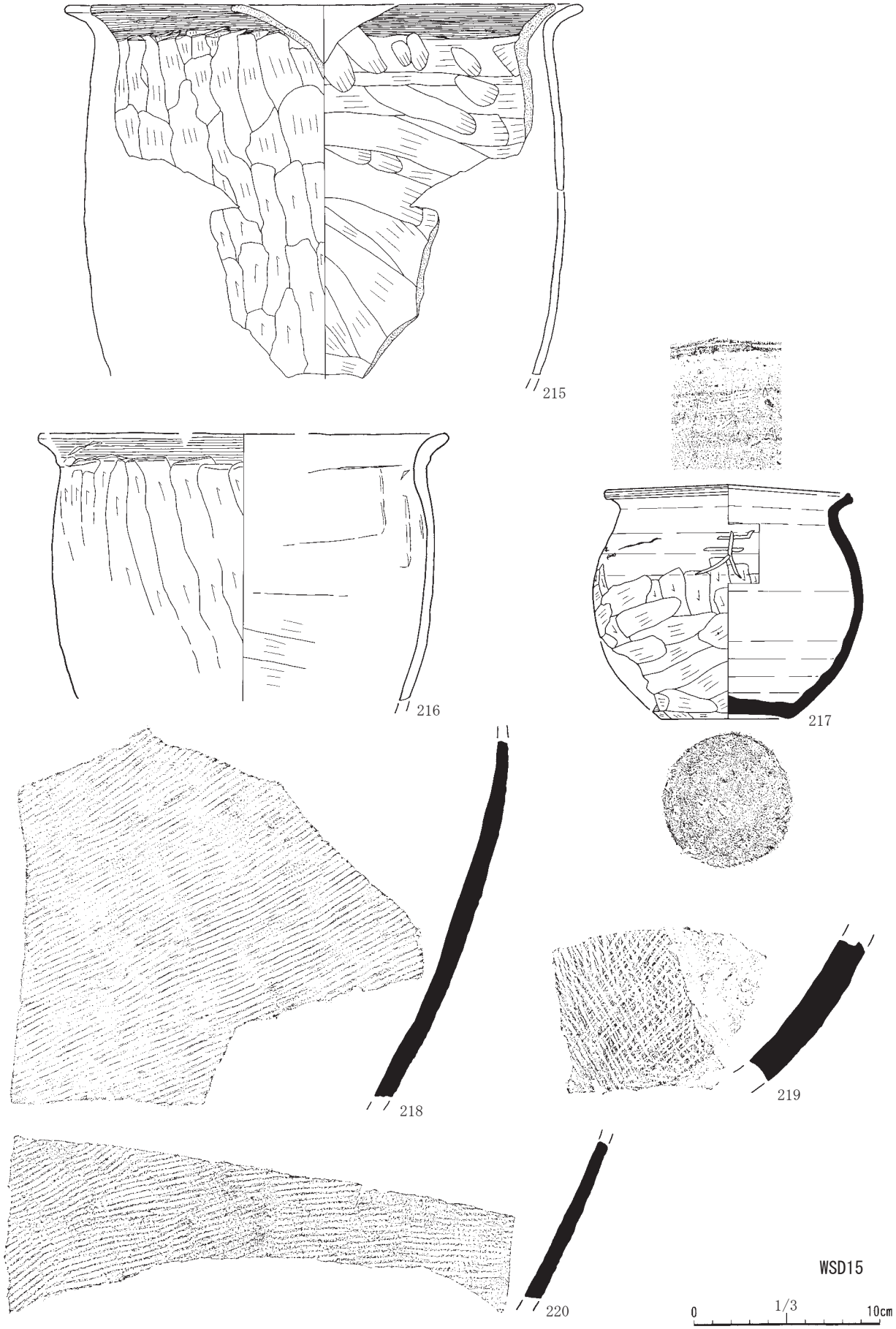


図137　溝跡　出土遺物(5)

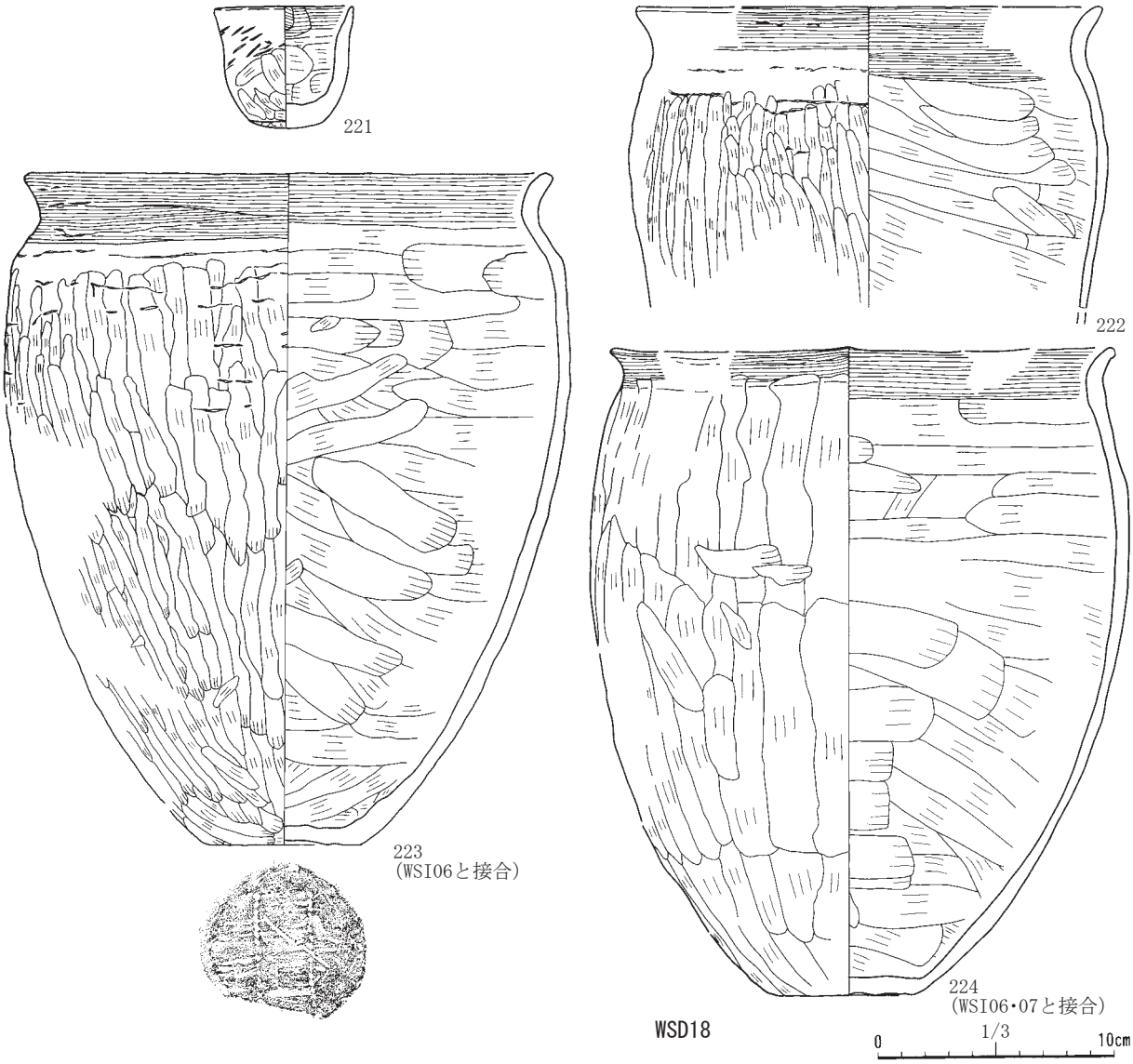


図138　溝跡　出土遺物(6)

（５） 溝状土坑

農道24号Ｗ区からは１基の溝状土坑が検出された。

第１号溝状土坑（ WSV01（旧WSD02）、図109・110）

［位置・確認］調査区中央、24－65グリッドに位置し、遺構確認面の標高は33.6m、第Ⅳ層で確認した。調査着手時は溝跡と想定していたため「WSD02」として調査したが溝状土坑であることが判明したため、整理作業において「WSV01」に改称した。他遺構との重複は認められなかった。

［平面形 ・規模 ・底面］確認面での平面形は長さ3.3m、幅44～55cmの溝状で、確認面からの深さは50～68cmで斜面下方である西側が浅くなっている。底面は幅13～22cmで水平に整えてあり、長さ3.5mで両端ともオーバーハングしている。

［堆積土］堆積土は２層に分層されるがいずれも黒褐色土が堆積しており、自然堆積土と思われる。

［出土遺物・遺構の時期等］遺物は出土しなかった。堆積土の様相と遺構形状から縄文時代の落とし穴と考えられる。

（６） 捨て場

24－57～59グリッド周辺で埋没沢が検出され、小規模な捨て場が形成されていることが判明した。縄文時代の土層と考えられる第Ⅲ層が、第Ⅲａ～Ⅲｄ層の４層に細分されることが明らかとなり、その細分された土層ごとに遺構確認と遺物の取り上げを行った。しかしいずれの層からも遺構は検出されなかったことから、斜面上部から流れ込んできた土壌と遺物が堆積したものと思われる。各土層の特徴と出土遺物を記載していくこととする。なお捨て場全体で８箱程度の遺物が出土した。

第Ⅲａ層（図100・139・140）

［土層］やや粘土質の暗褐色土（10YR3/4）で炭化物を微量含む。本層には縄文土器片等の遺物が多く含まれている。

［出土遺物］全体的に土器破片が散在するように出土した。頸部に隆帯を有するもの（225）は少なく、頸部で若干膨らむ程度の湾曲がみられるものが多い。口縁部文様帯には縄の側面圧痕が平行に施されるものが主体を占める。

226は口縁部文様帯がやや広く、幾何学的な文様を側面圧痕によって施文している。227は口縁に結束第１種横位回転施文しているが、波状突起部分で原体を持ち替えて菱形文を表出させている。229～231は同一個体とみられる土器である。233は頸部文様帯に結束第１種横位回転を２段に施文している。234は口唇と口縁部に絡条体の側面圧痕を施し、頸部に縄末端回転文がみられる。口縁部に235・236は横走する条痕が、237は多重沈線が施文される。238・239は体部下半の土器で、240は磨製石斧である。

第Ⅲｂ層（図100・141・142）

［土層］やや粘土質の暗褐色土（10YR3/3）で、上位の第Ⅲａ層と思われる暗褐色土（10YR3/4）を少量、ローム粒を微量含み、縄文土器片等の遺物も多く含まれている。

［出土遺物］本層が捨て場の主体となる包含層で、最も遺物出土量が多く、かつ復原個体が多いことが

本層の特徴である。

本層出土土器は、頸部に隆帯を有するものは少なく、Ⅲａ層よりも口縁の湾曲が少ないものが多い。241は口縁部に縄の側面圧痕が平行に見られる。242～245・248など原体の横位回転によって施文するものが多いようである。246は器厚が厚いが、磨滅していることもあって文様の有無は不明である。247は縄の側面圧痕が頸部付近に巡らされ、248は屈曲のやや強い頸部に列点に近い刺突が巡っている。249・250は底部片である。251は欠損している半円状扁平打製石器で、252は円礫を用いた敲石、253は円基の石鏃である。

第Ⅲｃ層（図100）

［土層］やや粘土質の黒褐色土（10YR3/2）で灰白色浮石を微量含む。遺物の混入は少ない。

［出土遺物］ごくわずかな縄文時代前期と思われる土器片が出土したが、図示し得なかった。

第Ⅲｄ層（図100・142）

［土層］やや粘土質の暗褐色土（10YR3/3）で、ローム粒を微量含む。

［出土遺物］縄文時代前期の土器片がごく少量出土しただけである。254・255は微隆帯が巡る口縁部片である。256・257は底部片で上げ底風を呈しており、底外面に縄が回転施文されている。

【小結】

捨て場周辺の調査前の地形は南東から北西方向へ傾斜する緩斜面で、標高34.1～34.8mであった。調査によって縄文時代前期中葉頃の地形は、開口面の幅約10m、底面の幅約２m、深さ約２mの沢地形で、24－58グリッドライン付近に重なるように沢底面が存在していたことが明らかになった。

各層からの出土遺物は、第Ⅲａ層３箱、第Ⅲｂ層４箱、第Ⅲｃ層少量、第Ⅲｄ層１箱で、第Ⅲｂ層～第Ⅲａ層に多く含まれている。第Ⅲｂ層では24－57・58グリッドラインに復原個体土器が多く出土しているが、第Ⅲａ層ではやや西寄りの24－58・59グリッドラインに分布の中心が移り、かつ広い範囲から出土するように遷移しており、復原個体が少なくなって破片土器の割合が増している。

以上のことから、縄文時代前期中葉頃まで沢であったものが、第Ⅲｄ層が堆積して埋没が始まり、第Ⅲｃ層によって埋没が加速する。そして遺物を多く含む第Ⅲｂ層が形成されて概ね平準化がなされ、第Ⅲａ層が堆積して沢の埋没がほぼ完全に達成されたものと考えられる。そして晩期にWSK13が、平安時代にはWSI05が作られ、平安時代以降には沢が存在していたことを誰も知らないまま現在に至ったものと考えられる。

出土遺物は円筒下層ｂ～ｄ式土器がみられるが、主体となるのは円筒下層ｃ式土器である。下位層出土土器がより古い時期の要素を有するものが多く出土しているものの、混在している状況も見受けられる。

また、沢を埋めていった土壌の供給源については、捨て場から数十m西側の69グリッド以北には縄文時代前期の可能性がある土坑群や農道24号Ｅ区などの遺構掘削土や廃棄土壌などを考える必要がある。しかし69グリッド以北土坑群の掘削土を、斜面上方の埋没沢に運搬するのは労力が大きく、不自然である。農道24号Ｅ区から埋没沢へ運搬するのも距離が長く労力が大きい。これらを除外した場合、

埋没沢を埋めるだけの土量を発生させ、かつ労力が軽減される地形的状況を加味して土壌供給源を再考してみると、農道24号W区の南側一帯に縄文時代前期の集落が広がっている可能性が考えられる。概ね図153に示した範囲と思われ、その南限は配水管14号までは至らない。

この捨て場では復原個体がある程度存在していることから、土石流などの自然作用によるものというよりは、上で推察した集落の営みの中で人為的に沢が埋められていった可能性が高いのではないかと考えられる。

図139　捨て場　第Ⅲa層　出土遺物(1)

図140　捨て場　第Ⅲa層　出土遺物(2)

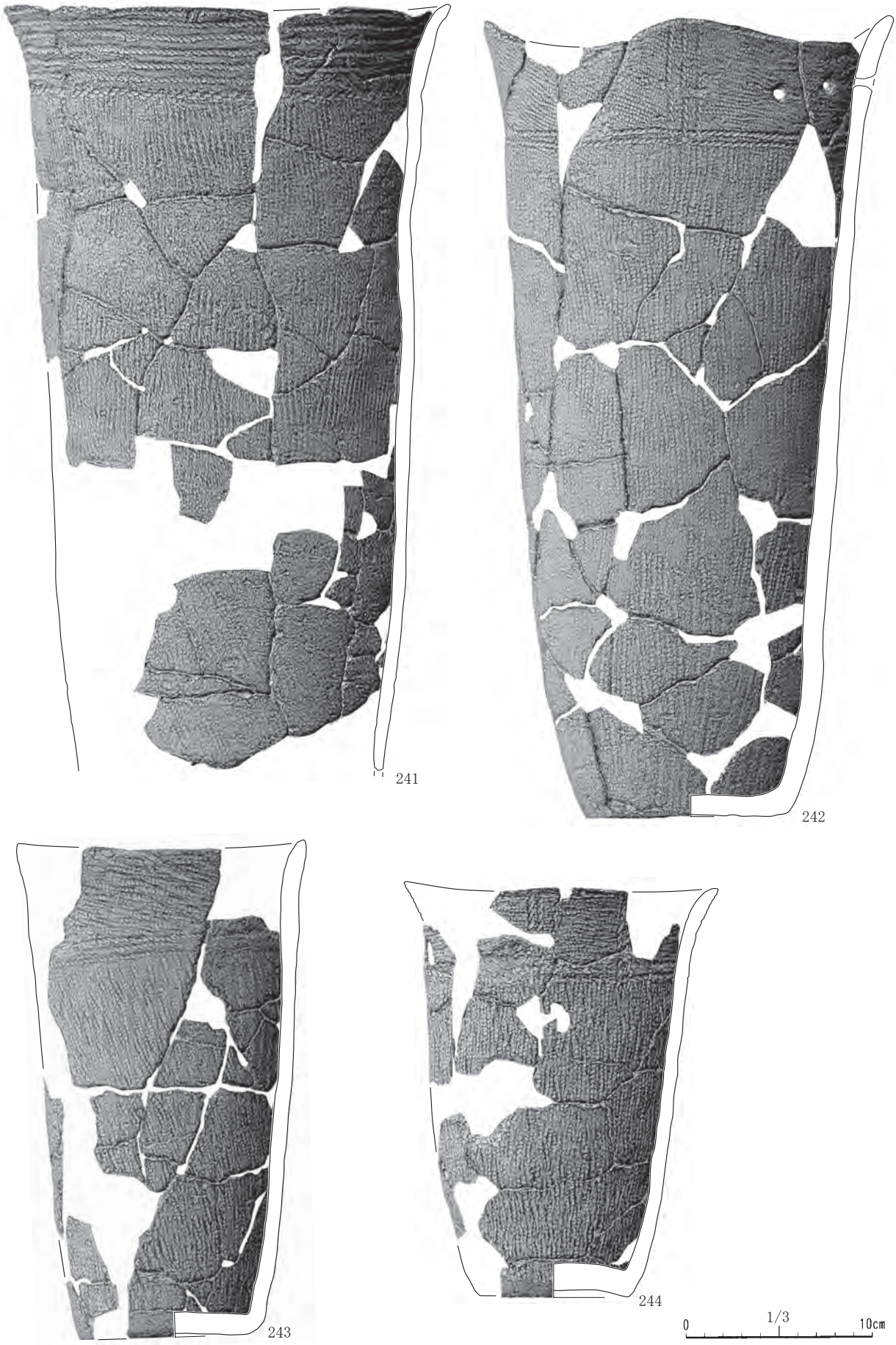


図141　捨て場　第Ⅲb層　出土遺物(1)

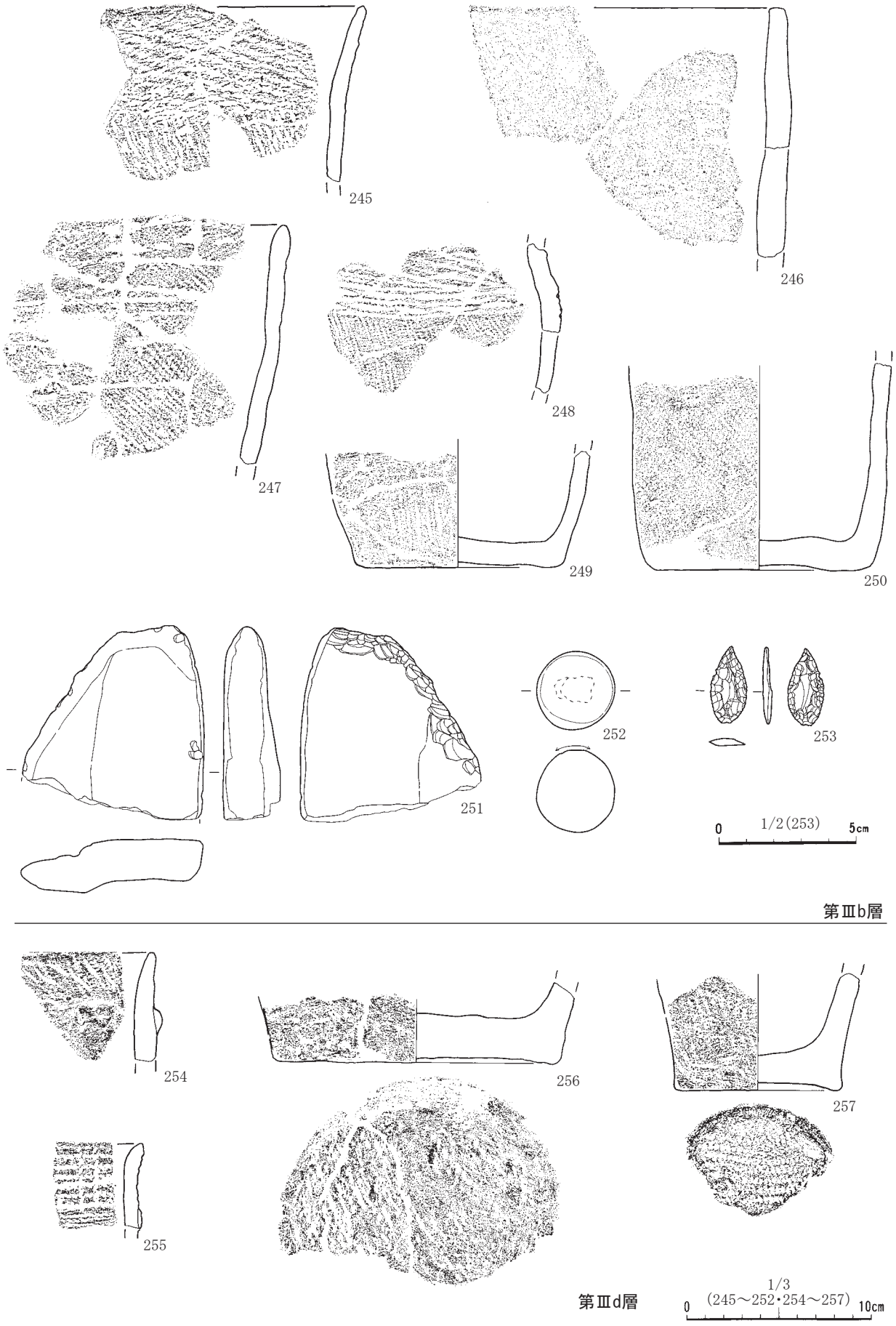


図142　捨て場　第Ⅲb層(2)・第Ⅲd層　出土遺物

２　遺構外の出土遺物

遺構外の遺物には縄文時代のものと平安時代のものとがある。

（１）　縄文時代の出土遺物（図143・145）

土器は、前期（258・259）と後期（260～263）のものがある。前期のものは、258頸部に隆帯があって口縁部に単軸絡条体第１類が施文されるもので、259は小型の底部である。後期のものは、十腰内Ⅰ式とみられる壺？（260）、深鉢（261）、浅鉢（262）と前葉期の深鉢（263）とがある。

石器は石匙２点を図示しており、286・287とも欠損している縦型石匙である。

（２）　平安時代の出土遺物（図143～145）

土師器は皿（264）・坏（265・266）・甕（267）・堝（268・269）を図示した。264は、胴部下半にナデ調整を施している。265は口縁を打ち欠いて灯明皿として使用したもので、割れ口に黒色物が付着している。266は推定口径16cmを有する大振りな坏で、井ともいえるものである。267は頸部に明瞭な屈曲があり、胴部上位はヘラナデ、胴部中位はヘラケズリで調整されている。268･269はいずれも小型堝で、小破片であるため推定の域を出ないが、口径15cm前後程度と思われる。

須恵器は坏（270～281）・壺（282・283）・甕（284・285）を図示した。坏にはいずれも刻書がみられる。270は外面の刻書付近と内面の一部に黒色物の付着がみられる。271は線刻が３条、272は線刻が２条交差しており、「△」状のモチーフと思われる。273は外面２カ所に線刻がみられ、正面とした線刻部分は幅が約２㎜と広く、深くしっかり刻まれたものであるのに対し、側面で示した線刻は幅が0.5㎜以下の細い、シャープな線刻である。274は２条、275･276は１条、277は３条の縦位線刻がみられる。278は２条の線刻が木の葉状に結合するような、279は３条の線刻が上方へ放射状に延びていくような線刻と思われる。280・281は底外面に線刻がみられるもので、280は「△」状、281は平行する２条の線刻が確認できる。壺の282は頸部、283は静止糸切り後、ナデ調整、砂底としたものと思われる底部である。甕の284は頸部にタタキ目が残り、刻書も施されている。285は平成24年度の試掘調査出土遺物と接合したものである。丸底の体部下半で外面及び底外面にもタタキが施される。内面は底部付近はナデ、胴部は刷毛目が確認できるが灰をかぶって融着していてやや不明瞭となっている。

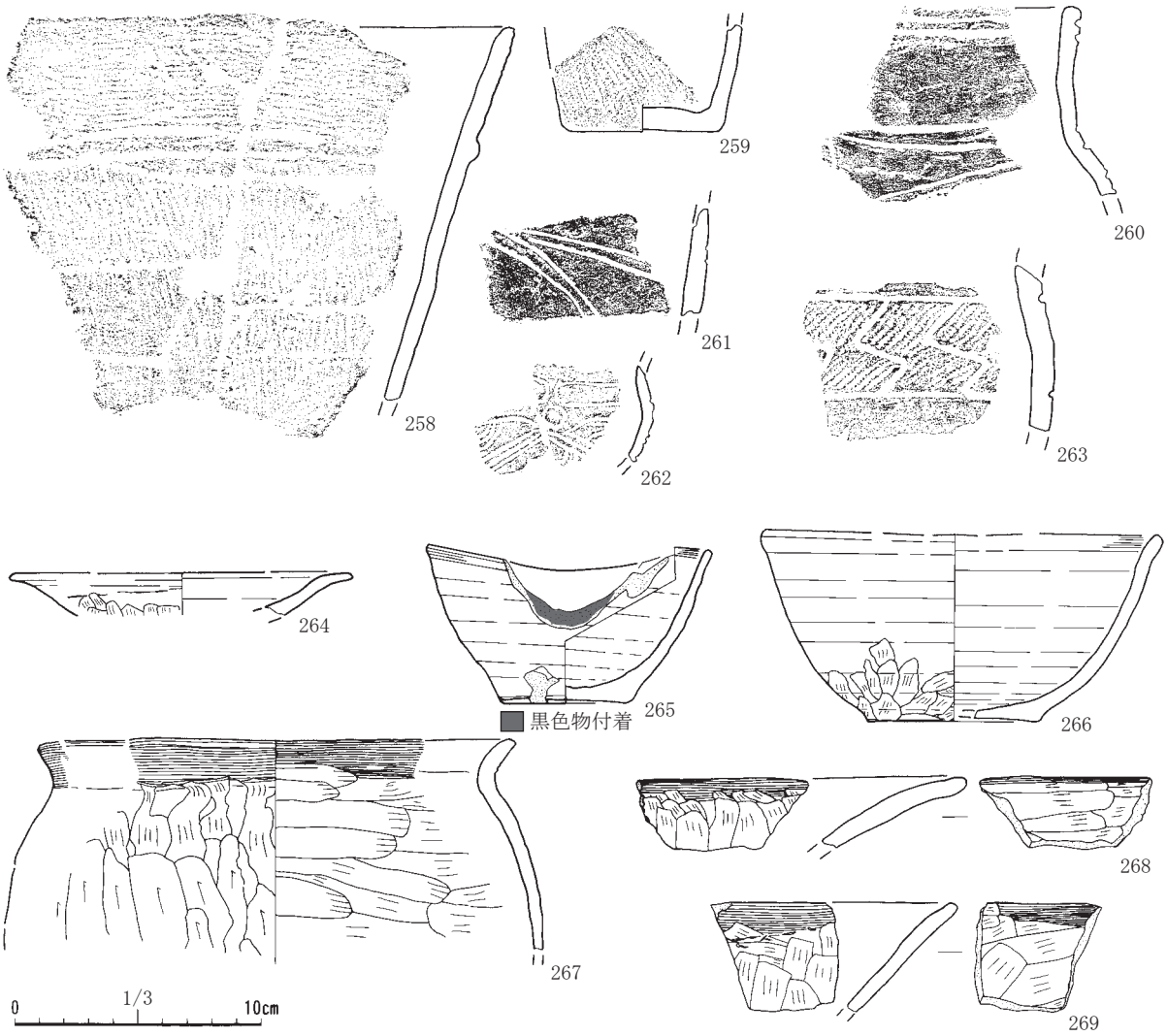


図143　遺構外　出土遺物(1)

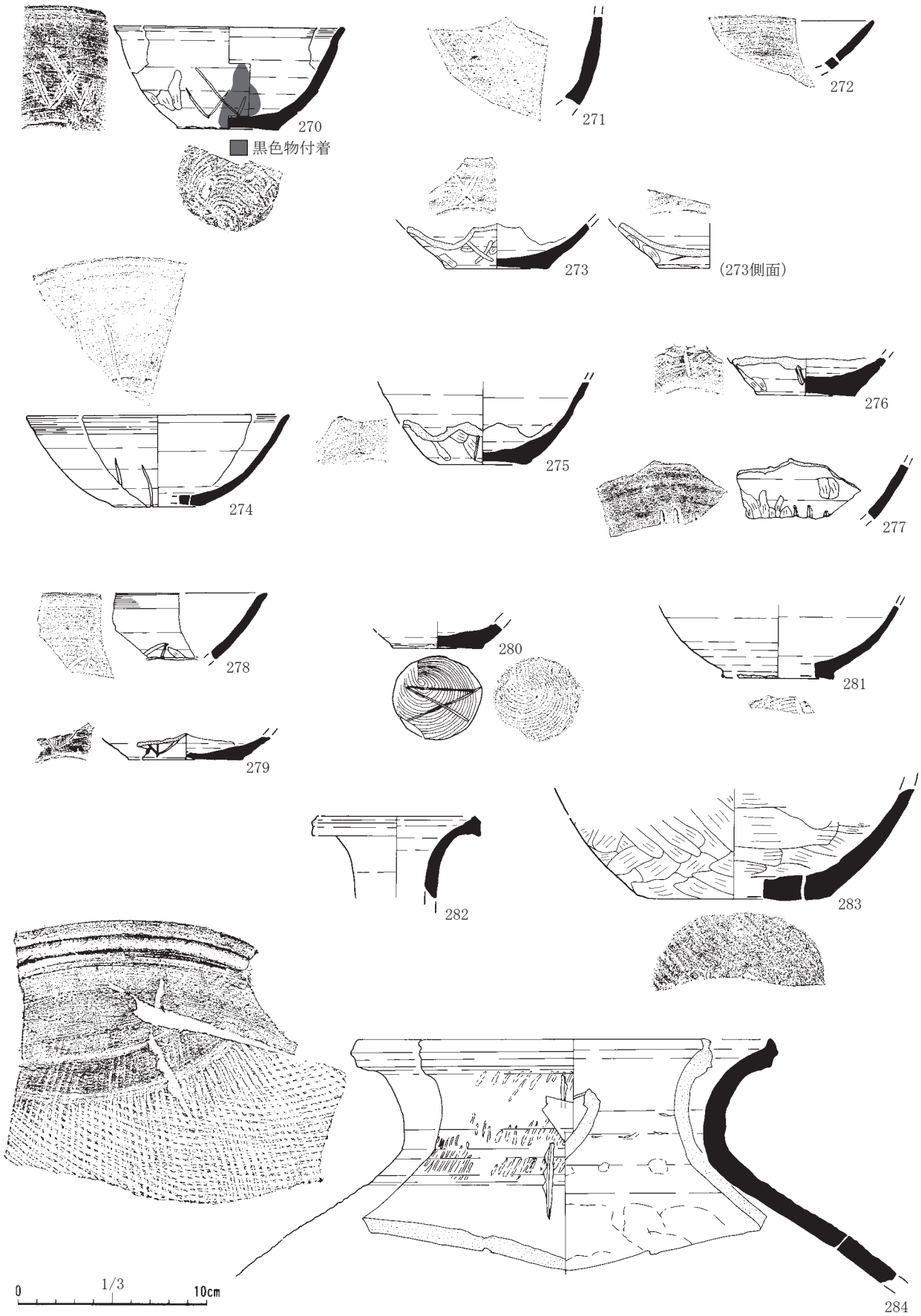


図144　遺構外　出土遺物(2)

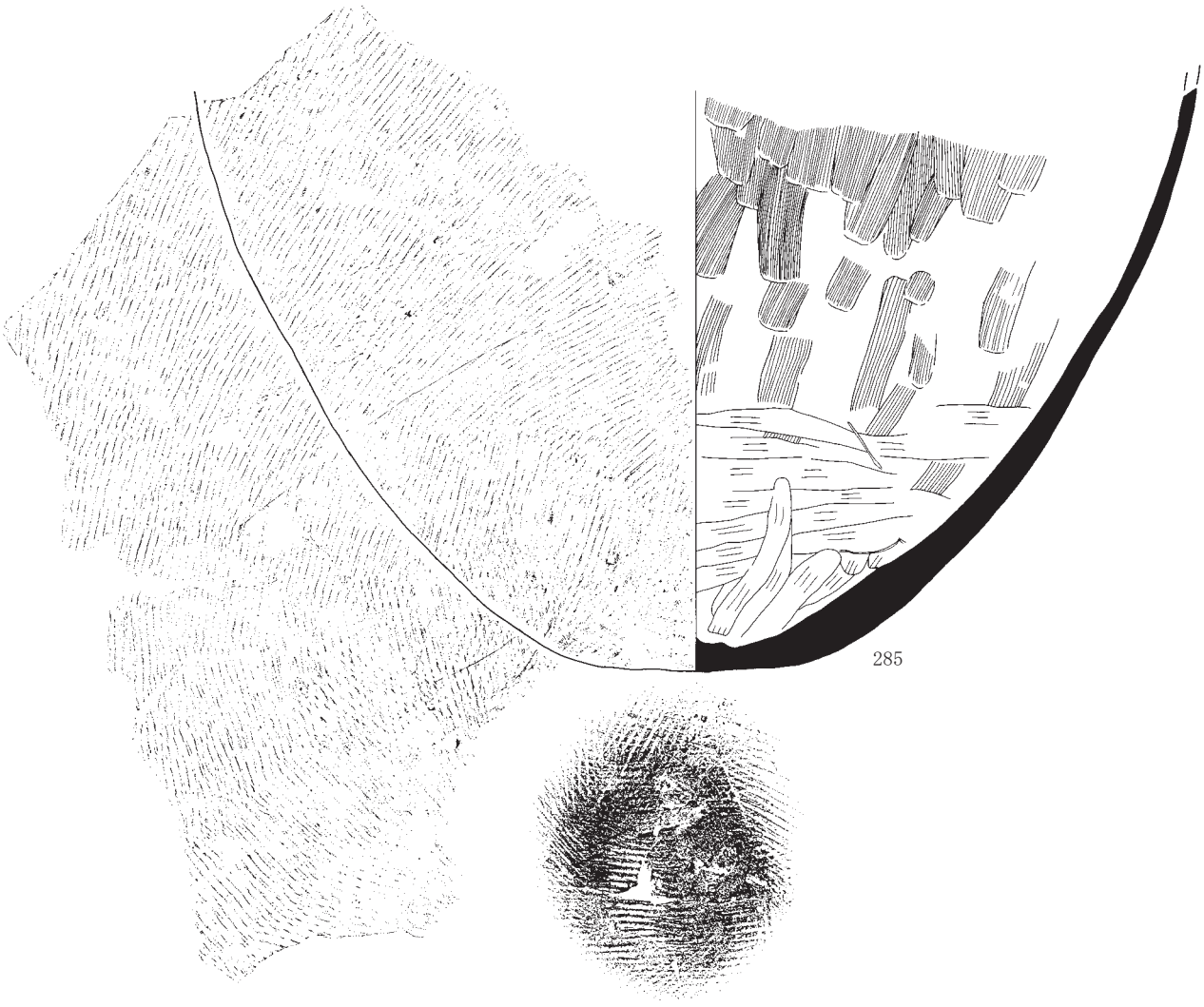


図145　遺構外　出土遺物(3)

３　遺物観察表

表25　農道24号W区　土器観察表

図番号	遺物番号	遺構名	出土位置・層位等	種類	器種	部位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	外面調整(文様)	内面調整(文様)	備考(底面調整)	時期
119	1	WSI01	掘り方	土師器	甕	口縁部	-	-	-	横ナデ、ヘラケズリ	ナデ、横ナデ		平安時代
119	2	WSI02	床面P9	土師器	甕	口縁部	-	-	-	ロクロ	ロクロ		平安時代
119	3	WSI02	24-64 覆土	土師器	甕	口縁部	-	-	-	横ナデ、ヘラナデ	ナデ、横ナデ		平安時代
119	4	WSI02	WSI02壁溝覆土P1、WSI02周辺、24-63 撹乱	土師器	甕	底部	-	7.6	(3.6)	ヘラケズリ、ナデ	ロクロ	底外面オサエ。	平安時代
119	5	WSI02	床面P6	土師器	甕	底部	-	10.0	(3.0)	ヘラケズリ	指ナデ	底外面砂底。	平安時代
119	6	WSI02	WSI02覆土P4、WSK042層P4、24-63 Ⅰ層	土師器	甕	底部	-	(9.4)	(7.6)	輪積痕、指ナデ、ナデ	ヘラケズリ、ヘラナデ	底外面砂底、ナデ。外面焼土付着。	平安時代
119	7	WSI02	床面直上P2、WSI02周辺、24-63 撹乱	須恵器	坏	略完形	(13.8)	4.4	5.3	ロクロ	ロクロ	底外面回転糸切。外面刻書あり。	平安時代
119	8	WSI02	覆土P3	須恵器	坏	体部下半	-	5.4	(4.0)	ロクロ	ロクロ	底外面回転糸切、ヘラケズリ。外面刻書あり。	平安時代
119	9	WSI02	床面周辺P5・10、24-63 撹乱	須恵器	坏	略完形	(13.6)	5.1	5.5	ロクロ、ナデ	ロクロ	底外面回転糸切、刻書あり。	平安時代
119	10	WSI03a	覆土	土師器?	坏	口縁部	(12.2)	-	(4.8)	ロクロ	ロクロ		平安時代
119	11	WSI03a	覆土	土師器	坏	底部	-	5.0	(2.1)	ロクロ	ロクロ	底外面遅い回転糸切。	平安時代
119	12	WSI03a	覆土	土師器	小甕	口縁部	(9.2)	-	(3.3)	横ナデ、ヘラナデ	横ナデ、ナデ		平安時代
119	13	WSI03a	覆土	土師器	小甕	口縁部	(11.0)	-	(5.0)	横ナデ、ヘラナデ	ナデ、横ナデ		平安時代
119	14	WSI03a	覆土	土師器	甕	口縁部	(13.2)	-	(6.9)	横ナデ、ヘラナデ、ヘラケズリ	ナデ、横ナデ	内外面磨減。	平安時代
119	15	WSI03a	覆土	土師器	甕	口縁部	-	-	-	ロクロ	ロクロ		平安時代
119	16	WSI03a	床面	土師器	甕	口縁部	-	-	-	横ナデ、ヘラナデ	ナデ?、横ナデ	内面磨減。	平安時代
119	17	WSI03a	覆土	土師器	甕	口縁部	(21.9)	-	(8.9)	オサエ、ナデ、ヘラナデ	ヘラケズリ、ナデ		平安時代
119	18	WSI03a	覆土	須恵器	坏	略完形	12.1	4.3	5.4	ロクロ、ナデ	ロクロ	底外面回転糸切。外面刻書あり。	平安時代
119	19	WSI03	Pit1 1層P1	須恵器	坏	底部	-	5.5	(2.5)	ナデ	ロクロ	底外面回転糸切。外面刻書あり。	平安時代
119	20	WSI03a	覆土	須恵器	壺	口縁部	-	-	-	ロクロ	ロクロ		平安時代
119	21	WSI03a	床面P1	須恵器	壺	体部下半	-	6.1	(7.9)	ロクロ、ヘラナデ	ロクロ	底外面ヘラナデ。	平安時代
119	22	WSI03	床面	縄文土器	深鉢	口縁部	-	-	-	LLR?縦回転、隆帯上に押圧?、RRL?横回転	(磨滅)	胎土に植物繊維多量混入。22・23同一個体。	縄文時代前期中葉(円筒下層ｂ式)
119	23	WSI03	床面	縄文土器	深鉢	口縁部	-	-	-	LLR?縦回転、隆帯上に押圧?、RRL?横回転	(磨滅)	胎土に植物繊維多量混入。22・23同一個体。	縄文時代前期中葉(円筒下層ｂ式)
119	24	WSI03a	掘り方	縄文土器	深鉢	口縁部	-	-	-	LLR?縦回転、隆帯	ミガキ	胎土に植物繊維多量混入。	縄文時代前期中葉(円筒下層ｂ式)
120	25	WSI04	覆土	土師器	坏	略完形	(11.5)	(5.5)	5.8	ロクロ	ロクロ	底外面回転糸切。	平安時代
120	26	WSI04	覆土	土師器	小甕	口縁部	(17.2)	-	(5.0)	横ナデ、ヘラナデ	ナデ、横ナデ		平安時代
120	27	WSI04	確認面	土師器	甕	体部上半	(17.8)	-	(13.4)	横ナデ、ヘラナデ	ナデ、指ナデ		平安時代
120	28	WSI04	覆土	土師器	甕	体部下半	-	8.0	(13.5)	ヘラケズリ	ナデ、指ナデ	底外面ナデ。	平安時代
120	29	WSI04	カマド覆土	須恵器	坏	胴部	-	-	-	ロクロ	ロクロ	外面刻書あり。	平安時代
120	30(上)	WSI04	覆土、24-69確認面、24-68 Ⅰ層	須恵器	壺	頸部～肩部	-	-	-	ロクロ	ロクロ	頸部隆帯あり。同一個体の３破片で図上復元。	平安時代
120	30(下)	WSI04	覆土、24-69確認面、WSK49 覆土	須恵器	壺	胴部	-	-	-	ロクロ	ロクロ	外面刻書あり。同一個体の３破片で図上復元。	平安時代

図番号	遺物番号	遺構名	出土位置・層位等	種類	器種	部位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	外面調整(文様)	内面調整(文様)	備考(底面調整)	時期
120	30(同一)	WSI04	24-69 覆土確認面	須恵器	壺	頸部～肩部	-	-	(12.5)	ロクロ	ロクロ	頸部隆帯あり。同一個体の3破片で図上復元。	平安時代
120	31	WSI04	24-69 確認面	須恵器	壺	底部	-	9.0	(5.2)	ヘラケズリ	ロクロ、指ナデ	底外面ヘラナデ。	平安時代
120	33	WSI04b	掘り方	土師器	坏	体部上半	(13.2)	-	(5.6)	ロクロ	ロクロ		平安時代
120	34	WSI04b	掘り方	土師器	坏	体部下半	-	5.6	4.4	ロクロ	ロクロ	底外面回転糸切。	平安時代
120	35	WSI04b	掘り方、WSI04 覆土	須恵器	甕	胴部	-	-	-	タタキ	オサエ、ナデ		平安時代
121	36	WSI05	覆土	土師器	小甕	口縁部	(13.7)	-	(4.0)	横ナデ、ヘラナデ	輪積痕、ナデ、横ナデ		平安時代
121	37	WSI05	覆土	土師器	小甕	口縁部	-	-	-	輪積痕、ロクロ	輪積痕、ロクロ		平安時代
121	38	WSI05	覆土	土師器	甕	口縁部	-	-	-	横ナデ、ヘラケズリ、ヘラナデ	ナデ、横ナデ		平安時代
121	39	WSI05	試掘Tr65内SI、24-68 Ⅰ層	土師器	甕	略完形	(22.3)	(6.8)	27.8	横ナデ、ヘラナデ、ヘラケズリ	指ナデ、ヘラナデ、横ナデ、ナデ	底外面ヘラナデ。平成24年度試掘遺物と接合した。	平安時代
121	40	WSI05	覆土	縄文土器	鉢	口縁部	-	-	-	L側面圧痕、単軸絡条体(R)回転	ナデ	胎土に植物繊維微量混入。40～43同一個体。	縄文時代前期後葉(円筒下層d1式)
121	41	WSI05	覆土	縄文土器	鉢	口縁部	-	-	-	L側面圧痕、単軸絡条体(R)回転	ナデ	胎土に植物繊維微量混入。40～43同一個体。	縄文時代前期後葉(円筒下層d1式)
121	42	WSI05	覆土	縄文土器	鉢	口縁部	-	-	-	L側面圧痕、単軸絡条体(R)回転	ナデ	胎土に植物繊維微量混入。40～43同一個体。	縄文時代前期後葉(円筒下層d1式)
121	43	WSI05	覆土	縄文土器	鉢	胴部	-	-	-	単軸絡条体(R)回転	ナデ	胎土に植物繊維微量混入。40～43同一個体。	縄文時代前期後葉(円筒下層d1式)
121	44	WSI05	覆土	縄文土器	深鉢	口縁部	-	-	-	単軸絡条体第1類側面圧痕	ナデ	胎土に植物繊維混入。波状口縁。	縄文時代前期中葉～後葉(円筒下層c～d式)
121	45	WSI05	覆土	縄文土器	深鉢	口縁部	-	-	-	L側面圧痕、LR側面圧痕、結束第1種(RL･LR)回転、条痕	ミガキ	胎土に植物繊維少量混入。	縄文時代前期後葉(円筒下層d1式)
121	46	WSI05	覆土	縄文土器	深鉢	胴部	-	-	-	附加条(L)横回転?	ナデ?(磨滅)	胎土に植物繊維微量混入。	縄文時代前期後半
121	47	WSI05	覆土	縄文土器	鉢	口縁部	-	-	-	条痕	オサエ、ナデ	胎土に植物繊維微量混入。焼成前の貫通孔あり。47～49同一個体。	縄文時代前期後半
121	48	WSI05	覆土	縄文土器	鉢	胴部	-	-	-	条痕	オサエ、ナデ	胎土に植物繊維微量混入。47～49同一個体。	縄文時代前期後半
121	49	WSI05	覆土	縄文土器	鉢	胴部	-	-	-	条痕	オサエ、ナデ	胎土に植物繊維微量混入。47～49同一個体。	縄文時代前期後半
122	50	WSI06	覆土	土師器	小坏	略完形	(6.8)	(3.8)	2.5	オサエ、ナデ	オサエ、ナデ	底外面オサエ、ナデ	平安時代
122	51	WSI06	覆土	土師器	皿?	略完形	(12.7)	4.4	3.9	ロクロ	ロクロ	底外面回転糸切。	平安時代
122	52	WSI06	覆土	土師器	小甕	口縁部	-	-	-	横ナデ、ヘラケズリ	ナデ、横ナデ		平安時代
122	53	WSI06	カマド北袖	土師器	甕	口縁部	(22.0)	-	(5.6)	横ナデ、ヘラケズリ	輪積痕、ナデ、横ナデ		平安時代
122	54	WSI06	カマド火床面	土師器	甕	口縁部	-	-	-	横ナデ、ヘラケズリ、ヘラナデ?	輪積痕、ナデ、横ナデ		平安時代
122	55	WSI06	覆土	土師器	甕	底部	-	7.6	(7.25)	オサエ、ヘラケズリ、ヘラナデ	ヘラナデ、指ナデ	底外面オサエ、ナデ	平安時代
122	57	WSI07	カマド煙道覆土	土師器	甕	口縁部	-	-	-	横ナデ、ヘラケズリ	ナデ、横ナデ		平安時代
122	58	WSI07	カマド周辺覆土	土師器	甕	口縁部	-	-	-	横ナデ、ヘラナデ	ヘラナデ、ナデ、横ナデ		平安時代
122	59	WSI07付近	24-62 確認面	土師器	甕	口縁部	-	-	-	横ナデ、ヘラナデ	ナデ、横ナデ		平安時代

図番号	遺物番号	遺構名	出土位置・層位等	種類	器種	部位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	外面調整(文様)	内面調整(文様)	備考(底面調整)	時期
122	60	WSI07	覆土P1	土師器	ミニチュア壺	完形	2.0	2.6	3.6	オサエ、ナデ	オサエ	底外面オサエ。	平安時代
122	61	WSI07	床面直上P2	須恵器	坏	略完形	11.7	4.8	5.4	ロクロ	ロクロ	底外面回転糸切。外面刻書あり。	平安時代
123	62	WSI08	カマド火床面	土師器	小甕	口縁部	(12.3)	-	(6.4)	横ナデ、ヘラナデ	輪積痕、ナデ、横ナデ		平安時代
123	63	WSI08	カマド火床面(WSI08)、WSK25覆土	土師器	甕	底面	-	(7.45)	(0.9)	ヘラナデ	指ナデ	底外面菰編痕。	平安時代
123	64	WSI08	カマド北側壁溝 覆土	土師器	甕	口縁部	-	-	-	輪積痕、横ナデ?、ヘラナデ?	ナデ、横ナデ	内外面磨減。	平安時代
123	65	WSI08	カマド付近覆土	須恵器	甕	胴部	-	-	-	タタキ	あて具痕?、ナデ		平安時代
123	66	WSI08	カマド煙道覆土	須恵器	甕	胴部	-	-	-	タタキ	あて具痕、ナデ		平安時代
123	67	WSI08	旧カマド覆土	土師器	小甕	口縁部	(14.0)	-	(8.9)	横ナデ、ヘラナデ	ナデ、横ナデ		平安時代
123	68	WSI08	旧カマド復土	土師器	甕	底部	-	8.0	(3.55)	ヘラケズリ	指ナデ、ナデ	底外面砂底、ナデ。	平安時代
123	69	WSI08	掘り方	土師器	甕	底部	-	7.5	(2.5)	ヘラケズリ	指ナデ	底外面ヘラナデ。外面磨減。	平安時代
123	70	WSI08	旧カマド覆土	土師器	甕	底部	-	8.2	(3.9)	ヘラナデ	指ナデ	底外面ナデ。	平安時代
123	71	WSI08	下の火床面(3枚目)掘り方	土師器	甕	底部	-	7.0	(8.2)	平滑なナデ	ナデ	底外面ナデ。	平安時代
123	72	WSI08	下の火床面、カマド覆土	土師器	甕	底部	-	7.6	(10.5)	ヘラケズリ、ナデ	指ナデ、ナデ	底外面ナデ、剥落。	平安時代
124	73	WSI09	カマド南側覆土、カマド覆土	土師器	小甕	体部上半	(12.0)	-	(11.7)	輪積痕、横ナデ、ナデ	輪積痕、ナデ、横ナデ	内外面磨減。	平安時代
124	74	WSI09	カマド覆土	土師器	甕	口縁部	(17.8)	-	(10.7)	横ナデ、ヘラナデ	ナデ、横ナデ	外面焼土付着。	平安時代
124	75	WSI09	カマド火床面直上、カマド覆土	土師器	甕	体部上半	(25.8)	-	(17.3)	横ナデ、ヘラナデ、ヘラケズリ	輪積痕、ナデ、横ナデ		平安時代
124	76	WSI09	カマド火床面P1	土師器	甕	底部	-	7.2	(5.8)	ヘラナデ	指ナデ、ナデ	底外面ナデ。	平安時代
124	77	WSI10	床面	須恵器	甕	胴部	-	-	-	タタキ	ナデ、ヘラナデ		平安時代
124	78	WSI12	掘り方	須恵器	甕	胴部	-	-	-	タタキ	ナデ		平安時代
124	79	WSI13	覆土	須恵器	甕	胴部	-	-	-	タタキ	あて具痕、ナデ		平安時代
124	80	WSI14	N24-71 覆土P1	土師器	坏	略完形	13.1	6.6	5.2	ロクロ	ロクロ	底外面回転糸切。外面に墨書「土」あり。	平安時代
125	81	WSK04	確認面	土師器	浅坏?	略完形	(11.0)	5.0	(3.6)	ナデ	ナデ	底外面ナデ。	平安時代
125	82	WSK04	確認面	土師器	甕	口縁部	(22.6)	-	(10.7)	横ナデ、ヘラナデ	ヘラナデ、横ナデ	内面磨減。82・83同一個体。	平安時代
125	83	WSK04	覆土、確認面	土師器	甕	体部下半	-	(7.0)	(15.6)	ヘラナデ	指ナデ、ナデ	底外面ナデ。外面焼土付着。82・83同一個体。	平安時代
125	84	WSK04	2層P3	須恵器	坏	底部	-	(4.7)	(2.1)	ロクロ	ロクロ	底外面回転糸切。外面刻書あり。	平安時代
125	85	WSK04	覆土	須恵器	坏	胴部下半	-	-	-	ロクロ	ロクロ	外面刻書あり。	平安時代
125	86	WSK05	覆土、底面直上	土師器	甕	口縁部	-	-	-	横ナデ、ヘラケズリ	ナデ、横ナデ		平安時代
125	87	WSK05	確認面P1、覆土	須恵器	壺	体部上半	(11.4)	-	(16.2)	ロクロ、ヘラナデ	ロクロ	外面肩部に刻書あり。	平安時代
125	88	WSK06	3層P47	土師器	坏	略完形	(14.0)	6.5	4.9	ロクロ、ナデ	輪積痕、ミガキ	内外面磨減。底外面刻書?	平安時代
125	89	WSK06	2層P1、覆土	土師器	坏	略完形	(14.4)	(6.6)	5.4	ロクロ、ナデ	ミガキ、黒色処理		平安時代
125	90	WSK06	覆土	土師器	坏	略完形	(12.0)	(6.1)	5.4	ロクロ	ロクロ	底外面回転糸切。歪み顕著。	平安時代
125	91	WSK06	覆土	土師器	坏	体部上半	(14.0)	-	6.4	ロクロ	ロクロ		平安時代
125	92	WSK06	2層P13・28、覆土	土師器	鉢	体部上半	(15.0)	-	(7.8)	ロクロ、ヘラナデ	ロクロ		平安時代
125	93	WSK06	2層P10、覆土	土師器	鉢	略完形	10.4	5.6	8.6	ロクロ	ロクロ	底外面回転糸切。	平安時代

図番号	遺物番号	遺構名	出土位置・層位等	種類	器種	部位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	外面調整(文様)	内面調整(文様)	備考(底面調整)	時期
125	94	WSK06	2層P9	土師器	鉢	略完形	11.6	5.4	8.9	ロクロ	ロクロ	底外回転糸切。外面全体と内面口縁に炭化物付着。	平安時代
126	95	WSK06	2層P15	土師器	小甕	体部上半	(13.8)	-	(8.7)	ロクロ、ヘラナデ、ヘラケズリ	ロクロ、ナデ		平安時代
126	96	WSK06	2層P26・30	土師器	小甕	体部上半	13.2	-	(8.2)	ロクロ、ヘラナデ	ロクロ、ナデ		平安時代
126	97	WSK06	2層P39、覆土、底面直上	土師器	小甕	体部上半	(13.2)	-	(11.5)	輪積痕、ロクロ、ヘラケズリ	ロクロ		平安時代
126	98	WSK06	2層P7・14・17・23・46、覆土	土師器	甕	体部上半	(23.4)	-	(21.8)	輪積痕、ロクロ、ナデ	輪積痕、ナデ、ロクロ	98同一個体。	平安時代
126	98(同一)	WSK06	2層P4・34、覆土	土師器	甕	口縁部	-	-	-			98同一個体。	平安時代
126	99	WSK06	2層P3・6	土師器	甕	口縁部	-	-	-	ロクロ、ヘラケズリ	ヘラナデ、横ナデ		平安時代
126	100	WSK06	2層P14、WSK25覆土	土師器	甕	底部	-	(10.6)	(7.5)	輪積痕、ヘラケズリ	指ナデ、ナデ		平安時代
126	101	WSK06	覆土、2層P2・20、WSK25覆土	土師器	甕	体部下半	-	10.2	(14.9)	ヘラケズリ、ヘラナデ	ヘラナデ、指ナデ	底外面ヘラナデ。	平安時代
126	102	WSK06	2層P37・45、覆土	須恵器?	坏	略完形	(14.0)	5.4	5.5	ロクロ	ロクロ	底外面回転糸切。外面刻書あり。	平安時代
126	103	WSK06	1層P22	須恵器	大甕	口縁部	-	-	-	タタキ、ロクロ	ロクロ		平安時代
126	104	WSK06	覆土	須恵器	壺	胴部	-	-	-	ロクロ、ヘラナデ	輪積痕、ロクロ、ナデ		平安時代
127	105	WSK09	覆土	土師器	ﾐﾆﾁｭｱ甕	略完形	6.8	4.4	6.6	オサエ、ナデ	オサエ、ナデ	底外面ヘラナデ。	平安時代
127	106	WSK09	覆土	土師器	皿	略完形	(16.2)	(6.7)	3.6	ロクロ	ロクロ	底外面回転糸切。	平安時代
127	107	WSK09	覆土	土師器	小甕	体部上半	(13.1)	-	(12.1)	横ナデ、ヘラナデ	ヘラナデ、ナデ、横ナデ	外面磨滅。	平安時代
127	108	WSK11	覆土	土師器	小甕	口縁部	(14.0)	-	(4.8)	輪積痕、横ナデ、ヘラナデ	輪積痕、ナデ、横ナデ	歪みあり。	平安時代
127	109	WSK11	覆土	土師器	甕	体部上半	(22.8)	-	(14.3)	横ナデ、ヘラケズリ	ヘラナデ、ナデ、横ナデ		平安時代
127	110	WSK11	覆土	須恵器	坏	体部上半	(12.1)	-	(4.1)	ロクロ	ロクロ		平安時代
127	111	WSK11	覆土	須恵器	坏(転用硯)	底部	-	5.1	(1.7)	ロクロ、ナデ、指ｱﾄ	ロクロ	底内面スリ顕著。	平安時代
127	112	WSK11	覆土	須恵器	壺	底部	-	(10.8)	(8.2)	ナデ、ヘラケズリ、ヘラナデ	ナデ、ロクロ	底外面菊花状調整。	平安時代
127	113	WSK11	覆土	須恵器	大甕	胴部	-	-	-	タタキ	あて具痕、ナデ		平安時代
127	114	WSK11	覆土上位	須恵器	大甕	口頸部	(57.0)	-	(15.5)	ロクロ、タタキ	ロクロ、ナデ		平安時代
128	115	WSK12	覆土	土師器	甕	口縁部	(20.4)	-	(7.5)	横ナデ、ヘラケズリ	ヘラケズリ、ナデ、横ナデ		平安時代
128	116	WSK13	底面	縄文土器	鉢	口頸部	-	-	-	沈線、RL斜回転	沈線	口唇に沈線、波状口縁。	縄文時代晩期中葉(大洞C2式)
128	117	WSK14	覆土	縄文土器	深鉢	胴部	-	-	-	RLR横回転?	ミガキ	胎土に植物繊維多量混入。	縄文時代前期中葉(円筒下層b式?)
128	119	WSK16	覆土	土師器	甕	底部	-	(11.1)	(4.9)	ヘラケズリ	ヘラナデ、ナデ	底外面砂底。	平安時代
128	120	WSK16	覆土	土師器	製塩土器?	胴部	-	-	-	輪積痕、ナデ	ナデ		平安時代
128	121	WSK17	覆土	須恵器	甕	胴部	-	-	-	タタキ	ナデ		平安時代
128	122	WSK18	覆土	土師器	小甕	口縁部	(12.8)	-	(4.85)	輪積痕、横ナデ、ヘラナデ	ナデ、横ナデ	内面剥落。	平安時代
128	123	WSK18	覆土	須恵器	甕	胴部	-	-	-	タタキ	ナデ		平安時代
128	124	WSK19	覆土	縄文土器	深鉢	頸部	-	-	-	刺突列、RLR?縦回転	ミガキ	胎土に植物繊維混入。	縄文時代前期後半
128	125	WSK22	覆土	縄文土器	深鉢	胴部	-	-	-	RLR?斜回転	ミガキ	胎土に植物繊維混入。	縄文時代前期後半
128	126	WSK24	覆土	土師器	甕	口縁部	-	-	-	横ナデ、ヘラナデ	ナデ、横ナデ		平安時代
128	127	WSK24	覆土	縄文土器	深鉢	口縁部	-	-	-	沈線	ナデ	波状口縁。	縄文時代後期前葉(十腰内Ⅰ式)
128	128	WSK26	覆土、24-62確認面(WSI07付近)、24-62 Ⅰ層	須恵器	壺	体部上半	12.6	-	(18.2)	輪積痕、ロクロ、ヘラナデ	ロクロ、ナデ	外面頸部に刻書あり。	平安時代
129	129	WSK25	覆土	土師器	小坏	略完形	(6.9)	(4.0)	5.2	オサエ、ヘラナデ	オサエ、ナデ	底外面ヘラナデ。	平安時代

図番号	遺物番号	遺構名	出土位置・層位等	種類	器種	部位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	外面調整(文様)	内面調整(文様)	備考(底面調整)	時期
129	130	WSK25	覆土	土師器	小坏	体部上半	(5.8)	-	(4.5)	ヘラナデ	指ナデ		平安時代
129	131	WSK25	底面直上	土師器	小甕	口縁部	(9.9)	-	(3.6)	横ナデ、ヘラナデ	ナデ、横ナデ		平安時代
129	132	WSK25	底面直上	土師器	鉢?	口縁部	-	-	-	横ナデ、ヘラナデ	ナデ、横ナデ		平安時代
129	133	WSK25	覆土	土師器	小甕	口縁部	15.0	-	(6.0)	ロクロ、ヘラナデ、ヘラケズリ	輪積痕、ロクロ		平安時代
129	134	WSK25	覆土	土師器	小甕	体部上半	(13.7)	-	(14.3)	横ナデ、ヘラケズリ	ナデ、横ナデ	134・135同一個体。	平安時代
129	135	WSK25	覆土	土師器	小甕	体部下半	-	(7.0)	(12.8)	ヘラケズリ	ナデ	底外面ヘラナデ。134・135同一個体。	平安時代
129	136	WSK25	覆土	土師器	甕	体部上半	(15.8)	-	(26.8)	横ナデ、ヘラケズリ、ヘラナデ	輪積痕、ナデ、横ナデ		平安時代
129	137	WSK25	覆土、N24-63 Ⅰ層	土師器	甕	口縁部	(22.0)	-	(7.6)	輪積痕、ロクロ、ヘラケズリ	ロクロ、ナデ		平安時代
129	138	WSK25	底面直上	土師器	甕	口縁部	(20.0)	-	(12.5)	輪積痕、タタキ、ロクロ	輪積痕、ナデ、横ナデ		平安時代
129	139	WSK25	底面直上	須恵器?	坏	体部上半	(12.6)	-	(5.3)	ロクロ	ロクロ		平安時代
129	140	WSK25	覆土	須恵器	坏	底部	-	(5.9)	(3.9)	ロクロ	ロクロ	底外面回転糸切。外面刻書あり。	平安時代
129	141	WSK25	覆土	須恵器	坏	略完形	(12.3)	(4.8)	6.1	ロクロ	ロクロ	底外面回転糸切。外面刻書あり。	平安時代
129	142	WSK25	底面直上、WSK36覆土	須恵器	広口壺	口縁部	(14.2)	-	(3.6)	ロクロ	ロクロ		平安時代
129	143	WSK25	底面直上	須恵器	壺	口縁部	(6.6)	-	(2.2)	ロクロ	ロクロ		平安時代
129	144	WSK25	覆土	須恵器	壺	胴部	-	-	-	タタキ、ナデ、ヘラナデ	輪積痕、ナデ		平安時代
129	145	WSK25	覆土	須恵器	大甕	胴部	-	-	-	タタキ	あて具痕、ナデ		平安時代
130	147	WSK34	覆土	土師器	甕	口縁部	(18.0)	-	(9.5)	横ナデ、ヘラナデ	ナデ、横ナデ	内面磨滅。	平安時代
130	148	WSK34	覆土	土師器	甕	口縁部	(23.4)	-	(12.8)	横ナデ、ヘラナデ	ヘラナデ、ナデ、横ナデ		平安時代
130	149	WSK34	覆土	土師器	甕	体部上半	(19.8)	-	(18.3)	横ナデ、ヘラナデ	ナデ、横ナデ		平安時代
130	150	WSK34	覆土	土師器	甕	体部下半	-	6.1	(16.5)	ヘラナデ	ナデ	底外面オサエ、ナデ。外面焼土付着。	平安時代
130	151	WSK34	覆土	土師器	甕	底部	-	5.8	(5.9)	ヘラナデ	ナデ	底外面ヘラナデ。	平安時代
130	152	WSK34	覆土	土師器	甕	底部	-	7.6	(6.0)	ヘラケズリ	輪積痕、指ナデ、ナデ	底外面菰編痕。	平安時代
130	153	WSK34	覆土	須恵器	広口壺	口頸部	(15.6)	-	(5.6)	ロクロ	ロクロ、ナデ	外面刻書あり。	平安時代
131	155	WSK36	覆土、WSK25覆土	土師器	甕	口縁部	(21.6)	-	(7.4)	横ナデ、ヘラナデ	ヘラナデ、ナデ、横ナデ		平安時代
131	156	WSK36	覆土、WSK25覆土	土師器	甕	底部	-	9.9	(9.9)	ヘラナデ、ヘラケズリ	ヘラナデ	底外面ナデ。	平安時代
131	157	WSK36	覆土、WSK25覆土	須恵器	坏	略完形	(13.7)	5.0	5.6	ロクロ	ロクロ	底外面回転糸切。底内面に重ね焼きの溶着痕あり。	平安時代
131	158	WSK36	覆土	須恵器	坏	体部下半	-	5.1	(5.3)	ロクロ	ロクロ	底外面回転糸切。外面刻書あり。	平安時代
131	159	WSK36	底面	須恵器	大甕	胴部	-	-	-	タタキ	オサエ、ナデ		平安時代
131	160	WSK38	底面直上	縄文土器	深鉢	略完形	(14.0)	9.5	28.3	RL側面圧痕(縦位区画6単位)、附加条(RLにLRを附加)	ミガキ	胎土に植物繊維混入。	縄文時代前期中葉(円筒下層c式)
131	161	WSK41	覆土	土師器	鉢?	底部	-	4.3	(2.1)	オサエ、ヘラナデ	オサエ、ナデ	底外面オサエ、ヘラナデ。内面炭化物付着。	平安時代
131	162	WSK41	覆土	土師器	小甕	口縁部	(15.2)	-	(4.3)	輪積痕、横ナデ、ヘラナデ	輪積痕、ナデ、横ナデ		平安時代
131	163	WSK44	覆土	須恵器	甕	口頸部	(20.0)	-	(6.3)	ロクロ	ロクロ、ナデ		平安時代
131	164	WSK45	覆土下位P1	須恵器	小壺	完形	4.0	3.6	6.4	ロクロ、ナデ、刻書	ロクロ、指ナデ	底外面回転糸切。酸化焼成。	平安時代
132	165	WSK53	覆土(WSK53)、WSD14覆土、24-60 Ⅰ層	土師器	甕	体部上半	(21.0)	-	(19.2)	横ナデ、ヘラナデ	ナデ、ヘラナデ、横ナデ	外面焼土付着。	平安時代

図番号	遺物番号	遺構名	出土位置・層位等	種類	器種	部位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	外面調整(文様)	内面調整(文様)	備考(底面調整)	時期
132	166	WSK53	覆土	須恵器	壺	胴部	-	-	-	ロクロ、ヘラケズリ、ヘラナデ			平安時代
132	167	WSK53	覆土	須恵器	壺?	胴部下半	-	-	-	輪積痕、ロクロ、ナデ、タタキ様圧痕	輪積痕、ナデ		平安時代
132	168	WSK54	覆土、WSI07カマド周辺	土師器	坏	略完形	11.6	5.2	6.3	輪積痕、ヘラナデ	ナデ、横ナデ	底外面ナデ?爪痕?	平安時代
132	169	WSP01	覆土	須恵器	坏	口縁部	(11.0)	-	(4.7)	ロクロ	ロクロ		平安時代
132	170	WSP01	覆土	須恵器	甕	胴部	-	-	-	タタキ	ナデ		平安時代
132	171	WSP01	覆土	縄文土器	深鉢	口縁部	-	-	-	LR側面圧痕、単軸絡条体第1類R横回転	ミガキ	胎土に植物繊維少量混入。	縄文時代前期中葉(円筒下層ｂ～ｃ式)
133	172	WSD01	24-70 確認面	土師器	坏	体部上半	(15.4)	-	(6.2)	ロクロ、ナデ	ロクロ、ナデ		平安時代
133	173	WSD01	北半覆土	土師器	坏	体部上半	(11.8)	-	(4.1)	オサエ、ナデ	ナデ		平安時代
133	174	WSD01	WSD01周辺、24-65 確認面	土師器	坏	底部	-	4.8	(2.8)	ヘラナデ	ナデ	底外面オサエ、ナデ。	平安時代
133	175	WSD01	北半覆土	土師器	小甕	口縁部	(10.0)	-	(3.9)	ロクロ、ヘラナデ?	ロクロ	内外面磨滅。	平安時代
133	176	WSD01	北半覆土	土師器	小甕	口縁部	(12.7)	-	(6.8)	ロクロ	ロクロ		平安時代
133	177	WSD01	南半覆土	土師器	甕	口縁部	(19.6)	-	(9.3)	横ナデ、ヘラナデ	ナデ、横ナデ		平安時代
133	178	WSD01	北半覆土	土師器	甕	口縁部	(21.6)	-	(7.9)	輪積痕、タタキ、ロクロ	輪積痕、ロクロ		平安時代
133	179	WSD01	底面P46	土師器	甕	口縁部	(27.8)	-	(13.7)	ロクロ、ヘラナデ、ヘラケズリ	ヘラナデ、ロクロ、横ナデ		平安時代
133	180	WSD01	底面直上P26、北半覆土、南半覆土、24-64 Ⅰ層	土師器	甕	底部	-	8.2	(8.1)	ヘラケズリ、ヘラナデ	ナデ、指ナデ	底外面ヘラナデ。	平安時代
133	181	WSD01	床面P30～32・36	土師器	甕	体部下半	-	8.8	(16.2)	ヘラナデ	指ナデ、ナデ	底外面オサエ、ナデ。	平安時代
133	182	WSD01	北半覆土	須恵器	坏	略完形	13.0	5.2	5.2	ロクロ	ロクロ	底外面回転糸切。	平安時代
133	183	WSD01	南半覆土	須恵器	坏	略完形	(10.9)	5.3	5.3	ロクロ	ロクロ	底外面回転糸切。	平安時代
133	184	WSD01	南半覆土	須恵器	坏	体部上半	(15.0)	-	(4.9)	ロクロ	ロクロ	外面刻書あり。	平安時代
133	185	WSD01	南半覆土、北半覆土	須恵器	坏	略完形	(11.8)	4.2	5.2	ロクロ、ナデ、指ｱﾄ	ロクロ、ナデ	底外面回転糸切。	平安時代
133	186	WSD01	北半覆土	須恵器	坏	底部	-	4.4	(1.5)	ロクロ、ナデ	ロクロ	底外面回転糸切。外面刻書あり。	平安時代
134	187	WSD01	WSD01周辺、24-65 確認面、24-75 Ⅰ層	須恵器	壺	口頸部	15.4	-	(8.5)	ロクロ	ロクロ		平安時代
134	188	WSD01	底面P45、24-63 Ⅰ層	須恵器	壺	底部	-	(12.0)	(7.8)	ヘラナデ	指ナデ、ロクロ	底外面ヘラナデ。	平安時代
134	189	WSD01	底面P6・9・10・41、底面直上P11～16・19～21・23・27・37・38、南半覆土、WSI06覆土、WSK42覆土	須恵器	壺	体部下半	-	12.8	(24.0)	ロクロ、ヘラナデ	ロクロ？、指ナデ、ナデ、ヘラナデ	底外面ヘラナデ。	平安時代
135	191	WSD04	覆土	須恵器	甕	胴部下半	-	-	-	タタキ	あて具痕、ナデ		平安時代
135	192	WSD04	24-52 覆土	縄文土器	深鉢	底部	-	(10.2)	(4.2)	LRR?斜・横回転	ナデ	胎土に植物繊維混入。底外面RL回転。	縄文時代前期中葉(円筒下層ｂ式？)
135	193	WSD05	底面直上	土師器	堝	口縁部	-	-	-	横ナデ、ヘラナデ	ナデ、横ナデ	内外面磨滅。	平安時代
135	194	WSD05	覆土	土師器	坏	口縁部	(12.0)	-	(3.3)	ロクロ	ロクロ	外面刻書あり。	平安時代
135	195	WSD05	底面直上	須恵器	大甕	胴部下半	-	-	-	タタキ	オサエ、ナデ		平安時代
135	196	WSD05	底面直上	縄文土器	深鉢	口縁部	-	-	-	条痕	ミガキ	胎土に植物繊維混入。	縄文時代前期後葉(円筒下層ｄ1式？)
135	197	WSD07	東側覆土	土師器	小甕	底部	-	(7.0)	(2.7)	ヘラナデ、縄の圧痕?(R?)	指ナデ	底外面オサエ、不明圧痕。	平安時代
135	198	WSD07	確認面	須恵器	甕	胴部	-	-	-	タタキ	あて具痕、ナデ		平安時代
135	199	WSD08	覆土	須恵器?	坏	口縁部	(13.2)	-	(3.9)	ロクロ	ロクロ	酸化焼成？	平安時代
135	200	WSD09	覆土	土師器	坏	体部下半	-	2.9	5.2	ロクロ	ミガキ、黒色処理	内外面・底外面とも磨滅。	平安時代
135	201	WSD09	覆土	須恵器	甕	胴部	-	-	-	タタキ	あて具痕、ナデ		平安時代

図番号	遺物番号	遺構名	出土位置・層位等	種類	器種	部位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	外面調整(文様)	内面調整(文様)	備考(底面調整)	時期
136	202	WSD11	覆土	土師器	甕	口縁部	-	-	-	輪積痕、横ナデ、ヘラナデ、ヘラケズリ	ナデ、横ナデ		平安時代
136	203	WSD11	覆土	須恵器?	皿	体部上半	(13.0)	-	(3.6)	ロクロ	ロクロ	酸化焼成。	平安時代
136	204	WSD11	覆土	須恵器	坏	底部	-	(3.8)	(2.6)	ロクロ	ロクロ	底外面回転糸切?ヘラナデ。外面刻書あり。	平安時代
136	205	WSD11	北半覆土	須恵器	甕	胴部下半	-	-	-	タタキ	オサエ、ナデ	酸化焼成。	平安時代
136	207	WSD14	覆土	土師器	甕	口縁部	-	-	-	ロクロ、ヘラナデ	ロクロ		平安時代
136	208	WSD14	覆土	土師器	甕	口縁部	-	-	-	輪積痕、横ナデ、ヘラナデ	ナデ、横ナデ		平安時代
136	209	WSD14	覆土	須恵器?	坏	体部上半	(14.0)	-	(4.8)	ロクロ	ロクロ	外面刻書あり。酸化焼成。	平安時代
136	210	WSD14	WSD11・14覆土	須恵器	甕	胴部下半	-	-	-	タタキ	ナデ	火ぶくれあり。	平安時代
136	211	WSD14	底面	須恵器	甕	胴部下半	-	-	-	タタキ	ナデ		平安時代
136	212	WSD19	覆土	須恵器	坏	胴部	-	-	-	ロクロ	ロクロ	外面刻書あり。	平安時代
136	213	WSD19	覆土	須恵器	坏(転用硯)	底部	-	6.2	(2.9)	ロクロ、ナデ	ロクロ	底外面回転糸切、刻書あり。底内面スリ顕著。	平安時代
136	214	WSD19	覆土	須恵器	鉢	略完形	10.2	4.8	7.9	輪積痕、ロクロ、ヘラナデ	ロクロ、ナデ	底外面ヘラナデ。外面に刻書2ヶ所あり。	平安時代
137	215	WSD15	覆土、24-60Ⅰ層	土師器	甕	体部上半	27.5	-	20.0	輪積痕、横ナデ、ヘラナデ、ヘラケズリ	輪積痕、ナデ、横ナデ		平安時代
137	216	WSD15	覆土	土師器	甕	口縁部	(21.8)	-	(14.4)	輪積痕、横ナデ、ヘラケズリ	輪積痕、ナデ、ヘラナデ	内面磨滅顕著。	平安時代
137	217	WSD15	底面直上P1	須恵器	鉢	略完形	13.0	7.0	12.6	輪積痕、ロクロ、ヘラケズリ、ヘラナデ	ロクロ	外面頸部に刻書あり。	平安時代
137	218	WSD15	覆土	須恵器	甕	胴部	-	-	-	タタキ	あて具痕、ナデ	酸化焼成。	平安時代
137	219	WSD15	覆土	須恵器	甕	胴部	-	-	-	タタキ	ナデ		平安時代
137	220	WSD15	覆土、24-60Ⅰ層	須恵器	甕	胴部	-	-	-	タタキ	あて具痕、ナデ		平安時代
138	221	WSD18	覆土	土師器	小坏	略完形	5.9	3.0	5.2	オサエ、ナデ、ヘラ痕?	オサエ、ナデ、横ナデ	底外面ヘラナデ。	平安時代
138	222	WSD18	覆土P1、覆土	土師器	甕	口縁部	(19.8)	-	(12.8)	輪積痕、横ナデ、(ミガキに近い)ヘラナデ	ナデ、横ナデ		平安時代
138	223	WSD18	WSD18覆土P1・覆土、WSI06覆土、24-61Ⅰ層	土師器	甕	略完形	22.0	6.4	28.5	輪積痕、横ナデ、ヘラナデ	指ナデ、ナデ、横ナデ	底外面菰編痕。	平安時代
138	224	WSD18	WSD18覆土P3・底面直上、WSI06覆土、24-62 WSI07確認面	土師器	甕	略完形	(21.2)	6.0	27.5	横ナデ、ヘラナデ	指ナデ、ナデ、横ナデ	底外面オサエ、ナデ。	平安時代
139	225	捨て場Ⅲa層	24-58 Ⅲa層	縄文土器	深鉢	口縁部	-	-	-	RRL?斜回転、隆帯	ミガキ	胎土に植物繊維混入。	縄文時代前期中葉(円筒下層ｂ式)
139	226	捨て場Ⅲa層	24-58 Ⅲa層	縄文土器	深鉢	口縁部	(16.8)	-	(12.0)	LR側面圧痕、R側面圧痕、RRL斜回転、口縁部地文不明	ナデ	胎土に植物繊維混入。内面磨滅。	縄文時代前期中葉(円筒下層ｃ式)
139	227	捨て場Ⅲa層	24-58 Ⅲa層	縄文土器	深鉢	口縁部	-	-	-	LR側面圧痕、結束第1種(RL・LR)横回転、RRL斜回転	ミガキ	胎土に植物繊維少量混入。波状口縁。	縄文時代前期中葉(円筒下層ｃ式)
139	228	捨て場Ⅲa層	24-58 Ⅲa層	縄文土器	深鉢	口縁部	-	-	-	R側面圧痕、口縁部地文不明	ミガキ	胎土に植物繊維混入。波状口縁。	縄文時代前期中葉(円筒下層ｃ式)
139	229	捨て場Ⅲa層	24-58 Ⅲa層P4	縄文土器	深鉢	口縁部	-	-	-	L側面圧痕、LLR斜回転	ミガキ	胎土に植物繊維混入。波状口縁。229～231同一個体。	縄文時代前期中葉(円筒下層ｃ式)
139	230	捨て場Ⅲa層	24-58 Ⅲa層P4	縄文土器	深鉢	口縁部	-	-	-	L側面圧痕、LLR斜回転	ミガキ	胎土に植物繊維混入。波状口縁。229～231同一個体。	縄文時代前期中葉(円筒下層ｃ式)

図番号	遺物番号	遺構名	出土位置・層位等	種類	器種	部位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	外面調整(文様)	内面調整(文様)	備考(底面調整)	時期
139	231	捨て場Ⅲa層	24-58 Ⅲa層P4	縄文土器	深鉢	胴部	-	-	-	LLR斜回転	ミガキ	胎土に植物繊維混入。229～231同一個体。	縄文時代前期中葉(円筒下層ｃ式)
140	232	捨て場Ⅲa層	24-58 Ⅲa層P1	縄文土器	深鉢	体部上半	-	-	-	LR側面圧痕、RRL斜回転、RL斜回転	ミガキ	胎土に植物繊維混入。波状口縁。	縄文時代前期中葉(円筒下層ｃ式)
140	233	捨て場Ⅲa層	24-59 Ⅲa上面層	縄文土器	深鉢	体部上半	-	-	-	単軸絡条体側面圧痕、結束第1種(RL･LR)回転、RL斜回転	ミガキ	胎土に植物繊維混入。波状口縁。	縄文時代前期中葉(円筒下層ｃ式)
140	234	捨て場Ⅲa層	24-59 Ⅲa層	縄文土器	深鉢	口縁部	-	-	-	単軸絡条体第1類R側面圧痕、LR末端回転、単軸絡条体第1類R縦回転、口唇－LR側面圧痕	ミガキ	胎土に植物繊維少量混入。波状口縁。	縄文時代前期後葉(円筒下層ｄ1式)
140	235	捨て場Ⅲa層	24-58 Ⅲa層	縄文土器	深鉢	口縁部	-	-	-	条痕、RL側面圧痕	ミガキ	胎土に植物繊維混入。波状口縁。	縄文時代前期中葉(円筒下層ｃ式？)
140	236	捨て場Ⅲa層	24-59 Ⅲa層	縄文土器	深鉢	口縁部	-	-	-	条痕、沈線、RRL斜回転	ミガキ	胎土に植物繊維微量混入。	縄文時代前期中葉(円筒下層ｃ式？)
140	237	捨て場Ⅲa層	24-58 Ⅲa層	縄文土器	深鉢	体部上半	-	-	-	沈線、RRL斜回転	ナデ	胎土に植物繊維混入。波状口縁。	縄文時代前期中葉(円筒下層ｃ式？)
140	238	捨て場Ⅲa層	24-58 Ⅲa層P2	縄文土器	深鉢	体部下半	-	8.2	(31.8)	RRL斜回転	ミガキ	胎土に植物繊維混入。	縄文時代前期中葉
140	239	捨て場Ⅲa層	24-58 Ⅲa層	縄文土器	深鉢	体部下半	-	7.4	(14.4)	単軸絡条体第1類(L)縦位回転。	ナデ	胎土に植物繊維少量含む。	縄文時代前期後半
141	241	捨て場Ⅲb層	24-58 Ⅲb層P6	縄文土器	深鉢	体部上半	(23.6)	-	(41.2)	LR側面圧痕、RLR側面圧痕、単軸絡条体第1類R縦回転、RL横回転	ミガキ	胎土に植物繊維多量混入。	縄文時代前期中葉(円筒下層ｃ式)
141	242	捨て場Ⅲb層	24-58 Ⅲb層P7	縄文土器	深鉢	略完形	(21.8)	10.5	43.0	RL側面圧痕、RL横回転、附加条?、RL斜回転	ミガキ	胎土に植物繊維混入。波状口縁。補修孔2ヶあり。	縄文時代前期中葉(円筒下層ｂ～ｃ式)
141	243	捨て場Ⅲb層	24-57 Ⅲb層P8	縄文土器	深鉢	略完形	-	9.0	(26.6)	L側面圧痕、RRL横・斜回転	ミガキ	胎土に植物繊維混入。波状口縁？	縄文時代前期中葉(円筒下層ｂ～ｃ式)
141	244	捨て場Ⅲb層	24-57 Ⅲb層	縄文土器	深鉢	略完形	(18.2)	8.0	(22.0)	LR側面圧痕、RRL?斜回転(口縁・胴とも)	ミガキ	胎土に植物繊維多量混入。波状口縁。	縄文時代前期中葉(円筒下層ｂ～ｃ式)
142	245	捨て場Ⅲb層	24-58 Ⅲa層、24-58 Ⅲb層	縄文土器	深鉢	口縁部	-	-	-	RR横回転、RRL斜回転	ミガキ	胎土に植物繊維混入。	縄文時代前期中葉(円筒下層ｂ式)
142	246	捨て場Ⅲb層	24-58 Ⅲb層	縄文土器	深鉢	口縁部	-	-	-	LRL?斜回転、(磨滅)	ナデ	胎土に植物繊維混入。	縄文時代前期中葉(円筒下層ｂ式?)
142	247	捨て場Ⅲb層	24-57 Ⅲb層P13･14	縄文土器	深鉢	口縁部	-	-	-	RL横回転、RL側面圧痕	ミガキ	胎土に植物繊維混入。	縄文時代前期中葉(円筒下層ｃ式？)
142	248	捨て場Ⅲb層	24-57 Ⅲb層P10	縄文土器	深鉢	頸部	-	-	-	LR側面圧痕、刺突列、R側面圧痕、RL横回転	ナデ	胎土に植物繊維混入。	縄文時代前期中葉(円筒下層ｂ～ｃ式)
142	249	捨て場Ⅲb層	24-57 Ⅲb層P7	縄文土器	深鉢	底部	-	11.0	(6.5)	単軸絡条体第1類(L)縦回転	ナデ	胎土に植物繊維含む。	縄文時代前期後半
142	250	捨て場Ⅲb層	24-57 Ⅲb層P12	縄文土器	深鉢	底部	-	11.8	(11.3)	RL横回転	ナデ	胎土に植物繊維少量含む。	縄文時代前期後半
142	254	捨て場Ⅲd層	24-58 Ⅲd層	縄文土器	深鉢	口縁部	-	-	-	RRL横回転、隆帯、隆帯上に縄の圧痕？	ミガキ	胎土に植物繊維混入。	縄文時代前期中葉(円筒下層ｂ式)
142	255	捨て場Ⅲd層	24-58 Ⅲd層	縄文土器	深鉢	口縁部	-	-	-	LR側面圧痕、隆帯	ミガキ	胎土に植物繊維少量混入。	縄文時代前期中葉(円筒下層ｂ～ｃ式)
142	256	捨て場Ⅲd層	24-58 Ⅲd層	縄文土器	深鉢	底部	-	14.8	(4.7)	オサエ、ナデ	ナデ	底外面単軸絡条体第1類(L)回転。胎土に植物繊維混入。	縄文時代前期中葉
142	257	捨て場Ⅲd層	24-58 Ⅲd層	縄文土器	深鉢	底部	-	9.0	(6.2)	RL横回転	ナデ	底外面RL回転、上げ底。	縄文時代前期中葉
143	258	遺構外	24-58試掘トレンチ撹乱	縄文土器	深鉢	口縁部	-	-	-	RL側面圧痕、単軸絡条体第1類R横回転、RL側面圧痕、隆帯、単軸絡条体第1類(L?)	ミガキ	胎土に植物繊維混入。	縄文時代中期中葉(円筒下層ｂ式)
143	259	遺構外	24-58試掘トレンチ撹乱	縄文土器	深鉢	底部	-	(6.2)	(4.3)	RL横回転	ミガキ	胎土に植物繊維少量混入。	縄文時代前期後半

図番号	遺物番号	遺構名	出土位置・層位等	種類	器種	部位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	外面調整(文様)	内面調整(文様)	備考(底面調整)	時期
143	260	遺構外	24-61 Ⅰ層	縄文土器	広口壺?	口頸部	-	-	-	沈線	ナデ		縄文時代後期前葉(十腰内Ⅰ式)
143	261	遺構外	24-61 Ⅰ層	縄文土器	深鉢	胴部	-	-	-	沈線	ナデ		縄文時代後期前葉(十腰内Ⅰ式)
143	262	遺構外	24-59 Ⅱ層	縄文土器	浅鉢	頸部	-	-	-	沈線	ナデ		縄文時代後期前葉(十腰内Ⅰ式)
143	263	遺構外	24-68 Ⅰ層	縄文土器	深鉢	胴部	-	-	-	LR横回転、沈線	ナデ		縄文時代後期中葉(十腰内Ⅰ式?)
143	264	遺構外	24-77 Ⅰ層	土師器	皿	体部上半	(13.8)	-	(1.8)	輪積痕、ロクロ、ナデ	ロクロ		平安時代
143	265	遺構外	24-68 Ⅰ層	土師器	坏	略完形	11.4	5.0	6.5	ロクロ	ロクロ	底外面回転糸切。打欠き部の内外面に黒色物付着。	平安時代
143	266	遺構外	24-71 Ⅰ層	土師器	坏	略完形	(16.0)	(7.0)	7.7	ロクロ、ナデ	ロクロ	底外面回転糸切。	平安時代
143	267	遺構外	24-65 Ⅰ層	土師器	甕	口縁部	19.2	-	(9.0)	横ナデ、ヘラナデ、ヘラケズリ	ナデ、横ナデ		平安時代
143	268	遺構外	24-67 Ⅰ層	土師器	堝	口縁部	-	-	-	横ナデ、ヘラナデ	ナデ、横ナデ		平安時代
143	269	遺構外	24-67 Ⅰ層	土師器	小堝	口縁部	-	-	-	輪積痕、横ナデ、ヘラナデ	ナデ、横ナデ、ヘラナデ		平安時代
144	270	遺構外	WSI02周辺、24-63 撹乱	須恵器	坏	略完形	(12.1)	5.3	5.5	ロクロ、ナデ	ロクロ	外面に刻書あり。内外面に黒色物付着。	平安時代
144	271	遺構外	24-65 Ⅰ層	須恵器	坏	胴部	-	-	-	ロクロ、ナデ	ロクロ	外面刻書あり。	平安時代
144	272	遺構外	WSI02周辺、24-63 撹乱	須恵器	坏	口縁部	-	-	-	ロクロ	ロクロ	外面に刻書あり。	平安時代
144	273	遺構外	24-60 Ⅰ層	須恵器	坏	体部下半	-	5.4	(2.4)	ロクロ、ナデ	ロクロ	底外面回転糸切。外面刻書あり(2ヶ所?)	平安時代
144	274	遺構外	24-64 Ⅰ層	須恵器	坏	略完形	(14.8)	(4.8)	4.9	ロクロ、ナデ	ロクロ	底外面回転糸切。外面・底外面に刻書あり。	平安時代
144	275	遺構外	24-63 Ⅰ層	須恵器	坏	体部下半	-	4.6	(4.4)	ロクロ、ナデ	ロクロ	底外面回転糸切。外面刻書あり。	平安時代
144	276	遺構外	24-65 Ⅰ層	須恵器	坏	底部	-	5.2	(2.0)	ロクロ、ナデ	ロクロ	底外面回転糸切。外面刻書あり。	平安時代
144	277	遺構外	24-65 Ⅰ層	須恵器	坏	胴部	-	-	-	ロクロ、ナデ	ロクロ	外面刻書あり。	平安時代
144	278	遺構外	24-64 Ⅰ層	須恵器	坏	口縁部	-	-	-	ロクロ、ナデ	ロクロ	外面刻書あり。	平安時代
144	279	遺構外	排土	須恵器	坏	底部	-	(6.1)	(1.4)	ロクロ	ロクロ、ナデ	底外面回転糸切。外面刻書あり。	平安時代
144	280	遺構外	24-63 Ⅰ層	須恵器	坏	底部	-	4.7	(1.4)	ロクロ	ロクロ	底外面回転糸切、刻書あり。	平安時代
144	281	遺構外	24-60 Ⅰ層	須恵器	坏	体部下半	-	(5.6)	(3.9)	ロクロ	ロクロ	底外面回転糸切、刻書あり。	平安時代
144	282	遺構外	24-71 Ⅰ層	須恵器	壺	口頸部	(8.4)	-	(4.4)	ロクロ	ロクロ		平安時代
144	283	遺構外	24-73 Ⅰ層	須恵器	壺	底部	-	(10.4)	(5.9)	ヘラナデ	ナデ	底外面静止糸切?、ナデ、砂底。	平安時代
144	284	遺構外	24-73 Ⅰ層	須恵器	甕	口頸部	(21.8)	-	(18.0)	ロクロ、タタキ	輪積痕、ロクロ、あて具痕	外面頸部に刻書あり。	平安時代
145	285	遺構外	24-68・69 Ⅰ層、試掘	須恵器	甕	体部下半	-	9.5	(24.3)	タタキ	刷毛目、ナデ	平成24年度試掘遺物と接合した。(第536集写真10-Tr65出土須恵器)	平安時代

表26　農道24号W区　石器観察表

図番号	遺物番号	遺構名	出土位置・層位	器種	分類	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石材	備考
120	32	WSI-04	N24-69　確認面	石箆		8.2	3.7	1.2	37.9	珪質頁岩	
122	56	WSI-06S-1	床面	砥石		19.6	6.5	6.2	503.2	凝灰岩	被熱、使用面４面
128	118	WSK-15	1層	石鏃	無茎尖基	2.6	1.5	0.4	1.0	珪質頁岩	
129	146	WSK-25	覆土	石鏃	無茎尖基	4.5	1.6	0.4	2.5	珪質頁岩	
130	154	WSK-34	覆土	半円状扁平打製石器		15.8	8.7	3.3	566.8	流紋岩	端部に研磨面あり
134	190	WSD-01	南半　覆土	削掻器	1側縁	5.8	5.3	1.3	44.2	珪質頁岩	
140	240	捨て場	N24-57　Ⅲa層上面	磨製石斧		11.4	3.6	1.6	93.3	緑色凝灰岩	完形
142	251	捨て場	N24-57　Ⅲb層	半円状扁平打製石器		10.6	9.9	3.2	406.7	凝灰岩	
142	252	捨て場	N24-58　Ⅲb層	敲石	1個端部	4.3	4.3	4.6	96.0	珪質頁岩	円礫
142	253	捨て場	N24-57　Ⅲb層	石鏃	無茎尖基	2.8	1.3	0.3	1.1	珪質頁岩	
145	286	遺構外	N24-68　Ⅰ層	石匙	縦型	4.0	2.5	0.5	5.6	珪質頁岩	欠損
145	287	遺構外	N24-71　Ⅰ層	石匙	縦型	3.9	3.4	0.7	8.6	珪質頁岩	欠損

表27　農道24号W区　土製品観察表

図番号	遺物番号	遺構名	出土位置・層位	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	外面調整(文様)	備考	時期
136	206	WSD-11 南半	覆土	土鈴	(4.4)	(1.6)	(1.3)	12.8	オサエ、ナデ	紐？欠損	平安時代
写真81	-	WSI12	覆土	窯壁片？	-	-	-	353.2			平安時代？

第３章　理化学的分析結果

第１節　青森市下石川平野遺跡出土の火山灰について

弘前大学大学院・理工学研究科
柴　正敏

青森市下石川平野遺跡より採集された火山灰サンプル10試料について、以下の観察を行った。

これら試料について、超音波洗浄器を用いて水洗し、粘土鉱物など粒径数マイクロメーター以下の粒子を除去した後、偏光顕微鏡を用いて、火山ガラスの有無、火山ガラスが存在する場合にはその形態、構成鉱物の種類を観察・記載した。その結果を表28に示した。火山ガラスは、その形態、屈折率、共存鉱物、化学組成などにより給源火山を推定することができる（町田・新井、2003）。火山ガラスの化学組成を決定する方法として、近年、電子プローブマイクロアナライザー（以下EPMA）がもちいられるようになってきた。本報告では、１試料の火山ガラスについてEPMA分析を行った。使用したEPMAは弘前大学・機器分析センター所属の日本電子製JXA－8230、使用条件は加速電圧15kV、試料電流６×10^{-9}アンペアである。

本遺跡出土の火山ガラスは、その形態、色（特に褐色ガラスの有無）、共存鉱物（表28）及びその化学組成（表29）により、以下のように帰属される。

（１）白頭山苫小牧テフラ（B-Tm）のガラスのみからなると推定される試料
（アルカリ長石及びエジリンオージャイトを含み、褐色ガラス、石英（斑晶）及びホルンブレンドを含まないもの）
・番号「灰－２」及び「灰－３」（計２試料）
表29には、試料番号「灰－２」のＢ－TmガラスのEPMAによる化学組成を示した。本ガラスの組成は、アルカリ粗面岩質（表29－１）及びアルカリ流紋岩質（表29－２）であり、半年～１年間の休止期を挟んで起こった２度の10世紀噴火の後半部を代表するものに帰属できる（柴・岩下、2005）。

（２）白頭山苫小牧テフラ（B-Tm）と十和田aテフラ（To-a）のガラスが混合していると推定される試料
（アルカリ長石、エジリンオージャイト、褐色ガラス及び石英（斑晶）を含み、ホルンブレンドを含まないもの）
・番号「灰－５」及び「灰－７」（計２試料）

（３）十和田aテフラ（To-a）ガラスのみからなると推定される試料
（褐色ガラス及び石英（斑晶）を含み、ホルンブレンド、アルカリ長石及びエジリンオージャイトを含まないもの）
・番号「灰－１」、「灰－６」及び「灰－９」（３試料）

（４）十和田aテフラ（To-a）ガラスと十和田八戸テフラ（To-H）ガラスが混合していると推定される試料

（褐色ガラス及び石英（斑晶）及びホルンブレンド含み、アルカリ長石及びエジリンオージャイトを含まないもの）

・番号「灰－４」、「灰－８」及び「灰－10」（３試料）

参考文献

青木かおり・町田　洋（2006）、日本に分布する第四紀後期広域テフラの主元素組成　― K_2O-TiO_2図によるテフラの識別．地質調査研究報告、第57巻、第７/８号、239－258.

Hayakawa, Y.（1985）, Pyroclastic geology of Towada Volcano. Bulletin of Earthquake Research Institute, vol.60, 507-592.

Machida, H.（1999）, Quaternary widespread tephra catalog in and around Japan : Recent progress. 第四紀研究、第38巻、194-201.

町田　洋・新井房夫（2003）、新編火山灰アトラス　－日本列島とその周辺－．東京大学出版会、pp.336.

柴　正敏・重松直樹・佐々木　実（2000）、青森県内に分布する広域テフラに含まれる火山ガラスの化学組成（１）．弘前大学理工学部研究報告、第１巻、第１号、11-19.

柴　正敏・中道哲郎・佐々木　実（2001）、十和田火山、降下軽石の化学組成変化　－宇樽部の一露頭を例として－．弘前大学理工学部研究報告、第４巻、第１号、11-17.

柴　正敏・岩下紗弥佳（2005）、青森県に分布する白頭山苫小牧テフラに含まれる火山ガラスの化学組成．白神研究、第２号、65-71.

柴　正敏・佐々木　実（2006）、十和田火山噴出物のガラス組成変化、月刊地球、第28巻、第5号、322-325.

表28　下石川平野遺跡、火山灰の火山ガラス及び構成鉱物

番号	区分	地区名	遺構名	土層	個別No.	採取日	火山ガラス及び構成鉱物	帰属	備考
灰-1	火山灰	農道23号	SI01	４層	火山灰サンプル①	13.07.26	火山ガラス（pm＞bw）、褐色ガラス、斜長石、斜方輝石、単斜輝石、石英、鉄鉱	To-a	plant opalあり
灰-2*	火山灰	農道23号	SD02	１層	火山灰サンプル－1	13.07.25	火山ガラス（pm、bw）、褐色ガラス、アルカリ長石、エジリンオージャイト 斜長石、斜方輝石、単斜輝石、石英、鉄鉱	B-Tm	plant opalあり
灰-3	火山灰	農道24号W	WSI05	床面	火山灰サンプル－1	13.09.26	火山ガラス（pm、bw）、褐色ガラス、アルカリ長石、エジリンオージャイト 斜長石、斜方輝石、単斜輝石、石英、鉄鉱	B-Tm	plant opalあり
灰-4	火山灰	農道24号E	ESK07		火山灰サンプル－1		火山ガラス（pm＞bw）、褐色ガラス、斜長石、ホルンブレンド、斜方輝石、単斜輝石、石英、鉄鉱	To-a、To-H	plant opalあり
灰-5	火山灰	農道24号E	ESK17		火山灰サンプル－1		火山ガラス（pm、bw）、褐色ガラス、アルカリ長石、エジリンオージャイト 斜長石、斜方輝石、単斜輝石、石英、鉄鉱	B-Tm、To-a	plant opalあり
灰-6	火山灰	農道24号E	ESI06		火山灰サンプル－1		火山ガラス（pm＞bw）、褐色ガラス、斜長石、斜方輝石、単斜輝石、石英、鉄鉱	To-a	plant opalあり
灰-7	火山灰	配水管14号	H14-SI01		火山灰サンプル－1		火山ガラス（pm、bw）、褐色ガラス、アルカリ長石、エジリンオージャイト 斜長石、斜方輝石、単斜輝石、石英、鉄鉱	B-Tm、To-a	plant opalあり
灰-8	火山灰	配水管14号	H14-SK02		火山灰サンプル－1		火山ガラス（pm＞bw）、褐色ガラス、斜長石、ホルンブレンド、斜方輝石、単斜輝石、石英、鉄鉱	To-a、To-H	plant opalあり
灰-9	火山灰	配水管14号	H14-SK05		火山灰サンプル－3		火山ガラス（pm＞bw）、褐色ガラス、斜長石、斜方輝石、単斜輝石、石英、鉄鉱	To-a	plant opalあり
灰-10	火山灰	配水管14号	H14-SD03		火山灰サンプル－1		火山ガラス（pm＞bw）、褐色ガラス、斜長石、ホルンブレンド、斜方輝石、単斜輝石、石英、鉄鉱	To-a、To-H	plant opalあり

B-Tm:白頭山苫小牧テフラ、To-a:十和田aテフラ、To-H：十和田八戸テフラ、pm：軽石型ガラス、ｂｗ：バブルウォール型ガラス,*:EPMA分析を行った試料.

表29－１　青森市下石川平野遺跡の白頭山苫小牧テフラの火山ガラスのEPMA分析値（B-Tm（1））

重量％

No.	SiO_2	TiO_2	Al_2O_3	FeO*	MnO	MgO	CaO	Na_2O	K_2O	Total
1	66.29	0.25	15.30	4.10	0.13	0.14	1.21	4.75	5.46	97.63
2	65.42	0.31	14.49	4.65	0.13	0.11	1.00	4.71	5.47	96.29
3	63.63	0.46	13.65	6.65	0.16	0.85	3.36	4.50	4.62	97.88
4	66.75	0.32	15.16	4.41	0.07	0.14	1.06	4.52	5.49	97.92
	SiO_2	TiO_2	Al_2O_3	FeO*	MnO	MgO	CaO	Na_2O	K_2O	Total
最少	63.63	0.25	13.65	4.10	0.07	0.11	1.00	4.50	4.62	96.29
最大	66.75	0.46	15.30	6.65	0.16	0.85	3.36	4.75	5.49	97.92
平均	65.52	0.33	14.65	4.95	0.12	0.31	1.66	4.62	5.26	97.43
標準偏差	1.377	0.088	0.755	1.153	0.039	0.359	1.135	0.129	0.426	0.770

100％に規格化した

No.	SiO_2	TiO_2	Al_2O_3	FeO*	MnO	MgO	CaO	Na_2O	K_2O	Total
1	67.89	0.25	15.67	4.20	0.14	0.14	1.24	4.87	5.60	100
2	67.94	0.32	15.05	4.83	0.13	0.12	1.04	4.89	5.69	100
3	65.01	0.47	13.95	6.79	0.17	0.87	3.43	4.60	4.72	100
4	68.17	0.33	15.49	4.50	0.07	0.15	1.08	4.61	5.61	100
	SiO_2	TiO_2	Al_2O_3	FeO*	MnO	MgO	CaO	Na_2O	K_2O	Total
最少	65.01	0.25	13.95	4.20	0.07	0.12	1.04	4.60	4.72	100
最大	68.17	0.47	15.67	6.79	0.17	0.87	3.43	4.89	5.69	100
平均	67.25	0.34	15.04	5.08	0.13	0.32	1.70	4.74	5.40	100
標準偏差	1.502	0.089	0.773	1.170	0.040	0.367	1.157	0.157	0.454	

町田・新井 2003 B-Tm（1）	68.4	0.4	14.8	4.4	0.1	0.1	1.0	5.4	5.3

FeO*：全鉄をFeOとして表した.

表29－２　青森市下石川平野遺跡の白頭山苫小牧テフラの火山ガラスのEPMA分析値（B-Tm（２））

重量％

No.	SiO_2	TiO_2	Al_2O_3	FeO*	MnO	MgO	CaO	Na_2O	K_2O	Total
1	72.84	0.19	11.01	3.87	0.12	0.00	0.32	3.69	4.81	96.86
2	71.76	0.16	10.22	3.56	0.04	0.02	0.24	3.27	5.17	94.44
3	72.06	0.16	9.72	3.71	0.06	0.00	0.19	3.23	4.40	93.53
4	73.30	0.18	10.15	3.87	0.10	0.00	0.19	3.72	4.07	95.59
5	71.91	0.08	9.97	3.57	0.11	0.00	0.20	3.43	4.51	93.79
6	70.57	0.20	10.01	3.43	0.07	0.00	0.21	3.14	4.36	92.00
7	73.10	0.20	10.08	4.02	0.04	0.04	0.17	3.23	4.84	95.74
8	72.83	0.22	10.06	3.67	0.07	0.00	0.15	3.45	4.50	94.94
9	71.47	0.12	10.07	3.98	0.08	0.00	0.29	3.68	4.43	94.11
	SiO_2	TiO_2	Al_2O_3	FeO*	MnO	MgO	CaO	Na_2O	K_2O	Total
最少	70.57	0.08	9.72	3.43	0.04	0.00	0.15	3.14	4.07	92.00
最大	73.30	0.22	11.01	4.02	0.12	0.04	0.32	3.72	5.17	96.86
平均	72.20	0.17	10.14	3.74	0.08	0.01	0.22	3.43	4.57	94.56
標準偏差	0.889	0.045	0.352	0.204	0.030	0.015	0.055	0.225	0.324	1.431

100％に規格化した

No.	SiO_2	TiO_2	Al_2O_3	FeO*	MnO	MgO	CaO	Na_2O	K_2O	Total
1	75.20	0.20	11.37	4.00	0.13	0.00	0.33	3.81	4.97	100
2	75.98	0.17	10.82	3.77	0.04	0.02	0.25	3.47	5.48	100
3	77.04	0.17	10.40	3.97	0.06	0.00	0.21	3.46	4.71	100
4	76.68	0.19	10.62	4.05	0.10	0.00	0.20	3.89	4.26	100
5	76.68	0.08	10.64	3.81	0.12	0.00	0.22	3.65	4.81	100
6	76.71	0.22	10.89	3.73	0.07	0.00	0.23	3.41	4.74	100
7	76.35	0.21	10.53	4.20	0.04	0.05	0.18	3.38	5.06	100
8	76.71	0.23	10.59	3.87	0.07	0.00	0.16	3.64	4.74	100
9	75.94	0.13	10.70	4.23	0.09	0.01	0.30	3.91	4.71	100
	SiO_2	TiO_2	Al_2O_3	FeO*	MnO	MgO	CaO	Na_2O	K_2O	Total
最少	75.20	0.08	10.40	3.73	0.04	0.00	0.16	3.38	4.26	100
最大	77.04	0.23	11.37	4.23	0.13	0.05	0.33	3.91	5.48	100
平均	76.37	0.18	10.73	3.96	0.08	0.01	0.23	3.62	4.83	100
標準偏差	0.568	0.048	0.280	0.180	0.032	0.015	0.057	0.209	0.328	

町田・新井 2003 B-Tm（2）	75.9	0.2	10.3	4.1	0.0	0.1	0.2	4.7	4.3

FeO*：全鉄をFeOとして表した.

第２節１　下石川平野遺跡出土の須恵器壺から出土した炭化種実について

株式会社　パレオ・ラボ

１．はじめに

青森県青森市浪岡に位置する下石川平野遺跡は、梵珠山南西の段丘斜面上標高35～40mに立地する、縄文時代と平安時代を中心とした集落遺跡である。ここでは、平安時代の土坑から出土した須恵器の壺内の土壌に含まれていた炭化種実の同定を行い、当時の利用植物の一端を明らかにする。なお、試料の一部を用いて放射性炭素年代測定も行われている（第２節２参照）。

２．試料と方法

試料は、農道24号W区の第45号土坑（WSK-45）から出土したミニチュアの須恵器壺（P-1）内の土壌に含まれていた炭化種実である。壺の時期は、須恵器の工人による製作が推定される点と壺の器形から、９世紀末から10世紀前半頃と考えられている。なお、得られた種実のうち１点の炭化種実の放射性炭素年代測定が行われた結果、９世紀末から10世紀の暦年代範囲が得られた。遺構周辺では白頭山苫小牧テフラ（B-Tm：936+8-6 cal AD（石塚ほか2003））は確認されておらず、テフラによる年代の絞り込みはできない状況である。

試料の採取および水洗と炭化種実の抽出は、青森県埋蔵文化財調査センターが行った。試料は、最小1.0mm目の篩を用いた水洗選別法により残渣物が選別された。

炭化種実の同定・計数は、肉眼および実体顕微鏡下で行った。計数の方法は、完形または一部が破損していても１個体とみなせるものは完形として数え、１個体に満たないものは破片とした。同定した試料は、青森県埋蔵文化財調査センターに保管されている。

３．結果

同定した結果、草本植物のダイズ炭化種子とアズキ炭化種子、ササゲ属アズキ亜属炭化種子の３分類群が得られた。この他に、科以上の詳細な同定ができなかった不明Ａ炭化種実と不明Ｂ炭化根茎があった。同定の識別点を欠く種実の一群を同定不能炭化種実とした（表30）。

表30　須恵器壺から出土した炭化種実（括弧内は破片数）

	調査区	農道24号西区
	グリッド	N24-W
	遺構名	SK-45
	出土位置	須恵器壺（P-1）内
分類群	時期	9世紀末～10世紀前半頃
ダイズ	炭化種子	3
アズキ	炭化種子	4
ササゲ属アズキ亜属アズキ型	炭化種子	39（26）
不明Ａ	炭化種実	（1）
不明Ｂ	炭化根茎	1
同定不能	炭化種実	（7）

含まれていたのは、ダイズが３点と、アズキが４点、ササゲ属アズキ亜属が65点（うち破片が26点）、不明Ａが１点（破片）、不明Ｂが１点であった。

次に、炭化種実および炭化根茎の記載を行い、図146に写真を示して同定の根拠とする。

（１）ダイズ　*Glycine max*（L.）Merr. subsp. *max*　炭化種子　マメ科

発泡により変形しているが、上面観は楕円形、側面観は片側の側面が窪む楕円形。臍の長さは全体の1/3程度で、長楕円形。臍は小畑ほか（2007）に示されたダイズ属の特徴である、中央の縦溝（Hilar groove）があり、周囲に隆線（Rim-aril）が認められる。長さ6.7mm、幅5.0mm、厚さ4.5mm。図版に示していない２点の大きさは、長さ6.7mm、残存幅4.2mm、残存厚5.7mm（発泡）と、長さ7.7mm、

幅5.3mm、残存厚5.2mm。小畑(2008)に示された現生種と大きさを比較すると栽培種に近いため、栽培種のダイズとした。

(２)アズキ　*Vigna angularis* (Willd.) Ohwi et H.Ohashi var. *angularis*　炭化種子　マメ科

上面観は方形に近い円形、側面観は角がある長楕円形。小畑ほか(2007)に示されたアズキ亜属の特徴である、方形に近い長楕円形の臍の内部の厚膜(Epihilum)が残存する。臍は全長の半分から2/3ほどの長さで、やや片側に寄る。また、臍の下端には種瘤の痕跡がある。長さ6.5mm、幅4.2mm、厚さ3.9mm。図版に示していない３点の大きさは、長さ6.0mm、幅4.0mm、厚さ4.1mmと、長さ6.5mm、幅4.0mm、厚さ4.4mm、そして長さ6.5mm、幅4.2mm、厚さ3.9mm。小畑(2008)に示された現生種と大きさを比較すると栽培種に近いため、栽培種のアズキとした。

(３)ササゲ属アズキ亜属　*Vigna* subgenus *Caratotropis*　炭化種子　マメ科

上面観は方形に近い円形、側面観は方形に近い楕円形。小畑ほか(2007)に示されたアズキ亜属の特徴である、長楕円形の臍の内部の厚膜(Epihilum)が残存する。臍は全長の半分から2/3ほどの長さで、片側に寄る。計測可能な39点の大きさは、長さ3.1～5.9(平均4.6±0.7)mm、幅2.5～4.5(平均3.4±0.4)mm、厚さ2.8～4.6(平均3.3±0.4)mm。

(４)不明Ａ　Unknown A　炭化種実

破片のため本来の形状は不明である。表面は平滑。薄い果皮状。種実本来の形は楕円形か。残存長3.1mm、残存幅2.1mm。

(５)不明Ｂ　Unknown B　炭化根茎

上面観は円形、側面観はいびつな三角形。表面は平滑だが、下端にはいびつな凹凸がある。長さ11.3mm、幅8.6mm。

４．考察

第45号土坑(WSK-45)から出土したミニチュアの須恵器壺(P-1)内の土壌に含まれていた炭化種実は、ほとんどササゲ属アズキ亜属であった。アズキ亜属は破片を含めて65点と多く、ダイズとアズキが少量ずつ、不明Ａの種実と不明Ｂの根茎が各１点得られた。アズキ亜属は栽培種のアズキか野生種のヤブツルアズキなどかの判断はできなかったが、アズキが共伴している状況から、少なくとも利用されたと考えられる。不明Ｂ根茎は、ムカゴの可能性がある。

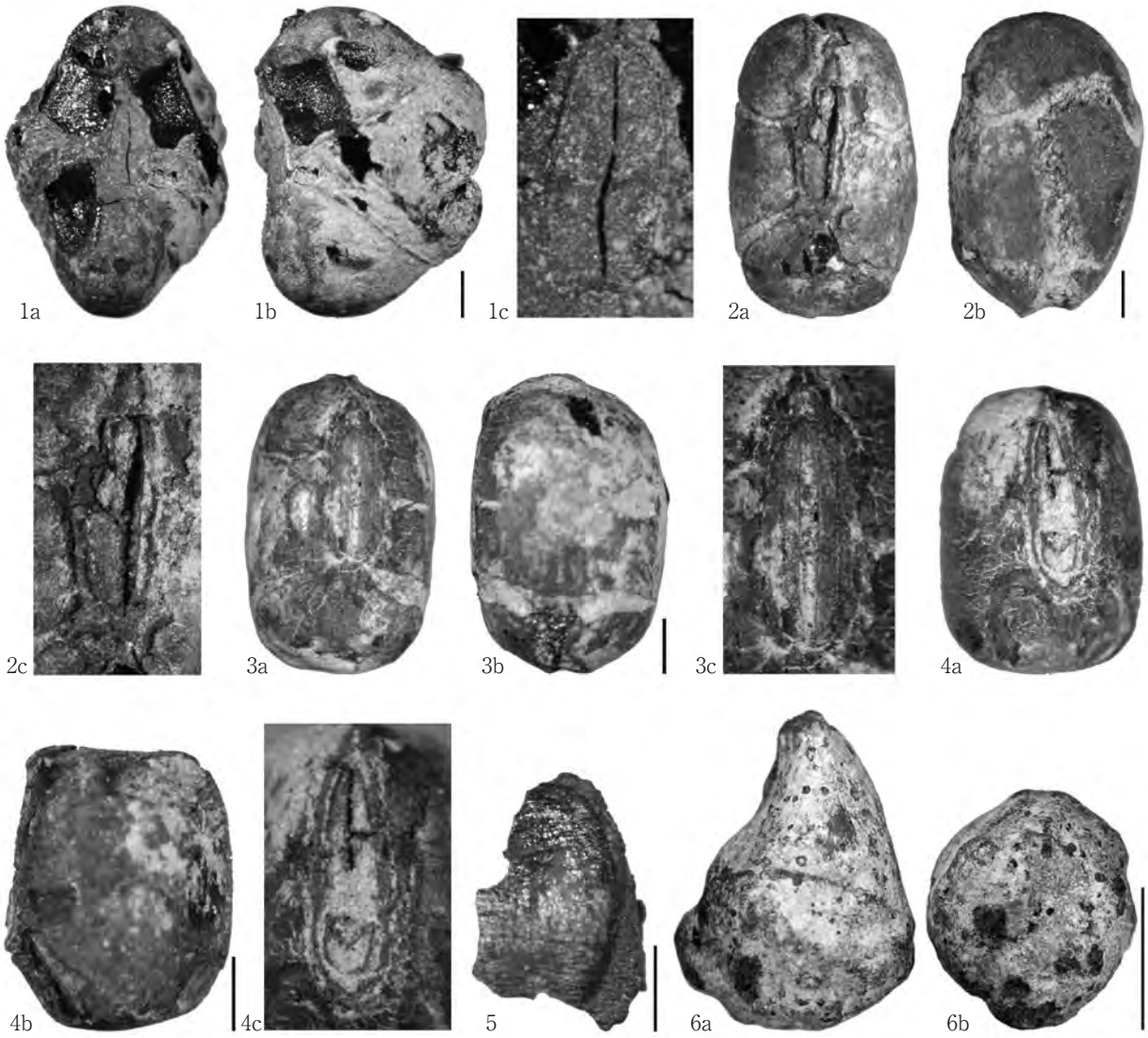
第45号土坑から出土した壺は１点のみであり、何らかの理由があって、炭化したマメ類を中心とした種実が入れられていた可能性が高い。

引用文献

石塚友希夫・中村俊夫・奥村　充・木村勝彦・金奎漢・金伯禄・森脇　広(2003)白頭山火山の10世紀における巨大噴火の高精度AMS14C年代測定．名古屋大学加速器質量分析計業績報告(ＸⅣ)，名古屋大学年代測定総合センター，58-65.

小畑弘己(2008)マメ科種子同定法．小畑弘己編「極東先史古代の穀物3」: 225-252，熊本大学.

小畑弘己・佐々木由香・仙波靖子(2007)土器圧痕からみた縄文時代後・晩期における九州のダイズ栽培．植生史研究15-2，97-114.



スケール 1a-b, 2a-b, 3a-b, 4a-b, 5:1mm, 6:5mm, 1c, 2c, 3c, 4c は任意

図146　下石川平野遺跡の須恵器壺から出土した炭化種実

1．ダイズ炭化種子、2．アズキ炭化種子（PLD-25753）、3・4．ササゲ属アズキ亜属炭化種子、
5．不明 A 炭化種実、6．不明 B 炭化根茎

第２節２　下石川平野遺跡出土の須恵器壺から出土した炭化種実の放射性炭素年代測定

株式会社　パレオ・ラボ

１．はじめに

下石川平野遺跡より出土した炭化種実について、加速器質量分析法（AMS法）による放射性炭素年代測定を行った。なお、同一試料を用いて炭化種実同定も行われている（第２節１参照）。

２．試料と方法

試料は、農道24号W区の第45号土坑（WSK-45）から出土したミニチュアの須恵器壺（P-1）内の土壌に含まれていたアズキ炭化種子１点（PLD-25753）である。壺の時期は、須恵器の工人による製作が推定される点と壺の器形から、９世紀末から10世紀前半頃と考えられている。

測定試料の情報、調製データは表31のとおりである。試料は調製後、加速器質量分析計（パレオ・ラボ、コンパクトAMS：NEC製 1.5SDH）を用いて測定した。得られた^{14}C濃度について同位体分別効果の補正を行った後、^{14}C年代、暦年代を算出した。

表31　測定試料および処理

測定番号	遺跡データ	試料データ	考古学的手法による想定年代	前処理データ	前処理
PLD-25753	調査区:農道24号W区 遺構:WSK-45 出土位置：須恵器壺(P-1)内	種類:炭化種実(アズキ種子)1点 状態:dry	9世紀末から10世紀前半頃	前処理前重量:35.33mg 燃焼量:5.51mg 精製炭素量:3.56mg 炭素回収量:0.77mg	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸:1.2N,水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)

３．結果

表32に、同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比（δ^{13}C）、同位体分別効果の補正を行って暦年較正に用いた年代値と較正によって得られた年代範囲、慣用に従って年代値と誤差を丸めて表示した^{14}C年代を、図147に暦年較正結果をそれぞれ示す。暦年較正に用いた年代値は下１桁を丸めていない値であり、今後暦年較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて暦年較正を行うために記載した。

^{14}C年代はAD1950年を基点にして何年前かを示した年代である。^{14}C年代（yrBP）の算出には、^{14}Cの半減期としてLibbyの半減期5568年を使用した。また、付記した^{14}C年代誤差（±１σ）は、測定の統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の^{14}C年代がその^{14}C年代誤差内に入る確率が68.2%であることを示す。

なお、暦年較正の詳細は以下のとおりである。

暦年較正とは、大気中の^{14}C濃度が一定で半減期が5568年として算出された^{14}C年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の^{14}C濃度の変動、および半減期の違い（^{14}Cの半減期5730±40年）を較正して、より実際の年代値に近いものを算出することである。

^{14}C年代の暦年較正にはOxCal4.1（較正曲線データ:IntCal13）を使用した。なお、１σ暦年代範囲は、OxCalの確率法を使用して算出された^{14}C年代誤差に相当する68.2%信頼限界の暦年代範囲であり、同様に2σ暦年代範囲は95.4%信頼限界の暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は^{14}C年代の確率分布を示し、二重曲線は暦年較正曲線を示す。

表32　放射性炭素年代測定および暦年較正の結果

測定番号	測定回数	δ^{13}C (‰)	暦年較正用年代 (yrBP ±1σ)	^{14}C 年代 (yrBP ±1σ)	^{14}C年代を暦年代に較正した年代範囲	
					1σ暦年代範囲	2σ暦年代範囲
PLD-25753	10	-25.18±0.24	1095±16	1095±15	901 AD (26.4%) 921 AD 952 AD (41.8%) 985 AD	895 AD (37.8%) 929 AD 939 AD (57.6%) 990 AD

4. 考察

試料について、同位体分別効果の補正および暦年較正を行った。須恵器壺内の土壌に含まれていたアズキ炭化種子(PLD-25753)の較正年代は、2σ暦年代範囲(95.4%の確率)で895-929 cal AD(37.8%)および939-990 cal AD(57.6%)で、9世紀末から10世紀の暦年代が得られた。得られた年代範囲は、種実の結実年代を示し、考古学的な推定年代である9世紀末から10世紀前半頃を含む年代範囲であった。

参考文献

Bronk Ramsey, C. (2009) Bayesian Analysis of Radiocarbon dates. Radiocarbon, 51(1), 337-360.

中村俊夫(2000)放射性炭素年代測定法の基礎. 日本先史時代の^{14}C年代編集委員会編「日本先史時代の^{14}C年代」: 3-20, 日本第四紀学会.

Reimer, P.J., Bard, E., Bayliss, A., Beck, J.W., Blackwell, P.G., Bronk Ramsey, C., Buck, C.E., Cheng, H., Edwards, R.L., Friedrich, M., Grootes, P.M., Guilderson, T.P., Haflidason, H., Hajdas, I., Hatte, C., Heaton, T.J., Hoffmann, D.L., Hogg, A.G., Hughen, K.A., Kaiser, K.F., Kromer, B., Manning, S.W., Niu, M., Reimer, R.W., Richards, D.A., Scott, E.M., Southon, J.R., Staff, R.A., Turney, C.S.M., and van der Plicht, J. (2013) IntCal13 and Marine13 Radiocarbon Age Calibration Curves 0-50,000 Years cal BP. Radiocarbon, 55(4), 1869-1887.

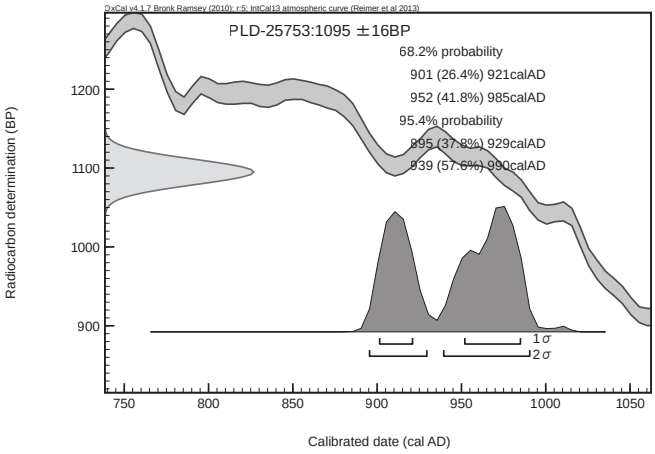


図147　暦年較正結果

第３節　下石川平野遺跡から出土した炭化種実

株式会社　パレオ・ラボ

１．はじめに

青森県青森市浪岡に位置する下石川平野遺跡は、梵珠山南西の段丘斜面上標高35～40mに立地する、縄文時代と平安時代を中心とした集落遺跡である。ここでは、縄文時代の土坑と平安時代の竪穴住居跡から出土した炭化種実の同定を行い、当時の利用植物の一端を明らかにする。なお、試料の一部を用いて放射性炭素年代測定も行われている（第５節参照）。

２．試料と方法

試料は、農道23号の第３号竪穴住居跡（SI03）の床面から採取された炭化種実１点と、農道24号Ｅ区の第28号土坑（ESK28）の底面から採取された炭化種実１点の、計２点である。竪穴住居跡の時期は平安時代、土坑の時期は縄文時代と考えられている。なお、第28号土坑出土の炭化種実の一部を用いて、放射性炭素年代測定が行われた結果、縄文時代前期中葉～末葉の年代が得られている（第５節参照）。

試料は、発掘調査中に目視で回収された。炭化種実の同定および計数は、肉眼で行った。計数の方法は、完形または一部が破損していても１個体とみなせるものは完形として数え、１個体に満たないものは破片とした。同定した試料は、青森県埋蔵文化財調査センターに保管されている。

３．結果

同定した結果、木本植物のオニグルミ炭化核が１点ずつ得られた（表33）。

表33　下石川平野遺跡から出土した炭化種実（括弧内は破片数）

	地区名	農道23号	農道24号Ｅ
	遺構名	SI03	ESK28
	層位	床面	底面
	試料番号	種-2	種-1
分類群	時期	平安時代	縄文時代
オニグルミ	炭化核	(1)	(1)

以下、遺構別に記載する。

農道23号第３号竪穴住居跡（SI03）床面：オニグルミの半割以下の個体であった。底面に欠けた痕跡があるが、不明瞭で、打撃痕かどうかは不明。残存高23.6mm、残存幅23.8mm、残存厚9.9mm。

農道24号Ｅ区第28号土坑（ESK28）底面：オニグルミの半割の個体であった。打撃痕は不明。高さ27.5mm、幅22.4mm、残存厚11.0mm。同一個体の一部を年代測定試料とした。

次に、炭化種実の記載を行い、図148に写真を示して同定の根拠とする。

（１）オニグルミ　*Juglans mandshurica* Maxim. var. *sieboldiana*（Maxim.）Makino　炭化核　クルミ科

完形ならば側面観は広卵形。表面に縦方向の縫合線があり、浅い溝と凹凸が不規則に入る。壁は緻密で硬く、ときどき空隙がある。断面は角が尖る。

４．考察

縄文時代の土坑と平安時代の竪穴住居跡からは、オニグルミが１点ずつ得られた。オニグルミは食用可能である。

縄文時代前期中葉～末葉の年代値が得られた農道24号Ｅ区の第28号土坑（ESK28）の底面から得られたオニグルミは、半割の大きさで炭化していた。打撃痕は不明であるが、食用のために核が割られ、

不要な核が燃やされるなど何らかの要因で炭化した後、土坑の底面に堆積したと考えられる。半割の個体が１点のみ取り上げられている点や炭化している点を考慮すると、土坑内に貯蔵されていた可能性は低い。

平安時代の焼失住居と考えられている農道23号の第３号竪穴住居跡（SI03）の床面から得られたオニグルミは、半割以下の個体で炭化していた。これも目視で１点のみ確認されているため、利用後の残渣が内周溝付近にあり、焼失に伴って炭化したと考えられる。この個体には底部中央に欠けた部分があり、打撃痕の可能性がある。

図148　下石川平野遺跡から出土した炭化種実

１．オニグルミ炭化核（ESK28、底面、PLD-27323）、２．オニグルミ炭化核（SI03、床面）

第４節　下石川平野遺跡出土炭化材の樹種同定

株式会社　パレオ・ラボ

１．はじめに

青森市に所在する下石川平野遺跡から出土した炭化材について、樹種同定を行った。

２．試料と方法

試料は、農道23号第３号竪穴住居跡（SI03）から出土した炭化材が20点と、同じく農道23号の炭化物集中から出土した炭化材が５点、農道24号W区の第２号竪穴住居跡（WSI02）から出土した試料が２点の、計27点である。なお、農道24号W区の住居跡WSI02の試料は、同一試料内に複数の樹種を含んでおり、同定した炭化材の総計は29点となった。発掘調査の所見では、いずれも平安時代の遺構と推測されている。

樹種同定に先立ち、肉眼観察と実体顕微鏡を用いて形状の確認を行い、残存年輪数と残存径を計測した。その後、カミソリまたは手で３断面（横断面・接線断面・放射断面）を割り出し、直径１cmの真鍮製試料台に試料を両面テープで固定した。その後、イオンスパッタで金コーティングを施し、走査型電子顕微鏡（KEYENCE社製　VE-9800）を用いて樹種の同定と写真撮影を行った。

３．結果

樹種同定の結果、針葉樹はアスナロ１分類群、広葉樹はクリと、ブナ属、コナラ属コナラ節（以下、コナラ節）、モクレン属、キハダ、カエデ属、シナノキ属の７分類群の、計８分類群が確認された。

遺構別の結果を表34、結果の一覧を表35に示す。

表34　遺構別の樹種同定結果

	農道23号		農道24号W	
樹種	SI03	炭化物集中	WSI02	計
アスナロ			2	2
クリ	12		1	13
ブナ属	1	4		5
コナラ属コナラ節			1	1
モクレン属	2			2
キハダ	2			2
カエデ属	2			2
シナノキ属	1	1		2
計	20	5	4	29

農道23号の第３号竪穴住居跡（SI03）ではクリが12点で最も多く、モクレン属とキハダ、カエデ属が各２点、ブナ属とシナノキ属が各１点であった。また、炭化物集中ではブナ属が４点とシナノキ属が１点確認された。

農道24号W区の第２号竪穴住居跡（WSI02）では、アスナロが２点と、クリとコナラ節が各１点確認された。

試料の形状は、農道23号のSI03では、クリは板目と角材状、形状不明、ブナ属は柾目、モクレン属は板目と角材状、キハダは半割状と形状不明、カエデ属は角材状と半割状であった。炭化物集中では、ブナ属は角材状および形状不明、シナノキ属は形状不明であった。農道24号W区のWSI02では、アスナロは板目と角材状、クリは破片、コナラ節はみかん割り状であった。

以下に、同定根拠となった木材組織の特徴を記載し、走査型電子顕微鏡写真を図版に示す。

（１）アスナロ　*Thujopsis dolabrata* Sieb. et Zucc.　ヒノキ科　図149　1a-1c（WSI02_C-3_1）

仮道管と放射組織、樹脂細胞からなる針葉樹である。早材部から晩材部への移行は比較的緩やかである。樹脂細胞は晩材部に散在し、放射組織内にも豊富に樹脂を含む。分野壁孔は小型のスギ型～ヒノキ型で、１分野に不揃いに３～４個存在する。

アスナロは温帯に分布する常緑高木である。材の加工性や割裂性は中庸で、耐朽性および保存性が高い。

（２）クリ　*Castanea crenata* Siebold et Zucc.　ブナ科　図149　2a-2c（SI03_炭12）

大型の道管が年輪のはじめに数列並び、晩材部では薄壁で角張った小道管が火炎状に配列する環孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。道管の穿孔は単一である。放射組織は同性で、主に単列である。

クリは温帯下部から暖帯に分布する落葉高木である。材は重硬で、耐朽性および耐湿性に優れ、保存性が高い。

（３）ブナ属　Fagus　ブナ科　図149　3a-3c（炭化物集中N23-10_炭11）

小型で単独の道管が密に分布し、晩材部ではやや径を減ずる散孔材である。道管の穿孔は単一のものと階段状の２種類がある。放射組織はほぼ同性で、単列のもの、２～数列のもの、広放射組織の３種類がある。

ブナ属は温帯に分布する落葉高木で、ブナとイヌブナがある。材は堅硬および緻密で、靱性はあるが保存性は低い。

（４）コナラ属コナラ節　*Quercus* sect. *Prinus*　ブナ科　図149　4a-4c（WSI02_C-4_2）

大型の道管が年輪のはじめに１列程度並び、晩材部では薄壁で角張った小道管が火炎状に配列する環孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。道管の穿孔は単一である。放射組織は同性で、単列と広放射組織の２種類がある。

コナラ節は温帯下部および暖帯に分布する落葉高木で、カシワとミズナラ、コナラ、ナラガシワがある。材は全体的に重硬で、加工困難である。

（５）モクレン属　*Magnolia*　モクレン科　図149　5a-5c（SI03_炭9）

小型の道管が、単独もしくは３～４個複合して均等に分布する散孔材である。木繊維の壁は薄い。道管相互壁孔は対列～階段状、道管の穿孔は単一である。放射組織は１～２列幅で、上下端の１～２細胞が直立もしくは方形細胞である異性である。

モクレン属は温帯から暖帯上部に分布する常緑または落葉の低木および高木で、ホオノキやモクレン、コブシなどがある。材は一般にやや軽軟または中庸程度だが、緻密で狂いが少ない。

（６）キハダ　*Phellodendron amurense* Pupr.　ミカン科　図149・150　6a-6c（SI03_C-34）

大型で丸い道管が早材部に配列し、晩材ではごく小型で薄壁の小道管が集団をなして帯状～斜線状に配列する環孔材である。道管に赤褐色の樹脂が見られ、穿孔は単一である。放射組織はほぼ同性、１～６列幅できれいな紡錘形となる。

キハダは温帯に分布する落葉高木である。材はやや軽軟で加工容易だが、水湿に強い。

（７）カエデ属　*Acer*　カエデ科　図150　7a-7c（SI03_炭16）

径が中型の道管が、単独もしくは放射方向に数個複合して分布する散孔材である。横断面において木部繊維の壁厚の違いによる雲紋状の模様がみられる。道管の穿孔は単一で、道管壁にはらせん肥厚がみられる。放射組織はほぼ同性で、１～５列幅である。

カエデ属は主に温帯に分布する落葉高木で、オオモミジやハウチワカエデ、イタヤカエデなど26種ある。材は全体的に緻密で靱性がある。

（８）シナノキ属　*Tilia*　シナノキ科　図150　8a-8c（SI03_炭21）

やや小型の道管が、単独もしくは放射方向に数個複合して分布する散孔材である。道管の穿孔は

単一で、道管要素全体にらせん肥厚が明瞭である。軸方向柔組織は短接線状もしくは線状となる。放射組織は同性で、１～４列幅となる。

シナノキ属は温帯に分布する落葉高木で、シナノキやボダイジュなど５種がある。シナノキの材は軽軟で切削加工が容易であり、狂いは少ないが耐朽性がやや低い。

４. 考察

農道23号の第３号竪穴住居跡（SI03）の炭化材はクリが最も多く、出土状況から床材や腰板、壁材などの建築材と推測されている。多くは板目の板材で、残存径は板目方向で５～30㎝程度であった。クリの材は、重硬だが加工はそれほど困難ではなく、建築材として有用である。クリ以外では、カエデ属とブナ属が比較的重硬な材で、モクレン属とキハダ、シナノキ属が比較的軽軟な材であり（平井，1996）、建築材の種類によって樹種を変えていた可能性がある。

同じく農道23号の炭化物集中の炭化材では、ブナ属が４点と多く、シナノキ属も１点確認された。形状は角材状もしくは形状不明で、用途は不明である。角材状のブナ属では80年輪以上の試料（炭-5）もみられた。

農道24号Ｗ区の第２号竪穴住居跡（WSI02）の炭化材では、大型の試料は２点ともアスナロであった。クリとコナラ節の試料は小さく、近隣の炭化材試料が混入したものと推測される。アスナロの炭化材の形状は板目と角材状で、年輪数は約40～50年と非常に密であった。アスナロ２点は比較的大型の炭化材であり、建築材の可能性がある。

青森市内では、近野遺跡や野尻（１）遺跡、三内丸山遺跡、源常平遺跡において、平安時代の建築部材にクリが圧倒的に多く利用されており、クリ以外ではアスナロやスギなどの針葉樹や、モクレン属やトネリコ属、コナラ節などの広葉樹が確認されている（伊東・山田編，2012）。下石川平野遺跡でも同様の樹種構成を示しており、周辺の遺跡で確認されている木材利用傾向と一致する。

引用文献

平井信二（1996）木の大百科．394p，朝倉書店.
伊東隆夫・山田昌久編（2012）木の考古学－出土木製品用材データベース－．449p，海青社.

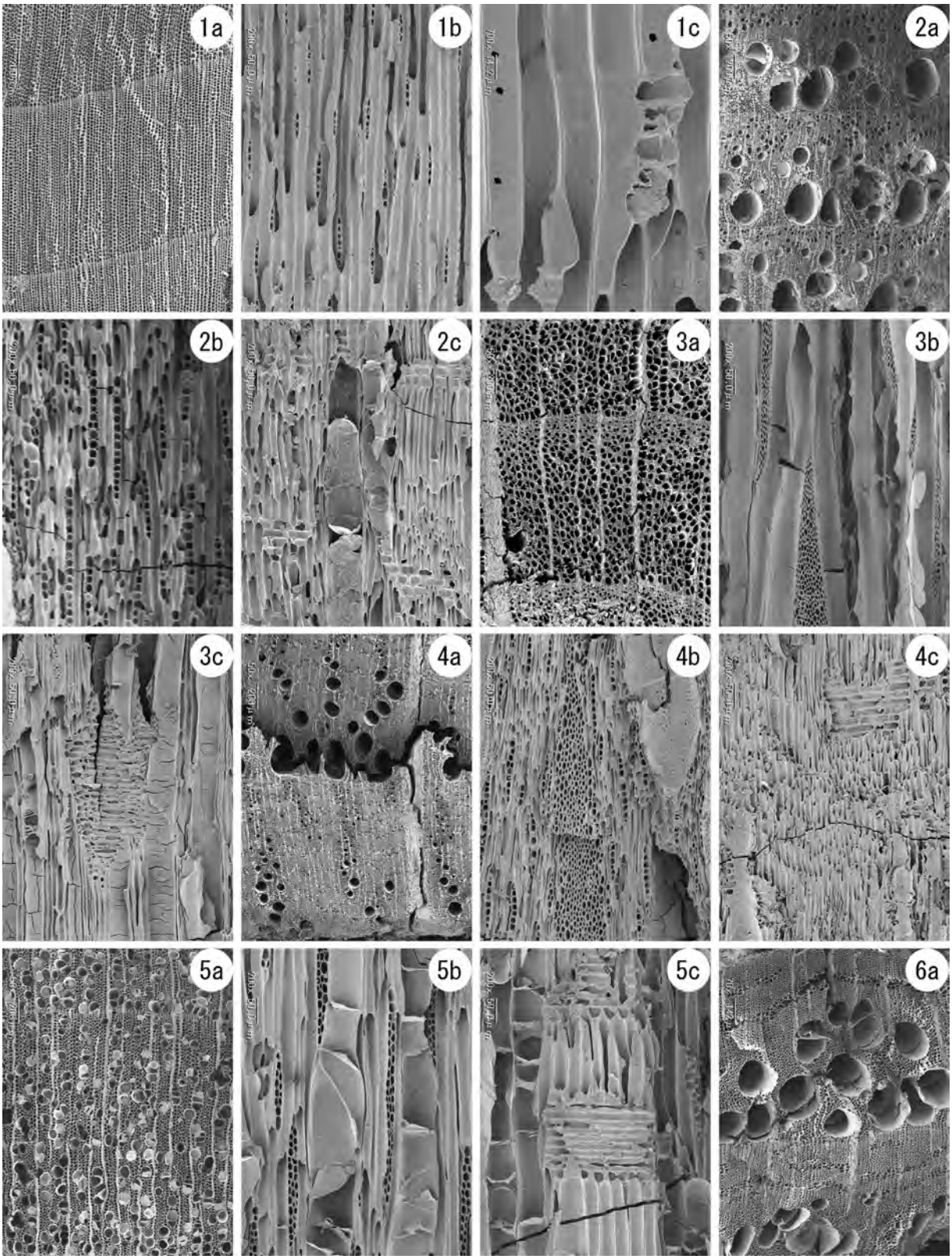


図149　下石川平野遺跡出土炭化材の走査型電子顕微鏡写真（1）

1a-1c. アスナロ（WSI02_C-3_1）、2a-2c. クリ（SI03_ 炭 12）、3a-3c. ブナ属（炭化物集中 N23-10_ 炭 11）、4a-4c. コナラ属コナラ節（WSI02_C-4_2）、5a-5c. モクレン属（SI03_ 炭 9）、6a. キハダ（SI03_C-34）
a：横断面、b：接線断面、c：放射断面

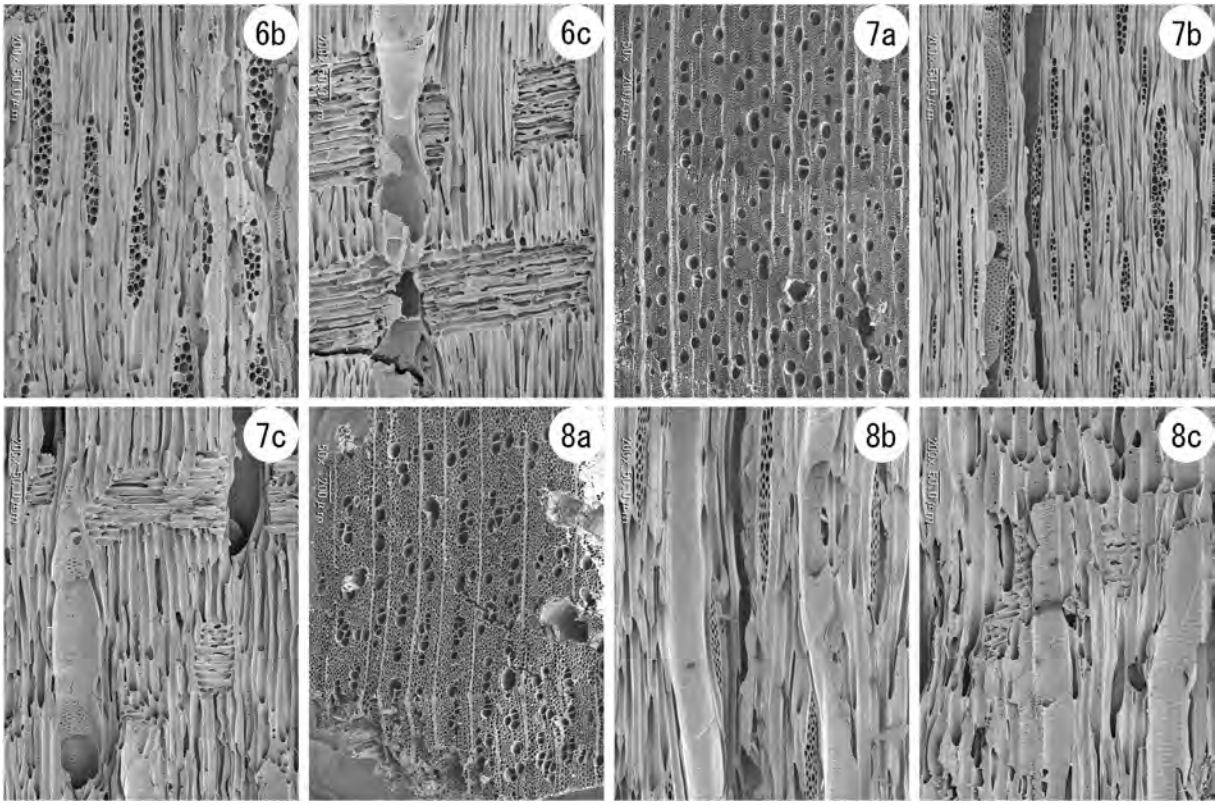


図150　下石川平野遺跡出土炭化材の走査型電子顕微鏡写真（２）

6b-6c. キハダ（SI03_C-34）、7a-7c. カエデ属（SI03_ 炭 16）、8a-8c. シナノキ属（SI03_ 炭 21）
a：横断面、b：接線断面、c：放射断面

表35　下石川平野遺跡出土炭化材の樹種同定結果

地区名	遺構名	グリッド	土層	個別No.	備考	樹種	形状	残存径(板目×柾目×長さ)	年輪数
農道23号	SI03	−	床面	炭7	−	ブナ属	柾目	0.5×6×17cm	40
農道23号	SI03	−	床直	炭8	−	キハダ	半割状	直径3cm	4
農道23号	SI03	−	床直	炭9	−	モクレン属	角材状	6×6×45cm	12
農道23号	SI03	−	床直	炭11	−	シナノキ属	板目	5×1×25cm	不明
農道23号	SI03	−	床直	炭12	−	クリ	板目	6.5×2×33cm	15
農道23号	SI03	−	床直	炭14	−	クリ	板目	28×5×15	不明
農道23号	SI03	−	床直	炭15	−	クリ	板目	10×5×26cm	15
農道23号	SI03	−	床面	炭16	−	カエデ属	角材状	4×2.5×12cm	13
農道23号	SI03	−	床直	炭17	−	クリ	板目	18×3×15cm	20
農道23号	SI03	−	覆土	炭18	壁板？	クリ	板目	5×0.5×17cm	不明
農道23号	SI03	−	床面	炭19	−	カエデ属	半割状	直径6cm	13
農道23号	SI03	−	床面	炭20	−	クリ	板目	6×1×15cm	6
農道23号	SI03	−	床面	炭21	−	モクレン属	板目	7×2.5×31cm	21
農道23号	SI03	カマド周辺右側	床直	炭22	−	クリ	板目	7×2.5×8cm	25
							板目	7×2.5×7cm	20
							角材状	4×2×15cm	16
							角材状	6×3×15cm	40
農道23号	SI03	−	覆土	炭23	腰板	クリ	板目	30×1×20cm	1
農道23号	SI03	−	床直	C-30	壁板	クリ	不明	27×2×10cm	不明
農道23号	SI03	−	床直	C-32	図面では床	クリ	不明	12×2×15cm	不明
農道23号	SI03	−	床直	C-33	図面では床	クリ	角材状	5×6×40cm	20
農道23号	SI03	−	床直	C-34	図面では床	キハダ	不明	5×1.5×18cm	6
農道23号	SI03	−	床面	C-36	−	クリ	板目	6×3×20cm	不明
農道24号W区	WSI02	−	床面	C-3_1	−	アスナロ	板目	9×5×30cm	約50
				C-3_2		クリ	破片	3cm角	4
農道24号W区	WSI02	−	床面	C-4_1	−	アスナロ	角材状	9×8×25 ？cm	約40
				C-4_2		コナラ属コナラ節	みかん割状	半径4cm	13
農道23号	炭化物集中	N23-9	−	炭-3	−	シナノキ属	不明	9×1×9cm？	不明
農道23号	炭化物集中	N23-9	−	炭-5	−	ブナ属	不明	7×4×12cm(節)	不明
農道23号	炭化物集中	N23-10	−	炭-1	−	ブナ属	角材状	1.5×3.5×15cm	10
農道23号	炭化物集中	N23-10	−	炭-5	−	ブナ属	角材状	1.5×5×11cm	80
農道23号	炭化物集中	N23-10	−	炭-11	−	ブナ属	不明	18×4×20cm？	不明

第５節　放射性炭素年代測定

株式会社　パレオ・ラボ

１．はじめに

青森県青森市に位置する下石川平野遺跡から出土した試料について、加速器質量分析法（AMS法）による放射性炭素年代測定を行った。

２．試料と方法

試料は、農道23号のSI03から１点（遺物No.炭-23：PLD-27318）、炭化物集中から２点（遺物No.炭-5：PLD-27319、遺物No.炭-11：PLD-27320）、農道24号W区のWSI02から１点（遺物No.C-4：PLD-27321）、農道24号Ｅ区のESK04から１点（遺物No.C-1：PLD-27322）、農道24号Ｅ区のESK28から１点（遺物No.種-1：PLD-27323）の、計６点である。遺物No.炭-5は最終形成年輪が残っていたが、遺物No.炭-23、遺物No.炭-11、遺物No.C-4、遺物No.C-1では最終形成年輪は残っていなかった。

また考古学的手法による推定時期は、SI03、炭化物集中、WSI02は平安時代、ESK04とESK28は縄文時代である。測定試料の情報、調製データは表36のとおりである。

試料は調製後、加速器質量分析計（パレオ・ラボ、コンパクトAMS：NEC製 1.5SDH）を用いて測定した。得られた^{14}C濃度について同位体分別効果の補正を行った後、^{14}C年代、暦年代を算出した。

表36　測定試料および処理

測定番号	遺跡データ	試料データ	考古学的手法による推定時期	前処理データ	前処理
PLD-27318	調査区:農道23号 遺構:SI03 層位:覆土 遺物No.炭-23	種類:炭化材 試料の性状:部位不明 採取位置:外側3年輪分 状態:dry	平安時代	前処理前重量:465.66mg 燃焼量:7.48mg 精製炭素量:4.25mg 炭素回収量:1.01g	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N,水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-27319	調査区:農道23号 グリッド:N23-9 遺構:炭化物集中 層位:覆土 遺物No.炭-5	種類:炭化材 試料の性状:最終形成年輪 採取位置:外側5年輪分 状態:dry	平安時代	前処理前重量:354.23mg 燃焼量:7.41mg 精製炭素量:4.71mg 炭素回収量:1.02mg	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N,水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-27320	調査区:農道23号 グリッド:N23-10 遺構:炭化物集中 層位:覆土 遺物No.炭-11	種類:炭化材 試料の性状:部位不明 採取位置:外側3年輪分 状態:dry カビ:有	平安時代	前処理前重量:168.67mg 燃焼量:6.79mg 精製炭素量:4.16mg 炭素回収量:0.99mg	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N,水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-27321	調査区:農道24号W区 遺構:WSI02 層位:床面 遺物No.C-4	種類:炭化材 試料の性状:部位不明 採取位置:外側5年輪分 状態:dry カビ:有	平安時代	前処理前重量:125.45mg 燃焼量:6.16mg 精製炭素量:3.88mg 炭素回収量:1.01mg	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N,水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-27322	調査区:農道24号Ｅ区 グリッド:N24-23 遺構:ESK04 層位:床面 遺物No.C-1	種類:炭化材 試料の性状:部位不明 採取位置:外側1年輪分 状態:dry	縄文時代	前処理前重量:252.53mg 燃焼量:6.62mg 精製炭素量:3.82mg 炭素回収量:1.03mg	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N,水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-27323	調査区:農道24号Ｅ区 遺構:ESK28 層位:床面 遺物No.種-1	種類:炭化種実 （オニグルミ核） 状態:dry	縄文時代	前処理前重量:261.65mg 燃焼量:6.19mg 精製炭素量:3.97mg 炭素回収量:1.02mg	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N,水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)

３．結果

表37に、同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比（δ^{13}C）、同位体分別効果の補正を行って暦年較正に用いた年代値と較正によって得られた年代範囲、慣用に従って年代値と誤差を丸めて表示した^{14}C年代を、図152に暦年較正結果をそれぞれ示す。暦年較正に用いた年代値は下１桁を丸めていない値であり、今後暦年較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて暦年較正を行うために記載した。

^{14}C年代はAD1950年を基点にして何年前かを示した年代である。^{14}C年代（yrBP）の算出には、^{14}Cの半減期としてLibbyの半減期5568年を使用した。また、付記した^{14}C年代誤差（±１σ）は、測定の統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の^{14}C年代がその^{14}C年代誤差内に入る確率が68.2%であることを示す。

なお、暦年較正の詳細は以下のとおりである。

暦年較正とは、大気中の^{14}C濃度が一定で半減期が5568年として算出された^{14}C年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の^{14}C濃度の変動、および半減期の違い（^{14}Cの半減期5730±40年）を較正して、より実際の年代値に近いものを算出することである。

^{14}C年代の暦年較正にはOxCal4.1（較正曲線データ：IntCal13）を使用した。なお、1σ暦年代範囲は、OxCalの確率法を使用して算出された^{14}C年代誤差に相当する68.2%信頼限界の暦年代範囲であり、同様に2σ暦年代範囲は95.4%信頼限界の暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は^{14}C年代の確率分布を示し、二重曲線は暦年較正曲線を示す。

表37　放射性炭素年代測定および暦年較正の結果

測定番号	測定回数	δ^{13}C（‰）	暦年較正用年代（yrBP ±1σ）	^{14}C 年代（yrBP ±1σ）	^{14}C年代を暦年代に較正した年代範囲	
					1σ暦年代範囲	2σ暦年代範囲
PLD-27318 SI03 遺物No.炭-23	9	-25.80±0.18	1194±18	1195±20	788AD(5.0%)794AD 799AD(63.2%)870AD	773AD(95.4%)884AD
PLD-27319 炭化物集中 遺物No.炭-5	9	-26.36±0.15	1088±18	1090±20	901AD(24.3%)921AD 954AD(43.9%)989AD	895AD(32.9%)929AD 939AD(61.6%)996AD 1008AD(0.9%)1011AD
PLD-27320 炭化物集中 遺物No.炭-11	9	-25.04±0.16	1203±18	1205±20	774AD(3.4%)778AD 790AD(37.9%)829AD 839AD(26.9%)866AD	770AD(95.4%)885AD
PLD-27321 WSI02 遺物No.C-4	9	-22.20±0.17	1193±19	1195±20	788AD(5.0%)793AD 800AD(63.2%)873AD	773AD(95.4%)886AD
PLD-27322 ESK04 遺物No.C-1	9	-26.14±0.18	4826±23	4825±25	3648BC(42.6%)3633BC 3553BC(25.6%)3540BC	3655BC(49.4%)3629BC 3581BC(46.0%)3533BC
PLD-27323 ESK28 遺物No.種-1	9	-24.76±0.17	4716±22	4715±20	3625BC(18.5%)3601BC 3525BC(13.1%)3507BC 3427BC(36.6%)3382BC	3631BC(28.5%)3579BC 3535BC(21.0%)3497BC 3457BC(46.0%)3377BC

４．考察

以下、2σ暦年代範囲（確率95.4%）に着目して、時期の古い順に結果を整理する。縄文土器編年と^{14}C年代・較正年代との対応関係については、茅野（2008）、工藤（2012）を参照した。

農道24号Ｅ区のESK04出土の遺物No.C-1（PLD-27322）は3655-3629 cal BC（49.4%）および3581-3533 cal BC（46.0%）、ESK28の遺物No.種-1（PLD-27323）は3631-3579 cal BC（28.5%）、3535-3497 cal BC（21.0%）、3457-3377 cal BC（46.0%）で、紀元前3660～3370年頃の暦年代を示した。これは、縄文時代前期中葉～末葉に相当する。なお、ESK28の遺物No.種-1は種実で、測定結果は種実が結実した年代を示しているが、ESK04の遺物No.C-1は最終形成年輪が残っていなかった。木材の場合、最終形成年輪部分を測定すると枯死もしくは伐採年代が得られるが、内側の年輪を測定すると、最終形成年輪から内側であるほど古い年代が得られる（古木効果）。したがって、ESK04の遺物No.C-1は古木効果の影響を受けている可能性があり、その場合、実際に枯死もしくは伐採された年代は、測定結果よりも新しい年代であると考えられる。

農道23号では、SI03の遺物No.炭-23（PLD-27318）が773-884 cal AD（95.4%）、炭化物集中の遺物No.炭-11（PLD-27320）が770-885 cal AD（95.4%）、農道24号Ｗ区のWSI02出土の遺物No.C-4が773-

886 cal AD（95.4%）で、いずれも８世紀後半～９世紀後半の暦年代を示した。これは、奈良時代～平安時代前期に相当する。これらの試料は最終形成年輪が残っておらず、古木効果の影響を受けている可能性がある。

農道23号の炭化物集中から出土した遺物No.炭-5は895-929 cal AD（32.9%）、939-996 cal AD（61.6%）、1008-1011 cal AD（0.9%）で、９世紀末～11世紀前半の暦年代を示した。これは、平安時代前期～中期に相当する。この試料は最終形成年輪が残っており、測定結果は枯死もしくは伐採年代を示している。

参考文献

Bronk Ramsey, C.（2009）Bayesian Analysis of Radiocarbon dates. Radiocarbon, 51（1）, 337-360.

茅野嘉雄（2008）円筒下層式土器．小林達雄編「総覧縄文土器」: 218-225，アム・プロポーション.

工藤雄一郎（2012）旧石器・縄文時代の環境文化史―高精度放射性炭素年代測定と考古学―．373p，神泉社.

中村俊夫（2000）放射性炭素年代測定法の基礎．日本先史時代の^{14}C年代編集委員会編「日本先史時代の^{14}C年代」: 3-20，日本第四紀学会.

Reimer, P.J., Bard, E., Bayliss, A., Beck, J.W., Blackwell, P.G., Bronk Ramsey, C., Buck, C.E., Cheng, H., Edwards, R.L., Friedrich, M., Grootes, P.M., Guilderson, T.P., Haflidason, H., Hajdas, I., Hatte, C., Heaton, T.J., Hoffmann, D.L., Hogg, A.G., Hughen, K.A., Kaiser, K.F., Kromer, B., Manning, S.W., Niu, M., Reimer, R.W., Richards, D.A., Scott, E.M., Southon, J.R., Staff, R.A., Turney, C.S.M., and van der Plicht, J.（2013）IntCal13 and Marine13 Radiocarbon Age Calibration Curves 0-50,000 Years cal BP. Radiocarbon, 55（4）, 1869-1887.

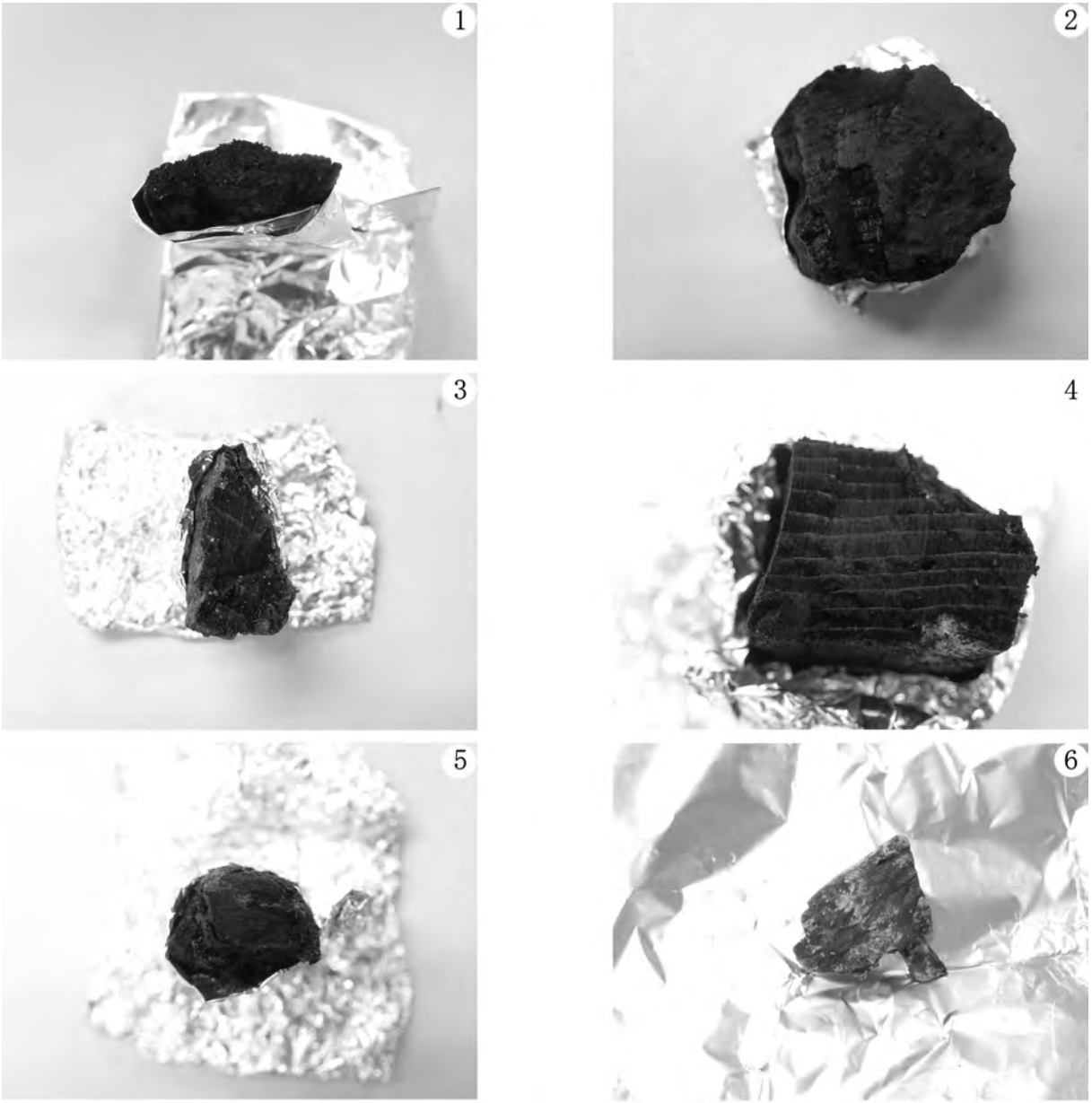


図151　下石川平野遺跡　年代測定試料

１．遺物 No. 炭 -23（PLD-27318）、２．遺物 No. 炭 -5（PLD-27319）、３．遺物 No. 炭 -11（PLD-27320）、
４．遺物 No.C-4（PLD-27321）、５．遺物 No.C-1（PLD-27322）、６．遺物 No. 種 -1（PLD-27323）

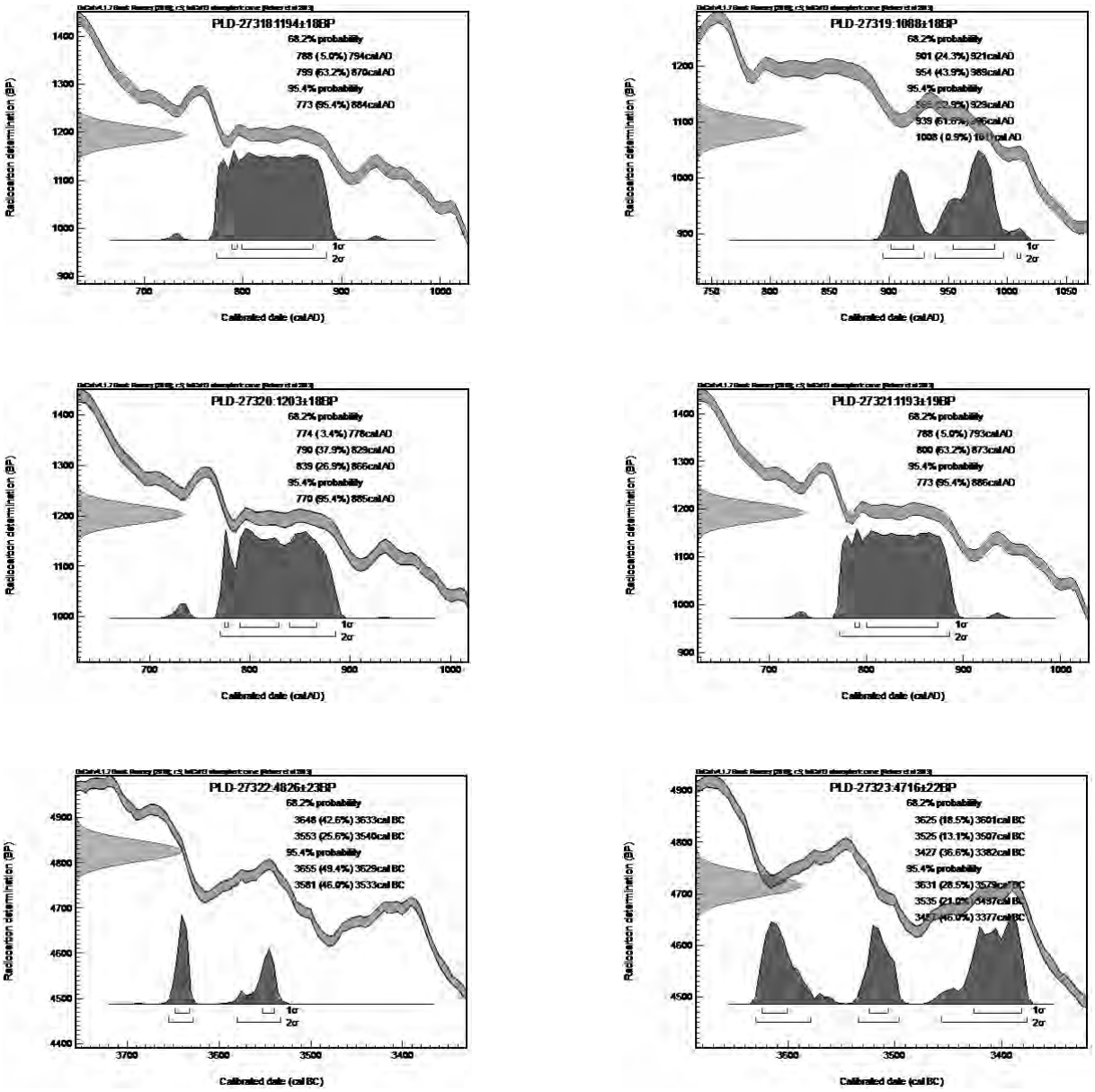

PLD-27318:1194±18BP
68.2% probability
788 (5.0%) 794calAD
799 (63.2%) 870calAD
95.4% probability
773 (95.4%) 884calAD
PLD-27319:1088±18BP
68.2% probability
901 (24.3%) 921calAD
954 (43.9%) 989calAD
95.4% probability
1008 (0.9%)
PLD-27320:1203±18BP
68.2% probability
774 (3.4%) 778calAD
790 (37.9%) 829calAD
839 (26.9%) 866calAD
95.4% probability
770 (95.4%) 885calAD
PLD-27321:1193±19BP
68.2% probability
788 (5.0%) 793calAD
800 (63.2%) 873calAD
95.4% probability
773 (95.4%) 886calAD
PLD-27322:4826±23BP
68.2% probability
3648 (42.6%) 3633calBC
3553 (25.6%) 3540calBC
95.4% probability
3655 (49.4%) 3629calBC
3581 (46.0%) 3533calBC
PLD-27323:4716±22BP
68.2% probability
3625 (18.5%) 3601calBC
3525 (13.1%) 3507calBC
3427 (36.6%) 3382calBC
95.4% probability
Radiocarbon determination (BP)
Calibrated date (calAD)
Calibrated date (calBC)
1σ
2σ

図152　暦年較正結果

第４章　総括

下石川平野遺跡は縄文時代と平安時代の複合遺跡で、青森市西端の青森市浪岡大字下石川字平野に所在する。青森市役所浪岡庁舎の北西約5.5㎞、浪岡市街地から五所川原市の持子沢・原子へと抜ける県道五所川原浪岡線と農免農道樽沢下石川線との交点付近にあたり、農免農道は遺跡中央を東西に貫く。立地は梵珠山南西裾野から延びる丘陵の西端であり、遺跡北側と南側は東西に延びる開析谷によって丘陵が分断されている。遺跡西側は津軽平野に、調査区北側は開析谷に、南側は開析谷を堰きとめた三太溜池に面している。調査区現況はリンゴ畑および農道である。周辺に所在する遺跡では、中平遺跡・寺屋敷平遺跡・上野遺跡の３遺跡が過去に調査されている。中平遺跡は縄文時代の散布地・９世紀前葉～10世紀後葉を中心とする平安時代の集落、寺屋敷平遺跡は縄文時代の散布地・９世紀末～10世紀前半を中心とする平安時代の集落、上野遺跡は縄文時代中期・平安時代（10世紀前半主体）・江戸時代の集落で、上野遺跡からは緑釉陶器や下之切通りと推定される近世街道が検出されている。なお、県道五所川原浪岡線が下之切通り推定ルートである。

今回の調査は県営野沢２期地区畑地帯総合整備事業によるものである。この事業の対象となる調査は広域に、かつ複数地区に及ぶため、工事路線名をそのまま調査区名とした。平成25年度は下石川平野遺跡に所在する農道２本と配水管４本、給水栓１箇所の工事予定地内の調査を行った。遺跡北側区域の中で中央の配水管12～14号、東側の農道23号、西側の農道24号（配水管15号・給水栓10号含む）である。

配水管12～14号は農免農道脇の幅0.5～１ｍ・総延長約600ｍに及ぶ調査区で、遺跡のほぼ中央を東西に貫く。配水管14号は遺構が多く検出されたためほぼ全面を調査したが、12・13号については５ｍ間隔で小規模な区画を設けて調査をし、遺構・遺物が確認されたところはその周辺を拡張した。

農道23号は遺跡東側に南北に延びる調査区で、調査区の南側は三太溜池に面し、北側は農免農道に接している。調査区は、両側を溜池に向かって開析する沢によって区切られた、舌状に突出した南面の小丘陵に位置する。調査区の長さは約250ｍ、幅は北半の道路部分が６ｍ・南半の流末水路部分が50㎝である。

農道24号は遺跡北西側にクランク状に屈曲する調査区で、東西２箇所の調査を行った。調査区の幅は約６ｍ、長さは東側（農道24号Ｅ区）で約150ｍ・西側（農道24号Ｗ区）で約150ｍである。調査区北西端は丘陵崖となっている。南側は農免農道に接している。

以上６地区計3,470㎡を調査し、縄文時代および平安時代の遺構と遺物を検出した。内訳は、竪穴住居跡41軒・土坑128基、溝状土坑１基・土器埋設遺構３基・遺物包含層１箇所・捨て場１箇所、溝跡40条・焼土遺構１基、ピット98基、ピット列１条、掘立柱建物跡５棟、道路状遺構２条で、遺物は土器が段ボール箱で79箱、石器が12箱、合計91箱である。第２章で各地区ごとに記述したため、ここでは時代ごとにまとめる。なお、下石川平野遺跡の調査は平成26年度以降も予定していることから、遺跡全体の総括については次年度以降に改めて行いたい。

第１節　縄文時代の様相

縄文時代の遺構は、竪穴住居跡が配水管14号（SI08）・農道24号Ｅ区（ESI07～09・11・13）、土坑が配水管14号 ・農道23号（SK01）・農道24号Ｅ区 ・農道24号W区、溝状土坑が農道24号W区、焼土遺構が農道24号Ｅ区、埋設土器遺構が農道24号Ｅ区から検出されている。縄文時代の遺物は全調査区で出土しているが、早期以前の遺構・遺物は確認されなかった。主となるのは前期と中期で、その分布は図153のとおりである。

前期は、前葉の表館式～早稲田６類と考えられる土器が配水管13号（遺構外：図12－13）から１点が出土したのみである。中葉～後葉の円筒下層ｂ～ｄ式期が集落の主体で、遺物は全ての調査区から出土しているほか、遺構は特に農道24号Ｅ区（竪穴住居跡・土坑・遺物包含層）と農道24号W区（土坑・捨て場）で検出されている。本遺跡では、口縁部文様帯には単軸絡条体を横位施文もしくは縄文を横走施文し、口縁部文様帯と胴部の境や口縁部直下を側面圧痕で区切った後に口縁部文様帯中を側面圧痕で縦位に区切る土器がある。これらの土器の胴部には単軸絡条体の縦位施文もしくは縄文の縦走施文させ、口縁部文様帯と胴部の境周辺に結束第1種が施されるものが多い。円筒下層ｂ～ｃ式の範疇に収まるものと思われる。

中期の遺構は、農道23号で土坑（SK01：図41）が確認された。出土遺物（図52－80・81）は前葉の円筒上層ｂ式で、周辺のSK03・07も同時期の可能性がある。同型式の土器は農道23号遺構外（図53－88・89）からも出土していることから、農道23号南端周辺には同時期の小集落が営まれていたと推測される。なお、配水管13号では円筒上層ａ式～ｃ式の範疇と推測される土器（遺構外：図12－23）が出土している。

後期の遺構は検出されなかった。遺物もごく僅かで、青森県史の後期３期（後期前葉「十腰内Ｉ群」併行）と思われる土器が、配水管13号（遺構外：図12－24）・配水管14号（遺構外：図27－52）・農道23号（遺構外：図53－90）、農道24号W区（遺構外：図143－260・261・262・263）で数点出土したのみである。

晩期の遺構は、農道24号W区で土坑１基（WSK13：図101）が検出された。出土遺物（図128－116）から青森県史の晩期４期（晩期中葉「大洞Ｃ２式」併行）と推測される。同様の土器は23号（遺構外：図53－91・92）・農道24号Ｅ区（ESI03：図79－35）からも出土している。

なお、遺物が出土していないため詳細な時期は不明であるが、農道24号W区から溝状土坑が検出されていることから、農道24号W区周辺は縄文時代に狩猟場として利用されていた時期もある。

第２節　平安時代の様相

平安時代の遺構は、竪穴住居跡・土坑・溝跡が配水管13・14号・農道23号・農道24号Ｅ区・農道24号W区で検出された。平安時代の集落は図154にあるとおり配水管13号西端区域 ・配水管14号西端区域・農道23号北半区域と流末水路南部区域・農道24号Ｅ区と配水管14号東半・農道24号W区域に分散している。また、配水管13・14号・農道23号・農道24号Ｅ区では遺構の重複があまりなく、遺物や火山灰の堆積状況から白頭山苫小牧火山灰降下以前の年代が考えられるのに対し、農道24号W区では重複が激しく、住居の掘り込みも浅いことから、白頭山苫小牧火山灰降下以降と推測される。なお、配水管13・14号で検出された竪穴住居跡は、位置関係から農道24号Ｅ区と同一の集落である。遺物は平成25年度の調査区全てから出土している。

土師器には坏・甕・羽釜（農道23号SI03：図46－18、農道24号W区WSD01図：133－175）・堝・皿（農道24号W区WSK09：図127－106／遺構外：図143－264）・小杯がある。

坏はロクロ整形底部無調整のものが主体であるが、内黒処理をするもの（農道23号SI03：図46－６・７／SI04：図49－48／SI05図51－73、農道24号Ｅ区ESI10：図85－90、農道24号W区WSK06：図125－88・89／WSD09図135－200）、墨書があるもの（農道24号W区WSI14：図124－80）、大型のもの（農道24号W区遺構外：図143－266）、灯明皿として使用されたもの（農道23号SI03：図46－９・11／農道24号W区遺構外：図143－265）がある。

甕はロクロ整形のものと非ロクロ整形のものとがあり、特に前者には胴部上半にタタキ痕が観察されるもの（配水管14号SI01：図24－７、農道24号W区WSK25：図129－138／WSD01：図133－178）がある。丸底であれば出羽甕であるが、いずれも底部を欠損するため不明である。また、底部に莚（莚）痕をもつもの（農道24号W区WSI08：図123－63／WSK34：図130－152／WSD18図138－223）や木葉痕をもつもの（配水管12号遺構外：図７－６、農道24号Ｅ区ESI03：図79－32）もごく少数であるが存在する。

須恵器には皿（農道23号SI03：図47－28）・坏・長頸壺・壺・鉢・甕・小壺がある。坏・長頸壺・甕のほとんどに刻書が施されている。坏の中には、見込み（内面）にスリ痕を有する転用硯と思われるもの（農道23号SI04：図50－65・66、農道24号W区WSK11図127－111／WSD19図136－213）がある。農道24号W区WSK45から出土した小壺（図131－164）内には炭化種子（ダイズ・アズキ・ササゲ属アズキ亜属）が収められていた。本遺跡は五所川原窯跡群のＫＹ１号窯に直線で900mと近く、WSI12で窯壁片と考えられるものが出土しており、下石川平野遺跡周辺にも窯跡の存在する可能性を示唆している。

土製品では、土鈴（農道23号SI03図48－36～38・農道24号W区WSD11図136－206）、土玉（農道23号SI03図48－39～42・図51－79・遺構外図53－99）のほか、縄文土器の底部を紡錘車に転用したと思われるもの（農道24号Ｅ区ESI05：図79－41）がある。

鉄関連遺構は検出されなかったものの、鉄製品（農道23号SI03：図48－46・47）、鞴羽口（配水管14号遺構外：図28－71・農道23号SI03遺構外：図53－96・農道24号Ｅ区ESI10：図85－101）のほか、掲載しなかったが鉄滓が少量出土している。

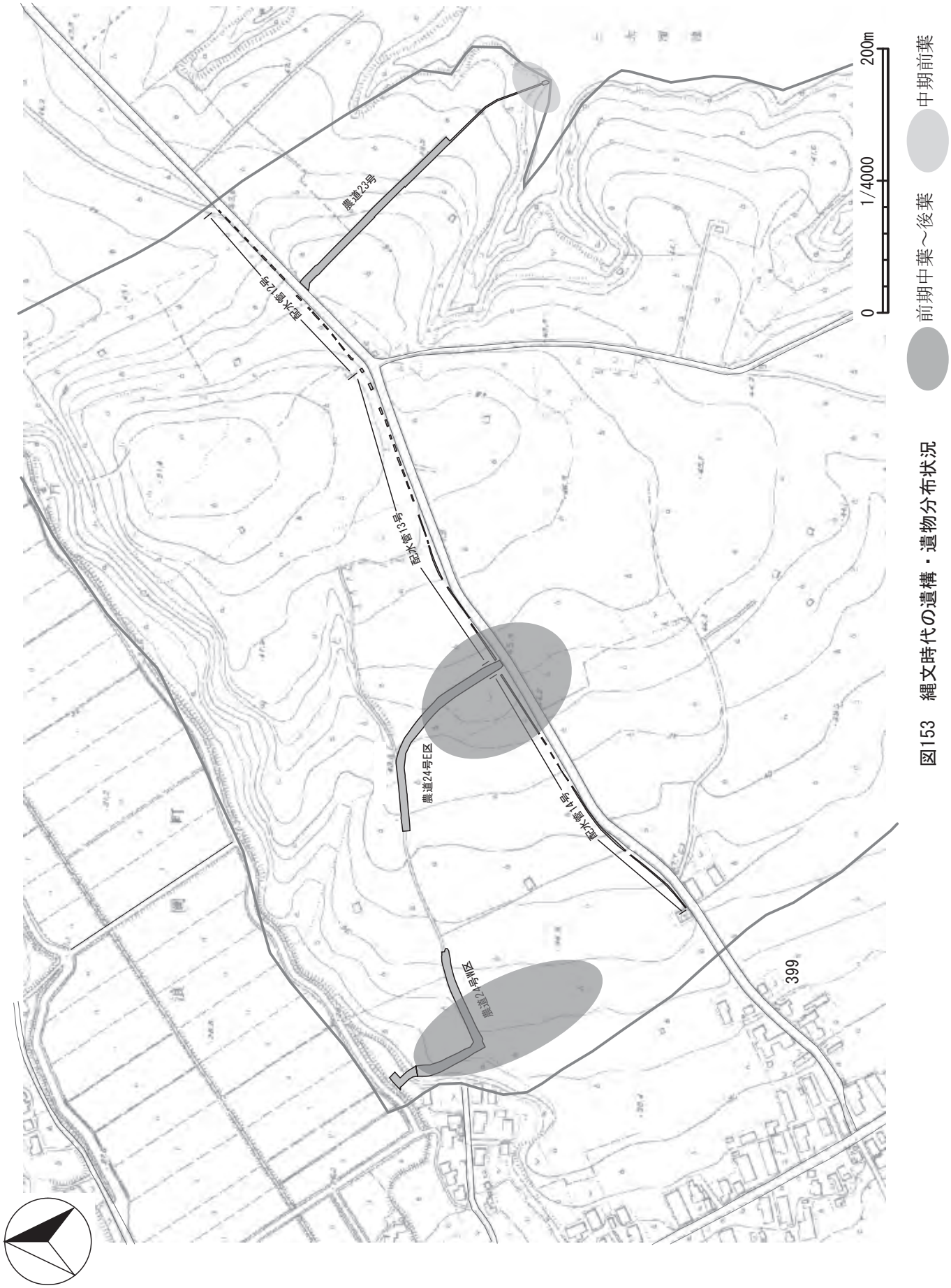


図153　縄文時代の遺構・遺物分布状況

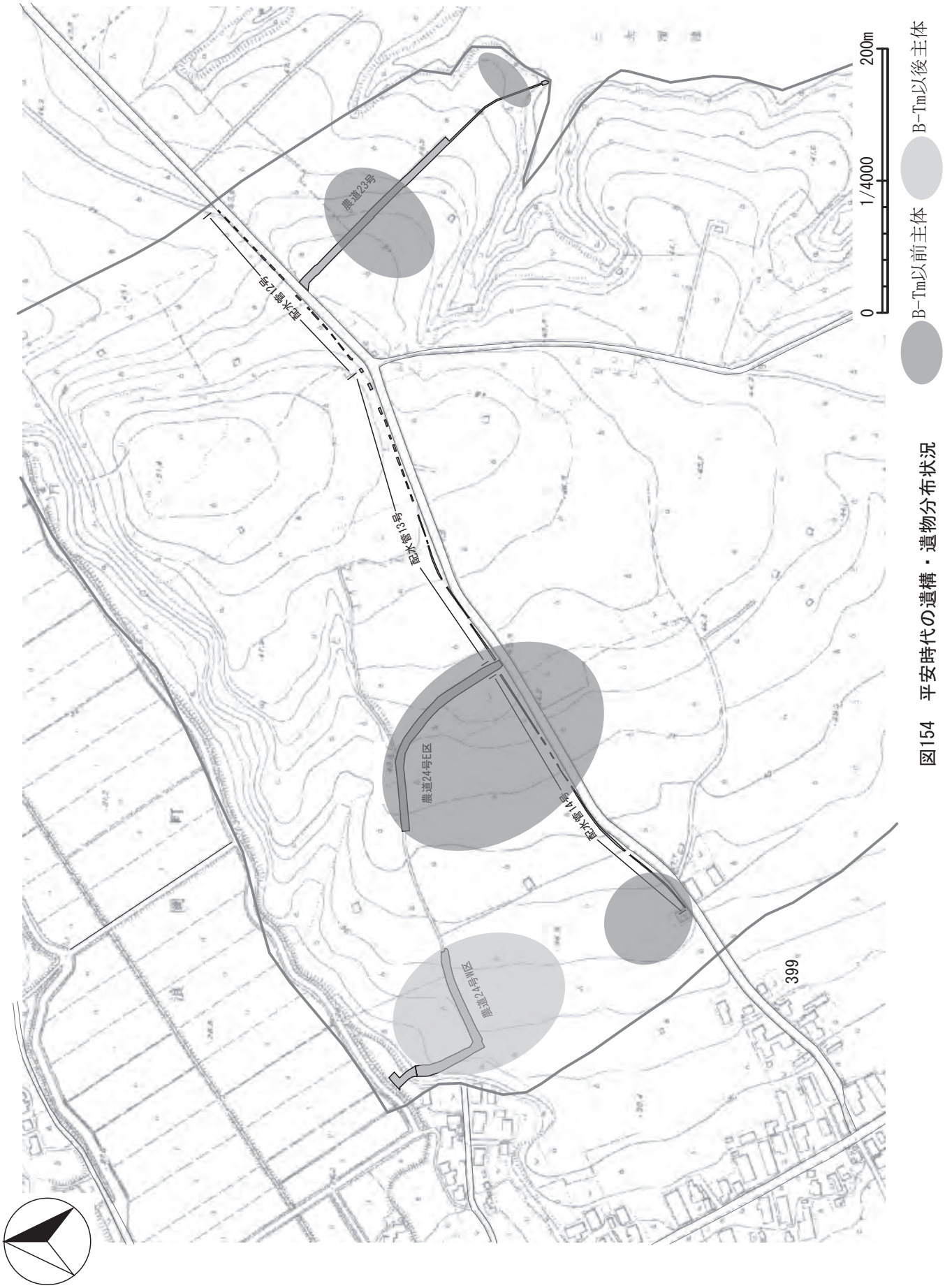
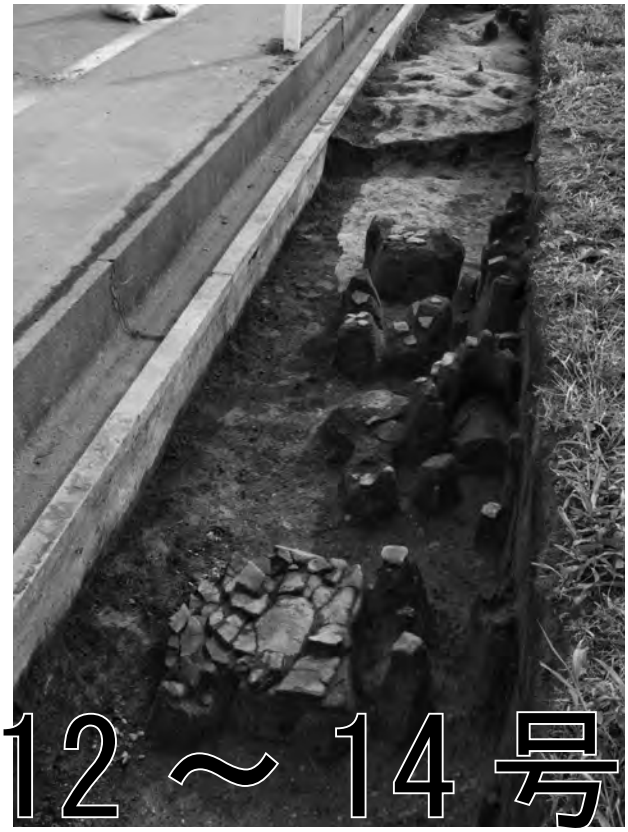


図154　平安時代の遺構・遺物分布状況

引用・参考文献

青森県　2002『青森県史』別編　三内丸山遺跡
青森県　2013『青森県史』資料編　考古２　縄文後期・晩期
青森県教育委員会　2007『二股（２）遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第437集
青森県教育委員会　2008『寺屋敷平遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第450集
青森県教育委員会　2009『中平遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第474集
青森県教育委員会　2010『上野遺跡Ⅱ』青森県埋蔵文化財調査報告書第486集
青森県教育委員会　2010『中平遺跡Ⅱ』青森県埋蔵文化財調査報告書第490集
青森県教育委員会　2012『中平遺跡Ⅲ』青森県埋蔵文化財調査報告書第518集
青森県教育委員会　2012『青森県遺跡詳細分布調査報告書24』青森県埋蔵文化財調査報告書第523集
青森県教育委員会　2013『青森県遺跡詳細分布調査報告書25』青森県埋蔵文化財調査報告書第536集
青森県教育委員会　2014『青森県遺跡詳細分布調査報告書26』青森県埋蔵文化財調査報告書第549集
五所川原市教育委員会　2003『五所川原須恵器窯跡』五所川原市埋蔵文化財調査報告書第25集
五所川原市教育委員会　2005『KY 1号窯跡「五所川原須恵器窯跡」における初現期窯跡の発掘調査報告書』
五所川原市埋蔵文化財調査報告書第26集
東北古代土器研究会　2008『研究報告４　東北古代土器集成―須恵器・窯跡編―〈出羽〉』
石岡憲雄　1999「東北地方　前期（円筒下層式）」『縄文時代』第10号 縄文時代文化研究会
伊藤博幸　2006「陸奥型甕・出羽型甕・北奥甕型―東北地方の平安期甕の製作技法論を中心に―」
吉岡康暢先生古希記念論集『陶磁器の社会史』桂書房
上手真基　他　2010「男鹿半島、二ノ目潟・三ノ目潟湖底堆積物の年稿構造と白頭山―苫小牧火山灰（B-Tm）の降灰
年代」『地質学雑誌』第116巻　第７号
岡本　洋　2007「円筒下層式の細分―青森市二股（２）遺跡の調査から―」
『円筒土器文化の諸問題』研究発表会資料集　青森県考古学
奥野　充　2002「白頭山－苫小牧（B-Tm）テフラの年代学的研究－正確な年代決定のために－」
『名古屋大学加速器質量分析計業績報告書 』13
上條信彦　2014「『扁平石器』の形態分布からみた円筒土器文化圏の動態―半円状扁平打製石器、抉入扁平打製
石器、抉入扁平磨製石器を中心に―」『青森県考古学』第22号　青森県考古学会
下山信昭　1996「東北地方における土鈴集成」『研究紀要』第１号　青森県埋蔵文化財調査センター
茅野嘉雄　2004「円筒土器様式の地域性と周辺土器様式との接触について」
『特別史跡三内丸山遺跡年報』７　青森県教育委員会
茅野嘉雄　2008「円筒下層式土器」『総覧　縄文土器』（株）アム・プロモーション
中嶋友文　2008「古代の土鈴―青森県内の遺跡から出土した土鈴―」
『青森県考古学』第16号　青森県考古学
中村俊夫　2005「中国－北朝鮮国境に在する白頭山の10世紀の噴火の高精度年代決定」
『埋没樹木の14Ｃ年代ウイグルマッチングによる火山噴火の高精度年代決定』
平成13－15年度科学研究費補助金（基盤研究（Ｂ）（１））研究成果報告書
福澤仁之　他　1998「年縞堆積物を用いた白頭山－苫小牧火山灰（B-Tm）の降灰年代の推定」『汽水域研究』５
古川一明　2014「古代東北地方における特殊な形態の煮炊用土器について」
『東北歴史博物館研究紀要』15　東北歴史博物館
三宅徹也　1989「円筒土器下層様式」『縄文土器大観』１　小学館
八木光則　2006「陸奥北半における轆轤土師器の導入」扁
吉岡康暢先生古希記念論集『陶磁器の社会史』桂書房



配水管 12 ～ 14 号

写真図版

写真 1　配水管 12 ～ 14 号　調査風景等

SD01 セクション　ＳＷ→

SD01 完掘　ＳＷ→

H12-50 ～ 60 グリッド完掘　ＳＷ→

H12-30 グリッド付近調査風景　ＮＥ→

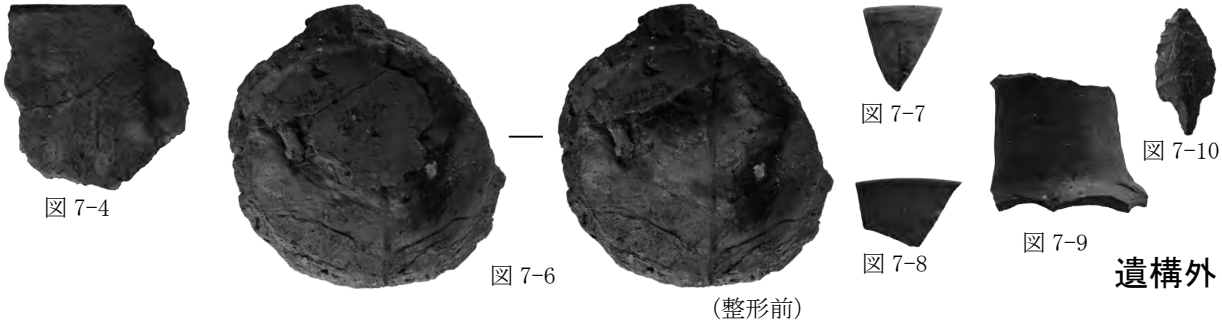


写真 2　配水管 12 号と出土遺物

SI01 セクション　ＳＷ→

SI01 セクション　ＳＥ→

SI01 遺物出土状況　Ｎ→

SI01 完掘　Ｎ→

SK01 セクション・完掘　Ｓ→

SD01 セクション・完掘　Ｓ→

H13-42 完掘　ＳＷ→

写真３　配水管 13 号

図 11-1

図 11-2

図 11-3

図 11-5

SI01

図 11-6

図 11-7

図 11-8

SK01

図 11-10

図 11-11

SD01

図 12-13

図 12-14

図 12-16

図 12-17

図 12-23

図 12-24

図 12-25

図 12-26

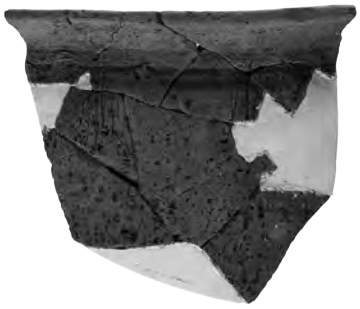


図 12-28

図 12-30

図 12-33

図 12-27

図 12-37

図 12-38

図 12-39

図 12-40

遺構外

写真 4　配水管 13 号　出土遺物

SI01 完掘　ＳＷ→

SI02 完掘　ＳＷ→

SI01 セクション　ＳＷ→

SI01 遺物出土状況・火山灰範囲検出状況　ＮＥ→

SI02 セクション　ＳＥ→

写真５　配水管 14 号（１）　SI01･02

SI03 セクション　S→

SI04 掘り方完掘　SW→

SI04 遺物出土状況　SW→

SI04 カマド完掘　SE→

SI04 セクション　SE→

写真 6　配水管 14 号（2）　SI03･04

SI05、SK09 完掘　ＳＷ→

SI06 完掘　ＳＷ→

SI07 完掘　ＳＷ→

SI05、SK09 セクション　ＳＥ→

SI06 セクション　ＳＥ→

SI07 セクション　ＳＥ→

写真７　配水管 14 号（３）　SI05･06･07

SI08 完掘　ＳＷ→

SI08 遺物出土状況　ＮＥ→

SI08 セクション　ＳＥ→

SI08（図 25-15・17・18）出土状況　ＳＥ→

SI08（図 25-16）出土状況　ＳＷ→

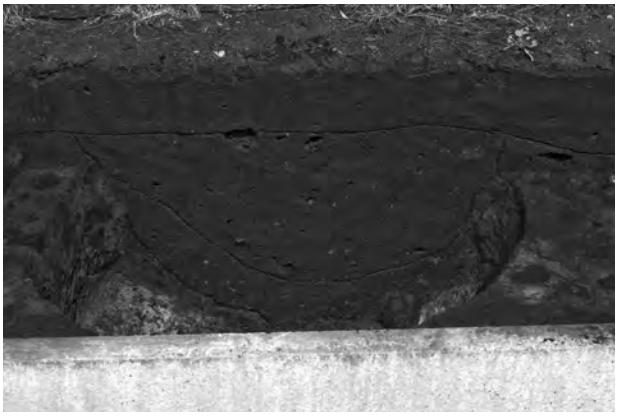
写真 8　配水管 14 号（４）　SI08

SI09、SK12 セクション　ＳＥ→

SI10、SK13 セクション　ＳＥ→

SK01 セクション・完掘　ＳＥ→

SK02 セクション・完掘　ＳＥ→



SK03 セクション・完掘　ＳＥ→

SK04 セクション・完掘　ＳＥ→

写真 9　配水管 14 号（５）　SI09･10、SK01 ～ 04・12・13

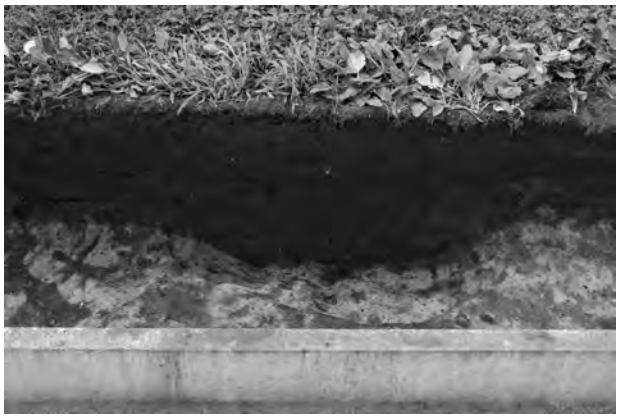
SK05 セクション・完掘　ＳＥ→

SK06 セクション　Ｓ→

SK07、SD04 セクション・完掘　ＳＥ→

SK08 セクション・完掘　ＳＥ→

SK09 セクション・完掘　ＳＥ→



SK10 セクション・完掘　ＳＥ→

SK11 セクション・完掘　ＳＥ→

SD01 セクション・完掘　ＳＥ→

写真 10　配水管 14 号（６）　SK05 ～ 11、SD01・04

SD02 セクション・完掘　ＳＥ→

SD03 セクション・完掘　ＳＥ→

SD05 セクション・完掘　ＳＥ→

SD06 セクション・完掘　ＳＷ→

調査風景　ＮＥ→

調査風景　ＳＷ→

写真 11　配水管 14 号（７）　SD02・03・05・06、調査風景

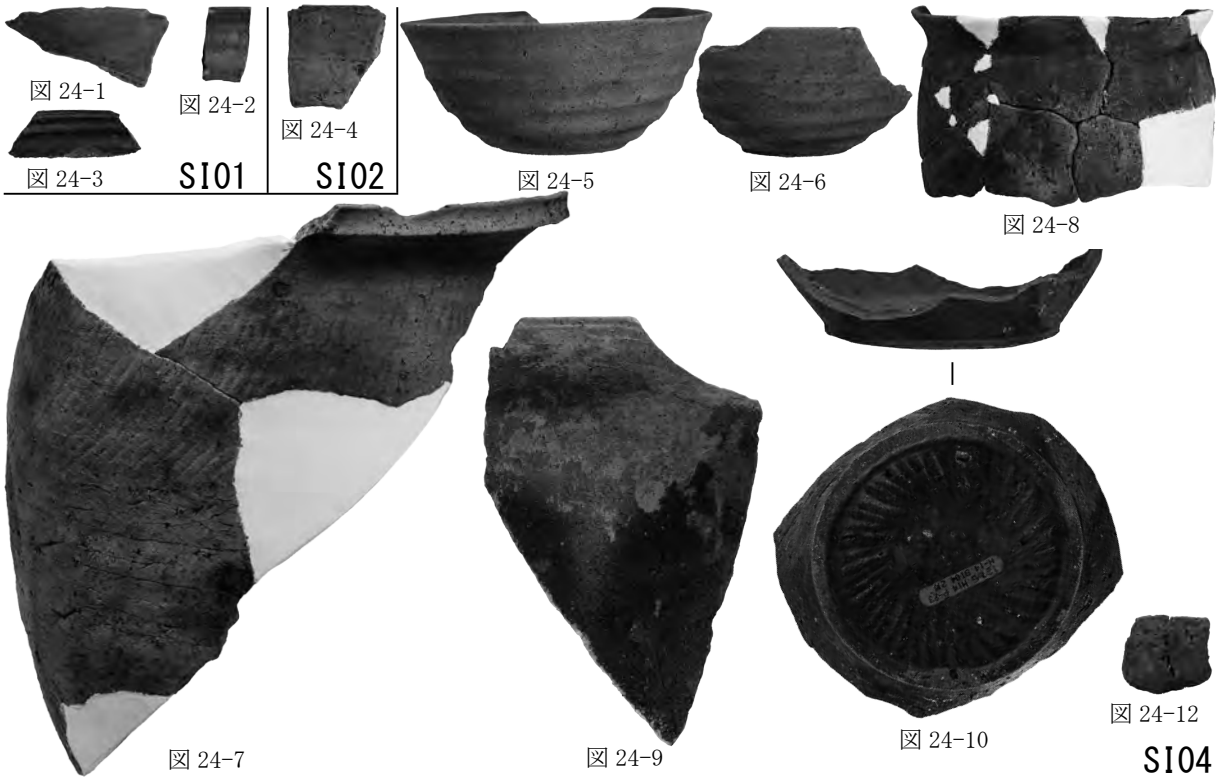


写真 12　配水管 14 号　出土遺物（1）

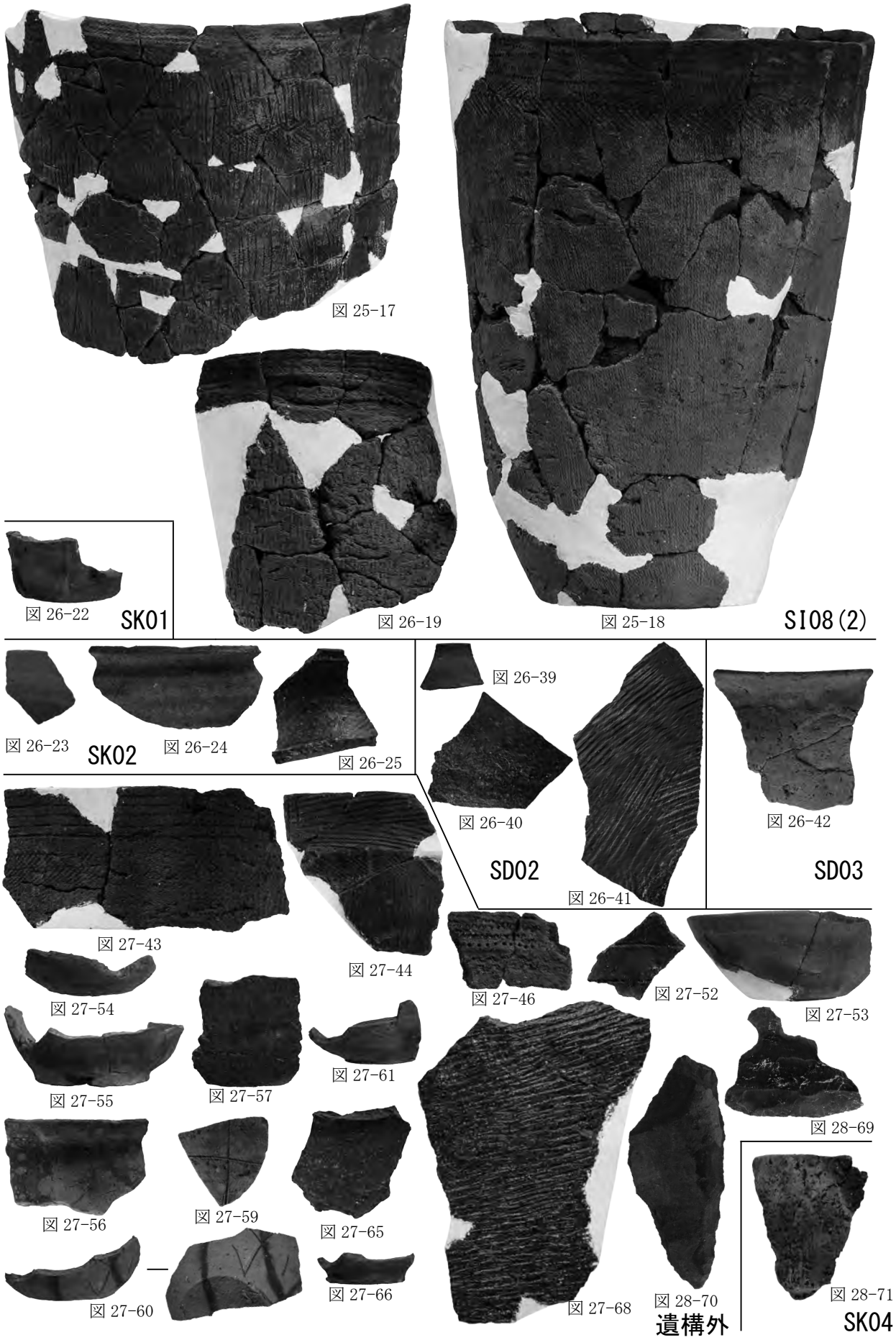


写真 13　配水管 14 号　出土遺物（２）

農道 23 号 写真図版

写真 14　農道 23 号　調査風景

農道 23 号空中写真　ＳＷ→

農道 23 号空中写真　ＮＷ→

農道 23 号空中写真　ＳＥ→

農道 23 号　遠景　Ｎ→

農道 23 号　基本土層　ＮＥ→

写真 15　農道 23 号（１）　空中写真・遠景・基本層序

SI01 完掘　NW→

SI01 セクション　NW→

SI01 カマド完掘　NW→

SI01 カマド B-B’ セクション　NW→

SI01 カマド A-A’ セクション　W→

SI01 カマド芯材 C-C’ 袖セクション　N→

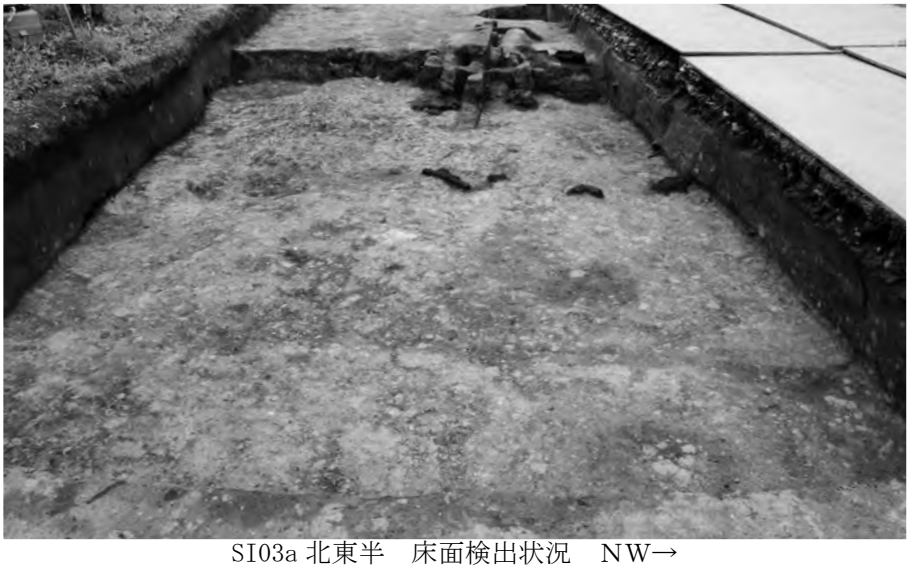
写真 16　農道 23 号（２）　SI01

SI02・SK02 完掘　完掘　N→

SI02・SK02　セクション　W→

SI03 検出状況　　NW→

SI03a　炭化材・床面遺物出土状況　NW→



SI03a 北東半　床面検出状況　NW→

SI03a 南西部、SK10・11
床面検出状況　NW→

SI03a カマド　NW→

SK10 セクション　NW→

SK11 セクション　NW→

写真 17　農道 23 号（３）　SI02・SK02、SI03a(1)・SK10・11

SI03a カマド遺物出土状況　　NW→

SI03a カマド付近遺物出土状況　　NW→

SI03a　炭化材（腰板）・遺物出土状況　NW→

SI03a　カマド煙道部ピット検出状況　W→

SI03a　土鈴（図 48-36・37）出土状況　N→

SI03a　土鈴（図 48-38）出土状況　N→

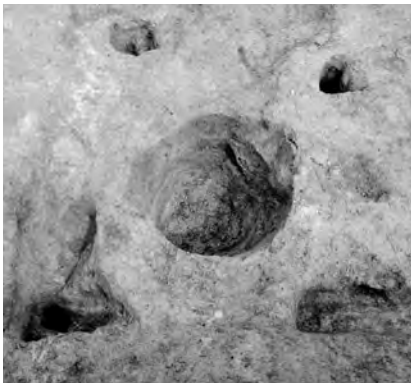
SI03a 掘り方（SI03b 壁溝検出）状況　NW→

SI03a 南西部掘り方　NW→

写真 18　農道 23 号（４）　SI03a(2)･SI03b

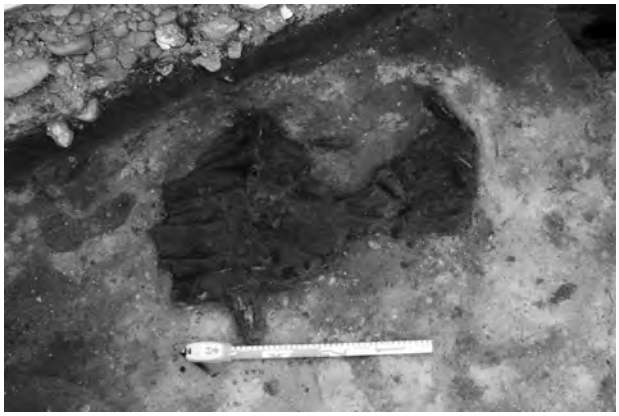
Pit 1　柱痕完掘　ＮＥ→

Pit 1　掘り方セクション　N→



Pit 1　完掘　E→

23-9 グリッド遺物出土状況　E→



23-10 グリッド炭化物出土状況　E→

炭化物集中地点と SK09 の検出状況
ＳＥ→

SK09　完掘　ＳＷ→

SK09 セクション　S→

炭化物・遺物集中地点調査状況　ＳＷ→

SI03 南西部・SB04 調査風景　ＮＷ→

写真 19　農道 23 号（５）　SI03・遺物集中地点・SK09

SI04 完掘　　NW→

SI04 検出状況　NW→

SI04　B-Tm 検出状況　NW→

SI04 遺物出土・粘土等堆積状況　　SW→

SI04 セクション　W→

SI04 ピット・間仕切り溝等　完掘　SW→

SI04 張出部セクション　SE→

SI04 張出部完掘　NW→

写真 20　農道 23 号（6）　SI04

SI04 カマド完掘　　NW→

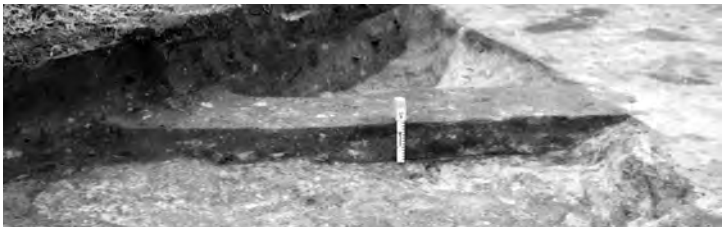
SI04 カマド堆積状況　NW→

SI04 カマド遺物出土状況　NW→

SI04 カマド掘り方完掘　　NW→

SI04 掘り方・SB03 周辺完掘　NW→

SI05　床面検出状況　N→

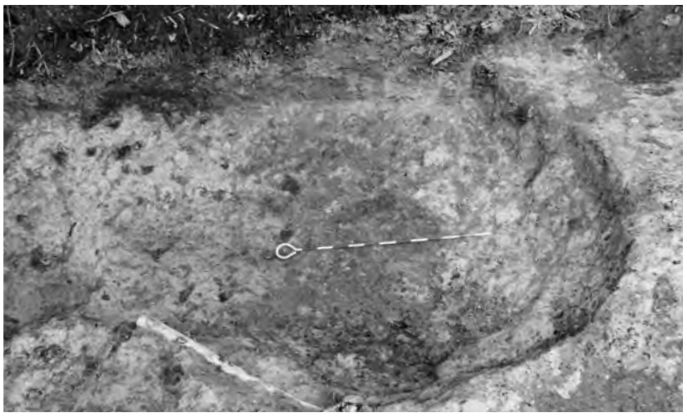


SI05 セクション　　E→

SI05 掘り方・セクション　ＮＥ→

SI05 遺物出土状況　N→

写真 21　農道 23 号（７）　SI04（２）・SI05



SK01 完掘　E→

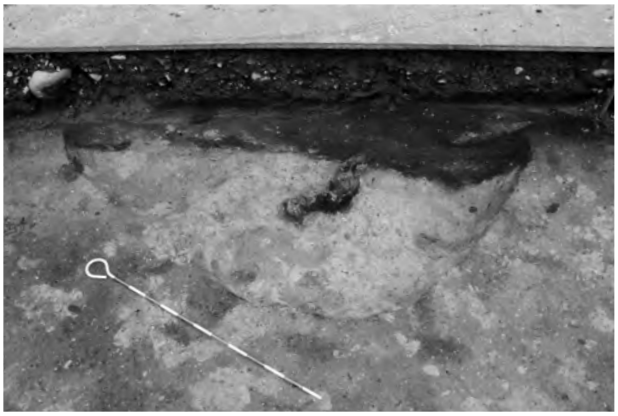
SK01 セクション・付け足し　E→

SK01 遺物出土状況　E→

流末水路南東端部完掘　　N→

SK03 完掘　ＳＥ→

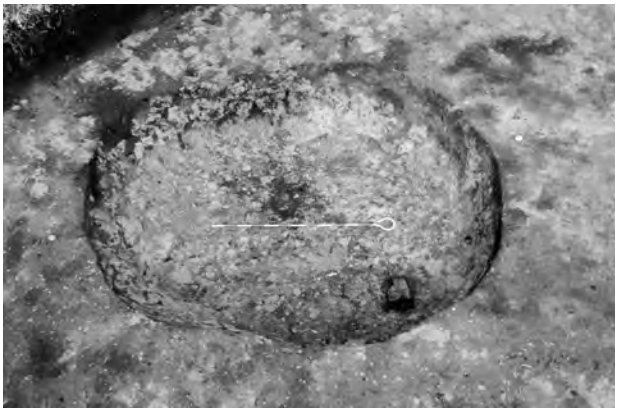
SK03 セクション　E→



SK04 東半焼土検出状況　ＮＥ→

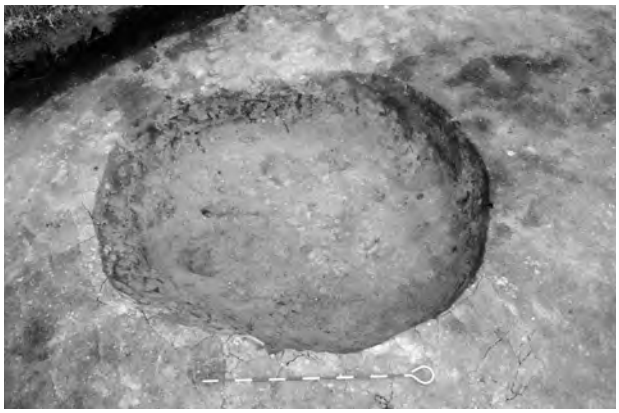
SK04 セクション　ＳＷ→

写真 22　農道 23 号（８）　土坑（１）



SK05 底面検出・遺物出土状況　W→

SK05 セクション　W→



SK05 掘り方完掘　W→

SK05 掘り方セクション　W→

SK06 セクション・完掘　ＳＷ→

SK06 焼土等検出状況　ＮＥ→

SK07 セクション・完掘　Ｅ→

SK07 調査風景　Ｎ→

写真 23　農道 23 号（９）　土坑（２）

SK08 粘土出土状況　ＮＥ→

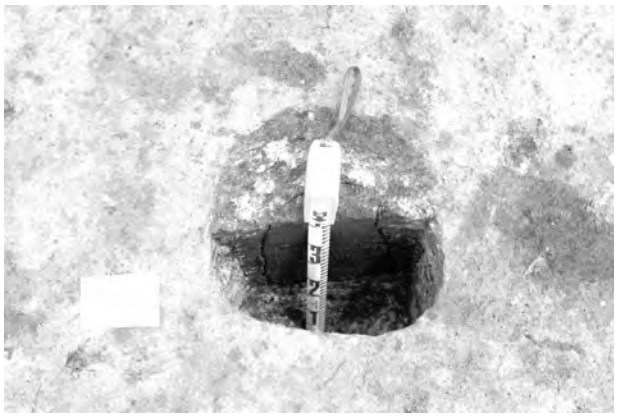
SK08 セクション　ＮＥ→

SK12･SP05 完掘　Ｅ→

SK12･SP05 セクション　Ｅ→

SB01･SB02 完掘　ＳＷ→

SB01Pit1･SB02Pit1 セクション　Ｓ→



SB01Pit3 セクション　ＳＷ→

SB03 完掘　ＳＥ→

写真 24　農道 23 号（10）　土坑（３）・掘立柱建物跡

SD02 北東半底面検出状況　ＳＷ→

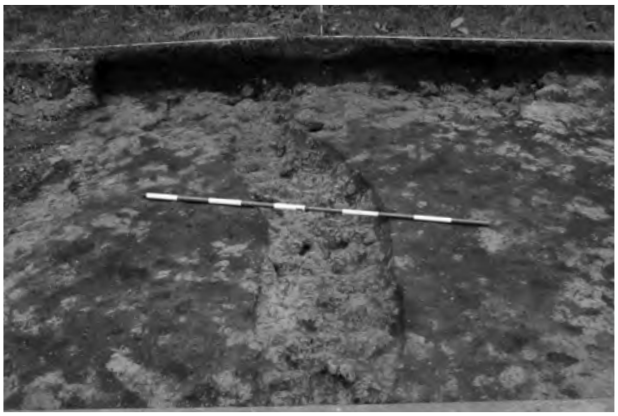
SD01･02 北東半掘り方完掘　ＳＷ→

SD02 B-Tm 火山灰検出状況　ＳＷ→

SD01･02 南西半掘り方完掘　ＮＥ→

SD01･02 セクション　ＮＥ→

SF01 東半完掘　W→



SF02 東半完掘　ＳＷ→

SF02 西半・起点部完掘　ＮＷ→

写真 25　農道 23 号（11）　溝跡・道路状遺構

23-1 ～ 8 グリッド北東半完掘　NW→

23-8 ～ 12 グリッド北東半調査風景　ＳＥ→

23-16 ～ 23 グリッド調査風景　NW→

23-23 ～ 32 ｸﾞﾘｯﾄﾞ完掘　NW→

流末水路 R1 ～ R8 完掘　ＳＥ→

流末水路 R8 ～ R11 完掘　Ｓ→

流末水路 R11 ～ R17 完掘　Ｓ→

流末水路 R17 終点部完掘　Ｓ→

写真 26　農道 23 号（12）　調査区完掘等

図 45-1

図 45-3

SI01

図 45-2

図 46-4

図 46-5

図 46-6

図 46-7

図 46-8

図 46-9

図 46-10

図 46-11

図 46-12

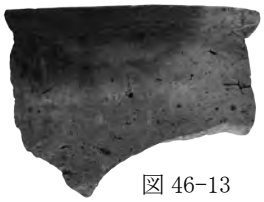


図 46-13

図 46-14

図 46-15

SI03(1)

図 46-16

写真 27　農道 23 号　出土遺物（1）

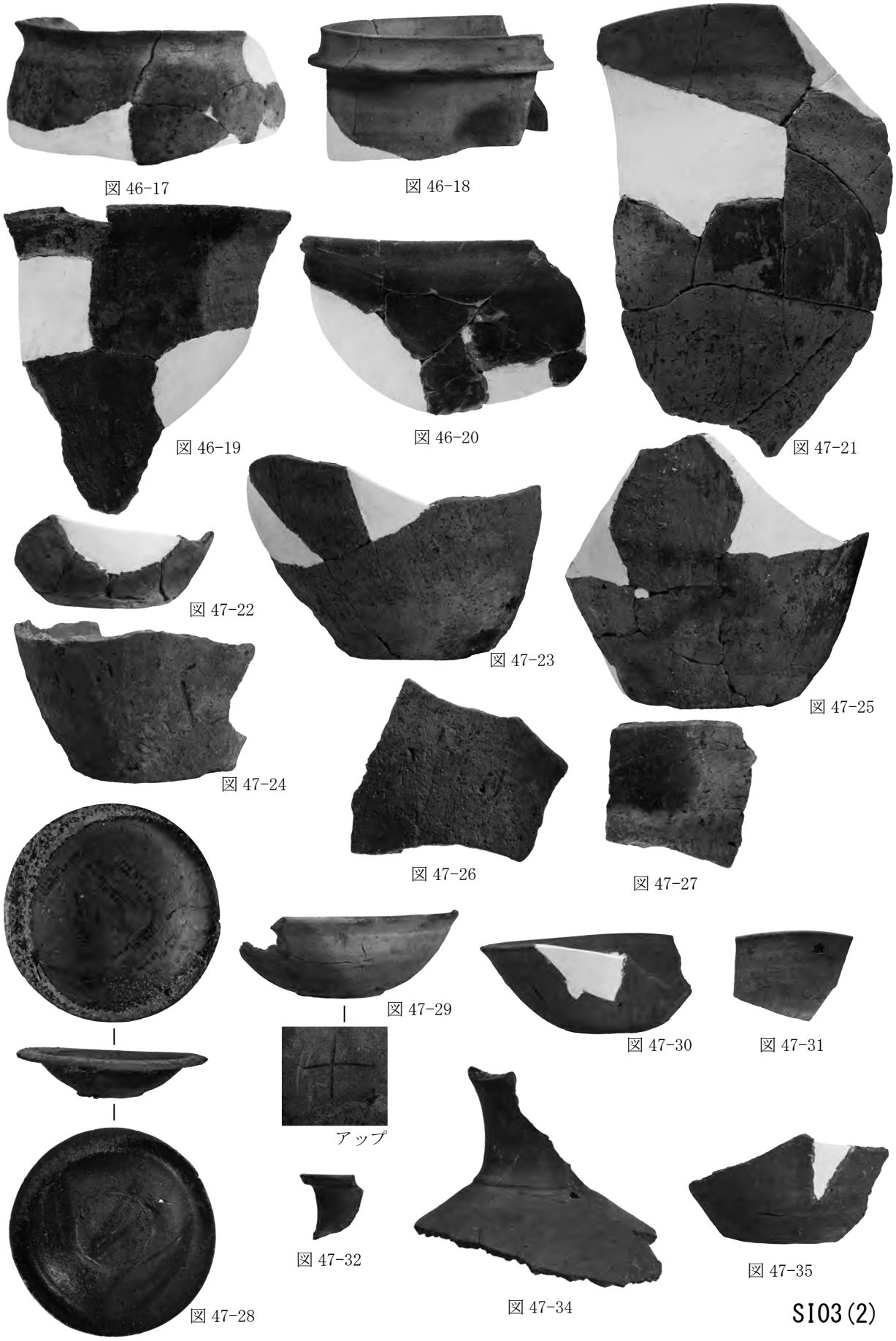


写真 28　農道 23 号　出土遺物（２）

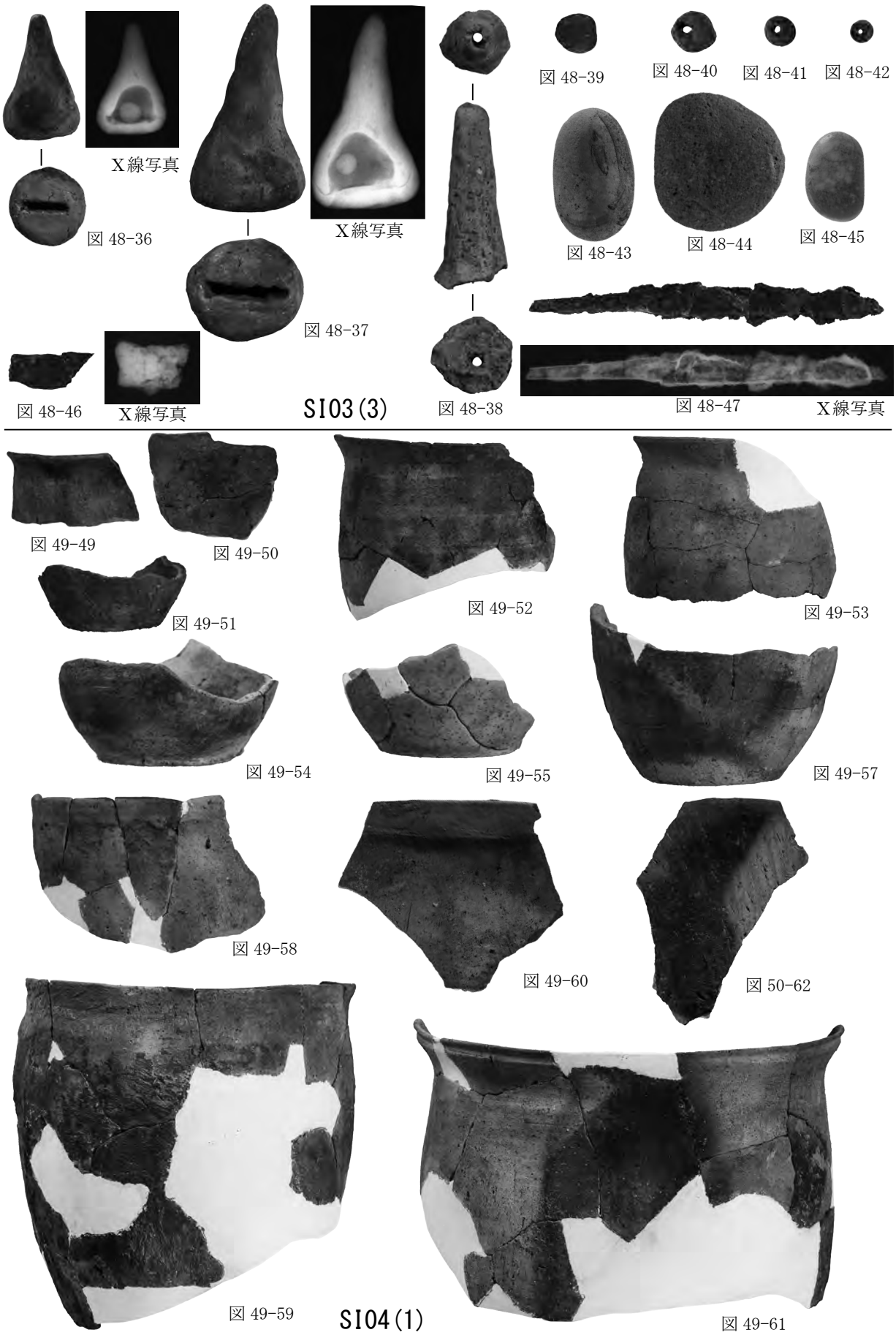


写真 29　農道 23 号　出土遺物（３）

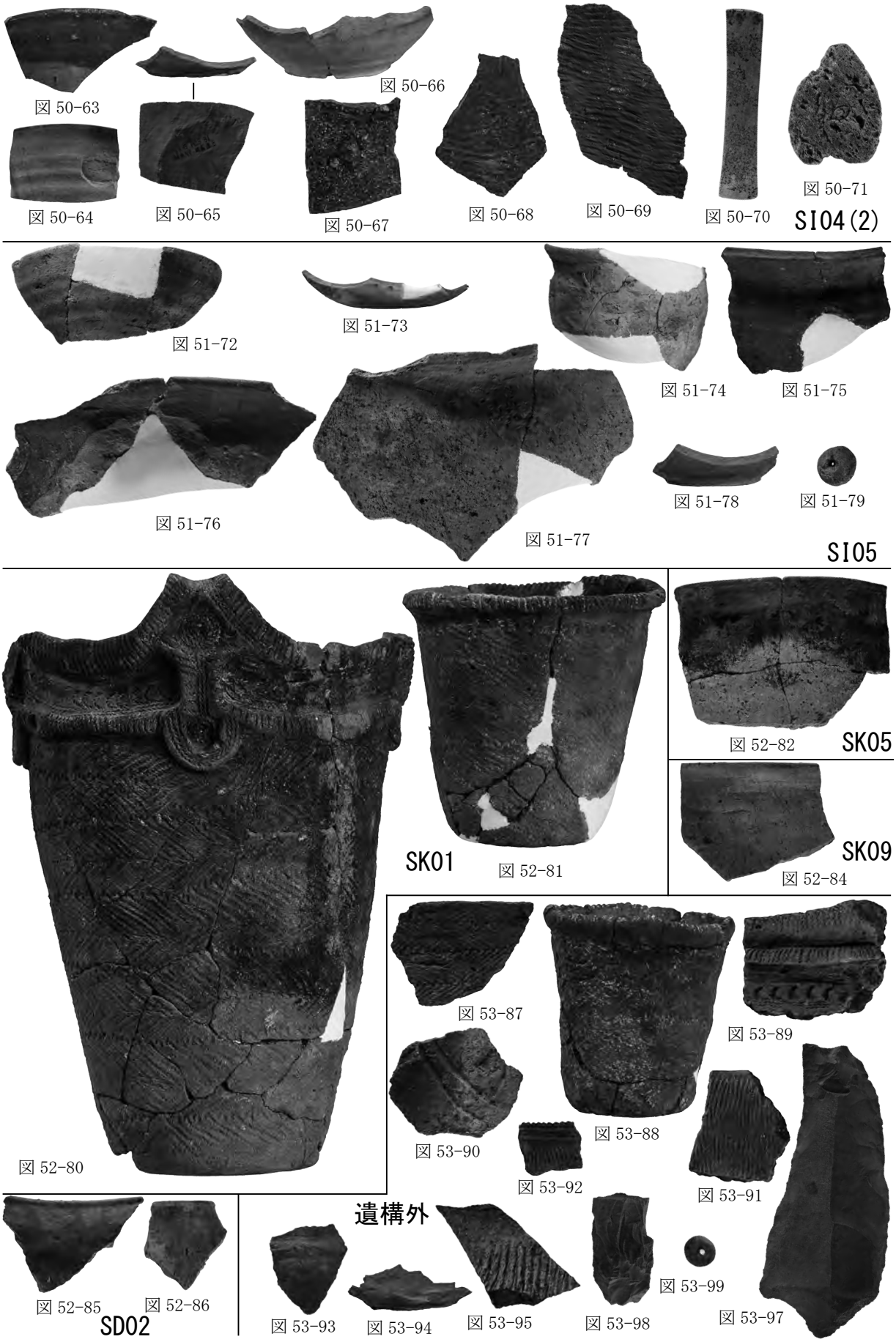


写真 30　農道 23 号　出土遺物（4）

東から岩木山を望む

農道 24 号写真図版

上方が北

写真 31　農道 24 号　全景

農道24号E区
写真図版

写真32　農道24号E区　調査風景等

ESI01 完掘　NW→

ESI01 遺物出土状況　W→

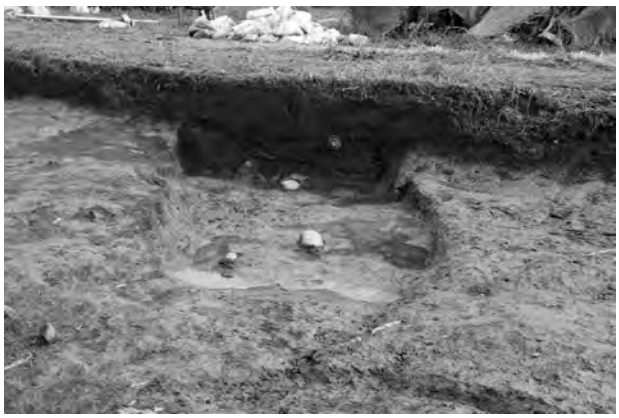
ESI01 東西セクション　N→

ESI01 南北セクション　W→

ESI01 カマド完掘　NW→

ESI01 カマドセクション　NW→

ESI01 付属施設（ESI04）セクション　S→



ESI01 付属施設（ESD05）セクション　N→

写真 33　農道 24 号Ｅ区（１）　ESI01・ESI01 付属施設

ESI02 完掘　NW→

ESI02 東西セクション　NW→

ESI02 南北セクション　NE→

ESI02 カマド完掘　NW→

ESI02 Pit3 完掘　E→

写真 34　農道 24 号Ｅ区（２）　ESI02

ESI03 セクション　ＮＥ→

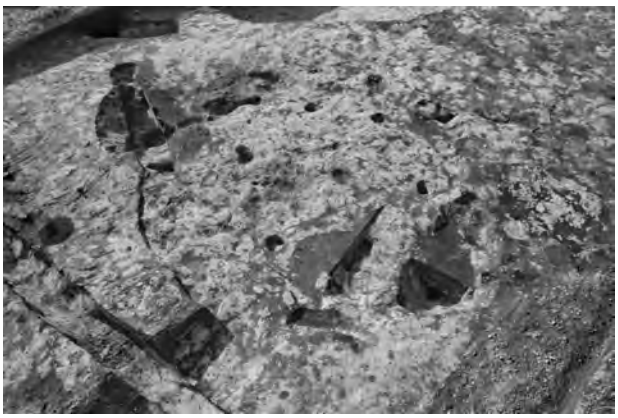
ESI03 完掘　ＮＥ→

ESI05 セクション　Ｅ→

ESI05 遺物出土状況　Ｅ→

ESI07 セクション　ＮＷ→

ESI07 完掘　ＮＥ→



ESI08 完掘　ＳＥ→

ESI08 セクション　ＳＥ→

写真 35　農道 24 号Ｅ区（３）　ESI03・05・07・08

ESI06 完掘　NW→

ESI06 カマド完掘　NW→

ESI06 セクション　SW→

ESI06 カマド火床面セクション　NW→

ESI06 カマドセクション　SW→

ESI09 完掘　NE→

ESI09 南北セクション　NE→

写真 36　農道 24 号E区（4）　ESI06・09

ESI10・11 完掘　ＮＥ→

ESI10 セクション　ＮＥ→

ESI11 セクション　Ｅ→

ESI12 完掘　ＮＷ→

ESI13 東西セクション　Ｎ→

ESI13 南北セクション　Ｅ→

ESI13 完掘　Ｎ→

調査区南東端検出状況　ＮＷ→

写真 37　農道 24 号Ｅ区（５）　ESI10 ～ 13

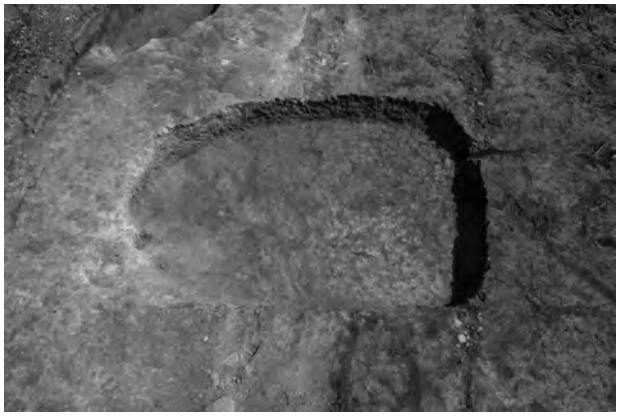
ESK01 セクション　N→

ESK02 セクション　N→

ESK03 セクション・完掘　N→

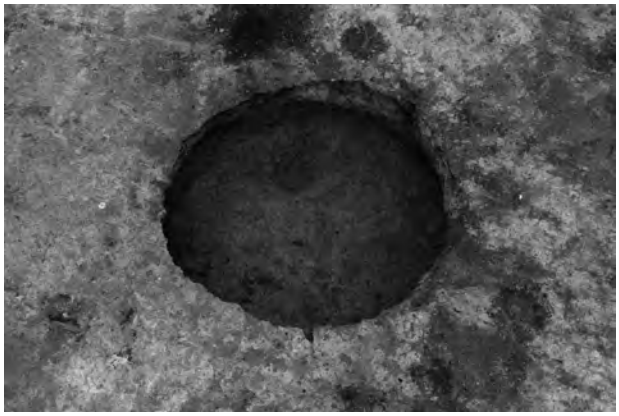
ESK05 セクション・完掘　S→

ESK06 セクション　N→



ESK06 完掘　W→

ESK09 セクション　SW→



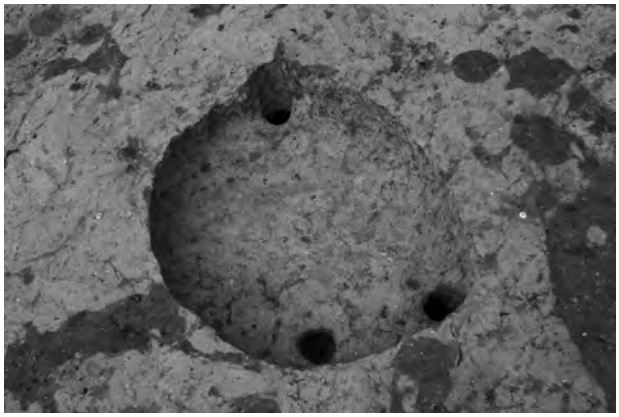
ESK09 完掘　SW→

写真 38　農道 24 号Ｅ区（６）　ESK01 ～ 03・05・06・09

ESK10 遺物出土状況　W→

ESK10 完掘　N→

ESK11 セクション　ＳＷ→



ESK11 完掘　ＳＷ→

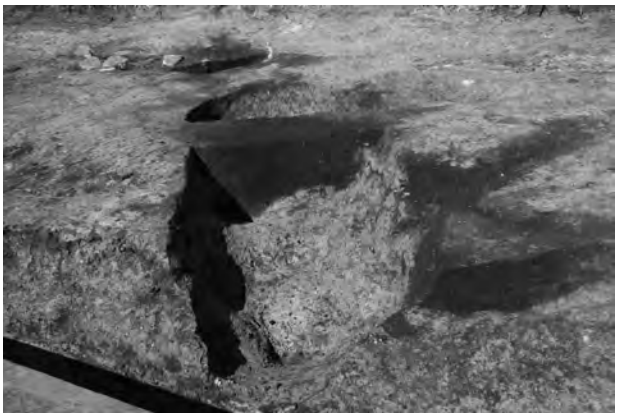
ESK08 セクション・完掘　ＮＥ→

ESK12 セクション　W→

ESK13・19 セクション　ＮＥ→

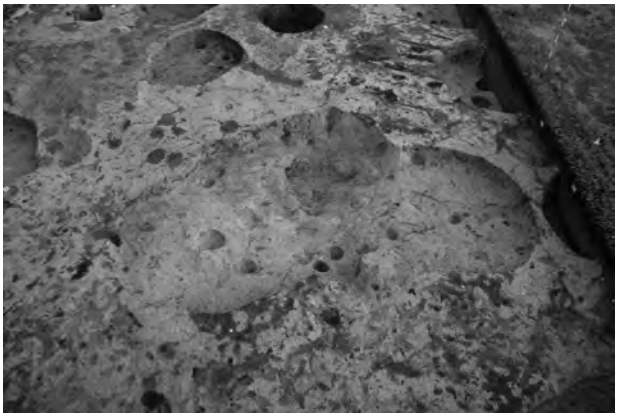
ESK14 セクション・完掘　ＳＷ→

写真 39　農道 24 号Ｅ区（７）　ESK08・10 ～ 14・19



ESK15 セクション　ＳＥ→

ESK18 セクション　ＮＥ→



ESK20・21・31 完掘　ＮＷ→

ESK20 セクション　ＮＥ→

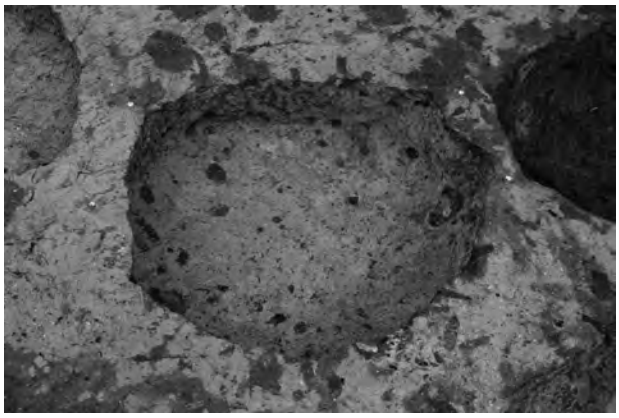
ESK21 セクション　ＳＷ→

ESK21 (図89-141)出土状況　Ｎ→

ESK20・21・31 セクション　ＳＥ→

写真 40　農道 24 号Ｅ区（８）　ESK15・18・20・21・31

ESK22 セクション　Ｓ→



ESK22 完掘　Ｓ→

ESK23 セクション　ＳＷ→

ESK23 完掘　Ｗ→

ESK24 セクション　ＳＥ→

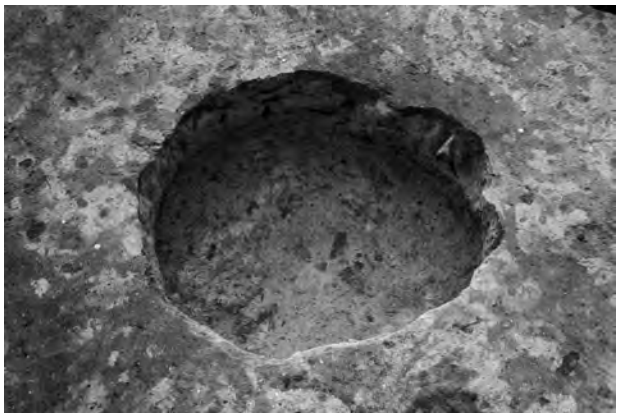
ESK24 完掘　ＳＥ→

ESK25 セクション　ＳＥ→

ESK25 完掘　ＳＥ→

写真 41　農道 24 号Ｅ区（９）　ESK22 ～ 25

ESK26 セクション　ＮＥ→



ESK26 完掘　Ｅ→

ESK27 セクション・完掘　ＮＥ→

ESK28 セクション・完掘　ＳＥ→

ESK29 セクション・完掘　ＳＷ→

ESK30 セクション・完掘　ＮＥ→

ESK32・33 セクション　ＮＥ→

ESK32・33 完掘　Ｅ→

写真 42　農道 24 号Ｅ区（10）　ESK26 ～ 30・32・33

ESK34 セクション　ＮＥ→

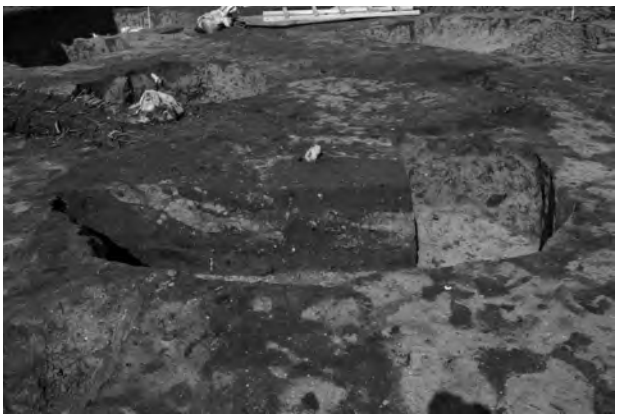
ESK34 完掘　ＮＥ→

ESK35 セクション　ＮＷ→

ESK36 セクション　Ｗ→

ESK35・36 完掘　ＮＷ→

ESK37 完掘　ＮＥ→



ESK39・37 セクション　ＳＥ→

ESK39・37 完掘　ＮＷ→

写真 43　農道 24 号Ｅ区（11）　ESK34 ～ 37・39

ESK38 セクション　W→

ESK38 完掘　W→

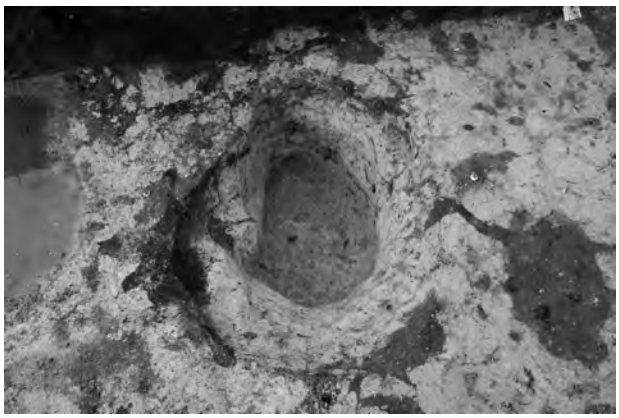
ESK40・43 セクション・完掘　ＮＥ→

ESK41・46 完掘　ＳＷ→

ESK41 セクション　ＮＥ→

ESK41・46 セクション　ＳＷ→

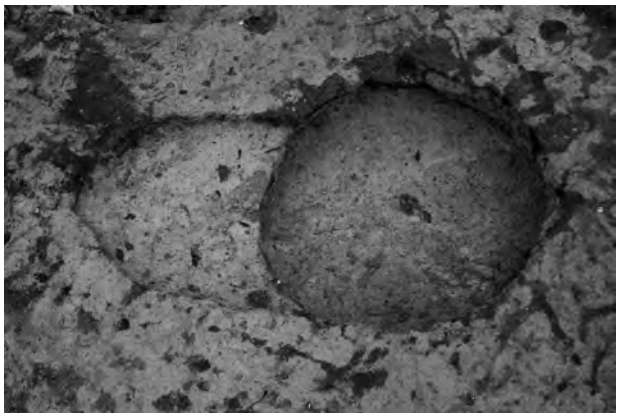
ESK42 セクション　ＮＥ→



ESK42 完掘　ＮＥ→

写真 44　農道 24 号Ｅ区（12）　ESK38・40 ～ 43・46

ESK44・45 セクション　N→

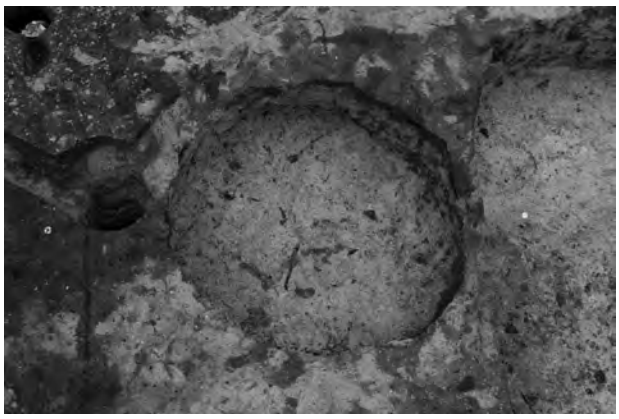


ESK44・45 完掘　S→

ESK47 セクション　ＳＥ→

ESK47 完掘　ＳＥ→

ESK48 セクション　W→



ESK48 完掘　ＳＷ→

ESK50 セクション・完掘　ＳＥ→

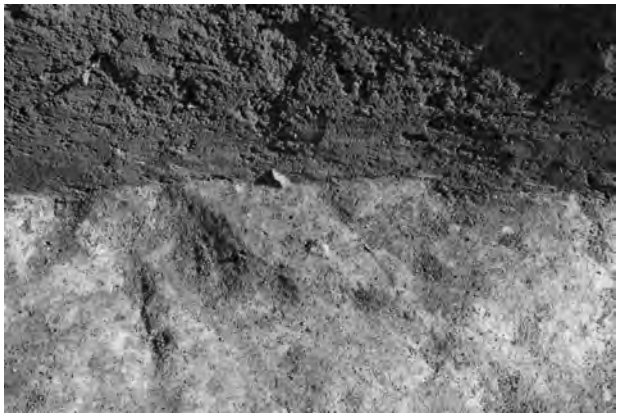
ESK51 (図93-205)出土状況　ＳＷ→

写真 45　農道 24 号Ｅ区 (13)　ESK44・45・47・48・50・51

ESR01 側面　ＳＥ→

ESR02 側面　ＳＥ→

ESR03 側面　ＳＷ→



ESN01 検出状況　ＳＷ→

ESD01 完掘　Ｅ→

ESD04 セクション　ＳＷ→

ESD07 セクション　Ｓ→

写真 46　農道 24 号Ｅ区（14）　ESR01 ～ 03、ESN01、ESD01・04・07

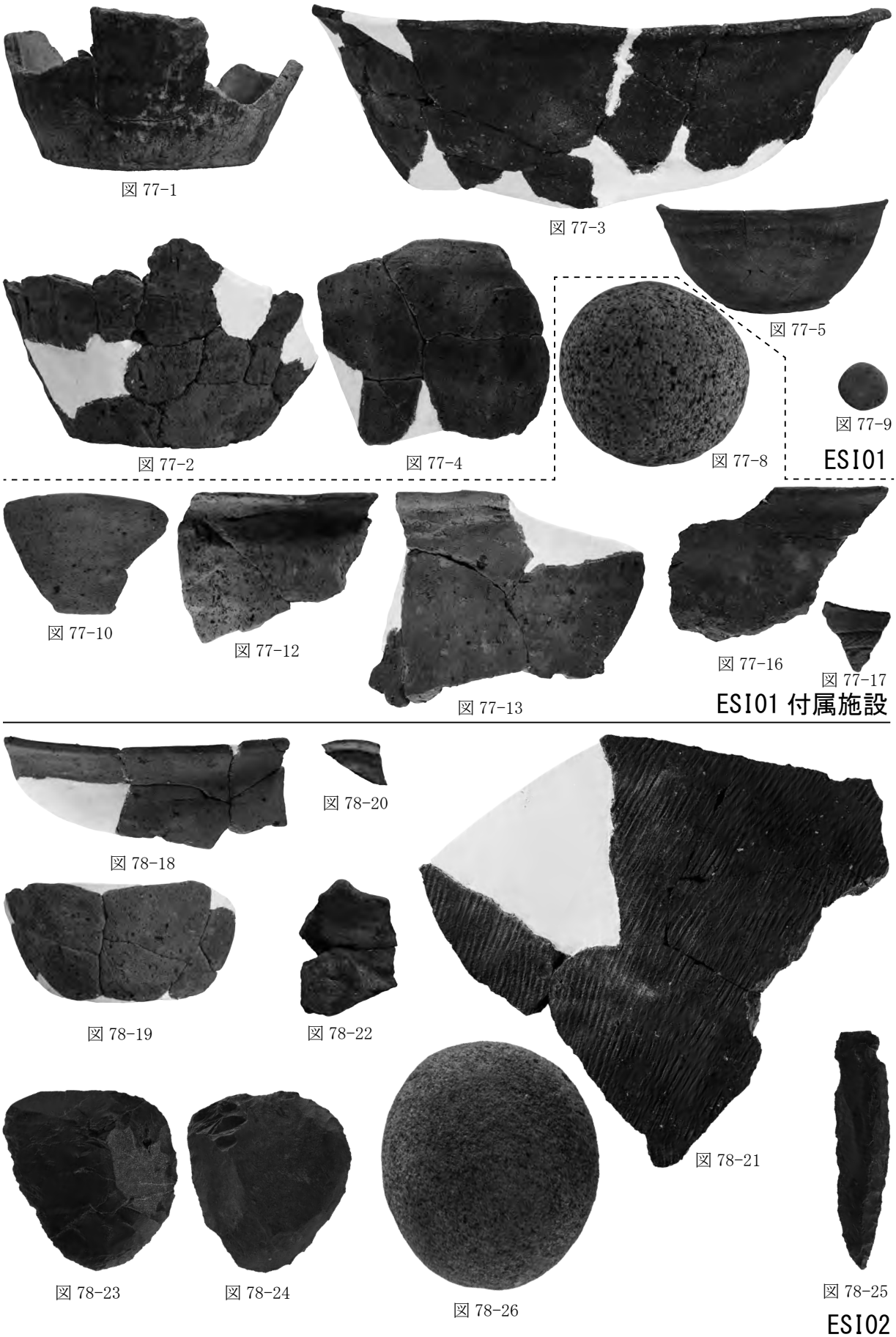


写真 47　農道 24 号E区　出土遺物（1）

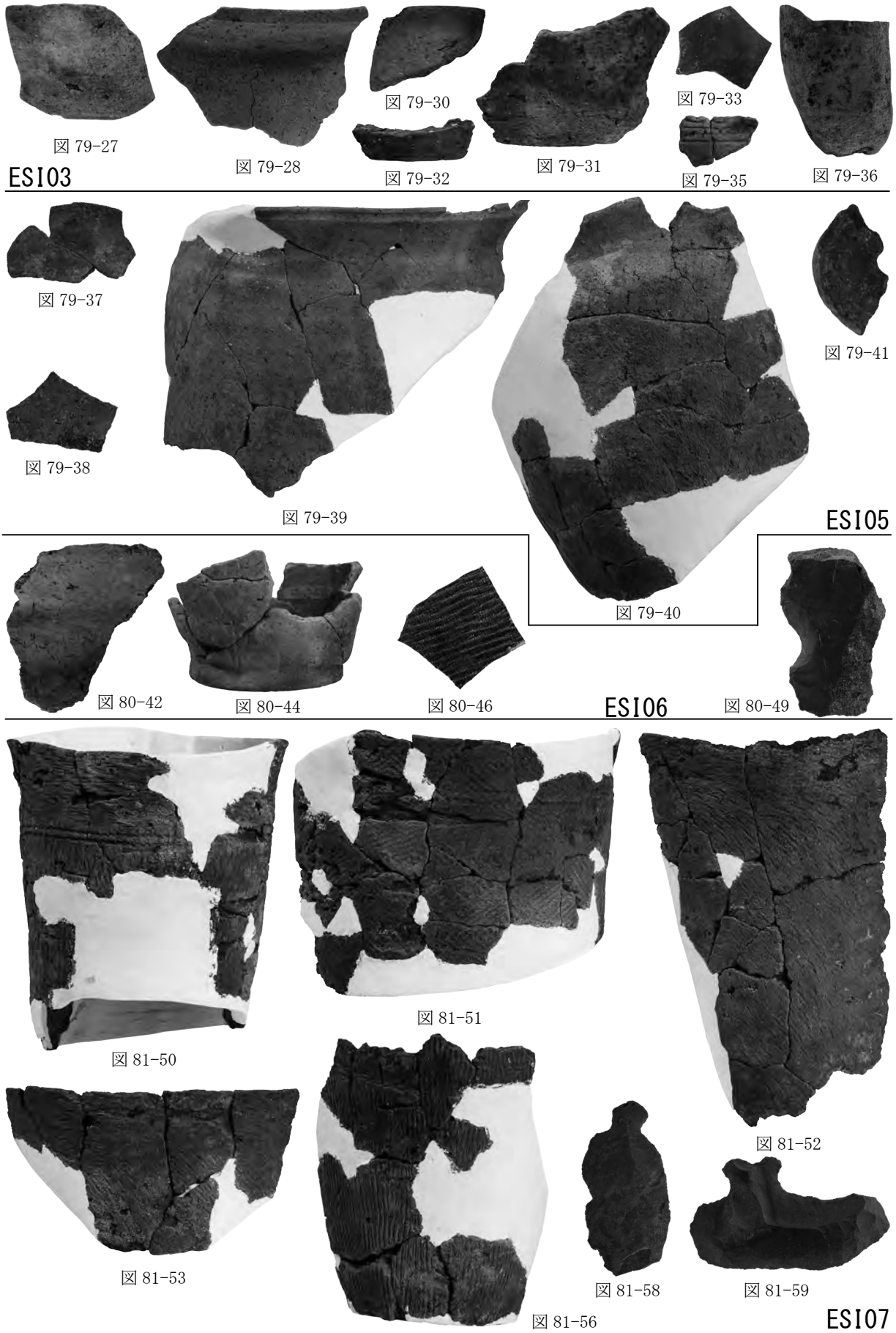


写真 48　農道 24 号E区　出土遺物（2）

図 82-60

図 82-61

図 82-63

図 82-69

図 82-70

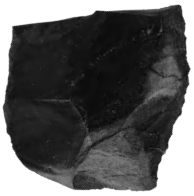


図 82-71

図 82-66

図 82-67

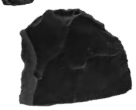


図 82-68

ESI08

図 83-72

図 83-73

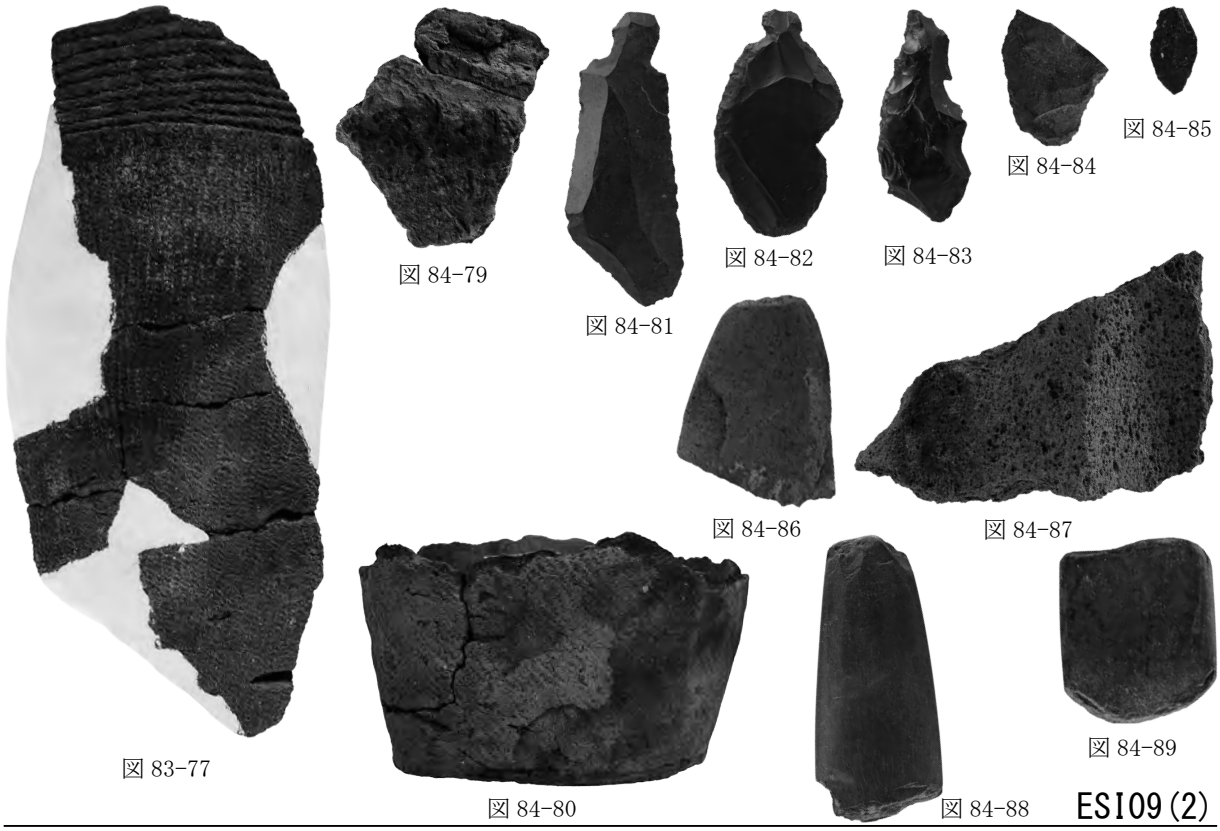
図 83-74

図 83-75

図 83-76

ESI09(1)

写真 49　農道 24 号E区　出土遺物（3）



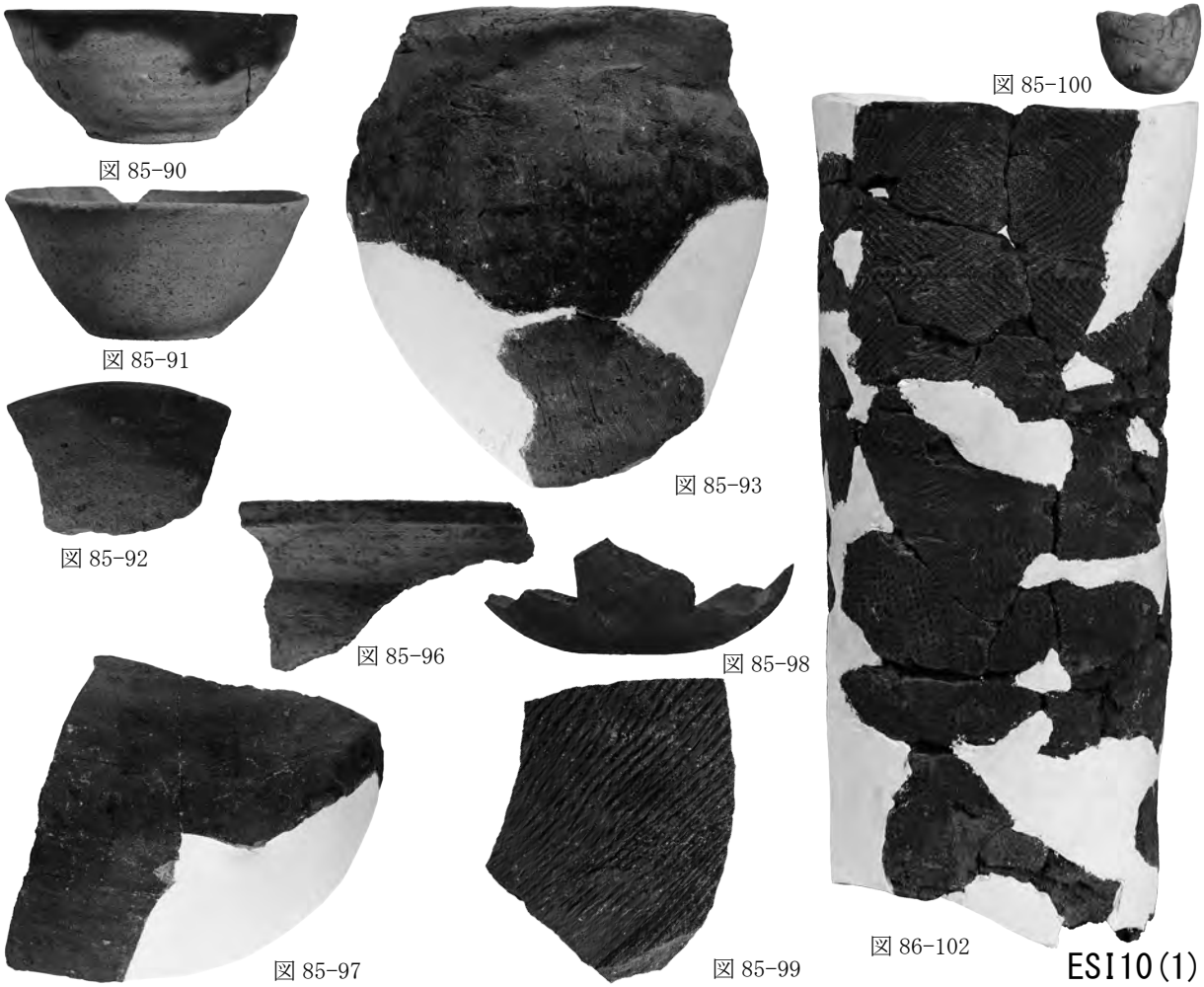


写真 50　農道 24 号E区　出土遺物（4）

図 86-104

SEI10(2)

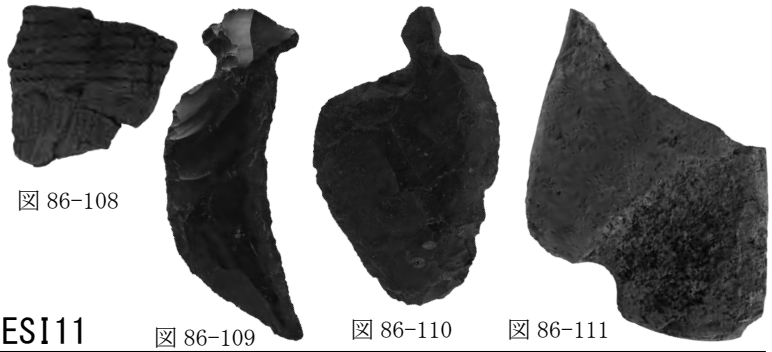


図 86-108

ESI11

図 86-109

図 86-110

図 86-111

図 87-114

図 87-115

図 87-116

ESI13

図 87-117

図 87-118

ESK01

図 88-121

図 88-122

ESK08

図 87-119

図 87-120

ESK06

図 88-123

図 88-124

図 88-125

図 88-128

ESK10(1)

写真 51　農道 24 号E区　出土遺物（5）

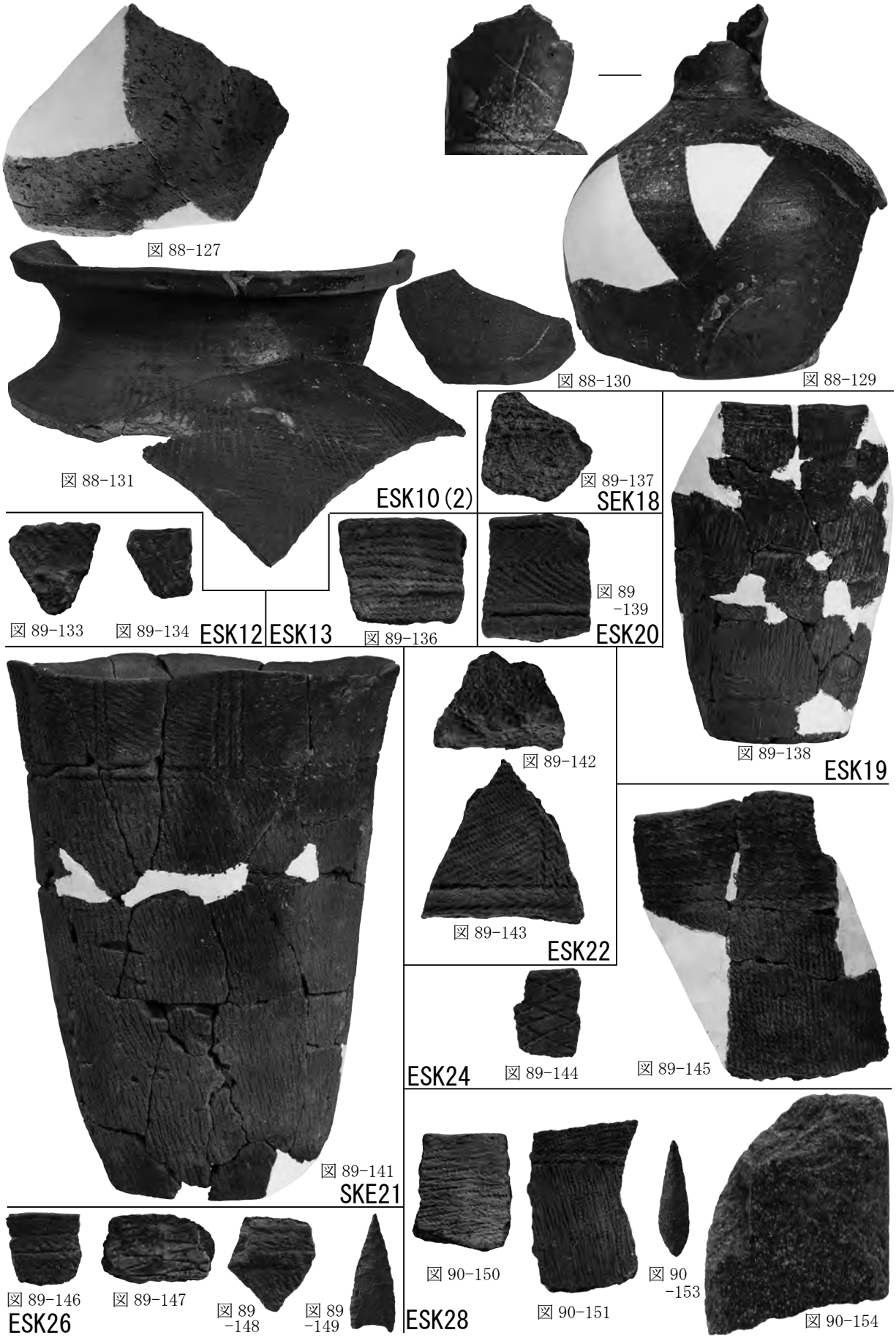


写真 52　農道 24 号E区　出土遺物（6）

図 90-155

図 90-156

図 90-157

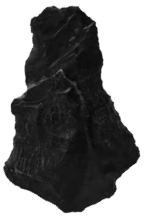


図 90-158

ESK30

図 90-160

図 90-161

図 90-162

ESK32・33

図 90-164

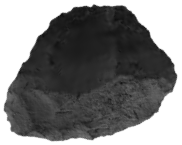


図 90-165

ESK34

図 90-166

図 91-168

図 91-169

ESK35・36

図 91-171

図 91-172

SEK37

図 90-167

図 91-177

図 91-178

図 91-179

図 91-181

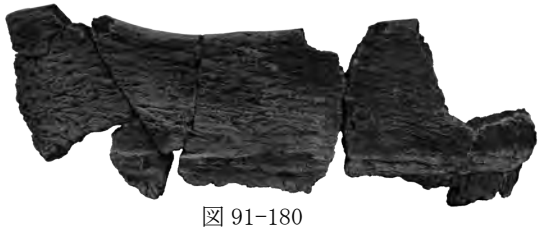


図 91-180

図 91-182

図 91-183

図 91-184

図 91-185

図 91-186

ESK39

写真 53　農道 24 号E区　出土遺物（7）

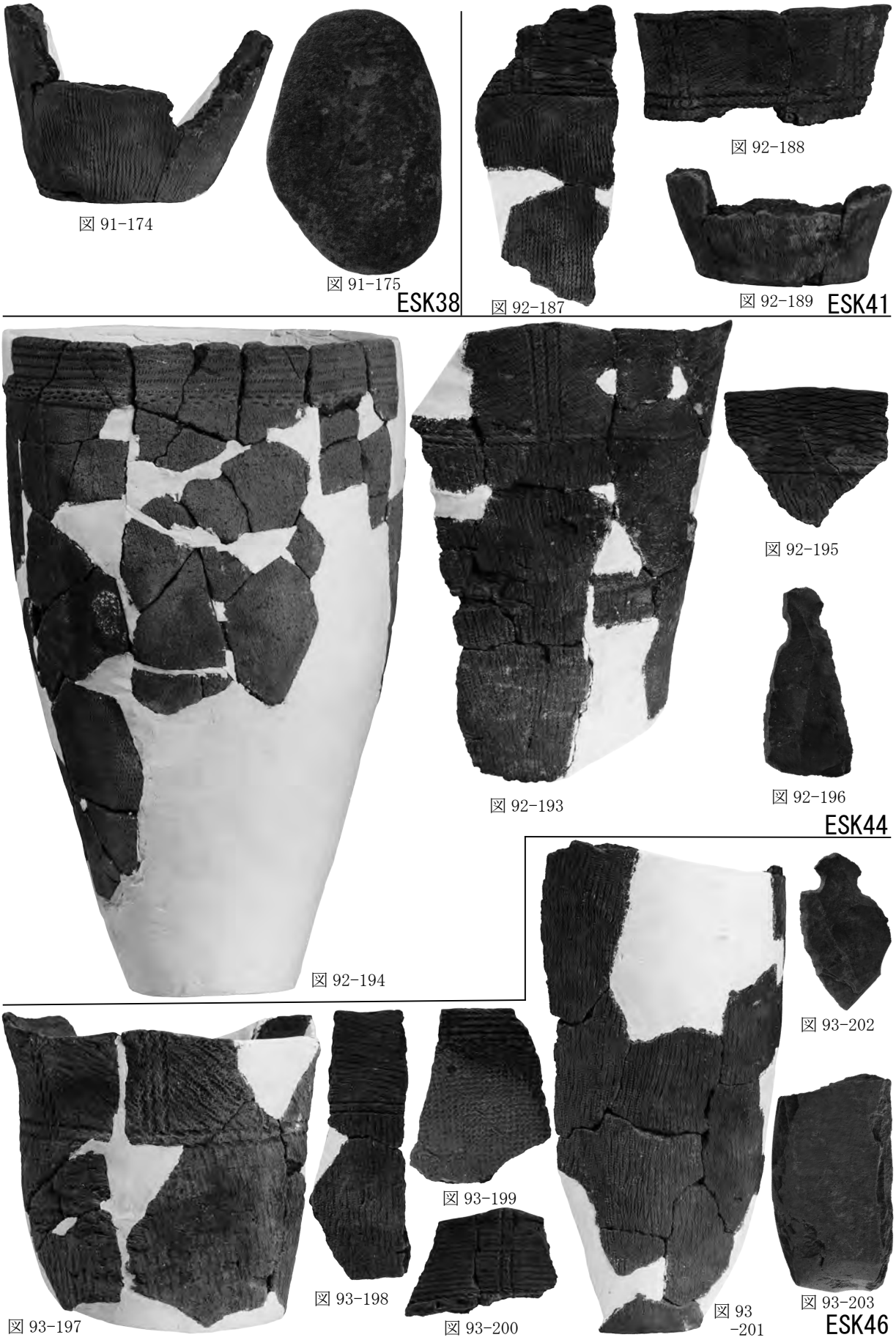


写真 54　農道 24 号E区　出土遺物（8）

図 93-205

ESK51

図 93-206

ESD01

図 93-207

ESD03

図 93-209

ESD08

図 93-210

ESD11

図 94-211

ESR01

図 94-212

ESR02

図 94-213

ESR03

写真 55　農道 24 号E区　出土遺物（9）

図 94-214

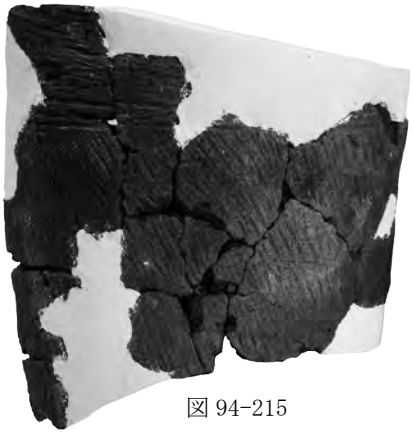


図 94-215

図 94-216

図 95-217

図 95-218

図 95-219

図 95-220

図 95-221

図 95-222

図 95-223

図 95-224

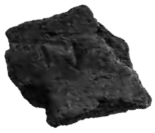


図 95-225

図 95-226

図 95-227

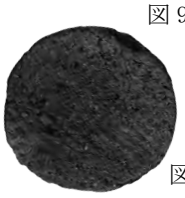


図 95-229

包含層（1）

写真 56　農道 24 号E区　出土遺物（10）

図 96-230　図 96-231　図 96-232　図 96-233　図 96-234　図 96-235

包含層（2）

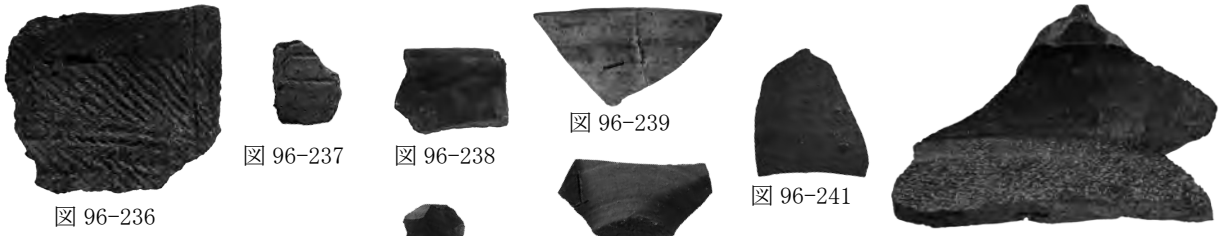


図 96-236　図 96-237　図 96-238　図 96-239　図 96-240　図 96-241　図 96-242

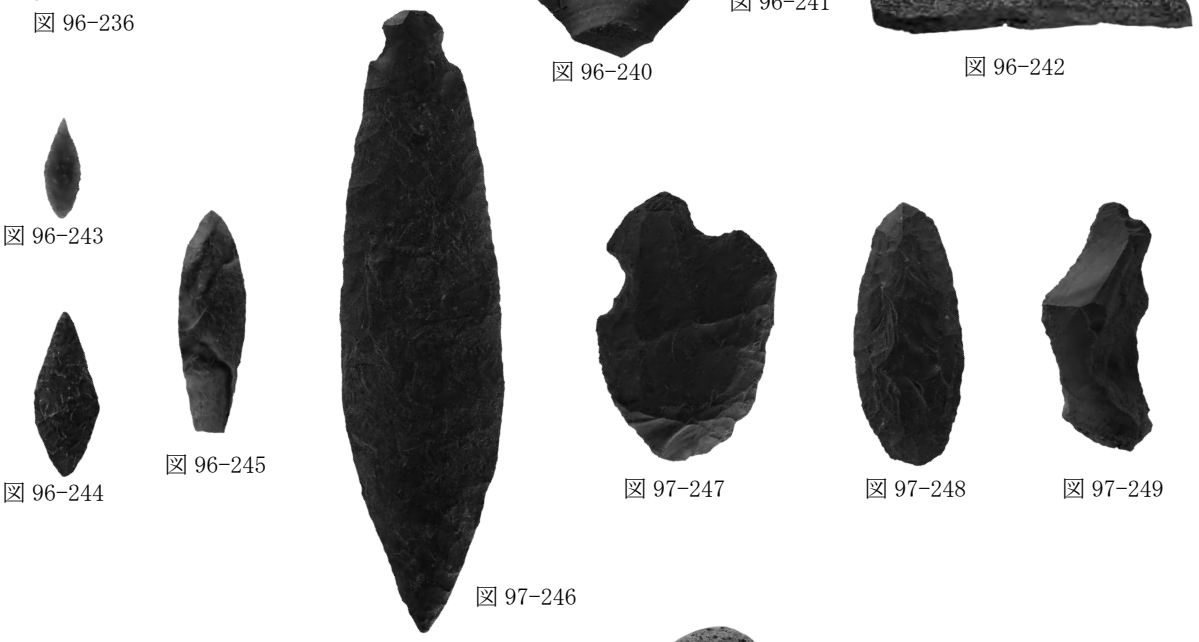


図 96-243　図 96-244　図 96-245　図 97-246　図 97-247　図 97-248　図 97-249

図 97-250　図 97-251　図 97-252　図 97-253　図 97-254

遺構外

写真 57　農道 24 号E区　出土遺物（11）

農道 24 号W区 写真図版

写真 58　農道 24 号W区　調査風景等

農道 24 号W区全景　N→

農道 24 号W区全景　E→

写真 59　農道 24 号W区（1）　調査区全景

農道 24 号W区　近景　NW→

農道 24 号W区　東半全景　E→

農道 24 号W区　西半全景　E→

写真 60　農道 24 号W区（２）　調査区近景

WSK15、WSD04 西半　完掘　E→

WSD04 セクション　W→

WSK15、WSD04 セクション　ＳＥ→

WSK16･18、WSD04（東端）･10 完掘　ＮＷ→

WSK16･18、WSD04･10 セクション　ＮＷ→

WSD05 ～ 07 北半完掘　ＳＥ→

WSD05･06 セクション　ＳＥ→

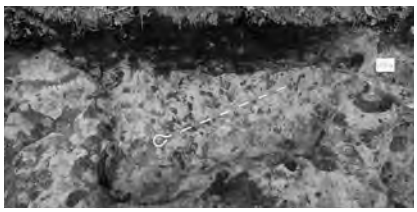
WSD07 セクション　ＮＷ→

WSD05 ～ 07 南半完掘　ＮＷ→

WSK14、WSD09･08 完掘　ＳＥ→

WSD08 ｾｸｼｮﾝ　NW →

WSD09 ｾｸｼｮﾝ　NW →

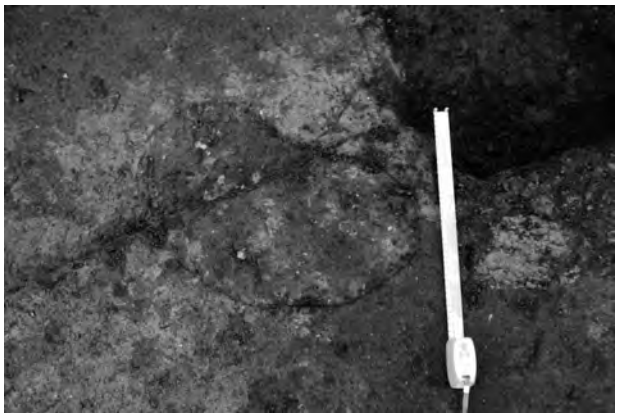


WSK14 完掘　ＳＥ→

写真 61　農道 24 号W区（３）　52 ～ 56 グリッド

WSK13 セクション・完掘　ＳＥ→

WSI05 床面検出　ＳＷ→

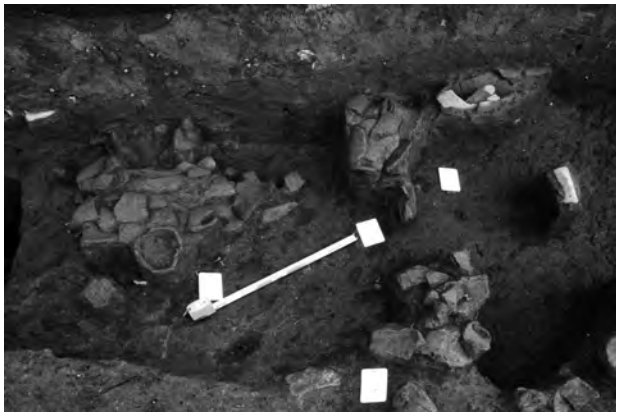


WSI05 焼土検出　Ｓ→

捨て場（埋没谷）全景　Ｅ→

捨て場Ⅲａ層（図 139-229 ～ 231）遺物出土状況　Ｗ→

捨て場Ⅲｂ層遺物出土状況　Ｓ→

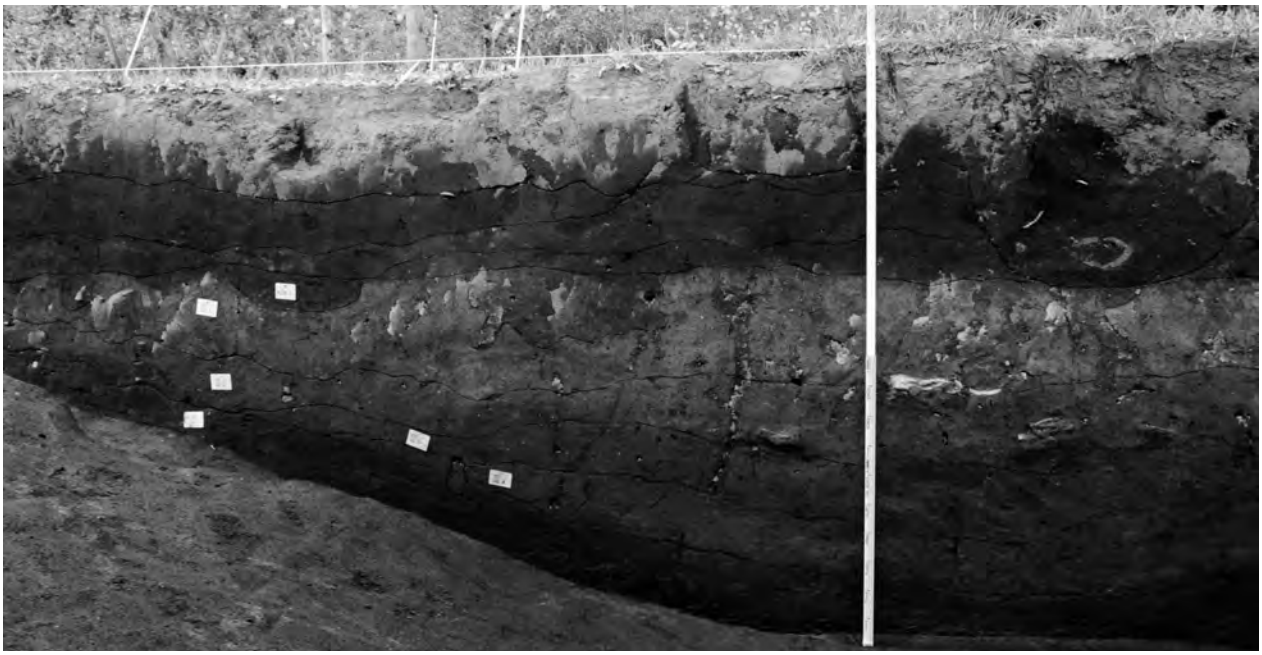


捨て場Ⅲｂ層（図 141-242 ～ 244・249 等）遺物出土状況　ＳＥ→

捨て場Ⅲｂ層（図 142-247・250 等）遺物出土状況　ＳＷ→

写真 62　農道 24 号Ｗ区（４）　57 ～ 59 グリッド（１）

WSI05、WSK13、捨て場（埋没谷）セクション東半　S→



WSI05、WSK13、捨て場（埋没谷）セクション西半　S→

WSI05、WSK13、捨て場（埋没谷）セクション全景　SW→

写真 63　農道 24 号W区（５）　57 ～ 59 グリッド（２）

WSI06 完掘　ＮＷ→

WSI06 カマド検出　ＮＷ→

WSI07 完掘　ＳＷ→

WSI07 カマド完掘　ＮＷ→

WSI09 床面検出　ＳＷ→

WSI09 カマドセクション　Ｗ→

WSI09 カマド遺物出土状況　ＮＷ→

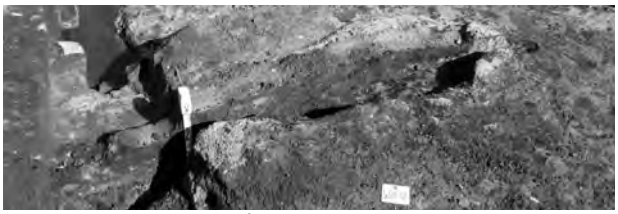
WSI10 セクション・完掘　ＳＥ→

写真 64　農道 24 号W区（６）　59 ～ 62 グリッド（１）

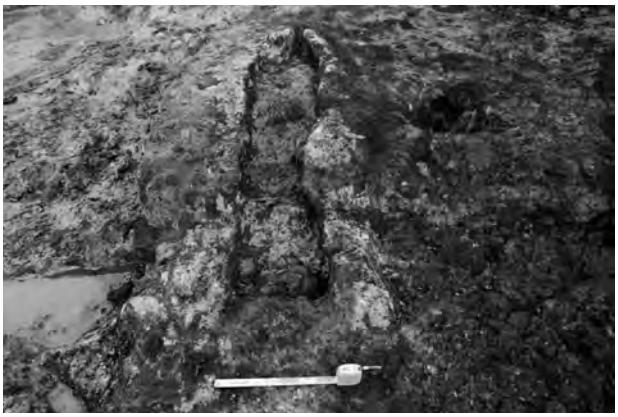
WSI08 床面検出・WSD18 完掘　NW→

WSI08 完掘　NW→

WSI08 完掘　SW→


WSI08 カマドセクション　SW→

WSI08 カマド火床面セクション　SW→


WSI08 カマド完掘（１枚目火床面）　NW→

WSI08 カマド２枚目火床面　NW→

WSI08 カマド３枚目火床面　NW→

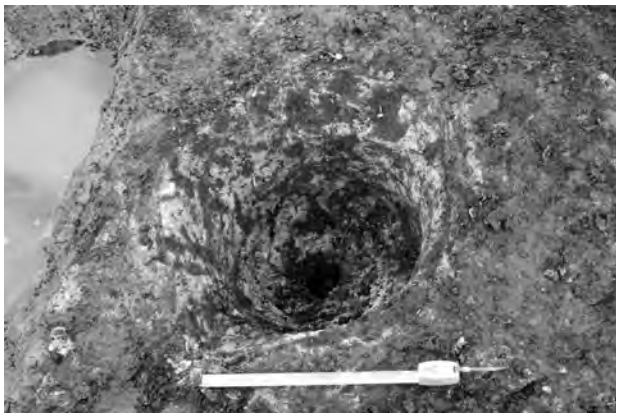
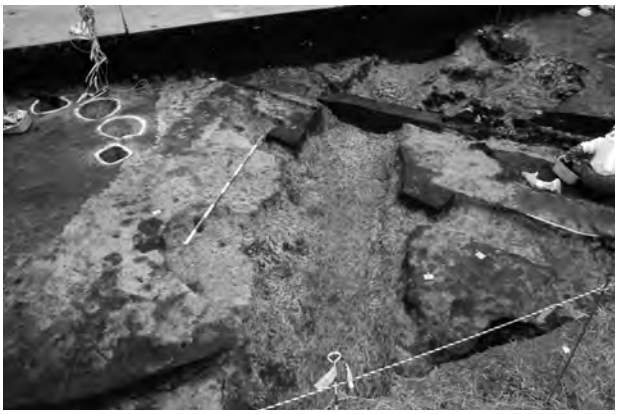
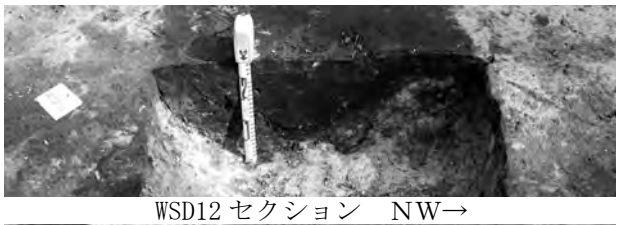

WSI08Pit1 完掘　NW→

写真 65　農道 24 号W区（７）　59 ～ 62 グリッド（２）

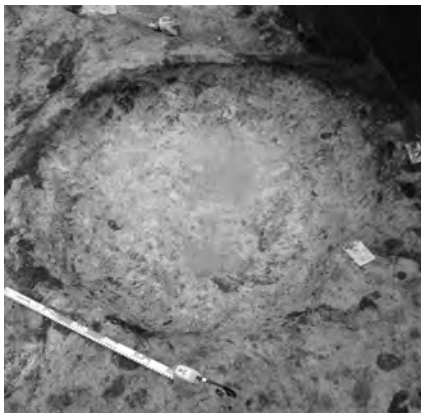

WSI11、WSK17、WSD11･12 完掘　N→


WSD12 セクション　NW→

WSK17、WSD11 セクション　N→

WSD11･12 セクション　NE→

WSD13、WSK24 ｾｸｼｮﾝ　E→


WSK24 完掘　SW→

WSK24 粘土出土状況　E→

WSD14 完掘　NW→

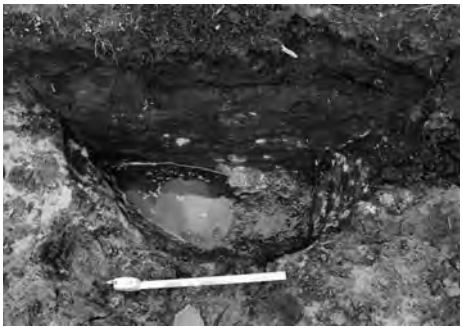
WSK36、WSD15 完掘　NW→

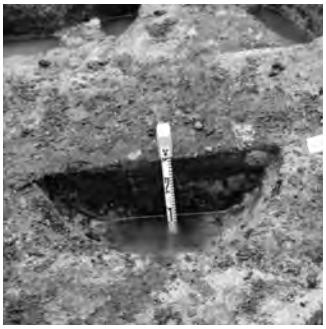
WSI12 検出、WSD15 遺物出土状況　SE→

WSD15 須恵器鉢（図 137-217）出土状況　E→

写真 66　農道 24 号W区（８）　59 ～ 62 グリッド（３）

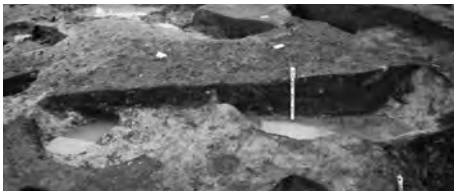
WSK53 完掘　ＳＥ→


WSK53 セクション　ＳＥ→


WSK44 セクション　W→

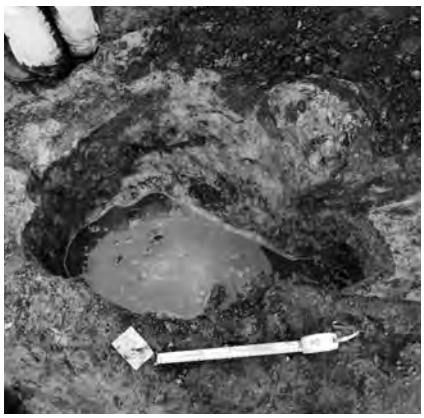
WSK26･27･42･43･44 完掘　W→

WSK26･27 セクション　ＮW→


WSK42･43 セクション　W→

WSD19 完掘　S→

WSD19 セクション　ＮＥ→


WSK51、WSP27 完掘　ＮW→

WSK51、WSP27 セクション　ＮW→

WSK54･55 セクション　S→

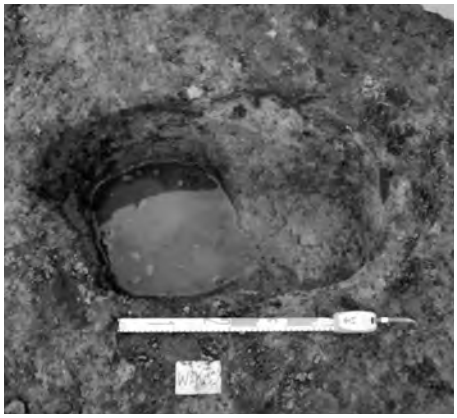
WSK54･55 完掘　E→

写真 67　農道 24 号W区（９）　59 ～ 62 グリッド（４）

WSK40 完掘　ＮＷ→

WSK40 セクション　ＮＷ→

WSK52 セクション　ＮＥ→


WSK52 完掘　ＳＷ→

WSK41･46、WSP20 セクション　ＮＥ→

WSK41･46、WSP20 完掘　ＮＷ→

WSI07 付近遺構検出状況　Ｗ→

62 グリッド付近調査風景　ＳＷ→

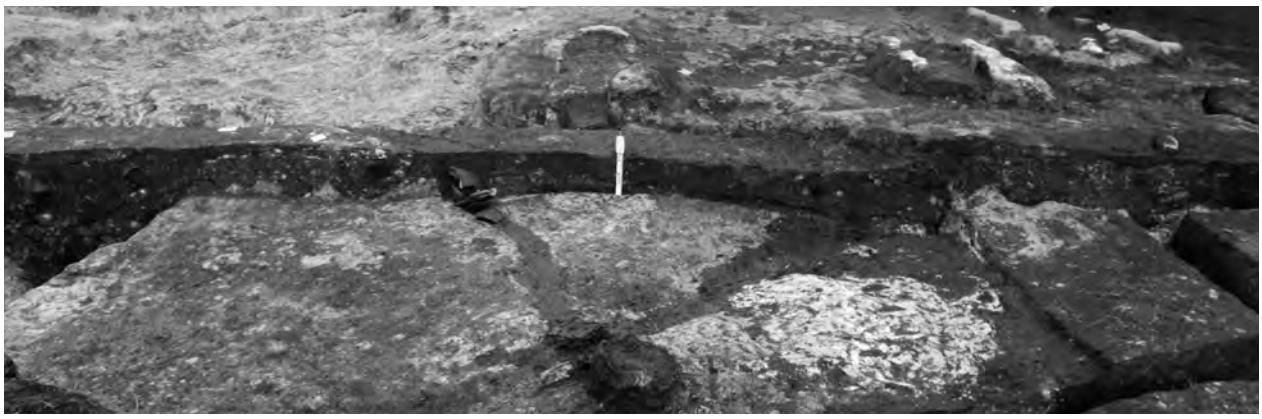
62 グリッド付近調査風景　ＮＷ→

雨水の流入状況（63 グリッド以東）　ＳＷ→

写真 68　農道 24 号Ｗ区（10）　59 ～ 62 グリッド（５）

WSI06 ～ 08、WSD14･15･18･19 ほかセクション全景　NW→

WSI06 ～ 08、WSD14･15･18･19 ほかセクション（北東部）　NW→



WSI06 ～ 08、WSD14･15･18･19 ほかセクション（中央部）　NW→

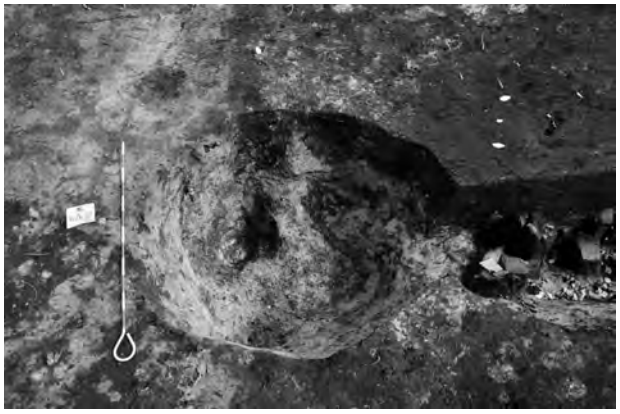
WSI06 ～ 08、WSD14･15･18･19 ほかセクション（南西部）　NW→

写真 69　農道 24 号W区（11）　59 ～ 62 グリッド（６）

WSI01 床面検出　ＮＷ→

WSI01 掘り方完掘　ＮＷ→

WSI01 掘り方セクション　ＳＷ→

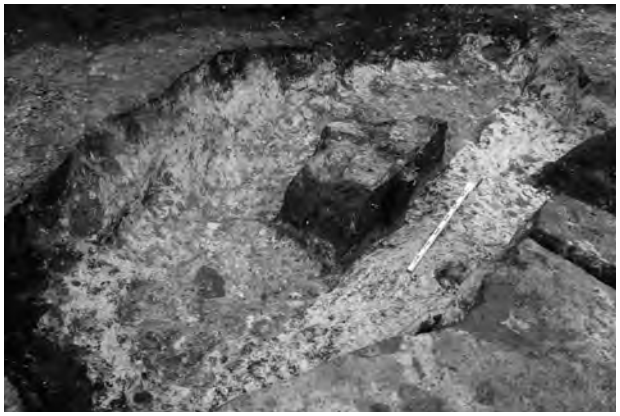


WSK05 完掘　ＳＷ→

WSK05･06 セクション　ＳＷ→

WSK05 須恵器壺（図 125-87）出土状況　ＳＷ→

WSK06･25 完掘　Ｎ→

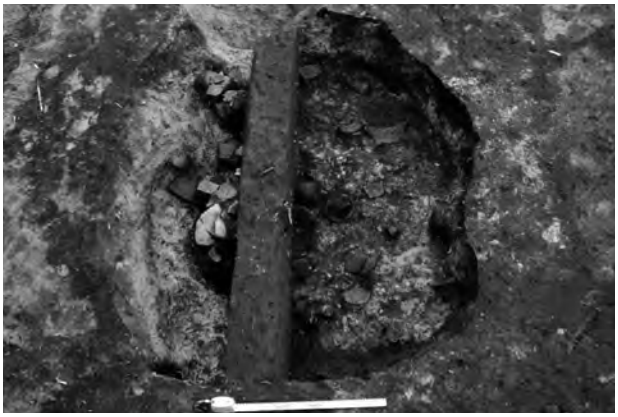


WSK25 焼土検出状況　Ｎ→

写真 70　農道 24 号W区（12）　63･64 グリッド（１）

WSK25 セクション　ＮＷ→

WSK06･25 セクション　ＳＷ→



WSK06 遺物出土状況　ＳＥ→

WSI02 掘り方完掘　ＳＷ→

WSI02 遺物出土状況・床面検出状況　ＳＥ→

WSI02 堆積状況　ＳＥ→

WSK04 完掘　Ｓ→

WSK47 完掘　Ｓ→

写真 71　農道 24 号W区（13）　63･64 グリッド（２）

WSD01 北側完掘　ＮＷ→

WSK07、WSD01 セクション　ＳＥ→

WSK08、WSD01 セクション　ＮＷ→

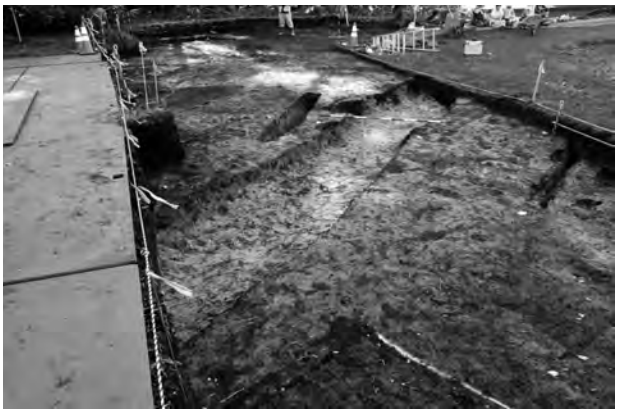
WSK08、WSP01 完掘　Ｓ→

WSK07 完掘　Ｅ→

WSV01 完掘　Ｅ→

WSV01 セクション　Ｅ→

WSD03 完掘　ＮＷ→



64･65 グリッド完掘　Ｅ→

写真 72　農道 24 号W区（14）　64 ～ 66 グリッド（１）

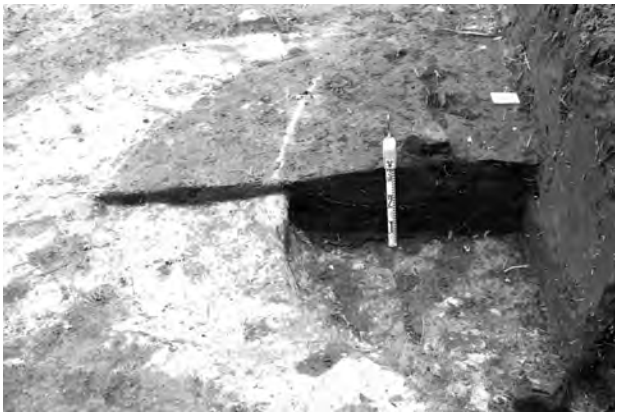
WSB01、WSK12 確認　NW→

WSK11 完掘　NW→

65･66 グリッド（WSK11･12）調査状況　E→

WSK11 遺物出土状況　N→

WSK09 完掘　NW→



WSK09･10 セクション　SW→

WSK09 ～ 12･38、WSB01、WSD16 完掘　W→

WSK38 セクション・遺物出土状況　NW→

写真 73　農道 24 号W区（15）　64 ～ 66 グリッド（２）

WSI03a 床面検出　NW→

WSI03a セクション　ＮＥ→

WSI03a 掘り方完掘・WSI03b 検出　NW→

WSK34･35 セクション・完掘　N→

WSI04a 床面検出　NW→

WSI04a セクション　N→

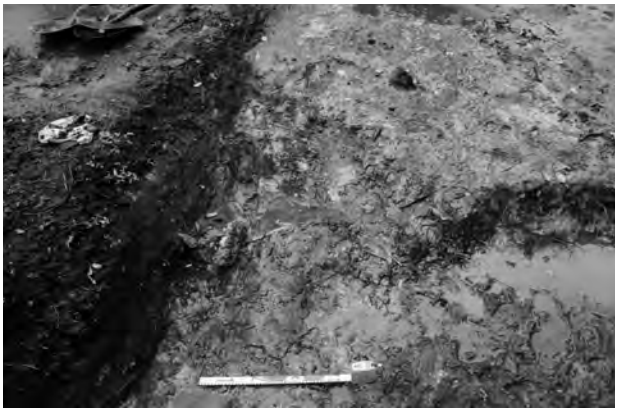
WSK50 完掘　N→

WSK50･WSI04b 壁溝セクション　N→

写真 74　農道 24 号W区（16）　67 ～ 69 グリッド（１）

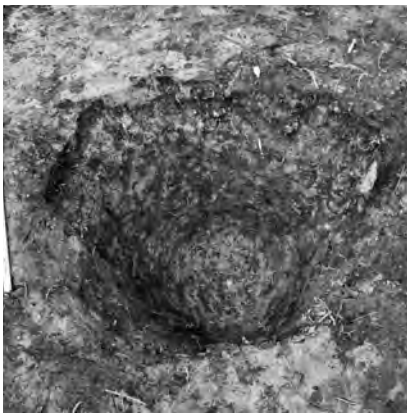
WSI04a カマド付近焼土検出状況　ＮＷ→

WSI04b 完掘・床下溝等検出状況　ＳＥ→



WSI04b カマド火床面検出　ＮＷ→

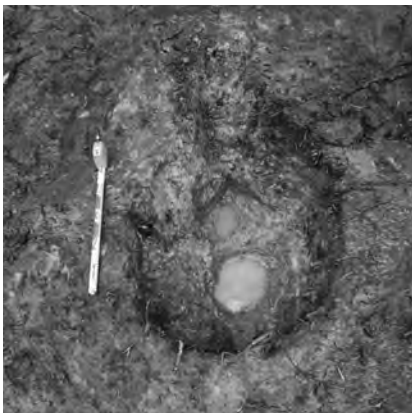
WSK48 完掘　ＳＷ→



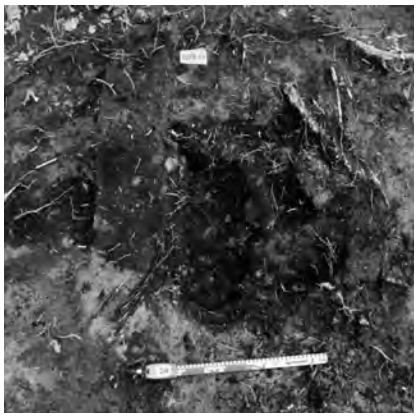
WSK45 完掘　ＮＥ→

WSK45 セクション　ＮＥ→

WSK45 須恵器壺（図 131-164）出土状況　ＳＥ→



WSK49 完掘　Ｎ→

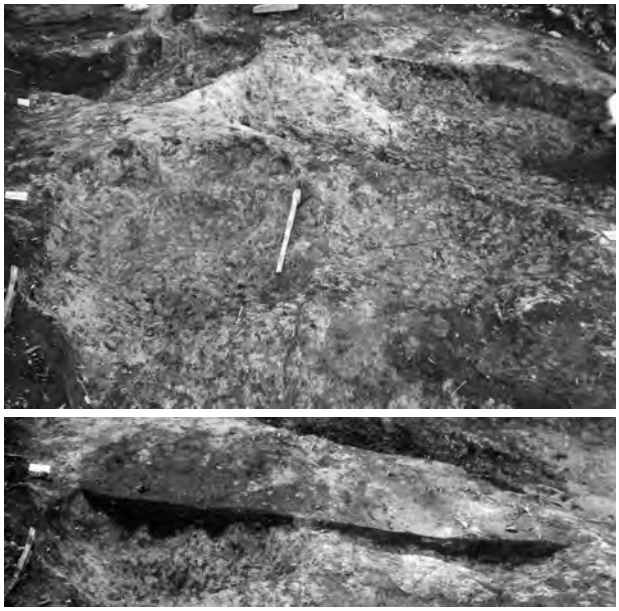


WSK49 焼土出土状況　ＮＥ→

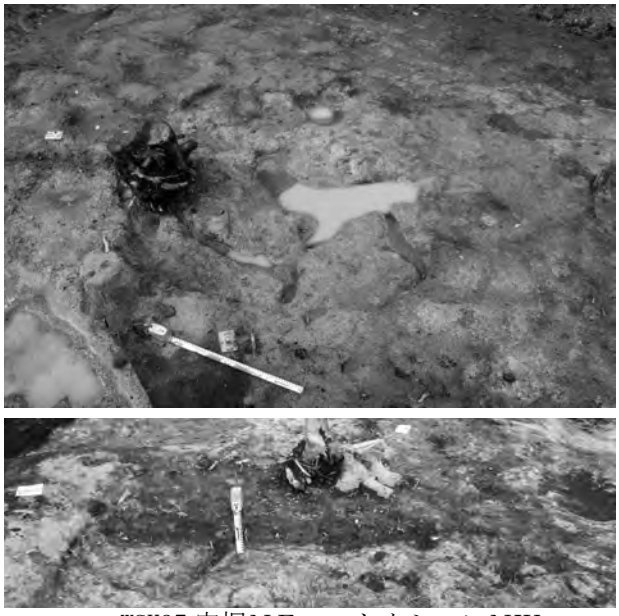
WSI04b 壁溝・WSK49 ｾｸｼｮﾝ　ＮＥ→

写真 75　農道 24 号W区（17）　67 ～ 69 グリッド（２）

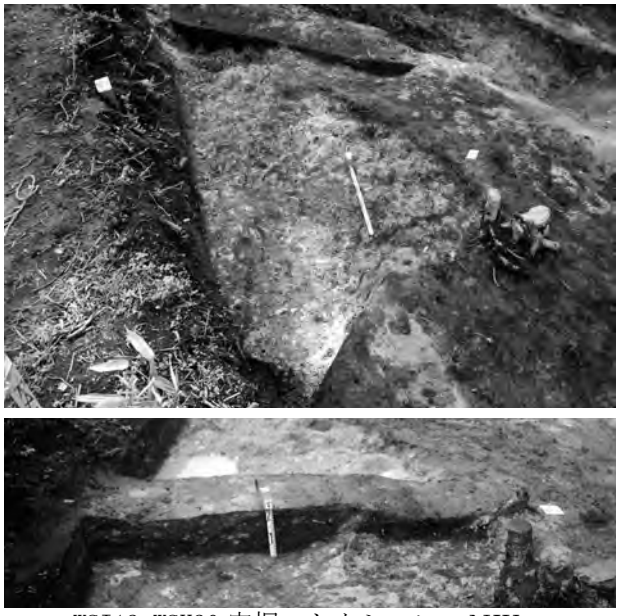
WSD01B 完掘ＳＥ→・セクションNW→



WSK32･33 完掘・セクション　N→



WSK37 完掘ＮＥ→・セクションNW→



WSI13･WSK30 完掘・セクション　NW→

WSI14 床面検出、WSK29･31 完掘　N→

WSI14、WSK39 完掘・セクション　W→

WSI14、WSK29･31･39 セクション　NW→

写真 76　農道 24 号W区（18）　70 ～ 76 グリッド（１）

WSK19 完掘　N→

WSK19 セクション　N→

WSK20 完掘・セクション　ＳＥ→

WSK21 完掘・セクション　N→

WSK22 完掘　N→

WSK22 セクション　N→

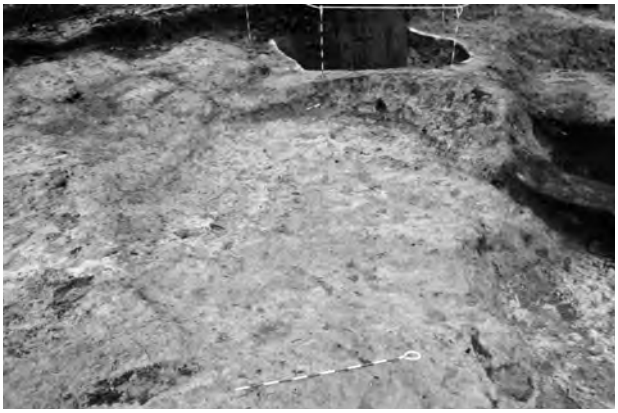
WSK23 完掘　N→

WSK23 セクション　N→

写真 77　農道 24 号W区（19）　70 ～ 76 グリッド（２）

WSK28 完掘　N →

WSK28 セクション　N→



WSK02 完掘　NW→

WSK02 セクション　NW→

WSK03 完掘・セクション　W→

69 ～ 71 グリッド遺構検出状況　NW→

71 ～ 74 グリッド完掘状況　NW→

調査区北西端完掘状況　NW→

写真 78　農道 24 号W区（20）　70 ～ 76 グリッド（３）

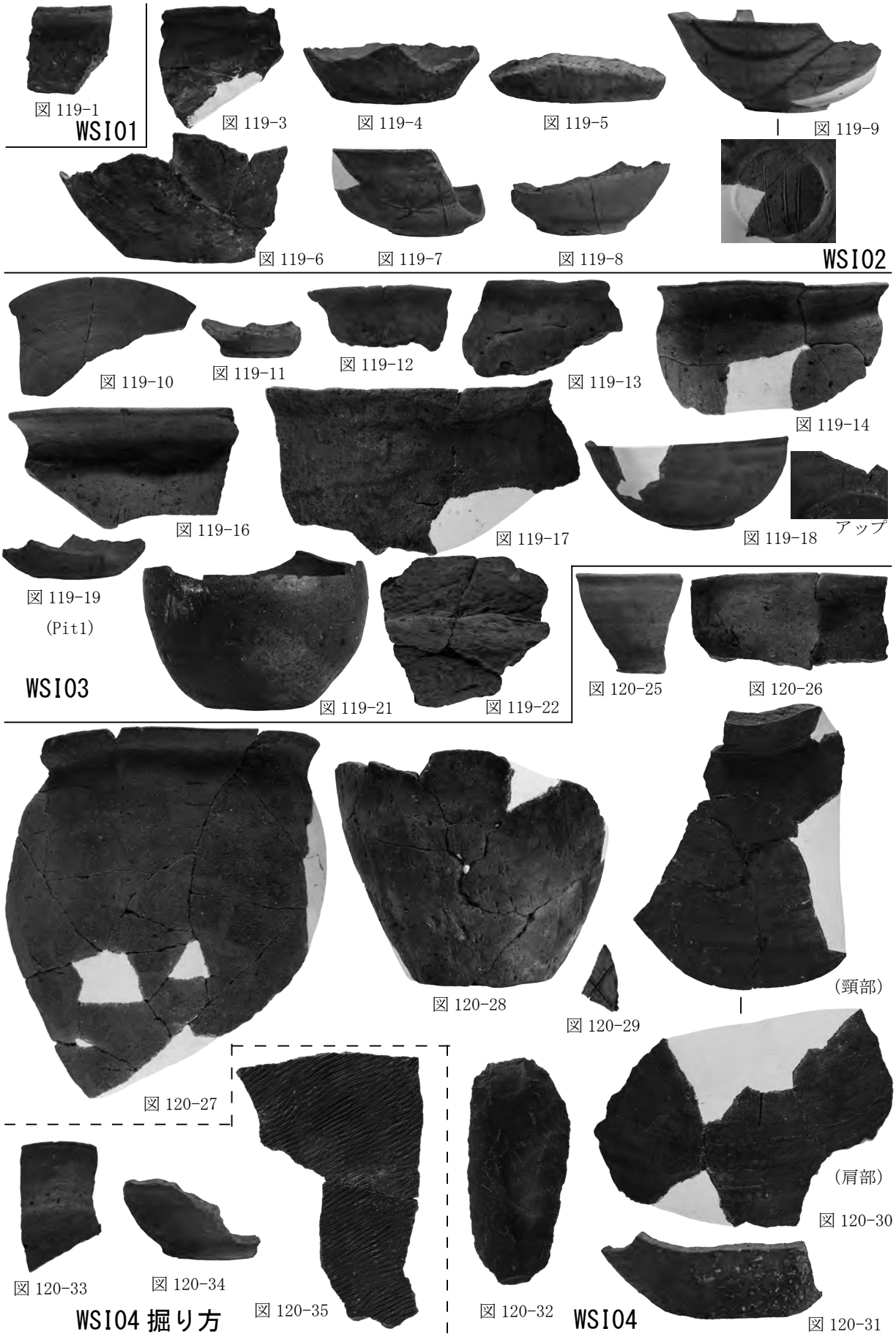


写真 79　農道 24 号W区　出土遺物（1）

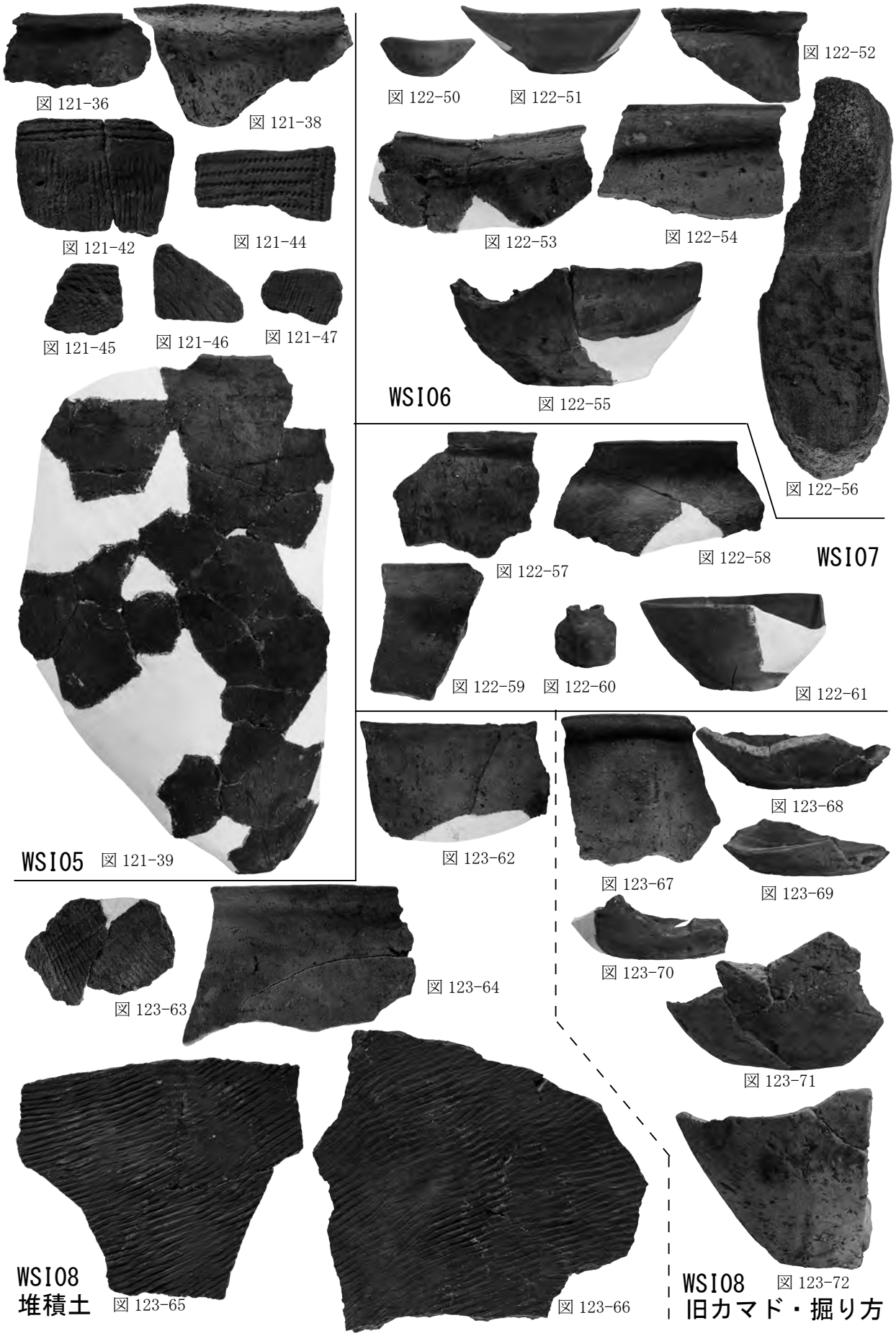


写真 80　農道 24 号W区　出土遺物（2）

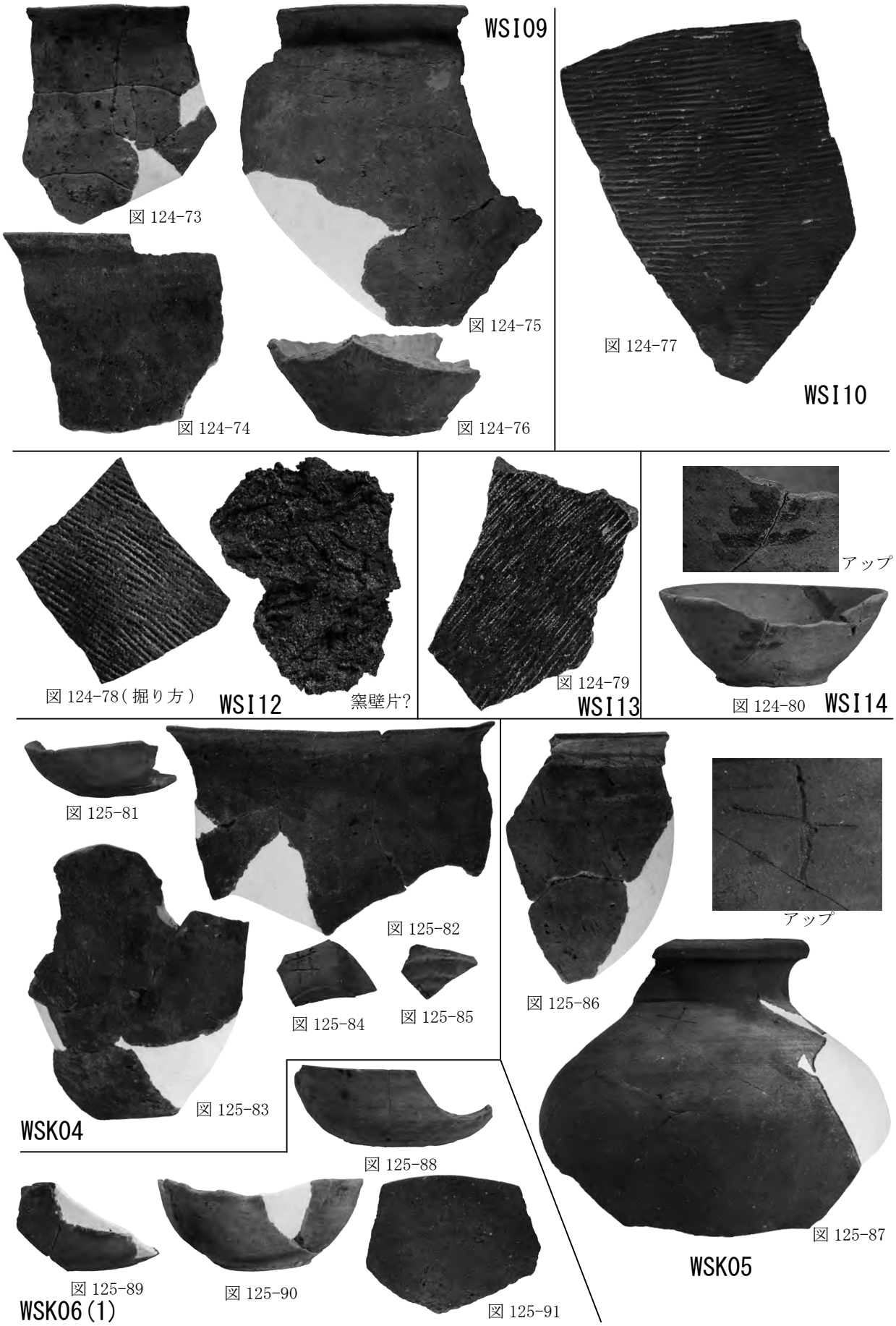
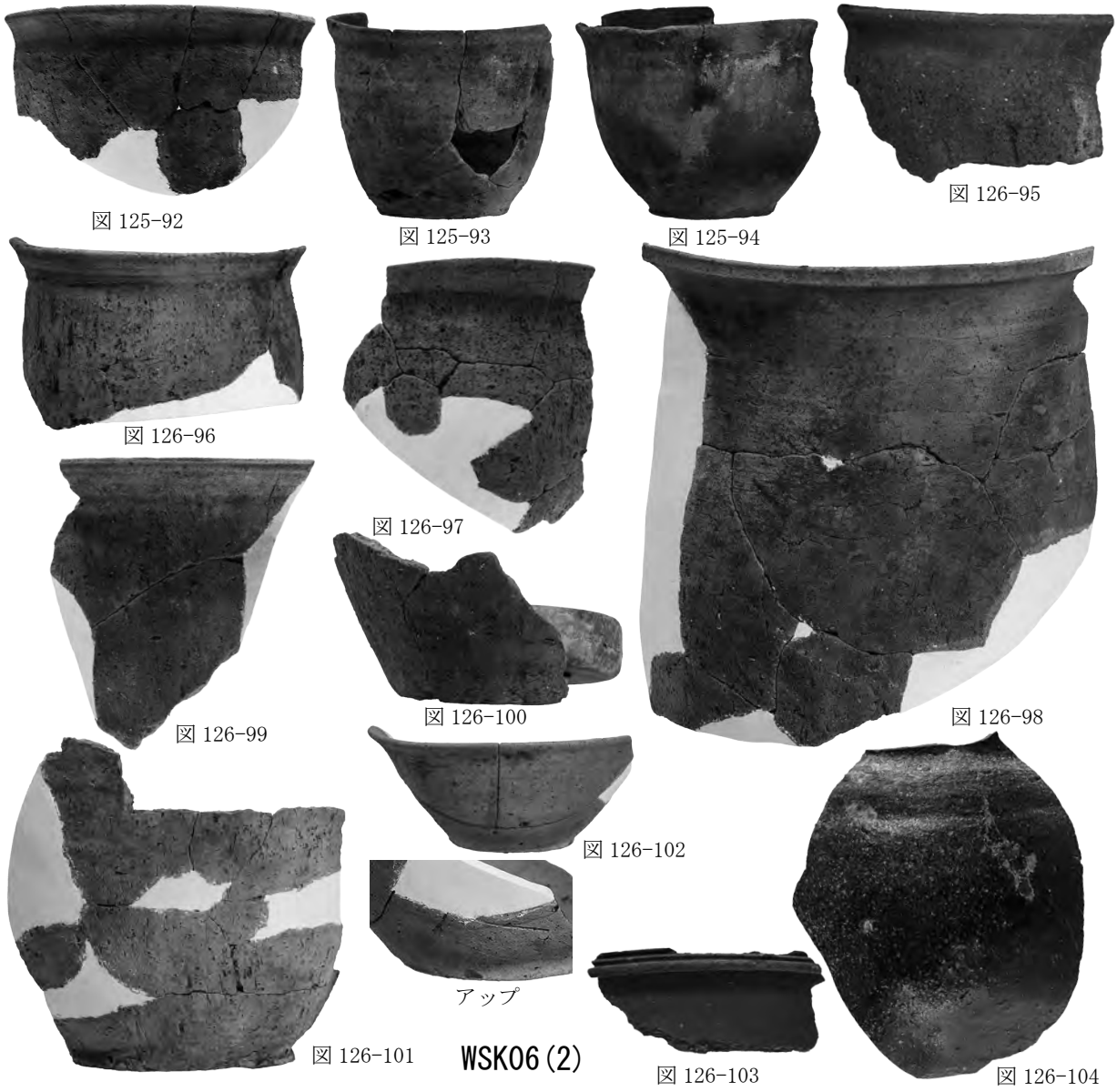


写真 81　農道 24 号W区　出土遺物（3）



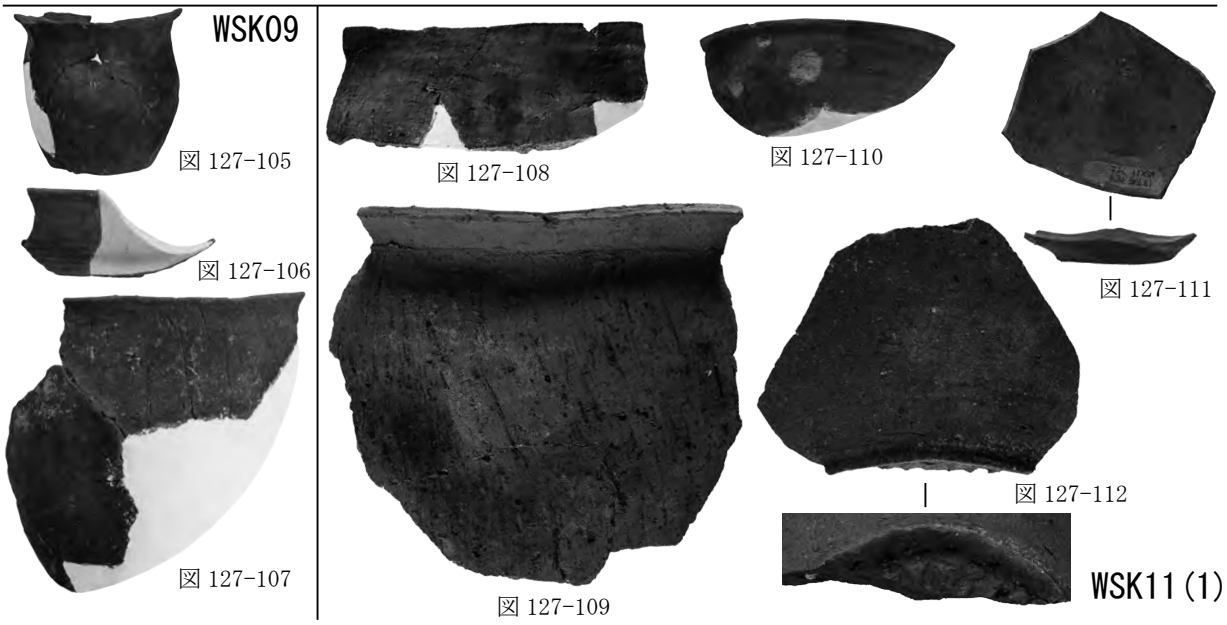


写真 82　農道 24 号W区　出土遺物（4）

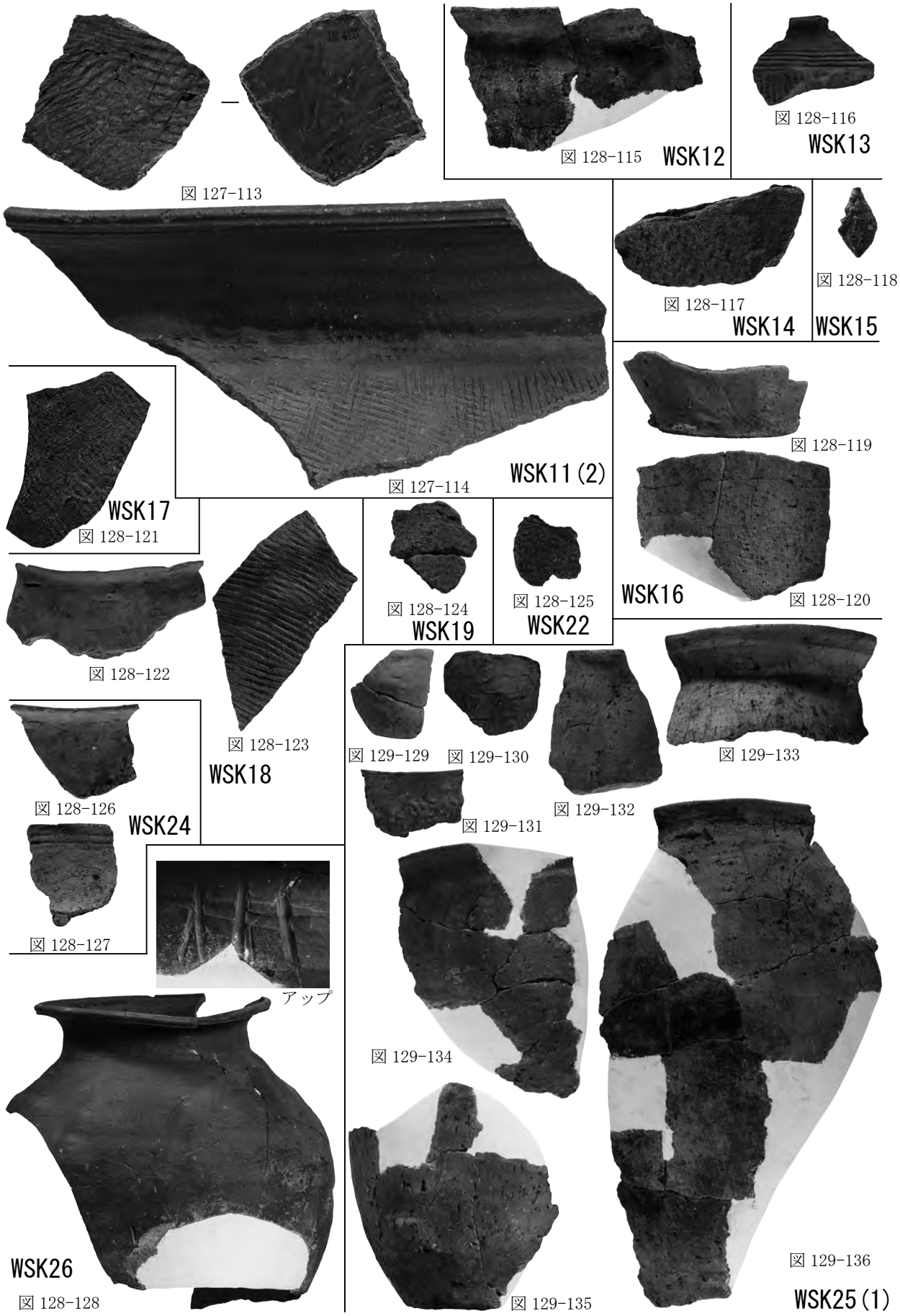


写真 83　農道 24 号W区　出土遺物（5）

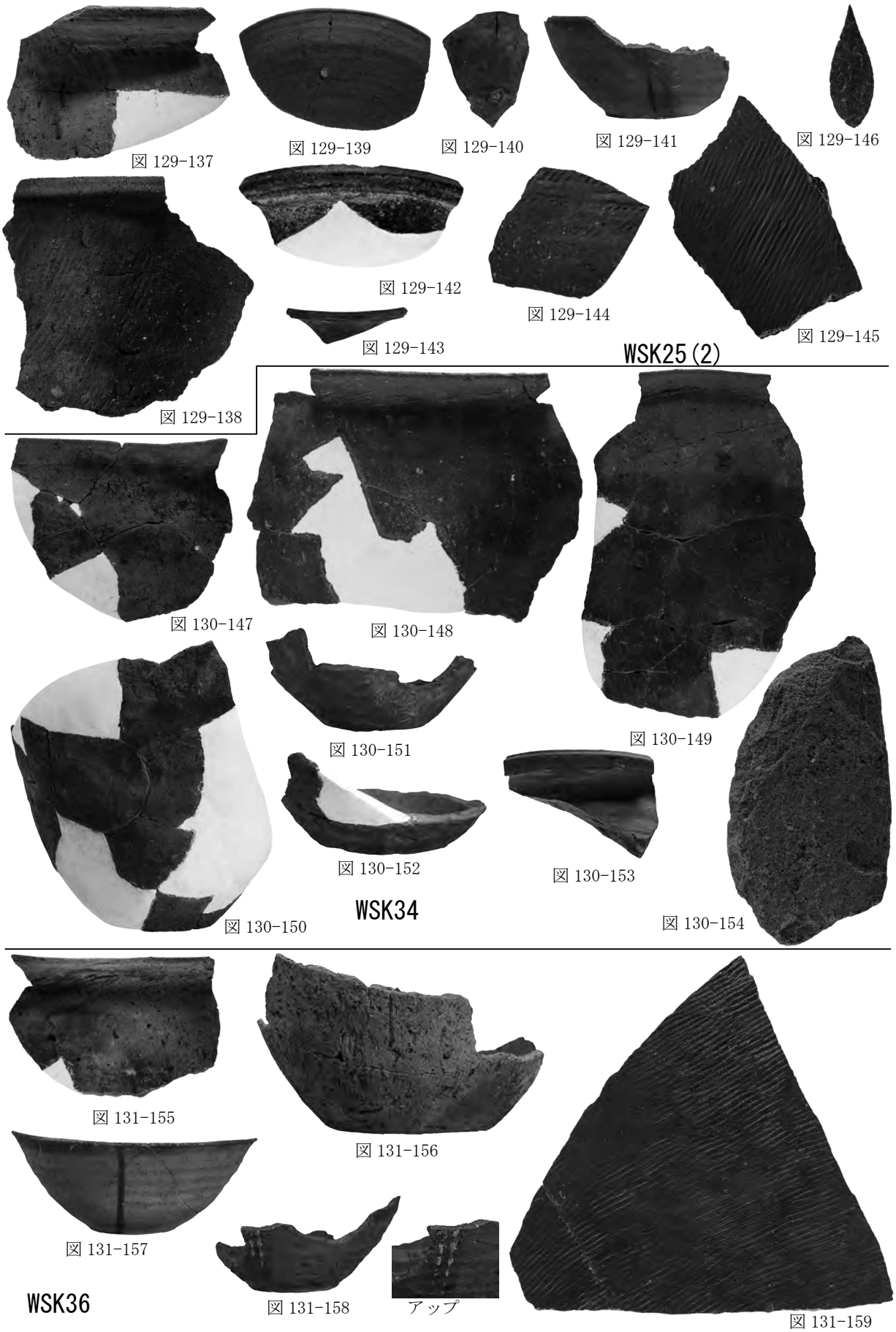


写真 84　農道 24 号W区　出土遺物（6）

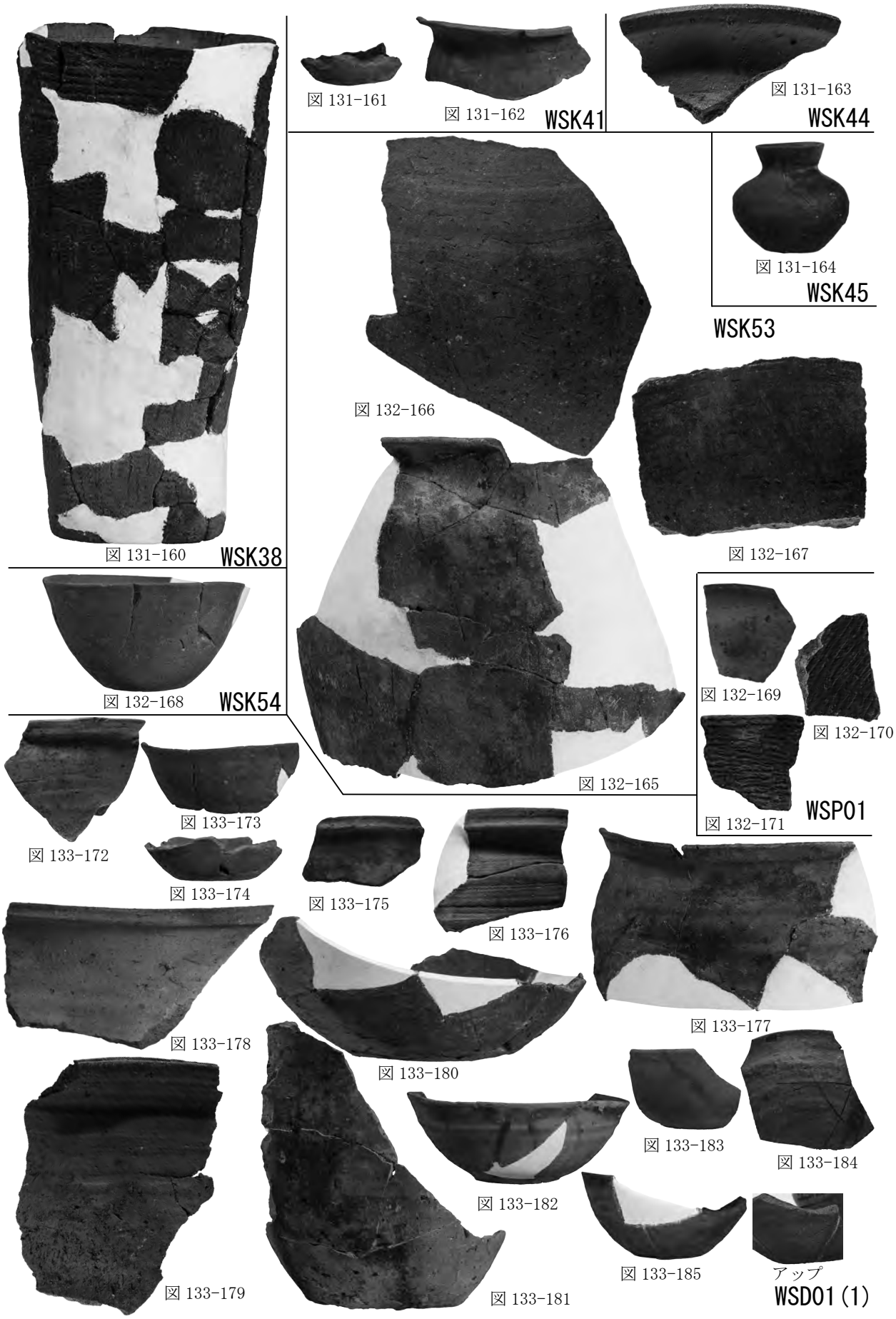


写真 85　農道 24 号W区　出土遺物（7）

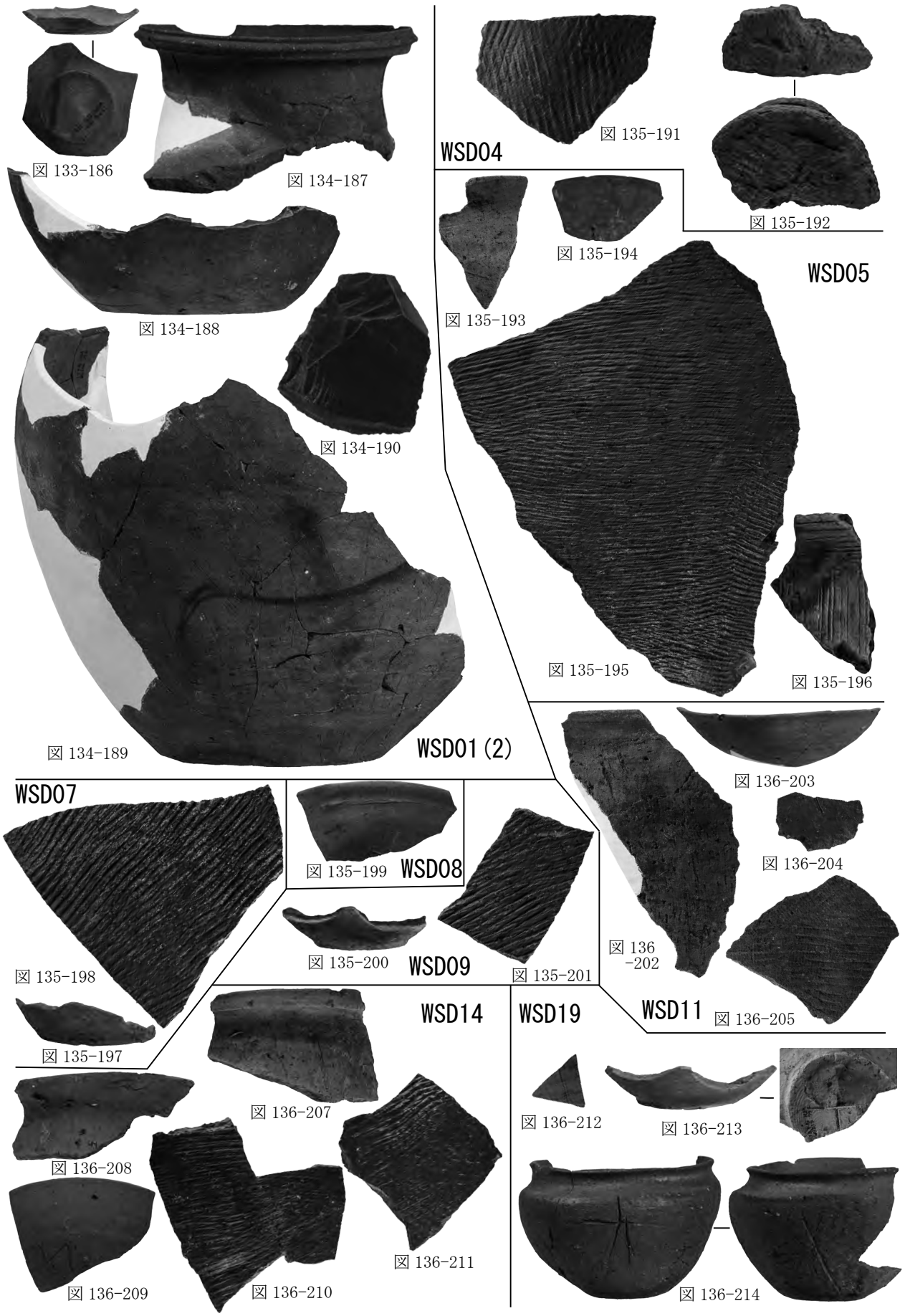


写真 86　農道 24 号W区　出土遺物（8）

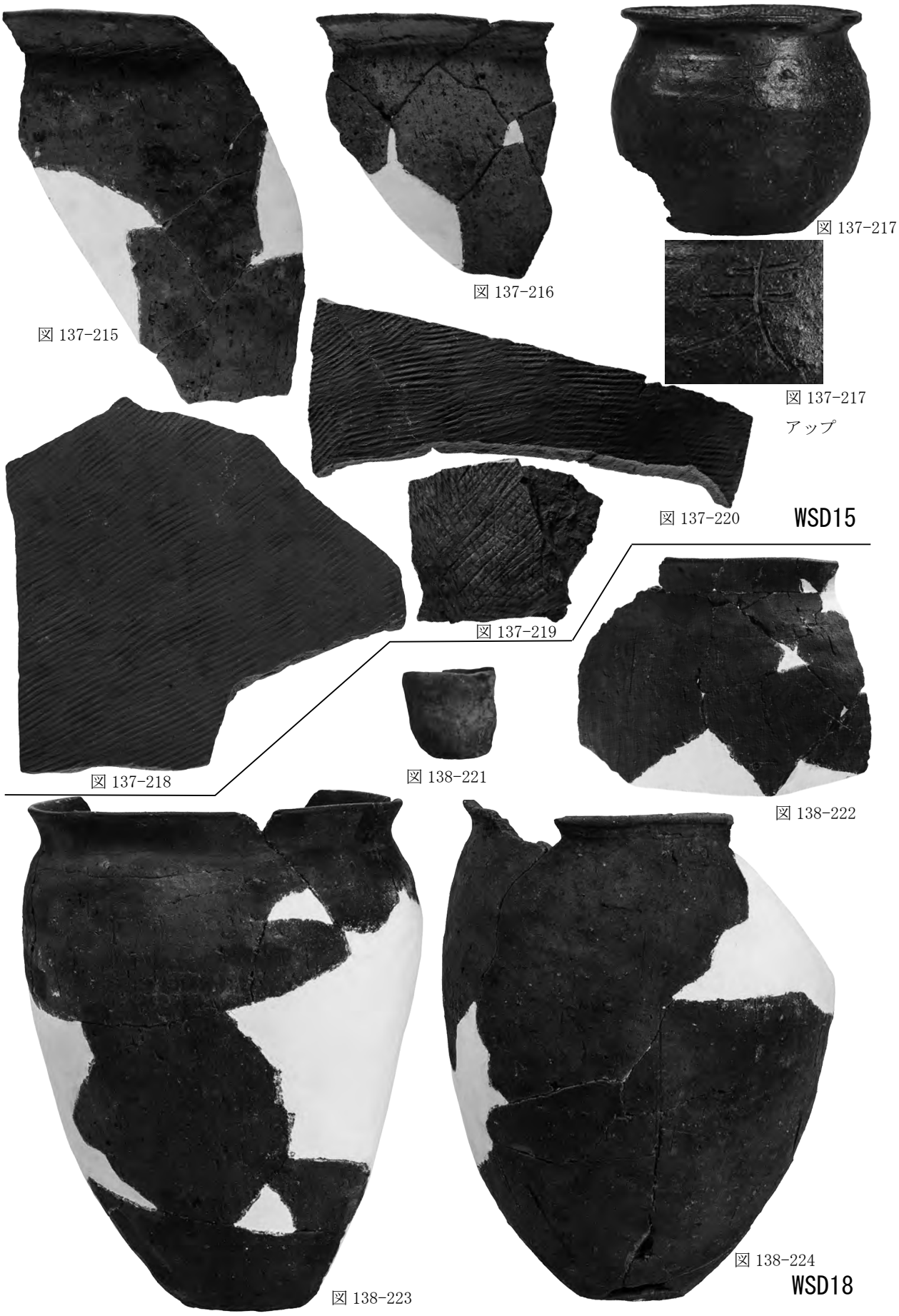


写真 87　農道 24 号W区　出土遺物（9）

図 139-225

図 139-226

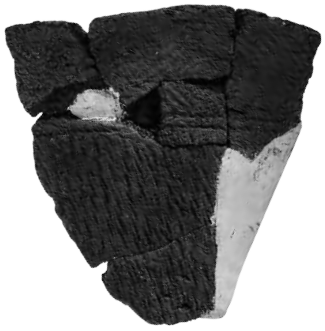


図 139-227

図 139-228

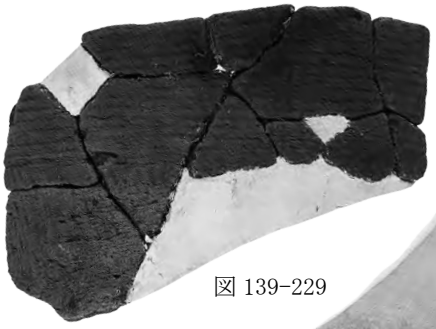


図 139-229

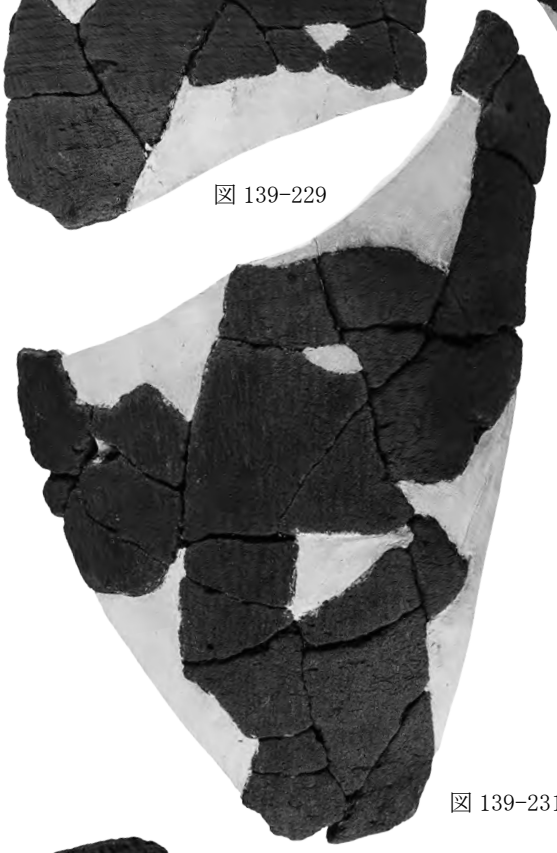


図 139-231

図 140-232

図 140-233

図 140-234

図 140-235

図 140-236

図 140-237

図 140-238

図 140-239

図 140-240

捨て場Ⅲ a 層

写真 88　農道 24 号W区　出土遺物（10）

図 141-241

図 141-242

図 142-253

図 142-252

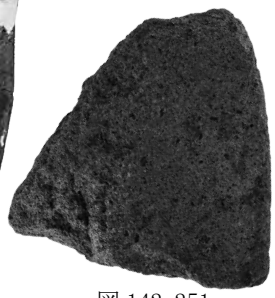


図 142-251

捨て場Ⅲｂ層

図 141-243

図 141-244

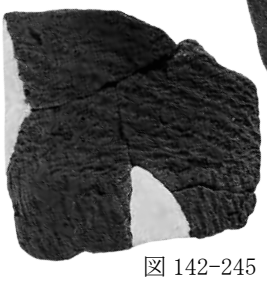


図 142-245

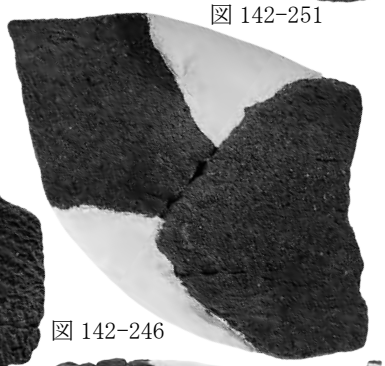


図 142-246

図 142-249

図 142-248

図 142-247

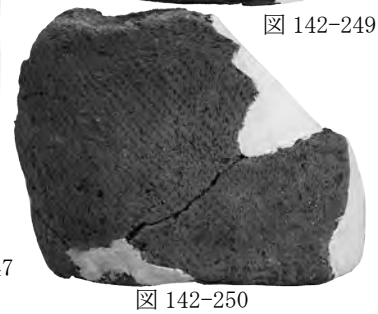


図 142-250

写真 89　農道 24 号W区　出土遺物（11）

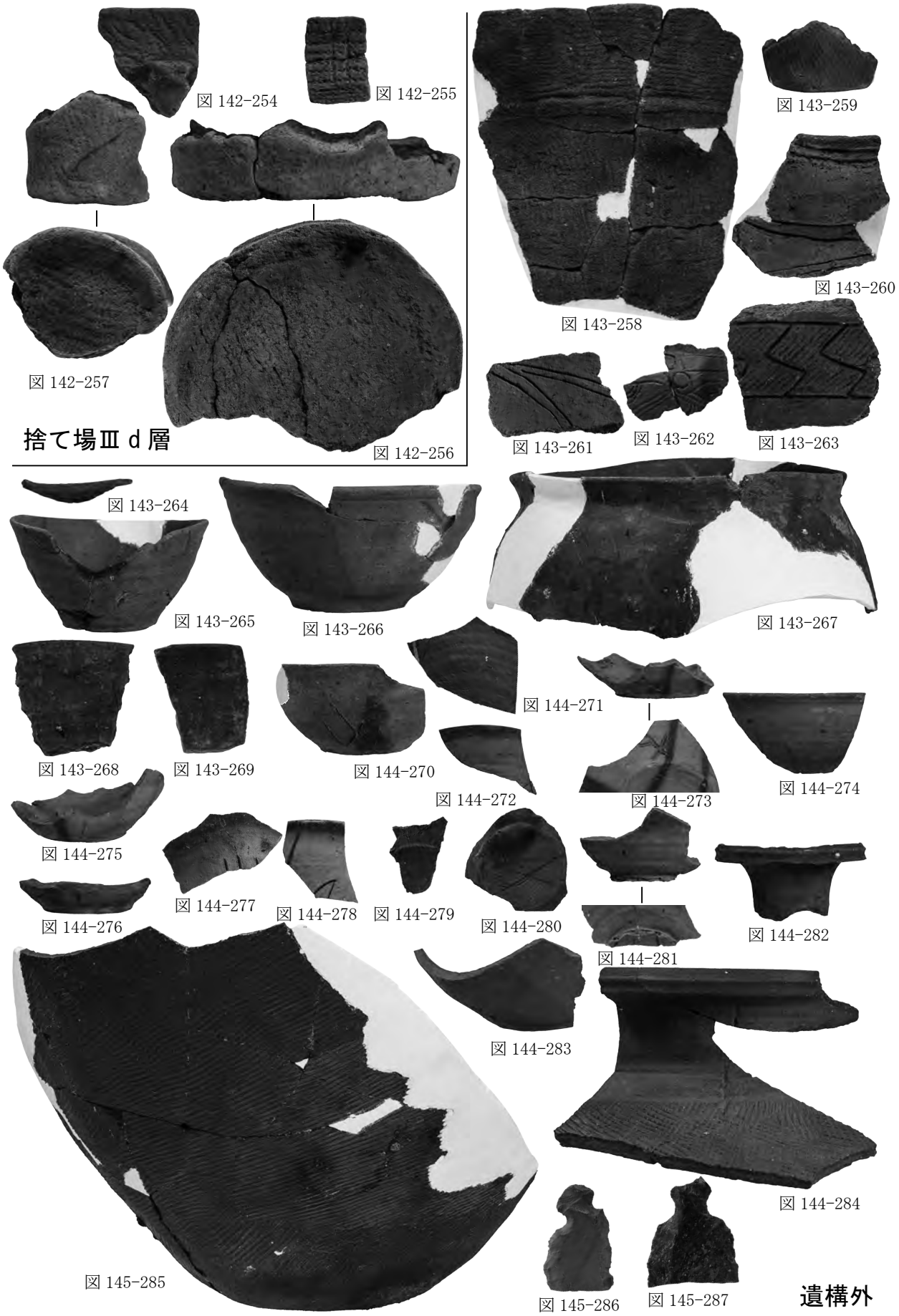


写真 90　農道 24 号W区　出土遺物（12）

報告書抄録

ふ　り　が　な	しもいしかわひらのいせき
書　　名	下石川平野遺跡
副　書　名	県営野沢２期地区畑地帯総合整備事業に伴う遺跡発掘調査報告
シ リ ー ズ 名	青森県埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第556集
編　著　者　名	神　康夫、平山明寿
編　集　機　関	青森県埋蔵文化財調査センター
所　　在　　地	〒038-0042　青森県青森市大字新城天田内152-15　　TEL 017－788－5701
発　行　機　関	青森県教育委員会
発 行 年 月 日	西暦2015年３月26日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		世界測地系(JGD2000)		調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	北緯			
下石川平野遺跡 (しもいしかわひらのいせき)	青森県青森市浪岡大字下石川字平野地内 (あおもりけんあおもりしなみおかおおあざしもいしかわあざひらの)	02201	201399	40° 44′ 4″	140° 32′ 23″	20130704～ 20131022 20131118	3,470	記録保存調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
下石川平野遺跡 (配水管12号)	散布地	時期不明	ピット　2 溝跡　1	縄文土器・石器 土師器・須恵器 計　段ボール２箱	・調査面積140㎡
下石川平野遺跡 (配水管13号)	散布地 集　落	縄文時代 平安時代	竪穴住居跡　1 土坑　1 ピット　1 溝跡　3	縄文土器・石器 土師器・須恵器 計　段ボール２箱	・調査面積240㎡ ・平安時代の集落跡の一部を検出した。
下石川平野遺跡 (配水管14号)	集　落 集　落	縄文時代 平安時代	竪穴住居跡　1 竪穴住居跡　8 土坑　13 ピット　2 溝跡　5	縄文土器・石器 土師器・須恵器・鞴羽口 計　段ボール６箱	・調査面積170㎡ ・縄文時代前期中葉～後葉の集落跡を検出した。 ・平安時代の集落跡を検出した。
下石川平野遺跡 (農道23号)	集　落 集　落	縄文時代 平安時代 時期不明	土坑　3 竪穴住居跡　5 土坑　9 掘立柱建物跡　1 ピット　6 溝跡　2 道路状遺構　2 掘立柱建物跡　2	縄文土器・石器 土師器 須恵器 石器（砥石） 土製品 (玉・土鈴・羽口) 石製品（碁石状） 鉄製品（刀子） 計　段ボール10箱	・調査面積1,000㎡ ・縄文時代中期前葉の集落跡を検出した。 ・平安時代の集落跡を検出した。 ・平安時代の特徴的な土鈴や玉が竪穴住居跡(SI03)から出土した。

下石川平野遺跡 (農道24号E区)	集　落	縄文時代	竪穴住居跡　5 土坑　40 埋設土器遺構　3 焼土遺構　1 包含層　1	縄文土器・石器・土製品（円盤状土製品）	・調査面積1,000㎡ ・縄文時代前期中葉～後葉の集落跡を検出した。 ・平安時代の集落跡を検出した。
	集　落	平安時代	竪穴住居跡　7 土坑　7 掘立柱建物跡　1 ピット　65 溝跡　11	土師器・須恵器・鞴羽口 計　段ボール38箱	
下石川平野遺跡 (農道24号W区)	集　落	縄文時代	土坑　12 溝状土坑　1 捨て場　1	縄文土器・石器	・調査面積920㎡ ・縄文時代前期の捨て場を検出した。 ・平安時代の集落跡を検出した。 ・小型壺に収められたアズキ等炭化種実が土坑(WSK45)から出土した。
	集　落	平安時代	竪穴住居跡　14 土坑　43 掘立柱建物跡　1 ピット　22 ピット列　1 溝跡　18	土師器 須恵器 土製品 (土鈴・窯壁片？) 計　段ボール33箱	
要　　約	下石川平野遺跡では、配水管12・13・14号、農道23号、農道24号E区、農道24号W区の６地区で調査を行い、縄文時代と平安時代の遺構・遺物が検出された。出土遺物は土器類79箱、石器類12箱、合計91箱であった。 縄文時代の遺構･遺物は農道24号E区周辺で多く検出され、前期後半の竪穴住居跡や濃密な土坑群、包含層が検出された。農道24号W区でも当該期の土坑群や捨て場が見つかり、規模の大きな集落が存在していることが明らかとなった。縄文時代の遺物は前期のものが多く、中～晩期のものもごく少ある。 平安時代の遺構・遺物は農道23号、農道24号E・W区で比較的密に検出された。農道23号では竪穴住居跡から特徴的な土鈴や土玉が出土した。農道24号E区では縄文時代前期の集落と平安時代の集落が検出された。大型の竪穴住居跡や外周溝を有する竪穴住居跡が検出された。農道24号W区では竪穴住居跡や土坑などの遺構が密に重複して検出された。平安時代の遺物は土師器、須恵器、土製品(土鈴・玉類)、鉄製品(刀子)があり、土坑からアズキが小型壺に納められた状態で出土したものもある。時期的には９世紀後半から10世紀前半に盛期があった集落と思われる。				

青森県埋蔵文化財調査報告書　第556集

下石川平野遺跡

－ 県営野沢２期地区畑地帯総合整備事業に伴う遺跡発掘調査報告 －

発行年月日　2015年３月26日
発　　行　青森県教育委員会
編　　集　青森県埋蔵文化財調査センター
〒038－0042　青森県青森市大字新城字天田内152－15
ＴＥＬ 017－788－5701　ＦＡＸ 017－788－5702
印 刷 所　ワタナベサービス株式会社
〒030－0803　青森県青森市安方二丁目17－３
ＴＥＬ 017-777-1388 ＦＡＸ 017-735-5982